

第V章 縄文時代の遺構と遺物

第1節 遺構（付図、第7表）

第20次発掘調査までに確認された縄文時代の遺構は下記のとおりである。また第7表として各地区の遺構分布表を添付した。以下、観察事項を挙げ、遺構ごとにその概要を記載する。

第7表 各地区の遺構分布数

	遺構数	万座環状列石					野中堂環状列石			一本木 後口
		環状 列石	隣接地	北側 地区	西側 地区	南側 地区	環状 列石	隣接地	南側 地区	
1. 環状列石 (配石遺構数)	2 (160)	1 (105)	0	0	0	0	1 (55)	0	0	0
2. 配石遺構										
(1)環状配石遺構	13	0	4	9	0	0	0	0	0	0
(2)方形配石遺構	4	0	3	0	0	0	0	1	0	0
(3)配石遺構	92	3	10	25	0	7	0	0	3	44
(4)集石遺構	13	0	0	13	0	0	0	0	0	0
(5)配石列	16	6	4	2	0	0	2	0	1	1
(6)立石遺構	12	0	10	2	0	0	0	0	0	0
3. 柱穴状ピット・ 建物跡・柱穴列										
(1)柱穴状ピット	2,608	0	1,633	286	24	4	0	653	0	8
(2)掘立柱建物跡 (I類) (II類) (III～V類)	100 (34) (53) (13)	0	65 23 32 10	16 6 9 1	2 0 1 1	0	0	17 5 11 1	0	0
(3)柱穴列	3	0	0	1	2	0	0	0	0	0
4. 竪穴住居跡	16	0	0	5	9	0	0	2	0	0
5. 竪穴遺構	5	0	1	4	0	0	0	0	0	0
6. 炉跡										
(1)石囲炉	23	0	5	16	0	0	0	2	0	0
(2)埋設土器炉	6	0	0	6	0	0	0	0	0	0
7. 焼土遺構	271	0	50	71	32	2	0	36	47	33
8. 土坑										
(1)Tピット	66	0	13	31	13	3	0	6	0	0
(2)土坑	481	0	240	101	13	3	0	105	0	19
(3)フラスコ状土坑	298	0	151	56	9	11	0	71	0	0
9. 埋設土器遺構	8	0	5	3	0	0	0	0	0	0
計	4,037	10	2,194	647	104	30	3	893	51	105

1. 環状列石（第5図～21図、第8表～16表）

【ア. 形態と配置】

・形態

環状列石は組石遺構の集合体で、これらが二重の円環に配置されたもので、列石の中心から北西方向に「特殊組石—所謂日時計—」がある。万座環状列石では北側・南側・東側に、野中堂環状列石では北西側・南側に列石外帯から直線的・曲線的に延びる配石列が付設されている。

万座環状列石

105基の組石遺構によって構築される。内帯7基、外帯98基で、これらが集合し二重の円環に配置される。「特殊組石—所謂日時計—」は北西側外帯の内側に接して位置するほか、外帯(外帯12号配石遺構)と内帯(内帯43号配石遺構)を結ぶ石の列が東側に存在する。また外帯の北側、南側、東側には2条一対の配石列が敷設されており「出入口的」な要素を持っている。同西側にも配石列がわずかに残っているが「出入口的な施設」か判断しがたい。同列石の南東側、約88mの距離を置いて野中堂環状列石が位置する。

なお、第16次調査に列石の外帯と内帯間に第9901号～9903号配石遺構を確認したが本列石に伴うものか判断がつかなかった。第9～13表にその観察事項を掲載したが、万座環状列石を構成する105基の組石遺構数には含めていない。

野中堂環状列石

55基以上の組石遺構によって構築される。内帯15基、外帯40基で、これらが集合し二重の円環に配置される。列石の中心から北西側の外帯・内帯間に「特殊組石—所謂日時計—(以下日時計状組石と呼ぶ)」がある。外帯北側、南側に2条一対の配石列が敷設され、南側のものは「U字またはL字」状に石が配列されている。第14～17表に列石を構成する組石遺構の観察事項を掲載した。

・配置

2つの環状列石は「中通台地」が最も狭まった場所に位置し、外帯間約88mの距離を置き特徴的な配置を示している。2つの環状列石の中心を結んだライン上に各々の「日時計状組石」がおり、4点がほぼ一直線に並ぶ。このラインは野中堂環状列石の中心に立ち見通すと、おおよそ北西方向「夏至の日没」方向を向く。

・環状列石を構成する組石遺構形態

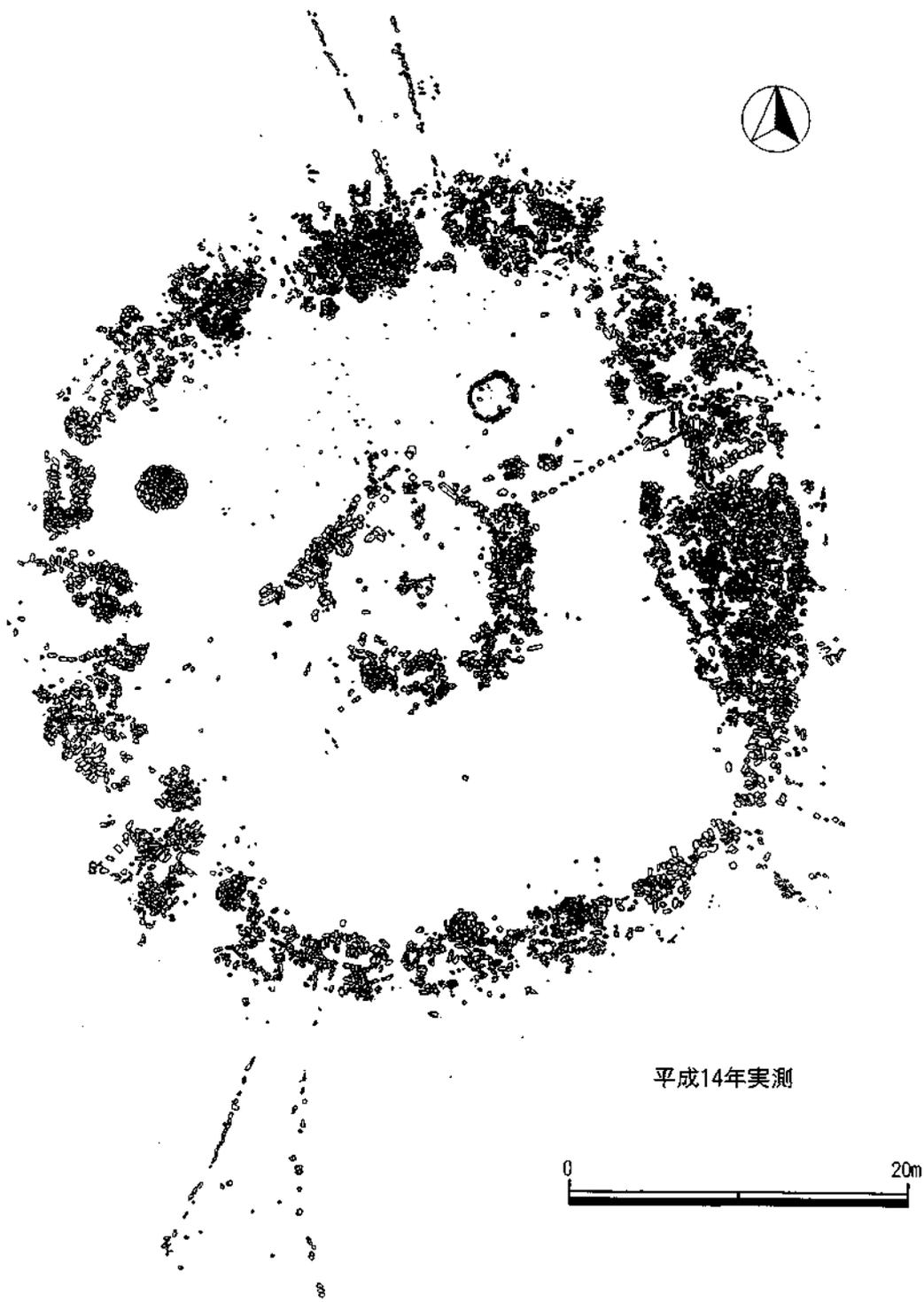
環状列石を構成する組石遺構については、文化財保護委員会刊行の『大湯町環状列石(以下 報告書と呼ぶ)』において形態分類が行われており、これに沿って形態分類を行う。

前提の報告書では、環状列石を構成する組石遺構をA～K(D・F類については最初から設定していない。I類については説明なし)までの8類に分類し、さらにその中の5つについてはいくつかの垂式に細分している。その分類概要を書き、その模式図を第5図に示した。

・形態分類

A類：中央に立石を立て、それを囲むように石を組み合わせたもの

A1=いわゆる「日時計状組石」と呼ばれるもの



第5図 万座環状列石実測図

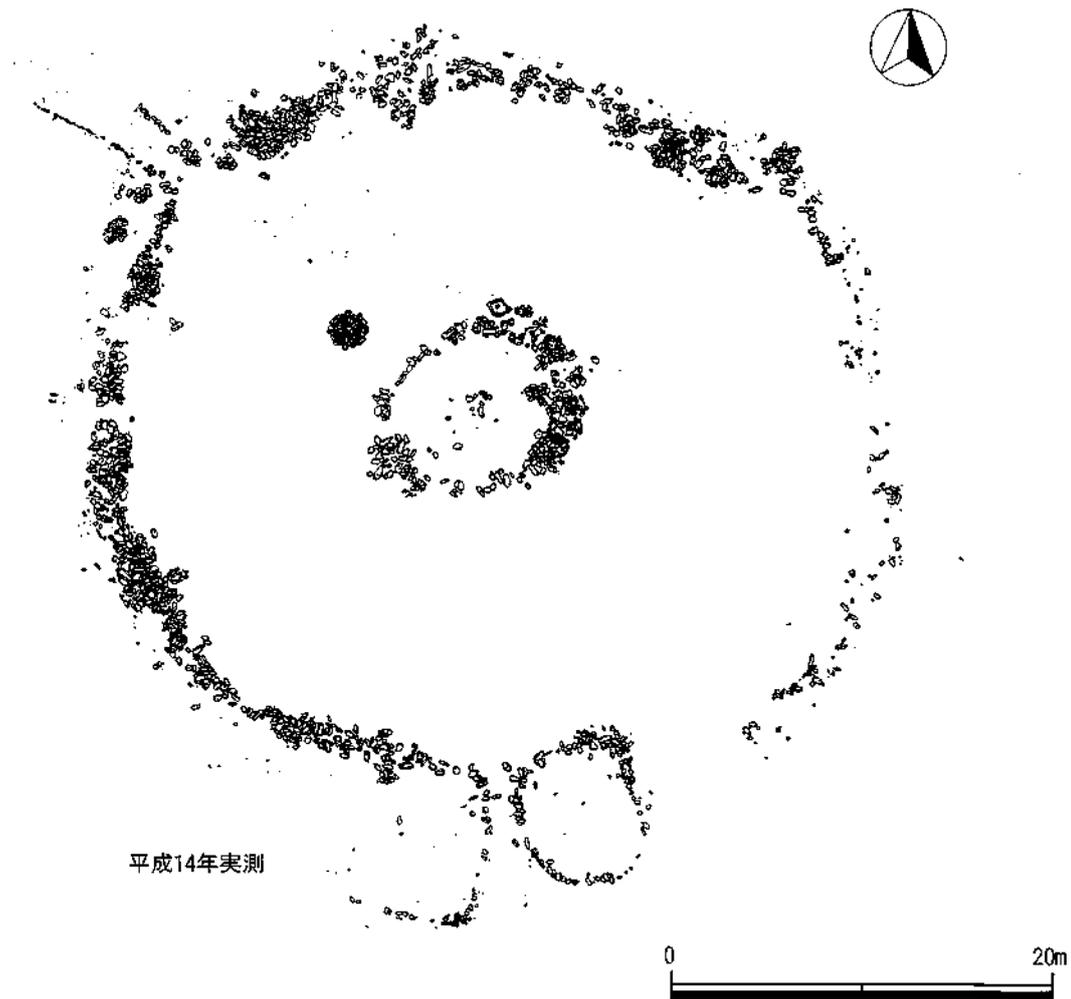
A2=中央の立石が2本並んでいるもの

A3=3本の立石があるもの

A4=菱形平面の角頂に立石、その間に横長石、菱形平面の中央に1本の立石を立て、その立石と南北の立石の間に横長石を置くもの

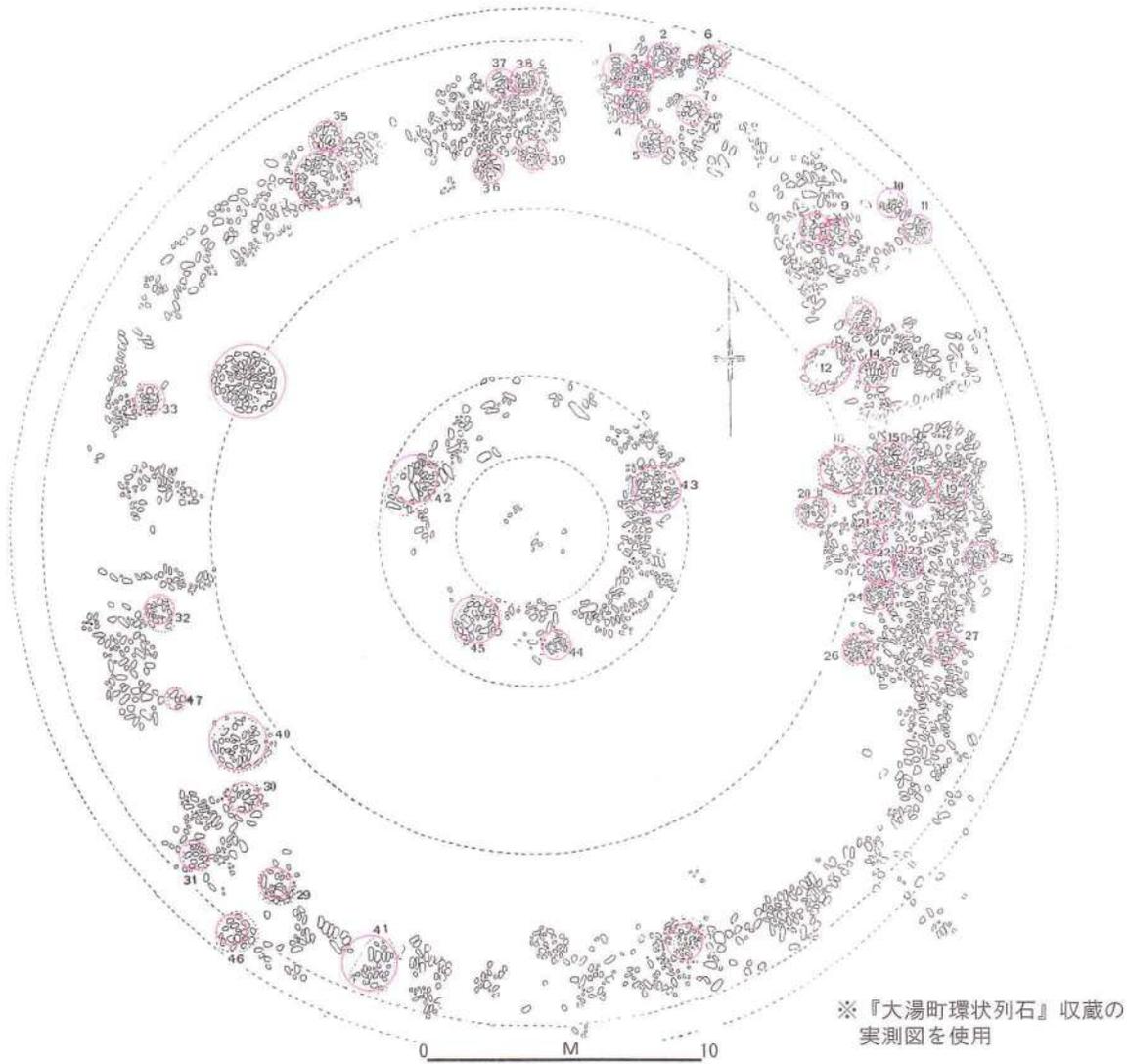
A5=A4に類似する。中央に立石を置くが、角頂と中央立石間の横長石が置かれないもの。

B類：四隅(四方)に立石を立て、内部に平石を置いたもの



第6図 野中堂環状列石実測図

- B1=内部に平石を斜めにして隣石に置きかけするもの
- B2=平石が重ならないように平置きするもの
- C類：外周縁に5個以上の立石を立て巡らすもの
 - C1=内部に立石があるもの
 - C2=内部に平石を置いたもの
 - C3=内部に石を雑然と置いたもの
- E類：外周縁に立石を密接に立て巡らしたもの
 - E1=内部に平石を斜めにして隣石に置きかけするもの
 - E2=内部に平石を置いたもの
 - E3=小型の石を雑然と配したもの
- G類：横立石を馬蹄形に並べ、その内部に小さな石を雑然と置いたもの
- H類：外周に立石や斜め立石を巡らし、その内部に小さな石を雑然と置いたもの
- J類：外周縁に横立石を巡らすもの
 - J1=内部に横立石を置いたもの



第7図 万座環状列石組石遺構分布図（1）

J2=内部に平石を置いたもの

K類：組石の中央に2本の立石を立て、さらに四隅(四方)に立石を立てその間に細長石を置いたもの

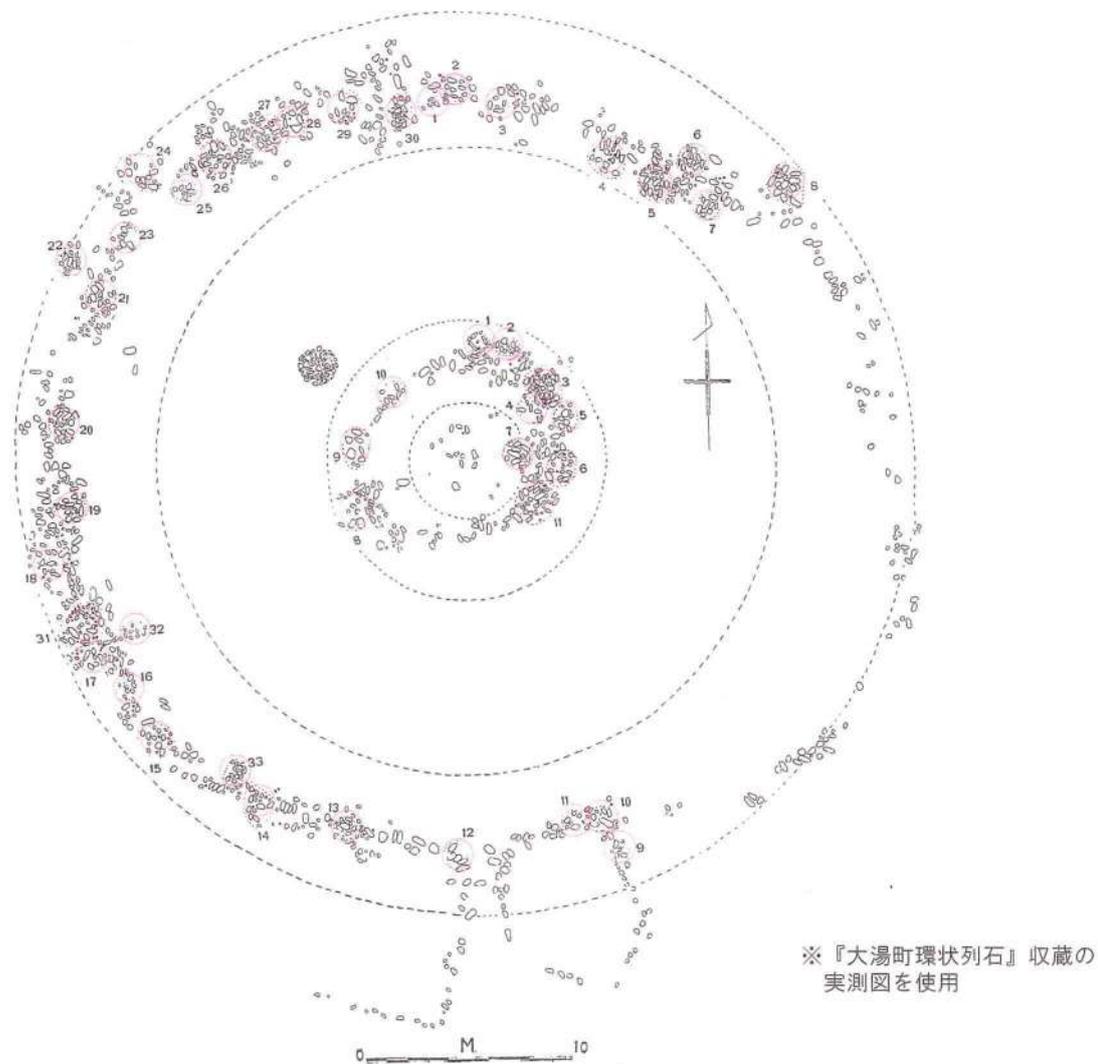
国営調査及び新規に登録した各組石遺構の分類、その概要については第9表～17表に記した。

【イ. 規 模】

これまでに万座環状列石については径48m、野中堂環状列石については42mと公表していたが、両列石の隣接地の土砂(堆積土)を除去し、再測量したところ次のとおりであった。

万座環状列石

環状列石径	東西径	49.50m	×	南北径	52.25m
出入口状施設	北側	2条一対		長さ	12.5m
	南側	2条一対		長さ	20.5m
	東側	2条一対		長さ	5.0m



第8図 野中堂環状列石組石遺構分布図（1）

構築材として約5000個の川原石(主に石英閃緑玢岩)が使用されている。

野中堂環状列石

環状列石径 東西径 44.00m × 南北径 38.00m

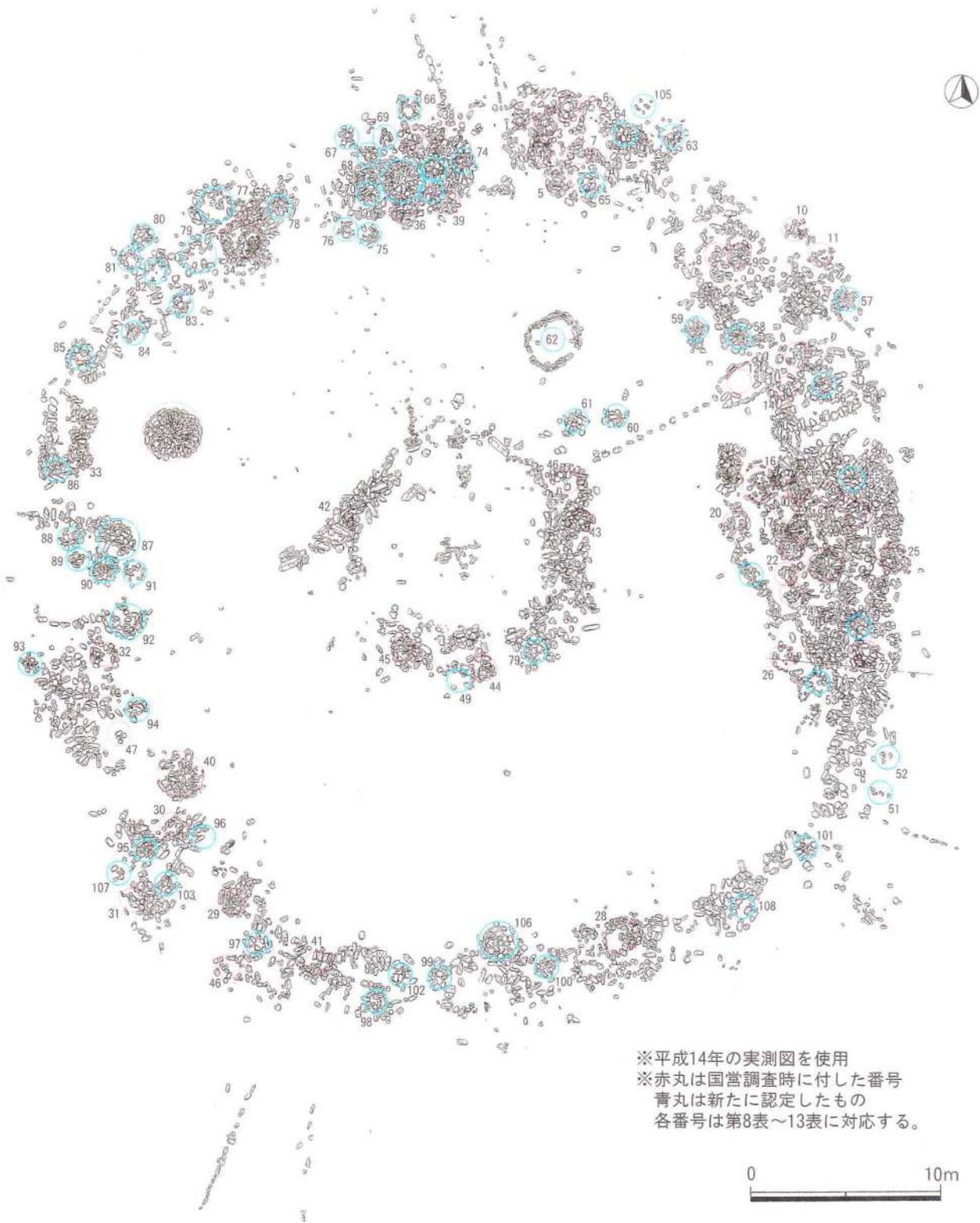
出入口状施設 北側 2条一対 7.5m

南側 2条一対 径8m程の円環を呈する。

構築材として約2200個の川原石(主に石英閃緑玢岩)が使用されている。万座環状列石と比較し、極端に数量が少ない。これは史跡の重要性が認識される以前、家屋の土台石、護岸工事用材として持ち出されたという話を聞き取り調査によって得ている。

【ウ. 確認面と構築面】

2つの環状列石の確認面と検出面については『大湯町環状列石』に詳しい。掲載されている「第八図 遺跡の堆積物層序模式図」によると、立石であったものは上位火山灰層（大湯浮石層）を突きぬけ、わずかに地表面に露頭している。列石を構成する組石遺構の構築面は「列石遺物含有黒土」と表



第9図 万座環状列石組石遺構分布図（2）

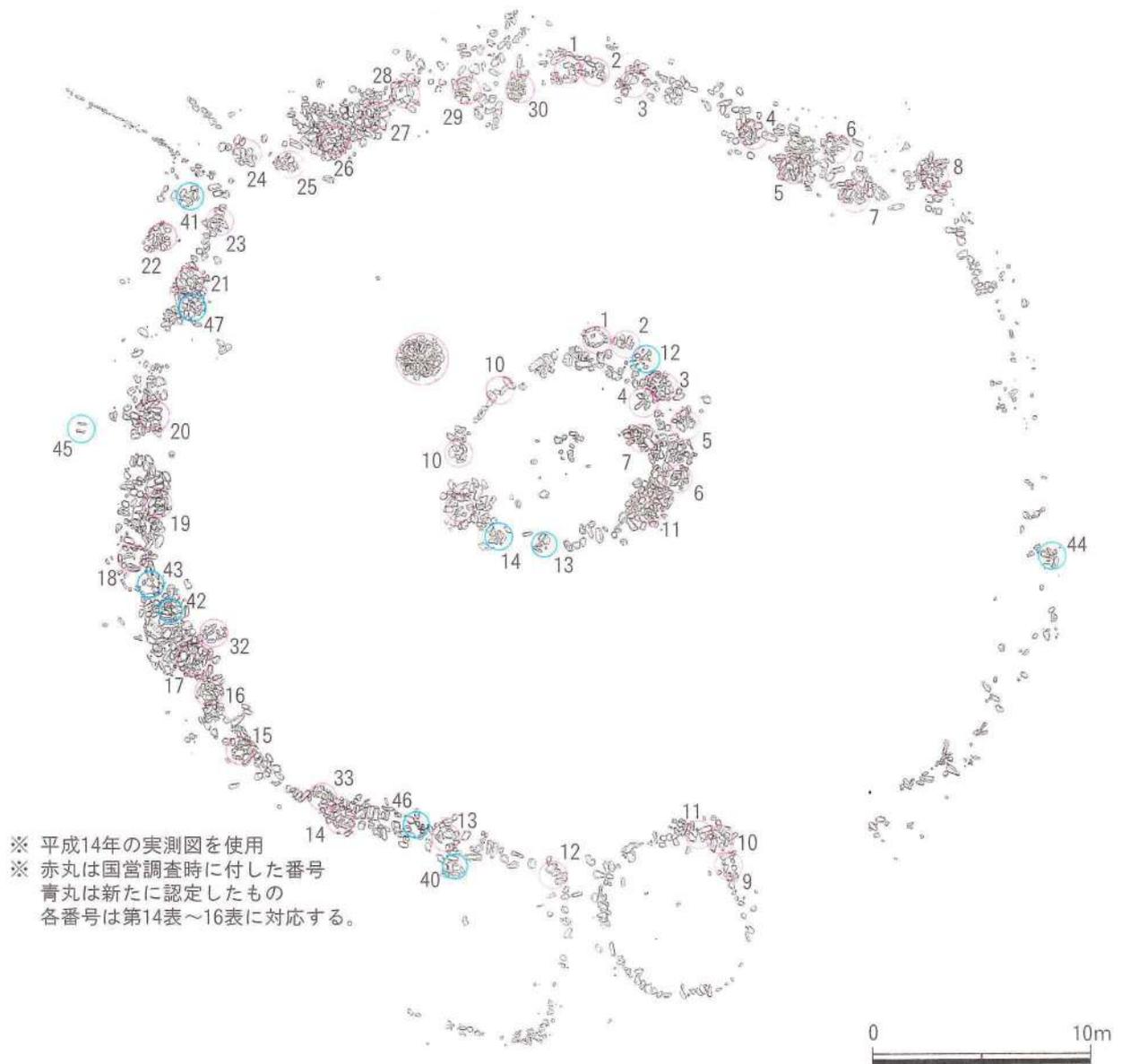
記されており、基本層序第Ⅲd層に対応する。

【エ. 堆積状況と立地地形】

・堆積状況

環状列石を覆っていた堆積土の状況については『大湯町環状列石』に詳しい。

堆積土は表土、上位火山灰層(大湯浮石層)、列石・遺物含有黒土、下位火山灰層に分層され、各々詳細にその状況が記載されている。



第10図 野中堂環状列石組石遺構分布図(2)

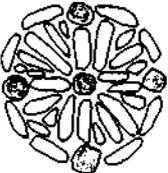
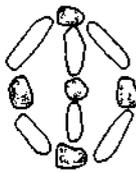
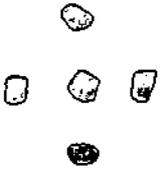
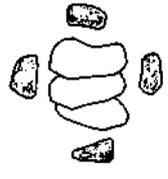
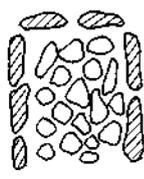
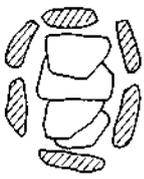
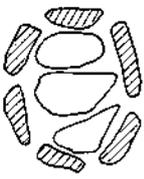
「列石中の所謂「日時計」付近で四七纏、大体二〇一六〇纏の厚さを有する。(中略) 遺物は主にこの黒土の上部に多く含まれているが特に埋めたという状況ではなく平面的にも深度的にも散含状である。環状列石もこの黒土中に挿入又は黒土上置かれたもので、土上に凸出した部分はそのまま又は横倒れになって大湯浮石層によつて掩われている」とある。

・立地地形

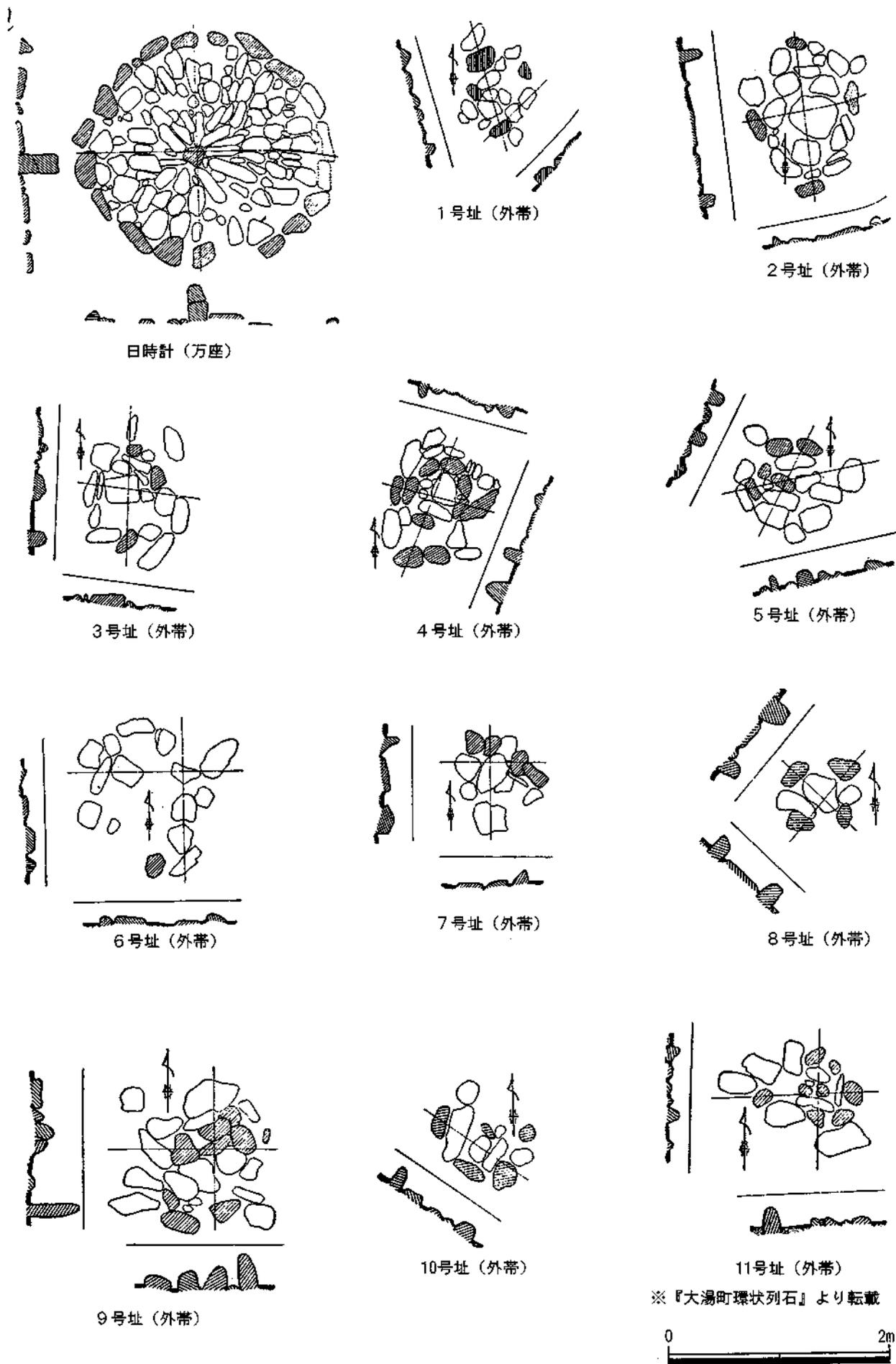
環状列石は、大湯温泉市街地の東側台地より西側に緩やかに延びた台地に所在する。列石のある位置の標高はおおよそ180mを測る。各々の環状列石の位置する場所は各々特徴的な地形を持っている。

万座環状列石

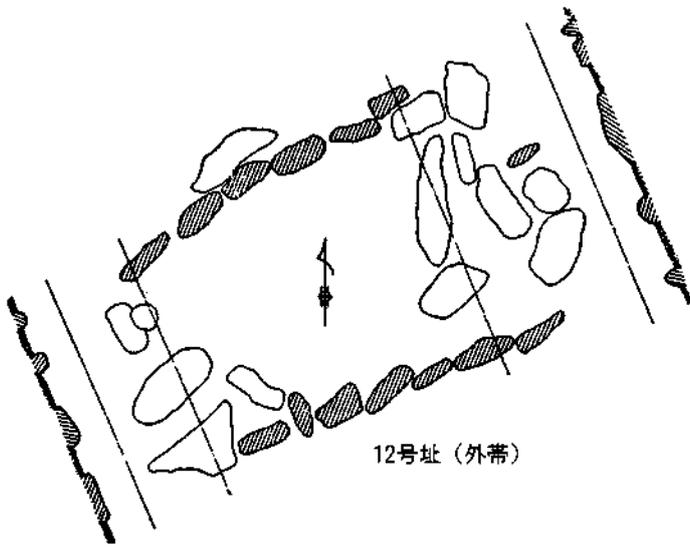
万座環状列石は台地のほぼ中央部、標高180.75mの等高線が西側に向けて大きく膨らんだ位置に構築されている。

A類	 A1類	 A2類	 A3類	 A4類	 A5類		
B類	 B1類	 B2類	C類	 C1類	 C2類	 C3類	
D類	当初から分類設定せず		E類	 E1類	 E2類	 E3類	
F類	当初から分類設定せず		G類			H類	
I類	不明		J類	 J1類	 J2類		
K類		 <p>縮尺は任意、方位は無視</p>					

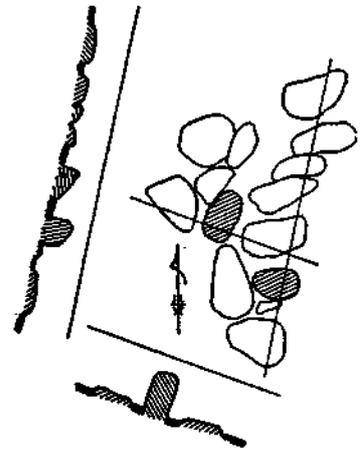
『大湯町環状列石』の記載文をもとに鹿角市教育委員会が作成



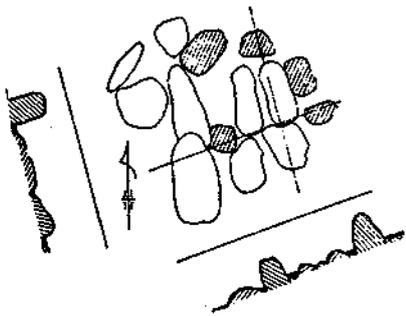
第12図 万座環状列石組石遺構実測図(1)



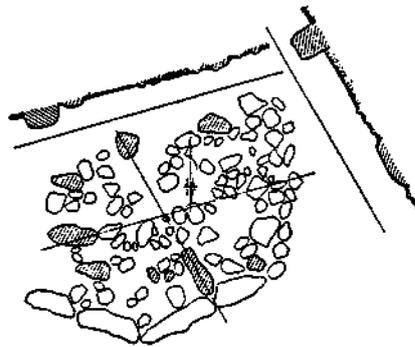
12号址 (外帯)



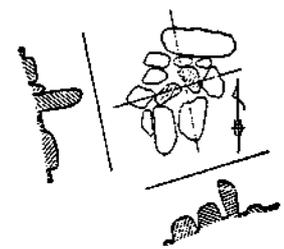
13号址 (外帯)



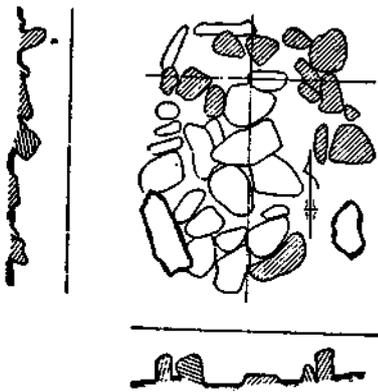
14号址 (外帯)



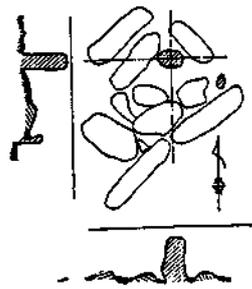
16号址 (外帯)



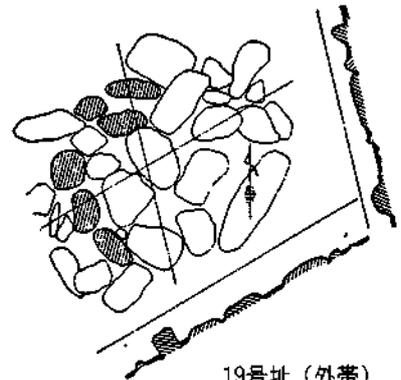
17号址 (外帯)



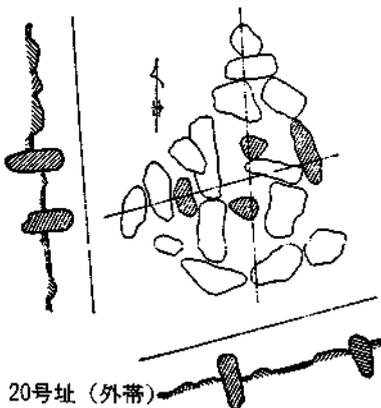
15号址 (外帯)



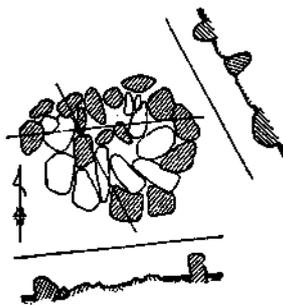
18号址 (外帯)



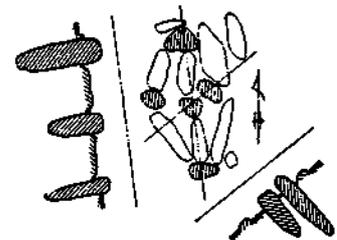
19号址 (外帯)



20号址 (外帯)



21号址 (外帯)

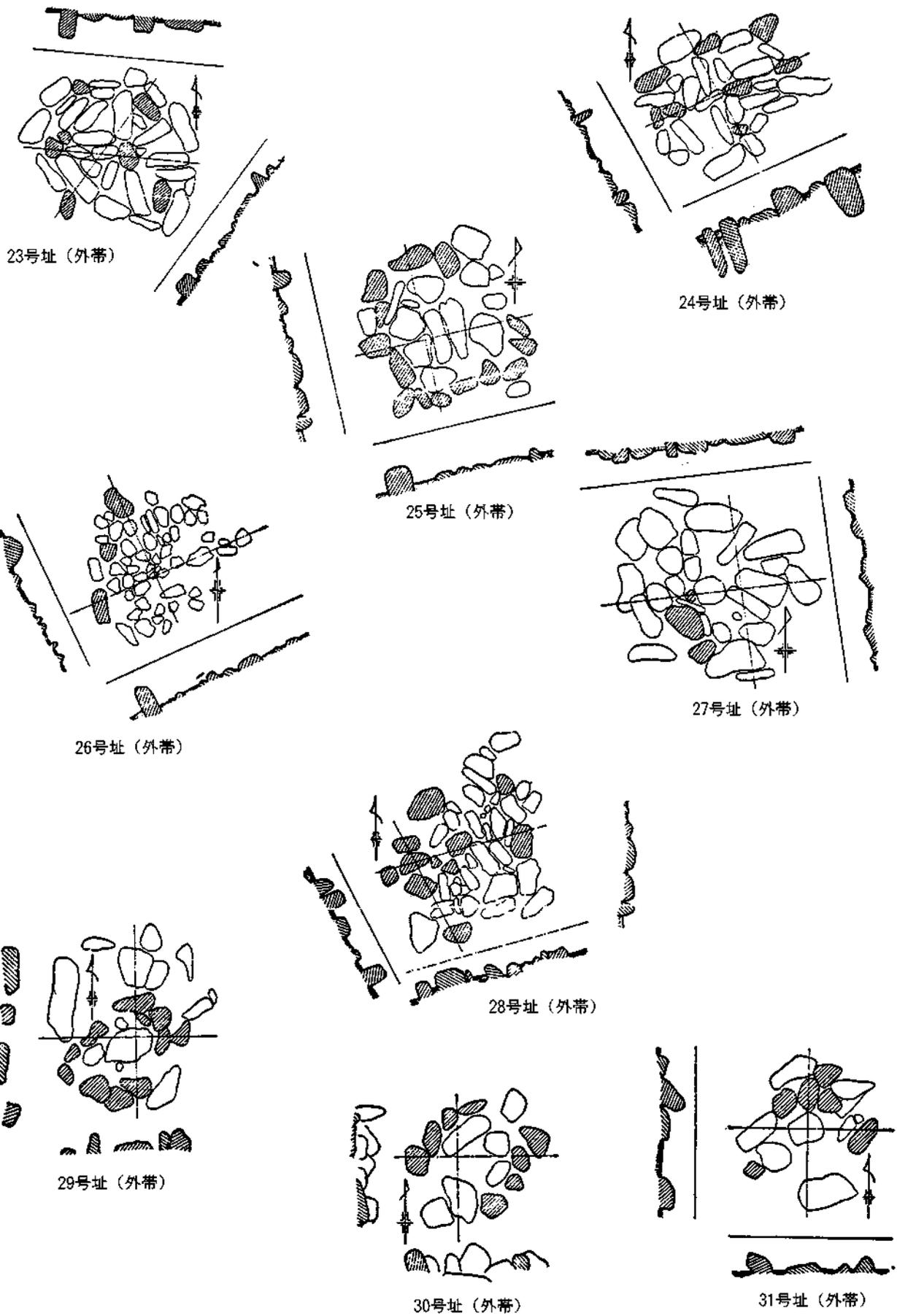


22号址 (外帯)

※『大湯町環状列石』より転載



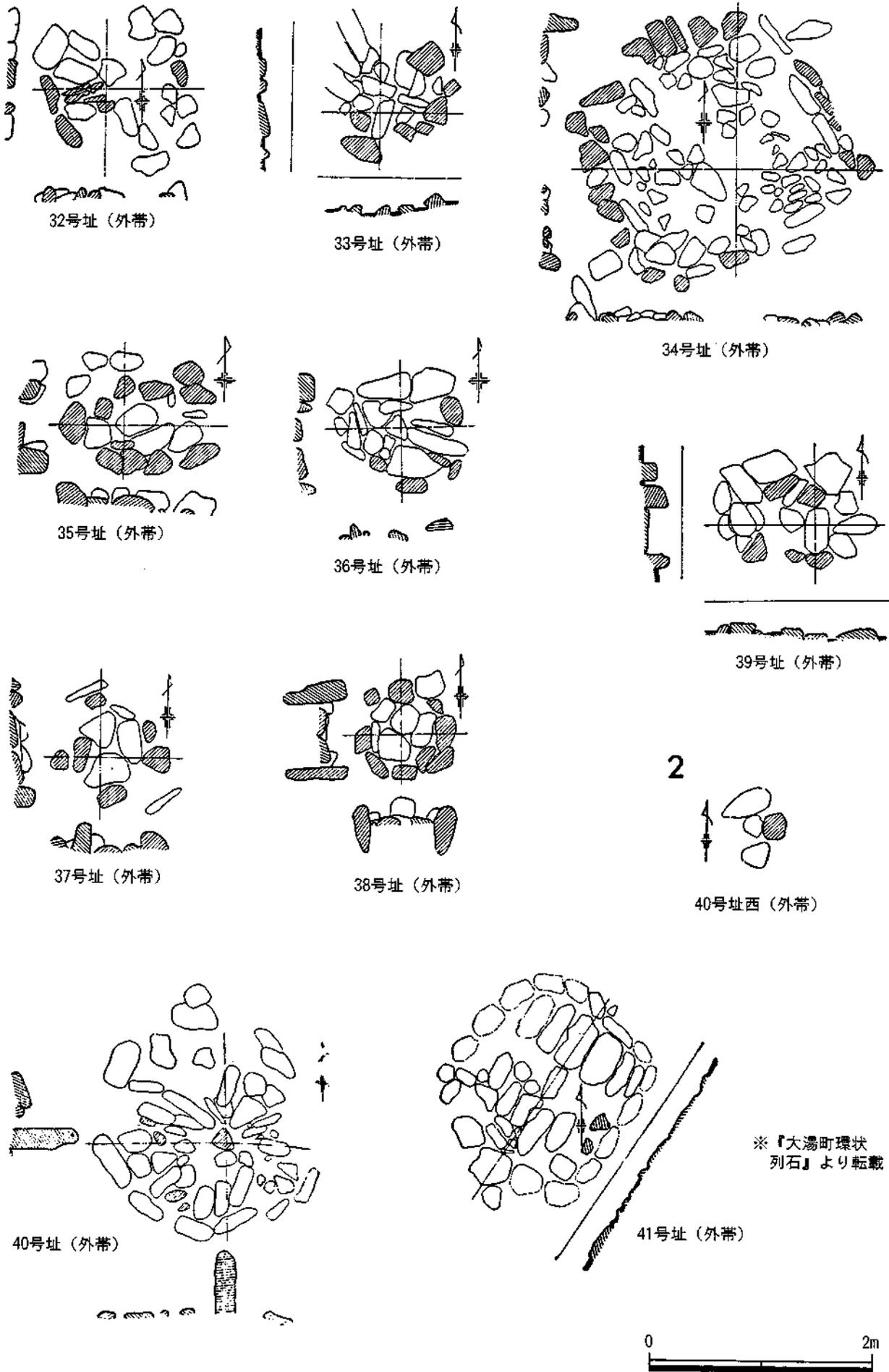
第13図 万座環状列石組石遺構実測図 (2)



※『大湯町環状列石』より転載



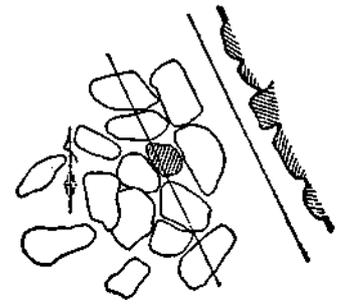
第14図 万座環状列石組石遺構実測図 (3)



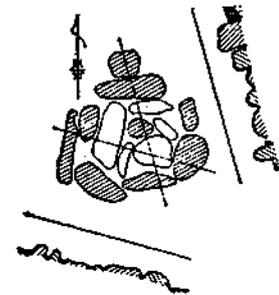
第15図 万座環状列石組石遺構実測図(4)



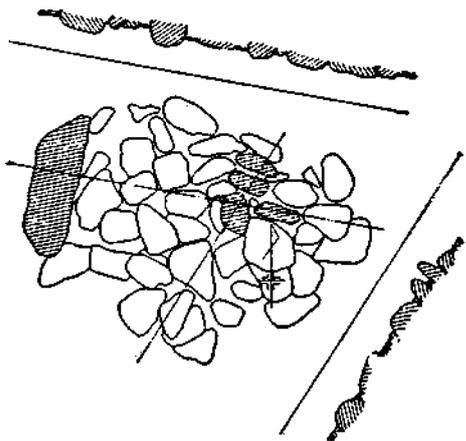
1号址 (内帯)



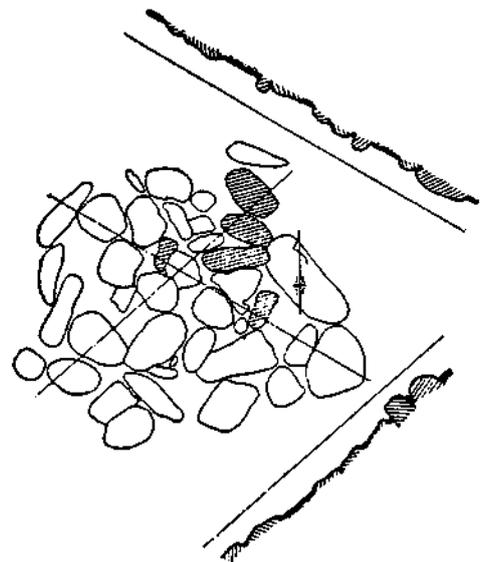
46号址 (内帯)



3号址 (内帯)



2号址 (内帯)

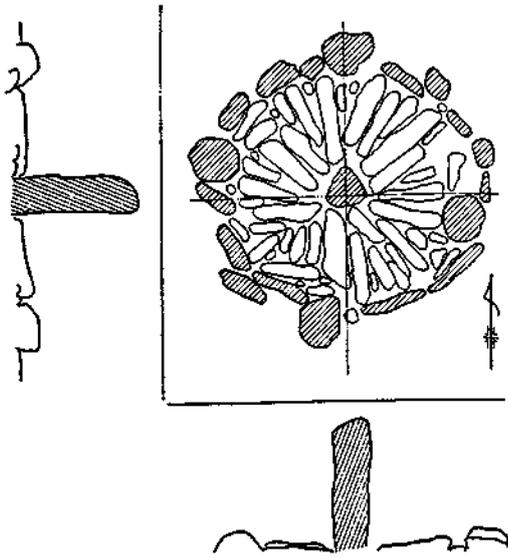


4号址 (内帯)

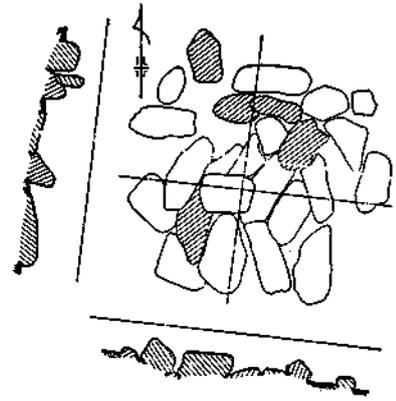
※『大湯町環状列石』より転載



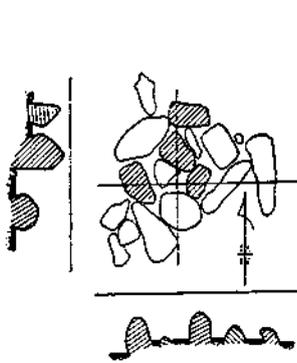
第16図 万座環状列石組石遺構実測図 (5)



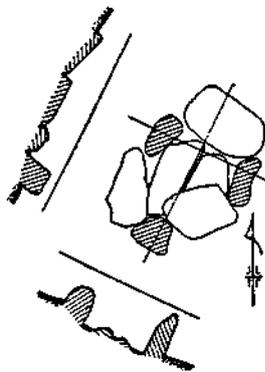
日時計（野中堂）



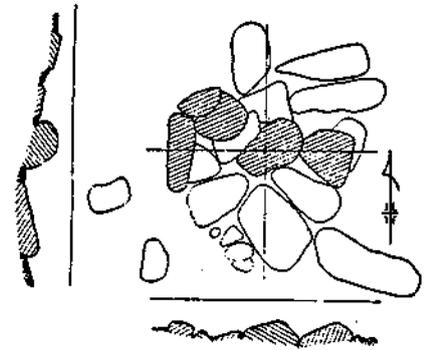
5号址（外帯）



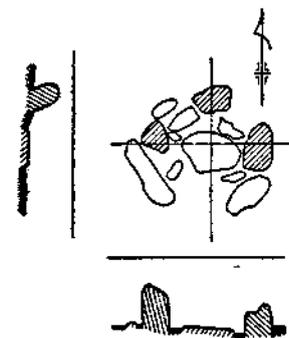
6号址（外帯）



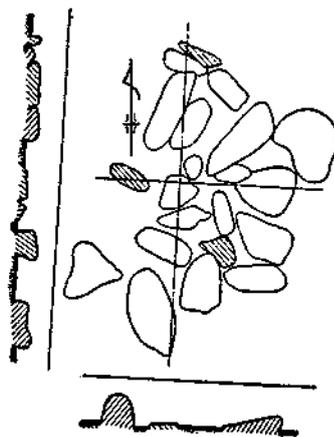
7号址（外帯）



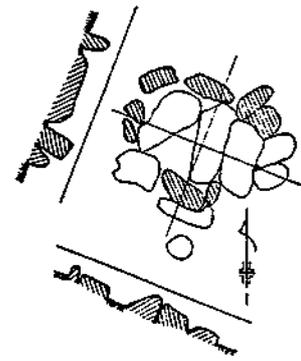
8号址（外帯）



13号址（外帯）



20号址（外帯）

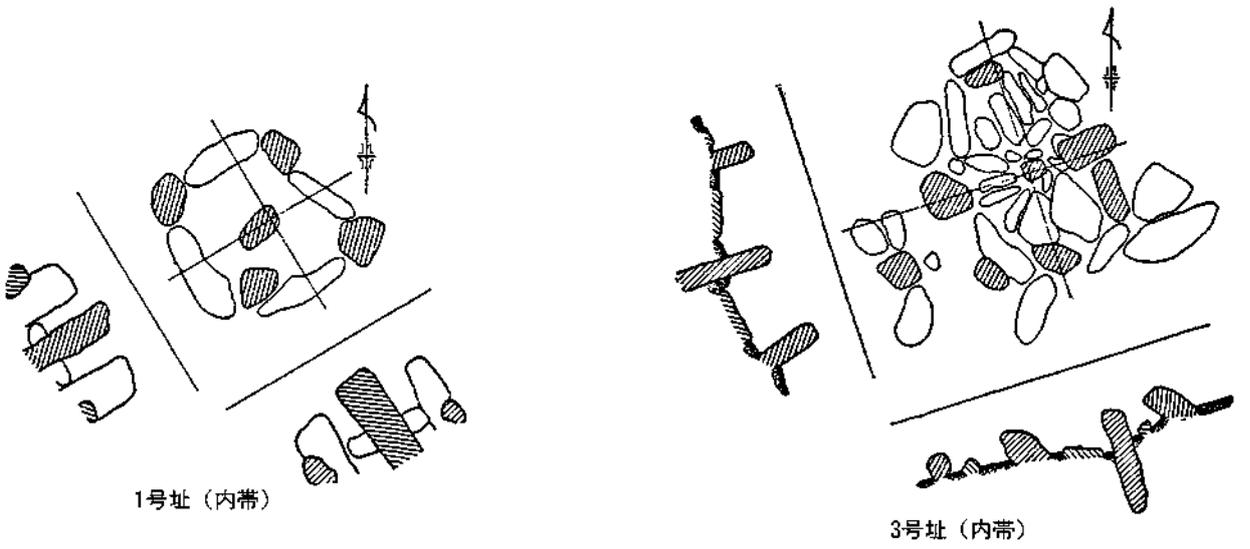
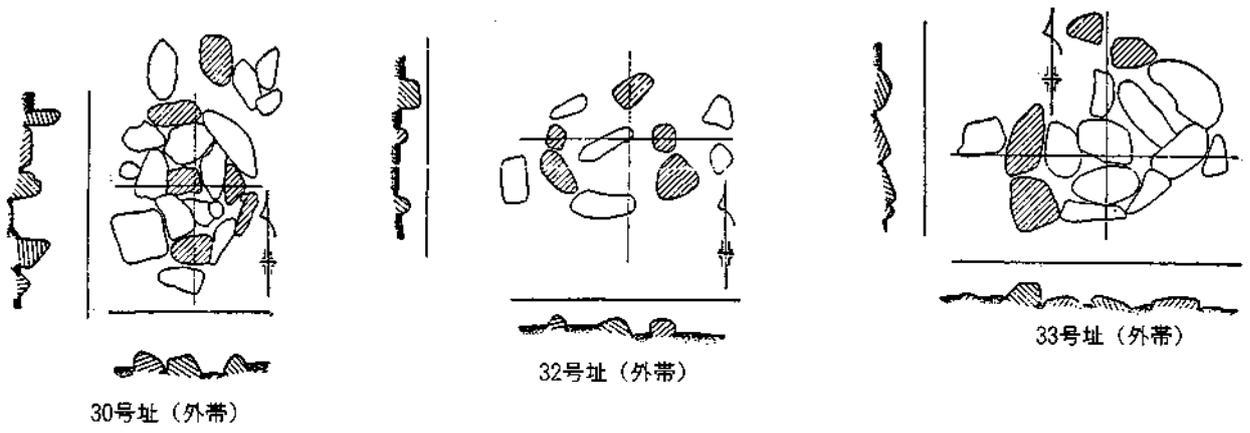


22号址（外帯）

※『大湯町環状列石』より転載



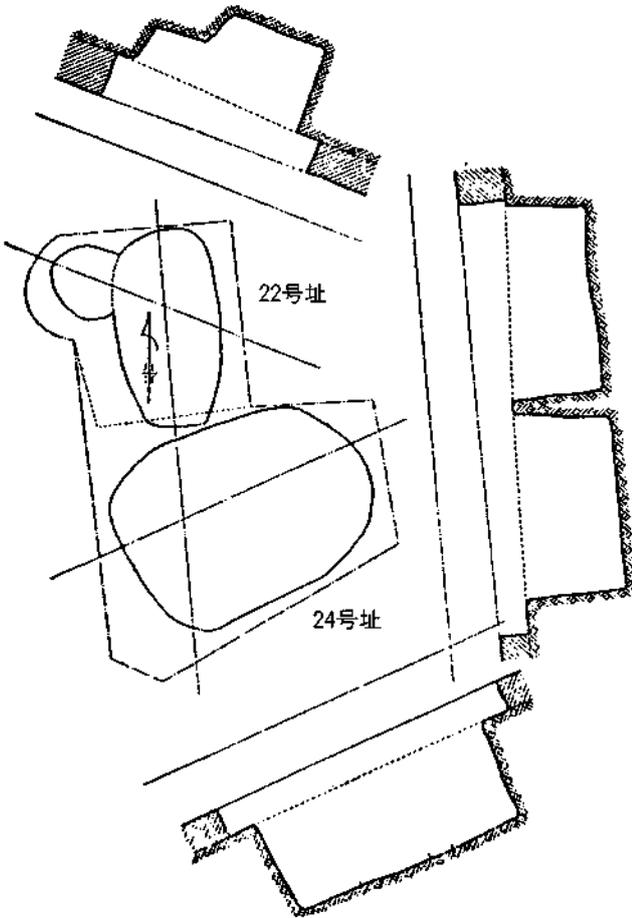
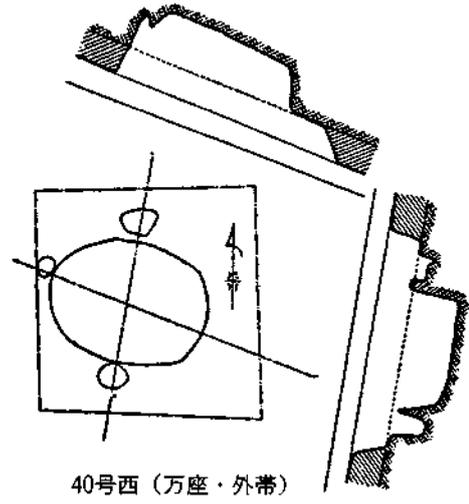
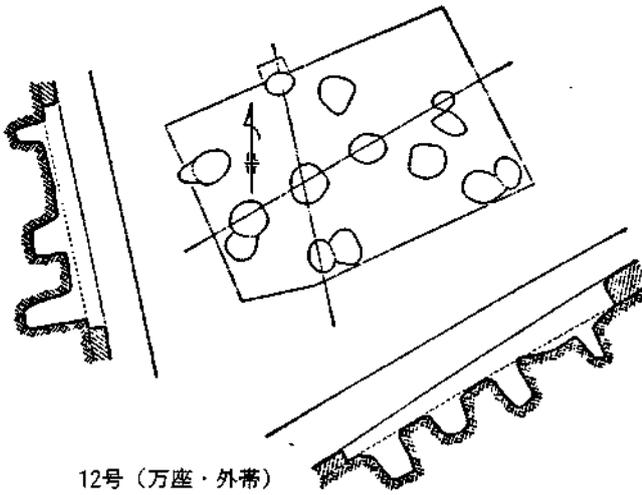
第17図 野中堂環状列石組石遺構実測図(1)



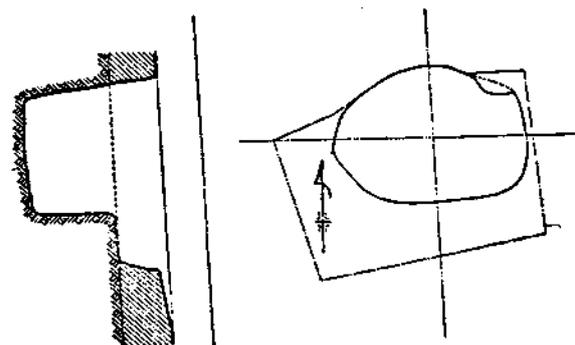
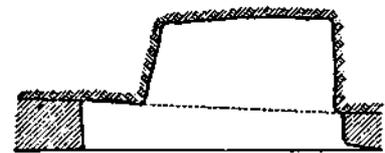
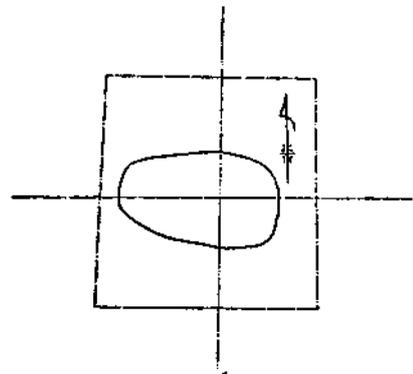
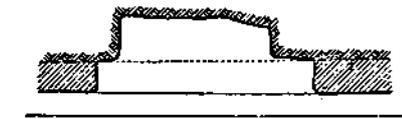
※『大湯町環状列石』より転載



第18図 野中堂環状列石組石遺構実測図(2)



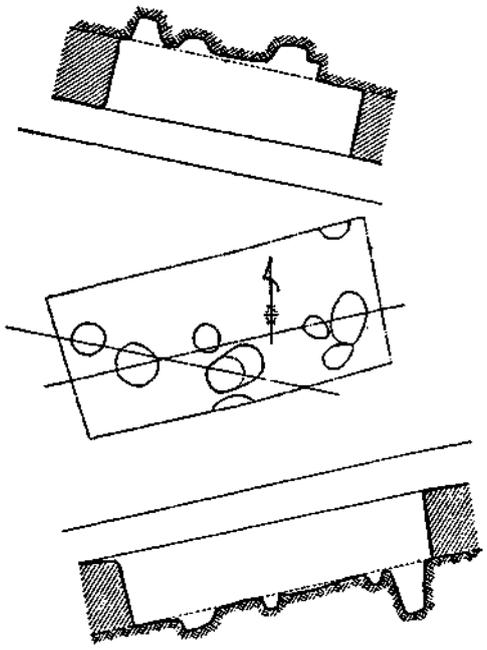
22号・24号址 (万座・外帯)



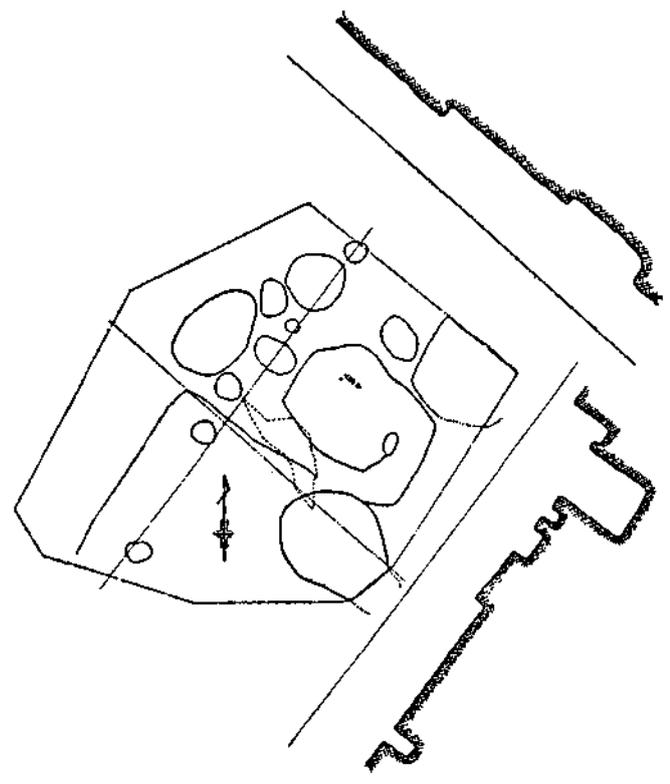
※『大湯町環状列石』より転載



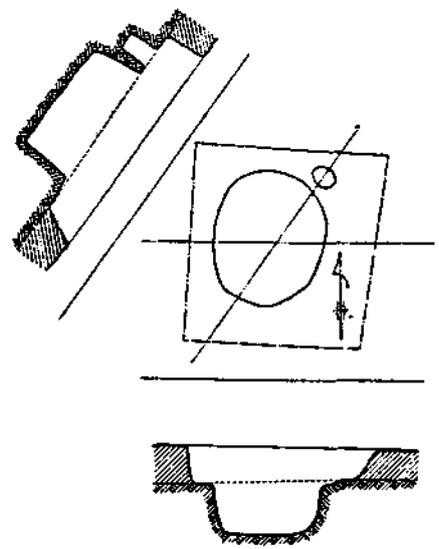
第19図 環状列石組石遺構土抗実測図(1)



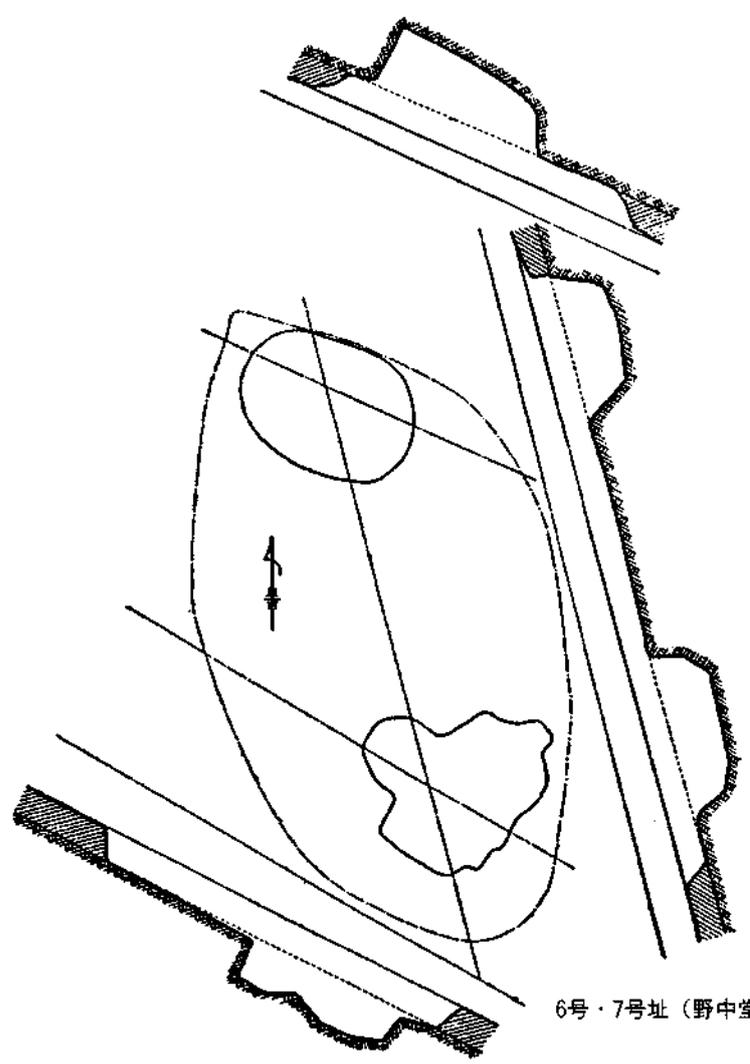
38号址 (万座・外帯)



46号址 (万座・外帯)



44号址 (万座・内帯)

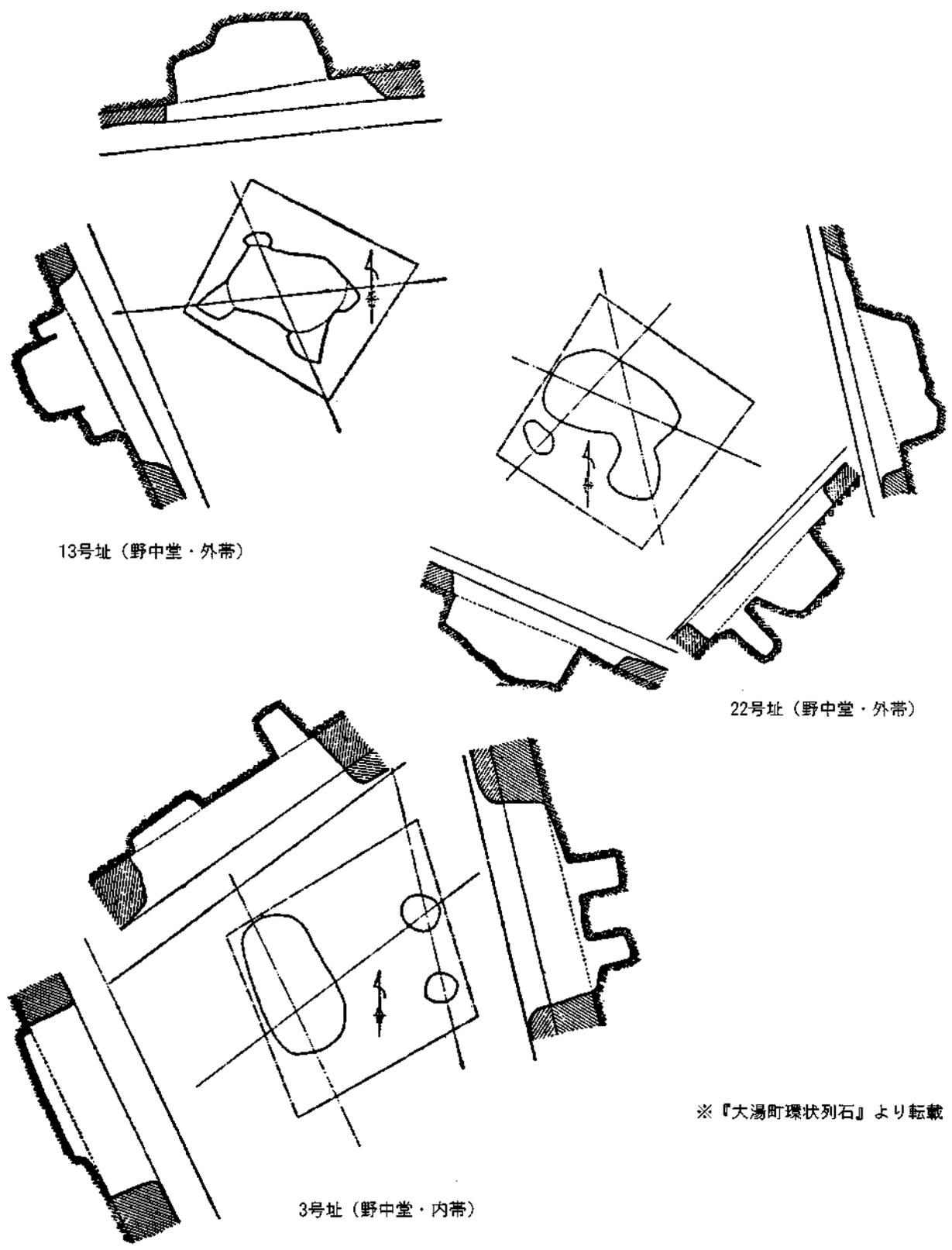


6号・7号址 (野中堂・外帯)

※『大湯町環状列石』より転載



第20図 環状列石組石遺構土抗実測図(2)



13号址 (野中堂・外帯)

22号址 (野中堂・外帯)

3号址 (野中堂・内帯)

※『大湯町環状列石』より転載



第21図 環状列石組石遺構土抗実測図 (3)

第 8 表 万座環状列石を構成する配石遺構(1)

配石遺構番号			外帯 内帯	形態 (注 2)	配石遺構の概要
番号	国営	新規			
1	○		外帯	B 2	東西、南北各両端に立石を配し中に平石を並べたものである。
2	○		外帯	B 2	南北と東西との両端に立石を配し、その中央部に平石を配したものである。
3	○		外帯	B 2	南北両端に立石があり、又東西にも立石があったのが、両端のは除かれたものであろう。そしてその中央部のも石が多少浮いているが、大体に平石は位置とみるべく、
4	○		外帯	C 1	二次的のものを除いてみると、周囲に横長に平石を立てならべ、中央に柱状の立石をたてたものである。
5	○		外帯	A 2	中央に立石をおき、それを囲んで石を組み合わせたものである (中略) この五号址のはその中央に立石が二本相並んでいる。
6	○		外帯		組石の形式を定めることができなくなっていた。
7	○		外帯	E 2	中央に平石をおき、周囲に立石を密接してたてめぐらしたという型式のものであり、今はその立石列は北半部に残っているだけである。
8	○		外帯	B 2	四極に柱石をたて、その中央に平石を置いたものである。
9	○		外帯	E 1	周囲に立石を密接してめぐらし立て、その中に斜めに平石を三枚重ねているものである。
10	○		外帯	E 2	周囲に立石をたて、その中央に平石を置いたものである。
11	○		外帯	C	西極の二石及び東南端の一石を他の遺構のものとして取り除くとすると、対角線軸を東西と南北とに一致させられるように四極に柱石をたてているところはB形式と趣を等しくしているが、その内部がB形式のいづれとも異なり、中央に二本の柱石を立て、それと周囲の四柱石との間に各々一個の平石を置いたものである。
12	○		外帯	G	馬蹄形ともいうべき輪郭を示すもの
13	○		外帯	A	著しくは破壊されたものであるが、
14	○		外帯	C 1	今は柱石が五本立っているだけであるが、南域の部分が多少は解され、柱石も抜き去られたとし、原状においては柱石がめぐらされていたものと推定する。その柱石でめぐらされた内部には横長の石を斜めに埋め重ねているものである。
15	○		外帯	C 3	周縁に立石をめぐらし立て、その中に大小の石を雑然とおいている。
16	○		外帯	H	周縁に柱立石と斜め立石とをめぐらし、内部に小石を雑然とおいている。
17	○		外帯	A 2	中央に立石を二本立てている。
18	○		外帯		形式をとらえがたい。
19	○		外帯	J 2	周囲に横長の石を立て、その半ばを埋めたものを連ねて輪郭をつくり、その内部に平石を配している。
20	○		外帯	A 3	中央に三本の柱状立石を鼎立しているのに注意させられる。この二〇号址ではその柱石の間に横長の石を放射状をなすように並べている。

第9表 万座環状列石を構成する配石遺構(2)

配石遺構番号			外帯 内帯	形態 (注2)	配石遺構の概要
番号	国営	新規			
21	○		外帯	E1	周辺に立石を比較的に密着させてある形式である。
22	○		外帯	A4	南北にやや長い菱形平面形のものであり、その角頂に柱状立石があり、その各々の立石の間に横長石を配している。そして、その菱形平面の中央に更に一本の柱石を立て、その中央の立石と南北の二本石との間にも横長石をおいている。
23	○		外帯	A1	中央に柱状立石を立て、周縁にも柱状立石又は横立石を六本立てて不整形の平面形をつくっている。そして周縁の立石同士を横立を配して連ねており、中央の立石を中軸として横長石を放射状に四方に向かうように配している。
24	○		外帯	A5	(前略)A5式は柱状立石間の布石が雑然として居り、規矩のあるを認め難いもの。
25	○		外帯	E1	周縁に横立石をたてならべて輪郭を作っているのをE式とし、そのE式の中で内部に斜め横石をしきつめている。
26	○		外帯	E3	周縁に立石をめぐらしていたものであったろうが、今は西から北にそれを残しているだけであり、
27	○		外帯	J1	周縁に横立石をめぐらして不整形の輪郭をつくり、内側には斜め横石を少し不規則に配している。
28	○		外帯	C1	多少不規則であるが周縁に柱状立石を立てならべているのでC式とする。そしてその柱状立石による周縁の内側は横斜めの立石がしきつめられている。
29	○		外帯	E2	周縁に横立石を並べているのはE式というてよい。(中略)E式の中で、内側に平石を敷いてあるのを
30	○		外帯	C2	周縁に柱状立石が並びたち、内側に平石を配しているので
31	○		外帯	C2	周縁に立石を密着してめぐらしたもの
32	○		外帯	J1	周縁に横立石を立てめぐらしている
33	○		外帯		調査すべく登録したが、精査を加えると、破壊の甚しいものであり、
34	○		外帯	G	横立石をめぐらしてつくったのは馬蹄形輪郭のものであり(中略)そしてその輪郭内には大小の自然石が乱雑に配しているものである。
35	○		外帯	C2	周縁に立石をめぐらし、内側に平石を配したものである。
36	○		外帯	J1	周縁に横立石をめぐらし、内側に斜め立石を配したものである。
37	○		外帯	C2	周縁に柱状立石を六本立てて不整形の輪郭をつくり、内側に平石三個を鼎足状に配している。
38	○		外帯	C2	周縁に柱状立石を立てめぐらし、内側に平石を配したものである。
39	○		外帯	A2	組石遺構のほぼ中央位に柱状立石が立っている(中略)平石の配石の工合が乱れていて

第 10 表 万座環状列石を構成する配石遺構(3)

配石遺構番号			外帯 内帯	形態 (注 2)	配石遺構の概要
番号	国営	新規			
40	○		外帯	A 1	中央に地上掘出六〇の柱状立石があり、その立石を中心として四方に放射状におかれた横長石、その周縁をやはり横長石で輪郭が円形をなすように連続しているのは、まさに日時計式的規模の組石様式とすべきである。
41	○		外帯	J 1	そこで今は仮に横斜め立石列が二列並んでいるのを周縁の横立石列が囲んでいる。
42	○		内帯	J 1	周縁に横立石をめぐらし、内側に斜め立石を配したものであり、
43	○		内帯	J 1	周縁に横立石をめぐらしており、内側には斜め立石をしきつめている。
44	○		内帯	J 1	やはり周縁に横立石をめぐらし、内側に斜め横立石を配している。
45	○		内帯	A 2	中央に二本の柱状立石が立っているもの。
46	○		外帯		石組遺構形式の分類には入っていないものである。
47		○	外帯		一本の立石に添って人頭大の石が三個置かれている。
印繪	○		外帯	A 1	円形平面形の中央近くに一本の柱状立石が立っている。(中略)それを中核とし、それから八方に横長石を放射状に配し、そしてその外縁に横立石を連ねて円形輪郭を作っている。
48		○	内帯	(E 1)	立石を楕円形に立てめぐらし、その内部に平石を置いている。
49		○	内帯	(B 2)	立石を四方に配し、その内部に自然石を雑然と置いている。東側の立石は抜き取られたものと考えられる。
50					欠番
51		○	外帯	(A 3)	三本の立石を東西方向に配している。
52		○	外帯	(A 5)	三本の立石を東西方向に配し、中心となる立石の南北側にも立石が配されたものと考えられるが、北側立石が抜き取られたものと考えられる。
53		○	外帯	(E 3)	立石を密接にめぐらしたものと考えられる。内部には小さな石が数個残されている。
54		○	外帯	(E 2)	立石を密接に立てめぐらしたものと考えられる。南西側の立石は倒壊している。内部には平石が敷き詰められている。
55		○	外帯	(E 1)	立石を密接に立てめぐらしたものであるが、その立石は花びらのように開いている。内部には平石が敷き詰められている。
56		○	外帯		細長の石を楕円形に配したもので、その内部には平石が数段階敷き詰められている。
57		○	外帯		自然石を円形にめぐらし、その内部に平石を敷いたものと考えられるが、東側が倒壊し、全容がはっきりとしない。(配石遺構は復元)
58		○	外帯	(A 2)	細長の石を楕円形に配し、その中央に二本の立石を立てている。内部には平石を敷き詰めている。
59		○	外帯		平石、細長い石を十数個重ね置きしたものと考えられる。
60		○ 第16次	内帯と 外帯間	(A 1)	中央に立石を据え、それを囲むように細長の石を配したもの。 第 16 次調査 SX(S)9902

第 11 表 万座環状列石を構成する配石遺構(4)

配石遺構番号			外帯 内帯	形態 (注 2)	配石遺構の概要
番号	国営	新規			
61		○ 第16次	内帯と 外帯間	(G 1)	平石を方形に配し、その内部に平石を敷き詰めたものと考えられる。最も大きい柱状石は立石であった可能性が高い。第 16 次調査 SX(S)9903
62		○ 第16次	内帯と 外帯間		細長の石の長軸を連結させ、円形にならべさせたもので東西に立石が立てられている。第 16 次調査 SX(S)9901
63		○	外帯	(E 1)	立石をやや隙間をあけながら楕円形にめぐらしたもので、内部には平石が数段階敷き詰められている。
64		○	外帯	(A 2)	二本の立石を立て、これを囲むように細長の石や平石で配したもの
65		○	外帯		扁平な石を数十個円形に配したもの
66		○	外帯	(E 1)	立石を密接に楕円形に巡らしたもので、内部に扁平な石が置かれている。
67		○	外帯		扁平な石を数十個円形に配したもので、内部に平石が置かれる。
68		○	外帯	(E 1)	立石を密接に楕円形に巡らしたもので、内部に扁平な石が置かれている。
69		○	外帯	(B 1)	立石を東西南北に立て、その内部に 3 個の平石が重ねられている。
70		○	外帯	(E 1)	立石を密接に楕円形に巡らしたもので、内部に扁平な石が数段置かれている。
71		○	外帯	(E 1)	立石を密接に楕円形に巡らしたもので、内部に扁平な石が数段置かれている。
72		○	外帯	(E 1)	立石を密接に楕円形に巡らしたもので、内部に扁平な石が数段置かれている。
73		○	外帯	(E 2)	立石を密接に楕円形に巡らしたもので、内部に扁平な石が数段置かれている。
74		○	外帯	(E 2)	配石遺構群に埋もれている。立石を楕円形に立て巡らしたもので、その内部には細長石や平石が数段階積み重ねられている。配石南側は第 71 号、72 号配石と境目がはっきりしない。
75		○	外帯	(A 4)	四方に立石を配し、立石同士を横長石で連結するもの
76		○	外帯		扁平な石を円形に積み重ねたものである
77		○	外帯	(E 2)	立石の間を少しあけながら円形に巡らしたもので内部には細長石や平石が置かれている。
78		○	外帯	(E 1)	立石を立て巡らし、内部に石を置いたものと考えられるが、立石と思われる細長石は崩壊している。
79		○	内帯	(C)	立石を巡らすもの
80		○	外帯	(J 2)	横立石を楕円形に配し、その内部に平石を置いたもの
81		○	外帯	(E 2)	立石を円形に立て巡らしたもの。内部には平石が置かれている。
82		○	外帯	(C 1)	立石を楕円形に巡らしたもので、内部中央にも小さな立石が置かれる。その隙間に平石が置かれている。
83		○	外帯	(E 2)	立石を楕円形に配したもので、内部に細長・扁平の石が置かれている。

第 12 表 万座環状列石を構成する配石遺構(5)

配石遺構番号			外帯 内帯	形態 (注 2)	配石遺構の概要
番号	国営	新規			
84		○	外帯	(B)	配石長軸両端に立石を立て、これを二本の細長の横立石で繋いでいる。方形を呈し、内部には大きめの石が二個斜め置きされている。
85		○	外帯	(J 1)	横立石に配し、内部には平石が置かれている。
86		○	外帯	(E 1)	立石を楕円形に配したもので、南端立石は大きく開き立石の形状を示していない。内部には人頭大の川原石が雑然と置かれている。
87		○	外帯	(E 1)	立石を楕円形に巡らしたもので、二段並べされている。内部には平石が数段重ね置きされている。本配石遺構から西側へ延びる石列は西側出入り口か
88		○	外帯	(E 2)	立石を楕円形に立て巡らしたものと考えられる。内部には平石が置かれている。
89		○	外帯		配石遺構両端に立石を配し、これを細長石で連結させたものと考えられるが片端がはっきりとしない。内部には平石が置かれている。
90		○	外帯	(E 1)	立石を楕円形に配したものと考えられる。内部には川原石が雑然と置かれている。
91		○	外帯	(E 2)	立石を方形に配したものと考えられる。内部に細長石や平石が置かれている。
92		○	外帯	(E 1)	立石を楕円形又は円形に巡らしたものと考えられるが、配石北西側が崩れている。内部には平石が斜め置きされている。本配石遺構から西側に延びる石列は西側出入り口か。
93		○	外帯	(A 2)	配石遺構両端と中央に立石を配し、これを囲むように扁平な石を置いたもの
94		○	外帯	(E 2)	楕円形になるように立石を密接に巡らし、その内部に平石を置くもの
95		○	外帯	(E 2)	楕円形になるように立石を密接に巡らし、その内部に平石を置くもの
96		○	外帯		三本の立石がみられるが、崩壊が激しく形状は不明。
97		○	外帯	(A 5)	五本の立石を囲むように細長の石を円形に巡らしたものと考えられる。
98		○	外帯	(A 5)	立石を四方に配し、これを繋ぐように横立石を置くもので、空白部には石が置かれる。
99		○	外帯	(J 2)	横立石を楕円形に配したもので、内部に平石が置かれている。
100		○	外帯		立石・横立石を楕円形に配したものと考えられる。
101		○	外帯	(E 2)	立石を楕円形に配したもので、内部に平石が置かれている。
102		○	外帯	(E 2)	立石を巡らしたものと考えられ、内部に平石が置かれる。
103		○	外帯		立石が密集して立てられている。
104		○	外帯		横立石を円形に巡らしたものと考えられる。
105		○	外帯		立石を密集させている。

第 13 表 万座環状列石を構成する配石遺構(6)

配石遺構番号			外帯 内帯	形態 (注 2)	配石遺構の概要
番号	国管	新規			
106		○	外帯	(H)	六本の立石の隙間をあげながら楕円形に配し、これを大きく囲むように横立石を楕円形に巡らすもので、その内部には平石が置かれる。
107		○	外帯		5 個の石を集合させている。
108		○	外帯	(A 2)	二本の立石を立て、周囲に扁平な石を置いている。
109		○	外帯	(E 1)	立石を円形に立て並べるもので、立石は二重並べとなっている。内部には平石が重ねられている。
110		○	内帯	(E 3)	立石を楕円形に立てめぐらし、その内部に自然石を雑然と置いている。南側が崩壊している。

注 1 : 配石遺構番号は混合しないように文化財保護委員会刊行の『大湯町環状列石』の番号を使用した。今回新たに確認したものについてはそれ以降の番号を付した。

注 2 : 形態分類は、文化財保護委員会刊行の『大湯町環状列石』、後藤守一氏の分類を適用した。()書きをしたものは執筆者が後藤氏の分類に基づいて書き入れた。

注 3 : 外帯 1 号～41 号、内帯 42 号～46 号、日時計状組石については配石遺構形態を述べている箇所を原本のまま記載した。それ以外に新たに確認したものについては筆者が書き入れた。概要の欄に記入した下部土坑の規模は、前提『大湯町環状列石』の実測図を使い、計測した。

第 14 表 野中堂環状列石を構成する配石遺構(1)

配石遺構番号			外帯 内帯	形態 (注 2)	配石遺構の概要
番号	国営	新規			
1	○		外帯	J 2	横立石が一部残り、それに接して平石がある。
2	○		外帯		破壊されたあとのものである。
3	○		外帯	J 1	破壊されたあとのものであるが、横立石としれに接して斜め立石が残されているから、
4	○		外帯		全く破壊されたあとのものである。
5	○		外帯	J 2	横立石を以って周縁をつくり、内側に平石をおいているので、
6	○		外帯	A 2	中に柱状立石が二本立っているから、
7	○		外帯	B 1	四方に横立石を立て、中に斜め立石をならべたものの破壊されたものであろう。
8	○		外帯		形式を定めることはできない。
9	○		外帯		考察の対象になしがたい。
10	○		外帯		二個斜めの立石は原位置のものらしい。B 1・C 1・E 1等の中のいずれかの残址であらう。
11	○		外帯		遺構をなさない。
12	○		外帯		組石遺構ではないだろう。
13	○		外帯	B 2	周縁の四至に柱状立石を立て、内側に平石を置いているといったものであり、
14	○		外帯		破壊されたあとのものである。
15	○		外帯	J 2	周縁の横立石列としてそれに接する平石とによって J 2 に属するものとすべきものであるかもしれない。
16	○		外帯		遺構の形式を推定しがたい。
17	○		外帯		遺構形式の考察の対象にはならない。
18	○		外帯		第 17 号址と同様である。
19	○		外帯		これも考察の中には入れにくい。
20	○		外帯		恐らく破壊された遺構の一にしてもよいだろう。
21	○		外帯		浮石のみである。

第 15 表 野中堂環状列石を構成する配石遺構(2)

配石遺構番号			外帯 内帯	形態 (注 2)	配石遺構の概要
番号	国営	新規			
22	○		外帯	J 1	周縁に横立石をたてめぐらしており、中に斜め立石を三個配している。
23	○		外帯		全く破壊されたものあとである。
24	○		外帯		第 2 3 号址と同趣
25	○		外帯		これも第 2 3 号址と同趣
26	○		外帯		遺構をなさない
27	○		外帯		前者と同じである。
28	○		外帯		これも亦第 2 6 号址と同様である。
29	○		外帯		遺構をなさない。
30	○		外帯	J 2	周縁に横立石をめぐらし、中に斜め立石を配したという組石遺構のものであろう。
31	○		外帯		組石の形式を考える対象にはなしがたい。
32	○		外帯		考察の対象になしがたい。
33	○		外帯		前者と同趣
40		○	外帯		横長石を楕円形に平置きし、内部に横長・扁平の石を置いている。
41		○	外帯		中央に立石を一本たて、それを囲むように細長い石を楕円形に平置きされている。
42		○	外帯		横立石を楕円形に巡らし、内側に扁平・細長の石を重ね置きしている。
43		○	外帯		横立石が置かれている。
44		○	外帯		中央に小さな立石を立て、細長い石がこれを囲んでいる。
45		○	外帯		二本の立石に添って横立石が置かれている。
46		○	外帯		三本の立石を中央に立てたものか
47		○	外帯	(E 2)	横立石を楕円形に巡らし、内部に平石を置く。
1	○		内帯	(A 5)	四極に柱状立石があり、その各々を連ねて横長石をおいて四角形の輪郭を作っている。そしてその内部には、中央に柱状立石が一本あるだけのものであり、
2	○		内帯	(B 2)	その長軸線の両端及びそれ直交する線上にそれぞれ立石があり、その内側に平石をおくもの

第 16 表 野中堂環状列石を構成する配石遺構(3)

配石遺構番号			外帯 内帯	形態 (注 2)	配石遺構の概要
番号	国営	新規			
3	○		内帯		所謂日時計式(中略)中央に柱状立石があり、それを中心として八方に放射状に配された横長石があり、更にそれを囲んで周縁に横長石を巡らしている。
4	○		内帯		遺構は全く破壊されている。
5	○		内帯		第四号址と同趣
6	○		内帯		これも全く破壊されていた。
7	○		内帯	(B 2)	東西の二極に(中略)柱状立石が立ち、その間に平石がおかれている。
8	○		内帯	(J 類)	全く破壊されている。
9	○		内帯		前者と同じ趣きを等しくしている。
10	○		内帯		破壊されたもの。
11	○		内帯		前者と同じである。
日時計			内帯	(A 1)	組石遺構の A 1 式の中で形の整ったものであるとすべきである。
12		○	内帯		第三号址の北側部分に当たる。四極とその間に立石を配し、更に中央にも立石が立てられる。四極と中央の立石は横立石のよって連結されている。
13		○	内帯		四本の立石が立っている
14		○	内帯		五本の立石にそって平石が置かれている。

注 1 : 配石遺構番号は混合しないように文化財保護委員会刊行の「大湯町環状列石」の番号を使用した。今回新たに確認したものについてはそれ以降の番号を付した。

注 2 : 形態分類は、文化財保護委員会刊行の「大湯町環状列石」、後藤守一氏の分類を適用した。()書きをしたものは執筆者が後藤氏の分類に基づいて書き入れた。

注 3 : 外帯 1 号～33 号、内帯 1 号～11 号、日時計状組石については配石遺構形態を述べている箇所を原本のまま「」書きで記載した。それ以外に新たに確認したものについては筆者が書き入れた。概要の欄に記入した下部土坑の規模は、前提『大湯町環状列石』の実測図を使い、計測した。

列石隣接部の遺構確認を行った際、基本層序Ⅲd層直下にV層が露出する場所(万座東側・南東側隣接地)があり、これが遺構確認面となった。遺構の深さも他地区の同一遺構と比較しても極端に浅くならないものであったことを考慮すると、平坦面を作り出すために部分的に削平した可能性があったことが認められた。

野中堂環状列石

万座環状列石との比高差は1.25mである。万座環状列石周辺から緩やかに東側台地縁に向かい傾斜する斜面に構築されているが、標高179.50m等高線が不自然な曲線を描いている。この等高線によって描かれた範囲は楕円形を呈する平坦部で、その形状や規模は野中堂環状列石と一致している。

第18次調査において、同列石北東側に隣接して設けたトレンチでは基本層序Ⅳ層が欠如し、またV層上面から遺物が出土するなど整地を行った可能性が強いものであることが観察された。

【オ. 出土遺物】

鹿角市教育委員会が実施した発掘調査による遺物の数量は少ない。『大湯町環状列石』を参考とする。

万座環状列石

第18次調査時に、本列石北側に位置する第66号組石(配石)遺構内より大型土偶の右腕が出土した。これは旧大湯中学校より寄贈された左腕と第6次調査(F1区)で出土した左脚と同一個体であった。また、環状列石内部から後期前葉(十腰内Ⅰ式)～後期中葉(十腰内Ⅱ式)の特徴をもつ土器片が列石の構築面と同じ面より出土している。

なお、『大湯町環状列石』に本環状列石出土遺物として、完形・復元土器40点、土器片38点、土製品11が紹介されている。これらは列石外の発掘坑からの出土遺物であるが、列石の時期決定資料として、土器は壺形土器、深鉢形土器、片口土器、注口土器、鉢形土器で、主文様として帯縄文により入組曲線文が施文された後期前葉・十腰内Ⅰ式土器の特徴をもつものと、変形楕円形文や多重沈線文と条の細かな縄文が回転施文された後期中葉・十腰内Ⅱ式土器の特徴を持ったものがみられる。土製品には土偶、鐸形土製品、耳飾、きのこ形土製品がみられる。

野中堂環状列石

万座環状列石と比較し、遺物の出土量は極めて少ない。

また『大湯町環状列石』には土偶、土器片の出土状況を示す写真を掲載・紹介されている。

【カ. 重複関係】

両列石に隣接して多数の遺構が分布しているが、それに比べ重複関係を示すものは少ない。

万座環状列石

掘立柱建物跡	SB611(D6区)→北側出入口状施設
	SB02(D6区)→SB01(D6区)→南側出入口状施設
Tピット	SK(T)39(D6区)→南側出入口状施設
フラスコ状土坑	SK(F)43(D6区)→南側出入口状施設

重複する遺構が埋まりきった上に出入口施設が構築されている。出入口施設が最も新しいといえるが後述する建物跡、フラスコ状土坑の中には後期中葉に構築されたものもあり、これらとは共伴関係

にあるものと考えられる。

野中堂環状列石

掘立柱建物跡 SB205(B4区)→北側出入口状施設
SB201～204(B4区)→南側出入口状施設

Tピット SK(T)115(B4区)→列石本体

土坑 SK171・205・208・239・246・247→南側出入口状施設

重複する遺構が埋まりきった上に列石外帯配石遺構、出入口状施設が構築されている。このことから列石・出入口状施設が新しいといえるが、建物跡と環状列石は密接な関係にあり、共伴関係にあるものと考えられる。

【キ. 時 期】

万座環状列石

『大湯町環状列石』に掲載された遺物から判断し、後期前葉(十腰内Ⅰ式)に造り始め、後期中葉(十腰内Ⅱ・Ⅲ式)まで継続し、終焉を迎えたものと判断される。この時期は列石隣接地の遺構内外の出土土器の時期からも与えることができる。

野中堂環状列石

列石本体からの出土遺物は極めて乏しい。野中堂環状列石と直接関連する建物跡、土坑、フラスコ状土坑などについては後述するが、それらより後期前葉(十腰内Ⅰ式)～後期中葉(十腰内Ⅱ式・Ⅲ式)の特徴をもった土器が出土していることから、構築時期についてはこの時期が与えられる。

【ク. 分 布】

環状列石を構成する組石(配石)遺構の分布を観察する。

万座環状列石

105基以上の組石(配石)遺構によって二重の円環を描くように造り出されており、内帯と外帯は空白部をもって境界としている。

内帯は7基の組石(配石)遺構が連続して、径14mの円環を描くように配置されているが、西側の組石(配石)遺構の有無がはっきりとしない。

一方、外帯に位置する組石(配石)遺構は98基で、分布密度の濃い地域と空白部をもって分布していることが看取される。外帯組石(配石)の分布密度、空白部の存在から水野正好氏は外帯組石(配石)を12グループ(小塊)、阿部義平氏は13グループ(小塊)、林謙作氏は8グループ(群)に分割している。

野中堂環状列石

本列石は55基以上の組石(配石)遺構によって二重の円環を造り出しており、内帯と外帯は空白部をもって境界としている。

内帯は15基の組石(配石)遺構が径約12mの円を描くように配置され、列石中央から北西方向の内帯と外帯のほぼ中間に「日時計状組石」がある。

外帯に位置する組石(配石)遺構は40基で、万座環状列石と比較して組石(配石)遺構の分布密度が低い。しかし本列石の西側では、万座環状列石と同様に外帯は組石(配石)遺構4基～7基からなるグループを

構成していることが看取され、外帯組石(配石)の分布密度、空白部の存在から、阿部義平氏は13グループ(小塊)に、林謙作氏は9グループ(群)分割している。

基本的には規模の違い、外帯を構成するグループ数、関連する遺構の数量的な違いはあると思われるが、万座環状列石に類似した分布を示すものと考えられる。

【ケ. 性 格】

昭和26年・27年に万座・野中堂環状列石を構成する組石(配石)遺構の中より14基の組石(配石)遺構を摘出し、組石下部の調査を実施している。この結果、14基中11基からは平面形が楕円形(小判形)又は円形を呈し、長軸100cm前後を測る土坑が確認され、また同時に科学的な分析(リン分析)を実施し、一例であったが高濃度のリン含有量が認められている。調査を総括した斉藤忠氏は「我々が調査した範囲内においては、その下底に墳を有していることが普通であることの認められたことは、これを墓墳と見、組石を墓標的なものとするに蓋然性もあるのであり」とし、墳墓の集合体であることを推察した。

市教委では、昭和59年～61年にかけて一本木後ロ地区の配石遺構群の調査を行った。この結果すべての配石下に土坑を有すること、土坑は人為的に埋め戻されていたこと、土坑内より甕棺土器や副葬品と判断される漆塗木製品や13点もの石鏃が出土したことから配石遺構=配石墓であると考えている。

この配石遺構の集合体である2つの環状列石(本体)については、上記のことから「二重の円環に配置された、配石墓の集合体」であると考えている。

2. 配石遺構

(1) 環状配石遺構 (第22図～28図、第17～20表)

発掘調査によって13基の環状配石遺構が検出されている。

【ア. 形態】

平面形態によって2つに分類される。

I類： 細長の石の長軸を連結し環帯を造り、その一部に張り出し施設を持つ。環帯に配列される石は複数列になる場合もある。第401号環状配石遺構のように遺構中央部に地床炉、これを囲み2本一対の柱穴配置を持つことを基本とするものと考えられるが、これらが確認できなかったもの、確認されなかったものもある。

なお、第04号環状配石遺構については規模や柱穴の配置に違いを見せるが、本類とした。

II類： 小石を環帯状に敷き詰めたもの。張り出し部や柱穴状ピットを明確にできなかったが環状配石遺構として分類した。

万座隣接部

隣接部に4基分布し、すべてI類である。

万座北側地区

9基が分布する。第411号環状配石遺構はII類、そのほかはI類である。

第04号環状配石遺構については西側に等間隔に配置された二重の柱穴状ピットが観察されている。また環内で配石遺構、石囲炉が検出されている。遺構中央に位置する石囲炉は位置的にみて本遺構に伴うものと考えられるが、柱穴配置に接して配置された石囲炉、配石遺構はこの遺構に付随するものかは断定できなかった。

【イ. 規模】

最大なものは万座北側地区第04号環状配石遺構の長軸28m×短軸20m、最小なものは同地区第411号環状配石遺構の径3.4mである。規模は径3.4m～10m以内に収まるが、第202号環状配石遺構は径14mを測りこれを大型とすると、04号環状配石遺構は特大といえる。

万座隣接地

径4.60m～7.56mを測る。万座北側地区のものとは比べ小型のものが多い。

万座北側地区

径3.4m～28.00mと開きが大きい。大型・特大の202号環状配石遺構、04号環状配石遺構、最小の第411号環状配石遺構を除くと、規模は6.60m～8.80mに収まる。万座隣接地と比べ大型のものが占める割合が高い。

【ウ. 確認面と構築面】

万座隣接地

本地区で確認されたものは、基本層序Ⅲc層上に構築される。

万座北側地区

本地区で確認されたものは、Ⅲc層上に構築される。04号環状配石遺構では転倒せずに立石が残っ

ており、これらはⅡ層上面にその露頭を確認した。

【エ. 堆積状況】

万座隣接地

確認状況が平面的なものであることから基本的にⅢb層、Ⅲa層が遺構全体を覆っている。

万座北側地区

確認状況が平面的なものであることから基本的にⅢb層、Ⅲa層が遺構全体を覆っている。

【オ. 出土遺物】

万座隣接地

遺構に直接伴った遺物を判断するのは非常に難しい。遺構周辺から後期前葉・十腰内Ⅰ式土器～後期中葉・十腰内Ⅱ式・Ⅲ式土器の特徴をもった土器とともに石鎌、石皿、磨製石斧、土製品が出土している。

万座北側地区

遺構周辺から後期前葉～中葉にかけての土器が出土している。このほかに土偶、環状土製品、磨製石斧、搔器などが出土している。

本遺構の確認面(構築面)と同じⅢc層面から後期中葉の特徴を持った広口壺が2点出土している。

【カ. 重複関係】

万座隣接地

掘立柱建物跡 SB210～212→SX(S)220(D1区) SB615→SX(S)602(D6区)

焼土遺構 SX(f)222→SX(S)220(D1区)

土坑 SK89・90・94→SX(S)01(D6区)

重複する遺構が埋め戻された後に環状配石遺構が構築されている。このことから本地区では最も新しい時期のものと考えられる。

万座北側地区

環状配石遺構 SX(S)04→SX(S)01(F4区)

掘立柱建物跡 SB201→SX(S)201(D1区) SB12→SX(S)04→SX(S)01(F4区)

焼土遺構 SX(f)212→SX(S)201(D1区)

土坑 SK→SX(S)401(D4区) SK66→SX(S)01(F4区)

フラスコ状土坑 SK(F)11→SX(S)01(F4区)

重複する遺構が埋まりきった後に環状配石遺構が構築されている。このことから本地区では最も新しい時期のものと考えられる。なお、環状配石遺構同士の重複関係が1例存在する。

【キ. 時期】

万座隣接地

万座隣接地に分布する掘立柱建物跡、土坑、フラスコ状土坑を切って構築されている。

万座隣接地の東側に位置する第602号環状配石遺構は後期中葉に構築された第12号建物跡が廃棄された後に構築されており、これ以降の時期が与えられる。

万座北側地区

本地区、後期前葉の遺構の主体をなす建物跡(群)を切って構築されており、後期前葉以降の時期が与えられる。なお、万座隣接地において後期中葉の遺構が埋まりきった後に構築しており、その構築時期は後期中葉と考えられる。なお、環状配石遺構同士の重複関係が示すように、同遺構の構築時期は2時期を想定することができる。

【ク. 分 布】

万座隣接部

万座北東側に隣接する第202号、301号環状配石遺構、万座北側南端に位置する第401号、第1号、第402号、第403号環状配石遺構は、直径70mの円環を描くように張り出し施設をその円環の中心を向くように配置されている。区画を作り出していることからこれら6基の環状配石遺構は同時期と判断される。

万座北側地区

万座北西側の台地縁を意識した配置を示しながら、第3号・第4号環状配石遺構はその張り出し施設が北側に、第202号・第01号環状配石遺構はその施設が東側を向く。

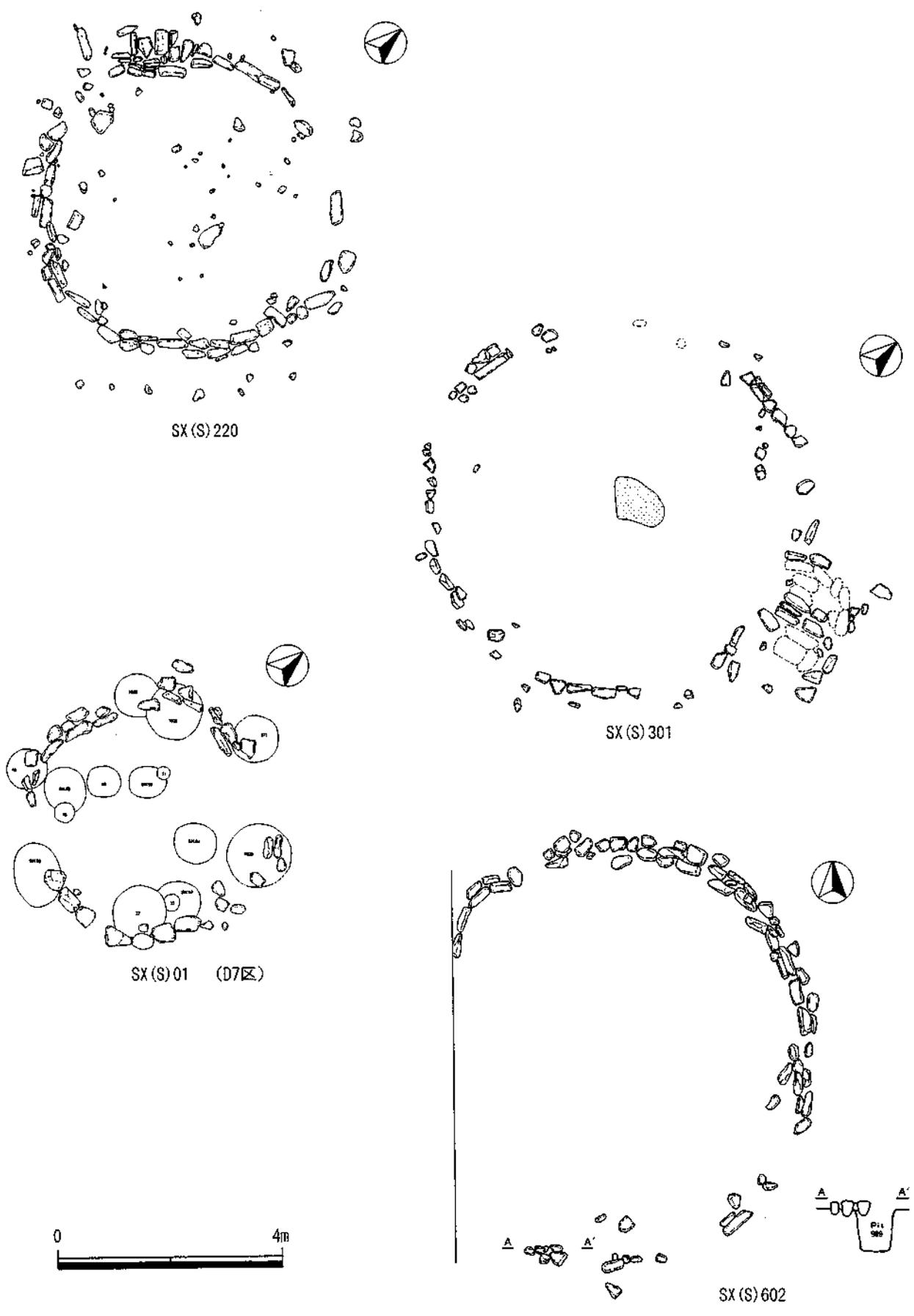
【ケ. 性 格】

本遺構は環状列石以降に構築されたもので、その時期は後期中葉である。

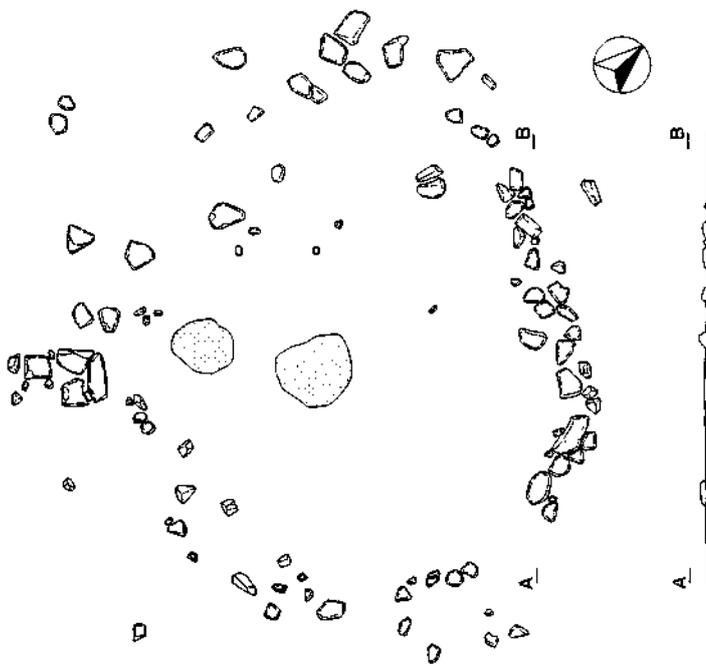
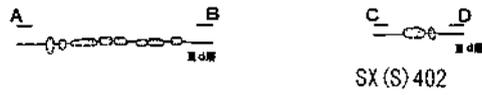
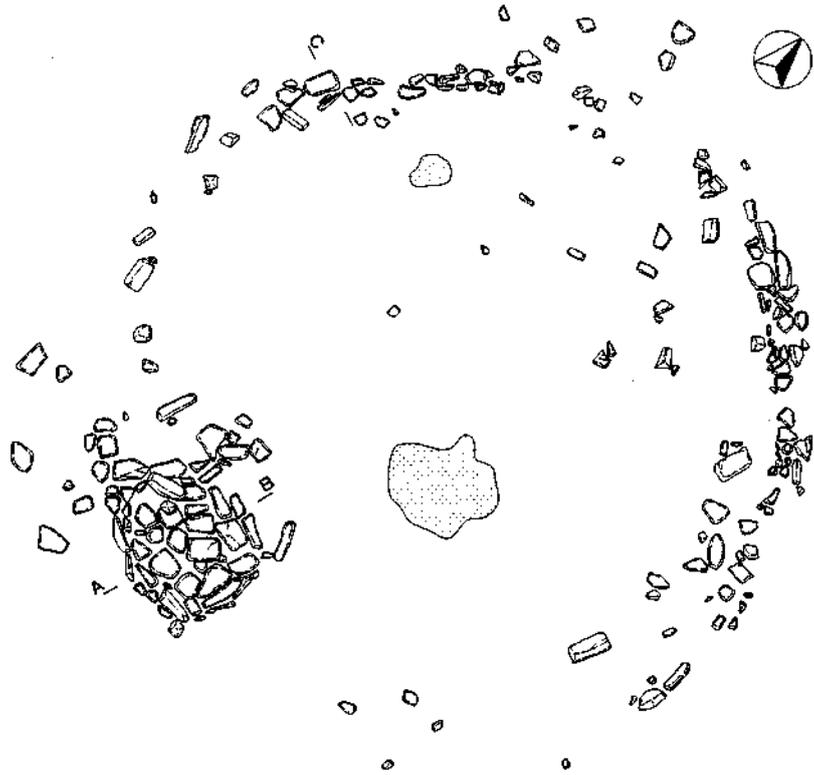
関東地方で検出されている敷石住居跡と形態が類似していることから竪穴住居跡とする考えもある。

しかし、万座西側地区、野中堂隣接地からは後期前葉～中葉の竪穴住居跡が確認されていることから、同時期に2つの形態のものが存在していたとは考えにくい。

万座環状列石、万座北側に構築された建物群は生活を意識した空間を作っていない。性格を決定付ける遺物も少なく性格については想定の域を出ないが、祭祀的な要素が強い施設と考えられる。

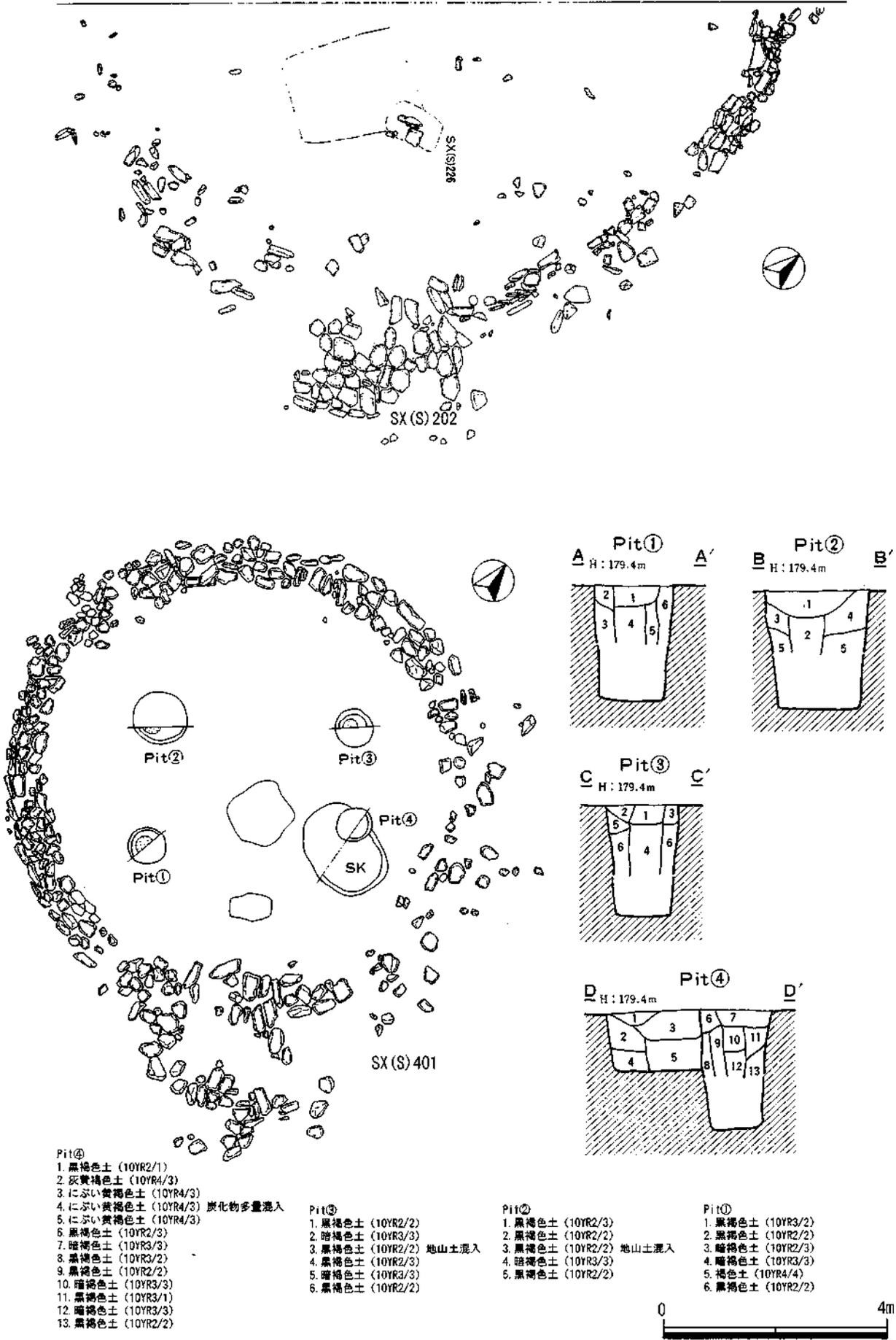


第22図 環状配石遺構実測図(1)



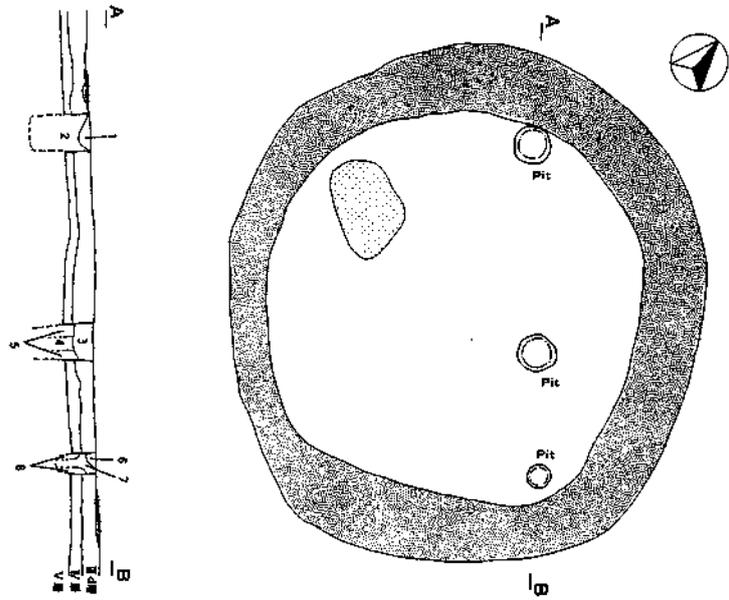
SX(S)403



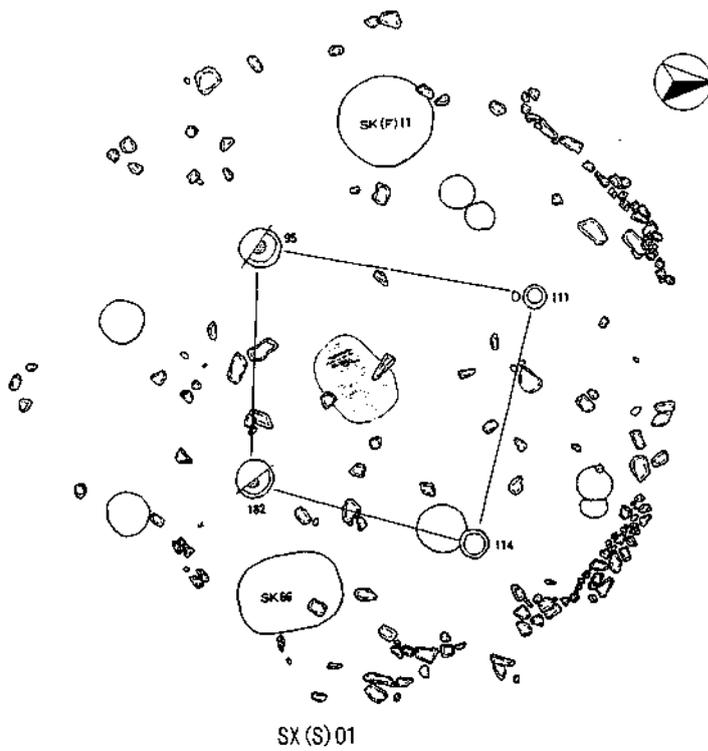


第24図 環状配石遺構実測図(3)

- SX(S) 411
1. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化粒微量混入
 2. 黒褐色土 (10YR2/2) 地山粒・ブロック少量混入
 3. 黒褐色土 (10YR2/2)
 4. 黒褐色土 (10YR2/2) 炭化粒微量混入
 5. 黒褐色土 (10YR2/1)
 6. 黒褐色土 (10YR2/2) 白色粘土少量混入
 7. 黒褐色土 (10YR2/1)
 8. 黒褐色土 (10YR2/2) 地山粒混入、しまり有り。

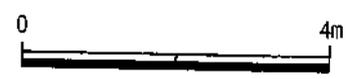
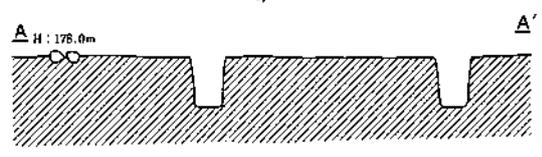
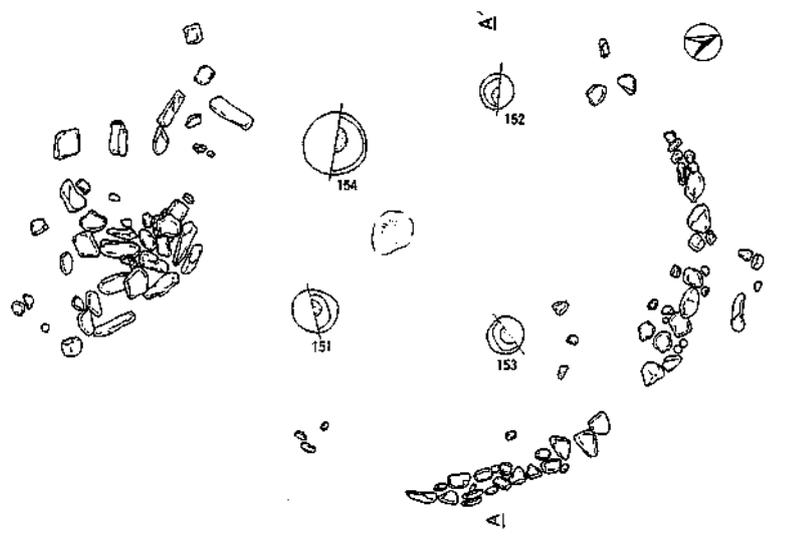
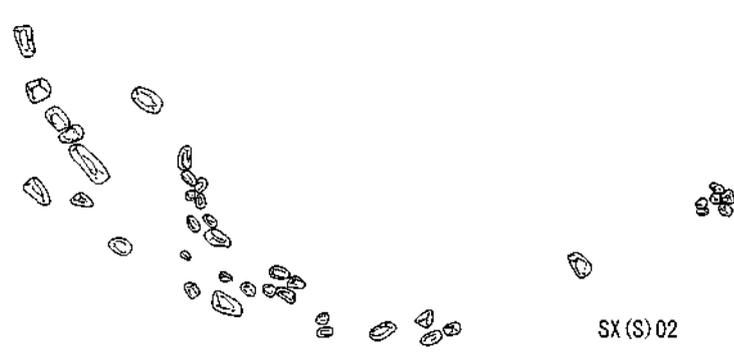
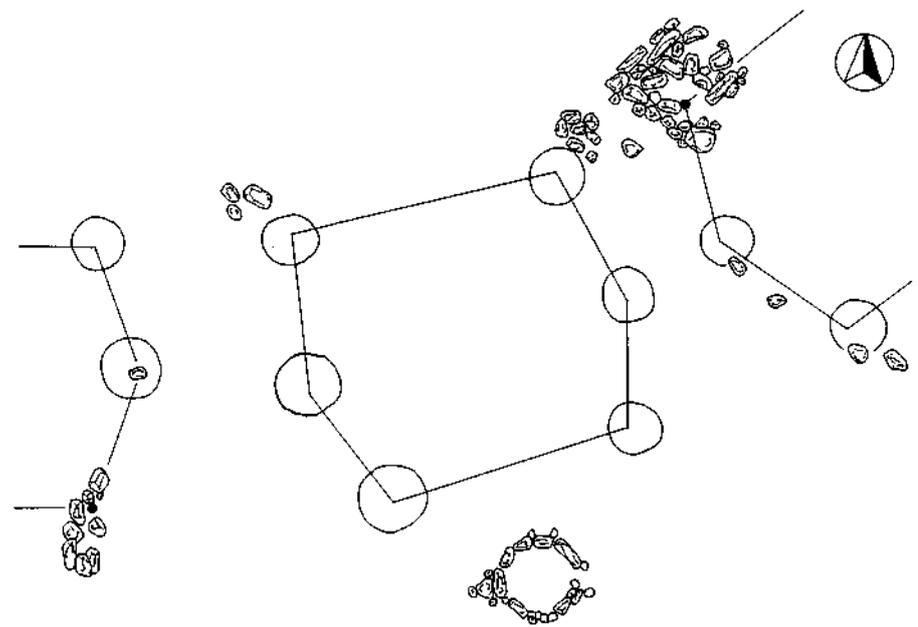
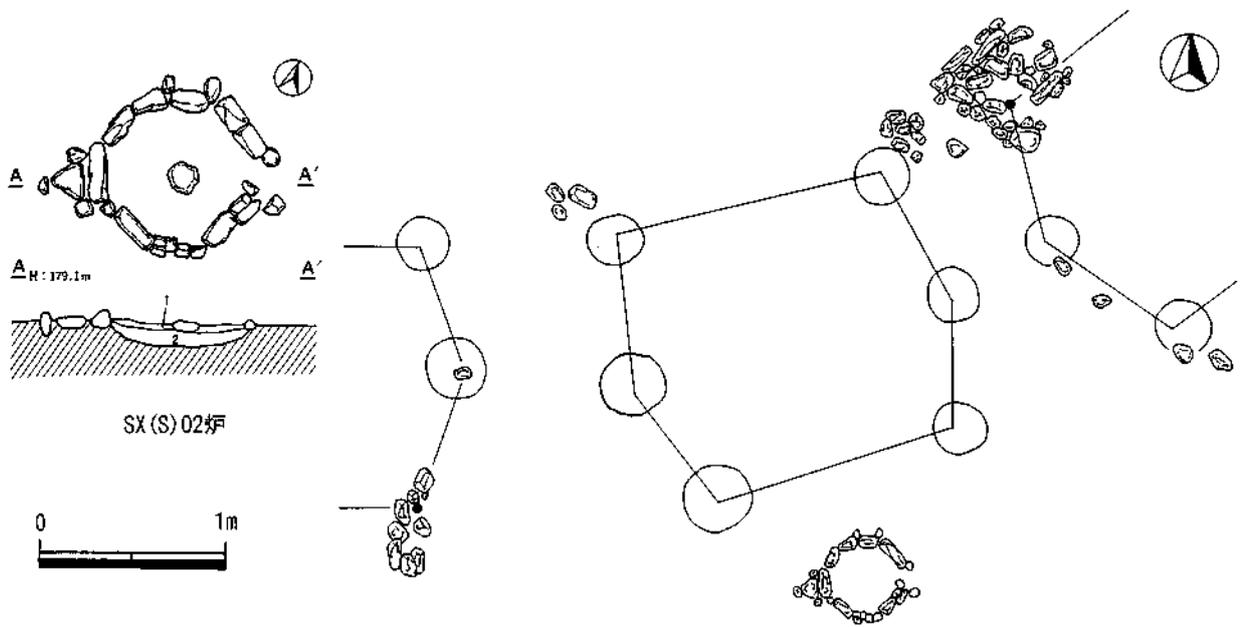


SX(S) 411

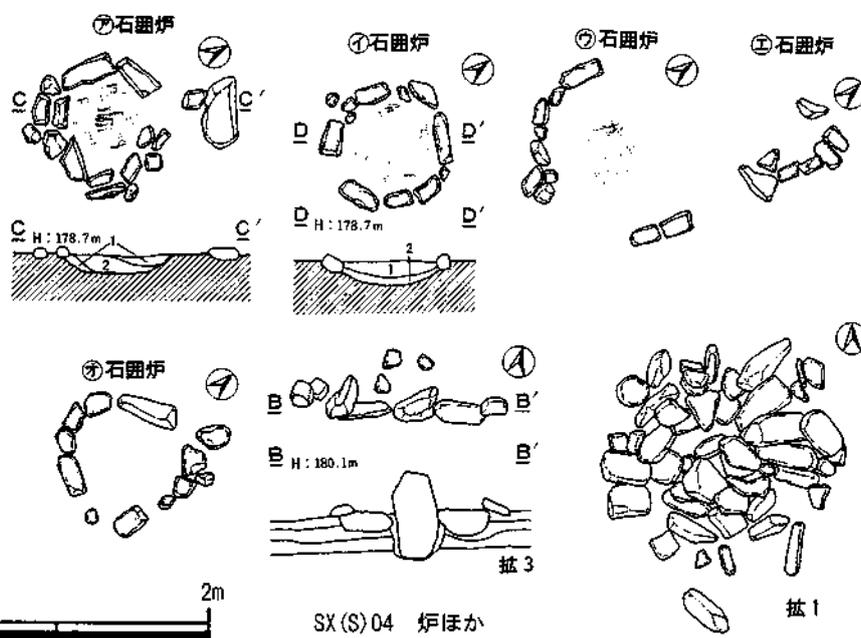
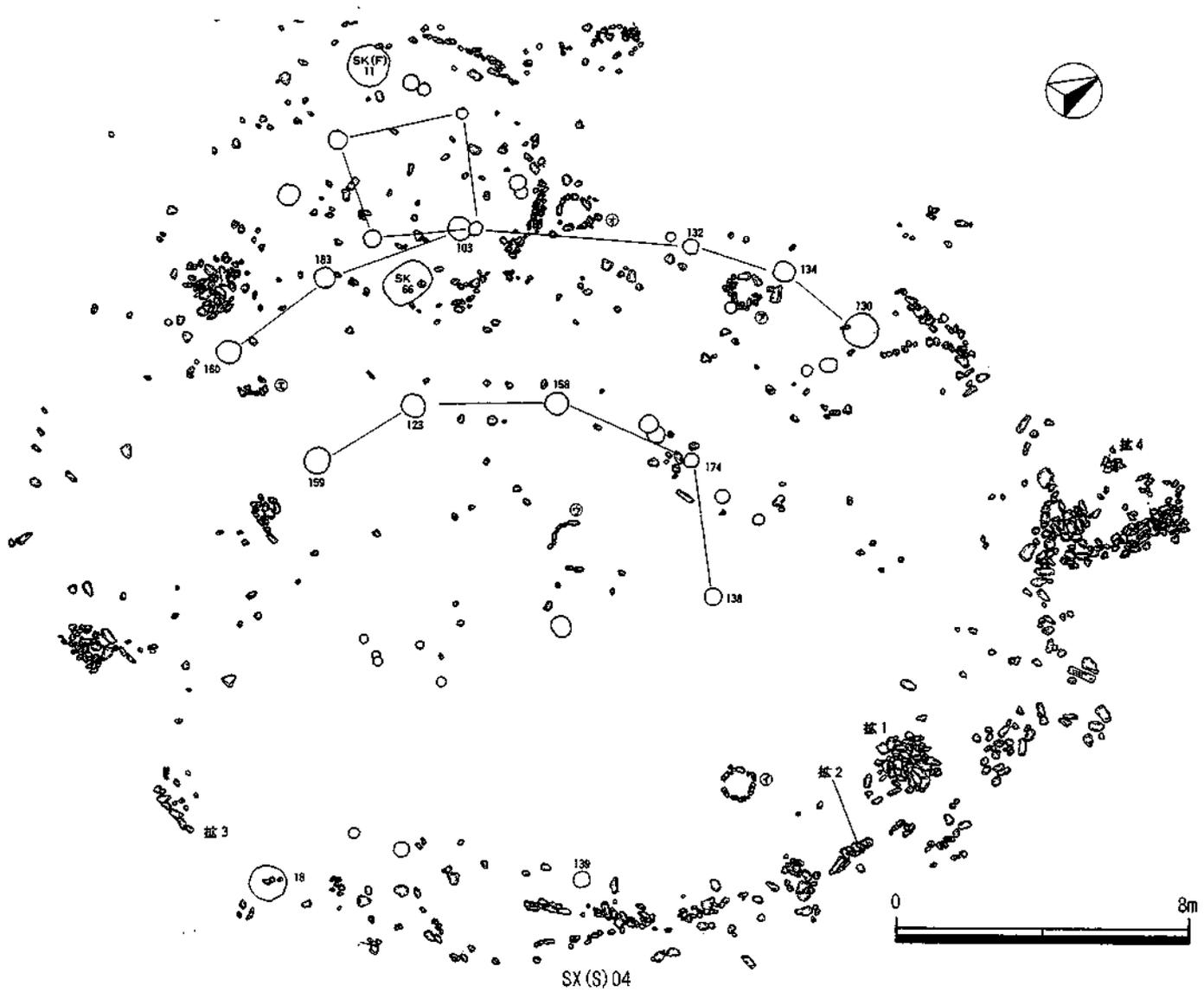


SX(S) 01

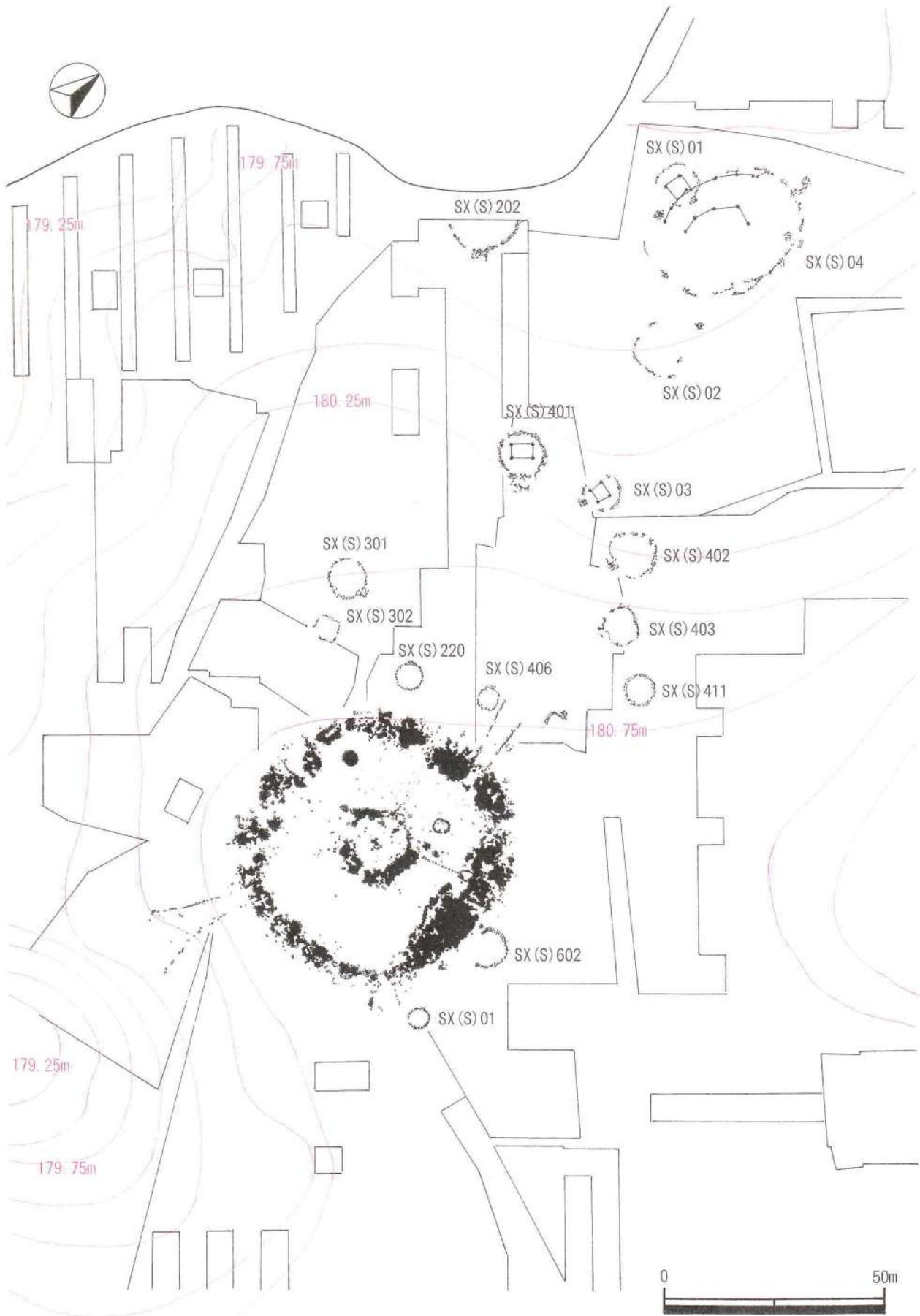




第26図 環状配石遺構実測図(5)



第27図 環状配石遺構実測図(6)



第28図 環状配石遺構・方形配石遺構分布図

第17表 梁状配石遺構 (万座隣接地区)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド 検出面	検出面	環帯部・環帯 張出部規模(cm) 張出部方位	焼土・炉・柱穴の確認まで至っていない。 柱穴の径×深さ×柱痕	石材	出土遺物 (点)	重複関係 その他特記事項	時期
1	SX(S)220 (報文4)	D1区 ZV・ZW -90-91	IIIb層	環帯 幅 540× 帯幅 張出 140×90 北西側 方位	焼土、炉、柱穴の確認まで至っていない。	石英閃緑斑岩 石英安山岩	土器片 極器、磨製石斧、石皿 凹石、磨石、棘石、各1 石鏝4	SB210~212→SX(S)220 SX(0)222→SX(S)220	後期前葉 ~中葉
2	SX(S)801 (報文10)	D3区 YA~ZZ -87-89	IIIc層	環帯 740× 帯幅 40~52 張出 240×160 南西側 方位	地床炉 1ヶ所 112×76 柱穴の確認まで至っていない。	石英閃緑斑岩 石英安山岩 安山岩 凝灰岩	土器片 57 石鏝 1 極器 2 土製品 2	SK(F)364・365A→SX(S)901	
3	SX(S)602 (報文11)	D6区 ZL-92-93 ZM-92-94	IIIc層	環帯 756× 帯幅 50 張出 方位	石田炉 1基 80× 調査時に削除 柱穴の確認まで至っていない。	石英閃緑斑岩 石英安山岩 泥岩 綠色凝灰岩 安山岩		SB615→SX(S)602 SB613-617	後期中葉
4	SX(S)01 (報文11、12)	D6区・D7区 ZJ・ZM -91-92	IIIc層	環帯 460× 帯幅 40 張出 方位	焼土、炉、柱穴の確認まで至っていない。	石英閃緑斑岩 石英安山岩 綠色凝灰岩 安山岩		SK69-90-94→SX(S)01	後期中葉

第18表 環状配石遺構 (万座北側地区1)

No	遺構名 (報文No)	調査区 グリッド 検出面	検出面	環状部・環帯 張出部規模(cm) 張出部方位	焼土・炉・柱穴の確認まで至っていない。 柱穴No・径×深さ×柱数	石材	出土遺物 (点)	重複関係 その他特記事項	時期
1	SX(S)202 (報文4)	D1区 YM-92-94	IIIb層	環帯 1400× 帯幅 70-120 張出 360×260 方位	焼土、炉、柱穴の確認まで至っていない。	石英閃緑斑岩 流紋岩 石英安山岩 凝灰岩	石織1	SB201・SX(0212)→SX(S)201 SX(S)226・SX(O)202	後期前葉 ~中期
2	SX(S)401 旧SX(S)207 (報文 4, 10, 13)	D1区・D4区 YC-YF -93-95	IIIb層	環帯 880×880 帯幅 76 張出 480×2240 方位	地味炉 3カ所 33×32・76×48・124×122 柱穴 Ph(1)145×(208)×55 Ph(2)190×(125)×63 Ph(3)180×(206)×60 Ph(4)180×(215)×40	石英閃緑斑岩 石英安山岩 凝灰岩	土器片5 土製品1	SK→SX(S)401	後期前葉 ~中葉
3	SX(S)402 旧SX(S)909 (報文9, 10)	D4区・D5区 YB-ZZ -97-98	IIId層	環帯 880× 帯幅 32-56 張出 260×180 方位	地味炉 2カ所 40×56・156×140 柱穴の確認まで至っていない。	石英閃緑斑岩 流紋岩 石英安山岩 凝灰岩	土器片31 土俵脚・筋各1 環状土製品、土製品 磨製石斧・播磨各1		
4	SX(S)403 旧SX(S)910 (報文9, 10)	D4区・D5区 ZY-ZX -97-98	IIId層	環帯 720×680 帯幅 40-52 張出 240×180 方位	地味炉 2カ所 84×76・104×100 柱穴の確認まで至っていない。	石英閃緑斑岩 石英安山岩 泥質凝灰岩 緑色凝灰岩	土器片321 播磨2 土製品2		後期前葉 ~中葉
5	SX(S)411 (報文10)	D4区 ZW-ZV -98-99	IIId層	環帯 340× 帯幅 46 張出 方位	地味炉 1カ所 柱穴 3個 柱穴の確認まで至っていない。	1~5cm大の円礫			

第19表 環状配石遺構 (万座北側地区2)

No.	遺構名 (編文No)	調査区 グリッド 検出面	検出面	環状部・環帯 張出部規模(cm) 張出部方位	地床炉・柱穴規模(cm) 柱穴No.径×深さ×柱痕	石材	出土遺物 (点)	調査関係 その他特記事項	時期
6	SX(S)3 (編文10,13)	D4区-F4区 YC・YD -96-98	IIIc層	環帯 670× 帯幅 30 張出 380×180 南側 方位	地床炉 1カ所 50× 柱穴 Pt1151 52×67× Pt1152 45×66× Pt1153 46×69× Pt1154 83×92×	石英閃緑玢岩 石英安山岩 安山岩 凝灰岩 礫			
7	SX(S)01 (編文13)	F4区 YN・YO -99-100	IIIb層	環帯 750× 帯幅 30 張出 200×80 東側 方位	地床面 1カ所 118×80 柱穴 Pt1195 52×111× Pt1111 29×75× Pt1114 36×108× Pt1182 50× ×	石英閃緑玢岩 凝灰岩 チャート石		SX(S)04-SX(S)01 SK(F)11,SK66-SX(S)01	後期中葉
8	SX(S)02 (編文13)	F4区 YH・YI -99-100	IIIb層	環帯 660× 帯幅 25 張出 85×75 東側 方位	石囲炉 1カ所 径110 (特徴あり) 柱穴の確認まで至っていない。	石英閃緑玢岩 石英安山岩			

第20表 環状配石遺構（万座北側地区3）

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド 換出面	検出面	環状部・環帯 張出部規模(cm) 張出部方位	環帯 張出 方位	環内に配石遺構 1 基を持つ	環土・炉・柱穴規模(cm) 柱穴No.径×深さ×柱痕	石材	出土遺物 (点)	重複関係 その他特記事項	時期
9	SX(S)04 (報文 13)	P4区 YK・YO —99-105	IIIc 下層	環帯 2800×2000 張出部方位	環帯 張出 方位	環内に配石遺構 1 基を持つ	柱穴(外側) Pit103 68×120× Pit130 100×110× Pit132 43×82× Pit134 60×75× Pit160 69×130× Pit183 60× × 柱穴(内側) Pit123 73×103× Pit188 45×100× Pit168 68×88× Pit169 75×125× Pit174 38×75×	石英閃緑岩 石英安山岩 泥質凝灰岩 凝灰質泥岩 砂質凝灰岩 緑色凝灰岩 角礫岩 安山岩 火山礫凝灰岩 石英粗面岩		SB12—SX(S)04—SX(S)01 SK71・74—SX(S)04 ※遺構内より 5 基の石面戸が検 出されている。 石面戸 5 基 ア 112× イ 100×97 ウ 148× エ × オ 110×110	後期中葉

(2) 方形配石遺構 (第29図、第21表)

4基の方形配石遺構が検出されている。

【ア. 形態】

平面形態及び構築材の配置の仕方によって2つに分類される。

I類：遺構の輪郭を造る石の帯が複列並べのもの。使用される石材はII類と比較し小ぶりのものが多い。

II類：石の帯が単列並べのもの。使用される石材は細長のものが多い。

万座隣接地

3基が確認されている。第408号方形配石遺構はI類、第302号・406号方形配石遺構はII類である。なお、方形配石遺構に形態が類似していることから第408号配石遺構を本類に含めた。北西側に張り出し施設と南帯に接して石囲炉、遺構中央に地床炉があるが、共伴するのかは不明である。

野中堂隣接地

第01号方形配石遺構1基が確認されている。形態はII類である。

【イ. 規模】

最大のものは第302号方形配石遺構の長軸4.40m×短軸4.30m、最小は第01号方形配石遺構の長軸3.5mである。環状配石遺構と比較し、極めて小ぶりである。

万座隣接地

長軸・短軸とも4.40mを超えるものはない。第302号方形配石遺構が最も大きな面積を持っている。

野中堂隣接地

万座隣接地のものと比較し、小型である。

【ウ. 確認面と構築面】

万座隣接地

本遺構は基本層序IIIb層において確認され、IIIc層に構築される。

野中堂隣接地

本遺構はIIIb層において確認され、IIIc層に構築される。

【エ. 堆積状況】

万座隣接地

確認状況が平面的なものであることから基本的にIIIb層、IIIa層が遺構全体を覆っている。

野中堂隣接地

確認状況が平面的なものであることから基本的にIIIb層、IIIa層が遺構全体を覆っている。

【オ. 出土遺物】

確認状況が平面的な遺構であるため、遺構に伴った遺物であるのか見極めが難しい。

万座隣接地

遺構内から土器片、搔器、土製品、石冠、敲石が出土している。また周辺からは後期前葉から中葉の特徴的な文様をもった土器片が出土している。

野中堂隣接地

遺構本体からの出土遺物は出土していないが、周辺からは後期前葉から中葉の特徴的な文様をもった土器片が出土している。

【カ. 重複関係】

確認された遺構すべてが列石隣接地に構築されているが、重複関係は極めて少ない。

万座隣接地

フラスコ状土坑 SX(F)428重複関係不明

野中堂隣接地

掘立柱建物跡 SB02→SX(S)01

【キ. 時期】

万座隣接地

遺構の構築時期を直接知ることができる遺物は少ない。構築材は基本層序第Ⅲc層上面に置かれていること、周辺からの出土遺物から構築時期は後期中葉と考えられる。

野中堂隣接地

遺構の構築時期を直接知ることができる遺物は少ない。構築材は基本層序第Ⅲc層上面に置かれていること、周辺からの出土遺物から構築時期は後期中葉と考えられる。

【ク. 分布】

いずれも列石隣接地に構築され、環状配石遺構のような広がりを示さない。

万座隣接地

第406号方形配石遺構は、万座外帯に接するような位置に構築されている。本地区で確認された3基すべては同列石の北側～北西側、列石に隣接して確認している。

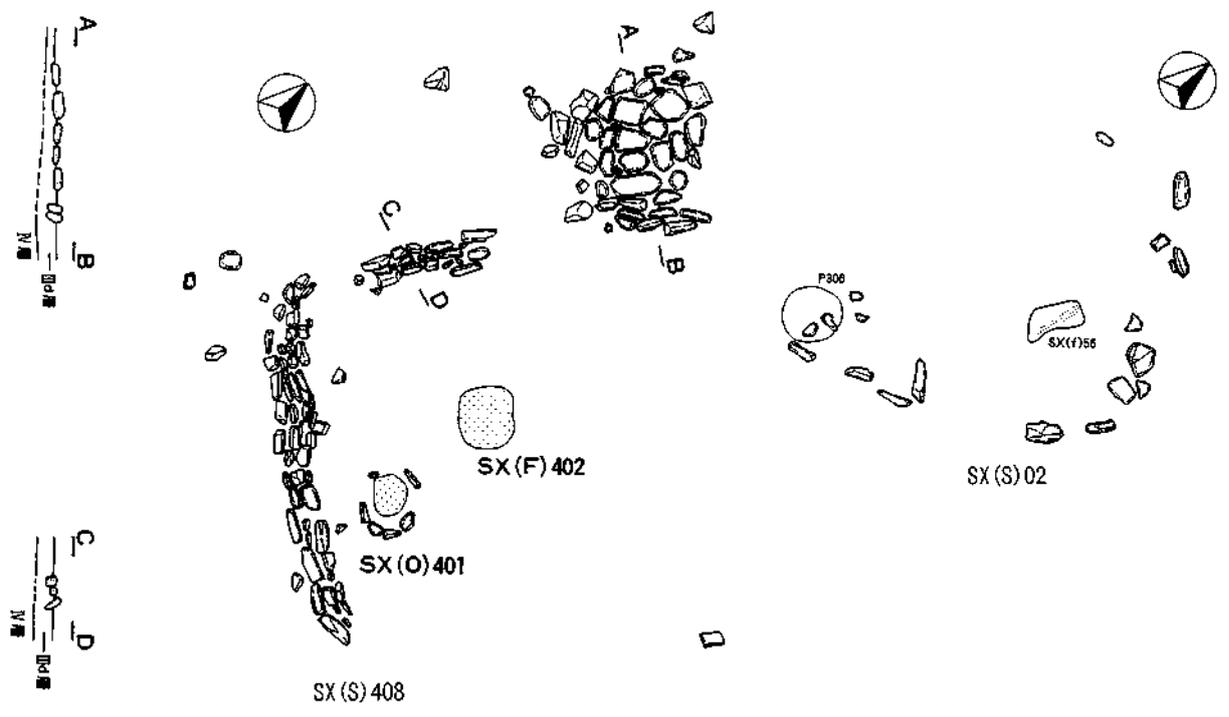
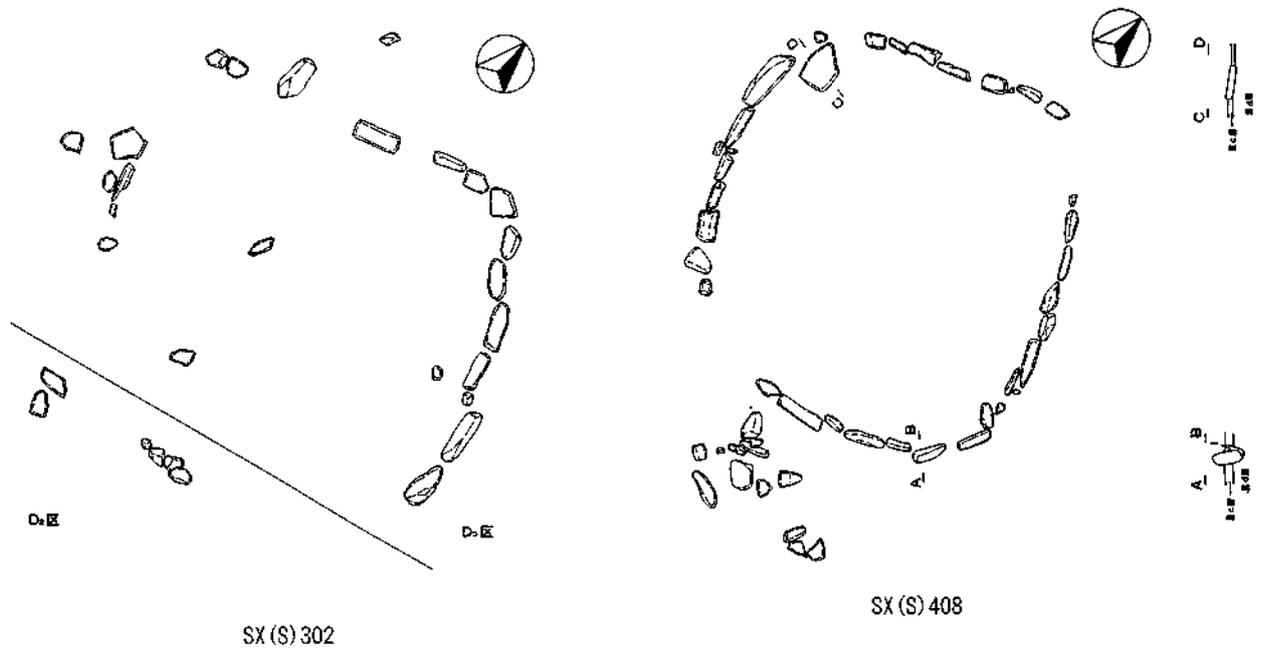
・野中堂隣接地

野中堂環状列石の西側外帯より約10mの位置に分布している。同列石東側については遺跡保存から面的な調査を行っておらず、分布状況については不明である。

【ケ. 性格】

後期中葉に構築されたもので、環状列石より後出するものである。遺構の性格を直接知りうる資料に乏しい。

平面形態では環状配石遺構と趣を異にするが、場を区画するために石を使用すること、石の並べ方に共通性がみられる。



第21表 方形配石遺構 (万座隣接地)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド 検出面	検出面	規模(cm)	焼土・炉・柱穴規模(cm) 柱穴No.径×深さ×柱痕	石材	出土遺物 (点)	重複関係	時期
1	SX(S)302 (報文10)	D3区 ZY~ZX-87	IIIa層	4.4×4.3		石英閃緑斑岩 石英安山岩	石鏃1 搔器7		
2	SX(S)406 (報文10)	D4区 ZV~ZU --93-94	IIIa層	4.2×3.9 遺構南側に十数個の川原石 が存在するが、張出部になる か半断が見つからない。		石英閃緑斑岩 石英安山岩 安山岩 緑色凝灰岩	土器片32 搔器1 土製品1 石冠1	SK(P)428	
3	SX(S)408 (報文10)	D4区 ZV~ZT --93-94	IIIa層	3.6×2.2 石帯は3列並べ	北西側に張り出し施設 遺構内に石囲炉、地床炉	石英閃緑斑岩ほか	土器片7 磁石1		

方形配石遺構 (野中堂隣接地)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド 検出面	検出面	規模(cm)	焼土・炉・柱穴規模(cm) 柱穴No.径×深さ×柱痕	石材	出土遺物 (点)	重複関係	時期
1	SX(S)01 (報文17)	B2区 J-88	IIIb層	3.5×		石英閃緑斑岩		SXB02→SX(S)01 SX(P)56	

(3) 配石遺構 (第30～53図、第22～30表)

これまでに92基の配石遺構が確認されている。

【ア. 形態】

・形態分類

第3次発掘調査報告書において一本木後口地区で確認された配石遺構について形態分類を行った。大別すると立石、平石で構築されるものであることから下記のように形態分類を行った。

I 類： 縁辺部に立石を巡らすもので、内・外部構造から4つに細分される。

I a 縁辺部形態が楕円形を呈し、その内部に平石を数個置いたもの。

I b 形態が楕円形を呈し、その内部中央に立石を立て、その隙間に平石を置くもの。

I c 形態が円形を呈し、その内部に数個～十数個の平石を積み、さらにその縁辺部外側に石を環状に巡らすもの。

I d 下部土坑の四方に立石を立て、その内部に平石を数個置き、さらにその縁辺部に内部を覆うように斜めに立石を巡らすもの。

II 類 立石のみで配石が作られるもので、3つに細分される。

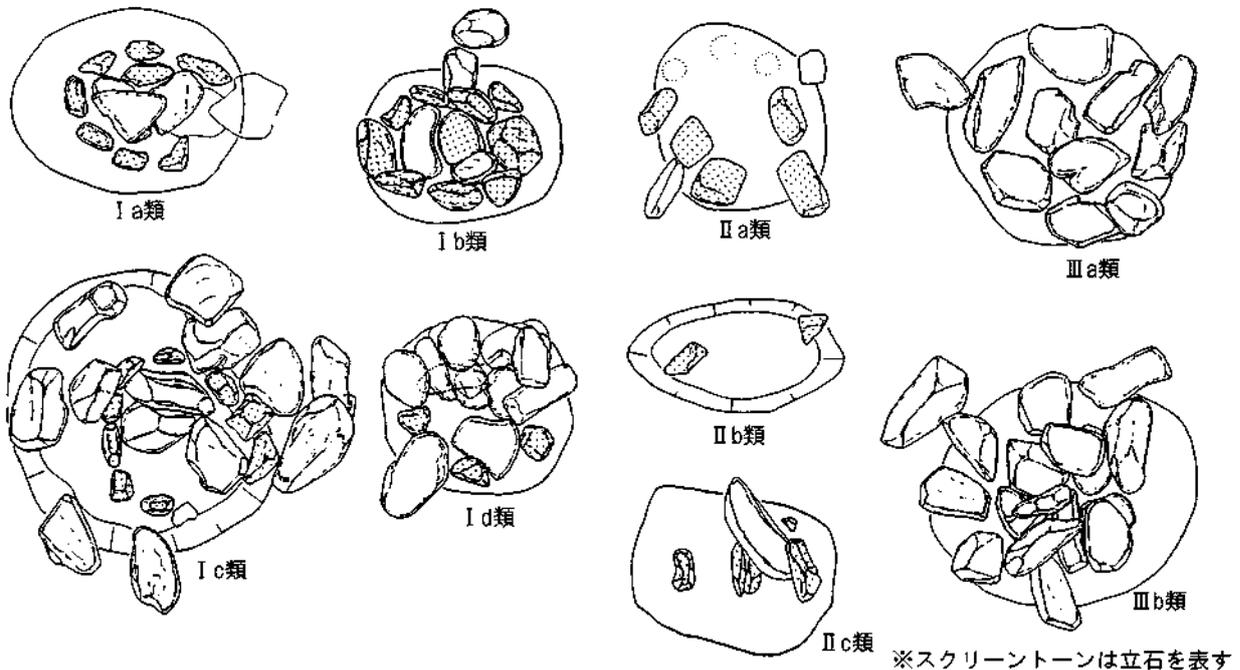
II a 縁辺部に立石を楕円形に巡らすもの(この類は、一本木後口地区第40号配石が該当する。しかし I a 類の破壊過程のなかでこのような形態を作る可能性もある)。

II b 配石下土坑の長軸両端に一对の立石を立てるもの。

II c 配石下土坑の長軸両端に一对の立石を立て、そのほぼ中間(土坑中央部)に数個の小さな石を立てるもの。

III 類 配石縁辺部に平石を巡らせるもので、2つに細分される。

III a 石の長軸を連結させ、円形に一巡させるもので、その内部に石が雑然と積まれるもの。



第30図 配石遺構形態分類図

Ⅲb 石の長軸を中心に向け、所謂放射状に置き、その内部には石が雑然と積まれるもの。

なお、本項ではこの分類をもとに記述を進めていく。『大湯町環状列石』において行われた組石遺構の分類との比較は次のとおりであるが、対応しない配石遺構の形態も存在する。

第22表 配石遺構形態比較表

国 営	A1類	A2類	A3類	A4類	A5類	B1類	B2類	C1類	C2類	C3類
市教委						(I d類)		(I b類)		
国 営	E1類	E2類	E3類	G類	H類	J1類	J2類	K類	()書きは類似タイプ	
市教委	I a類				I c類	(Ⅲa類)				

万座隣接地

本地区の配石形態の構成は次のとおりである。

I 類：1基、Ⅲ類：2基、形態不明7基 計10基

原型を留めていないものが多い。第605号配石遺構は環状配石遺構の張り出し部に類似している。

万座北側地区

本地区の配石形態の構成は次のとおりである。

Ⅱb類：1基、Ⅱ類：1基、
Ⅲa類：4基、Ⅲb類：1基、Ⅲ類：9基、形態不明：9基 計25基

圧倒的にⅢ類が占める割合が高く、I 類は全くみられない。第5号～8号配石遺構は細長石を平面的に並べており、近隣する環状配石遺構の張り出し施設の構造と非常に似ている。

万座南側地区

本地区の配石形態の構成は次のとおりである。

I a類：2基、Ⅲ 類：1基、日時計状：1基、形態不明：3基 計7基

数量的に少なく、集約傾向を把握できないが、配石遺構下より確認された土坑形態より形態不明としたものはI 類と考えられる。

野中堂南側地区

本地区の配石形態の構成は次のとおりである。

I d類：1基、形態不明2基 小計3基

崩壊が著しく、検出された数量も少なく、全体を把握できない。

一本木後口地区

本地区の配石形態の構成は次のとおりである。

I a類：9基、I b類：2基、I c類：3基、I d類：1基、I 類：5基 小計20基

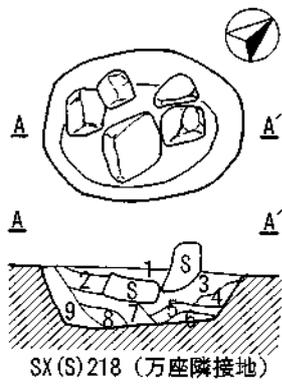
Ⅱa類：1基、Ⅱb類：1基、Ⅱc類：1基、 小計 3基

Ⅲa類：4基、Ⅲb類：1基 Ⅲ類：10基 小計15基

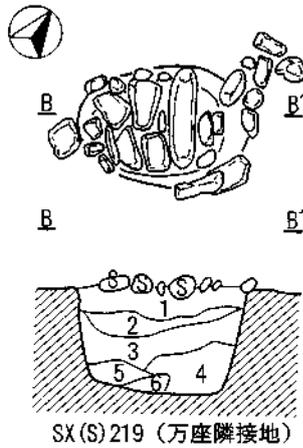
形態不明：6基 小計6基

44基のうち、I 類が最も多く、これにⅢ類が続く。

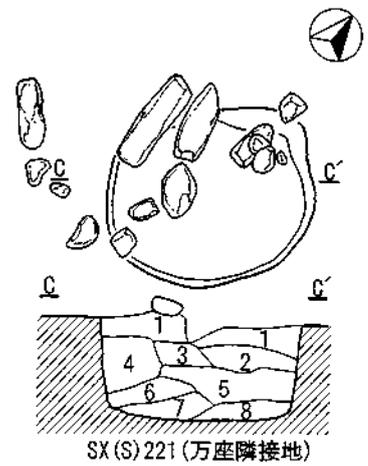
【イ. 規 模】



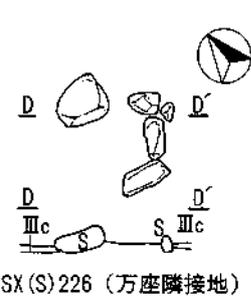
SX(S) 218 (万座隣接地)



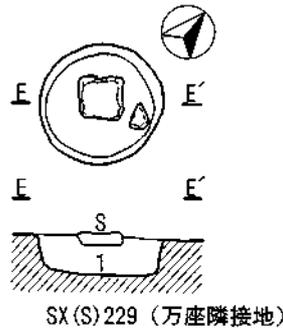
SX(S) 219 (万座隣接地)



SX(S) 221 (万座隣接地)



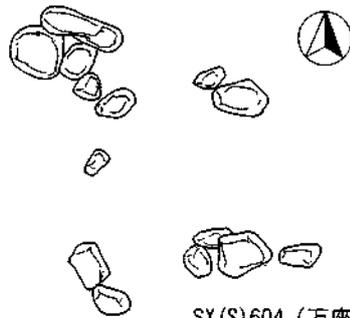
SX(S) 226 (万座隣接地)



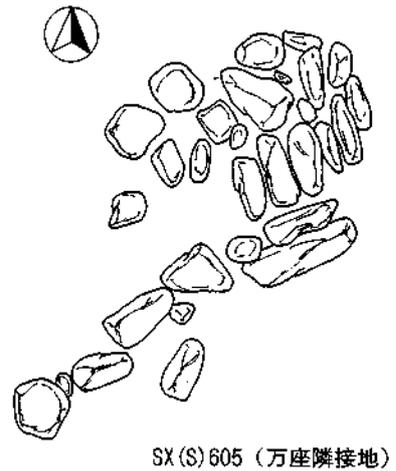
SX(S) 229 (万座隣接地)



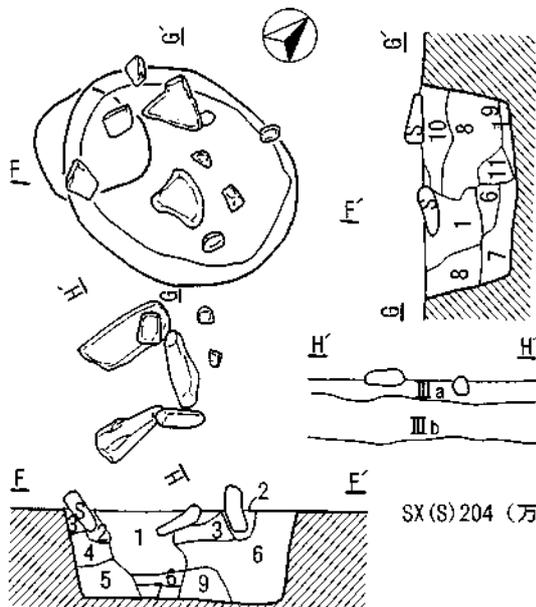
SX(S) 303 (万座隣接地)



SX(S) 604 (万座隣接地)



SX(S) 605 (万座隣接地)



SX(S) 204 (万座隣接地)

SX(S) 218

1. にぶい黄褐色土 (10YR4/3)
2. 褐色土 (10YR3/3)
3. 黒褐色土 (10YR2/2) 地山粒若干含む
4. 黒褐色土 (7.5YR3/2) 地山粒若干含む
5. 黒色土 (10YR3/2) 地山粒若干含む
6. 黒褐色土 (10YR3/2) 地山粒~小ブロックを多量に含む
7. 黒褐色土 (10YR2/2) 地山粒やや多く含む
8. 黒色土 (10YR2/1) 地山粒やや多く含む
9. 黒褐色土 (10YR2/3) 地山粒やや多く含む

SX(S) 219

1. 黒色土 (10YR2/1)
2. 黒色土 (10YR1.7/1)
3. 黒色土 (10YR1.7/1) 地山粒若干含む
4. 黒色土 (10YR1.7/1) 暗褐色土を含む
5. 黒色土 (10YR2/1) 地山粒を多く含む
6. 明黄褐色土 (10YR6/8) 黒色土を含む

SX(S) 221

1. 黒色土 (7.5YR2/1)
2. 黒色土 (10YR1.7/1)
3. 黒褐色土 (10YR2/2) 地山粒少量混入
4. 黒褐色土 (10YR2/2)
5. 黒色土 (10YR2/1)
6. 黒色土 (10YR1.7/1)
7. 黒色土 (10YR2/1)
8. 黒褐色土 (10YR2/2) 地山粒~小ブロックを少量含む

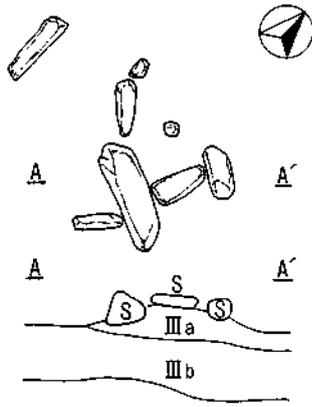
SX(S) 229

1. 黒褐色土 (10YR2/2) 地山粒、炭化粒を少量混入

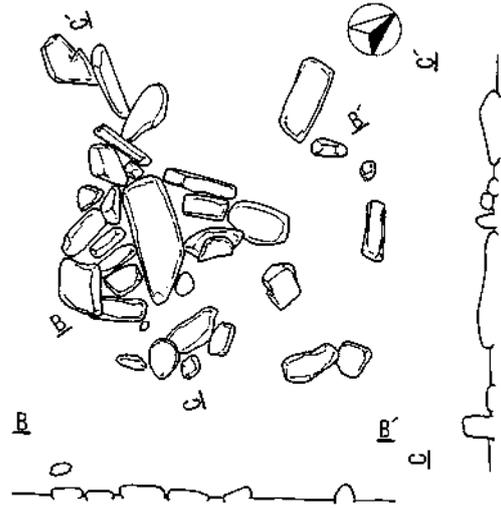
SX(S) 204

1. 黒色土 (10YR1.7/1) 攪乱層
2. 黒色土 (10YR2/1)
3. 黒色土 (10YR1.7/1)
4. 暗褐色土 (10YR3/3) 地山粒、黒色土を含む
5. 黒色土 (10YR1.7/1)
6. 黒色土 (10YR2/1)
7. 黒褐色土 (10YR2/2)
8. 黒色土 (10YR1.7/1)
9. 黒色土 (10YR2/1)

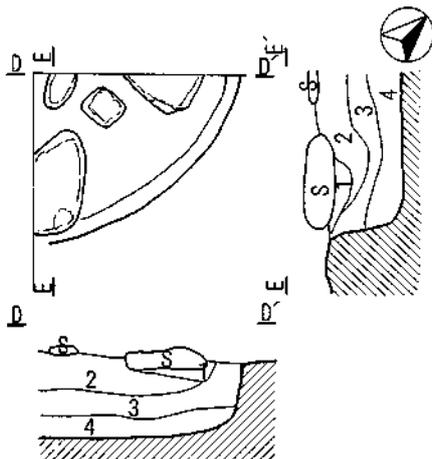




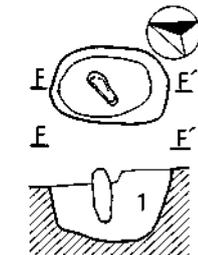
SX(S) 205 (万座北側)



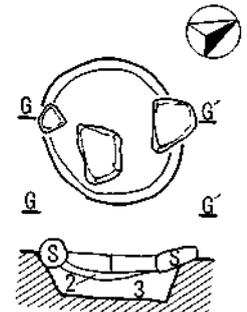
SX(S) 206 (万座北側)



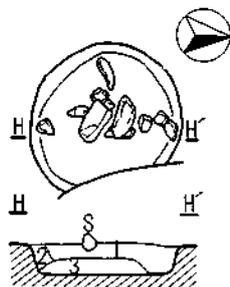
SX(S) 213 (万座北側)



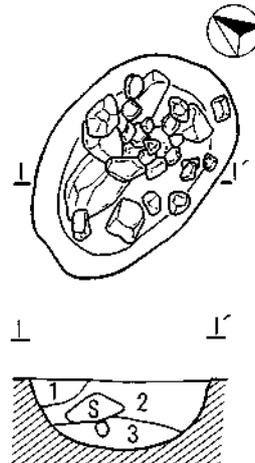
SX(S) 403 (万座北側)



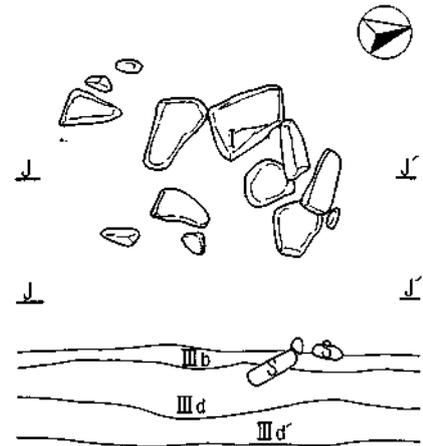
SX(S) 404 (万座北側)



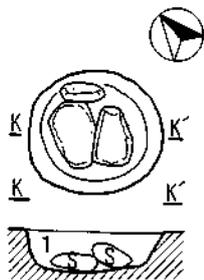
SX(S) 407 (万座北側)



SX(S) 409 (万座北側)



SX(S) 901 (万座北側)



SX(S) 408 (万座北側)

- SX(S) 213
 1. 黒褐色土 (7. 5YR3/1)
 2. 黒色土 (7. 5YR2/1)
 3. 黒色土 (7. 5YR2/1) 隙、炭化物混入
 4. 黒色土 (7. 5YR2/1) 地山粒混入

- SX(S) 403
 1. 黒色土 (10YR2/1)

- SX(S) 404
 1. 黒色土 (10YR2/1)
 2. 黒色土 (10YR2/1) 灰白色粘土を混入
 3. 黒色土 (10YR1. 7/1)

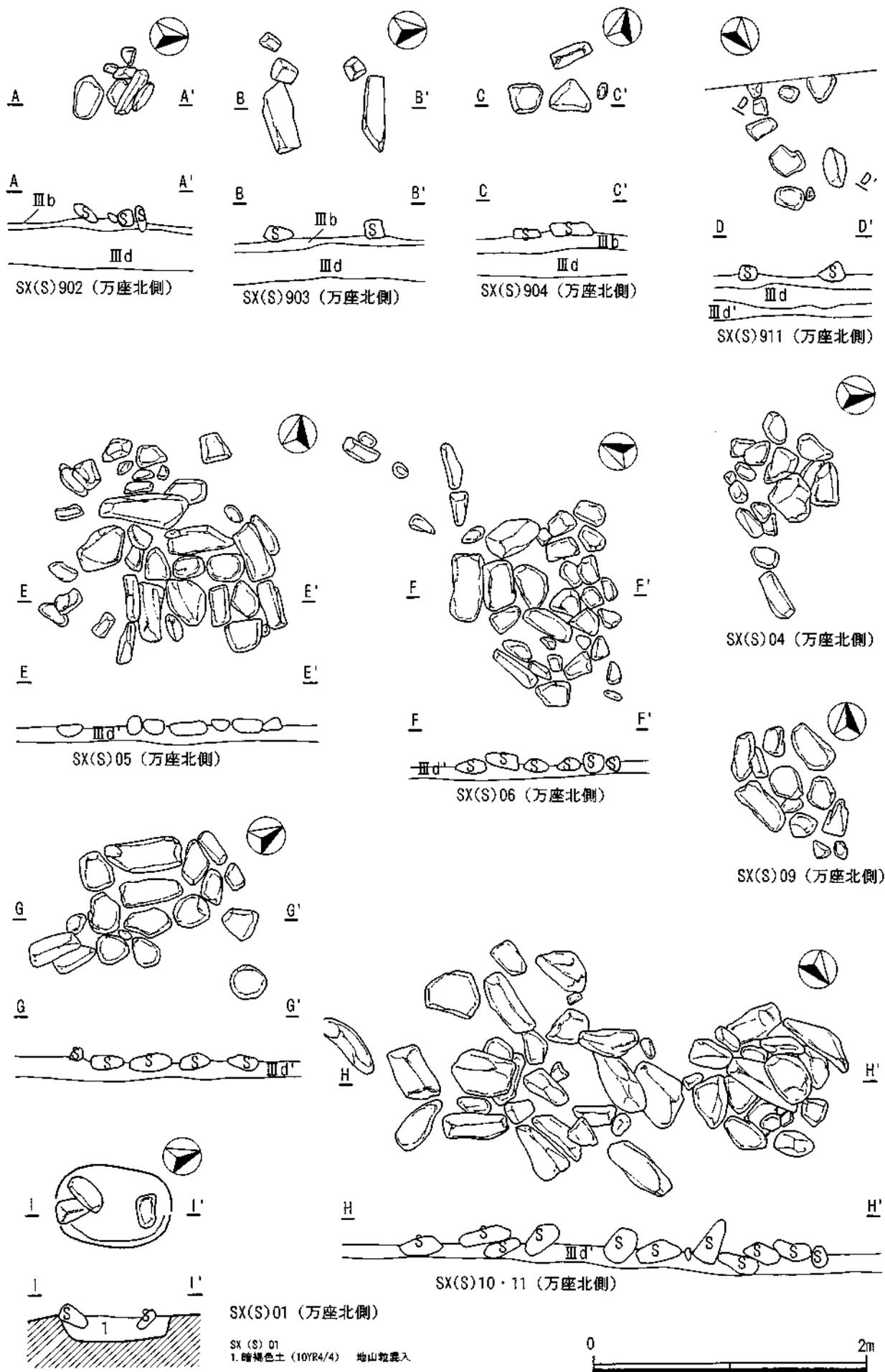
- SX(S) 407
 1. 黒色土 (10YR2/1)
 2. 黒色土 (7. 5YR2/1)
 3. 黒褐色土 (10YR2/2)

- SX(S) 408
 1. 黒褐色土 (10YR2/2)

- SX(S) 409
 1. 黒色土 (10YR2/1)
 2. 黒褐色土 (7. 5YR2/2)
 3. 黒褐色土 (10YR2/2)

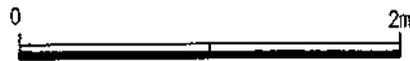


第32図 配石遺構実測図 (2)

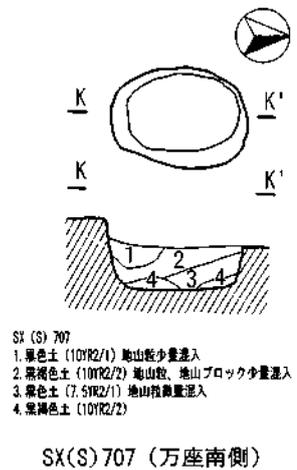
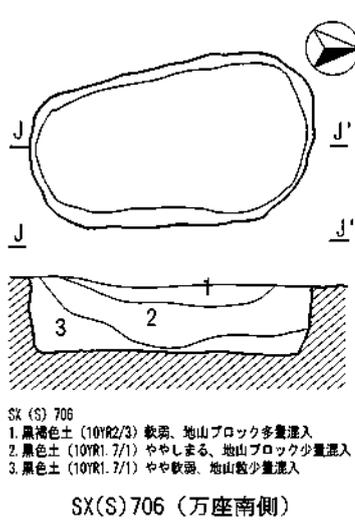
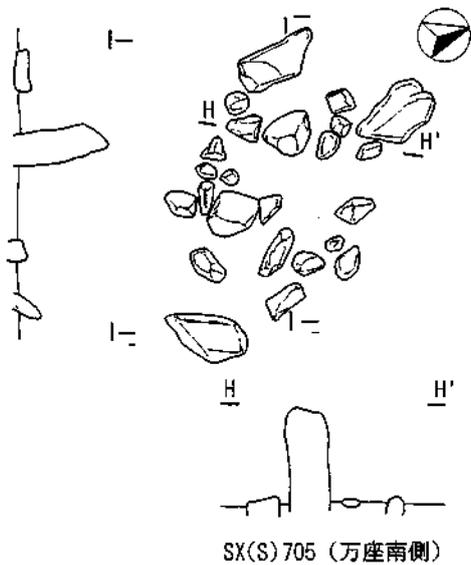
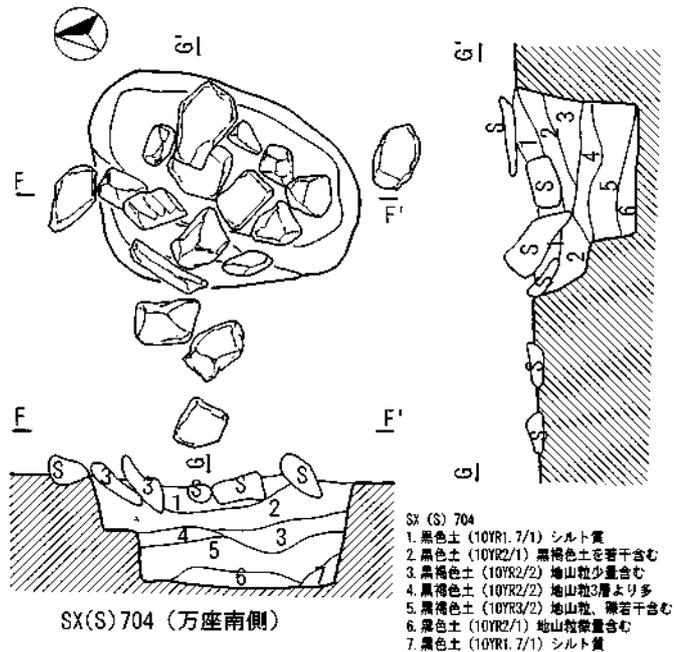
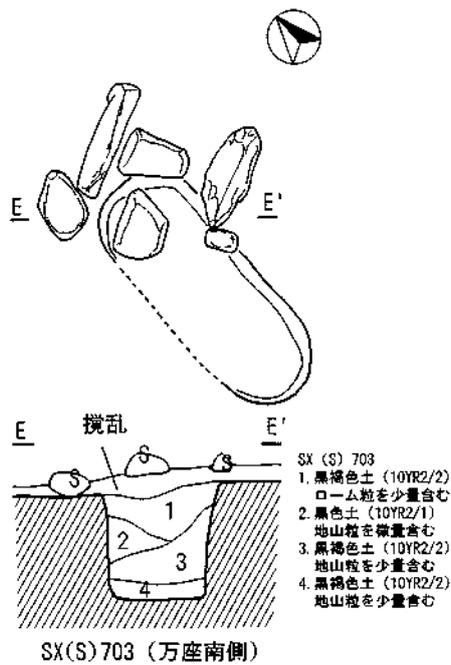
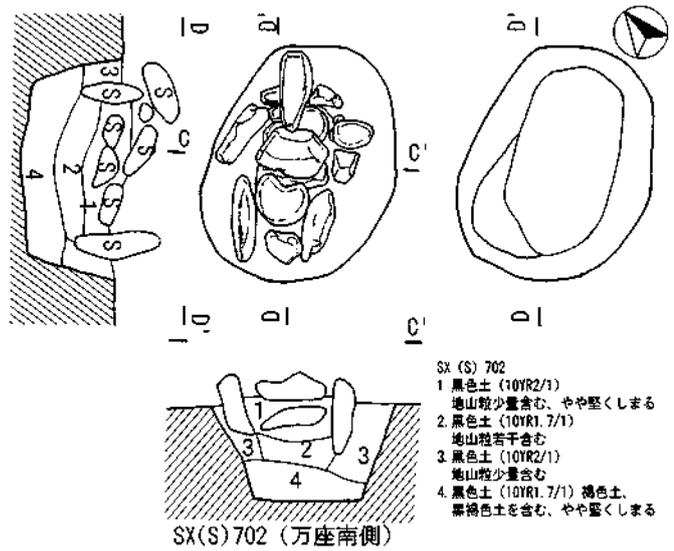
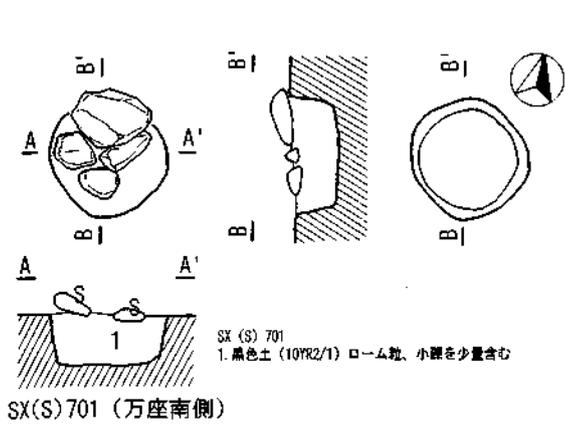


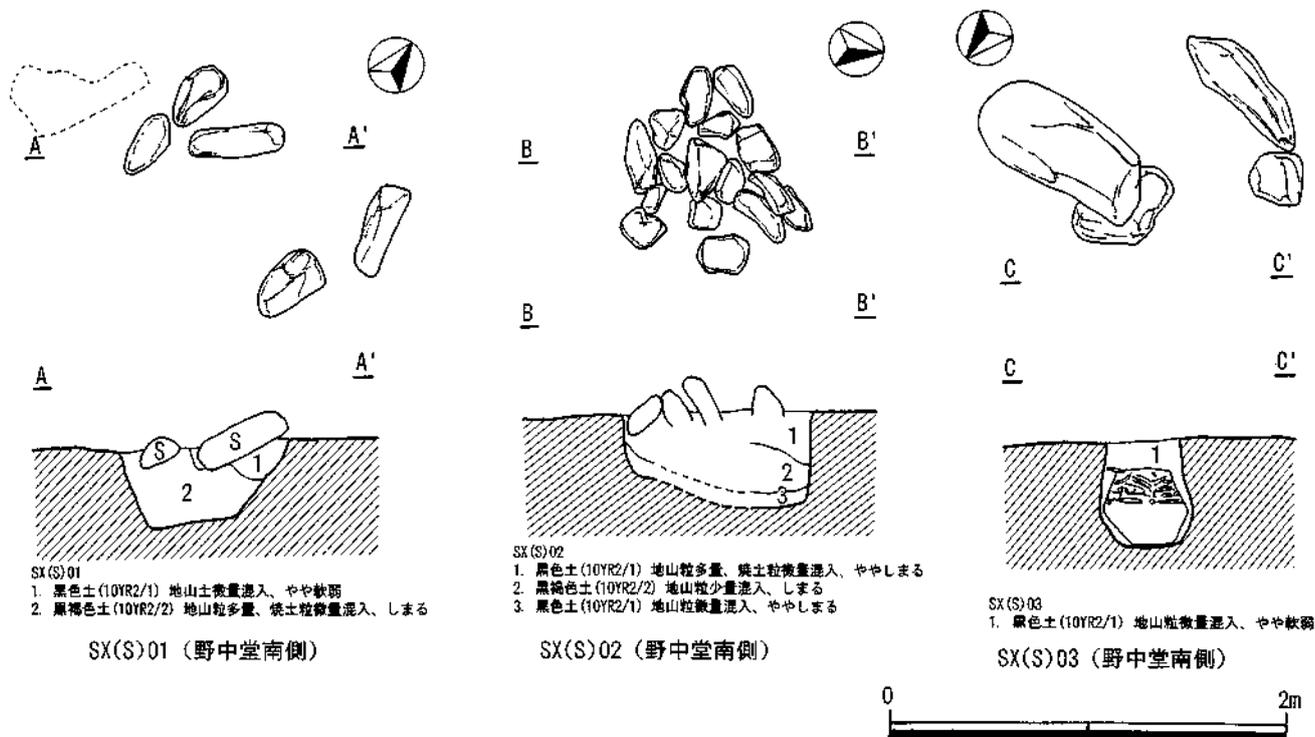
SX(S)01 (万座北側)

SX(S)01
1. 暗褐色土 (10YR4/4) 地山粒混入



第33図 配石遺構実測図 (3)





第35図 配石遺構実測図(5)

・配石遺構

配石遺構下に土坑をもつものは、その土坑の規模とほぼ一致する。最も規模の大きいものは一本木後口地区の第14号配石遺構である。配石縁辺部に15個の立石を円形に一巡させ、その内部に12個の扁平な石を積み重ね、この中央に球状の石を配したもので、さらにこれを囲むように石の長軸を連結して並べた直径約350cmのサークルが付随している。

なお、個々の配石遺構の規模については第24表～31表に記載している。

・土坑

配石下部の遺構の有無を確認するため、その調査を行っている。土坑を有するもの88基のうち68基であり、その平面形は円形又は楕円形を呈し、上部配石と類似した形態を持っている。

配石下で確認された土坑の中で最も規模が大きいものは一本木後口地区の第17号配石遺構、最も小さいものは野中堂南側地区の第03号配石遺構である。

万座隣接地

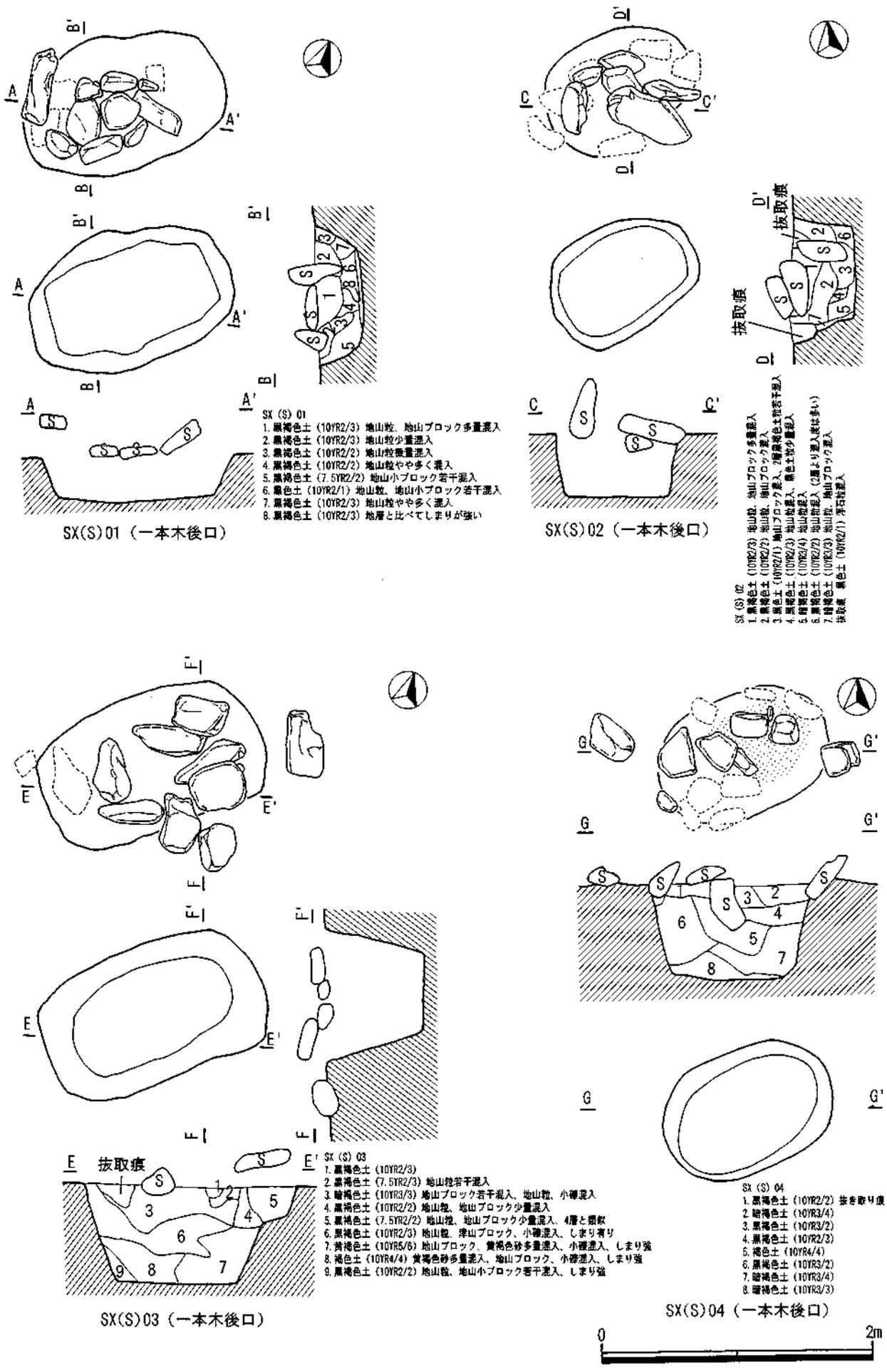
配石下に土坑を持つものが5基、持たないものが4基存在する。確認された土坑は楕円形が多い。下部に土坑を持たないものは皿類又は形態不明のものである。

土坑の規模が最も大きいものは第221号配石遺構、小さいものは第229号配石遺構である。底面積規模としては約2.3倍の開きがある。

万座北側地区

下部に土坑を持つのは10基、持たないものが15基である。万座隣接地と同様に土坑を持たないものは皿類に多くみられるほか、環状配石遺構の張り出し施設と類似した形態のものには土坑が伴うものはない。

土坑の平面形は楕円形4基、円形3基、隅丸方形1基である。この中で最も大きいものは第204号配石



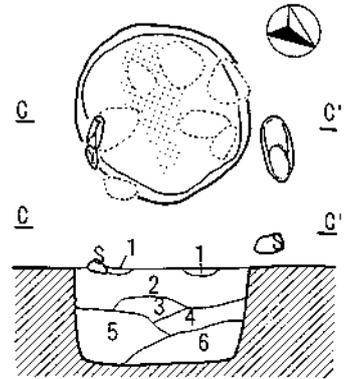
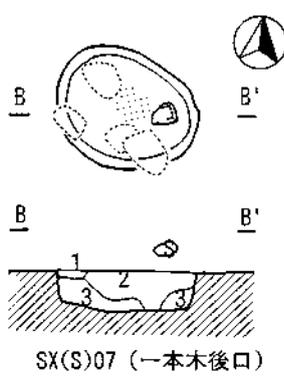
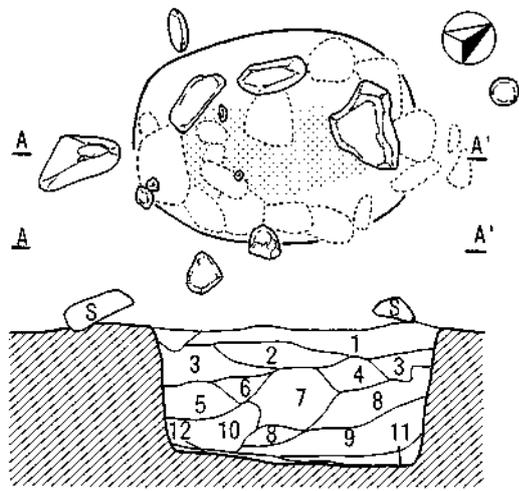
- SX(S)01**
1. 黒褐色土 (10YR2/3) 地山粒、地山ブロック多量混入
 2. 黒褐色土 (10YR2/3) 地山粒少量混入
 3. 黒褐色土 (10YR2/2) 地山粒微量混入
 4. 黒褐色土 (10YR2/2) 地山粒やや多く混入
 5. 黒褐色土 (7.5YR2/2) 地山小ブロック若干混入
 6. 黒色土 (10YR2/1) 地山粒、地山小ブロック若干混入
 7. 黒褐色土 (10YR2/3) 地山粒やや多く混入
 8. 黒褐色土 (10YR2/3) 地層と比べてしまりが強い

- SX(S)02**
1. 黒褐色土 (10YR2/3) 地山粒、地山ブロック多量混入
 2. 黒褐色土 (10YR2/2) 地山粒、地山ブロック混入
 3. 黒褐色土 (10YR2/1) 地山粒、地山ブロック混入、2層層褐色土粒若干混入
 4. 黒褐色土 (10YR2/3) 地山粒混入、黒色土粒少量混入
 5. 黒褐色土 (10YR2/4) 地山粒混入
 6. 黒褐色土 (10YR2/2) 地山粒混入 (2層より混入量は多い)
 7. 黒褐色土 (10YR2/3) 地山粒、地山ブロック混入
 8. 黒褐色土 (10YR2/1) 浮石混入

- SX(S)03**
1. 黒褐色土 (10YR2/3)
 2. 黒褐色土 (7.5YR2/3) 地山粒若干混入
 3. 暗褐色土 (10YR3/3) 地山ブロック若干混入、地山粒、小礫混入
 4. 黒褐色土 (10YR2/2) 地山粒、地山ブロック少量混入
 5. 黒褐色土 (7.5YR2/2) 地山粒、地山ブロック少量混入、4層と類似
 6. 黒褐色土 (10YR2/3) 地山粒、地山ブロック、小礫混入、しまり有り
 7. 黄褐色土 (10YR5/6) 地山ブロック、黄褐色砂多量混入、小礫混入、しまり強
 8. 褐色土 (10YR4/4) 黄褐色砂多量混入、地山ブロック、小礫混入、しまり強
 9. 黒褐色土 (10YR2/2) 地山粒、地山小ブロック若干混入、しまり強

- SX(S)04**
1. 黒褐色土 (10YR2/2) 抜き取り痕
 2. 暗褐色土 (10YR3/4)
 3. 黒褐色土 (10YR3/2)
 4. 黒褐色土 (10YR2/3)
 5. 褐色土 (10YR4/4)
 6. 黒褐色土 (10YR3/2)
 7. 暗褐色土 (10YR3/4)
 8. 暗褐色土 (10YR3/3)

第36図 配石遺構実測図 (6)

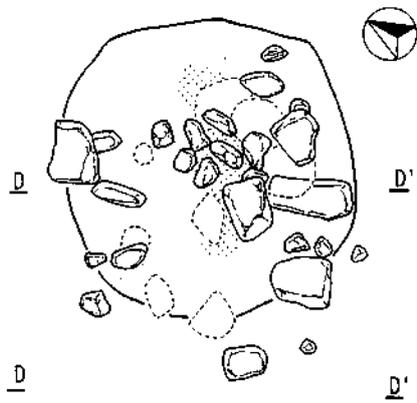
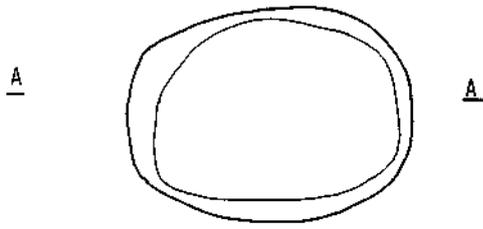


- SX(S) 05
1. 黒褐色土 (10YR2/3)
 2. 黒褐色土 (10YR3/2)
 3. 暗褐色土 (10YR3/3)
 4. 暗褐色土 (10YR3/4)
 5. 黒褐色土 (10YR3/2)
 6. 暗褐色土 (10YR3/3)
 7. 暗褐色土 (10YR3/4)
 8. 褐色土 (10YR4/4)
 9. 褐色土 (10YR4/6)
 10. 暗褐色土 (10YR3/4)
 11. 暗褐色土 (10YR3/3)
 12. 暗褐色土 (10YR3/4)

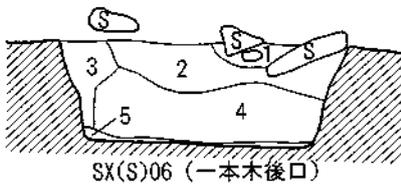
- SX(S) 07
1. 黒色土 (10YR1.7/1)
 2. 黒褐色土 (7.5YR2/2)
 3. 黒褐色土 (10YR2/3)

SX(S)08 (一本木後口)

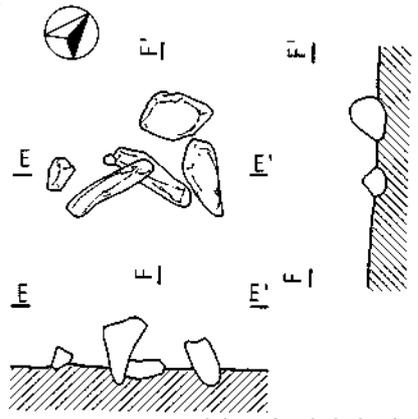
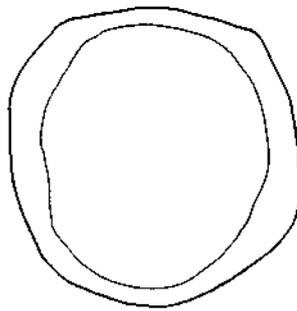
- SX(S) 08
1. 黒色土 (10YR1.7/1)
 2. 黒褐色土 (10YR2/3)
 3. 黒褐色土 (10YR2/2)
 4. 黒褐色土 (10YR2/2)
 5. 黒褐色土 (10YR3/2)
 6. 黒褐色土 (10YR2/2)



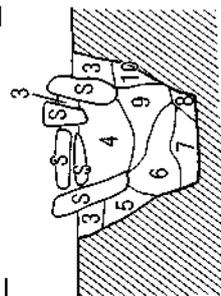
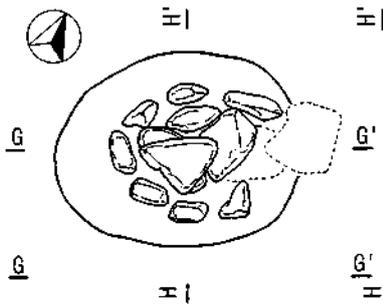
- SX(S) 06
1. 黒褐色土 (7.5YR2/2) 抜き取り痕
 2. 暗褐色土 (10YR3/4)
 3. 黒褐色土 (10YR3/2)
 4. 黒褐色土 (10YR2/3)
 5. 褐色土 (10YR4/4)



SX(S)06 (一本木後口)



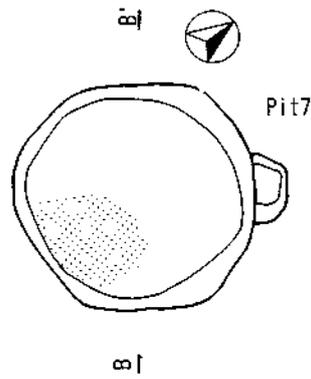
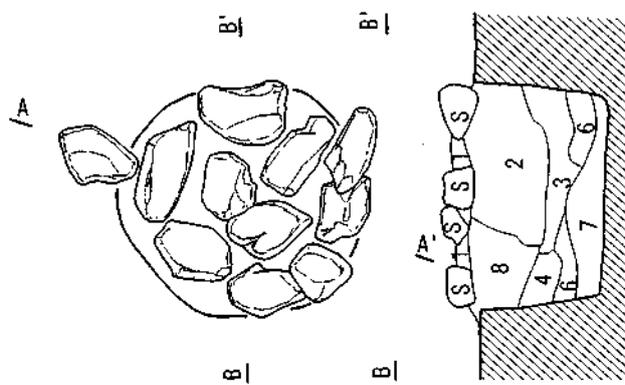
SX(S)09 (一本木後口)



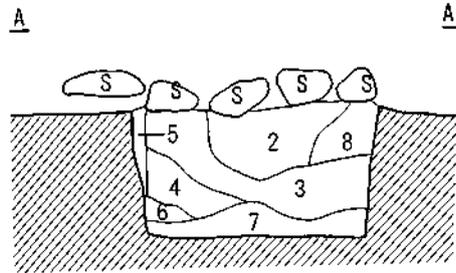
SX(S)10 (一本木後口)

- SX(S) 10
1. 黒褐色土 (10YR2/2) 浮石を含む (攪乱)
 2. 黒褐色土 (10YR2/2) 石の抜き取り痕
 3. 黒褐色土 (10YR2/3) 地山粒を含む、軟弱
 4. 黒褐色土 (10YR2/3) 地山粒を少量に含む
 5. 黒褐色土 (10YR2/3) 地山粒を少量、炭化粒を少量に含む
 6. 黒色土 (10YR2/1) 地山小ブロックを少量含む
 7. 黒色土 (10YR2/2) 地山小ブロックを少量に含む
 8. 黒褐色土 (10YR2/3) 褐色土を少量に含む
 9. 黒褐色土 (10YR2/2) 地山粒、褐色土を少量含む



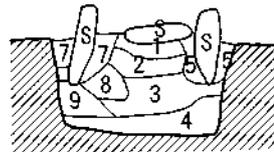
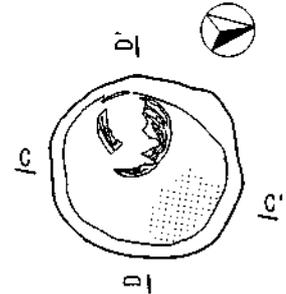
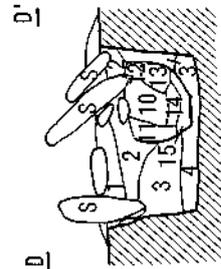
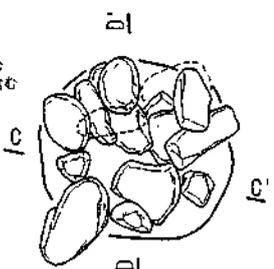


- SX (S) 11
1. 黒褐色土 (10YR2/2)
 2. 暗褐色土 (10YR3/3) 地山大ブロックを多量に含む
 3. 黄褐色土 (10YR5/8) 砂礫層で、黒色・黒褐色土を含む
 4. 黒褐色土 (10YR2/3) 地山ブロックを多量、砂礫を少量含む
 5. 黒褐色土 (10YR2/3) 地山小ブロックを若干含む
 6. 黒褐色土 (10YR2/2) 地山粒、砂礫を若干含む
 7. にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 砂礫層で黒色土をやや多く含む
 8. 黒褐色土 (10YR2/2) 地山粒、小ブロックをやや多く含む、炭化粒を極小含む

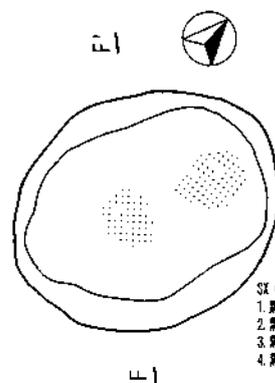
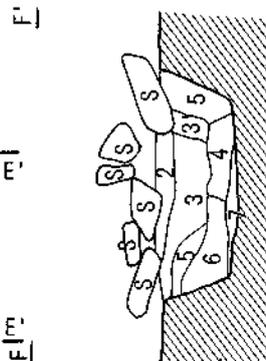
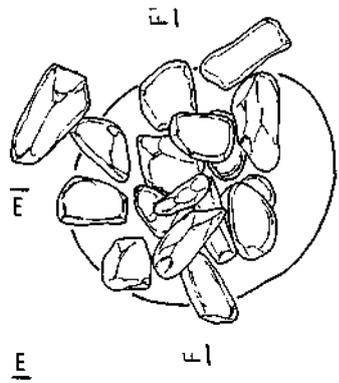


SX(S)11 (一本木後口)

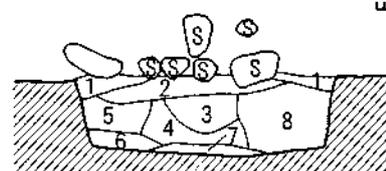
- SX (S) 12
1. 黒褐色土 (10YR2/2) 地山ブロックを若干含む
 2. 暗褐色土 (10YR3/3) 地山ブロックを多量含む
 3. 黒褐色土 (10YR2/2) 地山ブロック、砂礫を多く含む
 4. 黒褐色土 (10YR2/3) 地山ブロック、砂礫を多量に含む
非常に堅くしめる
 5. 黄褐色土 (10YR2/3)
 6. 黄褐色土 (10YR4/8) 黒褐色土を含む
 7. 黄褐色土 (10YR2/2)
 8. 黄褐色土 (10YR5/8) 砂礫
 9. 黒褐色土 (10YR2/2) 砂礫を含む
 10. 黒褐色土 (10YR2/2) 地山粒、小ブロックを少量
炭化物を極小含む
 11. 黒褐色土 (10YR2/2)
 12. 暗褐色土 (10YR3/4)
 13. 黒色土 (10YR2/1) 地山粒、小ブロック、
黄褐色土を少量含む
 14. 黒褐色土 (10YR2/2) 地山ブロックを多く含む
 15. 黒褐色土 (10YR2/2)



SX(S)12 (一本木後口)

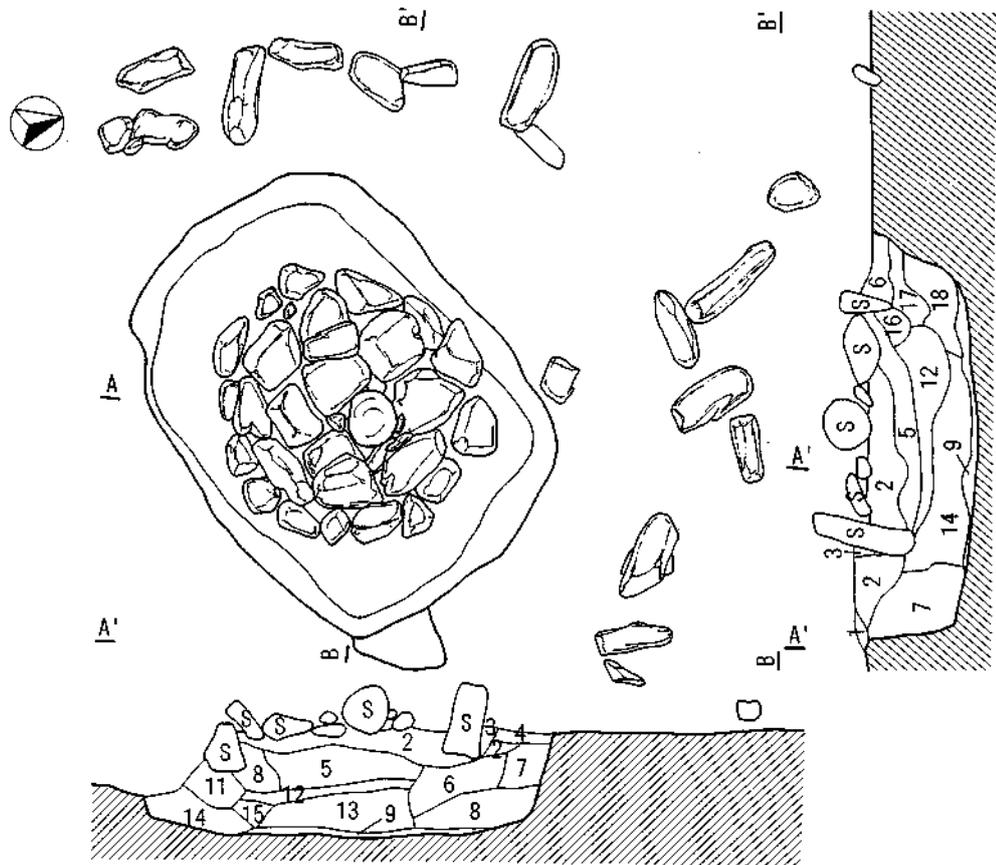


- SX (S) 13
1. 黒褐色土 (10YR2/3) 地山粒を若干含む
 2. 黒褐色土 (10YR2/2) 地山粒を若干含む
 3. 黒褐色土 (10YR3/2) 地山粒、小ブロックを多く含む
 4. 黒褐色土 (10YR3/2) 地山粒、小ブロックを多く含む
非常に堅くしめる
 5. 黒褐色土 (10YR3/2) 地山粒、大ブロックを多量に含む
 6. 黒褐色土 (10YR3/2) 地山粒、ブロックを若干含む
非常に堅くしめる
 7. 暗褐色土 (10YR3/4) 堅くしめる
 8. 黒褐色土 (10YR3/2) 3層と同様、ただし非常に堅い

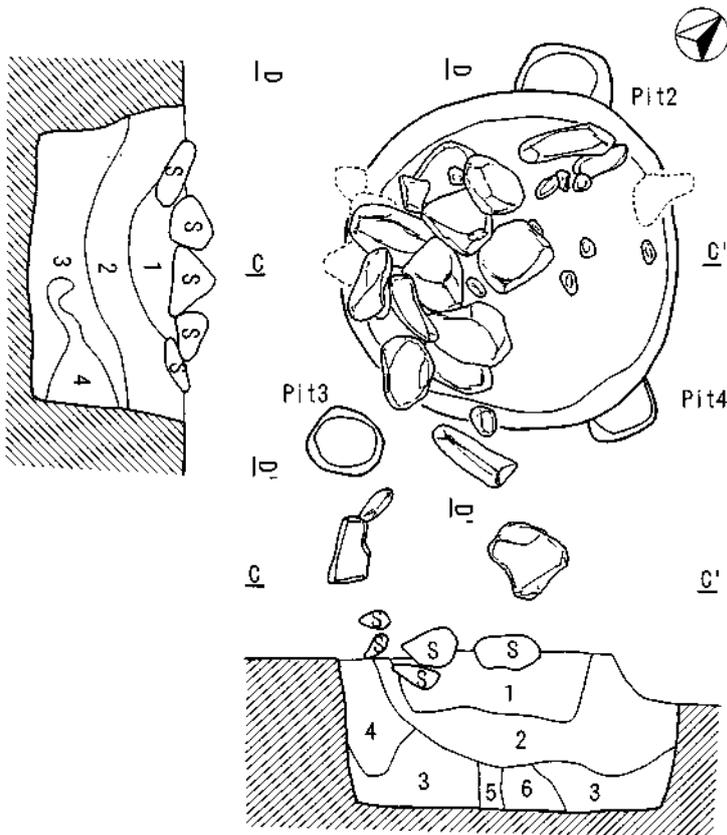


SX(S)13 (一本木後口)





SX(S)14 (一本木後口)



SX(S)15 (一本木後口)

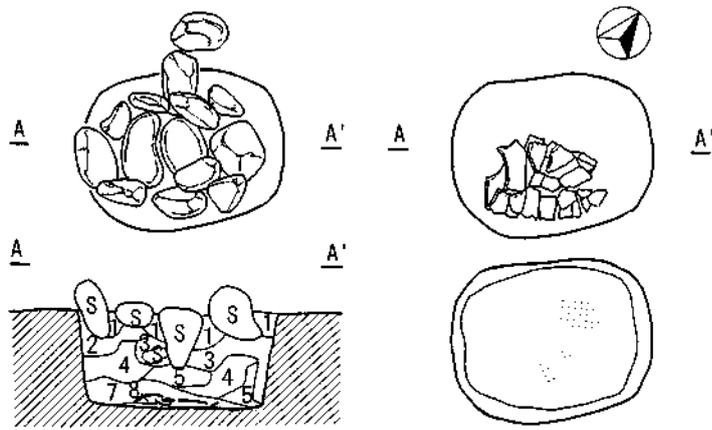
SX(S)14

1. 黒色土 (10YR2/1) 基本層序第IV層
2. 暗褐色土 (10YR3/3) 地山粒、ブロック混入
3. 黒色土 (10YR1.7/1)
4. 黒褐色土 (10YR2/2) 地山粒、ブロック混入
5. 黒褐色土 (10YR3/2) 地山ブロック多量混入
6. 黒褐色土 (10YR3/2) 地山粒多量混入、堅くしめる
7. 暗褐色土 (10YR3/3) 地山大ブロック多量混入、堅くしめる
8. 黒褐色土 (10YR2/3) 地山粒~小ブロックを多量混入
9. 暗褐色土 (10YR3/3) 堅くしめる
10. 黒褐色土 (10YR2/3) 地山粒、炭化物を若干混入
11. 黒褐色土 (10YR2/2) 地山粒、炭化物を若干混入
12. 黒褐色土 (10YR2/2) 黒色土混入
13. 黒褐色土 (10YR3/2) 大型の地山ブロックを混入
14. 黒褐色土 (10YR2/2) 中型地山ブロック炭化物を混入
15. 黒褐色土 (10YR2/3)
16. 黒褐色土 (10YR2/3)
17. 黒褐色土 (10YR2/3) 地山ブロックを混入
18. 黒褐色土 (10YR3/2)

SX(S)15

1. にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 地山ブロックを少量含む、隙を含む、非常に堅くしめる
2. 暗褐色土 (10YR3/3) 砂礫を含む、非常に堅くしめる
3. にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 砂礫・地山ブロックを多量に含む、非常に堅くしめる
4. 黒褐色土 (10YR3/2) 地山ブロックを多量に含む、堅くしめる
5. にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 地山ブロックを多量に含む
6. 地山ブロック

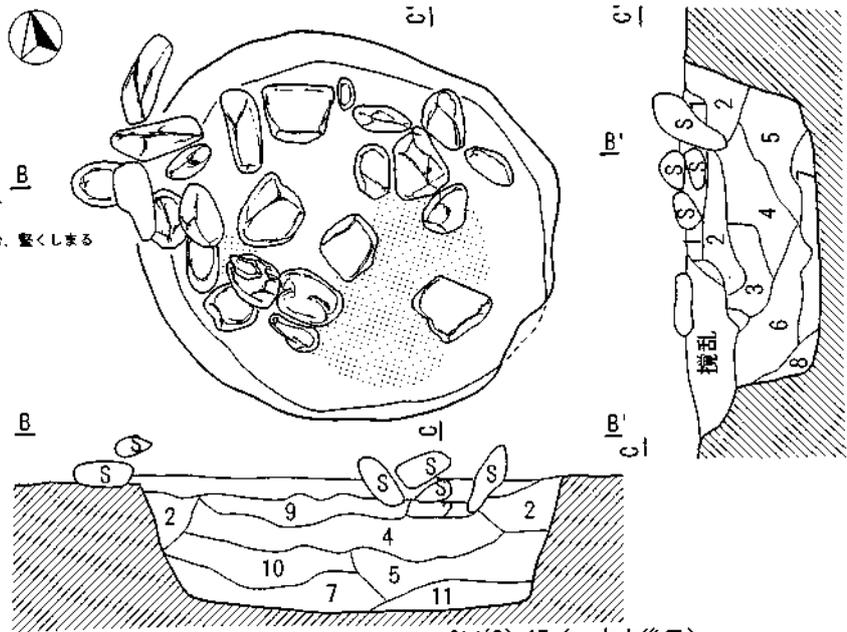




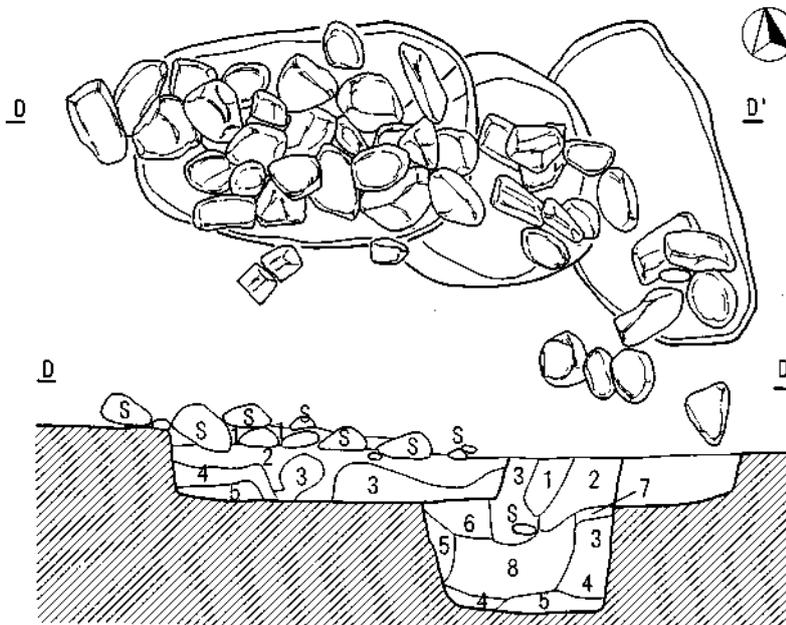
SX(S) 16 (一本木後口)

- SX(S) 16
1. 黒褐色土 (10YR2/2) 地山粒少量混入
 2. 暗褐色土 (10YR3/3) 地山粒少量混入
 3. 暗褐色土 (10YR3/4) 地山粒微量混入
 4. 褐色土 (10YR4/4) 地山粒多量混入、堅くしまる
 5. 暗褐色土 (10YR3/4) 地山粒、ブロック少量混入
 6. 黄褐色土 (10YR5/8) 地山ブロック
 7. 暗褐色土 (10YR3/4) 地山粒極少量混入
 8. 褐色土 (10YR4/4)

- SX(S) 17
1. 黒色土 (10YR2/1)
 2. 黒褐色土 (10YR2/2)
 3. 黒褐色土 (10YR2/2) 地山ブロック、砂礫を多く含む
 4. 暗褐色土 (10YR3/3)
 5. 暗褐色土 (10YR3/3) 地山ブロック、砂礫を多く含む、堅くしまる
 6. 暗褐色土 (10YR3/3) 砂を多く含む、堅くしまる
 7. 黒褐色土 (10YR2/3) 砂を多量に含む、堅くしまる
 8. 黒褐色土 (10YR2/2)
 9. 黒褐色土 (10YR2/2) 地山粒を若干含む
 10. 黒色土 (10YR2/1)
 11. 黒色土 (10YR2/1) 地山ブロックを含む



SX(S) 17 (一本木後口)

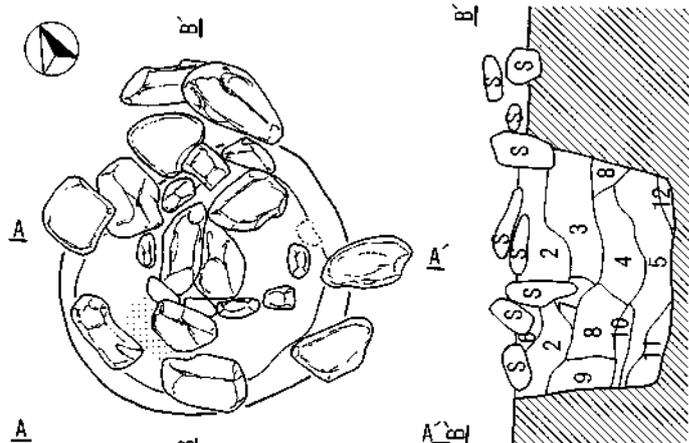


SX(S) 18・23・19 (一本木後口)

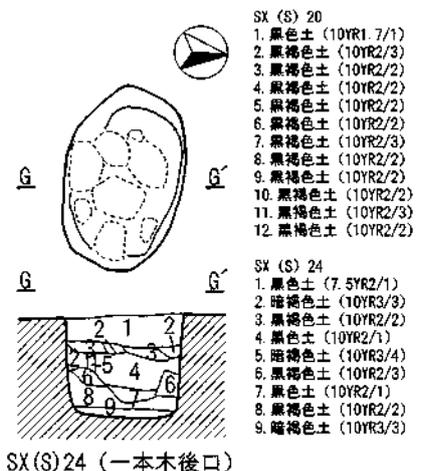
- SX(S) 18・23・19
- SX(S) 18
1. 黒色土 (10YR2/1)
 2. 黒褐色土 (10YR2/2)
 3. 暗褐色土 (10YR3/3) 地山粒、炭化物を若干含む
 4. 暗褐色土 (10YR3/4)
 5. 黄褐色土 (10YR5/8)

- SX(S) 23
1. 黒褐色土 (10YR2/2)
 2. 暗褐色土 (10YR3/3)
 3. 黒褐色土 (10YR2/3)
 4. 褐色土 (10YR4/4) 砂礫を多く含む、非常に硬くしまる
 5. 黒褐色土 (10YR2/2) 砂を含む
 6. 黒褐色土 (10YR3/2)
 7. 黄褐色土 (10YR5/8) 地山ブロックを多量に含む
 8. 暗褐色土 (10YR3/3) 地山ブロックを多量に含む

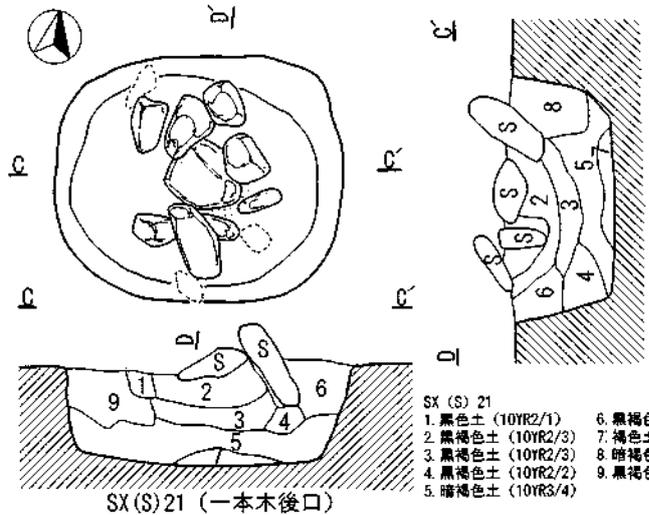




SX(S) 20 (一本木後口)

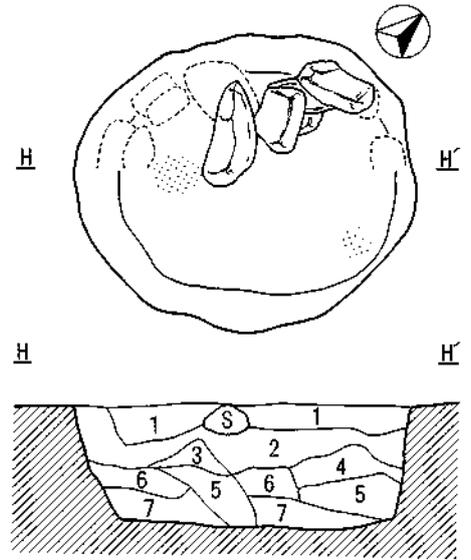


SX(S) 24 (一本木後口)



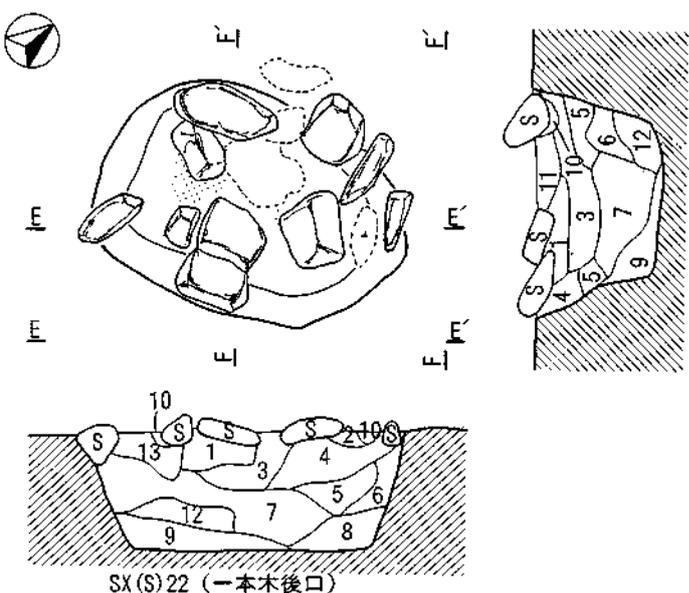
SX(S) 21 (一本木後口)

- SX(S) 21
- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. 黒色土 (10YR2/1) | 6. 黒褐色土 (10YR2/3) |
| 2. 黒褐色土 (10YR2/3) | 7. 褐色土 (10YR4/4) |
| 3. 黒褐色土 (10YR2/3) | 8. 暗褐色土 (10YR3/3) |
| 4. 黒褐色土 (10YR2/2) | 9. 黒褐色土 (10YR2/3) |
| 5. 暗褐色土 (10YR3/4) | |

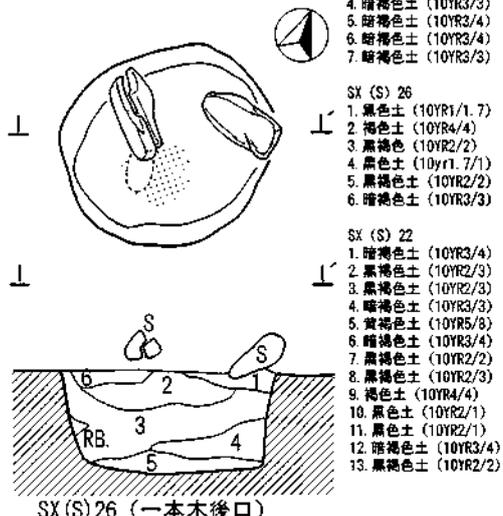


SX(S) 25 (一本木後口)

- SX(S) 25
- | |
|-------------------|
| 1. 暗褐色土 (10YR3/2) |
| 2. 黒褐色土 (10YR2/2) |
| 3. 黒色土 (10YR2/1) |
| 4. 暗褐色土 (10YR3/3) |
| 5. 暗褐色土 (10YR3/4) |
| 6. 暗褐色土 (10YR3/4) |
| 7. 暗褐色土 (10YR3/3) |



SX(S) 22 (一本木後口)

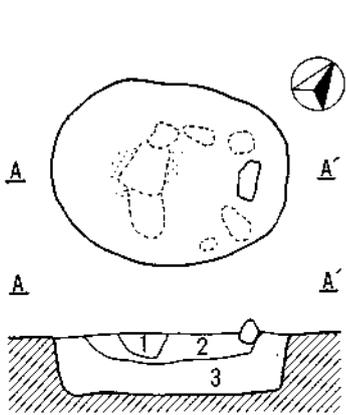


SX(S) 26 (一本木後口)

- SX(S) 26
- | |
|--------------------|
| 1. 黒色土 (10YR1/1.7) |
| 2. 褐色土 (10YR4/4) |
| 3. 暗褐色土 (10YR2/2) |
| 4. 黒色土 (10YR1.7/1) |
| 5. 黒褐色土 (10YR2/2) |
| 6. 暗褐色土 (10YR3/3) |

- SX(S) 22
- | |
|--------------------|
| 1. 暗褐色土 (10YR3/4) |
| 2. 黒褐色土 (10YR2/3) |
| 3. 黒褐色土 (10YR2/3) |
| 4. 暗褐色土 (10YR3/3) |
| 5. 黄褐色土 (10YR5/8) |
| 6. 暗褐色土 (10YR3/4) |
| 7. 黒褐色土 (10YR2/2) |
| 8. 暗褐色土 (10YR2/3) |
| 9. 褐色土 (10YR4/4) |
| 10. 黒色土 (10YR2/1) |
| 11. 黒色土 (10YR2/1) |
| 12. 暗褐色土 (10YR3/4) |
| 13. 黒褐色土 (10YR2/2) |

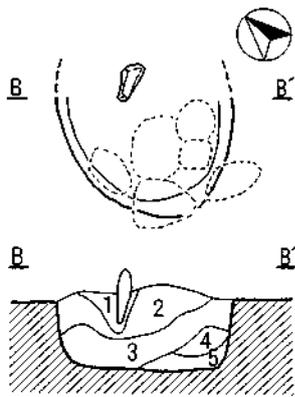




SX(S) 27

1. 黒色土 (10YR1.7/1) 白色浮石、砂を若干含む。
2. 黒褐色土 (10YR2/3) 地山粒、小ブロックを含む。
3. 黒色土 (10YR2/1) 地山粒、小ブロックを含む。

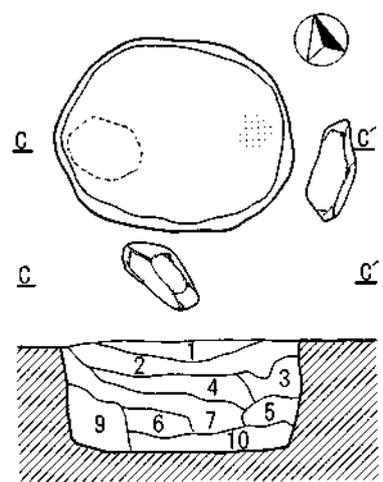
SX(S) 27 (一本木後口)



SX(S) 28

1. 黒褐色土 (10YR2/2) 地山粒若干含む
2. 黒褐色土 (10YR2/3) 地山粒、小ブロックを含む
3. 黒色土 (10YR2/1) 地山粒~中ブロックを含む
4. 褐色土 (10YR4/6) 地山粒~大ブロックの集合層
5. 黒褐色土 (10YR3/2) 地山粒~小ブロックを若干含む

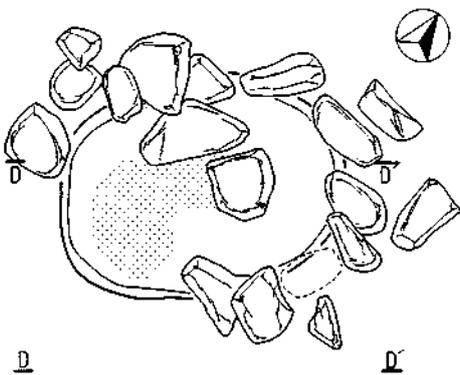
SX(S) 28 (一本木後口)



SX(S) 29

1. 黄褐色土 (10YR5/6)
2. 暗褐色土 (10YR3/3)
3. 暗褐色土 (10YR3/4)
4. 黒褐色土 (10YR3/2)
5. 暗褐色土 (10YR3/3)
6. 黒褐色土 (10YR2/2)
7. 黒褐色土 (10YR2/3)
8. 褐色土 (10YR4/4)
9. 黒褐色土 (10YR2/3)
10. 暗褐色土 (10YR3/3)

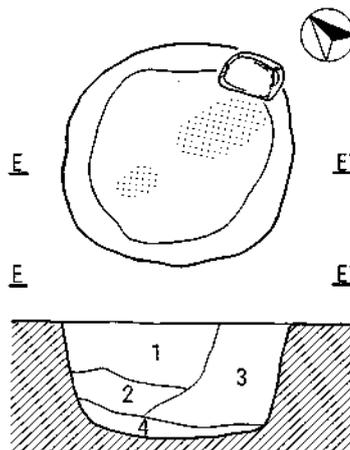
SX(S) 29 (一本木後口)



SX(S) 30

1. 暗褐色土 (10YR3/3)
2. 黒褐色土 (10YR3/2)
3. 黒褐色土 (10YR3/2)
4. 暗褐色土 (10YR3/4)
5. 褐色土 (10YR4/4)
6. にぶい黄褐色土 (10YR4/3)

SX(S) 30 (一本木後口)



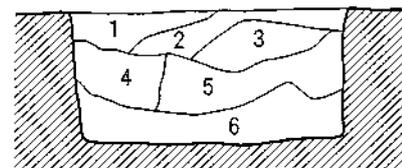
SX(S) 31

1. 黒褐色土 (10YR2/3)
2. 黒褐色土 (10YR2/3)
3. 暗褐色土 (10YR3/3)
4. 暗褐色土 (10YR3/4)

SX(S) 31 (一本木後口)

1. 黒色土 (10YR2/1)
2. 暗褐色土 (10YR3/3)
3. 暗褐色土 (10YR3/4)
4. 暗褐色土 (10YR3/4)
5. 暗褐色土 (10YR3/3)
6. 暗褐色土 (10YR3/3)

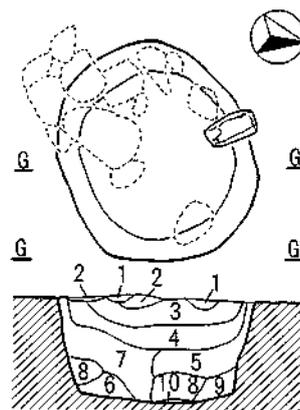
SX(S) 32 (一本木後口)



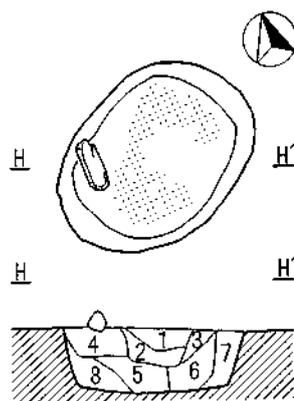
SX(S) 33

1. 石に抜き取り痕
2. 黒褐色土 (10YR2/3)
3. 黄褐色土 (10YR5/8)
4. 褐色土 (10YR4/6)
5. 暗褐色土 (10YR3/4)
6. 暗褐色土 (10YR3/3)
7. 暗褐色土 (10YR3/4)
8. 黒褐色土 (10YR3/2)
9. 暗褐色土 (10YR3/4)
10. 褐色土 (10YR4/6)

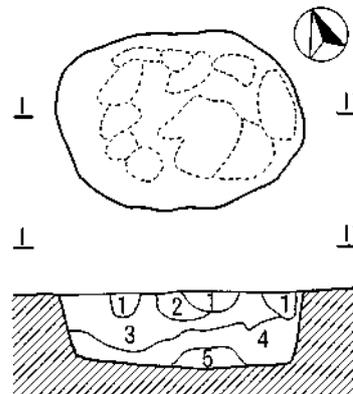
SX(S) 30 (一本木後口)



SX(S) 33 (一本木後口)



SX(S) 34 (一本木後口)



SX(S) 34

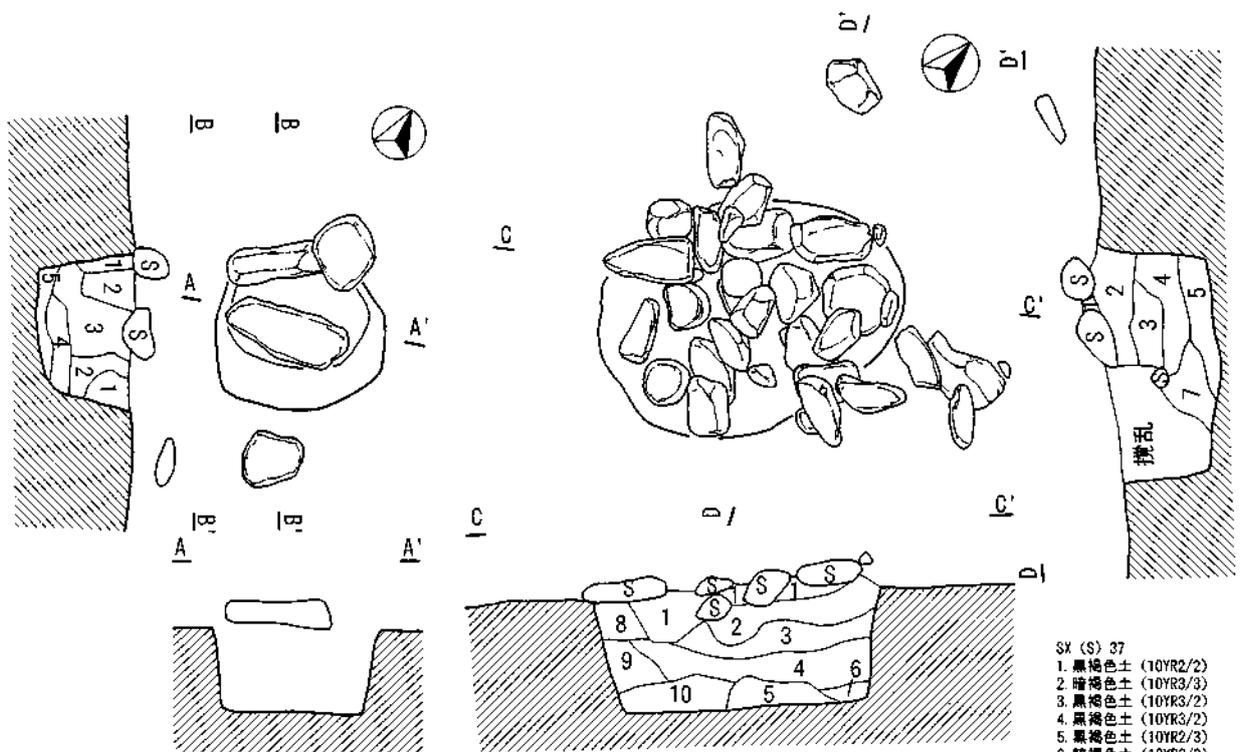
1. 黒褐色土 (10YR2/2)
2. 黒褐色土 (10YR2/3)
3. 黒褐色土 (10YR2/3)
4. 暗褐色土 (10YR3/3)
5. 暗褐色土 (10YR3/3)
6. 暗褐色土 (10YR3/4)
7. 暗褐色土 (10YR3/4)
8. 黒褐色土 (10YR2/3)

SX(S) 35

1. 黒色土 (10YR1.7/1)
2. 暗褐色土 (10YR3/4)
3. 暗褐色土 (10YR3/4)
4. 黒褐色土 (10YR2/2)
5. 黒褐色土 (10YR2/3)

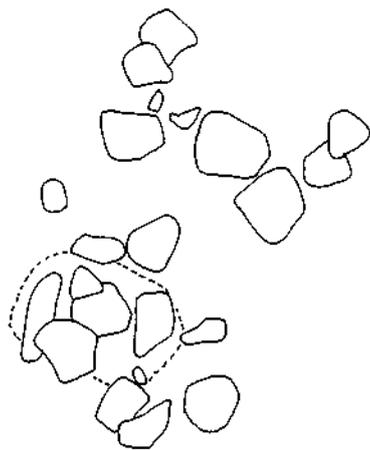
SX(S) 35 (一本木後口)





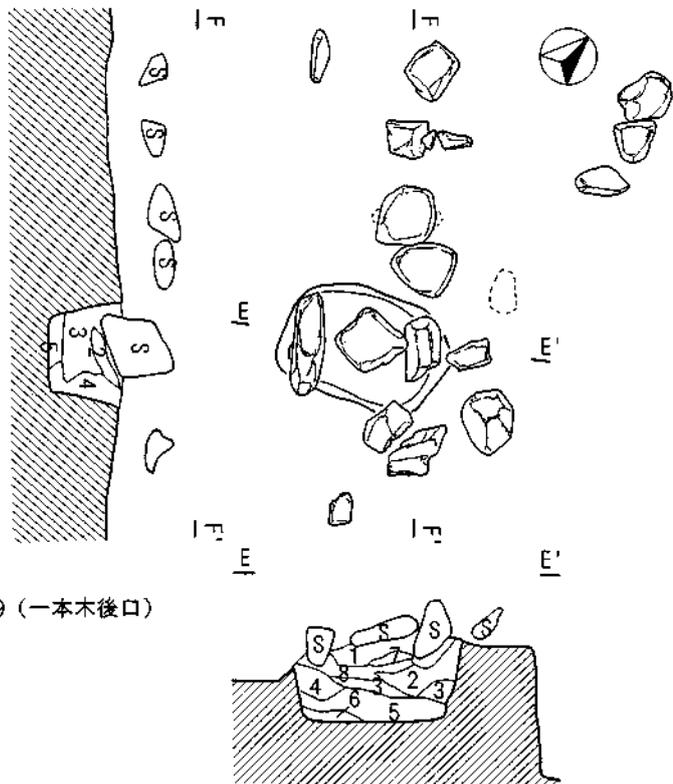
SX(S)36 (一本木後口)

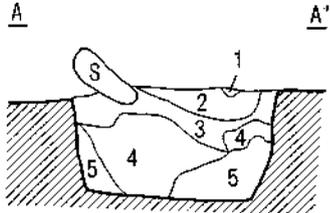
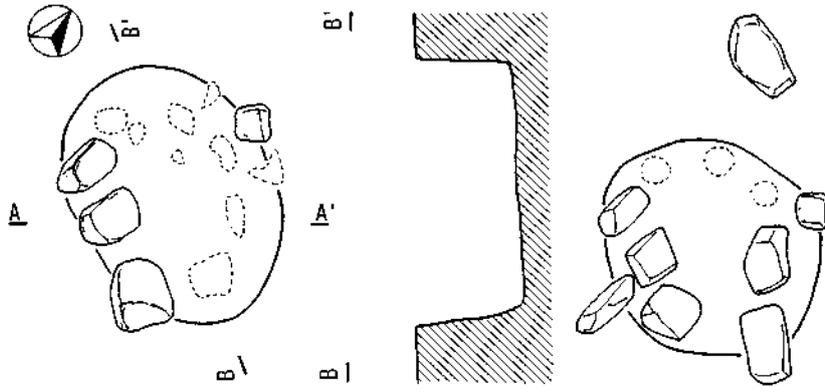
SX(S)37 (一本木後口)



- SX(S) 39
1. 黒色土 (10YR2/1) 地山粒~小ブロックを少量含む
 2. 暗褐色土 (10YR3/4) 地山中ブロック少量に含む
 3. 黒褐色土 (10YR2/2) 地山小~中ブロックを多量に含む、堅くしまる
 4. 黒褐色土 (10YR2/3) 地山小~中ブロックを少量含む、軟弱である
 5. 黒褐色土 (10YR2/2) 地山粒~中ブロックを少量含む、堅く粘性に重む
 6. 暗褐色土 (10YR3/3) 地山粒を含ま、堅くしまる
 7. 黒褐色土 (10YR2/3) 地山粒~小ブロックを多く含む
 8. 黒褐色土 (10YR2/3) 地山粒を若干含む

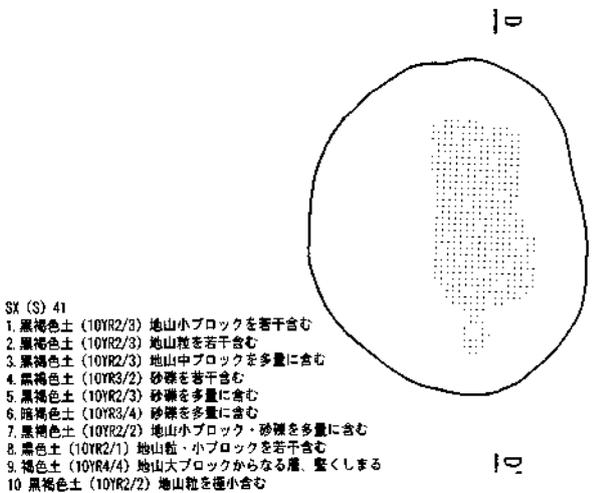
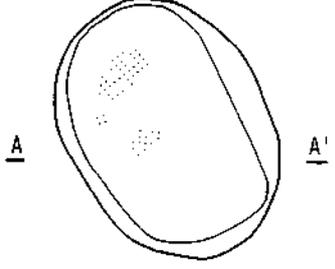
SX(S) 39 (一本木後口)



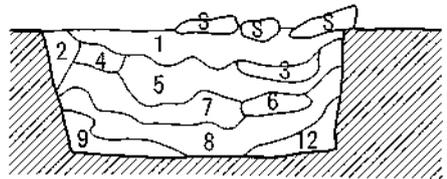


SX(S) 40 (一本木後口)

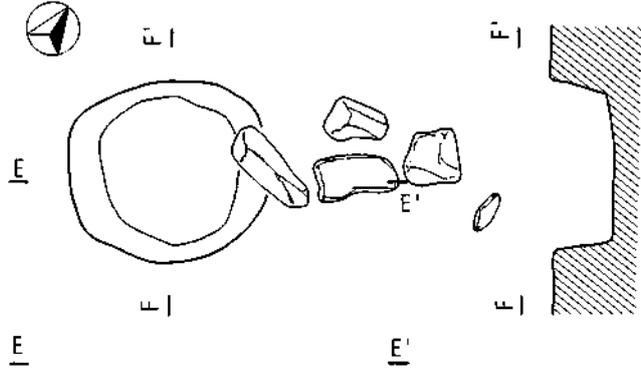
- SX (S) 40
1. 黒色土 (10YR2/1) 石の抜き取り痕
 2. 暗褐色土 (10YR3/3) 地山粒微量混入
 3. 暗褐色土 (10YR3/4) 地山粒・小ブロック微量混入
 4. 暗褐色土 (10YR3/3) 地山粒~小ブロック多量混入
 5. 褐色土 (10YR4/4) 砂質・小礫、地山大ブロック少量混入



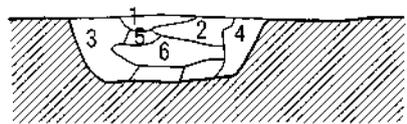
- SX (S) 41
1. 黒褐色土 (10YR2/3) 地山小ブロックを若干含む
 2. 黒褐色土 (10YR2/3) 地山粒を若干含む
 3. 黒褐色土 (10YR2/3) 地山中ブロックを多量に含む
 4. 黒褐色土 (10YR2/3) 砂礫を若干含む
 5. 黒褐色土 (10YR2/3) 砂礫を多量に含む
 6. 暗褐色土 (10YR3/4) 砂礫を多量に含む
 7. 黒褐色土 (10YR2/2) 地山小ブロック・砂礫を多量に含む
 8. 褐色土 (10YR2/1) 地山粒・小ブロックを若干含む
 9. 褐色土 (10YR4/4) 地山大ブロックからなる層、堅くしまる
 10. 黒褐色土 (10YR2/2) 地山粒を極小含む
 11. 黒色土 (10YR2/1) 石の抜き取り痕?
 12. 暗褐色土 (10YR3/3) 地山小ブロック、砂礫を含む、堅くしまる
 13. 暗褐色土 (10YR3/3) 地山粒を若干含む
 14. 黒褐色土 (10YR2/3) 地山粒を若干含む、堅くしまる
 15. 黒褐色土 (10YR3/1) 地山ブロックを若干含む



SX(S) 41 (一本木後口)

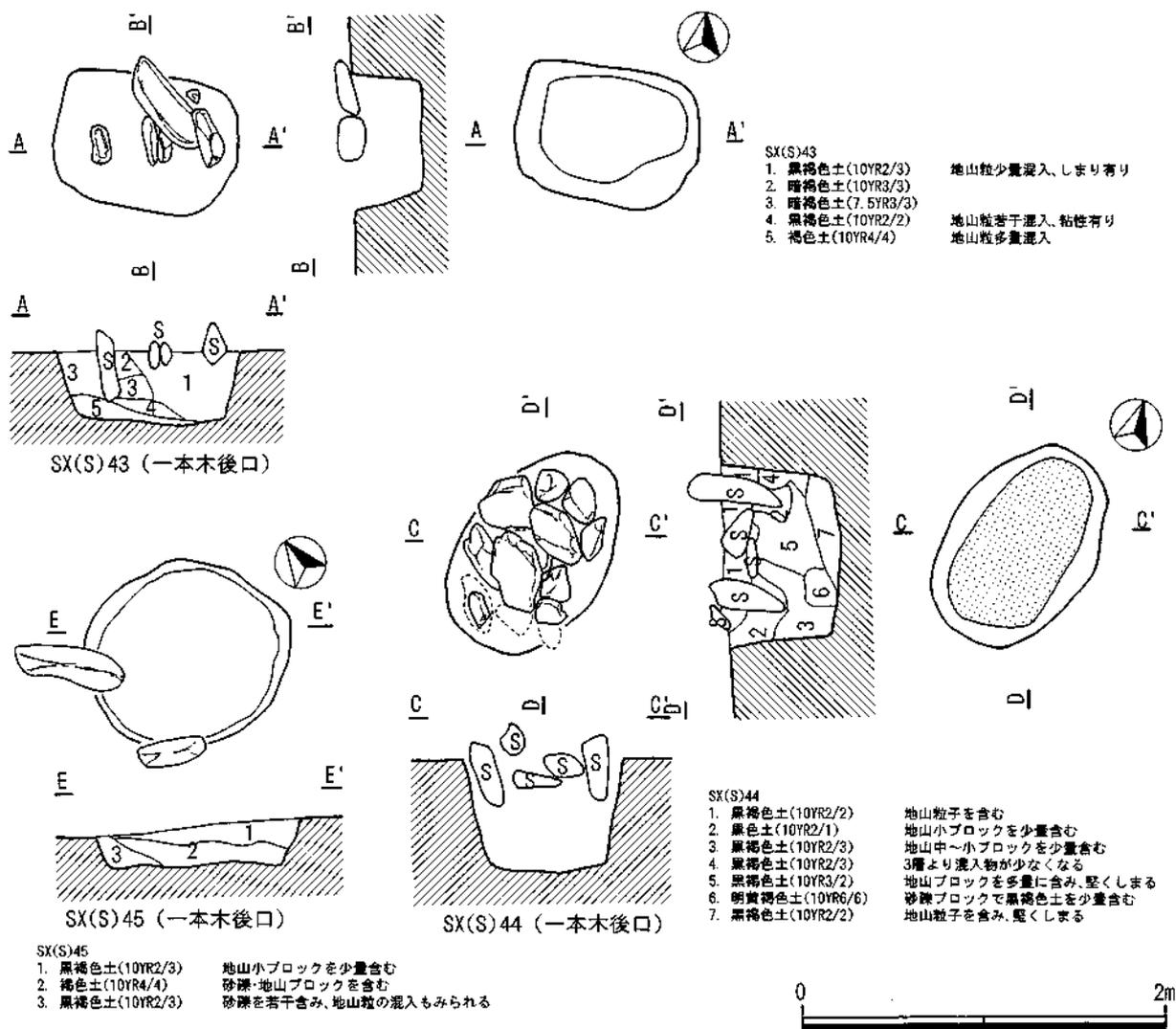


- SX (S) 42
1. 暗褐色土 (10YR3/4) 地山粒、小ブロックを多量に混入
 2. 黒褐色土 (10YR3/2) 地山粒多量に混入
 3. 暗褐色土 (10YR3/3) 地山粒・小ブロックを多量に混入
 4. 暗褐色土 (10YR3/3) 地山粒少量混入
 5. 褐色土 (7.5YR4/4) 地山粒・小ブロックを多量に混入
 6. 褐色土 (10YR4/6) 地山粒・小ブロックを多量に混入
 7. 黒褐色土 (10YR3/2) 地山粒少量混入



SX(S) 42 (一本木後口)





第45図 配石遺構実例図 (15)

遺構、小さいものは第403号配石遺構で、長軸80cm以下の小型と長軸120cm以上の大型とに区分される。円形は小型に、楕円形のは大型・小型に、隅丸方形はこの中間にある。底面積規模として約5.0倍の開きがある。

万座南側地区

7基の配石下より楕円形を呈する土坑が確認されている。この中で最も大きいものは第706号配石遺構、小さいものは第701号配石遺構で、長軸70cm前後の小型と長軸130cm以上の大型のものに区分される。底面積規模としては約3.80倍の開きがある。

野中堂南側地区

3基のすべてに土坑が確認された。平面形は楕円形2基、円形が1基である。長軸50cm以下の小型、120cm以上の大型に区分される。底面積規模では約6.6倍の開きがある。小規模な第03号配石遺構より甕棺土器が出土している。

一本木後口地区

配石遺構密集地より離れて位置する第09号配石遺構以外から下部土坑が確認されている。平面形は楕円形30基、円形11基、隅丸方形2基である。最大ものは第14号配石遺構、最小は第7号配石遺構であ

る。楕円形ものは長軸130cm、円形ものは110cmを境に小型と大型に区分することができる。底面積規模では約10倍の開きがある。甕棺土器は小型のものから出土している。

【ウ. 確認面と構築面】

万座隣接地

基本層序Ⅲd層が構築面である。

万座北側地区

第205号配石遺構はⅢa層を、第226号配石遺構はⅢb層を構築面とする。それ以外についてはⅢd層が構築面である。

万座南側地区

配石遺構群の位置する場所の堆積土はⅢ層上面まで攪拌を受けている。遺構構築面はⅢd2層(第Ⅲd層より色彩がわずかに明るい黒褐色土)上面である。

野中堂南側地区

配石遺構の元位置を失ったものはⅡ層面で確認される。構築面はⅢd層(黒褐色土)より明るいⅢd層上面(暗褐色土)である。

一本木後口地区

耕作土の除去と共に配石遺構の立石が露頭するものがある。構築面はⅢd層上面である。

【エ. 堆積状況】

・下部土坑の堆積状況

配石下部に位置する土坑は、全地区のものすべてが人為的に埋め戻されている。一本木後口地区で検出された配石遺構44基中26基の土坑底面には赤色範囲が認められた。

土層断面を観察するとⅠ類・Ⅱ類、Ⅲ類によって石の設置方法・土の埋め戻し方が異なっている。

Ⅰ類・Ⅱ類のもの

①土坑のほぼ半分まで土を埋める。②土が半分埋まった状態で、土坑の縁に沿って石を立てる。③立石の隙間に再度土を埋めていく。④土坑が埋まりきった段階で立石内部に平石を置く。

Ⅲ類のもの

①土坑すべてを埋めていく。②平石を置いていく。

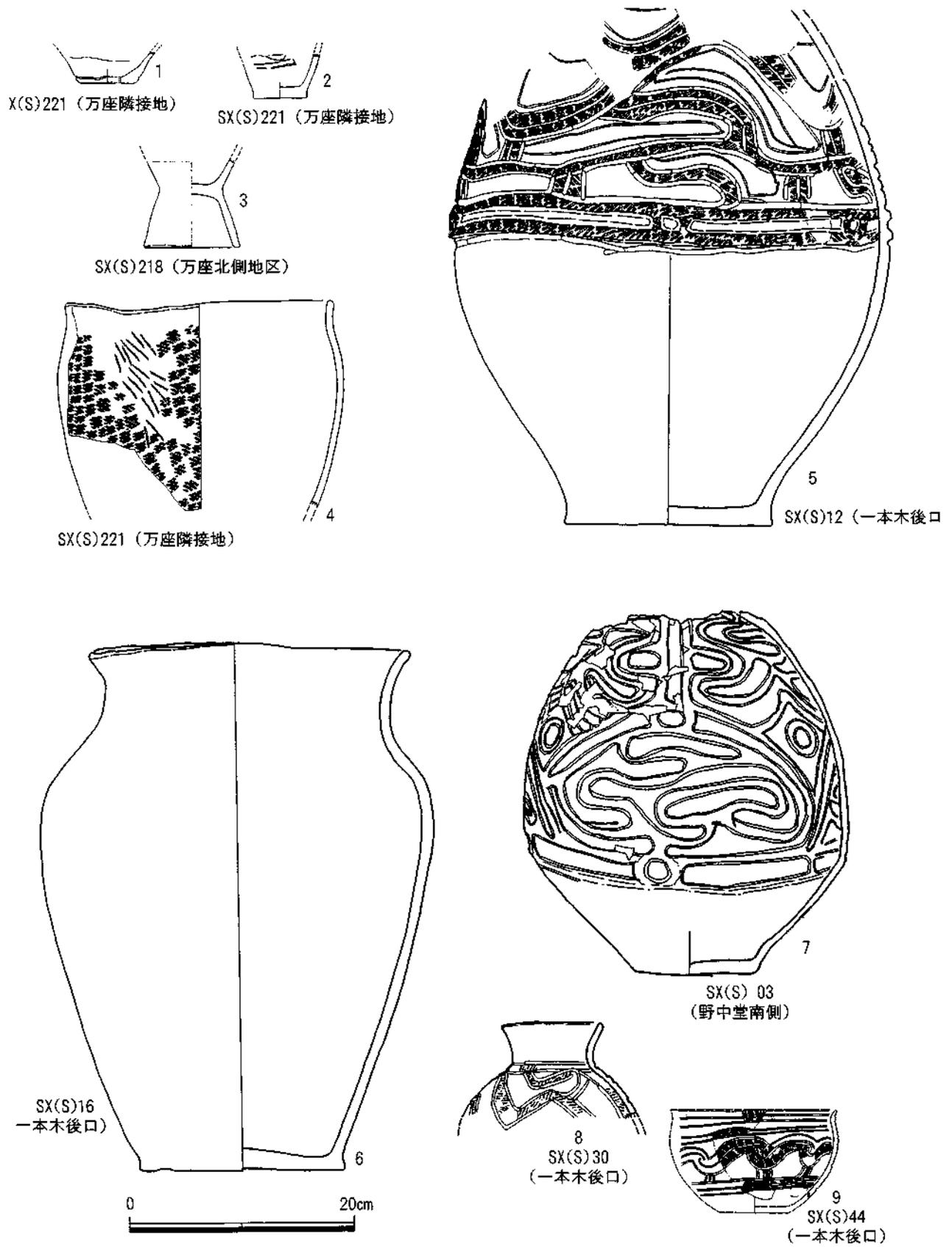
【オ. 出土遺物】

本遺構の出土遺物として取り扱ったのは、下部土坑出土のもの及び配石内より出土したものに限った。

万座隣接地

配石下部に土坑を有するものから出土している。

列石の北側隣接地に位置する第218号配石遺構からは台付土器の底部、第221号配石遺構からは沈線を施文した土器底部とLR縄文を回転施文した深鉢形土器が出土している。このほか遺構内外からは沈線文や帯縄文、幅の広い帯縄文で細かな節の斜縄文が施文された土器片が出土している。また221号配石遺構からは線刻された礫が2点出土している。



第46図 配石遺構出土土器

また、同列石南東側隣接地に位置する配石周辺からは後期前葉～中葉の土器片が出土している。

万座北側地区

配石遺構に確実に伴うものと判断されたのは、配石下の土坑から出土したものである。沈線文、花卉状文、弧線文、入組状曲線文が施文された後期前葉・十腰内Ⅰ式土器の特徴を持った土器片とともに石鏃、搔器などが出土している。

万座南側地区

遺構内からの出土遺物はない。配石遺構群の南側20m地点、基本層序Ⅲd層より後期前葉・十腰内Ⅰ式土器の特徴をもった花卉状文、弧線文が施文された土器が出土した。

野中堂南側地区

第3号配石遺構下部に穿たれた直径50cm、深さ60cmの土坑内から甕棺土器が出土した。壺形土器を転用したもので胴部上2/3には沈線により曲線文が施文されており、沈線内に赤色顔料が残されていた。

また、配石遺構周辺からは後期前葉・十腰内Ⅰ式土器の特徴を持った土器片が出土している。

一本木後口地区

第12号、16号配石遺構より甕棺土器が出土した。第12号配石遺構出土の甕棺土器は、壺形土器を転用したもので正立状態で出土した。胴部中程の隆沈文によって上部文様帯と下部無文帯とに区画される。文様帯には帯縄文により横位に展開する曲線文が施文され、沈線間・隆沈文上にはLR縄文が充填されている。第16号配石遺構出土の甕棺土器は、土坑底面から横倒しとなり、押しつぶされた状態で出土した。無文の深鉢形土器である。このほかに第13号配石遺構からは13点の石鏃、第3号配石遺構からは赤色顔料を塗布した木製品が出土している。

配石周辺、本調査区からの出土土器には後期中葉・十腰内Ⅱ式などの土器は含まれていない。

【カ. 重複関係】

万座隣接地

柱穴状ピット	Pit24→SX(S)218(D1区)	Pit526→SX(S)226(D2区)
焼土遺構	SX(f)631→SX(S)604(D6区)	SX(f)603→SX(S)605(D6区)
土坑	SK241→SX(S)221(D1区)	

重複関係を示したものにおいては、配石遺構が新しい。

万座北側地区

柱穴状ピット	Pit406→SX(S)204(D1区)	Pit67～69→SX(S)403(F1区)
土坑	SX(S)407→SK434(F1区)	

万座南側地区

重複なし

野中堂南側地区

重複なし

一本木後口地区

柱穴状ピット	Pit1→SX(S)14→SX(S)15・17・18
配石遺構	SX(S)14→SX(S)17→SX(S)20 SX(S)14・23→SX(S)18 SX(S)19→SX(S)23→SX(S)18

配石遺構同士の重複から3時期が想定される。柱穴状ピットと配石下部の土坑が重複するものは一例であるが、下部土坑に隣接するものはピット上部に配石が置かれていることが多い。

【キ. 時期】

万座隣接地

構築される場所によって構築時期が違ふ。列石北側隣接地に位置する第218号・219号配石遺構などは遺構内外の出土遺物から後期前葉・十腰内Ⅰ式の時期が与えられる。また同南東側に位置する第604号・605号配石遺構は、構築面(Ⅲc層)、周辺出土遺物から後期前葉・十腰内Ⅰ式～中葉・十腰内Ⅱ式の時期が与えられる。

万座北側地区

占地する場所によって構築時期に違いがある。本地区のほぼ中央に位置する第04号環状配石遺構に隣接する第5号～8号配石遺構の構築面はⅢc層で他の遺構構築面より一枚上である。さらに配石形態が環状配石遺構の張り出し施設に類似していること、周辺からは十腰内Ⅱ式・Ⅲ式土器の特徴を持った土器片が多数出土していることから、その構築時期は後期中葉と考えられる。

なお、本地区南端、沢頭地点に位置する配石遺構については、遺構内外の出土遺物、構築面から後期前葉・十腰内Ⅰ式の時期と考えられる。

万座南側地区

配石遺構及びその周辺からは遺物が出土しなかった。周辺出土土器から後期前葉・十腰内Ⅰ式の時期が与えられる。

野中堂南側地区

第03号配石遺構出土土器がその構築時期を表しており、後期前葉・十腰内Ⅰ式の時期が与えられる。

一本木後口地区

第12号・16号配石遺構出土甕棺土器、第30号配石遺構内出土土器がその構築時期をあらわしているものと考えられる。いずれも後期前葉・十腰内Ⅰ式の特徴を持っており、配石遺構の構築時期はこの時期が与えられる。

【ク. 分布】

万座隣接地

列石をはさみ北西側、東側隣接地に分布する。北西側に占地する配石遺構3基は列石と関連の強い建物群域に、それ以外の配石遺構は土坑・フラスコ状土坑分布域にある。

万座北側地区

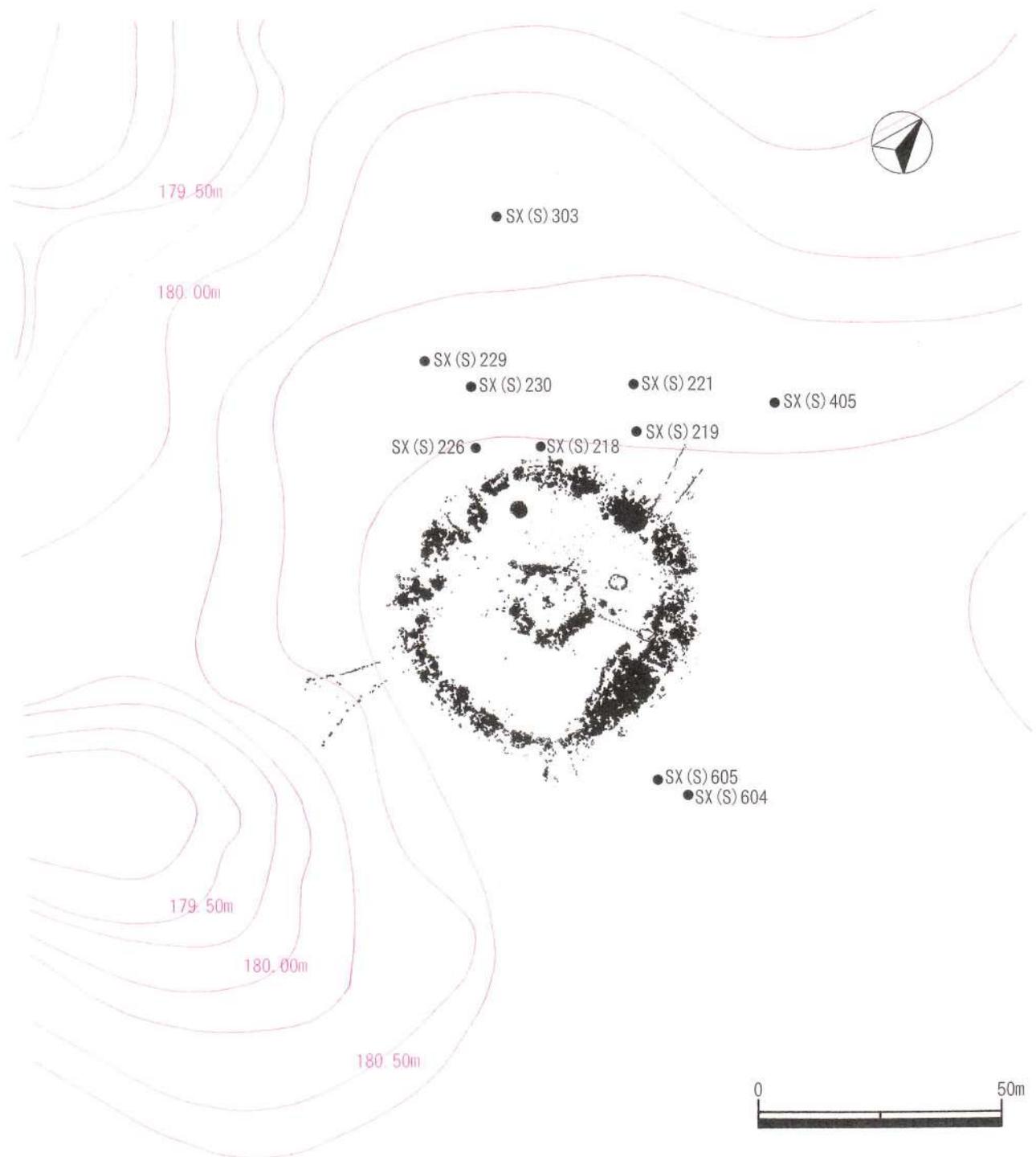
広い範囲に数基ごとにまとまって分布している。配石下の土坑の有無を頼りにさらにその分布をみると配石下に土坑を持つものは本地区の南端部(万座西側地区際)と北部に分かれて分布し、土坑を有しないものは第04号環状配石遺構隣接地とその東側に分布している。

万座南側地区

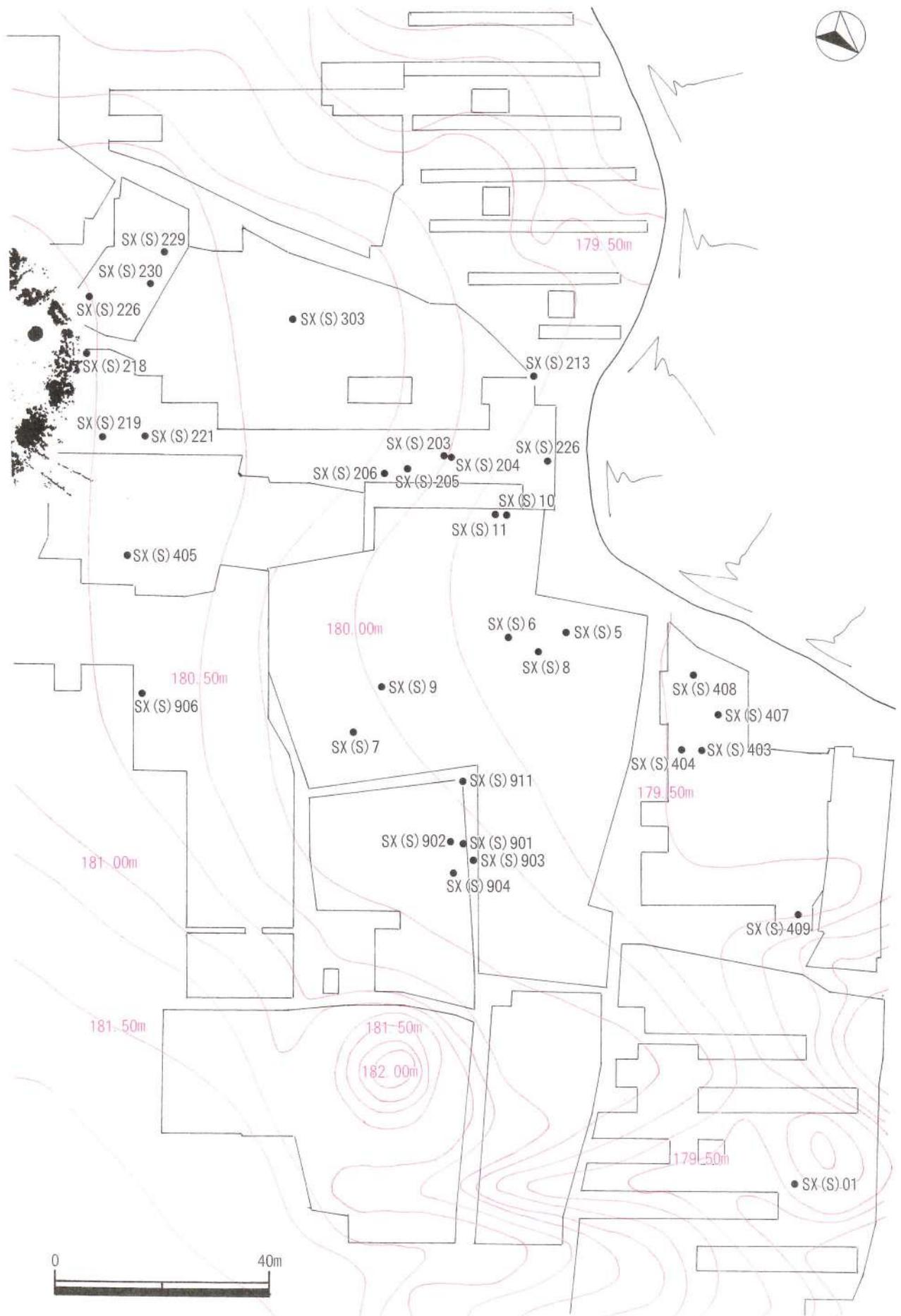
5基の配石遺構が弧を描くように等間隔に配置されている。阿部義平氏の実測図（第51図）や写真を見ると7基ほどの配石遺構が二重の弧を描くように配置されていることを読み取ることができる。

野中堂南側地区

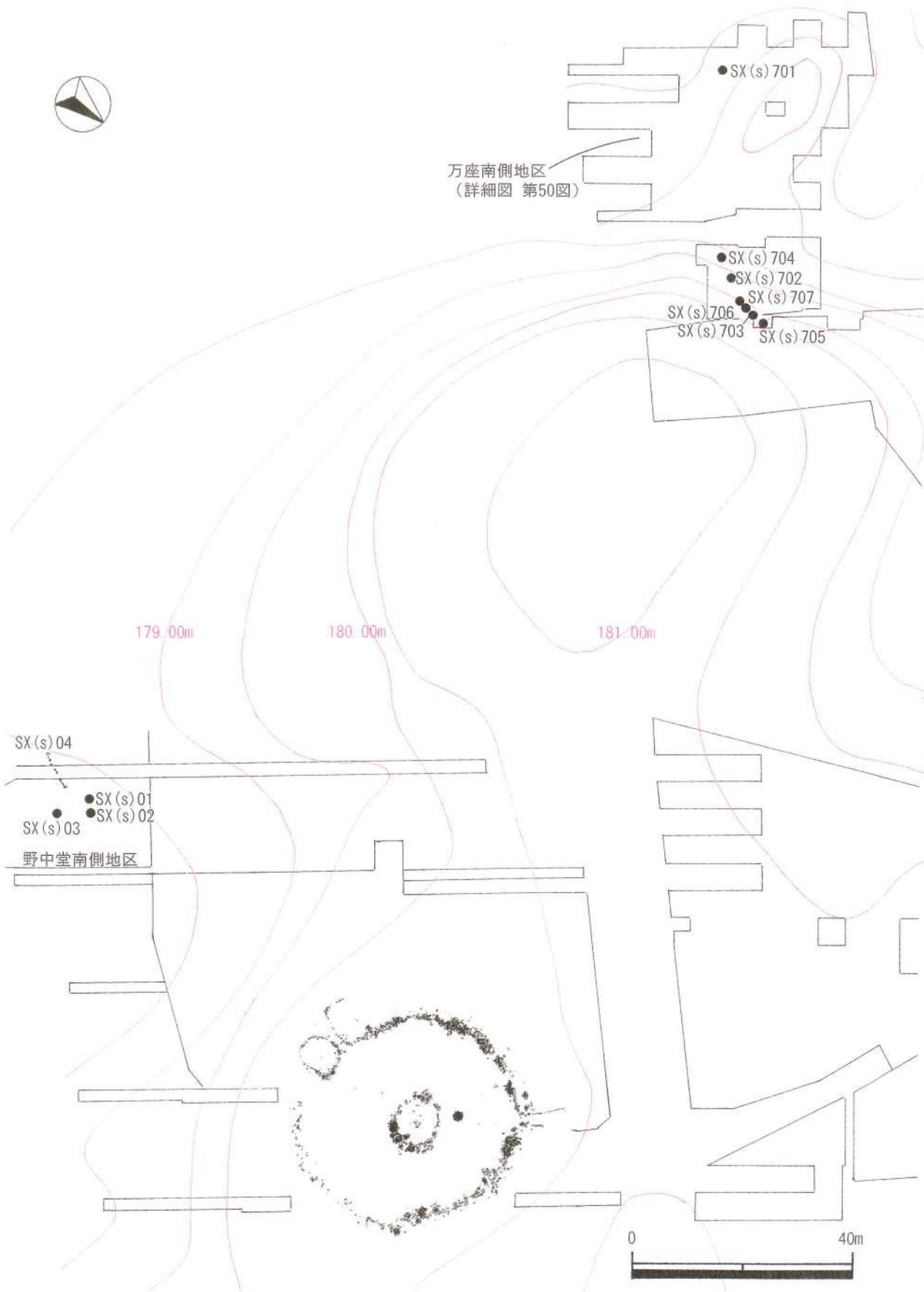
3基の配石遺構が5m四方の範囲に集合している。配石群南側には配石列が存在する。



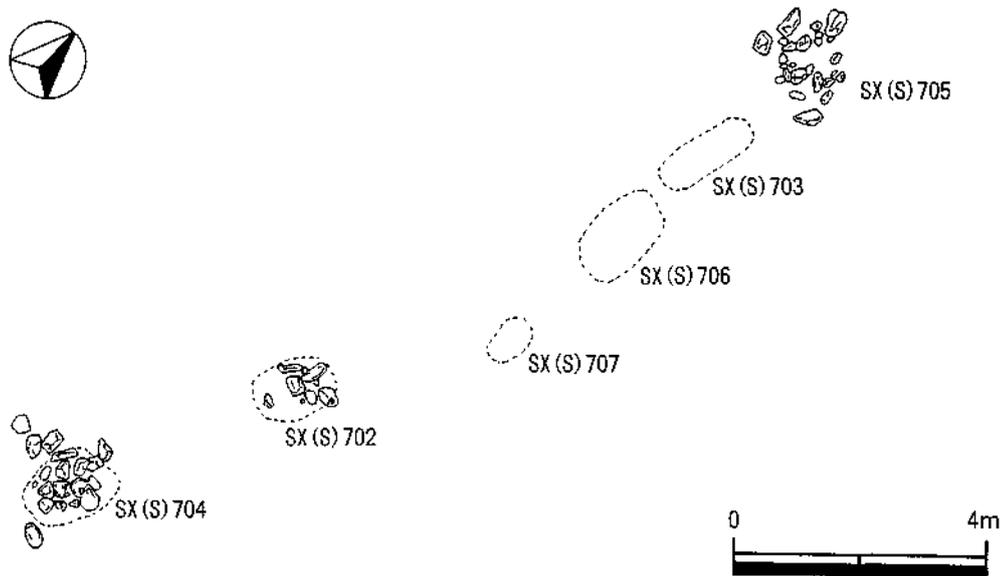
第47図 万座隣接地配石遺構分布図



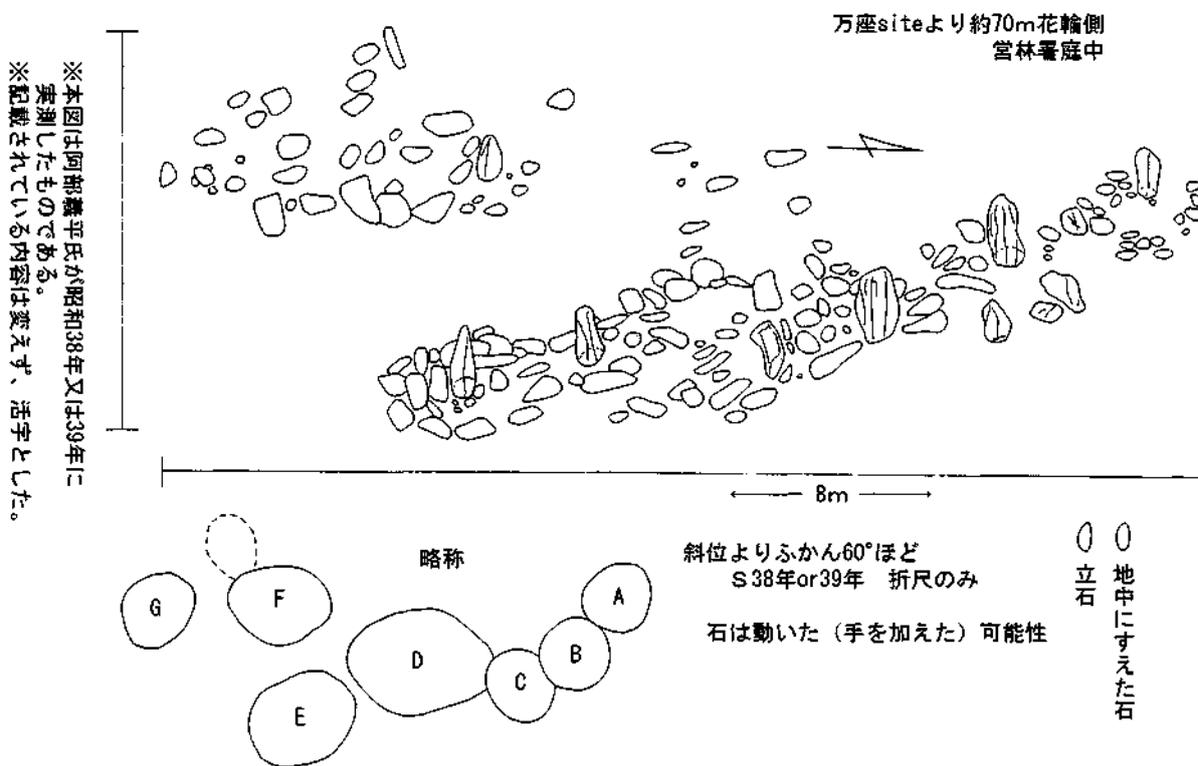
第48図 万座北側地区配石遺構分布図



第49図 万座南側・野中堂南側地区配石遺構分布図



第50図 万座南側地区配石遺構実測図



第51図 万座南側地区配石遺構分布図

一本木後口地区

配石遺構は、弧状列石を境界として外帯（弧状列石の外側）と内帯（弧状列石の内側）とに区画される。これは外帯配石1基とこれに対応する内帯配石4〜6基（土坑を含むものもある）でグループを構成するもの6グループ、内帯配石のみで構成するもの4グループの計10グループに分割することができ、これらがある程度の間隔を保ちながら大きな弧を描くように連続している。



第52図 野中堂南側地区配石遺構分布図

各グループ内での上部配石、下部土坑の配置をみると各グループ間にはまだ空白部があるものの重複するものがある。これは構築場所が任意ではなく、その範囲がかなり限定されていたことを示しているものと考えられる。各グループ間で共通する配石形態はⅠa類・Ⅲa類で、しかも外帯にはⅠa類の配石遺構が等間隔に配置されるという規則性を持っている。

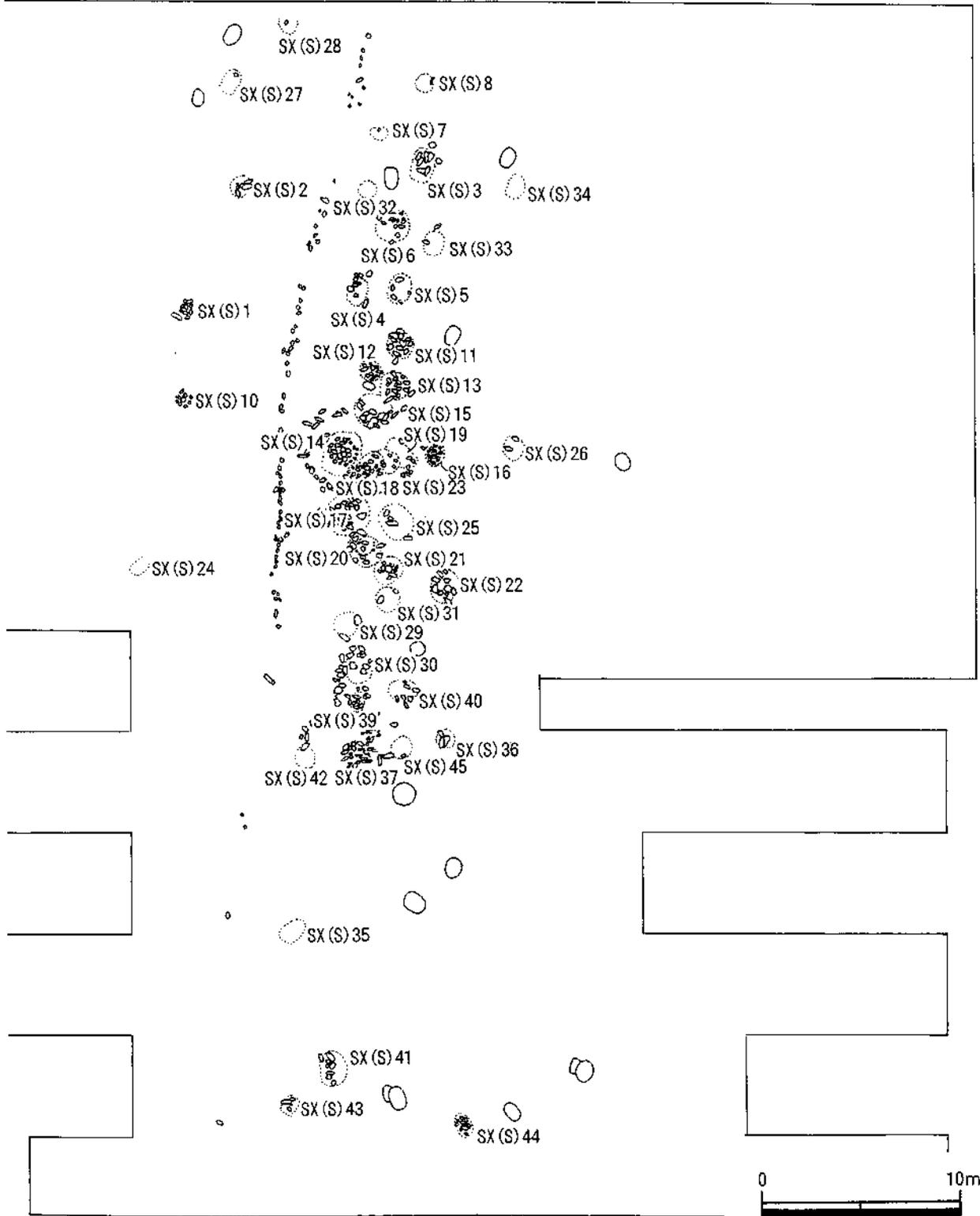
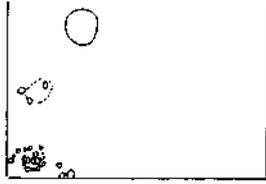
【ケ. 性 格】

配石遺構の形態は多種であり、しかもその下部に土坑を有するもの、有しないものが存在する。

配石下で確認された土坑の長軸は63cm～236cmを測る。規模が小さいものでも屈葬であれば埋葬可能な大きさである。また堆積土は人為に埋め戻されており、土坑内より甕棺土器や副葬品と判断される漆塗木製品、石鏃が出土したものもある。このようなことから配石遺構下に土坑を有するものについては「配石墓」と考えられる。

一方、配石遺構下に土坑を持たないものも存在する。万座隣接地・北側地区で確認した第605号、5号～8配石遺構は意図的に石が配置されており配石遺構として認識できる。しかし構築時期が後期中葉であること、隣接地に環状配石遺構が存在すること、石の配置の仕方は環状配石遺構の張り出し施設と類似しており、環状配石遺構の張り出し施設の可能性が高い。なお、これらが重複により環帯を失ったものか、構築途中であったかは確認できなかった。

上記以外にも土坑を有しない配石遺構が存在するが、それらについては性格を不明としなければならない。



第53図 一本木後口地区配石遺構分布図

第23表 配石遺構(万座隣接地)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	形態	配石規模(cm)	土坑規模(cm)	出土遺物 特記事項	重複関係	構築 時期
					配石形態 長軸×短軸	土坑形態 長軸×短軸×深さ 長軸方向・堆積状況			
1	SX(S)218 (報文4)	D1区 ZV-89	III d 層		楕円形 72×60	楕円形 106×78×32 ・人為	復元土器	Pit24→SX(S)218	前葉 ～ 中葉
2	SX(S)219 (報文4)	D1区 ZV-92	III b 下層		楕円形 90×68	楕円形 88×63×55 ・人為	土器片6点	SK245→SX(S)219	前葉 ～ 中葉
3	SX(S)221 (報文4)	D1区 ZX-92	III b 下層		楕円形 125×74	楕円形 109×88×55 ・人為	復元土器 線刻線		
4	SX(S)226 (報文5)	D2区 ZV-86	III c 上面		コ字配置 70×			Pit526→SX(S)226	
5	SX(S)229 (報文5)	D2区 ZY-85	III d 上 面			円形 66×64×21 ・人為			
6	SX(S)230 (報文5)	D2区 ZW-86 ZX-86・87	III c 上面		一辺300ほどの 方形			SK(F)306 →SX(S)230	
7	SX(S)303 (報文10)	D3区 YC-87	III d 上 面		160×120				
8	SX(S)405 (報文10)	D4区 ZW・ZV -94・95	III d 上 面		360×320				
9	SX(S)604 (報文11)	D6区 ZK-93	III d 上 面		円形・立石あり 140×	配石下に深さ60の土 坑をボーリングで確認	周辺から後期 前葉・中葉の土 器片	SX(F)631 →SX(S)604	
10	SX(S)605 (報文11)	D6区 ZK-92	III d 上 面		環状配石遺構の 張出部に類似		周辺から後期 前葉・中葉の土 器片	SX(F)603 →SX(S)605	

第24表 配石遺構(万座北側地区1)

No.	遺構名 (報文No)	調査区 グリッド	確認面	形態	配石規模(cm)	土坑規模(cm)	出土遺物 特記事項	重複関係	構築 時期
					配石形態 長軸×短軸	土坑形態 長軸×短軸×深さ 長軸方向・堆積状況			
1	SX(S)203 (報文4)	D1区 YI-93	Ⅲa 上面		コ字配置 70×70		土器片 10 数点		
2	SX(S)204 (報文4)	D1区 YI-93	Ⅲb 下層		楕円形 88×75	楕円形 129×103×49 ・人為	土器片 10 点 石鏃 2 ほか	Pit406→SX(S)204	後期 前葉
3	SX(S)205 (報文4)	D1区 YH-93	Ⅲa 上面		雑然と積 133×90	なし	土器片 石鏃、搔器 など		
4	SX(S)206 (報文4)	D1区 YG-93	Ⅲd 下層		円形 126×120	ボーリング調査によっ て土坑があるものと予 測された			後期 前葉
5	SX(S)213 (報文4)	D1区 YL-90	Ⅲd 下層			円形 × ×45 ・人為	土器片 23 点		後期 前葉
6	SX(S)226 (報文4)	D1区 YM-93	Ⅲb 層		62×50	隅丸方形 100×68		SX(S)226 と重複	
7	SX(S)403 (報文6)	F1区 R・S-103	Ⅲd 上層		土坑中央に石を 置く	楕円形 63×41×36 ・人為	土器片 3 点	Pit67~69 →SX(S)403	後期 前葉
8	SX(S)404 (報文6)	F1区 R-103・ 104	Ⅲd 上層		3個の石を置く	円形 79×70×23 ・人為			
9	SX(S)407 (報文6)	F1区 S-102	Ⅲd 上層		土坑中央に大き な石 2 個	円形 84× ×17 ・人為		SX(S)407 →SK434	後期 前葉
10	SX(S)408 (報文6)	F1区 R-101	Ⅲd 上層		底面と壁際に石 を置く	円形 70× ×23 ・人為			
11	SX(S)409 (報文6)	F1区 V-110	Ⅲd 上層		小礫がたくさん あり柱状のもの は立石か	楕円形 129×85×36 N-85-E・人為	土器片 15 点	SK405・406・409 →SX(S)409	後期 前葉
12	SX(S)901 (報文9)	F3区 YJ・YI -107	Ⅲd 上層		楕円形 100×90	なし			
13	SX(S)902 (報文9)	F3区 YI-107	Ⅲb 中位		並列並べ 70×50	なし			
14	SX(S)903 (報文9)	F3区 YJ-108	Ⅲb 中位		方形	なし			
15	SX(S)904 (報文9)	F3区 YI-108・ 109	Ⅲb 中位		52×70	なし			

第25表 配石遺構(万座北側地区2)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	形態	配石規模(cm)	土坑規模(cm)	出土遺物 特記事項	重複関係	構築 時期
					配石形態 長軸×短軸	土坑形態 長軸×短軸×深さ 長軸方向・堆積状況			
16	SX(S)911 (報文9)	F3区 YI-105	IIIb 上位		102×80	なし			
17	SX(S)906 (報文9)	D5区 ZX-101・ 102	IIIc 上層		260×100	未調査			
18	SX(S)5 (報文13)	F4区 YN・YM -99	IIIc層		方形 180×170	なし			
19	SX(S)6 (報文13)	F4区 YK-99 ・100	IIIc層		円形 140×	なし			
20	SX(S)7 (報文13)	F4区 YE-103	IIIc層		方形 120×95	なし			
21	SX(S)8 (報文13)	F4区 YM・YL -100	IIIc層		円形 80×	不明			
22	SX(S)9 (報文13)	F4区 YG・YF -101	IIIc層		楕円形 120×75				
23	SX(S)10 (報文13)	F4区 YK-95	IIIc層		円形に重なる 120×110	なし			
24	SX(S)11 (報文13)	F4区 YK-95	IIIc層		乱雑で不明				
25	SX(S)01 (報文14)	F5区 YT・YU -120	IIIc 上面			楕円形 86×60×20 N-24-E・人為			

第26表 配石遺構(万座南側地区)

No	遺構名 (報文No)	調査区 グリッド	確認面	形態	配石規模(cm)	土坑規模(cm)	出土遺物 特記事項	重複関係	構築 時期
					配石形態 長軸×短軸	土坑形態 長軸×短軸×深さ 長軸方向・堆積状況			
1	SX(S)701 (報文8)	G1区 ZA-55	III d1層		径60cmの範囲 に石を集合	円形 65×60×27 人為			後期 前葉
2	SX(S)702 (報文8)	G1区 ZA-63	III d2層		楕円形 110×75	楕円形 131×100×49 N-55-E・人為			後期 前葉
3	SX(S)703 (報文8)	G1区 ZB-64	III d2層		楕円形	小判形 145×55×62 N-6-E・人為			後期 前葉
4	SX(S)704 (報文8)	G1区 ZB-62	III d2層		楕円形 90×75	楕円形 154×80×60 N-27-E・人為			後期 前葉
5	SX(S)705 (報文8)	G1区 調査区外		日時 計状	楕円形 長軸90	ボーリング調査で土坑 を確認			後期 前葉
6	SX(S)706 (報文8)	G1区 ZB-64	III d2層		楕円形	楕円形 155×90×40 N-0-S・人為			後期 前葉
7	SX(S)707 (報文8)	G1区 ZB-64	III d2層			楕円形 73×52×37・人為			後期 前葉

第27表 配石遺構(野中堂南側地区)

No	遺構名 (報文No)	調査区 グリッド	確認面	形態	配石規模(cm)	土坑規模(cm)	出土遺物 特記事項	重複関係	構築 時期
					配石形態 長軸×短軸	土坑形態 長軸×短軸×深さ 長軸方向・堆積状況			
1	SX(S)1 (報文18)	B3区 W-82	III d'層 上面		菱形か 110×	楕円形 120×100×50 ・人為			後期 前葉
2	SX(S)2 (報文18)	B3区 X-82・83	III d'層 上面		楕円形 120×100	楕円形 140×110×60 ・人為			後期 前葉
3	SX(S)3 (報文18)	B3区 V・W-83	III d'層 上面		方形か 100×70	円形 ×50×66 ・人為	壙棺土器		後期 前葉

第28表 配石遺構(一本木後口地区1)

No.	遺構名 (報文No)	調査区 グリッド	確認面	形態	配石規模(cm)	土坑規模(cm)	出土遺物 特記事項	重複関係	構築 時期
					配石形態 長軸×短軸	土坑形態 長軸×短軸×深さ 長軸方向・堆積状況			
1	SX(S)1 (報文1)	A1区 P-10	Ⅲd 中 位	Ia	楕円形配列 109×62	楕円形 154×104×35 N-53-E・人為	土器片2		後期 前葉
2	SX(S)2 (報文1)	A1区 Q-12	Ⅲd 中 位	Ia	楕円形配列 ()×()	楕円形 113×82×46 N-69-E・人為			
3	SX(S)3 (報文1)	A1区 R・S-12	Ⅲd 下 位	Ⅲa	165×132	楕円形 165×98×72 N-51-E・人為	漆塗木製品2		
4	SX(S)4 (報文1)	A1区 R-11	Ⅲd 下 位	Ib	150×90	楕円形 131×90×70 N-54-E・人為	底面に赤色範 囲		後期 前葉
5	SX(S)5 (報文1)	A1区 R-11	Ⅲd 下 位	Ⅲa	158×108	楕円形 148×111×73 N-49-E・人為	底面に赤色範 囲		後期 前葉
6	SX(S)6 (報文1)	A1区 R-11・12	Ⅲd 下 位	Ⅲ	150×150	円形 152×150×70	土器片5 底面に赤色範 囲		後期 前葉
7	SX(S)7 (報文1)	A1区 R-12・13	Ⅲd 下 位		70×	円形 77×61×22 N-69-W・人為	底面に赤色範 囲		後期 前葉
8	SX(S)8 (報文1)	A1区 R-13	Ⅲd 下 位	Ⅲ	円形配列 (100)×	円形 101×92×50 N-50-E・人為	底面に赤色範 囲		後期 前葉
9	SX(S)9 (報文1)	A1区 B-14・15	Ⅲd 中 位		91×70		配石遺構群外		
10	SX(S)10 (報文2)	A2区 R-10	Ⅲd 下 位	Ia	楕円形配列 115×71	楕円形 125×101×61 N-64-E・人為	土器片2		
11	SX(S)11 (報文2)	A2区 R-10	Ⅲd 下 位	Ⅲa	円形配列 120×115	円形 127×125×70 N-57-E・人為	土器片4 底面に赤色範 囲		後期 前葉
12	SX(S)12 (報文2)	A2区 R-10	Ⅲd 下 位	Id	95×92	円形 108×101×55 N-49-E・人為	甕棺土器1 底面に赤色範 囲		後期 前葉
13	SX(S)13 (報文2)	A2区 R-10	Ⅲd 下 位	Ⅲb	167×152	楕円形 148×124×47 N-72-W・人為	土器片2 底面に赤色範 囲		後期 前葉
14	SX(S)14 (報文2)	A2区 Q・R -9・10	Ⅲd 下 位	Ic	350×350	隅丸長方形 236×175×53 N-56-E・人為	土器片5 底面に赤色範 囲	Pit1-SX(S)14 -SX(S) 15・17・18	後期 前葉
15	SX(S)15 (報文2)	A2区 R-9・10	Ⅲd 下 位	Ⅲ	150×	円形 184×184×87 N-0-S・人為	土器片7 底面に赤色範 囲	Pit2・4	後期 前葉

第29表 配石遺構(一本木後口地区2)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	形態	配石規模(cm)	土坑規模(cm)	出土遺物 特記事項	重複関係	構築 時期
					配石形態 長軸×短軸	土坑形態 長軸×短軸×深さ 長軸方向・堆積状況			
16	SX(S)16 (報文2)	A2区 R・S-9	Ⅲd 下 位	1b	楕円形配列 98×90	楕円形 106×84×52 N-46-E・人為	甕棺土器1 土器片4 底面に赤色範 囲		後期 前葉
17	SX(S)17 (報文2)	A2区 Q・R -8・9	Ⅲd 下 位	I	楕円形配列 200×150	楕円形 223×202×72 N-72-W・人為	土器片14 石鏃13 底面に赤色範 囲	SX(S)14→SX(S) 17→SX(S)20	後期 前葉
18	SX(S)18 (報文2)	A2区 R-10	Ⅲd 下 位	Ⅲ	楕円形配列 201×104	楕円形 180×114×25 N-82-W・人為	深鉢形土器1 土器片24	SX(S)14・23 →SX(S)18	後期 前葉
19	SX(S)19 (報文2)	A2区 R-9	Ⅲd 下 位	Ⅲ		楕円形 175×92×26 N-12-W・人為	土器片4	SX(S)19 →SX(S)23	後期 前葉
20	SX(S)20 (報文2)	A2区 R-8・9	Ⅲd 下 位	Ic	198×185	楕円形 157×128×83 N-62-E・人為	土器片7 底面に赤色範 囲	SX(S)17 →SX(S)20	後期 前葉
21	SX(S)21 (報文2)	A2区 R-8	Ⅲd 下 位	Ic	98×94	楕円形 154×132×58 N-84-E・人為	底面に赤色範 囲		後期 前葉
22	SX(S)22 (報文2)	A2区 R・S-8	Ⅲd 下 位	Ⅲ	138×130	楕円形 164×115×67 N-59-E・人為	底面に赤色範 囲		後期 前葉
23	SX(S)23 (報文2)	A2区 R-9	Ⅲd 下 位			円形 124×115×81 N-0-S・人為	土器片6 底面に赤色範 囲	SX(S)19→SX(S) 23→SX(S)18	後期 前葉
24	SX(S)24 (報文2)	A2区 P-8	Ⅲd 下 位	Ia	楕円形配列 70×50	楕円形 95×63×55 N-82-W・人為	土器片1		後期 前葉
25	SX(S)25 (報文2)	A2区 R-8・9	Ⅲd 下 位	I		楕円形 181×158×60 N-45-E・人為	土器片7 底面に赤色範 囲		後期 前葉
26	SX(S)26 (報文2)	A2区 S-9	Ⅲd 下 位	Ⅱb		円形 113×103×55 N-35-E・人為	土器片1 底面に赤色範 囲		後期 前葉
27	SX(S)27 (報文2)	A2区 P・Q-13	Ⅲd 下 位	Ia	73×67	楕円形 124×98×28 N-60-E・人為	底面に赤色範 囲		後期 前葉
28	SX(S)28 (報文2)	A2区 Q-13・14	Ⅲd 下 位	Ia		楕円形 120×92×38 N-29-E・人為			後期 前葉
29	SX(S)29 (報文2)	A2区 R-7・8	Ⅲd 下 位	Ⅲ		楕円形 123×102×57 N-70-W・人為	土器片1	昭和51年X地域 7号遺構	後期 前葉

第30表 配石遺構(一本木後口地区3)

No.	遺構名 (報文No)	調査区 グリッド	確認面	形態	配石規模(cm)	土坑規模(cm)	出土遺物 特記事項	重複関係	構築 時期
					配石形態 長軸×短軸	土坑形態 長軸×短軸×深さ 長軸方向・堆積状況			
30	SX(S)30 (報文2)	A2区 R-7	Ⅲd 下 位	Ⅲa		楕円形 153×119×72 N-44-E・人為	石鎌1 底面に赤色・砂 鉄範囲	昭和51年X地域 6号遺構	後期 前葉
31	SX(S)31 (報文2)	A2区 R-8	Ⅲd 下 位	Ⅲ		円形 132×120×61 N-83-E・人為	底面に赤色範 囲		後期 前葉
32	SX(S)32 (報文2)	A1区 R-12	Ⅲd 下 位	I		円形 86×82×44 N-71-W・人為			後期 前葉
33	SX(S)33 (報文2)	A1区 R・S-11	Ⅲd 下 位	Ⅲ		楕円形 118×100×51 N-42-E・人為			後期 前葉
34	SX(S)34 (報文2)	A1区 S-12	Ⅲd 下 位	Ⅲ		楕円形 112×82×35 N-52-E・人為			後期 前葉
35	SX(S)35 (報文3)	A3区 Q-4・5	Ⅳ層上 面	Ia		楕円形 127×94×40 W-E・人為	底面に赤色範 囲		後期 前葉
36	SX(S)36 (報文3)	A3区 R・S-6・7	Ⅳ層上 面			円形 90×83×50 N-38-E・人為	土器片4		後期 前葉
37	SX(S)37 (報文3)	A3区 R-6	Ⅳ層上 面	I	170×150	楕円形 157×117×64 N-27-E・人為	底面に赤色範 囲		後期 前葉
38	SX(S)38 (報文3)	A3区 R-7	Ⅲ層下 位	Ia		楕円形 88×62×41 N-55-E・人為	土器片1	昭和51年X地域 5号遺構	後期 前葉
39	SX(S)40 (報文3)	A3区 R-7	Ⅳ層上 面	Ⅱa	円形配置	楕円形 143×105×55 N-55-W・人為	土器片4 底面に赤色範 囲	昭和51年X地域 1号遺構	後期 前葉
40	SX(S)41 (報文3)	A3区 Q・R-7	Ⅲd	I		楕円形 179×146×67 N-24-E・人為	底面に赤色範 囲		後期 前葉
41	SX(S)42 (報文3)	A3区 Q-6	Ⅳ層上 面			円形 106×96×33 N-37-E・人為			後期 前葉
42	SX(S)43 (報文3)	A3区 R-2	Ⅲd 下 位	Ⅱc	75×60	隅丸方形 103×74×38 N-74-E・人為	土器片3		後期 前葉
43	SX(S)44 (報文3)	A3区 S-3	Ⅲd	Ia	80×75	楕円形 118×82×66 N-15-E・人為	底面に赤色範 囲		後期 前葉
44	SX(S)45 (報文3)	A3区 R-6	Ⅳ層上 面			楕円形・113×102×25 N-70-E・人為	土器片1		後期 前葉

(4) 集石遺構 (第54～56図、第31表)

これまでに13基の集石遺構が検出されている。このなかには調査当初、配石遺構として認定したものも含まれている。

【ア. 形態】

集石遺構下の土坑の有無によって分類した。

I類 拳大から人頭大の扁平な川原石を集合させたもので、下部に土坑を持つもの

II類 拳大から人頭大の扁平な川原石を集合させたもので、下部に土坑を持たないもの

万座北側地区

検出された集石遺構はすべて本地区からである。I類が3基、II類が10基である。

【イ. 規模】

万座北側地区

集石遺構の最も大きいものは第304号配石遺構の長軸310cm×短軸150cm、最も小さいものは第02号集石遺構の長軸70cmである。土坑を持つものは3基で、集石遺構と同一平面形で長軸(直径)90cm～150cmの規模である。

【ウ. 確認面と構築面】

万座北側地区

小礫が山積みされた第304号配石遺構は、基本層序Ⅲc層上面において確認される。そのほかのものはⅢd層内で確認される。いずれも構築面はⅢd層内である。

【エ. 堆積状況】

万座北側地区

集石内にはⅢc層が石の隙間に入り込んでいる。土坑は人為に埋め戻されて、埋まりきった状況で石が積み上げられている。

【オ. 出土遺物】

万座北側地区

第214号集石遺構のように多量の土器片を出土するものもある。深鉢形土器を主体に、主文様として沈線文や帯縄文による曲線文が施文されている。また第406集石遺構の集石内からは沈線で曲線文が施文された小型壺形土器が出土した。なお、本地区北部(F5区)に占地する集石遺構群第02号～08号集石遺構周辺からは遺物はほとんど出土しなかった。

【カ. 重複関係】

万座北側地区

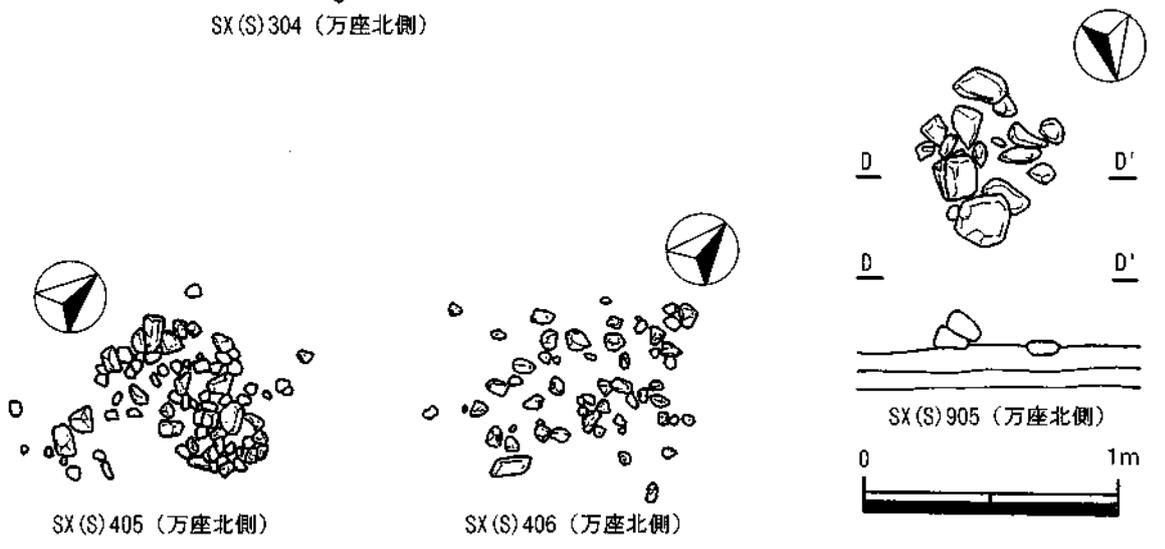
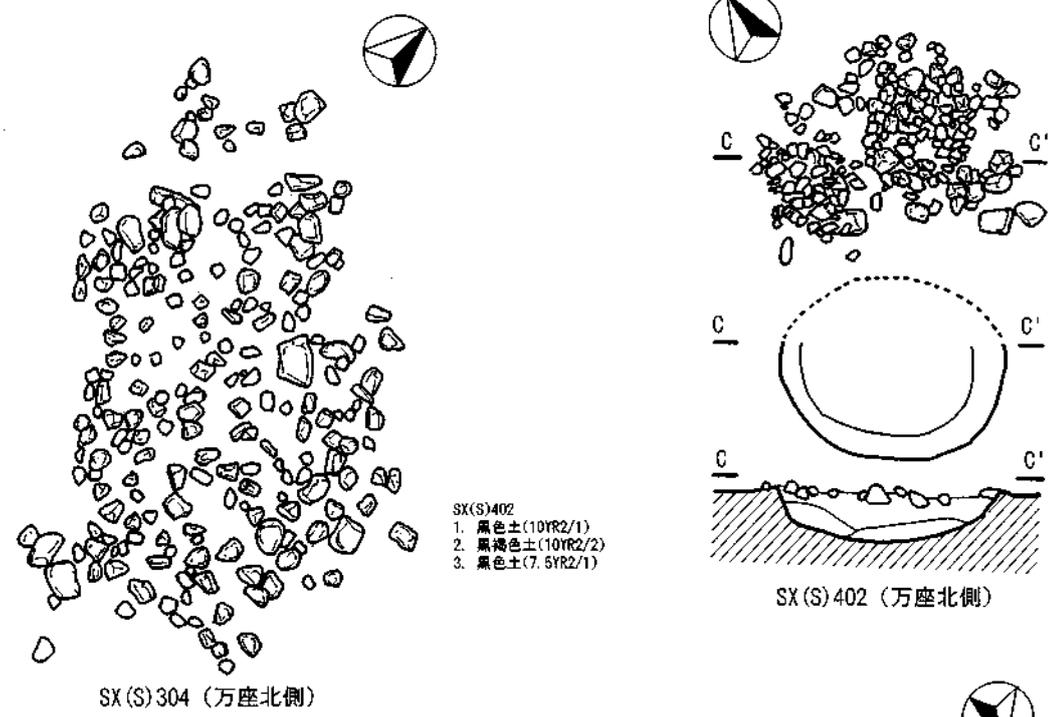
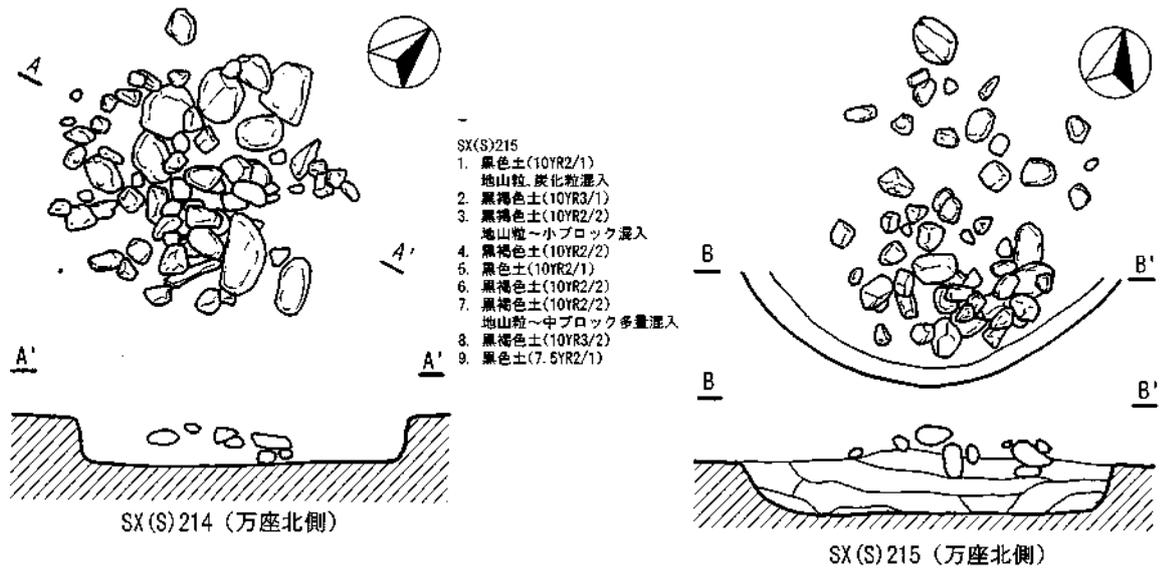
焼土遺構 SX(S)215→SX(f)216(D1区)

土坑 SK409→SX(S)402(F1区)

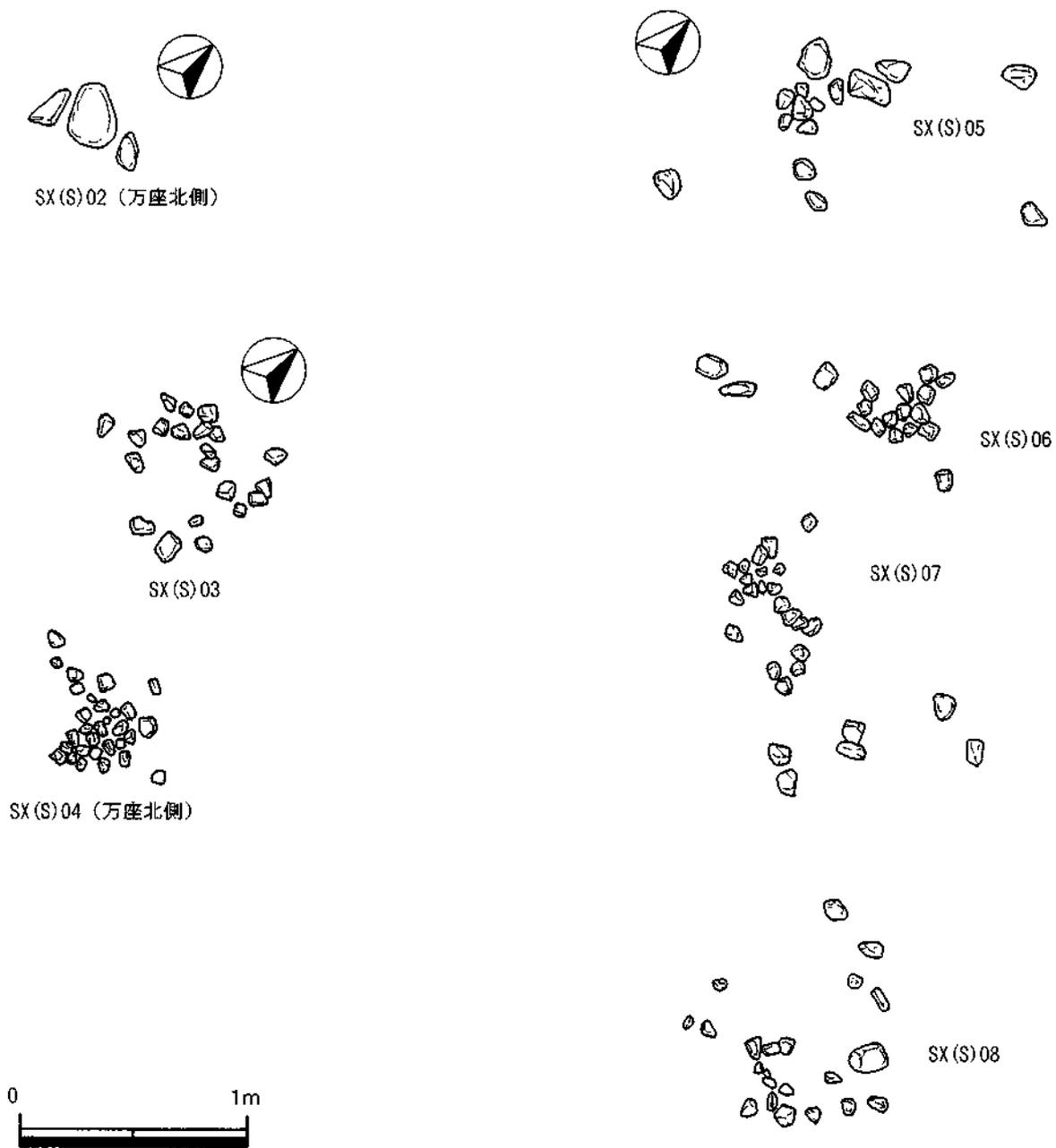
【キ. 時期】

万座北側地区

遺構内出土土器は後期前葉・十腰内I式土器の特徴を持っておりこの時期が与えられる。北部の集



第54図 集石遺構実測図(1)



第55図 集石遺構実測図（2）

石遺構遺構群も遺構確認面からほぼこの時期に構築されたものと考えられる。

【ク. 分 布】

万座北側地区

万座環状列石の北側地区に偏在している。同地区北部に7基から構成されるグループがみられるが、そのほかは点在している。

【ケ. 性 格】

性格を直接知りうる資料に乏しい。使用される石材の大きさや石の配置に意図がみられないが、集石下部に人為的に埋め戻された土坑を有することから、土坑を有するものは「集石墓」と考えられる。それ以外については不明である。



第56図 集石遺構分布図

第31表 集石遺構 (万座北側地区)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	集石規模 (cm) 長軸×短軸	下部土坑規模 長軸×短軸 深さ	石材	出土遺物	重複関係 備考	時期
1	SX(S)214 (報文4)	D1区 YJ-92	Ⅲd 下位	157×145			土器片 227点 石鏃・凹石 1点 搔器 1点、円盤状 土製品 1点	石に加熱を受けた痕 跡あり	後期 前葉
2	SX(S)215 (報文4)	D1区 YI-92	Ⅲd 層	155×145	200×27		土器片 5点	SX(s)215→SX(s)216	後期 前葉
3	SX(S)402 (報文6)	F1区 V-110	Ⅲd 層	138×	112× 25		土器片 11点 搔器 2点	Sk409→SX(s)402	後期 前葉
4	SX(S)405 (報文6)	F1区 S-107	Ⅲd 上面	93×70	未調査				後期 前葉
5	SX(S)406 (報文6)	F1区 S-104	Ⅲd 上面	128×98	未調査		壺形土器 1点		後期 前葉
6	SX(S)905 (報文9)	F3区 YM-105	Ⅲd 上面	90×72		石英閃緑玢 岩、凝灰岩			後期
7	SX(S)02 (報文14)	F5区 YT-119	Ⅲd 上面			石英閃緑玢 岩			後期
8	SX(S)03 (報文14)	F5区 YT-119	Ⅲd 上面	100×100		凝灰岩 石英安山岩 砂岩	凹石 1点		後期
9	SX(S)04 (報文14)	F5区 YT-119	Ⅲd 上面	60×		凝灰岩 石英安山岩 砂岩			後期
10	SX(S)05 (報文14)	F5区 YR-118	Ⅲd 上面	80×40		凝灰岩 石英安山岩 砂岩			後期
11	SX(S)05 (報文14)	F5区 YR-118	Ⅲd 上面	52×52		凝灰岩 石英安山岩 砂岩			後期
12	SX(S)07 (報文14)	F5区 YR-118	Ⅲd 上面	76×47		凝灰岩 石英安山岩 砂岩			後期
13	SX(S)08 (報文14)	F5区 YQ-120	Ⅲd 上面	80×80		凝灰岩 石英安山岩 砂岩			後期

(5) 配石列 (第57～61図、第32～36表)

これまでに16列の配石列を検出した。そのうち8列は万座・野中堂環状列石に付設された出入口状施設である。なお、列石に敷設された出入口状施設については環状列石の項でその概要を記しているの
で除外する。

【ア. 形態】

石の配置によって分類することができる。

I類 拳大～人頭大の比較的細長い川原石を使用する。石の長軸を接続させ、石の短軸方向を立てたもの(横立石)である。

II類 石の短軸を連結させるもの。

III類 比較的大きな川原石を立石として使用するもの。

IV類 人頭大より小さめの球及び扁平な川原石を使用したもので、石の設置方法には規則性が見当たらない。一本木後口地区で検出された「弧状列石」がこれにあたる。

万座隣接地

I類のもの3列、III類もの1列が検出されている。第602号配石列はI類で、配石列中ほどに石囲炉を有し、第606号配石列と一体となる可能性を持っている。第404号配石列はIII類で長さ88mを測り、検出されたものでは最長である。配石列の先端部は屈曲、枝分かれする部分(第11次調査報告書では環状配石遺構とした)が3か所ある。最も先端部に近いものには比較的大きな細長の平石を方形に敷き詰めた施設SX(S)405があるが本配石列に伴うものかは判断できなかった。

万座北側地区

I類のものが2列検出されている。第12号配石遺構(配石列)は拳大よりやや大きめの石の長軸を連結したもので、先端部が矢印状となっている。

野中堂南側地区

II類のものが1列検出されている。第01号配石列は扁平な石の短軸をそろえ、平置き連結させたもので、南端部の石は立石となっている。

一本木後口地区

IV類のものが1列検出されている。拳大～人頭大の円礫・細長石を連結させているが、その設置方法には規則性が見当たらない。

【イ. 規模】

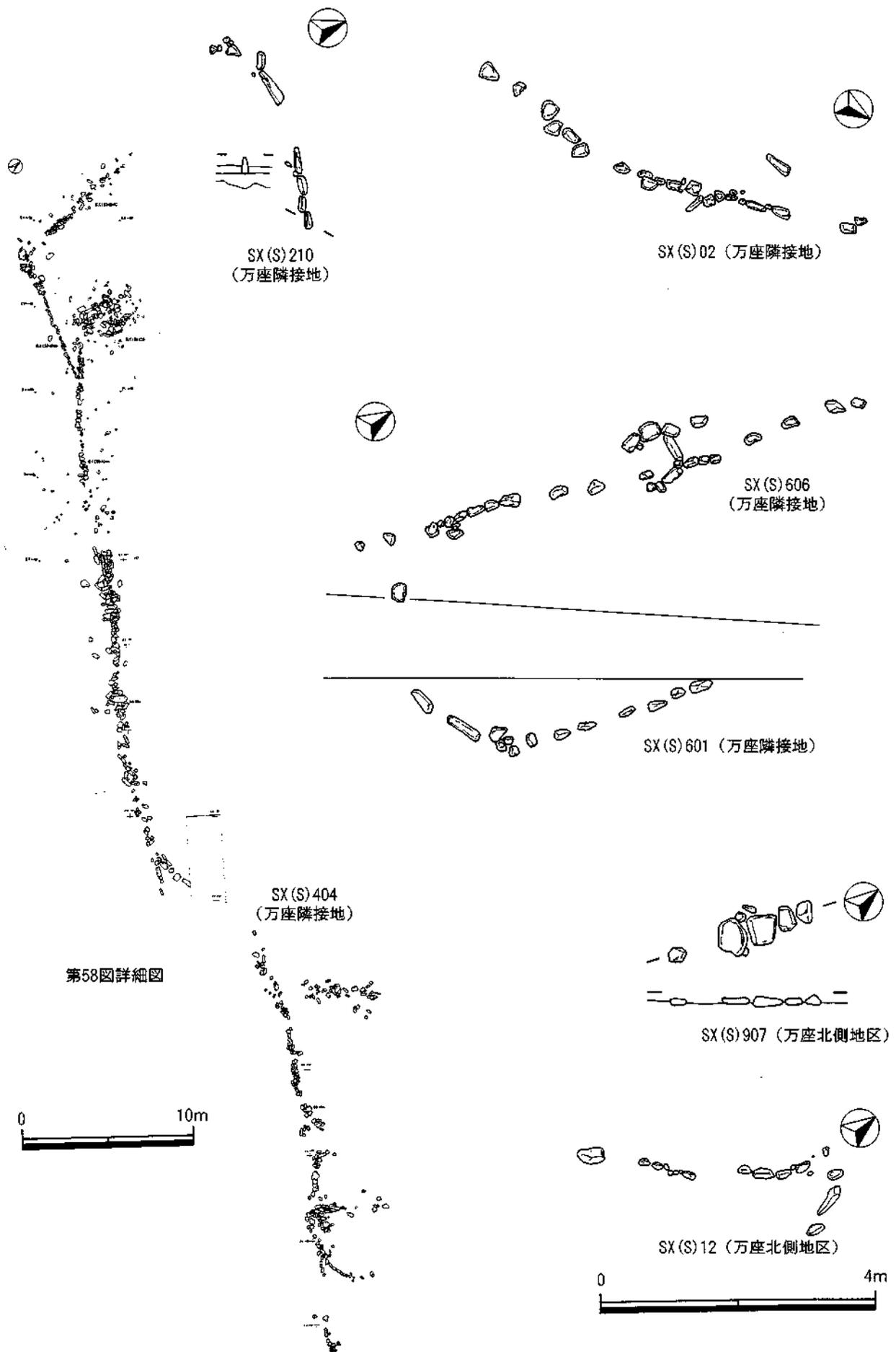
形態によって規模に違いがある。I類には短いもの、III類は長いものがみられる。最も規模(長さ)が大きいののは第404号配石列で全長88mを測る。

万座隣接地

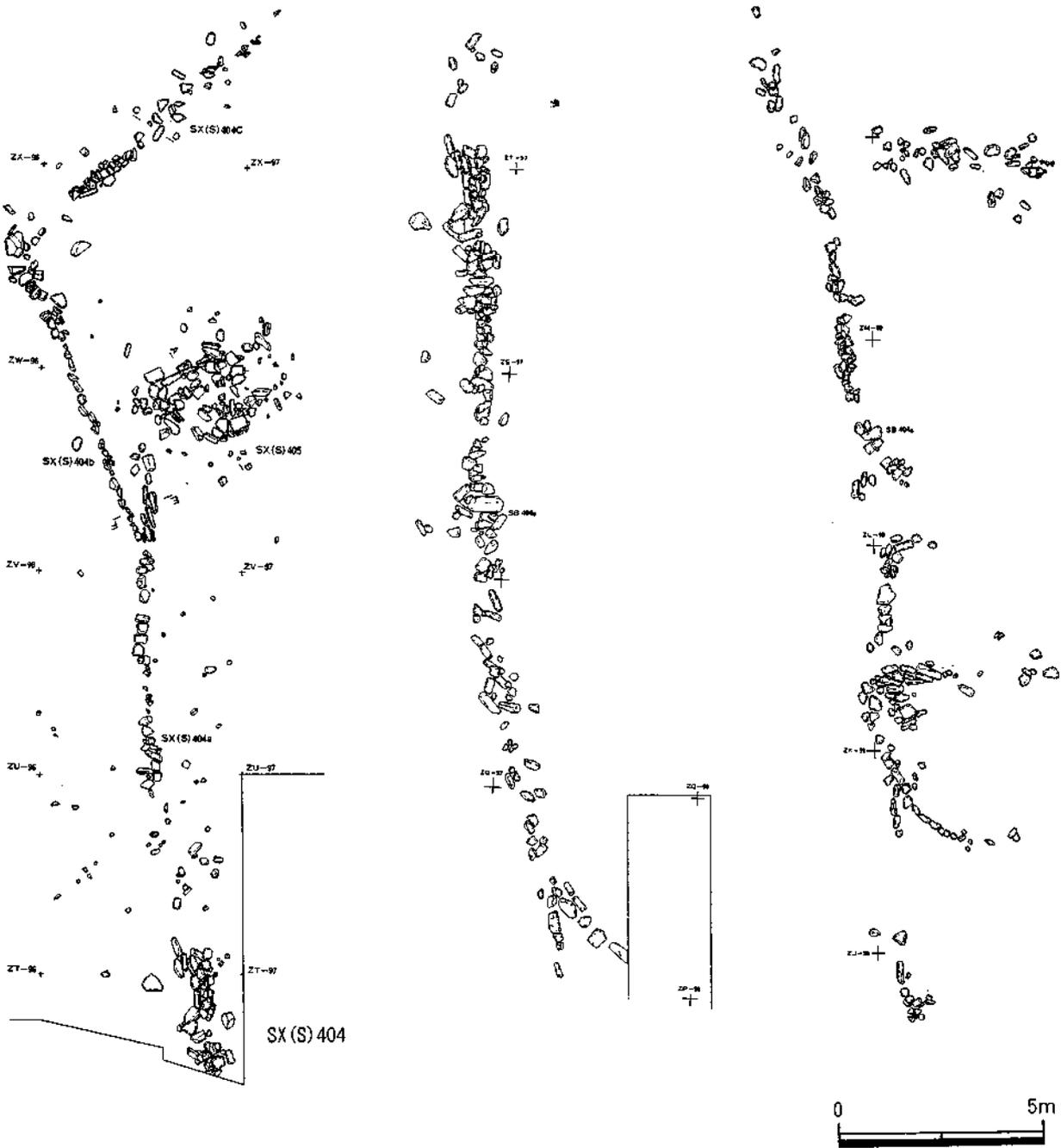
第404号配石列が最も大きく全長88mを測り、配石列先端部に接するように確認された施設は方形を呈し、規模300cm×200cmを測る。

万座北側地区

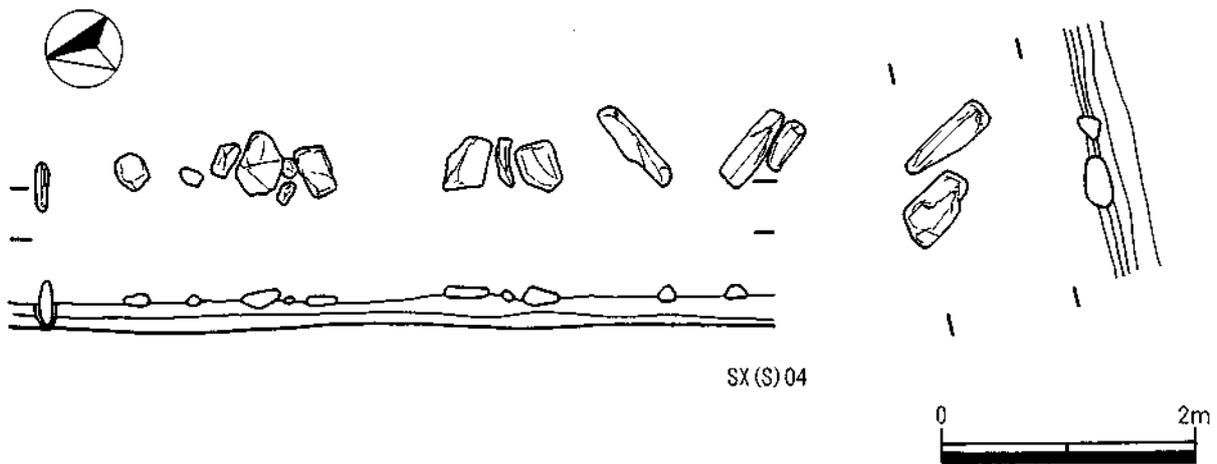
第907号配石遺構(配石列)は長さ2.2m、第12号配石遺構は4.0mを測る。



第57図 配石列実測図 (万座隣接地1・万座北側地区)



第58图 配石列实测图（万座隣接地2）



第59图 配石列实测图（野中堂南侧地区）

野中堂南側地区

第01号配石列は長さ7.36mを測る。

一本木後口地区

長さ33.00mを測る。

【ウ. 確認面と構築面】

万座隣接地

第404号配石列は立石を中心としたもので、転倒を免れたものは基本層序Ⅱ層上面でその石の露頭が確認された。第601号・602号配石列はⅢc層上面に構築されている以外は、Ⅲd層上面が構築面となっている。

万座北側地区

第907号配石列はⅢd層、第12号配石列はⅢc層が構築面となっている。

野中堂南側隣接地

Ⅲd層上面が構築面となっており、南端部の立石はこの層を掘り抜き、Ⅴ層上面から据えられている。

一本木後口地区

Ⅲd層下面が構築面となっている。

【エ. 堆積状況】

万座隣接地

構築面の上層であるⅢc層、Ⅲb層が遺構を覆っていた。

万座北側地区

構築面の上層であるⅢc層、Ⅲb層が遺構を覆っていた。

野中堂隣接地の南側

構築面の上層であるⅢc層、Ⅲb層が遺構を覆っていた。

一本木後口地区

構築面の上層であるⅢc層が遺構を覆っていた。

【オ. 出土遺物】

万座隣接地

第404号配石列周辺より土器片が出土している。文様などは不明。

万座北側地区

第907号配石列周辺より後期前葉～中葉(十腰内Ⅰ式～Ⅱ式)の特徴を持った土器片が出土している。

野中堂南側地区

本遺構に伴う遺物は出土しなかった。

一本木後口地区

本遺構に伴う遺物は出土しなかった。

【カ. 重複関係】

史跡内に単独で占地する配石列で重複関係を示すものは1例である。

万座隣接地

石囲炉 SX(0)02とSX(S)606は一体となる。

Tピット SK(T)431→SX(S)404(D4区)

万座北側地区

重複関係なし

野中堂南側地区

重複関係なし

一本木後口地区

重複関係なし。同地区の配石遺構・土坑と有機的な関連を持っている。

【キ、時期】

万座隣接地

遺構検出面、配石列周辺からの出土遺物から後期前葉～中葉の時期と考えられる。

万座北側地区

遺構検出面、周辺からの出土遺物から後期前葉～中葉の時期と考えられる。

野中堂南側地区

周辺からの出土遺物、隣接する第03号配石遺構出土の甕棺土器から後期前葉・十腰内I式の時期と考えられる。

一本木後口地区

本地区で検出された配石列(弧状列石)は、前述したように配石墓・土坑墓とともに墓域を形成している。このことから後期前葉・十腰内I式の時期が与えられる。

【ク、分布】

万座隣接地

第404号配石列は万座環状列石との距離を保ち、東側から西側に向かうように配置されている。第601号配石列と第606号配石列は一体となる可能性があり、U字状の形態になるものと考えられる。

万座北側地区

万座北西部に入り込んだ沢頭部分に位置する。

野中堂南側地区

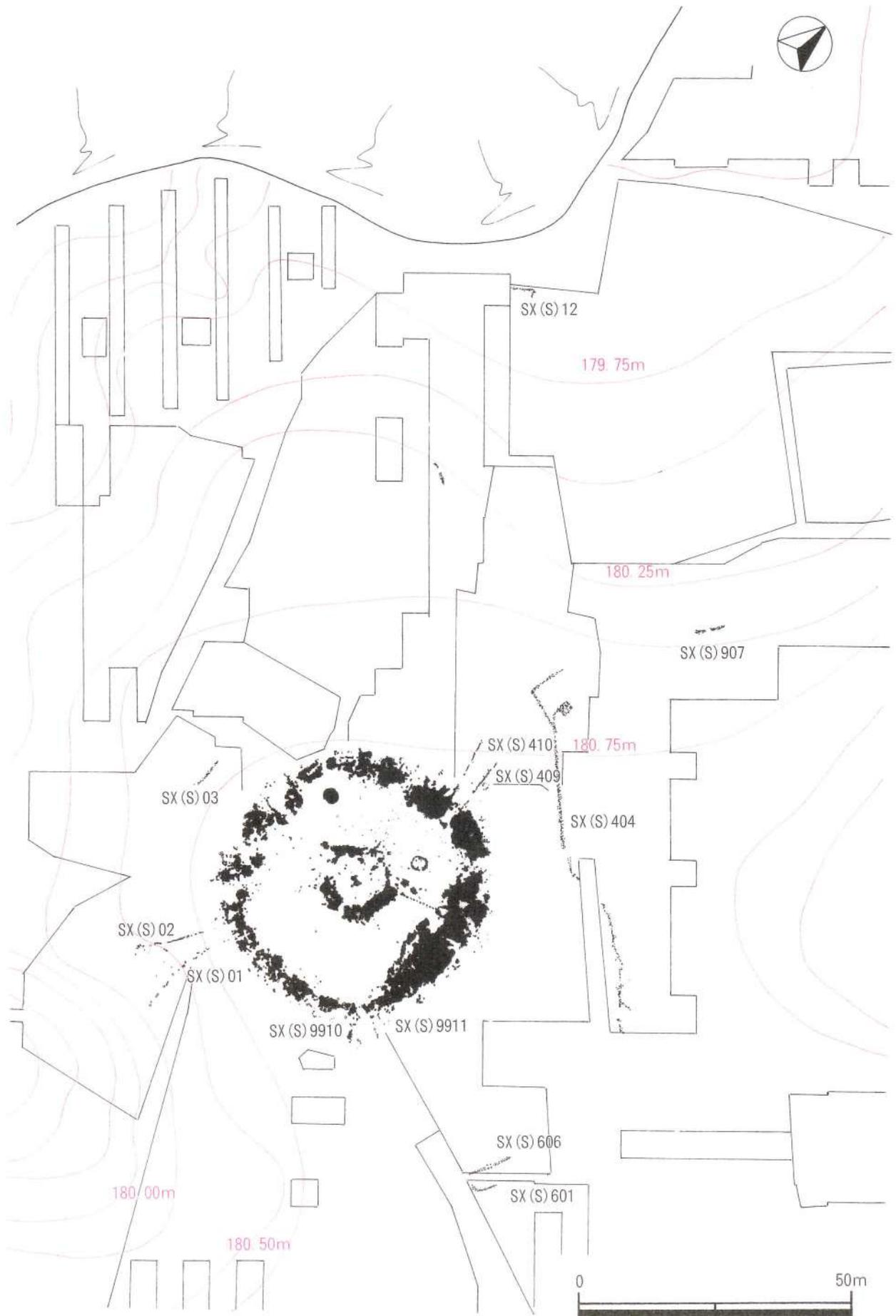
野中堂環状列石から南約58mの位置に南北方向を向くように直線的に構築されている。

一本木後口地区

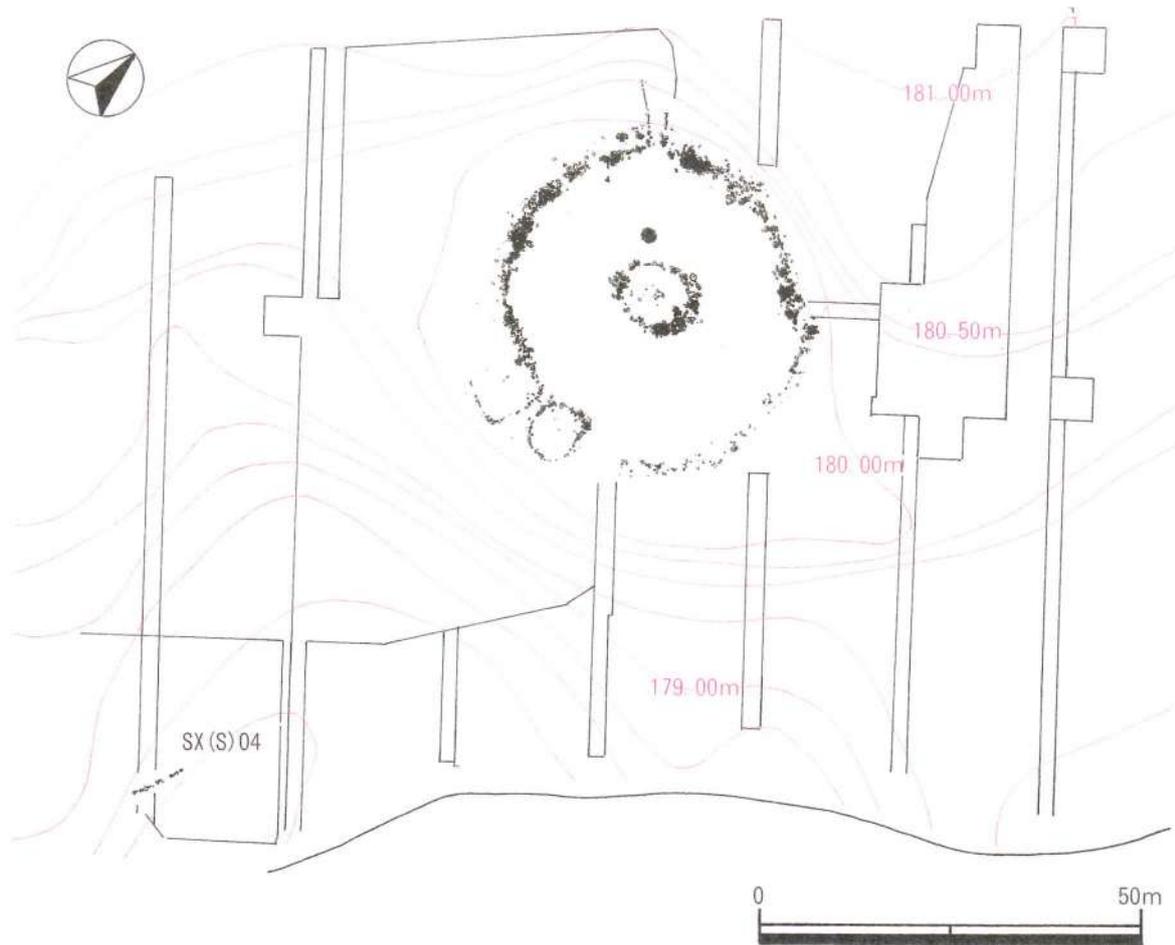
配石墓、土坑墓、配石列によって墓域が区画されており、これを内帯と外帯に区分するように縦断している。

【ケ、性格】

出土遺物から直接その性格を知る手がかりはない。何らかの目的があって直線的、曲線的に配置したものである。



第60图 配石列分布图（万座隣接地・万座北側地区）



第61図 配石列分布図（野中堂南側地区）

万座隣接地

隣接地部に存在するものは同列石から延びた出入口施設の延長線上に対して直交した配置を示しており、結界的な要素を持っていたものと推察することができる。

万座北側地区

区画を目的にしたものと考えられるが、何を区画したものかは不明である。

野中堂南側地区

配石列の北側に配石遺構群、さらにその前方に野中堂環状列石が位置する。この3者は構築時期が同時期のものであり関連性が示唆されるが、その区画目的については不明である。

一本木後口地区

最もその性格がはっきりとしているのが一本木後口の弧状列石である。この弧状列石は配石墓・土坑墓によって形成された墓域を外帯と内帯に二分する目的をもって構築されたものであり、万座・野中堂環状列石の二重円環の間に存在する空白部に通じるものである。

第32表 配石列 (万座隣接地)

No.	遺構名 (報文No.)	発掘区 グリッド	構築面	形態	規模 (長さ) 列石方位	使用される石 材	出土遺物	重複関係	構築時期 備考
1	SX(S)404 (報文10・11)	D4区・D6区	III d 上面	II	A列: 15.7m B列: 8.1m C列: 9.0m 本体: 4.9m	石英閃緑玢岩 ほか	土器片5点	SK(T)431 → SX(S)404 SX(S)405 とは一 体か	後期前葉～ 中葉
2	SX(S)409 (報文10・11)	D4区・D6区 ZV・ZT —93・94	III d 上面	I a	12m N—22—W	石英閃緑玢岩 凝灰岩 砂質凝灰岩		SB611 → SX(S)409	後期前葉～ 中葉 北側出入口
3	SX(S)410 (報文10・11)	D4区・D6区 ZU・ZT —93・94	III d 上面	I a	11m N—12—W	石英閃緑玢岩 凝灰岩 砂質凝灰岩		SB611 → SX(S)410	後期前葉～ 中葉 北側出入口
4	SX(S)601 (報文11)	D6区 ZE・ZF —94・95	III c 上面	I a	4.9m			SX(S)602 と一 体 か	後期前葉～ 中葉
5	SX(S)606 (報文11)	D6区 ZF—94・95	III c 上面	I a	6.0m 南側2.8m 北側4.2m			SX(O)02 と一 体 か	後期前葉～ 中葉
6	SX(S)01 (報文15)	D8区 ZM—81～84 ZN—80～82 ZO—81～83	III d 上面	I a	16.8m	石英閃緑玢岩 凝灰岩 砂質凝灰岩		SB02・SK(F)43 → SX(S)01	後期前葉～ 中葉 南側出入口
7	SX(S)02 (報文15)	D8区 ZM—81～84 ZN—80～82 ZO—81～83	III d 上面	I a	19.2m	石英閃緑玢岩 凝灰岩 砂質凝灰岩		SK(T)39 SK(F)25 →SX(S)02	後期前葉～ 中葉 南側出入口
8	SX(S)03 (報文15)	D8区 ZT・ZU —83～84	III d 上面	I a	6.0m	石英閃緑玢岩 凝灰岩 砂質凝灰岩			後期前葉
9	SX(S)9910 (報文16)	D区 ZJ・ZK—89		I a	5.4m	石英閃緑玢岩 ほか			後期前葉～ 中葉 東側出入口
10	SX(S)9911 (報文16)	D区 ZJ・ZK—89		I a	6.6m	石英閃緑玢岩 ほか			後期前葉～ 中葉 東側出入口

第33表 配石列 (万座北側地区)

No.	遺構名 (報文No.)	発掘区 グリッド	構築面	形態	規模 (長さ) 列石方位	使用される石 材	出土遺物	重複関係	構築時期 備考
1	SX(S)907 (報文9)	D5区 ZZ・ZY —101・102	III d 上面	I a	2.2m N-22-W	石英閃緑玢岩 ほか	土器片 88点		後期前葉～ 中葉
2	SX(S)12 (報文13)	F4区 YM—95・96	III c 層	I a	4m				後期

第34表 配石列 (野中堂隣接地)

No.	遺構名 (報文No.)	発掘区 グリッド	構築面	形態	規模 (長さ) 列石方位	使用される石 材	出土遺物	重複関係	構築時期 備考
1	SX(S)01 (報文17)	B2区 E-93 F-93・94	III d 上面	I a	6.4m	石英閃緑玢岩 石英安山岩 凝灰岩		SK171・SB205 →SX(S)01	後期前葉～ 中葉 北側出入口
2	SX(S)02 (報文18)	B4区 F・G-95	III d 上面	I a	3.6m				後期前葉～ 中葉 北側出入口

第35表 配石列 (野中堂南側地区)

No.	遺構名 (報文No.)	発掘区 グリッド	構築面	形態	規模 (長さ) 列石方位	使用される石 材	出土遺物	重複関係	構築時期 備考
1	SX(S)01 (報文18)	B3区 X-82・83・84	III d 上面	I a	7.36m	石英閃緑玢岩 石英安山岩 凝灰岩・軽石			後期前葉

第36表 配石列 (一本木後口地区)

No.	遺構名 (報文No.)	発掘区 グリッド	構築面	形態	規模 (長さ) 列石方位	使用される石 材	出土遺物	重複関係	構築時期 備考
1	弧状列石	A1区 Q-8～12 R-12～13	III d 下面		33m				6～7単位 が連続する

(6) 立石遺構 (第62～63図、第37～38表)

これまでに12基の立石遺構が検出されている。第04号立石遺構は配石遺構として分類が可能な規模を持っているが石の位置が下部ピットの中央にあること、構築時すでに下部ピットの底面に石が直に置かれたものと判断したことから立石遺構とした。

【ア. 形態】

基本的に1形態である。

I類 柱状の川原石をピットに立てたものである。石がピット底面から据えられるものと中程から据えられるものがある。遺構確認状況はいずれも同じである。

【イ. 規模】

最も小さいものは第223号立石遺構 (D1区)、最も大きいものは第04号立石遺構 (D7区) である。

万座隣接地

10基が検出されている。最も小さいものは223号立石遺構で使用された石の長さは12cmと小ぶりである。検出面からほんのわずかに石が露頭している状況であった。最も大きいものは04号配石遺構で、使用された石は大人二人でようやく動かせるほどのものであった。

万座北側地区

2基が検出されている。小ぶりのもので、石の長さ30cm程度、これを立てるピットも径23cm～28cmである。

【ウ. 確認面と構築面】

万座隣接地

確認面が判明しているものは第04号立石遺構で、基本層序Ⅱ層(火山灰層上面)で石頭を確認した。04号立石遺構の周辺部は万座環状列石構築時に行われた整地によってⅣ層が露頭しており、この層が構築面となっている。このほかについてはⅢd層が構築面となっている。

万座北側地区

第212号立石遺構の構築面はⅢc'層、第401号立石遺構はⅢd上面である。

【エ. 堆積状況】

万座隣接地、万座北側地区

立石が据えられるピットは人為的に埋め戻しが行われていた。石がピット底面から据えられるものと中程から据えられるものがあり、後者はピット規模も全体的にやや大きく、堆積土は数ブロックに区分された。

【エ. 出土遺物】

万座隣接地、同北側地区の遺構内から遺物は出土していない。

遺構周辺から後期前葉の土器片が出土している。

【オ. 重複関係】

万座隣接地

柱穴状ピット Pit5→SX(S)216 Pit15→SX(S)216 Pit91→SX(S)222

焼土遺構 SX(f)221→SX(S)222

フラスコ状土坑 SK(F)243→SX(S)224

重複関係を示したものにおいては、配石遺構が新しい。

万座北側地区

重複関係はみられなかった。

【カ. 時 期】

遺構の構築時期を知るうる資料に乏しい。遺構構築面と周辺の遺構・遺物から後期前葉と考えられる。

【キ. 分 布】

万座隣接地と同北側地区に分布する。

万座隣接地

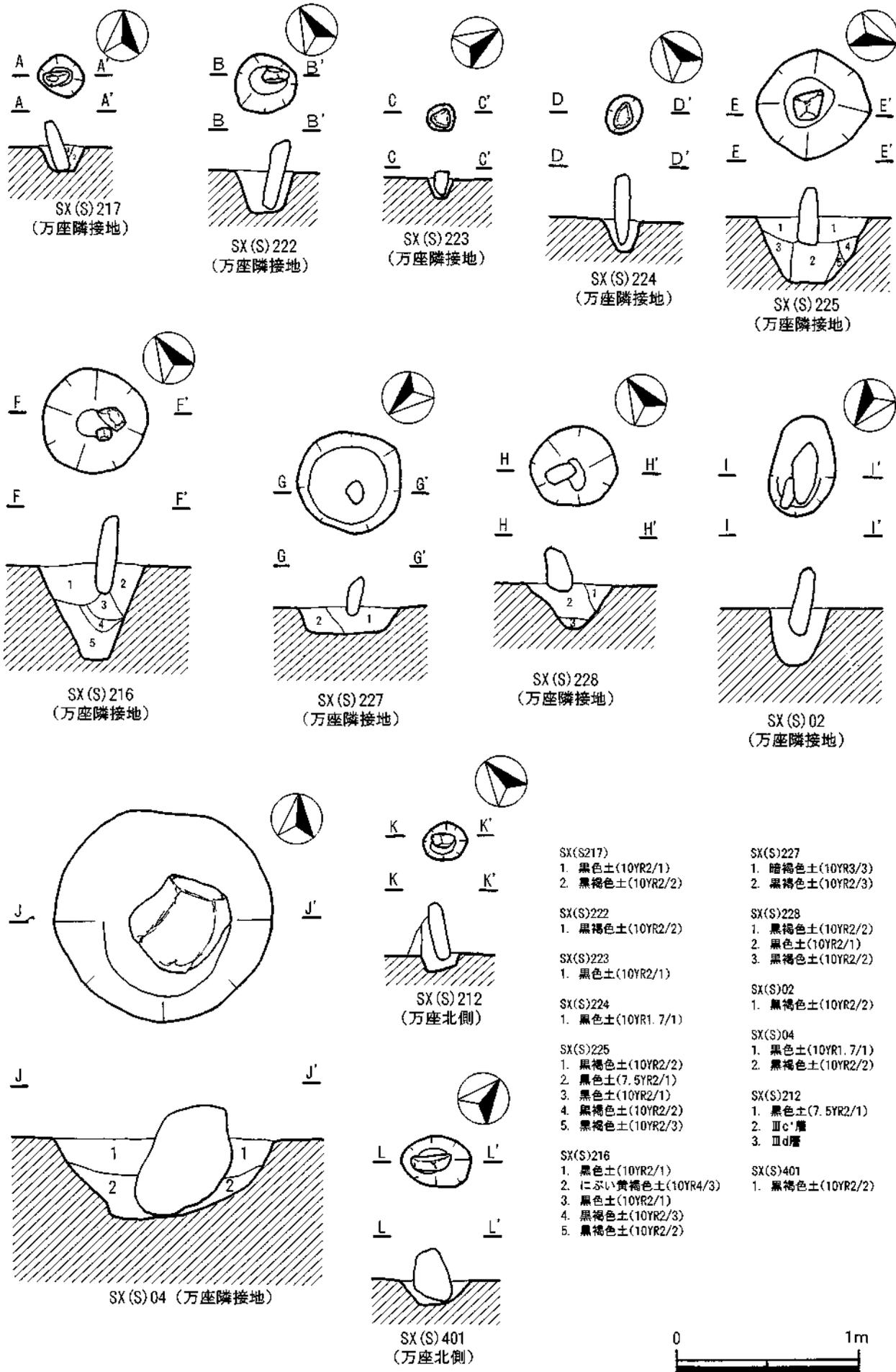
その多くが直線的な配置を示しながら列石北西側に集中する。この配置が意識的に行われたのか判断が難しい。

万座北側地区

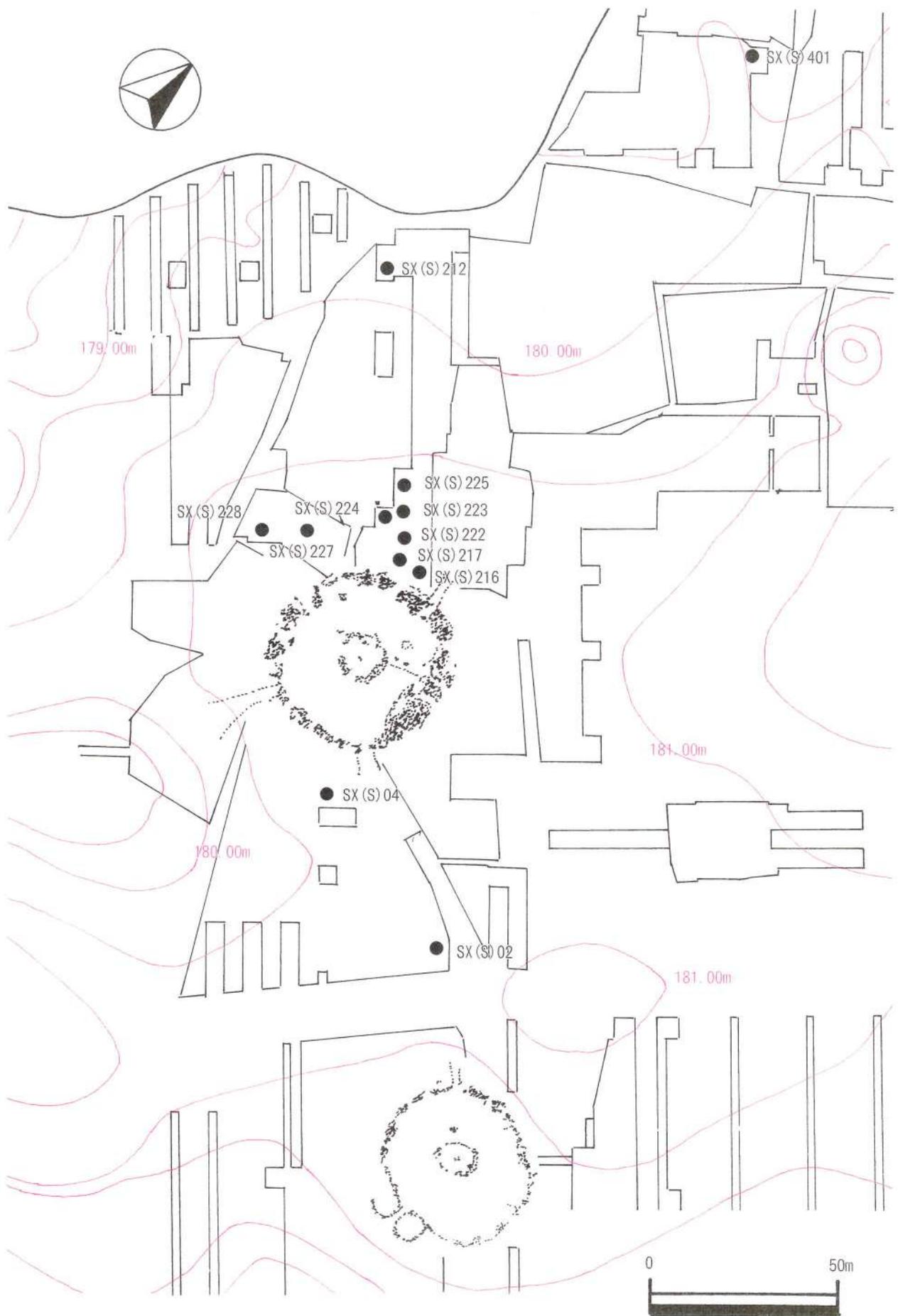
台地北西部に入り込んだ沢頭を挟み、位置する。

ク. 性 格

石を使用し、その下部に土坑(ピット)を有する点では配石遺構と類似性を持っている。しかし下部土坑(ピット)は埋葬可能な規模を有しておらず、基本的には柱状の石を据えるための規模しか備えていない。分布状況を観察すると直線的な配置がある。万座環状列石をはさみ北西←→南東に連なる6基の列と、万座環状列石の北西側で上記の列に直交する3基の列がある。列を成すという性格上、区画するという目的を持っていたものと推定できるが、その対象物がはっきりとしない。



第62図 立石遺構実測図



第63図 立石遺構分布図

第37表 立石遺構(万座隣接地)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	石の大きさ (長さ×幅)	ピットの規模 (長軸×短軸×深さ)	出土遺物	重複関係	構築時期
1	SX(S)216 (報文4)	D1区 ZU-92	Ⅲd 上面	42×	56×56×52		Pit5→SX(S)216	
2	SX(S)217 (報文4)	D1区 ZV-91	Ⅲd 上面	28×	23×20×14		Pit15→SX(S)216	
3	SX(S)222 (報文4)	D1区 ZW-91	Ⅲd 上面	36×	32×30×22		Pit91→SX(S)222 SX(φ)221 →SX(S)222	
4	SX(S)223 (報文4)	D1区 ZY-91	Ⅲd 上面	12×	14×14×10			
5	SX(S)224 (報文4)	D1区 ZX-90	Ⅲd 上面	37×	22×18×17		SX(φ)243 →SX(S)224	
6	SX(S)225 (報文4)	D1区 ZZ-91	Ⅲd 上面	29×	60×59×36			
7	SX(S)227 (報文5)	D2区 ZW-86	Ⅲd 上面	20×	57×57×16			
8	SX(S)228 (報文5)	D2区 ZW-83	Ⅲd 上面	26×	48×43×25			
9	SX(S)02 (報文12)	D7区 ZA-93	Ⅲd 上面	38×34	55×36×32			
10	SX(S)04 (報文12)	D7区 ZI-87	Ⅳ層上面	72×54	120×120×44			

第38表 立石遺構(万座北側地区)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	石の大きさ (長さ×幅)	ピットの規模 (長軸×短軸×深さ)	出土遺物	重複関係	構築時期
1	SX(S)212 (報文4)	D1区 YK-90	Ⅲc'層	30×	23×20×30			
2	SX(S)401 (報文6)	F1区 V-W-110	Ⅲd 上面	30×20	28×38×14			

3 柱穴状ピットと掘立柱建物跡・柱穴列

(1) 柱穴状ピット(第64～68図、第39表)

万座隣接地、北側地区、野中堂隣接地及び一本木後口地区から検出されている。掘立柱建物跡の柱配置を示すものも含め、その総数は2,608個である。各地区の検出数は第40表に、各ピットの深さ(確認面から)は第74図～80図、82図～83図に示した。

【ア. 形態】

全地区とも柱穴状ピットの平面形は円形を呈するものが多いが、楕円形・方形を呈するものもある。断面形は筒状もしくは逆台形状を呈する。

【イ. 規模】

径11cm～100cm以上を測る。21cm～60cmに1,511個が集中し、全体の約59%を占める。数量的には100cm以上を超えるものが100個あり、全体の約4%を占める。

深さはピット径が大きくなるほど深くなる傾向にあり、検出面から150cm程を測るものもある。

万座隣接地

検出されたピットは、径11cm～100cm以上を測る。数量的には21cm～70cmのものが多いが、特に径30cm～50cmに集約する。深さは40cm～60cmに集約する。ピット径・深さとも100cm以上を測るものは他地区と比べ飛びぬけて多い。掘立柱建物跡の柱配置を示した柱穴状ピット断面では20cm～50cmの柱痕が観察された。ピット径が大きくなるにしたがって柱痕も太くなる傾向がある。

万座北側地区

径11cm以下～100cmを測る。数量的には21cm～40cmのものが多く、万座隣接地と同じような規模分布を示す。掘立柱建物跡の柱配置を示したピット断面では18cm～52cmの柱痕が観察された。ピット径が大きくなるにしたがって柱痕も太くなる傾向がある。

万座西側地区

ピットの検出数は極端に少なくなる。規模は20cm～50cmのものが多い。径90cm以上を測るものは径22cm～49cmの柱痕が認められ、規模が大きいものは等間隔に配置され、柱穴列となる。

万座南側地区

径は40cm以下である。

野中堂隣接地

21cm～40cmに集中する傾向が見られる。万座隣接地のものと比較し、小ぶりなものが多い。掘立柱建物跡の柱配置を示した柱穴状ピット断面において20cm～50cmの柱痕が観察された。

一本木後口地区

径31cm～60cm、深さ36cm～74cmを測る。ピットの深さは他地区のものと比較し、浅いものが多い。

【ウ. 確認面と構築面】

万座隣接地

環状列石西側を中心として検出された柱穴状ピットは基本層序Ⅲd層、同東側・南東側では整地が行われておりIV層・V層が確認面となる地点もある。

万座北側地区

Ⅲd層が確認面及び構築面となる。

万座西側地区

規模の大きい柱穴状ピットは台地縁より内陸部にあることから確認面はⅢd層である。

万座南側地区

確認面はⅢd層である。

野中堂隣接地

Ⅲd層及びⅢd'層が確認面及び構築面となる。

一本木後口地区

ピットのほとんどは配石遺構精査時に確認され、構築(確認)面はⅢd下位である。

【エ. 堆積状況】

全地区とも、柱設置後その隙間に黒色土、黒褐色土、黄褐色土、これらの混合した土砂を埋め込んだもので、すべて人為堆積を示している。

柱痕を観察したところ土層断面は4つのタイプ(第64図)に分けられる。

タイプa : 柱痕が確認されないもの

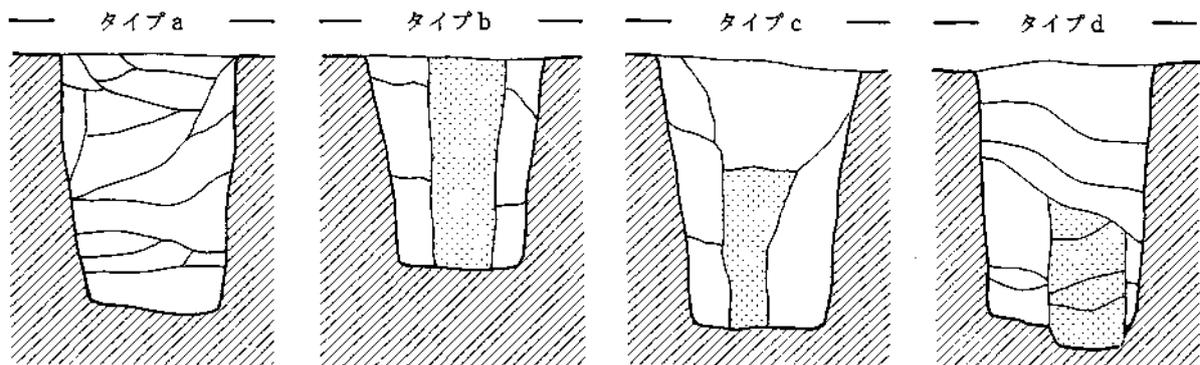
タイプb : 柱痕がほぼ真直ぐに立ち上がるもの

タイプc : 柱痕の上部が「ラップ状」に開くもの

タイプd : 柱痕が途中で切断された状況を示すもの

ピット内の埋め土の状況から、柱の抜き取り方法がある程度予測することができる。

タイプaについては、土層観察用のセクションの設置位置が妥当でなかったか、柱を抜き取るために柱穴状ピット内(埋め土)の土砂をすべて掘り上げないとこのような堆積状況を示すとは思えない。タイプbについては、柱を放置・腐食によって空洞化が進んだ状態に土砂が入り込んだものと想定される。また、タイプcは、柱を抜き取る際に柱を前後左右、又はローリングさせ埋め土と柱の間に空間を作りながら抜き取る方法を、タイプdについては柱の周りの土砂を取り除き、抜き取りあるいは切断後に窪地となったピットに再度土砂を埋め戻すという方法を用いたものと推察される。



※スクリーントーンは柱痕

第64図 柱穴状ピット断面模式図

【オ. 出土遺物】

万座隣接地

ピット内からの遺物の出土は極めて少ない。

ピット内より隆沈線、沈線文、帯縄文などにより楕円形文、曲線文、入組状曲線文が施文された後期前葉・十腰内Ⅰ式土器の特徴をもった土器片とともに、幅が広く節の細かな縄文による磨消縄文が施文された後期中葉・十腰内Ⅱ式～Ⅲ式土器の特徴をもった土器片が出土している。数量的には圧倒的に前者が多く隣接地全域より、後者は数量的には少なく列石東側隣接地から出土する。

土器とともに石鏃・石匙・磨製石斧などの石器類、鐔形土製品・土器片利用土製品などの土製品が出土している。

Pit29(D3区)からは無文の壺形土器、Pit88(D3区)からは沈線により土器内面口縁部に花卉状文を施文した浅鉢形土器が出土している。

万座北側地区

ピット内からの遺物の出土は極めて少ない。ピット内より沈線、帯縄文などにより楕円形文、曲線文、弧線文、入組状曲線文が施文された後期前葉・十腰内Ⅰ式土器の特徴を持った土器片が出土しており、後期中葉の土器片は含まれない。

土器片とともに鐔形土製品・土器片利用土製品、刻線された石製品が出土している。

万座西側地区

ピット内からは出土しなかった。

万座南側地区

ピット内からは出土しなかった。

野中堂隣接地

ピット内からの遺物の出土は極めて少ない。ピット内より沈線、帯縄文などにより曲線文、弧線文、入組曲線文が施文された後期前葉・十腰内Ⅰ式土器の特徴をもった土器片が出土している。後期中葉・十腰内Ⅱ式～Ⅲ式土器の特徴をもった土器片の出土数は万座隣接地と比べ少ない。

土器片とともに搔器・凹石・石錘などの石器類、土器片利用土製品が出土している。

Pit138(B2区)より無文の鉢形土器、Pit193(B2区)より蓋形土器が出土している。

一本木後口地区

遺物は出土しなかった。

【カ. 重複関係】

万座隣接地

遺構が密集する地区であり、多くの遺構と重複関係を示している。代表的なものを記載する。

環状配石遺構 Pit971・1038→SX(S)01(D7区)

配石遺構 Pit24→SX(S)218(D1区)

掘立柱建物跡 SB217→Pit63(D1区)

竪穴遺構 ST202→Pit168・272

焼土遺構	SK(F)242→Pit200・204→SX(f)224(D1区)
土坑	SK228→Pit329(D1区) SK313→Pit48(D3区) SK317→Pit9(D3区) SK45→SK46→Pit17(D7区)
フラスコ状土坑	SK(F)251→Pit283(D1区) SK(F)52→Pit13(D7区) SK(F)57→Pit21・98(D7区)

ピットについては、掘立柱建物跡の柱配置を見逃したのも含まれておりこれを考慮して重複関係を観察すると、ピットは環状配石遺構以後には列石隣接地に穿たれなかったと考えられる。

万座北側地区

配石遺構	Pit67～69→SX(S)403(F1区)
竪穴住居跡	SI410、SB401、Pit25・28→SI408(F1区)
掘立柱建物跡	SI410、SB401、Pit25・28→SI408(F1区)
Tピット	SK(T)30→Pit86(F4区)
土坑	Pit76→SK418→SK415(F1区) SK42→Pit119(F4区) SK16→Pit26(F4区) SK24→Pit28(F4区)
フラスコ状土坑	SK(F)13→Pit166(F4区)

重複しないが柱穴状ピットより新しいフラスコ状土坑がある。

上記の重複関係、出土遺物からピット(掘立柱建物跡を含む)は配石遺構以後には穿たれず、Tピットより以前に穿たれることがなかったと考えられる。竪穴住居跡、土坑、フラスコ状土坑とは共伴関係にある。

万座西側地区

確認されなかった。

万座南側地区

確認されなかった。

野中堂隣接地

列石	Pit252→北側出入口
竪穴住居跡	重複あり。新旧の記載なし。SI01の構築時期は後期中葉であり、柱穴状ピットが古いものと判断される。
掘立柱建物跡	Pit742、253→SB202→SK216・452・443
土坑	SK238→Pit610→北側出入口 SK212→Pit441 SK219→Pit
フラスコ状土坑	Pit176→SK(F)124→SK125 Pit749→SK(F)202

上記の重複関係から列石出入口及び後期中葉の竪穴住居跡構築以後には柱穴状ピットは穿たれることがなかったと考えられる。土坑、フラスコ状土坑については共伴関係にあったものと考えられる。

一本木後口地区

配石遺構	Pit1→SX(S)14 Pit2→SX(S)15 Pit4→SX(S)13・15 Pit5→SX(S)16 Pit7→SX(S)11
------	--

ピットは配石遺構と重複し、古い。

【キ. 時 期】

万座隣接地

本地区出土遺物及び重複する遺構から、後期前葉(十腰内Ⅰ式)～後期中葉(十腰内Ⅱ式～Ⅲ式)、環状配石遺構構築直前までの時期が与えられる。

万座北側地区

調査区より後期前葉(十腰内Ⅰ式)～後期中葉(十腰内Ⅱ式～Ⅲ式)の土器が出土していることから、この時期が与えられるものと考えられる。ただし、後期中葉の時期のものは環状配石遺構、フラスコ状土坑であり、遺構数が減少していく傾向にある。このことから当該時期に当たるものは極めて少ないものと考えられる。



第65図 柱穴状ピット分布図(万座隣接地)

万座西側地区

周辺の出土遺物より後期前葉(十腰内I式)の時期が与えられる。

万座南側地区

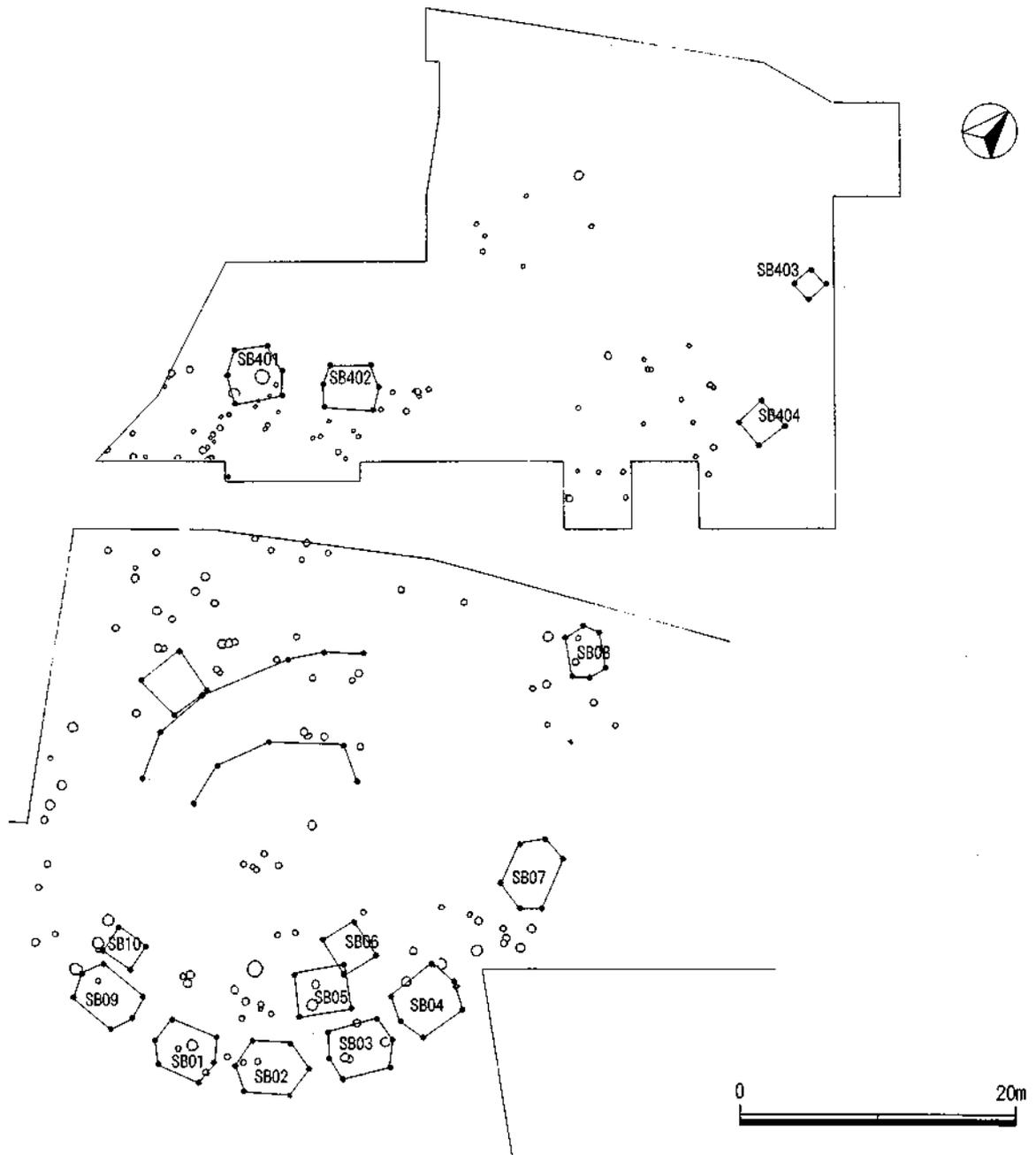
周辺の出土遺物及び隣接する配石遺構の時期から後期前葉(十腰内I式)の時期が与えられる。

野中堂隣接地

本地区出土遺物及び重複する遺構から後期前葉(十腰内I式)～後期中葉(十腰内II式～III式)、環状列石出入口設置直前までの時期が与えられる。

一本木後口地区

本地区出土遺物及び重複する遺構から、後期前葉・十腰内I式の時期と考えられる。



第66図 柱穴状ピット分布図(万座北側地区)

【ク. 分 布】

万座隣接地

掘立柱建物跡の分布範囲とほぼ同一範囲に分布する。列石南側出入口の東側が最も分布密度が薄く、同列石東側隣接地が最も濃く、大型のピットが含まれる。しかもピットの密度によって掘立柱建物跡の復元数が異なっている。

万座北側地区

同地区に存在する掘立柱建物群域又は第04号環状配石遺構周辺にそのほとんどが分布する。

万座西側地区

柱配置を示したものの意外は集中することはない、点在する。

万座南側地区

集中することはない、点在する。

野中堂隣接地

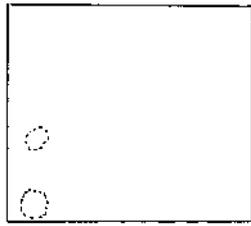
同列石東側を中心とした部分は未調査のため、分布状況については不明であるが、万座環状列石と同様に掘立柱建物群域に分布するものと考えられる。

一本木後口地区

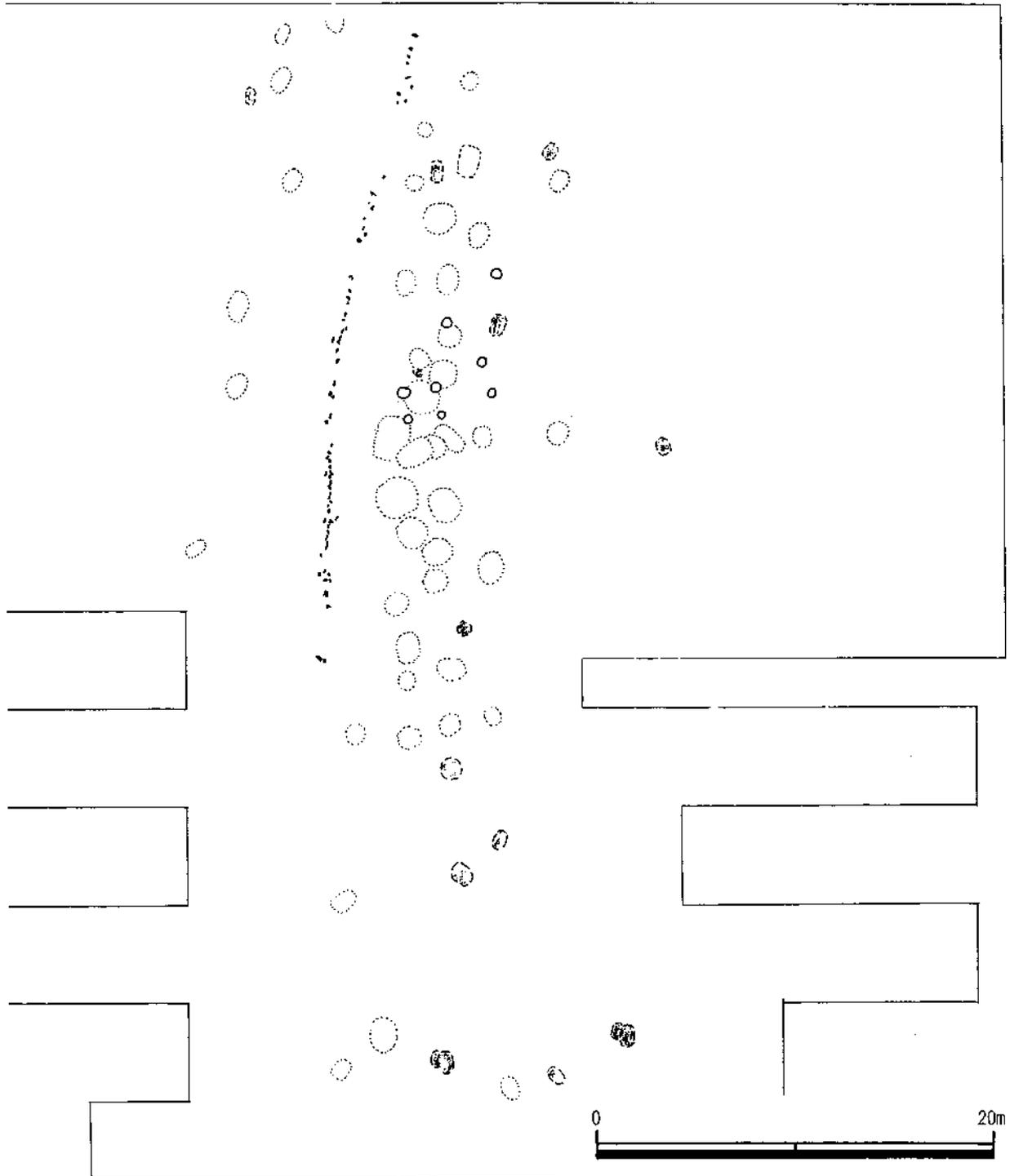
配石遺構(配石墓)・土坑(土坑墓)によって区画された範囲内に分布する。



第67図 柱穴状ピット分布図(野中堂隣接地)



-配石遺構
- ⊗.....土坑
-柱穴状ピット



第68図 柱穴状ピット分布図（一本木後口地区）

【ケ. 性 格】

万座隣接地、万座北側地区、野中堂隣接地

万座隣接地・同北側、野中堂隣接地、一本木後口地区において2,608個の柱穴状ピットが検出された。これらのうち615個は柱配置を示しており掘立柱建物跡として認定した。残る1,993個の中のいくつかのピットについては掘立柱建物跡や柱穴列として想定できるものがあった。しかし断定するまで至らず、これらについては明示しなかった。

また調査で検出できなかったピットも含まれているものと考えられる。これらによって柱配置を示し、掘立柱建物跡となりうるものが存在するものと考えられる。なお、増加が予想されるピット数、それに伴って増加する棟数は不明である。

一本木後口地区

一本木後口地区で検出された柱穴状ピットは、配石遺構と重複し、かつ配石遺構(配石墓)と土坑(墓)によって区画された墓域内に穿たれている。柱配置を示してはならず第2次発掘調査報告書において、岩手県萩内遺跡のトーテムポールから、配石遺構を構築するまでの墓標的な性格を指摘した。

万座西側地区、同南側地区

万座西側地区において2棟の掘立柱建物跡を認定したのみで、そのほかに柱配置を示すものもない。また配石遺構に伴うものもなく性格は不明である。

第39表 各地区の柱穴状ピット分布数と規模

規模 地区	10cm 以下	20cm 以下	30cm 以下	40cm 以下	50cm 以下	60cm 以下	70cm 以下	80cm 以下	90cm 以下	100cm 以下	100cm 以上	不明	計
万座 隣接地	0	92	301	285	207	146	101	70	67	39	89	236	1,633
万座北側 地区	0	13	49	43	36	35	37	16	12	7	11	27	286
万座西側 地区	0	3	3	7	3	0	0	0	0	3	5	0	24
万座南側 地区	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	4
野中堂 隣接地	0	56	185	110	63	43	30	22	9	8	0	127	653
野中堂 南側地区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一本木 後口地区	0	0	0	5	0	3	0	0	0	0	0	0	8
計	0	164	539	453	309	227	168	108	88	57	105	390	2,608

(2) 掘立柱建物跡(第69～85図、第40～58表)

これまでの調査によって100棟の掘立柱建物跡が検出されている。これらは平面形態によりⅠ～Ⅸ類に分類することができる。掘立柱建物跡の認定に当たっては柱穴状ピットの規模と柱痕の有無及び配置を検討したほか、万座・野中堂環状列石隣接地のものは列石中心から放たれた求心線を意識した配置を示しているか否かも認定条件とした。

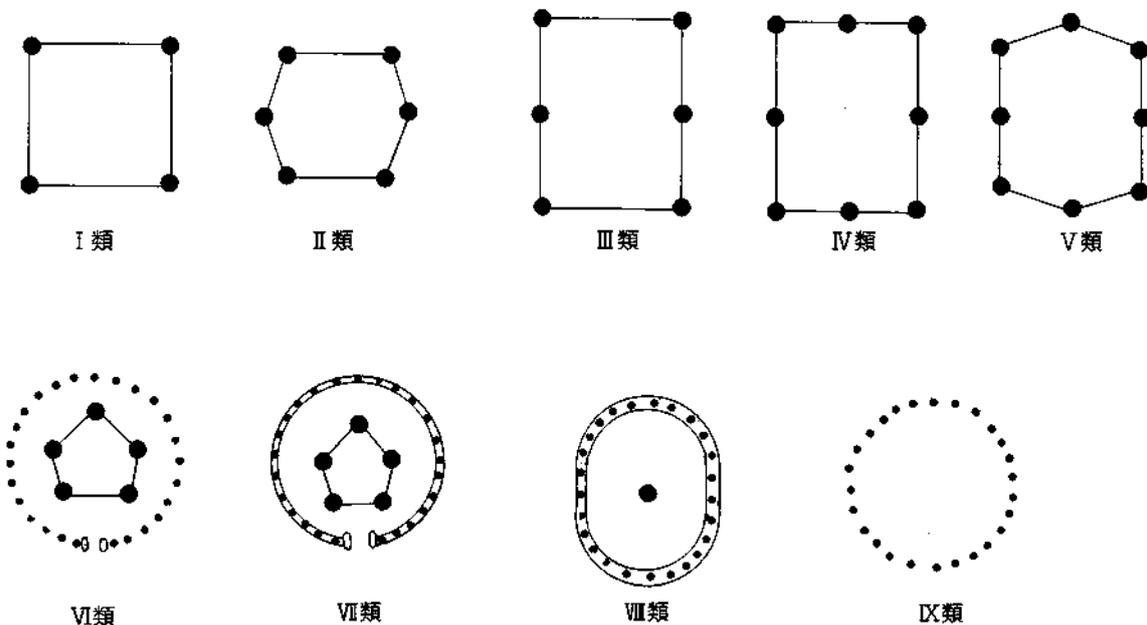
【ア. 形態】

- Ⅰ類 4個の柱穴で、柱配置が方形を呈するもの
- Ⅱ類 6個の柱穴で、柱配置が六角形を呈するもの
- Ⅲ類 6個の柱穴で、柱配置が方形(長方形)を呈するもの
- Ⅳ類 8個の柱穴で、柱配置が方形(長方形)を呈するもの
- Ⅴ類 8個の柱穴で、柱配置が六角形を呈するもの
- Ⅵ類 柱穴を環状に巡らし、その中に5個の柱穴を五角形に配置したもの
- Ⅶ類 柱穴と周溝を環状に巡らし、その中に5個の柱穴を五角形に配置したもの
- Ⅷ類 柱穴と周溝を楕円形に巡らし、その中央に1個の柱穴を配置したもの
- Ⅸ類 柱穴を環状に巡らしたもの

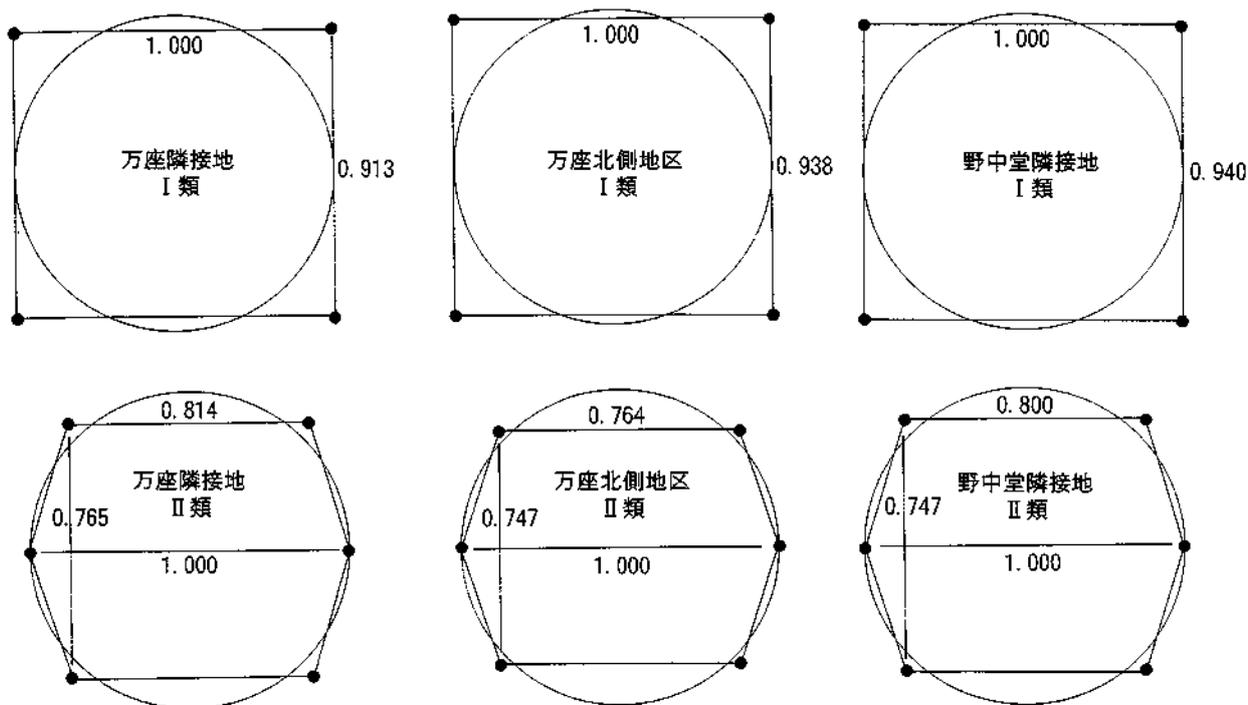
検出された掘立柱建物跡で数量の多いⅠ類、Ⅱ類の柱配置を模式図(第69図)、柱間比率(第70図)として示した。

Ⅰ類は、長辺長1に対して短辺長の平均値は0.93となり、正方形を意識した配置を示している。正方形に近い形になることによって安定性のよい建物となる。

Ⅱ類についても、長軸長1とした場合、長辺長の平均値は0.774、短辺長は0.770となる。Ⅰ類と同



第69図 建物跡模式図



第70図 建物跡柱配置模式図

じように柱配置を円周上に示していくと、柱穴は円周外に配置されていることがわかる。正六角形に近づくとつれて安定性のよい建物となる。

ただしI類、II類とも片方の柱間隔が短くなるにしたがって、細長の不安定な建物となる。

万座隣接地

65棟の掘立柱建物跡が検出されている。

I類は23棟である。長辺長1に対して短辺長が0.80~1.018で、平均値は0.913である。万座北側地区、野中堂隣接地のものと比較し数値のばらつきが大きく、安定性に欠けた掘立柱建物跡が多いといえる。

II類は32棟である。長軸長1に対して、長辺長が0.814、短辺長が0.765の平均値となる。さらに長軸長と短辺長の比率から比較的細長い六角形を呈した掘立柱建物跡が多い。

このほかにIV類1棟、V類1棟、VI類5棟、VII類1棟、VIII類1棟、IX類1棟である。

万座北側地区

16棟の掘立柱建物跡が検出されている。

I類は6棟である。長辺長1に対して短辺長が0.750~1.000で、平均値は0.938であるが最も長方形に近い柱配置を示す第05号掘立柱建物跡を取り除いたときの平均数値は1.00に最も近づく。これは正方形に近い柱配置であることを示しており、落ち着きのある安定性に富んだ建物が本地区に多いことになる。

II類は9棟である。長軸長1に対して長辺長が0.762、短辺長が0.747の平均値となる。その差は掘立柱建物跡が検出された3地区の中で最も小さい。長軸長の1/2を半径に円を描いた場合、その円周に近い場所に穿たれ、均整のとれた建物が多い。

VI類は1棟である。主柱穴を五角形に配置し、これを囲むように径8.7mの環状に小さめの柱（壁柱穴）を巡らしたもので、東側に大きな楕円形のピットを対にした出入口を設けている。主柱穴が五角形に配置された中心と環状に巡らされた壁柱穴の中心は一致せず、わずかにズレている。また出入口の楕円形ピットには板材が立てられていた痕跡があった。

万座西側地区

2棟の掘立柱建物跡が検出されている。

II類、III類が各1棟である。II類は長軸長1に対して長辺長が0.756、短辺長が0.898で、安定した柱配置を示している。

III類は長辺長1に対して短辺長が0.634で、柱配置は長方形となり、見た目では安定性に欠ける。

野中堂隣接地

17棟の掘立柱建物跡が検出されている。

I類は5棟である。長辺長1に対して短辺長は0.925～1.000で、平均値は0.940である。平均値的には万座隣接地・北側地区のものと比較し、最も安定性のよい、正方形基調の建物が多い。

II類は11棟である。長軸長1に対して、長辺長が0.747、短辺長が0.800の平均値となる。長辺長と短辺長の差は0.053となり、図形的にずんぐりとした幅の広い建物が多い。

IX類も1棟確認されている。馬蹄形に近い形態で、北側が開放されている。

【イ. 規 模】

これまでの調査によって検出された掘立柱建物跡の中で、I類で最も大きいものは万座隣接地の第607号建物跡(D5区)で面積16.39㎡、最小は万座北側地区の第404号建物跡(F4区)で2.89㎡、その比率は約5.67倍となる。

II類では最大が万座隣接地の第613号建物跡(D6区)の面積23.80㎡、最小は同地区の第05号建物跡(D7区)の5.23㎡で、その比率は4.55倍である。

万座隣接地

I類の規模は最大のものが第607号掘立柱建物跡(16.39㎡)、最小のものが第229号掘立柱建物跡(3.69㎡)である。面積分布から小規模(5.20㎡以下)、中規模(5.20～12.04㎡)、大規模(14.66㎡以上)の3つにグループ化され、最大:最小の面積比は約3.48倍である。柱穴の規模をみていくと規模が小さくなるにしたがって柱穴径(最大138cm:最小19cm)、柱痕径(最大53cm:最小18cm)とも小さくなっていく傾向にある。

II類の規模は最大のものが第613号掘立柱建物跡(23.80㎡)、最小が第05号掘立柱建物跡(7.42㎡)である。面積分布から小規模(6.28㎡以下)、中規模(9.41～15.98㎡)、大規模(17.75㎡以上)の3つにグループ化される。最大:最小の面積比は4.55倍となり、I類よりその差が大きい。柱穴の規模をみていくとI類と同様に、小規模化していくにしたがって柱穴径(最大135cm:最小28cm)、柱痕径(最大50cm:最小17cm)とも小さくなっていく。

III～IX類としたものは大きな間隔をもって3つのグループに分けることができるが、資料数が少なく傾向などは把握できなかった。

万座北側地区

本地区で検出されたのはⅠ類、Ⅱ類のみである。

Ⅰ類の最大なものは第05号掘立柱建物跡(12.86㎡)、最小は第404号掘立柱建物跡(2.89㎡)である。万座・野中堂隣接地のものと比較すると中規模以下のものが占めている。最大:最小の面積比は約4.50倍である。柱穴の規模をみていくと小規模となるにしたがって柱穴径(最大88cm:最小22cm)は小さくなっていく傾向にある。なお、柱痕径は18cm~32cmである。

Ⅱ類の最大なものは第02号掘立柱建物跡(17.11㎡)、最小は第08号掘立柱建物跡(7.50㎡)である。中規模のもので占められているが万座・野中堂隣接地のものと比べ、一回り規模が大きい傾向にある。最大:最小の面積比は約2.28倍で面積比の比率は小さくなる。最も規模の大きな柱穴を有するのは第04号掘立柱建物跡で柱穴の直径120cm、柱痕径50cmである。

掘立柱建物跡の特異な形態としてⅥ類・第201号掘立柱建物跡がある。台地縁に構築され、本類中では最も大きい。柱穴は五角形に配置され、奥行約5m×幅約4.5mである。支柱穴は直径91cm~138cm、深さ136cm~152cmで、27cm~31cmの柱痕が認められた。壁柱穴は約30cmの間隔をあけて等間隔に配置され、柱穴径22cm~39cm、深さ30cm~72cmである。東側の一部が開口し、長軸84cm~105cmのピットが対に配置され、土層断面には板材の痕跡が観察された。

万座西側地区

Ⅱ類は第08号掘立柱建物跡(8.33㎡)で、万座隣接地においては中規模なものにあたる。Ⅲ類は第230号掘立柱建物跡(6.30㎡)で、万座隣接地にあるものと比較し極めて小型のものである。

野中堂隣接地

Ⅰ類で最大なものは第206号掘立柱建物跡(11.55㎡)、最小は第207号掘立柱建物跡(6.25㎡)である。面積分布から小規模(6.75㎡以下)と中規模(9.60㎡以上)の2つにグループ化できる。万座隣接地の同形態のものと比較すると本地区で検出されたⅠ類掘立柱建物跡は、万座隣接地に分布する中規模グループにあたる大きさである。柱穴径100cmを超えるものはなく、他地区と比較すると全体的に小ぶりである。

Ⅱ類の最大なものは第201号掘立柱建物跡(14.74㎡)、最小は第203号掘立柱建物跡(7.23㎡)である。万座隣接地の同形態のものと比較するとⅠ類同様に万座隣接地で検出された中規模なものにそのほとんどが包括される。柱穴径も93cmが最大であり、他地区と比較すると全体的に小ぶりである。

【ウ. 確認面と構築面】

万座隣接地

環状列石西側を中心として検出された柱穴は基本層序Ⅲd層で、同東側・南東側では整地が行われたことからⅣ層・Ⅴ層が確認面となる地点もある。

万座北側地区

Ⅲd層が確認面及び構築面となる。

野中堂隣接地

Ⅲd層及びⅢd¹層が確認面及び構築面となる。

【エ. 堆積状況】

建物跡の柱配置を示す柱穴の堆積状況(第64図参照)について記載する。

万座隣接地

掘立柱建物跡の配置を示す柱穴断面から、柱を据えた後、隙間に土砂を一気に埋め込んだ状況が観察された。数例であるが根固め石を入れたものもある。

土層断面から柱痕跡が確認される状況には3つのタイプがみられる。

a類： 柱痕が土層途中で切断された状況を示すもの(第64図タイプd)

b類： 柱痕を観察していても検出面に向かうにしたがって大きく「ラップ状」に開くもの(タイプc)

c類： 全く柱痕が観察されないもの(タイプa)

a類は撤去する際に柱周辺を少し掘りくぼめ、柱を切断後、この窪地に土砂を入れ込むかしなければこのような断面が形成されない。b類は柱を引き抜く際に柱をローリングさせ、柱と土砂の間に隙間を作りながら徐々に引き抜いていった結果と考えられる。c類は土層観察用のセクションの設置位置が妥当でなかったか、柱を抜き取るために柱穴状ピット内(埋め土)の土砂をすべて掘り上げないとこのような堆積状況を示すとは思えない。

言い換えると掘立柱建物跡(柱穴)は崩壊・腐食しても放置するのではなく、建て替えや場の確保のため、人為的に抜き取りが行われていたことをこの断面が示している。

万座北側地区

万座環状列石隣接部で検出された建物配置を示す柱穴と同様の堆積状況を示している。

万座西側地区

柱を据えた後、人為的に埋め戻しを行った形跡がみられた。

野中堂隣接地

万座環状列石隣接部・同北側地区で検出された建物配置を示す柱穴と同様の堆積状況を示している。

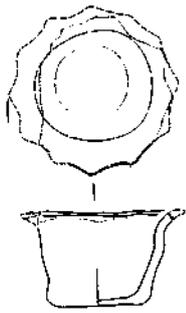
【オ. 出土遺物】

土坑、フラスコ状土坑などと比較し、柱穴内からの出土遺物はそれほど多くはない。柱配置を示したもので特長的な遺物について記載する。

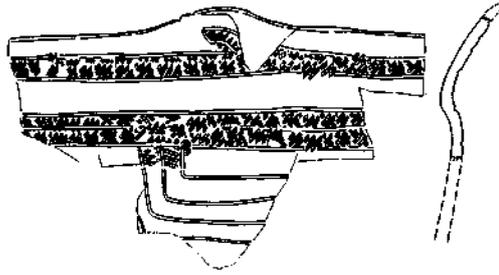
万座隣接地

出土した土器はすべて破片である。柱穴内より後期前葉(十腰内Ⅰ式)の土器のみを出土するもの、後期中葉(十腰内Ⅱ式)の土器を混在するものがある。前者は万座環状列石の西側を中心に、後者は同列石東側にみられ、それは第220号、607号、608号建物跡(以上Ⅰ類)、613号、614号、615号、617号掘立柱建物跡(以上Ⅱ類)の7棟である。これらの出土土器を第72図に図示した。

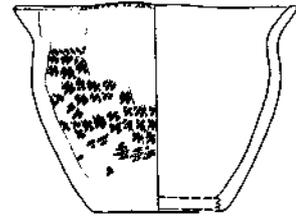
後期前葉の土器は、深鉢形土器、鉢形土器、壺形土器が主体で、主に沈線により曲線文、帯縄文により曲線文や渦巻文などが施文され、十腰内Ⅰ式の特徴を持っている。また、後期中葉の土器は装飾突起がついた台付深鉢形土器で、変形楕円形文(刺突が付加されるものもある)が施文され、十腰内Ⅱ式・Ⅲ式の特徴を持っている。



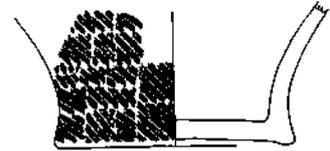
SB206・Pit35 (万座隣接地)



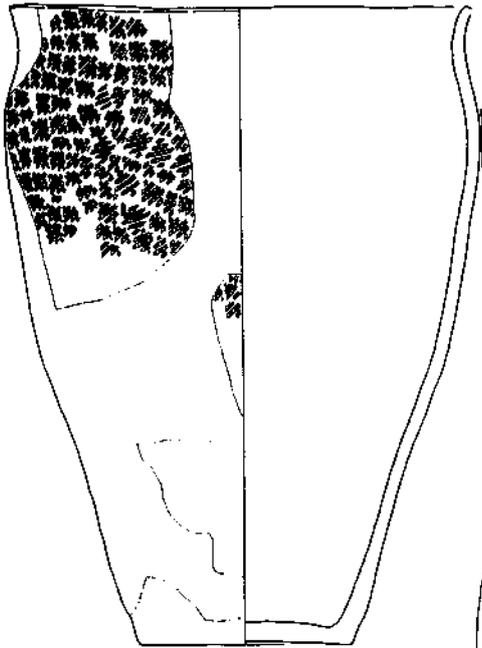
Pit144 (万座隣接地・D1区)



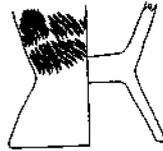
Pit273 (万座隣接地・D1区)



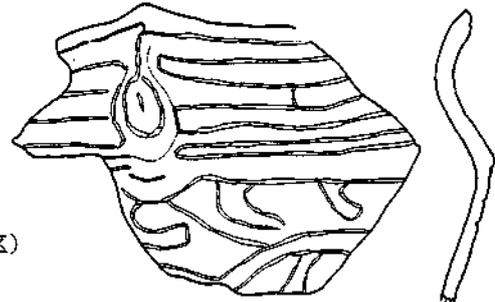
SB401・Pit4 (万座北側地区)



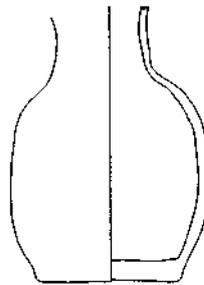
SB220・Pit260 (万座隣接地)



Pit11 (万座隣接地・D3区)



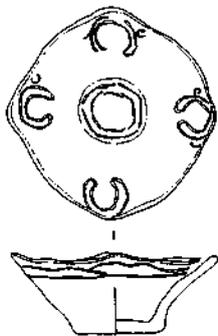
Pit46 (万座隣接地・D3区)



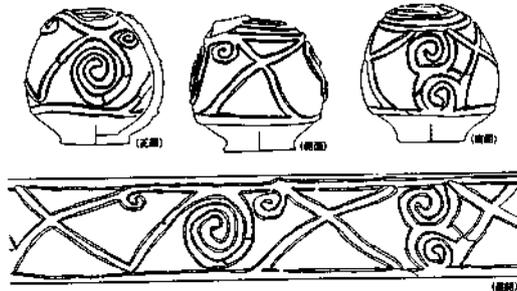
Pit29 (万座隣接地・D3区)



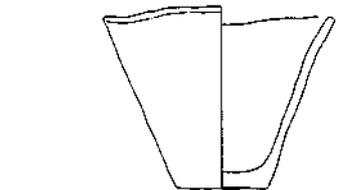
Pit88 (万座隣接地・D3区)



Pit88 (万座隣接地・D3区)



SB403・Pit19
(万座北側地区)

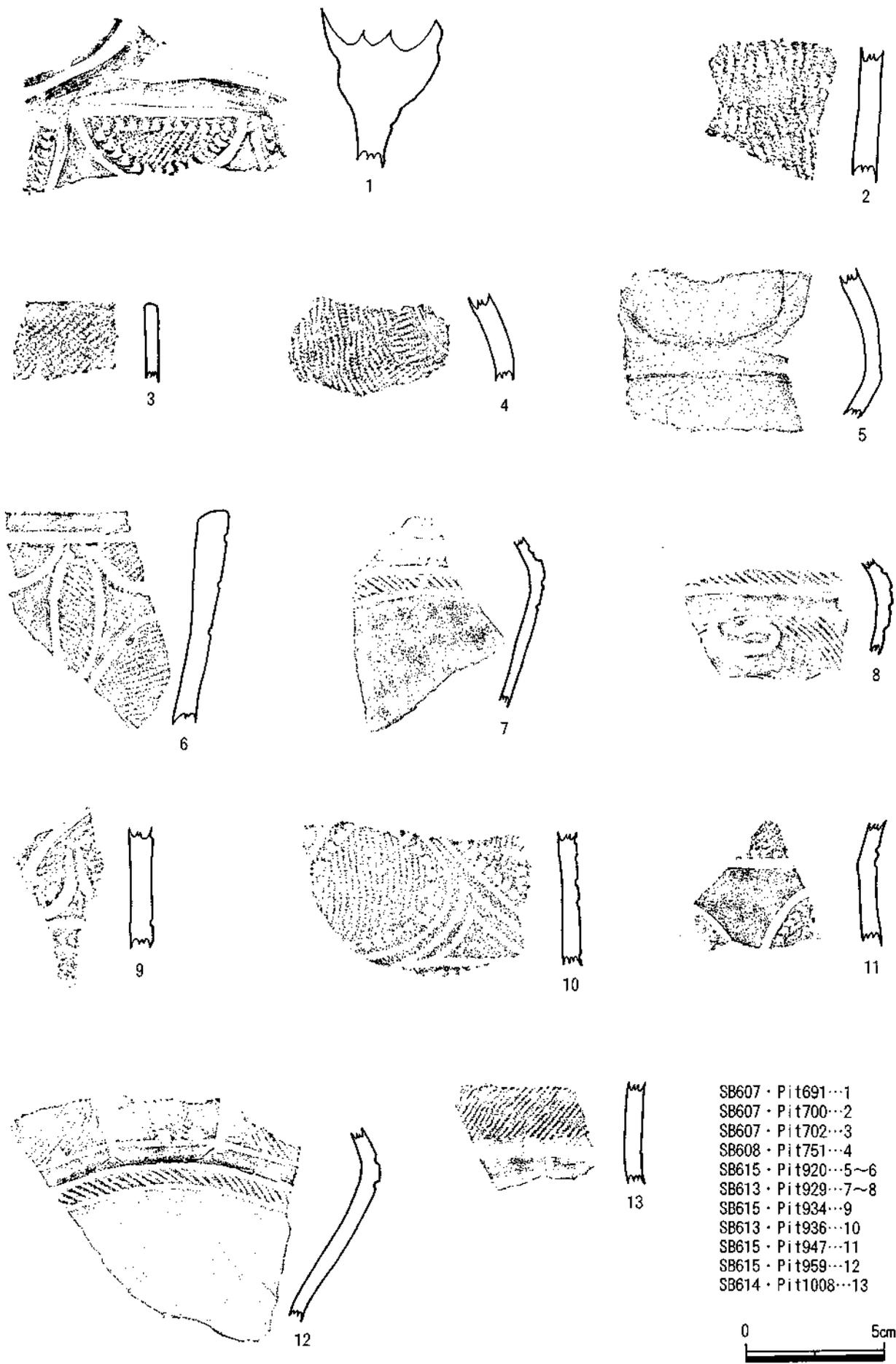


Pit138 (野中堂隣接地・B2区)



Pit193 (野中堂隣接地・B2区)





第72图 建物跡出土土器拓影图

このほか、万座西側のSB11A(VII類)よりクマを模倣した動物型土製品が出土している。

万座北側地区

第04号掘立柱建物跡・Pit19の堆積土中程から壺形土器が出土している。器形は球状に近く、口縁部が偏った位置につけられている。主文様として隆沈文により渦巻文が施文され、三角形文が付加されている。器面に赤色顔料が塗布されていた。この壺は柱設置時に埋め戻された土砂の中から炭化した「カヤ」とともに出土した。掘立柱建物跡の配置を示す柱穴から完形土器が出土したのはこれ1例であり、現在も行われている「地鎮祭」を思わせる出土状況であった。

その他の柱穴からは後期前葉・十腰内I式土器の特徴をもった土器片、板状土製品、線刻された石製品が出土している。

万座西側地区

建物の配置を示す柱穴からは遺物は出土しなかった。

野中堂隣接地

建物跡の配置を示す柱穴より出土した土器はすべて破片で、後期前葉・十腰内I式土器の特徴を持つものであった。このほかに板状土製品が出土した。

【カ. 重複関係】

万座隣接地

万座出入口	SB611(II類)→万座北側出入口施設 SB02(II類)→万座南側出入口施設
環状配石遺構	SB617(II類)→SB613(II類)→SX(S)602(環配) SB617(II類)→SB615(II類)→SX(S)602(環配)
掘立柱建物跡	SB605(II類)→SB604(II類) SB605(II類)→SB606(I類) SB603(II類)→SB602(II類) SB207(II類)→SB203(II類)→SB204(II類)→SB205(II類) SB208(II類)→SB207(II類) SB208(II類)→SB209(II類) SB210(I類)→SB213(II類) SB212(I類)→SB211(I類) SB222(VIII類)→SB221A(VII類)→SB228(II類) SB301(II類)・SB305(II類)→SB303(II類)→SB302(II類) SB307(VII類)→SB10(II類) SB11A・B(VI類)→SB09(I類) SB02(II類)→SB01(II類)→SB03(I類) SB06(II類)→SB07(II類)
土 坑	SK610→SB601(I類) SB222(VIII類)→SK305・SK(F)284 SB221A(VII類)→SK321・289

I類は掘立柱建物群域の外側に分布している。列石西側では横方向への建て替えが観察される。

II類は列石の間近まで迫っており、多くの重複関係を示している。掘立柱建物群域の外側から列石

(内側)へという建て替え・移動例が多い。

さらに重複全体をみると形態Ⅶ類・Ⅷ類→Ⅱ類・Ⅰ類という過程を伺い知ることができる。

また、隣接地に位置する土坑、フラスコ状土坑との重複関係を観察すると、Ⅶ類・Ⅷ類は土坑・フラスコ状土坑に切られているものが多く、列石西側はその重複関係を顕著に示している。一方、Ⅰ類・Ⅱ類のほとんどは土坑・フラスコ状土坑を切って構築しており、この後環状・方形配石遺構によって切られるという遺構の過程を観察することができる。

掘立柱建物跡、土坑、フラスコ状土坑、環状配石遺構を主とした列石隣接地の遺構変遷過程は、Ⅶ類・Ⅷ類建物跡＋土坑＋フラスコ状土坑＋列石という組み合わせが最も古い段階に位置し、その後列石＋列石と強い係わりを持ったⅠ類・Ⅱ類建物跡＋土坑＋フラスコ状土坑という組み合わせがあり、やがて環状・方形配石遺構へという過程が想定される。

万座北側地区

環状配石遺構	SB01(Ⅱ類)→SX(S)7	SB02(Ⅱ類)→SX(S)7	SB06(Ⅰ類)→SX(S)7
竪穴住居跡	SB401(Ⅱ類)→SI405・408		
石囲炉	SB04(Ⅱ類)→SX(O)6		
Tピット	SK(T)19→SB09(Ⅱ類)→SX(S)3(環配)		
	SK(T)19・SK37→SB09(Ⅱ類)		
土坑	SK20→SB1(Ⅱ類)	SK42→SB10(Ⅰ類)	

掘立柱建物跡同士が重複する例が一例あるが新旧は不明である。円環を描き出すⅡ類掘立柱建物跡は長軸長を連結するかのよう配置されている。掘立柱建物跡の配置間隔が狭いのが気になるが、軒先をあわせながらも同時に存在しても不思議ではない。各種の遺構との重複関係から北側地区では、Tピットが最も古い段階にあり、その後竪穴住居跡＋土坑＋フラスコ状土坑が、さらに掘立柱建物群＋土坑が続き、大型の環状配石遺構＋石囲炉へと変遷し、最終的には小型の環状配石遺構へという過程が想定される。

万座西側地区

土坑 重複関係を示しているが新旧は不明

野中堂隣接地

野中堂出入口	SB205(Ⅱ類)→北東側出入口施設		
方形配石遺構	SB02(Ⅰ類)→SX(S)02(方配)		
掘立柱建物跡	SB208(Ⅱ類)→SB200(Ⅱ類)		
	SB208(Ⅱ類)→SB211(Ⅱ類)→SB01(Ⅱ類)		
	SB203(Ⅱ類)→SB204(Ⅱ類)		
竪穴住居跡	SB210(Ⅱ類)→SI01(後期中葉)		
石囲炉・土坑	SK110→SB04(Ⅰ類)→SX(O)01		

調査によって遺構の配置が明らかとなったのは列石の西半分であり、全体の様子をうかがい知ることができない。上記の重複関係から列石＋Ⅰ類・Ⅱ類建物＋土坑の組み合わせを想定することができ

る。

【キ. 時 期】

万座隣接地

出土遺物、掘立柱建物跡と係わりの強い環状列石、その他遺構との重複関係から後期前葉～中葉の時期が与えられる。また、掘立柱建物跡については出土遺物や遺構の重複から地区ごとに大まかではあるが構築時期(存続時期)をつかむことができた。列石北側出入口施設から反時計回りに東側出入口施設までは主に後期前葉を、残る東側出入口～北側出入口までは後期前葉～中葉の時期が与えられる。

なお、隣接地に位置するⅥ類～Ⅸ類は重複関係からⅠ類・Ⅱ類に先行するものである。

万座北側地区

掘立柱建物跡は同地区の台地縁に位置する後期前葉の竪穴住居跡を切って構築され、さらに後期中葉のものである環状配石遺構や竪穴遺構によって切られている。掘立柱建物跡の配置を示す柱穴からの出土土器はすべて後期前葉・十腰内Ⅰ式の特徴を持つ土器であることから、その構築(存続)時期は後期前葉と考えられる。さらに万座環状列石との時間差については本地区の建物跡が先行するものと考えられる。

万座西側地区

ピット内外からの出土遺物は少ない。掘立柱建物跡の形態などは万座・野中堂環状列石に隣接し検出された掘立柱建物と類似性を持っている。これらと同じ時期を与えることができるが、2つの環状列石との時間的な関係については不明である。

野中堂隣接地

柱配置を示す柱穴からの出土土器はすべて後期前葉・十腰内Ⅰ式の特徴を持つ土器片であった。しかし、遺構周辺からは少ないながらも後期中葉・十腰内Ⅱ式～Ⅲ式の特徴を持った土器片が出土している。このことから野中堂隣接地に分布する建物跡の構築(存続)時期については、同列石と時期を同じくする後期前葉～中葉と考えられる。

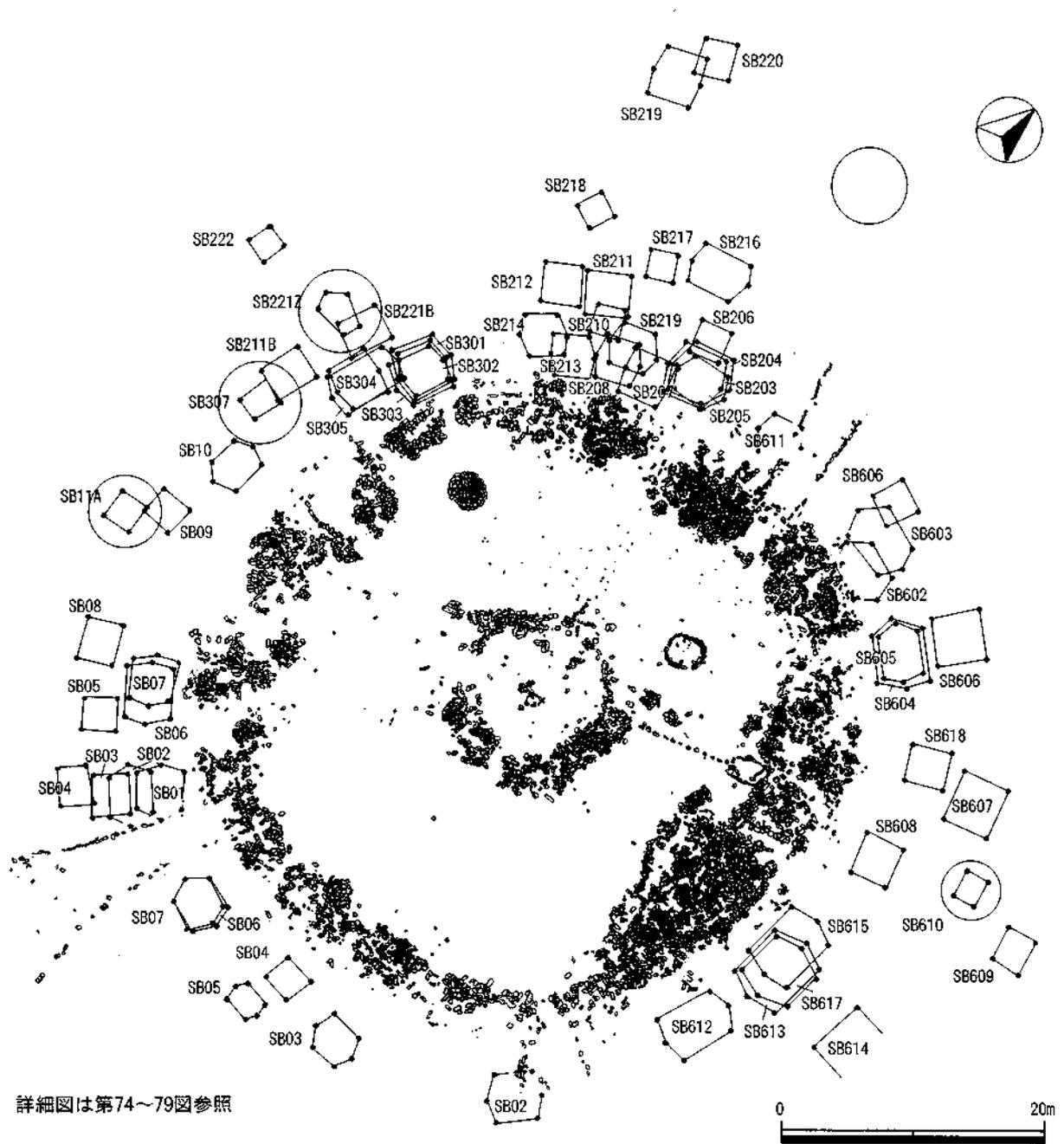
【ク. 分 布】

万座隣接地

Ⅰ類・Ⅱ類掘立柱建物跡に先行するⅦ類・Ⅷ類掘立柱建物跡は、列石を挟みながら列石より距離を置いて東側に1棟、西側に5棟が分布している。

Ⅰ類・Ⅱ類とした掘立柱建物跡は、環状列石の中心から半径24mと48mの範囲にそのほとんどが分布する。列石の外帯配石と同様に、これらは重複度合や遺構間に生じた隙間から数棟からなるグループに分割することができる。

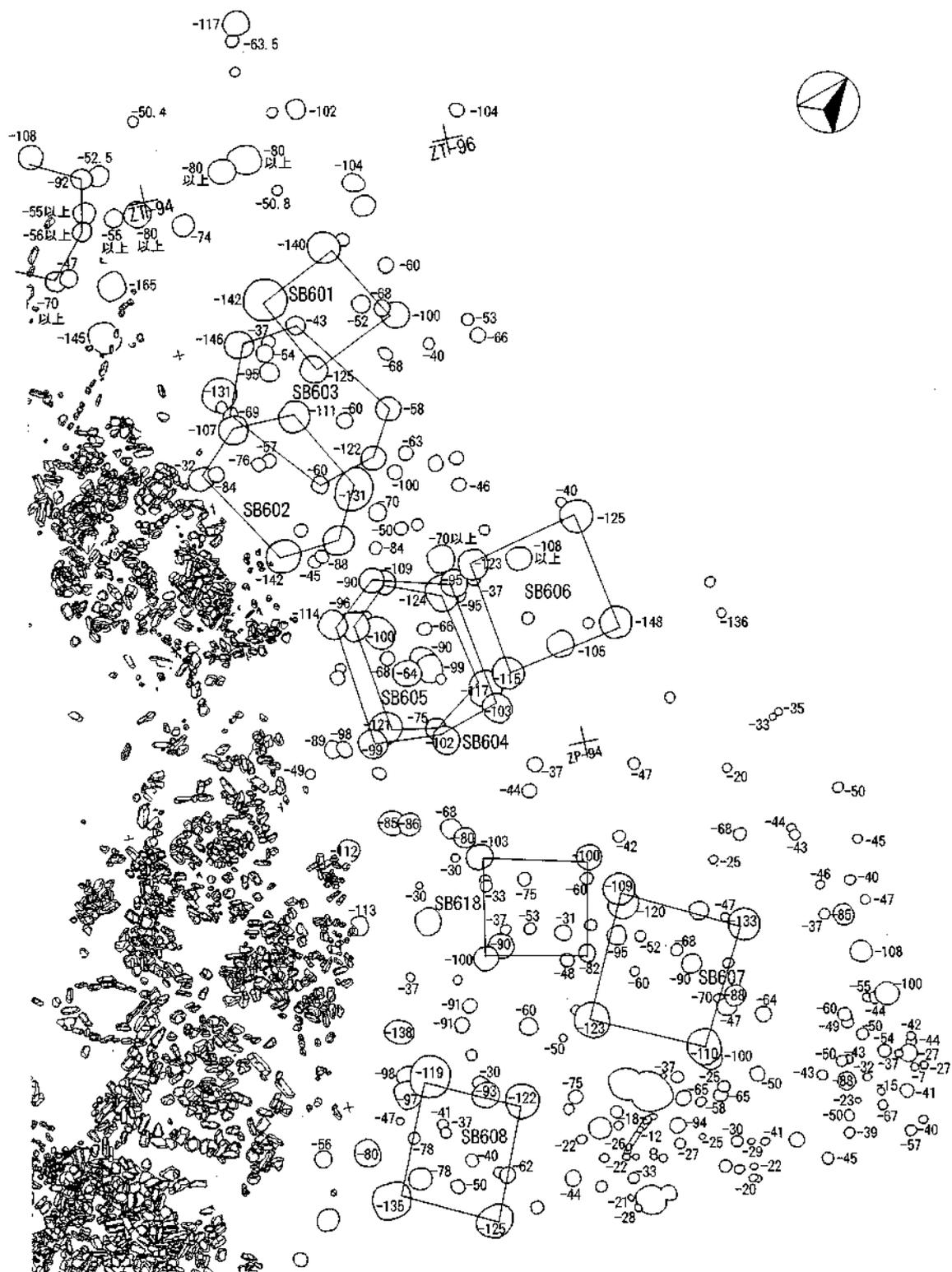
掘立柱建物跡は、列石中心から放射された求心線に対して長軸(長辺)が直角するように構築され、しかもⅡ類掘立柱建物跡を列石寄りに、Ⅰ類掘立柱建物跡をその外側に配置しており、これが配置の基本パターンとなっている。各グループが保有するスペースは均等ではない。占地的な要因からⅡ類掘立柱建物跡の重複頻度が高く、建て替えの際は同一場所かわずかに右後方に位置をずらしている。一方、Ⅰ類掘立柱建物跡は外側に配置されることが多く、この占地的な要因を強く受けておらず、同



第73図 万座環状列石隣接地建物跡分布略図

一形態同士での重複は少ない。

最も多くの建物跡を保有するのは列石西側のグループでⅠ類3棟、Ⅱ類5棟の計8棟、最も少ないのは列石南東のⅡ類2棟である。鹿角市教委刊行の報告書（5）で列石の外帯を構成する小塊の配石遺構（配石墓）と掘立柱建物跡の数値に触れ「環1の建物と列石外帯の配石（配石墓）とは1対1の対応関係を有する」としたが第73図などからは言いがたい。



※万座環状列石北～東部
 ※Pit内の数字は確認面からの深さ
 規模などについては各報告書を参照



第74図 万座環状列石隣接地建物跡分布図(1)



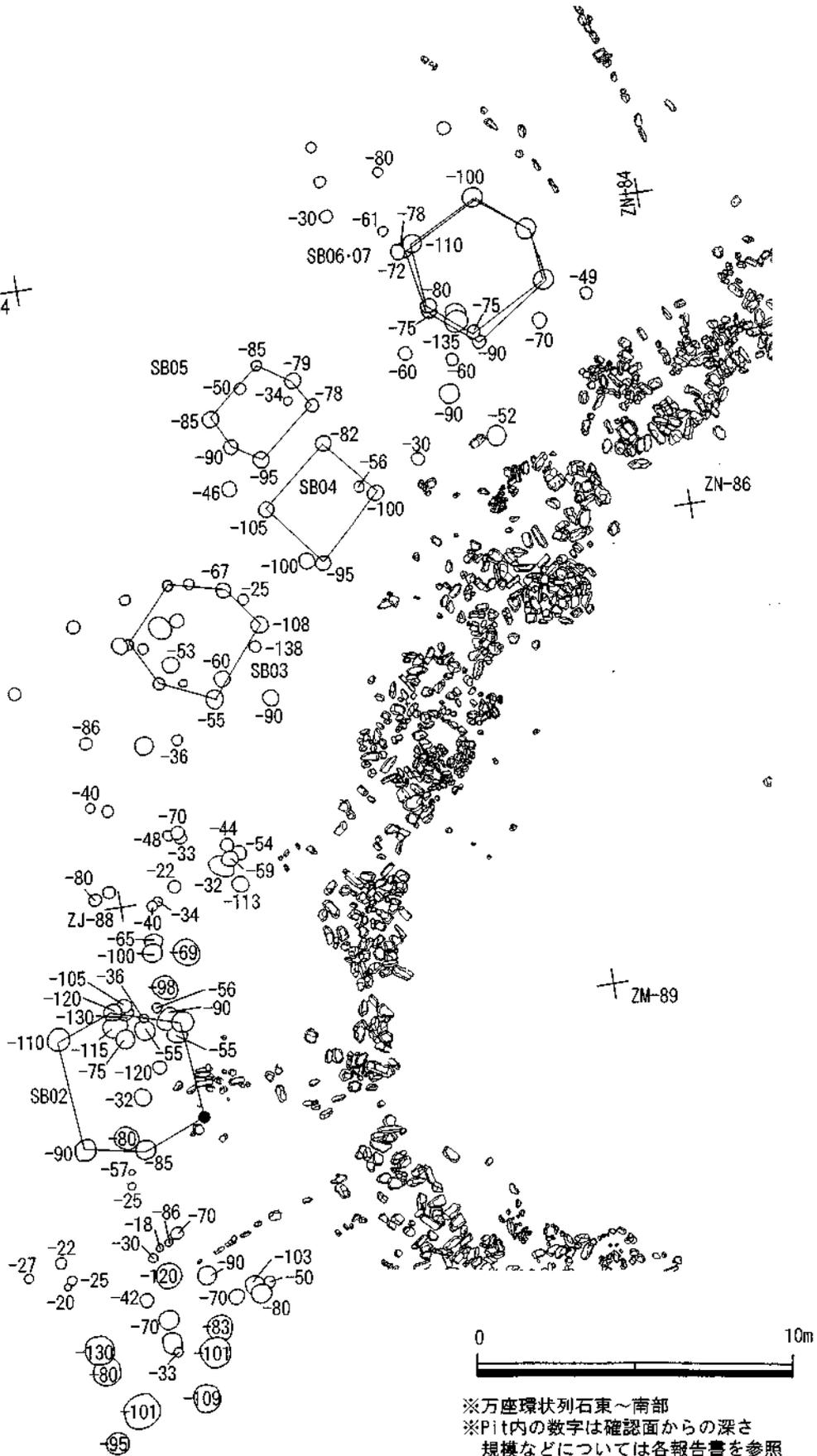
※万座環状列石東部
 ※Pit内数字は確認面からの深さ
 規模などについては各報告書を参照



第75図 万座環状列石隣接地建物跡分布図(2)

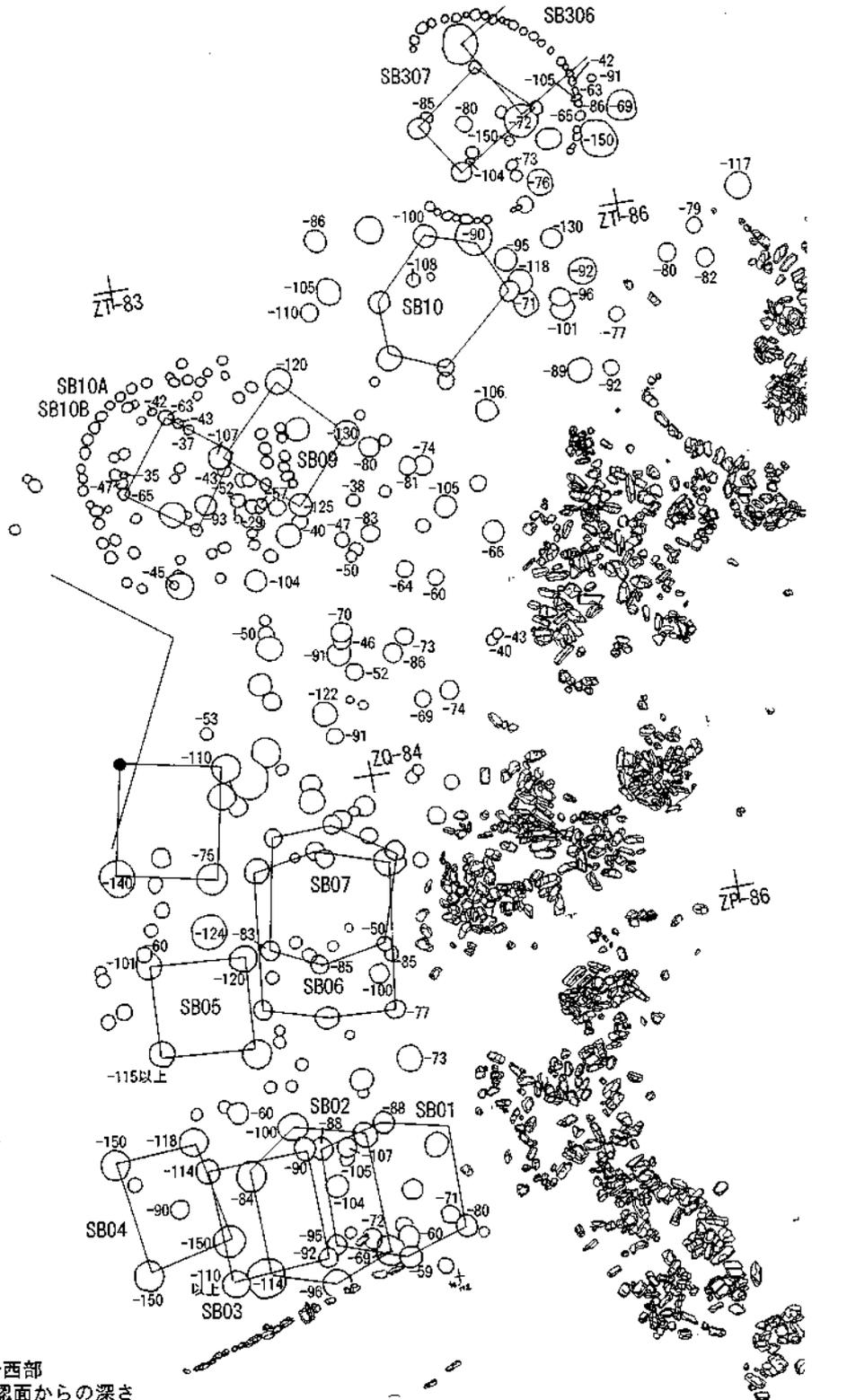


ZJ-84



※万座環状列石東～南部
 ※Pit内の数字は確認面からの深さ
 規模などについては各報告書を参照

第76図 万座環状列石隣接地建物跡分布図（3）



※万座環状列石南～西部
※Pit内の数字は確認面からの深さ
規模などについては各報告書を参照





※万座環状列石外帯西～北部
 ※Pit内の数字は確認面からの深さ
 規模などについては各報告書を参照

第78図 万座環状列石隣接地建物跡分布図(5)



※万座環状列石中央部（内帯）



万座北側地区

万座環状列石北側130mの地点を中心に、Ⅱ類掘立柱建物跡9棟が直径54mの円を描くように配置され、環内南側にⅠ類掘立柱建物跡3棟を内在している。

Ⅱ類掘立柱建物跡は万座隣接地と同様に、環中心より放射状に放たれた求心線に対して長軸が直交するように配置されている。また、本地区の掘立柱建物跡は隣接する同時期の土坑を伴っており、第08号掘立柱建物跡と第20・33・71・73号土坑の位置関係は列石の外帯と掘立柱建物跡(群)の位置関係と共通した要素を持っている。

本地区の掘立柱建物跡配置は万座隣接地の掘立柱建物跡より先行するものと考えられ、この掘立柱建物跡と土坑配置が万座・野中堂環状列石の配置に影響を及ぼしたものと考えられることができる。

なお、円環配置を示す掘立柱建物群から北側25m地点に2棟のⅠ類掘立柱建物跡が構築されている。第14次調査でこの隣接地を調査したが、掘立柱建物跡を確認することができなかった。

万座西側地区

Ⅱ類掘立柱建物跡は台地南側より入り込んだ沢頭地域に、Ⅲ類掘立柱建物跡は台地縁に構築されていた。トレンチ調査によることから、地区全体の分布は把握できていない。

野中堂隣接地

野中堂環状列石については東半分が未調査となっており不明な点があるが、万座隣接地の結果を考慮しながら、次のような分布状況が想定される。

掘立柱建物跡は列石の中心から半径21m～42mの範囲に分布する。建物跡の長軸長は列石の中心、外帯配石遺構を意識しながら配置されている。しかも重複や遺構間の隙間から数棟から構成されるグループに分割され、万座隣接地の建物跡と同様の配置を示している。

万座隣接地の掘立柱建物跡との違いは規模が小さいこと、数が少ないことであり、その基本構造は同一である。

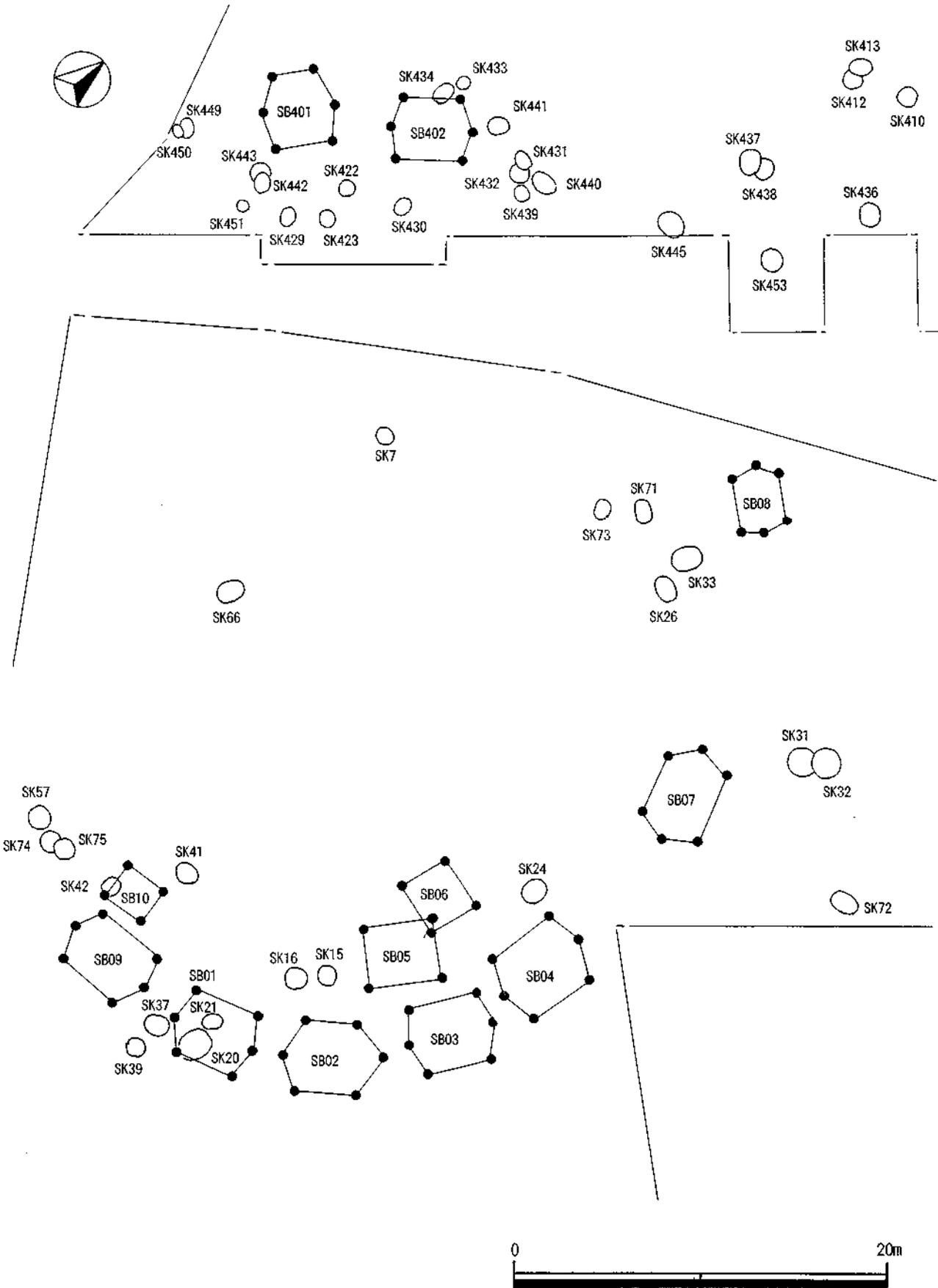
【ケ. 性 格】

万座連接地、万座北側地区、野中堂隣接地

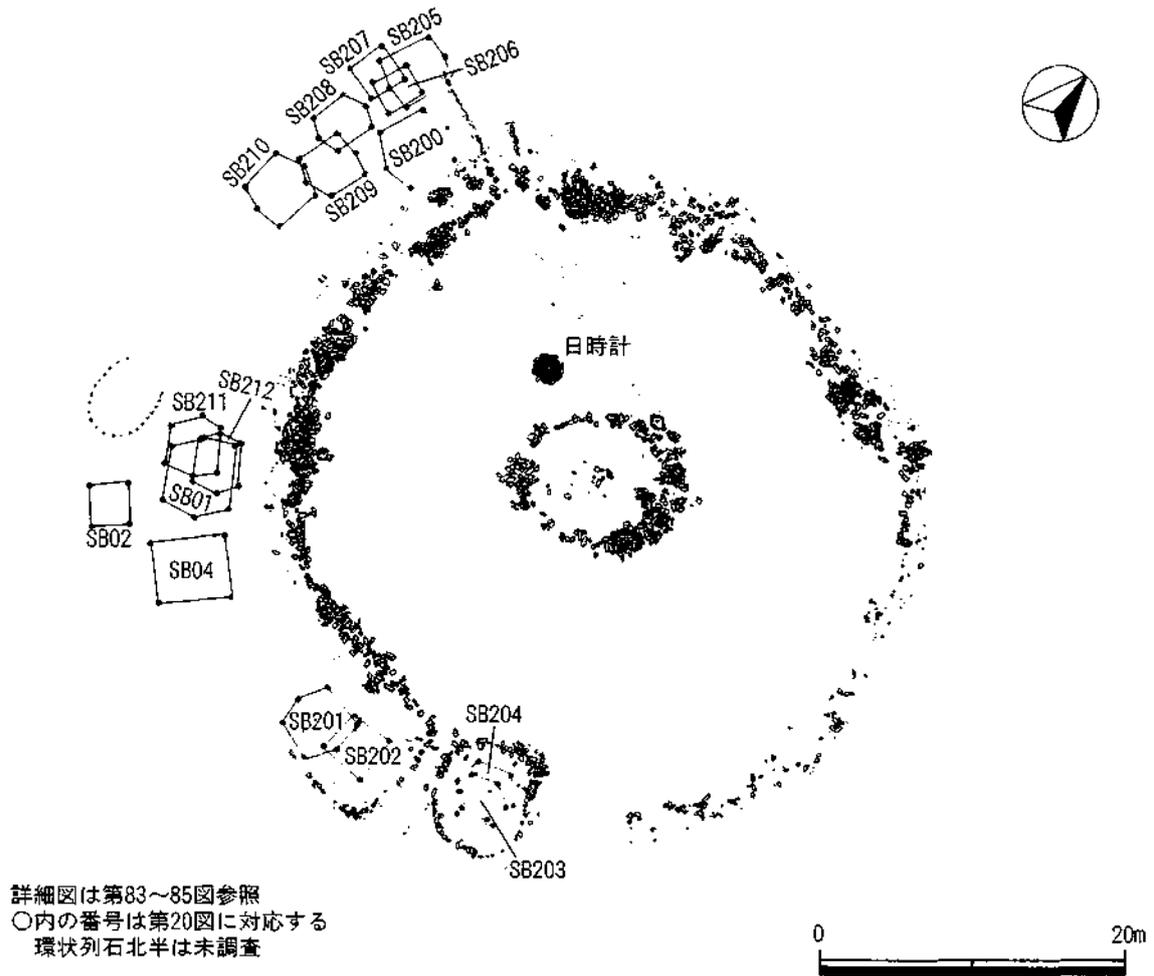
検出された掘立柱建物跡の性格については、検出地区が違っても基本的には同一であると考えられる。

2つの環状列石は、一本木後口地区で検出された配石遺構の調査結果より、各々は「配石墓」であり、この集合体である環状列石そのものは配石墓が二重の円環を描くように配置された「配石墓群」であると考えられる。第4次調査報告書では岩手県西田遺跡との比較・検討から、掘立柱建物跡は環状列石(配石墓群)を意識した配置を示し、その性格を葬送に関わる「殯屋(霊送りの場)」と考えた。

しかし、調査が万座環状列石隣接地全域その周辺に及ぶにしたがって土偶、鐔形土製品、キノコ形土製品、動物形土製品、足形付土板、足形石製品、石刀などが多量に出土した。土偶における子孫繁栄・病気治癒・精霊といった考え方、自然界を意識したキノコ・動物形土製品は自然への畏敬の念を表す道具と考えられ「マツリや祈りとしての道具」として捉えることができ、掘立柱建物跡の性格を一つに絞ることができない状況となっている。



第80图 万座北侧地区建物跡分布图



第82図 野中堂環状列石隣接地建物跡分布略図

掘立柱建物跡については、環状列石(配石墓群)との位置関係、多種多様なマツリと祈りの道具の出土から葬送儀礼の場とマツリと祈りの場としての複合的な施設と考えられる。

なお、万座北側地区の北部、同西側で検出された掘立柱建物跡は単独であり、しかも周辺の遺構・遺物の分布は希薄であり、その性格を窺い知ることができない。



※野中堂環状列石外帯西～西南部
 ※Pit内の数字は確認面からの深さ
 規模などについては各報告書を参照



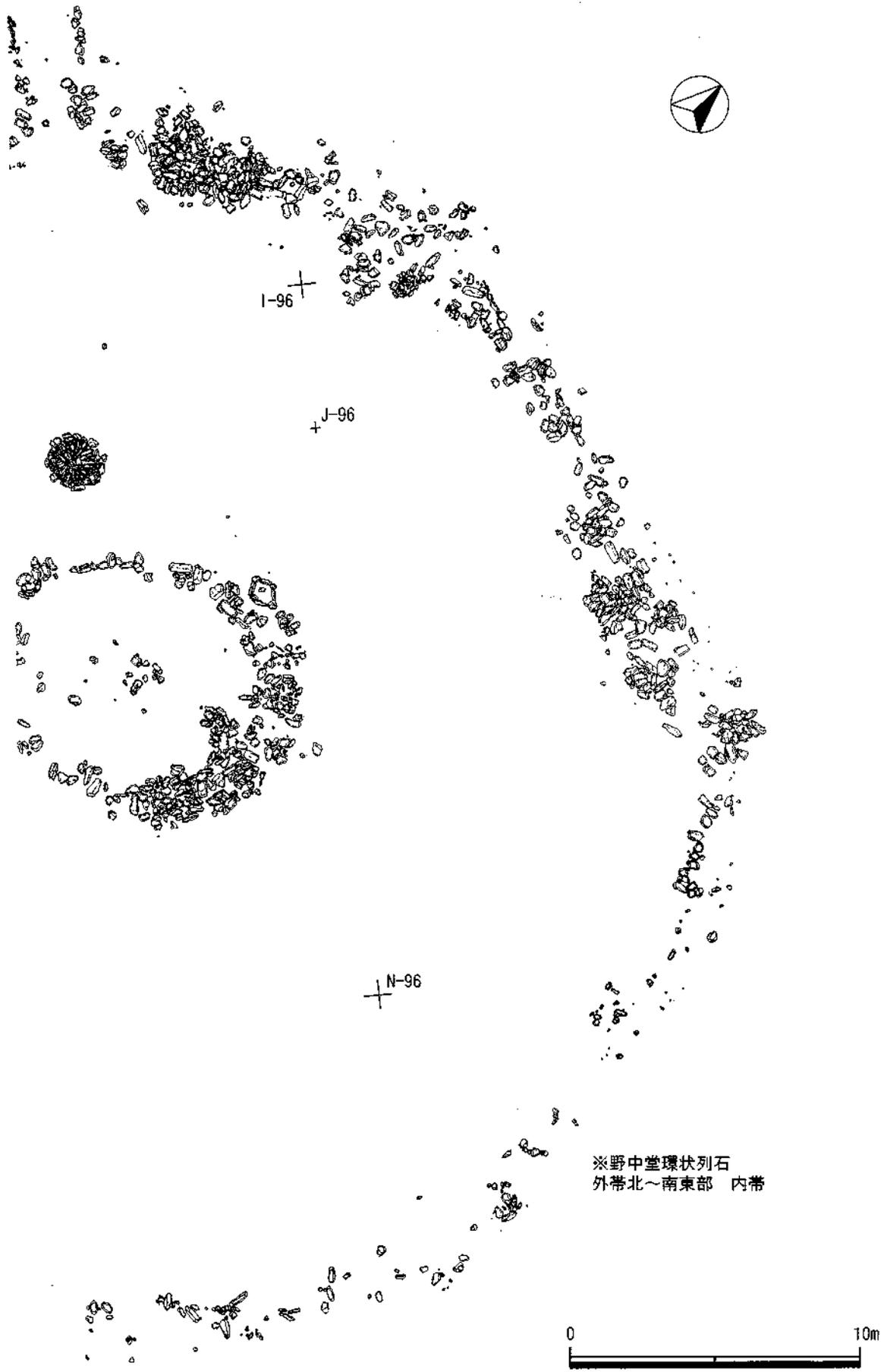
第83図 野中堂環状列石隣接地建物跡分布図(1)



※野中堂環状列石外帯南西～南部
 ※Pit内の数字は確認面からの深さ
 規模などについては各報告書を参照



第84図 野中堂環状列石隣接地建物跡分布図(2)



第85図 野中堂環状列石隣接地建物跡分布図(3)

第40表 掘立柱建物跡 (万座隣接地I類-1)

No.	遺構名 (報文No)	調査区 グリッド	形態	建物の規模(cm・m ²) (長辺長×短辺長× 長軸長) (面積)	長辺・長軸 方 向	柱穴の規模 (単位:cm)		構築 時期	新旧関係 特異な出土遺物
						ピット	規模(長軸径×短軸径 ×深さ×柱径)		
1	SB 206 (報文4)	D1区 ZV-91・92	I類	長辺長 280 短辺長 260 面積 7.28	N 2 7 W	12 35 48 73	56×50×118× 81×74×124× 79×71×121× 60×57×122×25	後期 前葉	SB203~205 SX(S)219 小型鉢形土器1点
2	SB 210 (報文4)	D1区 ZW・ZV -90	I類	長辺長 240 短辺長 200 面積 4.80	N 3 7 W	154 157 148 142	48×48×73× 38×36×88× 42×42×82× 38×36×75×27	後期 前葉	SB210→SX(S)220 SB208・SB209 SB211・SB213
3	SB 211 (報文4)	D1区 ZW・ZV -90	I類	長辺長 340 短辺長 330 面積 11.22	N 4 5 W	151 126 127 116	67×64×131以上× 96×42×122×40 86×84×140×42 80×76×128×34	後期 前葉	SB212→SB211 -SX(S)220 SB209・SB210 SX(S)222
4	SB 212 (報文4)	D1区 ZW -89・90	I類	長辺長 300 短辺長 290 面積 8.70	N 5 0 W	143 39 33 306	102×100×151× 116×108×164× 90×77×120× 98×84×163×	後期 前葉	SB212→SB211 -SX(S)220
5	SB 217 (報文4)	D1区 ZW-91	I類	長辺長 230 短辺長 205 面積 4.71	N 4 1 W	62 303 139 91	54×51×132× 48×46×127× 52×48×136×34 66×58×132×22	後期 前葉	SB217→SX(F)221 -SX(S)222
6	SB 218 (報文4)	D1区 ZX-90	I類	長辺長 220 短辺長 215 面積 4.73	N 8 3 W	258 259 260 261	42×40×58× 54×53×55× 58×55×45× 54×54×47×	後期 前葉	SK237・256 SK(F)238・243 復元土器4個体
7	SB 220 (報文4)	D1区 YA・ZZ -91・92	I類	長辺長 290 短辺長 265 面積 7.68	N 3 3 W	327 321 334 332	40×38×142×25 42×39×100× 45×42×90×18 98×70×107×25	後期 前葉 ~ 中葉	SK227A→SB220 SB219・SX(U)205
8	SB 228 (報文5)	D2区 ZW・ZV -86・87	I類	長辺長 340 短辺長 275 面積 9.35	N 1 5 E	526 544 556 663	98×90×169×34 120×102×169×33 110×104×157× 110×104×161×	後期 前葉	SB222→SB228 -SK279 SB221A・B SK(F)287
9	SB 229 (報文5)	D2区 ZX・ZW -85	I類	長辺長 205 短辺長 180 面積 3.69	N 2 E	560 563 568 570	26×22×42× 22×21×42× 19×18×40× 36×25×45×	後期 前葉	SK(F)302→SB229
10	SB 306 (報文10)	D3区 ZU・ZV -85・86	I類	長辺長 335 短辺長 275 面積 9.21	N 9 E	8 61 13 10	91×88×108× 90×90×140×27 118×95×155×25 99×94×138×	後期 前葉	SK308→SK308 -SB306 -SB307 -SK313・320

第41表 掘立柱建物跡 (万座隣接地I類-2)

No.	遺構名 (報文No)	調査区 グリッド	形態	建物の規模(cm・m) (長辺長×短辺長× 長軸長) (面積)	長辺・長軸 方 向	柱穴の規模 (単位:cm)		構築 時期	新旧関係 特異な出土遺物
						ピット	規模(長軸径×短軸径 × 深さ×柱径)		
11	SB 601 (報文11)	D6区 ZS・ZT -94・95	I類	長辺長 276 短辺長 281 面積 7.75	N 1 7 E	601 613 644 1090	137×132×142×50 90×80×125×40 118×96×155× 97×95×140×	後期 前葉	SB602
12	SB 606 (報文11)	D6区 ZQ・ZR -95・96	I類	長辺長 383 短辺長 383 面積 14.66	N 6 0 W	668 671 679 1091	106×104×123×43 105×101×125以上 ×53 97×97×124×43 97×94×115×52	後期 前葉	SB605→SB604 →SB606→SK613
13	SB 607 (報文11)	D6区 ZN-96 ZO-95・ 96	I類	長辺長 415 短辺長 395 面積 16.39	N 2 3 W	691 700 702 706	109×104×123×43 103×100×109×40 102×97×133×47 110×105×110×30	後期 中葉	SK(F)615・620・622 SK(T)616
14	SB 608 (報文11)	D6区 ZN -94・95 ZO-94	I類	長辺長 373 短辺長 323 面積 12.04	N 1 7 W	689 835 837 751	138×118×119×39 120×110×135×33 105×102×122×43 115×94×125×47	後期 中葉	SK(F)623 →SB608
15	SB 609 (報文11)	D6区 ZL-96 ZM -96・97	I類	長辺長 310 短辺長 260 面積 8.06	N 2 3 W	793 860 863 915	68×67×70×31 74×74×75×31 70×68×82×32 40×39×63×	後期 前葉	
16	SB 614 (報文11)	D6区 ZK-93 ZL -93・94	I類	長辺長 短辺長 470 面積	N - S	883 1008	108×100×100× 80× ×96×45	後期 中葉	未掘部分あり
17	SB 618 (報文11)	D7区 ZN・ZO -95	I類	長辺長 320 短辺長 312 面積 9.98	N 4 3 E	651 668 715 1045	87×78×103× 80×74×100× 75×74×100× 81× ×82×	後期	SK619
18	SB 04 (報文12)	D7区 ZI-85	I類	長辺長 278 短辺長 242 面積 5.20	N 8 8 E	22 41 43 115	44×44×95× 46×42×105× 41×40×84× 43×40×100×	後期	SK(F)71→SB04 →SK(F)109 →Pt35
19	SB 03 (報文15)	D8区 ZO -82・83	I類	長辺長 329 短辺長 296 面積 9.74	N 5 0 W	14 50 156 21	55×52×92× 73×73×110以上× 31 67×56×114×28 64×59×90以上×	後期	SB01→SB03 SB04
20	SB 04 (報文15)	D8区 ZO・ZP -82	I類	長辺長 315 短辺長 270 面積 8.50	N 5 6 E	52 59 78 23	90×90×150×30 83×80×150×33 87×80×150×30 84×75×118×27	後期	SB03

第42表 掘立柱建物跡（万座隣接地I類-3）

No.	遺構名 (報文No)	調査区 グリッド	形態	建物の規模(cm・㎡) (長辺長×短辺長× 長軸長) (面積)	長辺・長軸 方 向	柱穴の規模 (単位: cm)		構築 時期	新 旧 関 係 特異な出土遺物
						ピット	規模(長軸径×短軸径 ×深さ×柱根径)		
21	SB 05 (報文15)	D8区 ZP・ZQ -82・83	I類	長辺長 270 短辺長 275 面 積 7.42	N 4 3 W	24	80×78× ×	後期	SK19→SB05
						77	74×78×115以上×		
						75	30		
						76	77×74×101× 84×70×120×33		
22	SB 08 (報文15)	D8区 ZQ・ZR -82・83	I類	長辺長 338 短辺長 300 面 積 10.14	N 3 7 W	97	113×92×140×	後期	SK(F)02・ SK40・41 →SB08
						5	× × ×		
						37	84×77×110×		
						108	85×85×75×		
23	SB 09 (報文15)	D8区 ZS・ZT -83・84	I類	長辺長 261 短辺長 252 面 積 6.58	N 4 W	90	68×62×125×32	後期	SB11a・11b →SB09 SK(F)36・SK45 →SB09
						101	63×57×107×23		
						118	72×68×120×		
						60	63×63×130×25		

注1 表中の(報文)は建物跡が記載されている報告書番号である。
 注2 表中の(長辺長×短辺長)は平均値を表している。
 注3 表中の規模欄の測定値は四捨五入している。
 注4 長辺方向は原則として環状列石から放射される求心線と直交する。この交差する角度を表している。
 注5 新旧関係の判明しているものについてはその関係を 旧→新 で表現した。

第43表 掘立柱建物跡(万座隣接地Ⅱ類-1)

No.	遺構名 (報文No)	調査区 グリッド	建物の規模(cm・㎡) (長辺長×短辺長× 長軸長) (面積)	長辺・長軸 方向	柱穴の規模 (単位: cm)		構築 時期	新旧関係 特異な出土遺物
					ピット	規模(長軸径×短軸径× 深さ×柱根径)		
1	SB 203 (報文4)	D1区 ZV・ZU -91・92	長辺長 440 短辺長 375 長軸長 530 面積 18.18	N 6 7 E	2	88×88×112×	後期 前葉	SB205→SB204→SB203→ SX(S)216 SB203→SX(S)217 SB206・SX(F)225
					3	110×103×103×36		
					4	79×71×121×		
					15	60×57×122×25		
					45	79×71×121×		
2	SB 204 (報文4)	D1区 ZV・ZU -91・92	長辺長 430 短辺長 340 長軸長 510 面積 15.98	N 6 7 E	5	88×80×110×	後期 前葉	SB205→SB204→SB203 SB204→SX(S)216 SB203→SX(S)217 SB206・SX(F)225
					206	60×58×90×		
					22	56×54×115×		
					47	55×48×114×		
					49	68×66×117×28		
3	SB 205 (報文4)	D1区 ZV・ZU -91・92	長辺長 320 短辺長 295 長軸長 440 面積 11.21	N 7 5 E	53	56×54×119×25	後期 前葉	SB205→SB204→SB203 SB206・207 SX(F)225
					3	110×103×103×36		
					23	71×59×119×		
					16	59×55×110×		
					57	64×58×119×31		
4	SB 207 (報文4)	D1区 ZV・ZU -91・92	長辺長 370 短辺長 330 長軸長 350 面積 11.88	N 2 7 W	207	67×61×103×	後期 前葉	SB207→SB204→SX(S)217 SB208→SB207 SB205・209
					9	64×64×101×		
					84	58×54×92×		
					86	62×58×49×		
					46	65×64×91× × × ×		
5	SB 208 (報文4)	D1区 ZV・ZU -91・92	長辺長 340 短辺長 290 長軸長 340 面積 9.86	N 2 7 W	17	44×43×83×	後期 前葉	SB208→SB213 SB209・210
					79	60×54×99×		
					210	55×55×74×		
					31	61×50×86×		
					121	30×30×63×		
6	SB 209 (報文4)	D1区 ZV-90・91	長辺長 330 短辺長 270 長軸長 390 面積 9.72	N 6 2 E	128	52×50×105×	後期 前葉	SB209→SX(S)220 SB207・208 ・210・211
					19	63×54×99×		
					10	78×67×83×		
					106	58×56×91×		
					152	56×53×116×		
7	SB 213 (報文4)	D1区 ZV-89・90	長辺長 335 短辺長 320 長軸長 340 面積 10.80	N 5 1 E	29	47×43×81×	後期 前葉	SB208→SB213→SK258
					209	50×48×78×		
					26	69×68×83×		
					113	51×46×79×		
					25	76×63×95×		
140	48×36×92×							

第44表 掘立柱建物跡(万座隣接地Ⅱ類-2)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	建物の規模(cm・㎡) (長辺長×短辺長× 長軸長) (面積)	長辺・長軸 方 向	柱穴の規模 (単位: cm)		構 築 時 期	新旧関係 特異な出土遺物
					ピット	規模(長軸径×短軸径× 深さ×柱根径)		
8	SB 214 (報文4)	D1区 ZV-89	長辺長 315 短辺長 275 長軸長 370 面積 9.41	N41E	43 41 250 110 123 40	45×39×51× 38×34×56× 82×62×42× 32×30×57× 36×34×54× 52×50×64×	後期 前葉	SB213 SK258
9	SB 303 (SB223) (報文10) (報文5)	D2区 ZU・ZV -87・88	長辺長 405 短辺長 350 長軸長 430 面積 14.61	N16E	517 664 524 503 5 65	81×81×135×32 91×88×134× 86×83×116×36 80×80×128×32 110×106×92× 90×84×94×	後期 前葉	SB227→SB223→SB224 SB225 Sk275・276 SK(F)274
10	SB 302 (SB224) (報文10) (報文5)	D2区 ZU・ZV -87・88	長辺長 345 短辺長 275 長軸長 340 面積 9.41	N14E	516 509 665 504 4	81×80×94× 116×84×99× 119×94×89× 86×78×86× 104×88×104×37	後期 前葉	SB225→SB223→SB224 SB227→SB224 Sk275・276 SK(F)274
11	SB 301 (SB225) (報文10) (報文5)	D2区 ZU・ZV -87・88	長辺長 350 短辺長 340 長軸長 420 面積 13.09	N12E	529 507 525 512 5 65	60×59×109× 64×62×89×25 61×46×78× 58×54×85× 110×106×92× 90×84×94×	後期 前葉	SB225→SB223→SB224
12	SB 304 (SB226) (報文10) (報文5)	D2区 ZU・ZV -86・87	長辺長 370 短辺長 315 長軸長 350 面積 11.34	N10E	528 502 579 514 18	66×64×130×25 68×58×149× 70×66×119× 64×59×111×31 76×68×116×	後期 前葉	SB221A・227・228 SK(F)270
13	SB 305 (SB227) (報文10) (報文5)	D2区 ZU・ZV -86・87	長辺長 510 短辺長 335 長軸長 550 面積 17.75	N7E	538 508 543 7 45 1	98×88×172×31 90×86×142× 84×78×141×34 96×85×114×25 85×70×89× 96×78×148×27	後期 前葉	SB227→SB223→SB224 SB227→SB225 SB226・228 SK(F)274→SB227
14	SB 602 (報文11)	D6区 ZR・ZS -94・95	長辺長 315 短辺長 340 長軸長 492 面積 13.71	N78W	604 612 621 630 1095 9985	94×90×107× 103×94×111× 135×115×131× 102× ×142× 91×91× × 76×68×78×	後期 前葉	SB603→SB602 SX(φ)602

第45表 掘立柱建物跡(万座隣接地Ⅱ類-3)

No.	遺構名 (報文No)	調査区 グリッド	建物の規模(cm・㎡) (長辺長×短辺長× 長軸長) (面積)	長辺・長軸 方 向	柱穴の規模 (単位: cm)		構 築 時 期	新旧関係 特異な出土遺物
					ビット	規模(長軸径×短軸径× 深さ×柱根径)		
15	SB 603 (報文11)	D6区 ZS・ZT -94・95 ZR-94	長辺長 379 短辺長 337 長軸長 540 面積 15.48	N 8 5 W	602 605 609 614 616 1096	85×80×146×45 49× ×69× 61×60×43× 54×51×60×31 74×73×122×40 76×70×58×	後期 前葉	SB603→SB602 SB601 SK610 SX(0)602
16	SB 604 (報文11)	D6区 ZQ・ZR -94・95	長辺長 386 短辺長 398 長軸長 545 面積 18.52	N 6 0 W	620 623 625 656 666 678	77×75×90× 90×90×114×44 94×84×99× 92×86×103×35 92×81×103×38 89×73×95×	後期 前葉	SB605→SB604→SB606
17	SB 605 (報文11)	D6区 ZQ・ZR -94・95	長辺長 352 短辺長 329 長軸長 504 面積 14.08	N 5 9 W	619 624 634 660 667 676	73× ×109× 94×93×96× 111×108×121×48 68× ×75× 118×110×117×36 120×113×124×45	後期 前葉	SB605→SB604→SB606
18	SB 611 (報文11)	D6区 ZT・ZU -92・93	長辺長 285 短辺長 347 長軸長 375 面積 11.45	N 7 0 E	203 204 208 210 203	66×62×70以上× 58×56×56以上× 68×62×92× 62×62×119× 48×46× ×	後期 前葉	SK(F)242→SB611→409配 列
19	SB 612 (報文11)	D6区 ZK・ZL -91・92	長辺長 435 短辺長 393 長軸長 590 面積 20.14	N 8 E	963 969 972 976 1021 9915	100×90×120× 99×95×122× 94×85×98×34 96×95×99× 112× ×136×30 130×130×164×	後期 前葉	
20	SB 613 (報文11)	D6区 ZL・ZM -92・93	長辺長 470 短辺長 460 長軸長 565 面積 23.80	N 3 W	936 990 989 1013 929 943	100×89×96×39 139×139×97× 120×118×132× 119×110× × 120×110×126×50 98×94×93×	後期 中葉	SB617→SB 613→SB615→ SX(S)602
21	SB 615 (報文11)	D6区 ZL・ZM -92・93	長辺長 463 短辺長 428 長軸長 590 面積 22.53	N 5 W	920 934 947 959 963	107×103×123×35 130×130×117× 135×135×123×46 100×89× × 99×93× ×40	後期 中葉	SB617→SB 613→SB615→ SX(S)602

第46表 掘立柱建物跡(万座隣接地Ⅱ類-4)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	建物の規模(cm・㎡) (長辺長×短辺長× 長軸長) (面積)	長辺・長軸 方 向	柱穴の規模 (単位: cm)		構 築 時 期	新旧関係 特異な出土遺物
					ピット	規模(長軸径×短軸径× 深さ×柱根径)		
22	SB 617 (報文11)	D6区 ZL・ZM -92・93	長辺長 360 短辺長 436 長軸長 530 面 積 19.40	N 6 E	931 944 938 991 988 955	104× ×109× 124× ×134× 101× ×100× 84×80×90× 120× ×90× × ×94×44	後期 中葉	SB617→SB613→SB615 →SX(S)602
23	SB 02 (報文16) (報文12)	D7区 Z1・ZJ -88・89	長辺長 350 短辺長 384 長軸長 456 面 積 15.47	N 3 7 E	7 20 28 30 9951	× ×120× 70×69×110×21 55× ×85×23 74×60×90×30 69×65×70×	後期	SB02→SX(S)9910 SK(F)35
24	SB 03 (報文12)	D7区 ZK・ZL -86	長辺長 255 短辺長 215 長軸長 360 面 積 6.28	N 8 0 E	12 21 67 69 71 72	55×53×55× 49×49×108× 33×30× × 31× × × 28×28× × 32×31× ×	後期	SK(F)57 SK65
25	SB 05 (報文12)	D7区 ZL-85・86	長辺長 225 短辺長 210 長軸長 274 面 積 5.23	N 8 0 E	36 47 75 87 88 95	49×47×95×23 48×46×79×24 41×40×90×20 32×31×85× 39×39×78×21 47×46×85×26	後期	SK98→SB05
26	SB 06 (報文16) (報文12)	D7区 ZM-84・85	長辺長 短辺長 340 長軸長	E 1 0 S	38 45 79 80	58×57×110× 58×56×100× 39× ×75× 40×40×80×	後期	SK84→SK85→SB06 →SB07
27	SB 07 (報文16) (報文12)	D7区 ZM-84・85	長辺長 短辺長 380 長軸長	E 1 0 S	45 78 107 108	58×56×100×22 40×40×90× × ×75× 44× ×78×	後期	SK84→SK85→SB06 →SB07
28	SB 01 (報文16) (報文15)	D8区 ZO-83・84	長辺長 284 短辺長 380 長軸長 402 面 積 13.03	E 4 9 W	2 6 15 20 19	60×57×80以上× 62×57×59以上× 55×55×95× 63×63×88× 60×60×88×	後期	SB02→SB01→SB03 →SX(S)02 SB01→SK(F)9901

第47表 掘立柱建物跡(万座隣接地Ⅱ類-5)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	建物の規模(cm・㎡) (長辺長×短辺長× 長軸長) (面積)	長辺・長軸 方 向	柱穴の規模 (単位: cm)		構 築 時 期	新旧関係 特異な出土遺物
					ピット	規模(長軸径×短軸径× 深さ×柱根径)		
29	SB 02 (報文16) (報文15)	D8区 ZO-83・84 ZP-83	長辺長 320 短辺長 361 長軸長 462 面積 14.11	N53W	9	80× ×69以上×	後期	SB02→SB01
					31	80× ×96×		
					51	115×109×114×		
					53	83×83×84×32		
					22	84×76×100×		
210	66×64× ×							
30	SB 06 (報文16) (報文15)	D8区 ZP・ZQ -83	長辺長 399 短辺長 352 長軸長 464 面積 15.18	E54W	26	70×56× ×	後期	SK04→SB06
					25	52×50× ×		
					29	70×62×108×35		
					32	50×50×101×		
					9952	58×43× 77×		
9909	93×74×101×							
31	SB 07 (報文16) (報文15)	D8区 ZP・ZQ -83	長辺長 325 短辺長 320 長軸長 406 面積 11.69	N41W	28	50×45×85×	後期	SK04→SB07
					40	55×50×82×20		
					73	47×47× ×17		
					103	50×47× ×17		
					9954	41×38×50×		
9910	53×49×83×							
32	SB 10 (報文15)	D8区 ZT-84・84	長辺長 262 短辺長 282 長軸長 420 面積 9.61	N2E	165	50×48× ×	後期	SB307 (D3区)
					200	68×65× ×		
					95	60×60× ×		
					22	63×55×99×27		
					21	104×102×108×		
70	56×56×124×26							

- 注1 表中の(報文)は建物跡が記載されている報告書番号である。
 注2 表中の(長辺長×短辺長)は平均値を表している。
 注3 表中の規模欄の測定値は四捨五入している。またピット欄の数字太い文字は長軸柱穴である。
 注4 長辺方向は原則として環状列石から放射される求心線と直交する。この交差する角度を表している。
 注5 新旧関係の判明しているものについてはその関係を 旧→新 で表現した。

第48表 掘立柱建物跡(万座隣接地Ⅲ類～Ⅸ類-1)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	形態	建物の規模(cm) (長軸×短軸) 面積 (㎡)	長軸方向	柱穴の規模 (単位: cm)		構築 時期	周溝壁柱穴 の有無	新旧関係 特異な出土遺物
						主柱穴 壁柱穴 ピット数	規模(長軸×短軸)× 深さ			
1	SB216 (報文4)	D4区 ZW-91~92	V類	長軸365 短軸325 張出450 面積11.86	N68E	主柱穴 8本	(32~68×28~56) ×38~79	後期		
2	SB219 (報文4)	D4区 ZZ-91~92	IV類	長軸420 短軸360 面積15.12	N30W	主柱穴 6本	(38~74×38~70) ×53~78	後期		
3	SB211A (報文5)	D5区 ZW~ZV -85~87	VI類	長軸660 短軸660 面積34.19	N82W	主柱穴 5本 壁柱穴 44本	(19~29×16~27) ×28~58 (14~29×13~27) ×10~58	後期	壁柱穴有	SB211→SB228 SB211A→ SK(S)226 SB211A→ SK289 SB211A→ SK305
4	SB211A (報文5)	D5区 ZW~ZV -85~87	VI類	長軸540 短軸540 面積22.89	N79W	主柱穴 5本 壁柱穴 22本	(19~29×16~27) ×28~58 (16~44×14~28) ×18~56	後期	壁柱穴有	SB211B →SB228 SB211B →SK228 SB211B →SK305 ほか
5	SB222 (報文5)	D5区 ZW~ZV-86	VII類	長軸410 短軸290 面積10.08	N49W	主柱穴 5本 壁柱穴 20本	(18~28×16~26) ×30~58 (14~28×10~24) ×15~25	後期	周溝壁柱穴 有	SB222→SB228 SB222 →SK(F)341 SB222→SK305 ほか
6	SB307 (報文10)	D3区 ZV~ZU -84~85	VII類	長軸620 短軸620 面積30.17		主柱穴 4本 壁柱穴 19本	(30~57×30~56) ×42~71 (10~42×8~38) ×25~58	後期	周溝壁柱穴 有	SK311B・313 →SB307 東側に出入口
7	SB310 (報文10)	D4区 ZX~ZY -94~95	IX類	長軸600 短軸600 面積28.26		主柱穴 壁柱穴 19本	(23~38×18~34) ×22~73	後期	壁柱穴有	
8	SB610 (報文11)	D6区 ZM~ZN -95~96	VI類	長軸432 短軸 面積14.64	N15E	主柱穴 4本 壁柱穴 15本	(22~91×21~) ×30~94 (19~40×18~31) ×12~64	後期	壁柱穴有	

第49表 掘立柱建物跡(万座隣接地Ⅲ類～Ⅸ類-2)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	形態	建物の規模(cm) (長軸×短軸) 面積 (m ²)	長軸方向	柱穴の規模 (単位: cm)		構築 時期	周溝壁柱穴 の有無	新旧関係 特異な出土遺物
						主柱穴 壁柱穴 ピット数	規模(長軸×短軸)× 深さ			
9	SB11A (報文15)	D8区 ZS~ZT -82~83	Ⅵ類	550×540 面積 23.3 1	N10E	主柱穴 4本 壁柱穴 27本	(33~40×30~39) ×63~ (20~35×18~34) ×	後期	壁柱穴有	東側に出入口 動物形土製品出 土 SB11A→SB09
10	SB11B (報文15)	D8区 ZS~ZT -82~83	Ⅵ類	660×670 面積 34.7 1	N10E	主柱穴 4本 壁柱穴 27本	(33~40×30~39) ×63~ (20~35×18~34) ×	後期	壁柱穴有	東側に出入口 動物形土製品出 土 SB11A→SB09

- 注1 表中の(報文)は建物跡が記載されている報告書番号である。
- 注2 柱穴規模の数値は長軸・短軸の規模を表している。
- 注3 表中の規模欄の測定値は四捨五入している。
- 注4 長軸方向は原則として環状列石から放射される求心線と直交する。この交差する角度を表している。
- 注5 新旧関係の判明しているものについてはその関係を 旧→新 で表現した。

第50表 掘立柱建物跡(万座北側地区I類)

No.	遺構名 (報文No)	調査区 グリッド	形態	建物の規模(cm・㎡) (長辺長×短辺長× 長軸長) (面積)	長辺・長軸 方 向	柱穴の規模 (単位: cm)		構築 時期	新 旧 関 係 特異な出土遺物
						ピット	規模(長軸径×短軸径 ×深さ×柱根径)		
1	SB 202 (報文4)	D1区 YL~YK -91~92	I類	長辺長400 短辺長320 面 積12.80	N 5 2 W	71 75 75 78	88×49×101× 67×65×98×29 65×65×114× 71×63×102×32	後期 前葉	ST201→SB201 →SB202
2	SB 403 (報文6)	F1区 YT-109	I類	長辺長235 短辺長230 面 積5.40	N 8 9 E	17 18 19 20	64×58×90×26 46×44×92×24 62×58×82×24 54×52×73×	後期 前葉	
3	SB 404 (報文6)	F1区 YR -108~109	I類	長辺長170 短辺長170 面 積2.89	N 2 E	13 14 15 16	22×22×31× 26×22×33× 28×24×36× 30×22×36×	後期 前葉	
4	SB05 (報文13)	F4区 YJ-102	I類	長辺長415 短辺長310 面 積12.85	N 1 4 E	11 14 16 34	68×66×80×21 68×66×90×22 61×57×84× 54×52×77×18	後期 前葉	SB05→SK(F)13 SB06
5	SB06 (報文13)	F4区 YJ-102 YK -102~103	I類	長辺長280 短辺長275 面 積7.70	N 2 0 E	15 120 165 167	62×57×57× 58×57×77×28 70× ×78× 60× ×100×22	後期 前葉	SB06→SX(S)04 SB05
6	SB10 (報文13)	F4区 YK-99	I類	長辺長210 短辺長205 面 積4.30	N 8 6 E	16 17 61 62	35×33×70× 43×42×65× 38×37×62× 38×37×65×	後期 前葉	SB10→SK42

注1 表中の(報文)は建物跡が記載されている報告書番号である。
注2 表中の(長辺長×短辺長)は平均値を表している。
注3 表中の規模欄の測定値は四捨五入している。
注4 長辺方向は原則として環状列石から放射される求心線と直交する。この交差する角度を表している。
注5 新旧関係の判明しているものについてはその関係を 旧→新 で表現した。

第51表 掘立柱建物跡(万座北側地区Ⅱ類-1)

No.	遺構名 (報文No)	調査区 グリッド	形態	建物の規模(cm・m) (長辺長×短辺長× 長軸長) (面積)	長辺・長軸 方向	柱穴の規模 (単位: cm)		構築 時期	新 旧 関 係 特異な出土遺物
						ピット	規模(長軸径×短軸径× 深さ×柱根径)		
1	SB 401 (報文6)	F1区 YS~YR- 101~102	Ⅱ類	長辺長 390 短辺長 300 長軸長 430 面積 12.30	N 3 5 E	1 2 3 4 5 6	98×92×129×40 114×104×129× 100×96×114×39 90×84×116×37 76×74×105×33 102×96×115×38	後期 前葉	SB401→SI405 SB401→SB435 → SI406
2	SB 402 (報文6)	F1区 YS~YR- 102~103	Ⅱ類	長辺長 340 短辺長 330 長軸長 430 面積 12.70	N 4 4 E	7 8 9 10 11 12	56×54×100×32 52×50×91× 62×58×96×30 64×60×84×32 50×48×81×28 54×54×94×28	後期 前葉	SK434
3	SB01 (報文13)	F4区 YI~YJ- -99~100	Ⅱ類	長辺長 325 短辺長 360 長軸長 440 面積 13.77	N 6 4 E	1 2 3 4 5 6	68×68×103×22 71×70×98× 88×82×119×33 75×70×97×35 92×83×94×33 77×70×96×32	後期 前葉	SK20→SB01 SK37→SB01 SB01→SX(S)03
4	SB02 (報文13)	F4区 YI- 101~102	Ⅱ類	長辺長 358 短辺長 375 長軸長 555 面積 17.11	N 5 4 E	36 40 43 44 46	72×67×80×27 80×78×110×30 65×63×100×20 67×67×100× 52×49× × × × ×	後期 前葉	SB02→SX(S)08 SK(F)27
5	SB03 (報文13)	F4区 YI~YJ- 102~103	Ⅱ類	長辺長 390 短辺長 363 長軸長 470 面積 15.60	N 3 3 E	13 32 38 39 41 42	93×90×107×28 83×82×103×37 90×83×100×34 82×80×103×29 70×63×97× 90×89×106×	後期 前葉	SB03→SK(F)22 →SX(F)07
6	SB04 (報文13)	F4区 YI-103 YJ- 103~104	Ⅱ類	長辺長 385 短辺長 391 長軸長 490 面積 17.10	N 1 4 E	19 30 37 56 58 65	120×118×120×52 90×88×140×40 113×112×108×50 105×102×133×52 88×87×109×32 105×100×118×43	後期 前葉	SB04→SX(C)06
7	SB07 (報文13)	F4区 YK-105 YL-105	Ⅱ類	長辺長 305 短辺長 358 長軸長 500 面積 14.40	N 1 2 W	51 52 53 54 55	78×76×99×37 70×69×102×32 68×68×94× 70×63×93× 75×70×96×32 × × ×	後期 前葉	

第52表 建物跡(万座北側地区Ⅱ類-2)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	形態	建物の規模(cm・㎡) (長辺長×短辺長×長 軸長) (面積)	長辺・長軸 方向	柱穴の規模 (単位: cm)		構築 時期	新旧関係 特異な出土遺物
						ピット	規模(長軸径×短軸径× 深さ×柱根径)		
8	SB08 (報文13)	F4区 YN-106	Ⅱ類	長辺長 260 短辺長 250 長軸長 340 面積 7.50	N40W	62	70×68×82×33	後期 前葉	
						69	55×54×80×24		
						91	52×50×80×25		
						93	50×49×70×		
						172	52×50×80×		
						189	58×50×70×25		
9	SB09 (報文13)	F4区 YJ-98~ 99 YK-99	Ⅱ類	長辺長 390 短辺長 363 長軸長 500 面積 16.15	N87E	105	83×83×105×29	後期 前葉	SK(T)19→SB09
						106	70×68×101×23		
						107	93×93×95×32		
						108	77×75×104×29		
						109	78×73×105×23		
							×××		

- 注1 表中の(報文)は建物跡が記載されている報告書番号である。
 注2 表中の(長辺長×短辺長)は平均値を表している。
 注3 表中の規模欄の計測値は四捨五入している。またピット欄の数字太い文字は長軸柱穴である。
 注4 長軸方向は原則として環状列石から放射される求心線と直交する。この交差する角度を表している。
 注5 新旧関係の判明しているものについてはその関係を 旧→新 で表現した。

第53表 掘立柱建物跡(万座西側地区Ⅱ類)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	形態	建物の規模(cm・㎡) (長辺長×短辺長× 長軸長) (面積)	長辺・長軸 方向	柱穴の規模 (単位: cm)		構築 時期	新旧関係 特異な出土遺物
						ピット	規模(長軸径×短軸径× 深さ×柱根径)		
1	SB08 (報文20)	G4区 YO-53~54	Ⅱ類	長辺長 246 短辺長 292 長軸長 325 面積 8.33	N61E	7	47×40×42×19	後期 前葉	
						8	39×38×48×20		
						9	38×38×43×14		
						12	36× ×54×20		
						13	36×28×42×16		
						14	38×38×43×14		

- 注1 表中の(報文)は建物跡が記載されている報告書番号である。
 注2 表中の(長辺長×短辺長)は平均値を表している。
 注3 表中の規模欄の計測値は四捨五入している。またピット欄の数字太い文字は長軸柱穴である。
 注4 長軸方向は原則として環状列石から放射される求心線と直交する。この交差する角度を表している。
 注5 新旧関係の判明しているものについてはその関係を 旧→新 で表現した。

第54表 掘立柱建物跡(万座西側地区Ⅲ類～Ⅸ類)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	形態	建物の規模(cm) (長軸×短軸) 面積(m ²)	長軸方向	柱穴の規模 (単位: cm)		構築 時期	周溝壁柱 穴の有無	新旧関係 特異な出土遺物
						主柱穴 壁柱穴 ピット数	規模(長軸×短軸) ×深さ			
1	SB 230 (報文5)	D2区 YC-79	Ⅲ類	長辺長315 短辺長200 面積6.30	N26E	主柱穴 700 701 702 703 704	23×22×14× 30×29×28× 28×26×20× 34×34×27× 29×28×21 ×			SB201→SK239

注1 表中の(報文)は建物跡が記載されている報告書番号である。
 注2 柱穴規模の数値は長軸・短軸の規模を表している。
 注3 表中の規模欄の測定値は四捨五入している。
 注4 新旧関係の判明しているものについてはその関係を 旧→新 で表現した。

第55表 掘立柱建物跡(野中堂隣接地Ⅰ類)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	形態	建物の規模(cm・m) (長辺長×短辺長× 長軸長) (面積)	長辺・長軸 方向	柱穴の規模 (単位: cm)		構築 時期	新旧関係 特異な出土遺物
						ピット	規模(長軸径×短軸径× 深さ×柱径径)		
1	SB02 (報文17)	B2区 I~J -87~88	Ⅰ類	長辺長 270 短辺長 250 面積 6.75	N54E	114 116 306	77×73×126× 74×73×125× 62×58×141× × × ×		SB02→SX(S)02
2	SB04 (報文17)	B2区 H~I -88~89	Ⅰ類	長辺長 270 短辺長 250 面積 6.75	N48E	146 151 172 425	61×61×100× 82×76×106× 73×66×107× 87×69×95×		SK110→SB03 →SX(O)01
3	SB 202 (報文18)	B4区 M~N -89~90	Ⅰ類	長辺長 320 短辺長 300 面積 9.60		444 451 433 438	72× × × 73×71×143× 97×90×126× 38×33×86×		SB202→野中堂隣 状列石 SK253→SB202 →SK216
4	SB 206 (報文18)	B4区 E~F -93~94	Ⅰ類	長辺長 350 短辺長 330 面積 11.55		23 26 680 691	57×47×49× 85×85×52× 33×32×42× 58× ×90×		SB205・207
5	SB 207 (報文18)	B4区 E~F -93~94	Ⅰ類	長辺長 250 短辺長 250 面積 6.25		183 259 609 22	66×56×125× 72×62×171× 81×76×102× 89×85×60×		SB205・206

注1 表中の(報文)は建物跡が記載されている報告書番号である。
 注2 表中の(長辺長×短辺長)は平均値を表している。
 注3 表中の規模欄の測定値は四捨五入している。
 注4 長辺方向は原則として環状列石から放射される求心線と直交する。この交差する角度を表している。
 注5 新旧関係の判明しているものについてはその関係を 旧→新 で表現した。

第56表 掘立柱建物跡（野中堂隣接地Ⅱ類-1）

No.	遺構名 (報文No)	調査区 グリッド	形態	建物の規模(cm・m) (長辺長×短辺長× 長軸長) (面積)	長辺・長軸 方 向	柱穴の規模 (単位: cm)		構築 時期	新旧関係 特異な出土遺物
						ピッ ト	規模(長軸径×短軸径× 深さ×柱根径)		
1	SB01 (報文17)	B2区 J~K -89~90	Ⅱ類	長辺長350 短辺長230 長軸長520 面積 10.00		15 337 198 133 16 171	78×70×79× 83×80×116× 72×70× × 88×76×92× 98×83×74× 79×77×95×		SB211→SB212 -SB01
2	SB 200 (報文18)	B2区 F~G -92~93	Ⅱ類	長辺長350 短辺長230 長軸長480 面積 9.54		693 261 268 255 598 606	57× ×82× 55×55×69× 65×60×85× 84×76×92× 50× ×99× 82× ×121×		SB208→SB200 SB209
3	SB 201 (報文18)	B2区 M-89~90	Ⅱ類	長辺長320 短辺長388 長軸長440 面積 14.74		471 470 442 453	63× ×74× 80×78×89× 89× ×105× 69×67×98× × × × × × ×		SB202 SK(F)214
4	SB 203 (報文18)	B2区 N~O -91~9 2	Ⅱ類	長辺長204 短辺長268 長軸長336 面積 7.23		416 768 428 499 500 504	78×69×103× 23×21×33× 86×72×114× 92×79×79× 80×74×104× 70×65×108×		SB203→SB204 →野中堂環状列石
5	SB 204 (報文18)	B2区 N~O -91~9 2	Ⅱ類	長辺長258 短辺長384 長軸長400 面積 12.63		417 421 718 748 506	48×39×38× 41×36×54× × × × 31× ×49× 37×34× × 28×25×80×		SB203→SB204 →野中堂環状列石
6	SB 205 (報文18)	B2区 E~F -93~94	Ⅱ類	長辺長358 短辺長336 長軸長412 面積 12.93		30 24 25 249 251 252	54×49×54× 62×55×52× 70×64×65× 66×55×106× 52×48×80× 68×58×132×		SB205→野中堂環状 列石 SB206・SB207
7	SB 208 (報文18)	B2区 E~F -92	Ⅱ類	長辺長280 短辺長303 長軸長384 面積 12.74		276 265 180 182 185 265	50×41×92× × × × 44×40×78× 58×54×72× 55×52×62× 47×44×76×		SB208→SB200 SB209

第57表 掘立柱建物跡(野中堂隣接地Ⅱ類-2)

No.	遺構名 (報文No)	調査区 グリッド	形態	建物の規模(cm・m) (長辺長×短辺長×長軸 長) (面積)	長辺・長軸 方向	柱穴の規模 (単位: cm)		構築 時期	新旧関係 特異な出土遺物
						ピット	規模(長軸径×短軸径× 深さ×柱径径)		
8	SB 209 (報文18)	B4区 F~G -91~92	Ⅱ類	長辺長284 短辺長319 長軸長340 面積 9.95		275 273 278 715 712 277	58×44×58× ××× 49×43×112× 47×42×99× 56×54×115× 56×55×125×		SB209→SK260 SB208
9	SB 210 (報文18)	B4区 F~G-91	Ⅱ類	長辺長316 短辺長350 長軸長432 面積 13.09		197 191 194 672 713 239	39×32×76× 74×71×124× 78×73×180× ××95× 68×60×90× 25×22×41×		SK156→SB210
10	SB 211 (報文18)	B4区 I~J -89~90	Ⅱ類	長辺長292 短辺長337 長軸長396 面積 11.59		17 18 226 163 170 135	61×52×58× 58×50×56× 50×49×54× 71×62×82× 62×60×80× 41×40×80×		SB211→SB212 →SB01
11	SB12 (報文18)	B2区 N~O -91~92	Ⅱ類	長辺長282 短辺長297 長軸長302 面積 8.67		134 164 162 167 171 136	48×47×93× 54×53×120× 52×45×89× 50×45×107× 79×77×95× 52×48×107×		SB211→SB212 →SB01

- 注1 表中の(報文)は建物跡が記載されている報告書番号である。
 注2 表中の(長辺長×短辺長)は平均値を表している。
 注3 表中の規模欄の計測値は四捨五入している。またピット欄の数字太い文字は長軸柱穴である。
 注4 長軸方向は原則として環状列石から放射される求心線と直交する。この交差する角度を表している。
 注5 新旧関係の判明しているものについてはその関係を 旧→新 で表現した。

第58表 掘立柱建物跡(野中堂隣接地Ⅲ類~Ⅸ類)

No.	遺構名 (報文No)	調査区 グリッド	形態	建物の規模(cm) (長軸×短軸) 面積(m ²)	長軸方向	柱穴の規模 (単位: cm)		構築 時期	周溝壁柱穴 の有無	新旧関係 特異な出土遺物
						主柱穴 壁柱穴 ピット数	規模(長軸×短軸) ×深さ			
1	SB03 (報文5)	B2区 H~I -88~89	Ⅸ類	長軸460 短軸410 面積 14.85		主柱穴 壁柱穴 15本	(19~38×16~ 37) ×17~38	後期	壁柱穴有	SK113→SB03

- 注1 表中の(報文)は建物跡が記載されている報告書番号である。
 注2 柱穴規模の数値は長軸・短軸の規模を表している。
 注3 表中の規模欄の測定値は四捨五入している。
 注4 長軸方向は環状列石から放射される求心線と直交する。この交差する角度を表している。
 注5 新旧関係の判明しているものについてはその関係を 旧→新 で表現した。

(3) 柱穴列 (第86～89図、第59～60表)

確実に列を成すものは3列である。万座隣接地や野中堂隣接地に多量の柱穴状ピットが分布しているが、その配列に確実性を持たないため除外した。

【ア. 形態】

1 形態である。

I 類 同規模の柱穴状ピットが直線的に3個以上、等間隔に並んだもの

万座北側地区

1列検出された。柱穴間6m～8mの間隔を置いて4個の柱穴状ピットが直線的に配置されている。

万座西側地区

2列検出された。各々は柱穴間約10mの間隔を置いて3個の柱穴が直線的に配置されている。この2列の柱穴列は、その間の距離を大きく開けているが同一方向を指し、一直線に並んでおり、一連の遺構として取り扱ってよいものと考えられる。このことから以後一連のものとして記述する。

【イ. 規模】

万座北側地区

柱穴の規模は、直径73cm～92cm、深さ92cm～124cmで、土層断面から柱痕は直径28cm～36cmである。Pit103～Pit105までの距離は20mで、柱穴列はN-10°-Eを指す。

万座西側地区

柱穴の規模は、直径93cm～130cm、深さ80cm～142cmで、土層断面から柱痕は直径22cm～49cmである。万座北側地区のものと比較し、一回り大きい。Pit5～Pit11までの距離は62mで、柱穴列はN-27°-Eを指す。

【ウ. 確認面と構築面】

万座北側地区

基本層序V層まで耕作が及んでいたことから、V層で確認された。

万座西側地区

確認面・構築面ともIII d層上面である。

【エ. 堆積状況】

万座北側地区

柱を据えた後、一気に埋め戻された状況を示している。柱は底面直上に据付けられることがなく、柱と底面の間には黒色土が挟まっていた。各ピットの土層断面を観察すると柱の立ち上がりラインを検出面まで確認することができない。柱を抜き取る時の手法の違いによるものと想定される。Pit101・102・104は柱痕直上の堆積土がロート状に開放し、Pit103・105は柱痕が堆積土の途中でほぼ水平に切断されている。

万座西側地区

土層断面図から、柱を据えた後一気に埋め戻された状況を示している。柱は万座北側地区と違い柱穴底面に据えられているのがみられる。また、土層断面はPit18を除き、万座北側地区と類似した

堆積状況となっている。

【オ. 出土遺物】

万座北側地区

柱穴状ピット内及び遺構外からの遺物は出土しなかった。

万座西側地区

柱穴状ピット内及び遺構外からの遺物は出土しなかった。

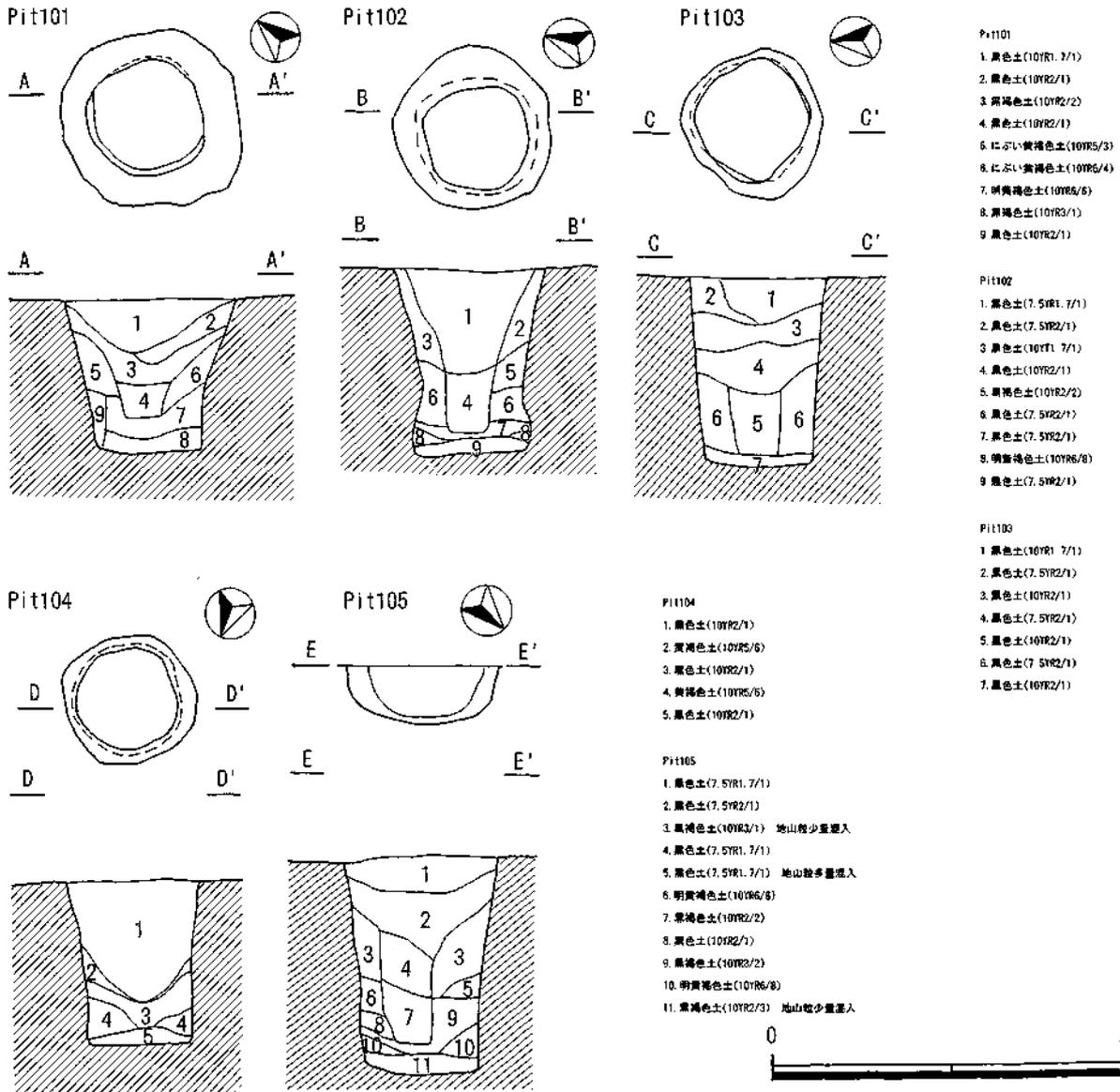
【カ. 重複関係】

万座北側地区

重複関係はみられない。

万座西側地区

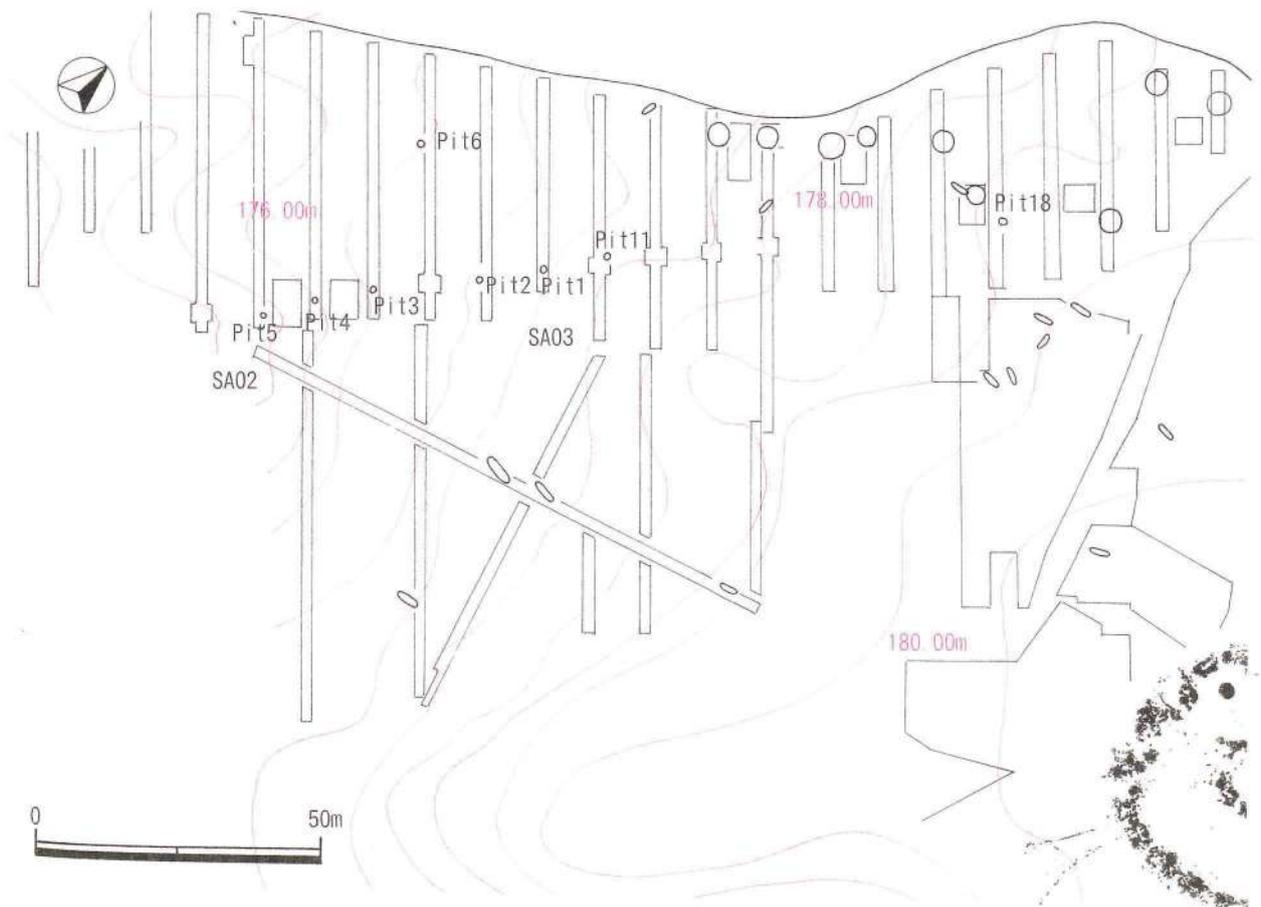
重複関係はみられない。



第86図 柱穴状ピット実測図(1)



第88図 柱穴列位置図（万座北側地区）



第89図 柱穴列位置図（万座西側地区）

【キ. 時 期】

万座北側地区

本地区台地縁に分布する重複関係からTピットは最も古い時期のものと考えられている。Tピットと有機的に結びつくものであれば、Tピットと同時期の後期前葉の時期と考えられる。

万座西側地区

構築面から後期前葉と考えられる。

【ク. 分 布】

万座北側地区

柱穴列は台地北側より大きく入り込んだ沢頭に向かって配置され、沢頭部分には13基で構成されたTピット群が位置する。

万座西側地区

柱穴列は台地南側から入り込んだ浅い沢地に沿って配置されている。柱穴列の北側70mにはPit18と万座西側竪穴住居跡群がある。

【ケ. 性 格】

万座北側地区の柱穴列は、台地縁より入り込んできた沢頭を囲むように配置されたTピット群にその方向を向いており、陥し穴との関連も考えられる。一方、万座西側地区で検出された2条の柱穴列は台地縁に平行して配置され、西側地区の竪穴住居群を指している。

前者は狩猟との関連、後者は区画を目的としたものと考えられるが、性格を一本化することはできない。

第59表 柱穴列(万座北側地区)

No.	遺構名 (報文No)	調査区 グリッド	形態	確認面	柱規模	柱穴方位	出土遺物	重複関係 備 考	構築 時期
					PitNo. 径×深さ×柱底				
1	SA01 (報文7)	F2区 YB-116 ほか	I類	Ⅲd 上面	102 92×106×32	N10E		柱穴列として 新番号を付し た	
					103 86×107×36				
					104 78×92×				
					105 85×124×28				
	Pit101 (報文7)	ZY-114		Ⅲd 上面	101 120×87×20				

第60表 柱穴列(万座西側地区)

No.	遺構名 (報文No)	調査区 グリッド	形態	確認面	柱規模	柱穴方位	出土遺物	重複関係	構築 時期
					PitNo. 径×深さ×柱底				
1	SA02 (報文20)	G4区 YH-64	I類	Ⅲd 上面	1 118×116×32	N28E		柱穴列として 新番号を付し た	
					2 114×142×32				
					11 130×80×22				
2	SA03 (報文20)	G4区 YG-65	I類	Ⅲd 上面	8 93×98×49	N26E		柱穴列として 新番号を付し た	
					4 102×101×41				
					5 98×115×41				
	Pit6 (報文20)	G4区 YM-60		Ⅲd 上面	6 96×59×41				
	Pit18 (報文19)	D9区 YJ-80		Ⅲd 上面	18 118×(179)×60				

4. 竪穴住居跡（第90～99図、第61～65表）

これまでに16棟の竪穴住居跡が検出されている。なお、第6次調査の第406号・407号竪穴住居跡は「第三章第2節・遺構の分類」から外れること、第19次調査の第4号竪穴住居跡は石囲炉の位置と土層断面、柱穴配置を総合的に判断したところ住居跡と認定することが困難であったことから除外した。

【ア 形態と住居内施設】

円形と楕円形に分類され、柱の位置によって細分される。短軸を1.0とし長軸が1.1以上のものを楕円形、1.1以下のものを円形とした。

I類： 平面形が円形を呈するもので、柱穴の位置によって細分される。

a類 平面形が円形を呈し、主柱穴が住居内に穿たれるもの。

b類 平面形が円形を呈し、主柱穴が住居外に穿たれるもの。

c類 平面形が円形を呈し、屋内に主柱穴を穿ち、屋外に補助柱穴を巡らせるもの。

II類： 平面形が楕円形を呈するもので、主柱穴が住居内に穿たれるもの。

万座北側地区

I a類3棟(F2区SI400、SI405、408)、I b類1棟(SI403)、II類1棟(SI410)である。第403号竪穴住居跡は屋外に柱穴が等間隔に巡らされている。その他は基本的には炉跡を挟んで2本(あるいは3本)1対に穿たれている。炉跡は住居中央に設置されるもの2例、中央より東・南・北壁よりに設置されるもの各1例で、円形を呈する石囲炉4例、方形が1例である。

第403号竪穴住居跡のように東壁に接して「コ字状」の特殊な石組施設を持つもの、第405号、408号竪穴住居跡のように壁際に数個の扁平な川原石を並列ならべたものもある。

万座西側地区

I a類7棟(SI01～05以上D9区、01～02以上G4区)、II類1棟(SI07)、不明1棟(SI08)である。柱穴は炉跡を挟んで対に穿たれるものと考えられるが、トレンチ調査という制約があり規則的な配置の有無を読み取ることが出来なかった。

炉跡は住居中央に設置されるものが4例、住居中央より東寄り2例、西寄り2例、南寄り1例である。炉の形態が円形を呈するもの7例、方形・楕円形を呈するもの各1例である。

第01号竪穴住居跡(G4区)は、東壁際に浅い掘り込みがありその縁に沿って川原石を巡らした特殊な施設を持つ。万座北側地区の第403号竪穴住居跡と類似した住居平面形態、施設を持っている。

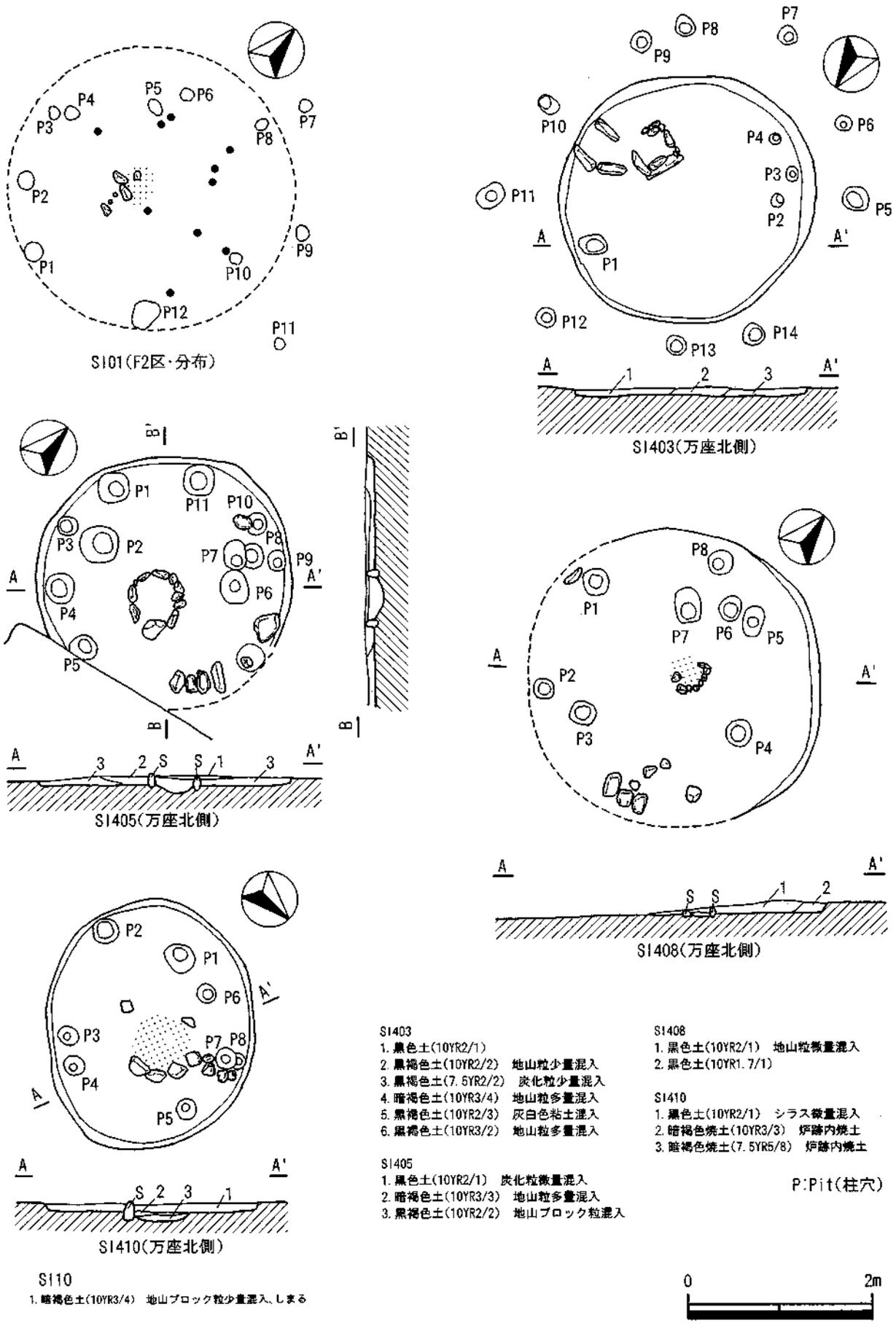
野中堂隣接地

I c類1棟(SI02)、II類1棟(SI01)である。第02号竪穴住居跡は円形を呈し、南側に張出部を有し、屋内に主柱穴、屋外に補助柱穴が穿たれている。中央に石囲炉が配置され、炉周りに炭化した棒(枝)が差し込まれた直径14～16cm、深さ13～16cm程のピットが確認された。また、床面は火熱を受けた痕跡が認められ、焼失家屋と判断された。

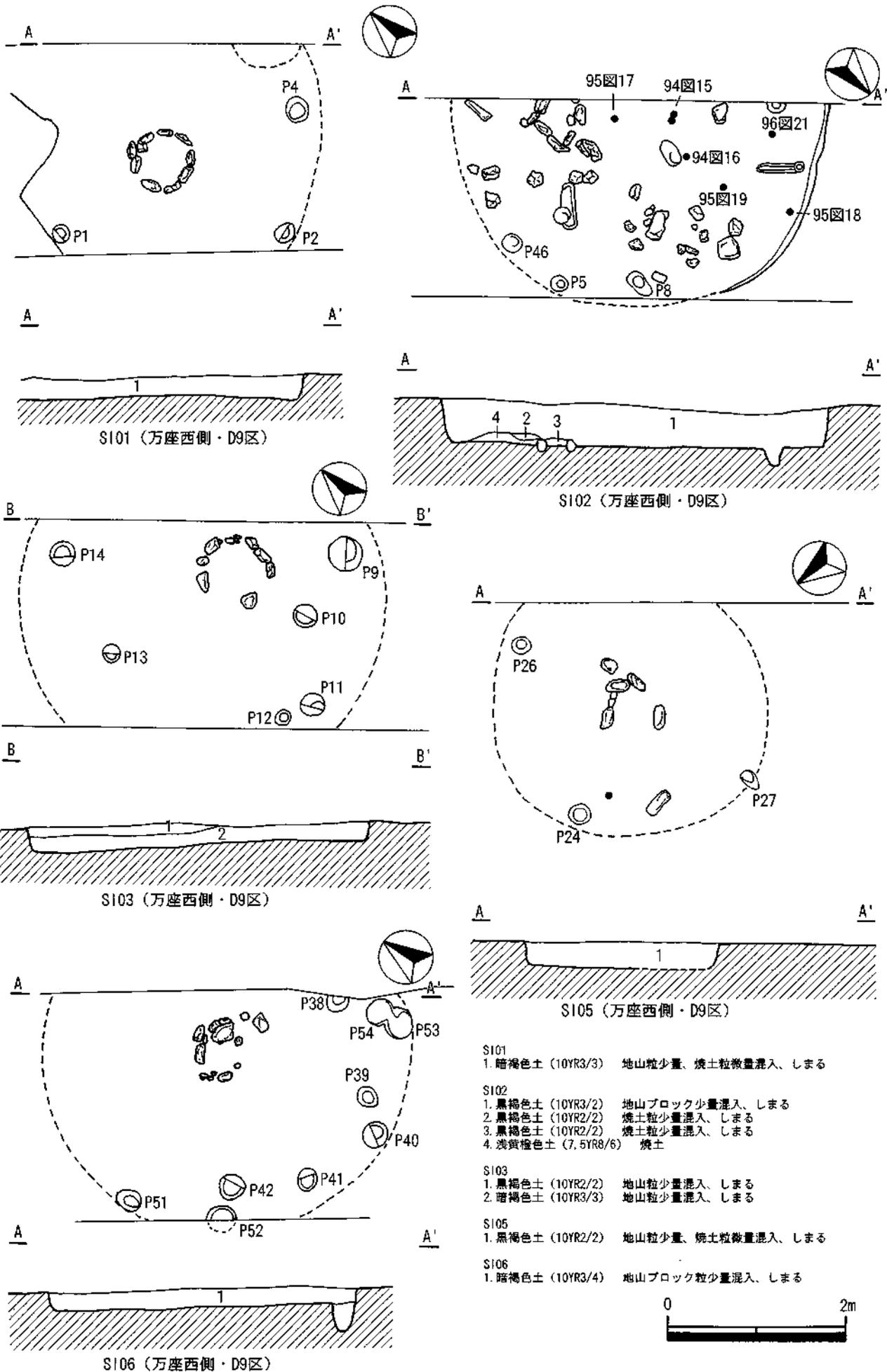
第01号竪穴住居跡は楕円形を呈する。柱配置がはっきりとせず、床面中央に地床炉が配置される。

【イ 規模】

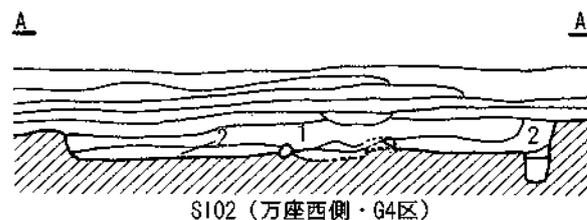
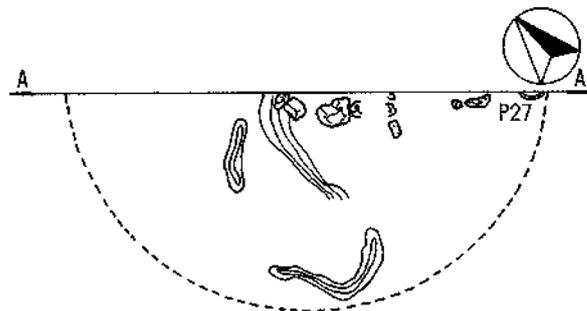
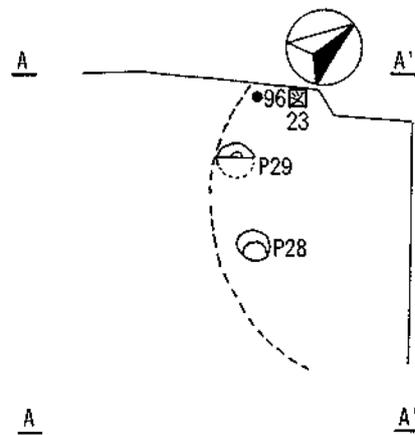
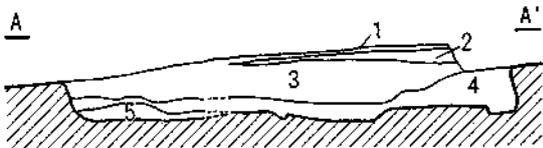
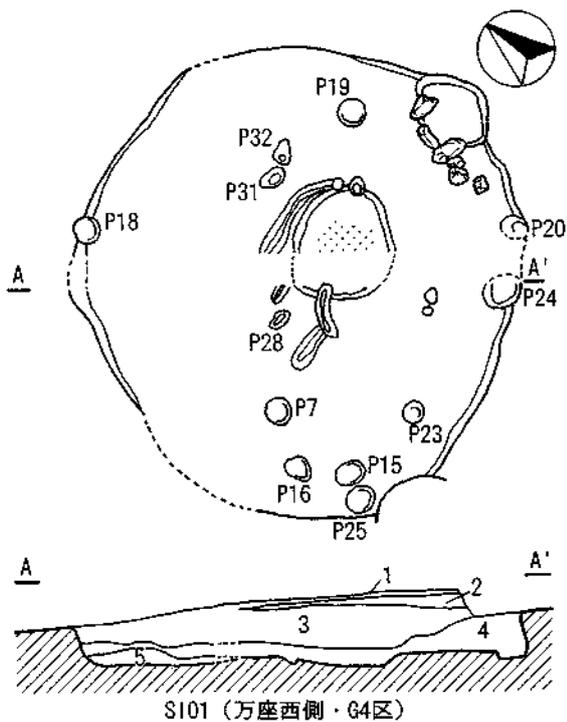
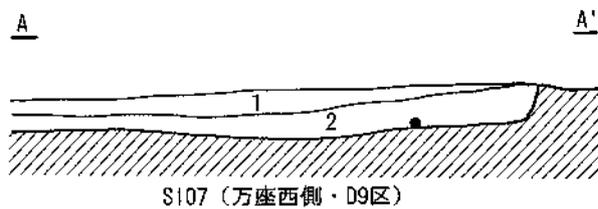
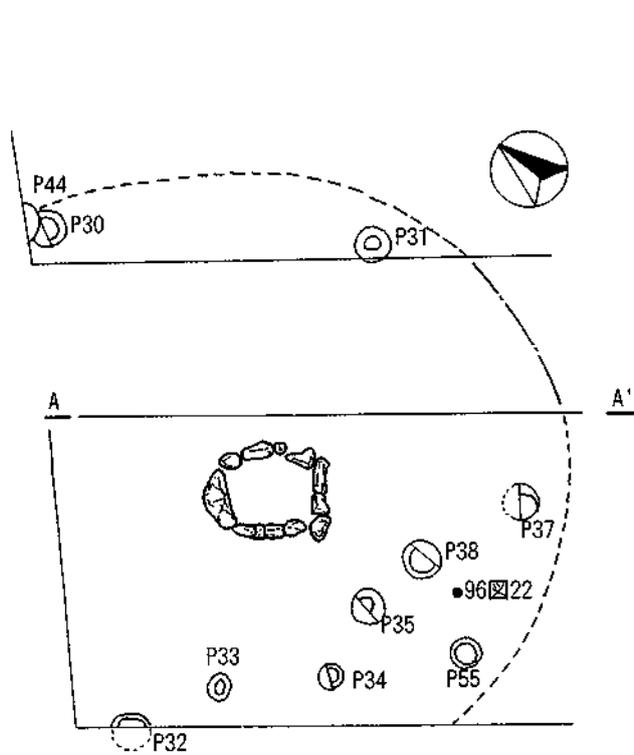
万座北側地区の住居規模は小さく、同西側地区、野中堂隣接地のものは大きくなることが読み取れ



第90図 竪穴住居跡実測図(1)



第91図 竪穴住居跡実測図(2)



S107

1. 黒褐色土 (10YR2/2) 地山粒、焼土粒微量混入、しまる
2. 黒褐色土 (10YR3/2) 地山粒少量、焼土粒、炭化粒微量混入、しまる

S108

1. 黒褐色土 (10YR3/2) 地山粒、炭化粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土 (10YR2/2) 地山粒、焼土粒微量混入、しまる

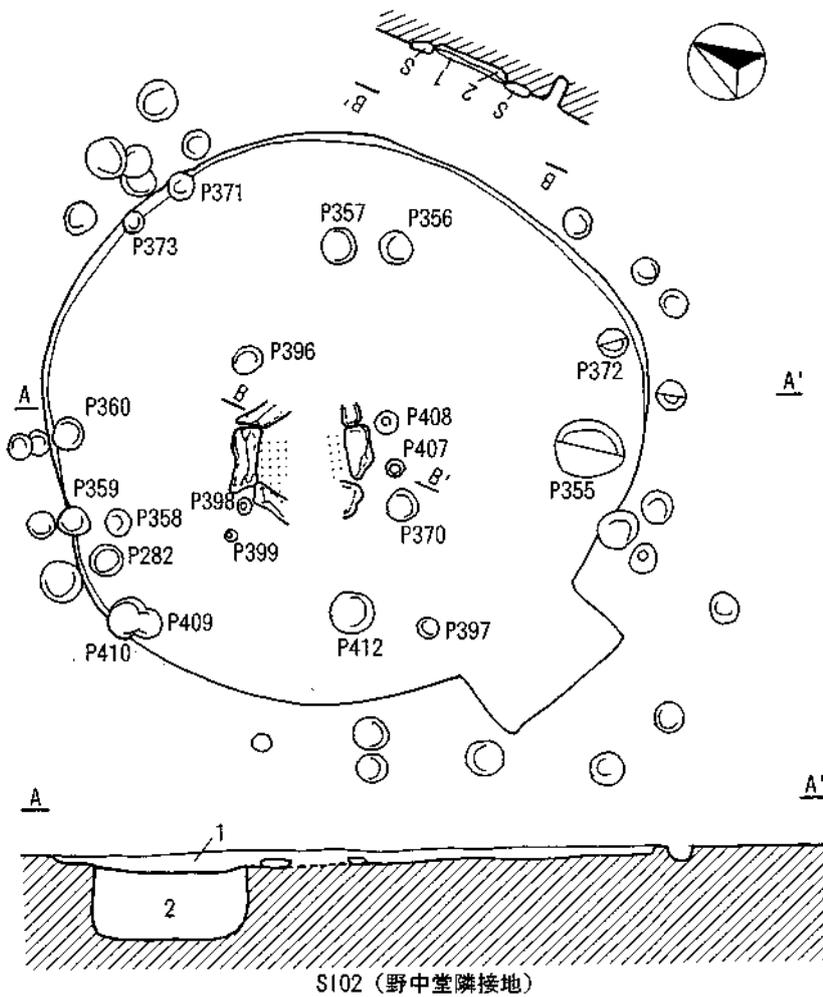
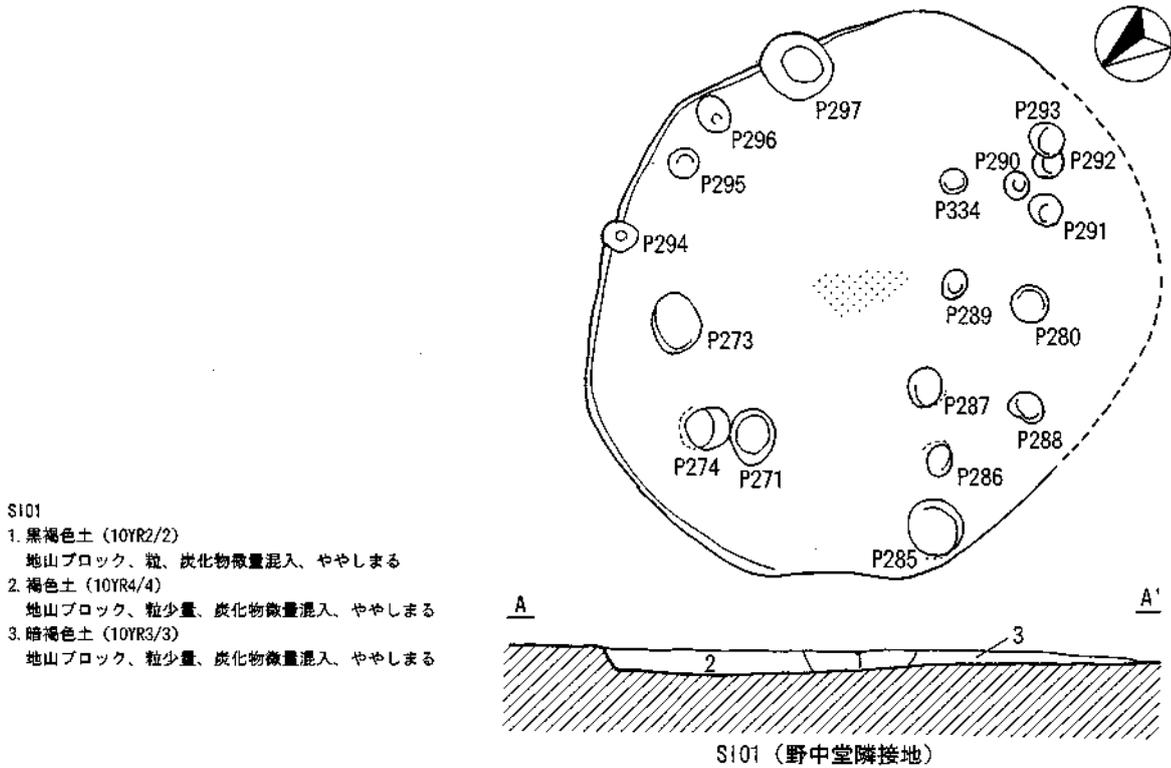
S101

1. にぶい黄褐色土 (10YR7/4) 地山粒多量混入、やや軟弱
2. にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 地山粒少量混入、一部角膜混入部有り、軟弱
3. 黒褐色土 (10YR2/2) 地山粒少量混入、かたくしまる
4. 黒褐色土 (10YR2/3) 地山粒少量混入、やや軟弱
5. 黄褐色土 (10YR5/6) 地山粒多量混入、しまる。S1-1の貼り床

S102

1. 暗褐色土 (10YR3/4) 地山粒多量、焼土粒微量混入、ややしまる
2. 黒褐色土 (10YR3/2) 地山粒微量混入、かたくしまる





- S102
1. 黒褐色土 (10YR3/2)
地山粒、炭化物少量混入、ややしまる
 2. 暗褐色土 (10YR3/3)
地山粒多量、炭化物微量混入、かたくしまる



る。また、後期中葉の土器を出土する第01号竪穴住居跡(B2区)、第02号住居跡(D9区)は後期前葉のものとは比べ大きいものとなる。

万座北側地区

規模的にはI a類のものが大きい。I a類の平均規模は直径2.96m、床面積6.92㎡、II類の平均規模は長軸3.30m×短軸2.55m、面積4.76㎡で、I a類が面積比で約1.45倍大きい。

なお、検出されたすべての住居跡のうちで本地区のものが小規模である。

万座西側地区

I a類の平均規模は直径3.5m、面積約9.77㎡である。面積7.00㎡前後と10.00㎡以上に二分され、小規模なものは万座北側地区で検出された住居規模にほぼ等しい。

II類は平均長軸長4.40m×短軸3.48m、面積約12.34㎡である。同地区のI a類と比べ面積は1.26倍、万座北側地区のものとは比べ2.80倍と規模が大きい。

野中堂隣接地

I b類は直径4.4m、床面積15.2㎡である。万座北側地区・同西側地区で確認されたI類と比べ大型となる。II類は長軸4.7m×3.2m、床面積11.8㎡である。万座北側地区と比べ大型、同西側地区と比べほぼ同規模である。

【ウ. 確認面と構築面】

万座北側地区

構築面は第Ⅲd層上面である。第408号竪穴住居跡は掘り込みが10cm足らずと浅く、Ⅲd層下位を床面としている。

万座西側地区

確認面は第Ⅲd層上面である。第Ⅳ層やⅤ層上面を床面としている。第01号竪穴住居跡(G4区)はⅢc層除去後、黄褐色土の円形のプランとして確認された。

野中堂隣接地

後期中葉の土器を出土した第01号竪穴住居跡は後期前葉の遺構構築面と同じ第Ⅲd層上面で確認された。第02号竪穴住居跡の地域は耕作が第Ⅴ層まで及んでおり、このことからⅤ層が確認面となっている。

【エ. 堆積状況】

万座北側地区

いずれも人為による埋め戻しが行われていた。堆積土は黒褐色もしくは暗褐色土で、黄褐色土粒や黄褐色土ブロックが混入していた。

万座西側地区

いずれも人為堆積である。堆積土は黒褐色もしくは暗褐色土で、黄褐色土粒や黄褐色土ブロックが混入していた。確認された住居の内で第01号竪穴住居跡(D9区)が趣を異にしている。この住居は、東壁際に設置された「コ字状」の石組や石囲炉に使用した石を撤去後に土をかぶせ居住機能を失わせ、その後一気に黄褐色土(下位火山灰)を埋め戻している。埋め戻しに使用された黄褐色土の土量は約2

m³で、底径2m、深さ1.5m規模のフラスコ状土坑1基を掘り上げた土量となる。

野中堂隣接地

いずれも人為による埋め戻しが行われていた。基本となる堆積土は、黒褐色もしくは暗褐色土で黄褐色土粒や黄褐色土ブロックが混入していた。上記の2地区と比べ炭化物の混入割合が高い。第02号竪穴住居跡と重複する187号土坑には貼床が施されていた。

【オ. 出土遺物】

万座北側地区

第400号竪穴住居跡から沈線文を主体とする小型の深鉢形土器、鉢形土器、壺形土器10点がまとめて出土している。第403号竪穴住居跡からは無文のミニチュア土器、405号竪穴住居跡からは沈線文が施文された鉢形土器、壺形土器が出土している。第410号竪穴住居跡内より埋設土器が出土しているが確認状況から住居跡に伴ったものとは判断しがたい。

万座西側地区

第02号竪穴住居跡より深鉢形土器4点、注口土器1点、有孔土器1点の計6点が出土している。山形口縁を呈する深鉢形土器は口縁部・胴部上端に2段の楕円形文が連続し、沈線間には条の細かなRL縄文が施文されている。有孔土器は4段の文様帯を有し、上下段には傾斜する直線文、中2段には円形文が施文され、LR縄文が充填されている。いずれも後期中葉・十腰内Ⅱ式土器の特徴をもっている。第05号、07号、08号竪穴住居跡（以上D9区）、第01号竪穴住居跡（G4区）の床面直上・堆積土中からは後期前葉の形態的特徴を持った深鉢形土器が出土している。

また、各住居跡からは剥片石器・礫石器が出土しているほか、01号竪穴住居跡からは円盤状石製品、02号、01号竪穴住居跡からは土器片利用土製品が出土している。

野中堂隣接地

第01号竪穴住居跡床面直上より幅の広い帯縄文によって幾何学文が施文された注口土器、この注口土器の文様をネガティブにした文様が施文された壺形土器が出土している。後期中葉・十腰内Ⅱ式土器の特徴をもっている。また、402号竪穴住居跡床面直上から無文の壺形土器が出土している。

【カ. 重複関係】

万座北側地区

本地区において、次の重複関係が認められた。

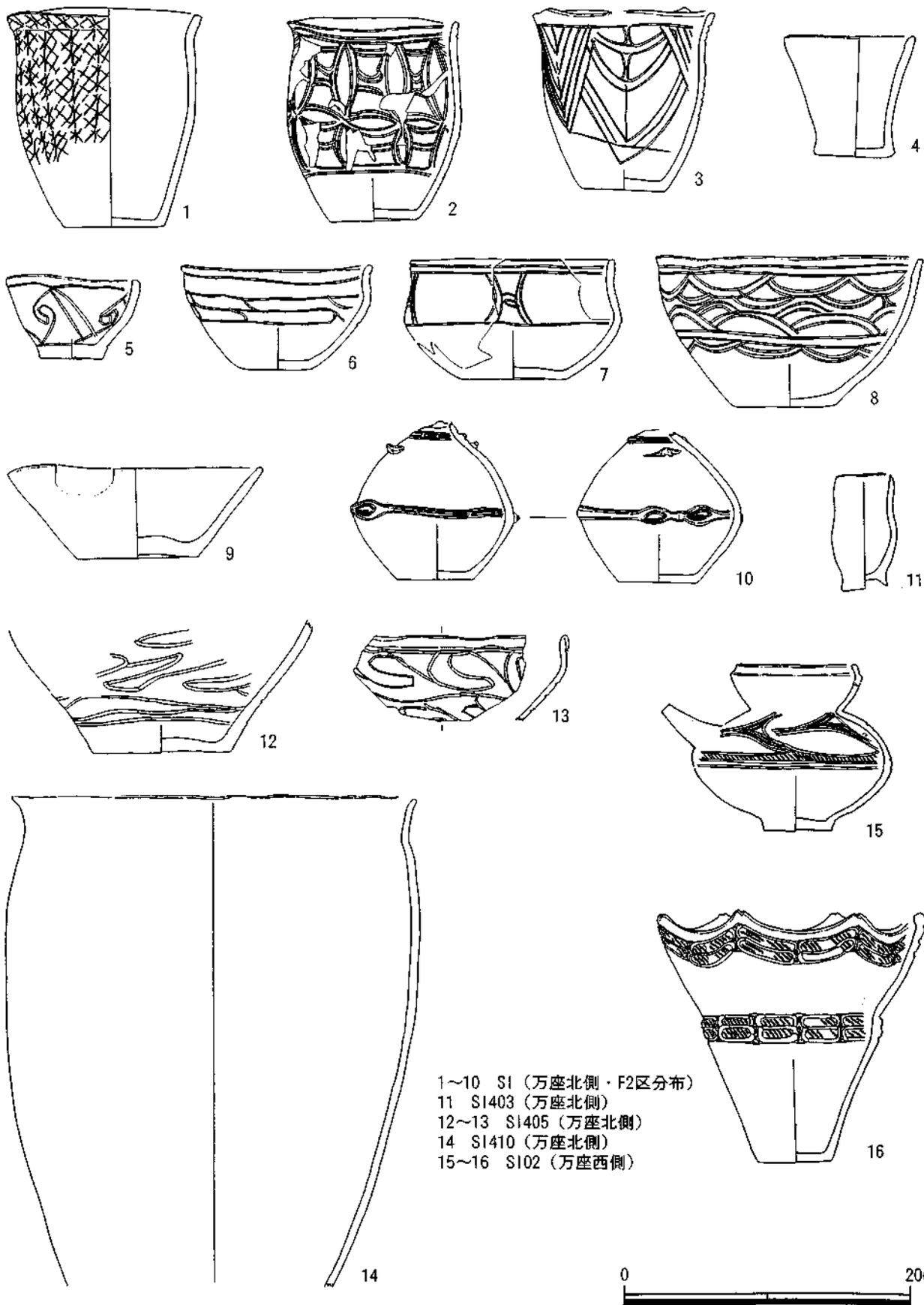
掘立柱建物跡 SB401→SI405

竪穴住居跡 SI410→SI408

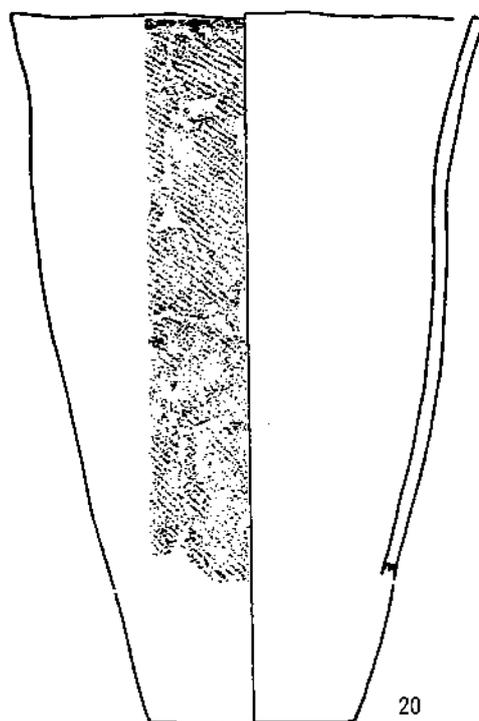
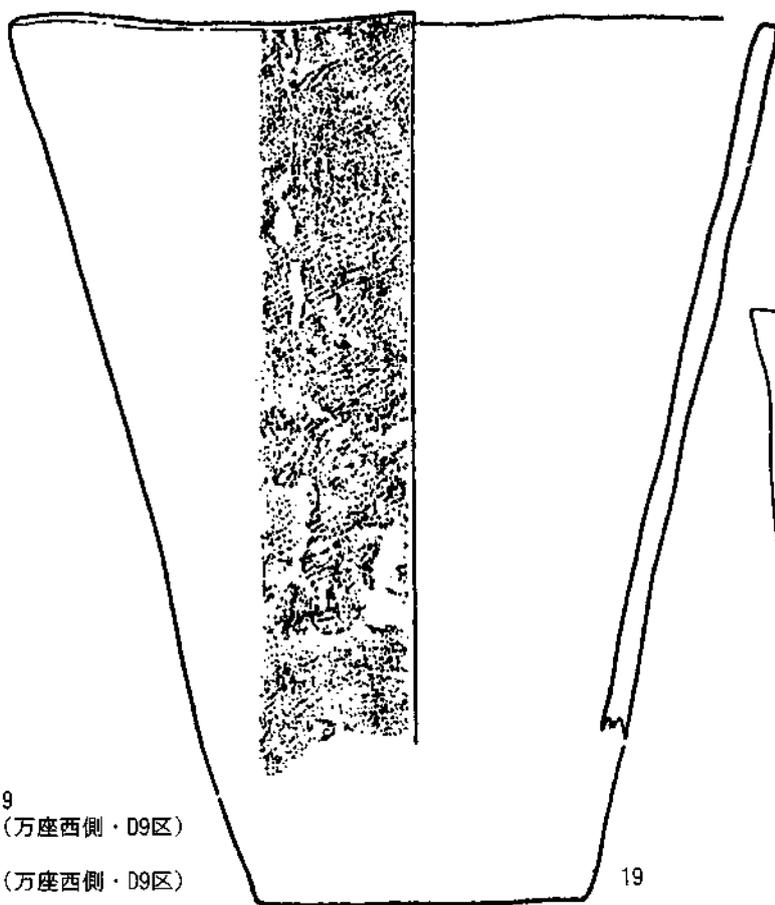
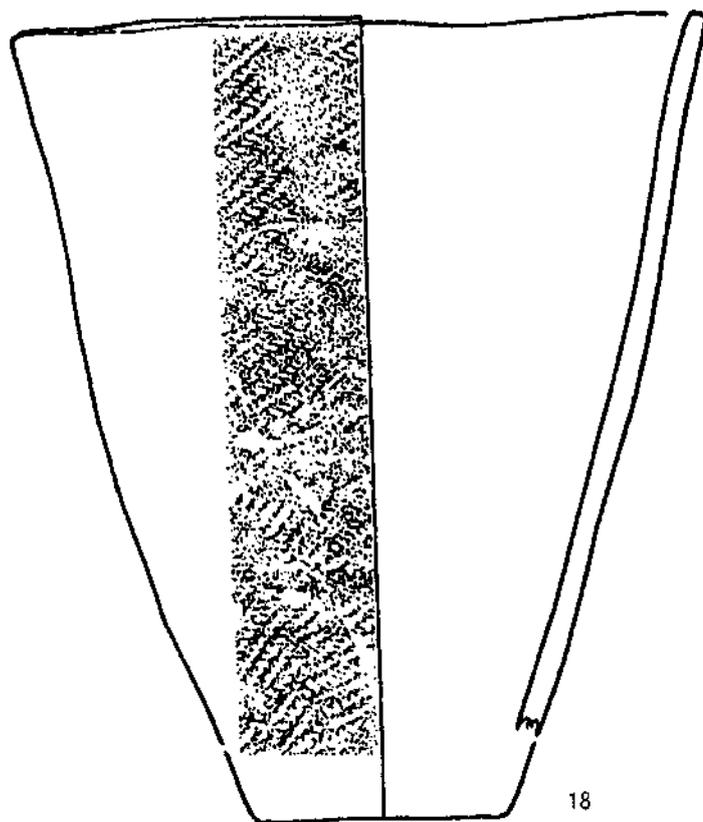
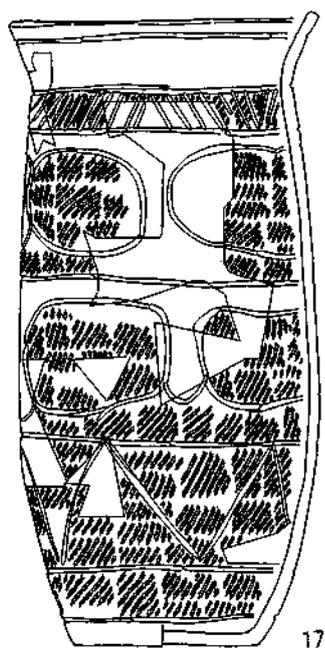
土坑 SK446～448→SI405 SI410→SK449

この重複関係から竪穴住居跡においては2時期が存在する。また環状に配置された掘立柱建物群を構成するSB401を切っているものがあり、掘立柱建物群→竪穴住居跡という移り変わりが読み取れる。土坑については住居跡を切るものと切られるものがあるが、同時に存在したものを考慮すると3時期となる。

このことから、本地区の遺構の大まかな移り変わりは掘立柱建物群（跡）＋土坑→住居跡＋土坑→



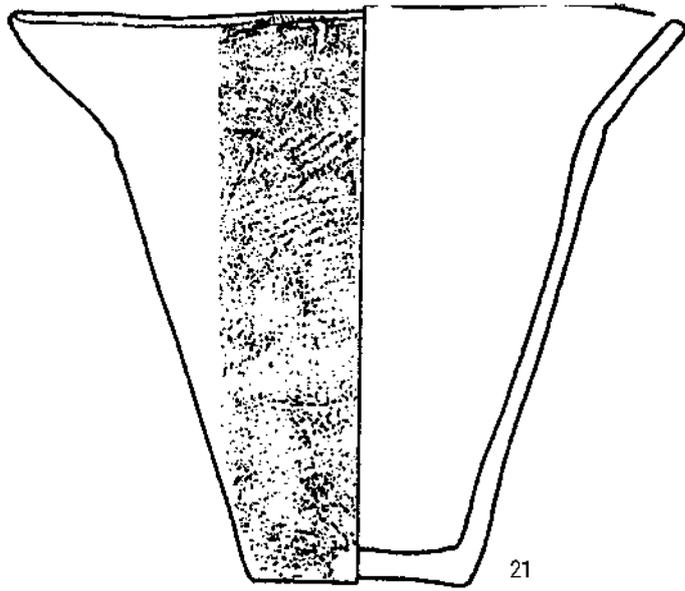
第94图 竖穴住居跡出土土器实测图(1)



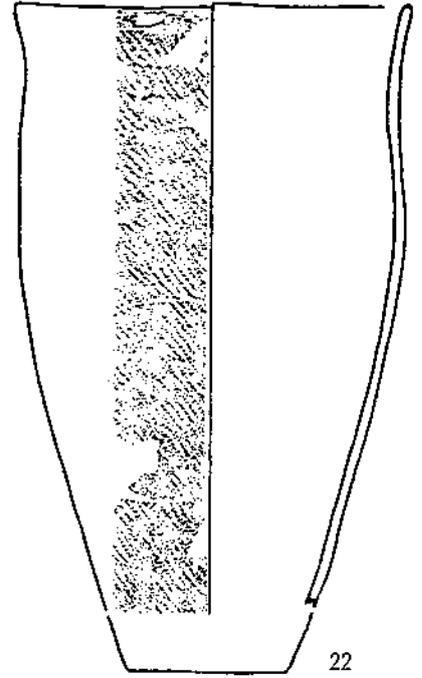
17~19
 S102 (万座西側・D9区)
 20
 S105 (万座西側・D9区)

0 20cm

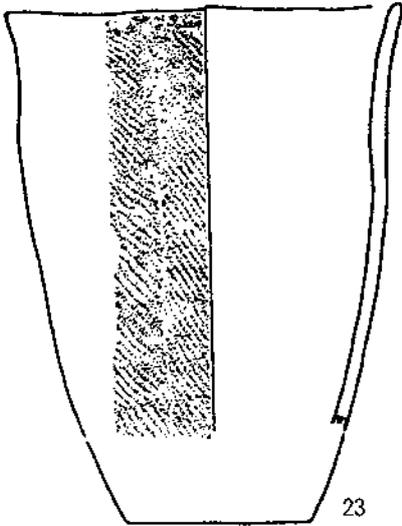
第95図 竪穴住居跡出土土器実測図(2)



21



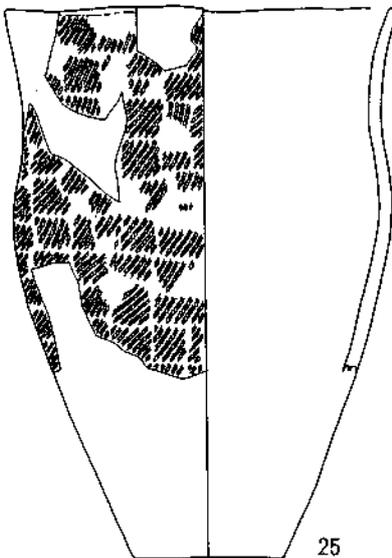
22



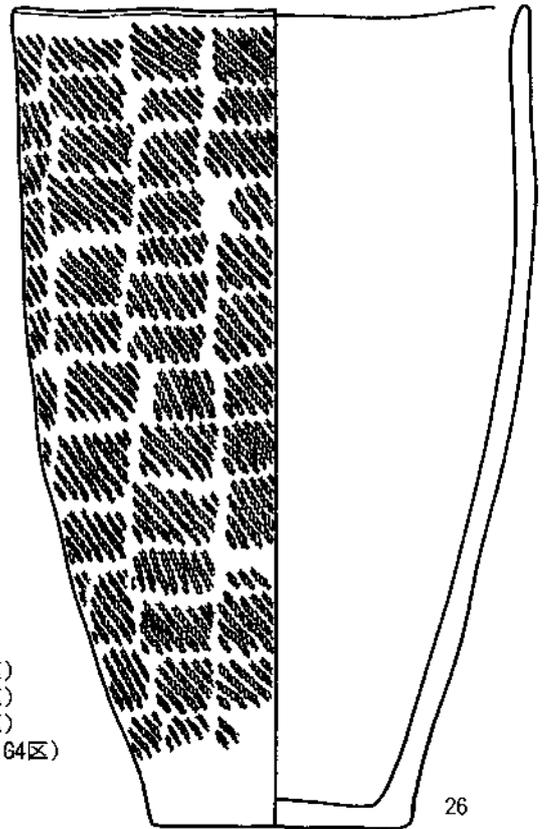
23



24



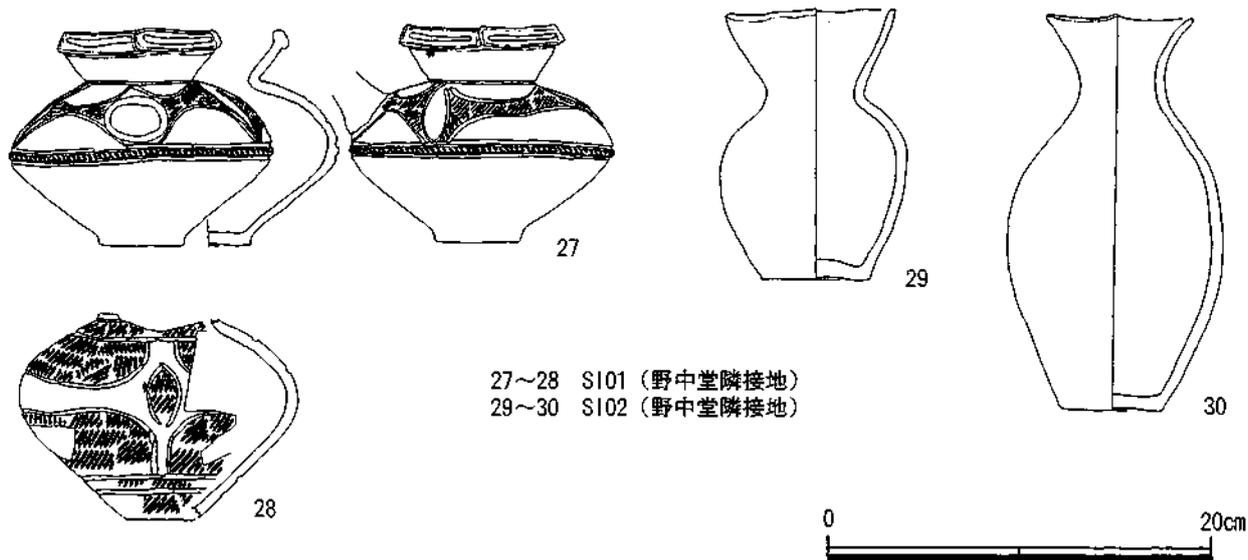
25



26

- 21 S102 (万座西侧·D9区)
 22 S107 (万座西侧·D9区)
 23 S108 (万座西侧·D9区)
 24~26 S102 (万座西侧·G4区)

0 20cm



27~28 SI01 (野中堂隣接地)
29~30 SI02 (野中堂隣接地)

第97図 竪穴住居跡出土土器実測図(4)

土坑・フラスコ状土坑となる。

万座西側地区

- 焼土遺構 SI02(G4区) → SX(f)24
- Tピット SK(T)08 → SI05
- フラスコ状土坑 SI01(G4区) → SK(F)09 09SI04 → SK(F)7
- 土坑 SK10 → SI01(D9区)

良好な重複関係を示すものが少ない。時期の違う土器を出土する竪穴住居跡が存在することから最低で2時期存在することがわかる。

また住居跡は北側沢頭地域と台地縁に沿って分布している。重複もなく、出土遺物も同様であることから時間的な差が存在するのかはっきりとしない。

野中堂隣接地

- 掘立柱建物跡 SK(F)186 → SB209 → SI01
- フラスコ状土坑 SK(F)32・188、SK31・187 → SI02
- 土坑 SK185 → SB208 → SI01

本地区西側に構築された01号竪穴住居跡の重複から、遺構の移り変わりが土坑・フラスコ状土坑 → 建物跡 → 竪穴住居跡という流れをつかむことができる。また東側に構築された02号竪穴住居跡の重複から土坑・フラスコ状土坑 → 竪穴住居跡という流れをつかむことができる。01号竪穴住居跡と02号竪穴住居跡から出土した土器は違う文様要素を持つものであり、2つの時期を想定できる。

このことから野中堂環状列石隣接部の遺構の大まかな過程は、野中堂環状列石と係わりあいながら野中堂環状列石 + 土坑 + フラスコ状土坑 + (第02号住居跡) → 列石 + 掘立柱建物跡 + (第02号住居跡) → 列石 + 竪穴住居跡 (01号住居跡) となる。

【キ. 時期】

万座北側地区

重複関係から遺構変遷のほぼ中頃に位置付けられる。遺構確認面が基本層序Ⅲd層であること、後期前葉の遺構を切って構築されていること、遺構内からも同時期の土器が出土することから後期前葉に構築されたものと考えられる。

万座西側地区

第05号・07号・08号竪穴住居跡内より地文が施された深鉢形土器が出土している。形態的に後期前葉の深鉢形土器の形態を呈していること、確認面がⅢd層であることから後期前葉の時期が与えられる。また、この3棟は第06号・08号住居跡を含みながら台地南側より入りこんだ沢を意識した配置をとっており、06号・08号住居跡の時期もまた後期前葉と考えられる。

なお、02号竪穴住居跡は床面より後期中葉の文様の特徴をもった土器が出土していることから、後期中葉の時期が与えられる。

野中堂隣接地

第01号竪穴住居跡は重複関係からこの地区では最も新しい時期に位置付けられ、その出土遺物から後期中葉と判断された。また、02号竪穴住居跡は後期前葉の土器を出土する土坑・フラスコ状土坑を切って構築されているが、住居内出土遺物から後期前葉に構築されたものと考えられる。

【ク. 分布状況】

万座環状列石の北西側に入りこんだ沢頭を境に南北（万座北側地区・西側地区）に、野中堂環状列石隣接地部に分布が見られる。

万座北側地区

台地縁4棟（SI403、405、408、410）、台地縁より東側約80mの内陸部に1棟の5棟が検出されている。台地縁に位置する4棟は沢地へ向って緩やかに落ちこんだ窪地を挟み込むように配置されている。

万座西側地区

9棟が検出されている。現状の配置から南北2つのグループに分けられる。南側のグループは7棟（SI03、05、06、07、08、01、02）から構成され、台地南側から入り込んだ浅い沢と台地縁の流れに沿って配置されている。北側のグループは2棟（SI01、02）から構成され、台地北側縁（湧水地）を意識した配置を示している。

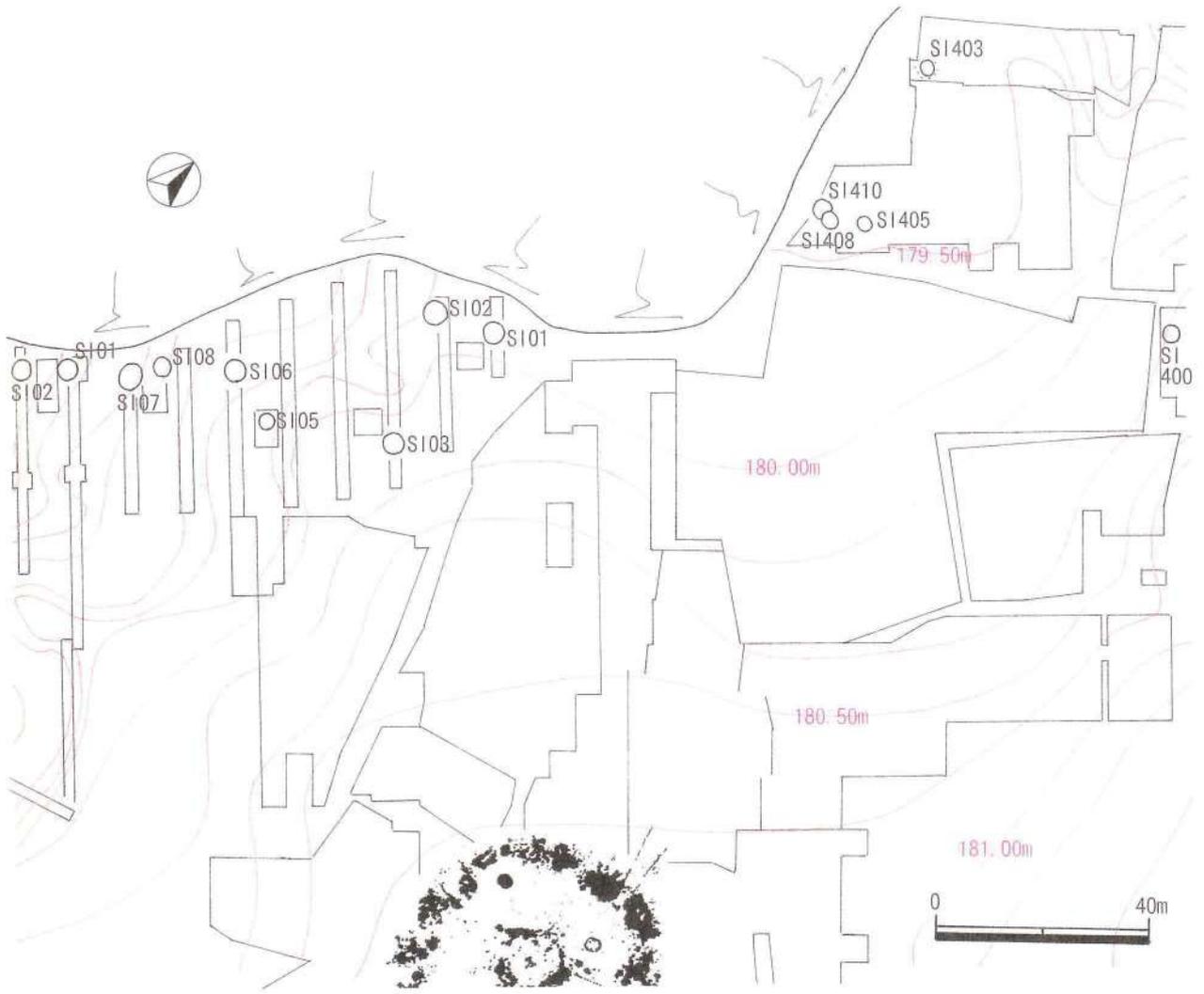
野中堂隣接地

野中堂環状列石を挟み、東西より各1棟が検出されている。同地区東側に未調査部分が広がっているが万座環状列石隣接地部の調査では竪穴住居跡は確認されておらず、本地区でのこれ以上の棟数の増加は望めないものと判断される。

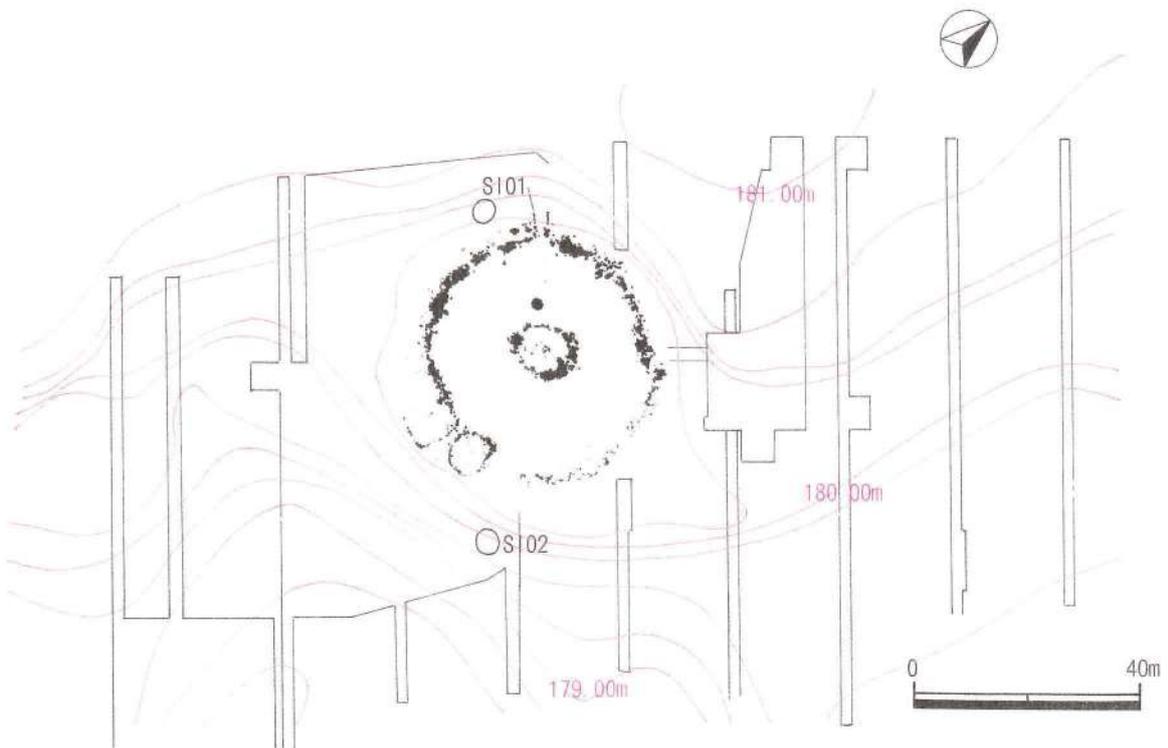
【ケ. 性格】

これまでの調査によって16棟の竪穴住居跡が確認されている。これらは地面を掘り窪め、屋根を支える柱を持ち、生活に欠かすことの出来ない炉を有することから居住を目的に構築されたものと判断される。

構築時期は出土遺物から後期前葉と中葉であり、前者は14棟、後者は2棟である。これらは万座・野中堂環状列石の存続時期と一致しており、同時に存在していた可能性は極めて高いものと考えられる。



第98图 竖穴住居分布图（万座北側・西側地区）



第99图 竖穴住居分布图（野中堂隣接地）

しかし、重複関係がほとんどなく、どの住居跡が、環状列石構築時期のいつ頃に共伴していたのかは不明である。

後期前葉の住居跡は、万座北側地区と同西側地区において「ムラ」を形成していたものと考えられるが同時に存在したのか、前後関係があるのか不明である。

検出された住居跡のうちに万座北側地区の第403号住居跡（F1区）、同西側地区の第01号竪穴住居跡（G4区）は、東壁際に数個の川原石を「コ字状」に配した施設を持つこと、ミニチュア土器が出土すること、市内の後期集落の調査（赤坂A遺跡）でこのような特異な施設を持った類例が極めて少ないという共通性から住居機能のほかに「祭祀的」な要素を兼ね備えた住居跡と考えられる。また、第405号、408号竪穴住居跡についても類似した施設を持っており、同様の性格が与えられるものと考えられる。

なお、後期中葉の住居跡は万座西側地区、万座隣接地から各1棟が確認されている。後期前葉の住居数と比べ棟数が激減しているが、環状列石の構築時期と重複していることから共伴していた可能性は高い。

第61表 竪穴住居跡(万座北側地区1)

No.	遺構名 (報文6)	調査区 グリッド 構面	形態	平面形	地積 状況	規模(単位: cm)		戸の位置 種類 形態・規模	出土遺物	特記事項	重複関係	構築時期
						長軸×短軸 面積	柱穴規模 PwNo. 径×深さ					
1	SI400 (分布調査) (報文7)	F2区 YN-113	Ia類	円形		300× 7.06	Pw1 22×13	住居ほぼ中央 石囲戸(前縁)	復元土器10 土器片多数 石板 石器 炭化栗	遺物は住居北側に分布 分布調査時に検出されたものである。このときには遺構番号がつけられておらず、本報告書を記載するに当たり、第400号竪穴住居跡とした。		後期前葉
							Pw2 18×14					
							Pw3 15×9					
							Pw4 6×16					
							Pw5 13×24					
							Pw6 13×10					
							Pw7 12×8					
							Pw8 12×9					
							Pw9 11×5					
							Pw10 10×8					
							Pw11 12×15					
							Pw12 30×16					
2	SI403 (報文6) (報文15)	F1区・F6区 YX-104 III.d層上面	Ib類	円形	人為	300×280 5.12	Pw1 32×15	東壁寄り 石囲戸 方形・50×45	ミニチュア土器1 土器片2 掘器1	東壁際に川原石をコの字状に配置		後期前葉
							Pw2 14×15					
							Pw3 16×11					
							Pw4 13×14					
							Pw5 28×12					
							Pw6 19×12					
							Pw7 22×10					
							Pw8 22×10					
							Pw9 21×13					
							Pw10 24×13					
							Pw11 33×14					

第62表 竪穴住居跡(万座北側地区2)

No	遺構名 (報文No)	調査区 グリッド 構面	形態	平面形	地質 状況	規模(単位: cm)		炉の位置 種類 形態・規模	出土遺物	特記事項	重複関係	構築時期											
						長軸×短軸 面積	柱穴規模 PivNo 径×深さ																
3	SI405 (報文6)	F1区 S・R --101・102 Ⅲd層上面	Ia類	円形	人為	270×270	Piv1 35×32	住居より若干南寄り 石囲炉 円形・60×55	図化土器2 土器片18 凹石1、搔器3 土器片利用土製品	南東壁際に4個 の川原石	SK447→SI405→SI404(平安)	後期前葉											
						5.50	Piv2 40×24																
							Piv3 20×20																
							Piv4 82×28																
							Piv5 28×28																
							Piv6 36×28																
							Piv7 32×24																
							Piv8 25×22																
							Piv9 23×19																
							Piv10 25×22																
4	SI408 (報文6)	F1区 S・R --100・101 Ⅲd層上面	Ia類	円形	人為	390×310	Piv1 29×27	住居中央より北寄り 石囲炉 円形・40×40	土器片4	南東壁際より8個 の川原石	SB401→SI408→SK448	後期前葉											
						8.21	Piv2 21×20																
							Piv3 29×25																
							Piv4 29×28																
							Piv5 32×23																
							Piv6 27×24																
							Piv7 38×27																
							Piv8 28×28																
						5	SI410 (報文6)						F1区 S-100 Ⅲd層上面	Ⅱ類	楕円形	人為	250×230	Piv1 34×33	住居中央より北寄り 石囲炉 円形・70×70	土器片5 搔器2 土器片利用土製品1	北壁際に4個の川 原石 住居中央からや や南東よりに埋 設土器	SI410→SI408→SK449	
																	4.40	Piv2 27×26					
	Piv3 22×20																						
	Piv4 22×21																						
	Piv5 24×19																						
	Piv6 21×20																						
	Piv7 22×20																						
	Piv8 20×18																						

第63表 竪穴住居跡(万座西側地区1)

No.	遺構名 (編文No.)	調査区 グリッド 構築面	形態	平面形	堆積 状況	規模(単位:cm)		炉の位置 種類 形態・規模	出土遺物	特記事項	重復関係	構築時期
						長軸×短軸 面積	柱穴規模 PitNo. 径×深さ					
1	SI01 (編文19)	D9区 YO・YN-88 IIIc層上面	Ia類	円形	人為	360×	Pit1	住居中央	土器片56、石鏃1 磨石1、凹石5 燧石4、土製品1		SIK10→SI01→平安住居	後期前葉
							Pit2	石囲炉				
							Pit4	円形・70×				
							Pit5	住居中央より南より				
							Pit7	石囲炉				
							Pit8	方形・70×60				
2	SI02 (編文19)	D9区 YO・YP -86 IIIc層上面	Ia類	円形	人為	420×	Pit9	住居中央より東寄り	土器片1 凹石1		SK(T)08-SI05	後期前葉
							Pit10	石囲炉				
							Pit11	円形・80×				
							Pit12	円形・80×				
							Pit13	円形・80×				
							Pit14	円形・80×				
3	SI03 (編文19)	D9区 YK・YJ -84 IIIc層上面	Ia類	円形	人為	370×	Pit24	住居ほぼ中央	復元土器1 土器片91 石器10、石刀1		SK(T)08-SI05	後期前葉
							Pit26	石囲炉				
							Pit27	円形・70×				
							Pit38	住居ほぼ中央				
							Pit39	石囲炉				
							Pit40	円形・66×60				
4	SI05 (編文19)	D9区 YK -79 IIIc層上面	Ia類	円形	人為	294×	Pit41	住居ほぼ中央	土器片70 石器5		SK(T)08-SI05	後期前葉
							Pit42	石囲炉				
							Pit43	円形・66×60				
							Pit44	円形・66×60				
							Pit45	円形・66×60				
							Pit46	円形・66×60				
5	SI06 (編文19)	D9区 YM-78 IIIc層上面	Ia類	円形	人為	440×	Pit24	住居ほぼ中央	土器片70 石器5		SK(T)08-SI05	後期前葉
							Pit26	石囲炉				
							Pit27	円形・70×				
							Pit38	住居ほぼ中央				
							Pit39	石囲炉				
							Pit40	円形・66×60				

第64表 竪穴住居跡(万座西側地区2)

No	遺構名 (縄文No)	調査区 グリッド 構築面	形態	平面形	堆積 状況	規模(単位: cm)		炉の位置 種類 形態・規模	出土遺物	特記事項	重複関係	構築時期												
						長軸×短軸 面積	柱穴規模 PitNo. 径×深さ																	
6	SI07 (縄文19)	D9区 YM-74 YL-74 IIIc層上面	II類	楕円形	人為	500×400	Pit30	27×55	住居中央より西寄り 石囲炉 楕円形・94×72	復元土器1 石器2			後期前葉											
							Pit31	28×20																
							Pit32	31×49																
							Pit33	21×12																
							Pit34	19×21																
7	SI08 (縄文19)	D9区 YM-75 IIIc層上面				Pit28	25×17		復元土器1 石器1			後期前葉												
						Pit29	33×45																	
						8	SI01 (縄文20)						G9区 YM-72 IIIc層上面	Ia類	円形	人為	370×360	Pit15	24×17	住居中央より東寄り 石囲炉 円形・76×85 (石は抜き取られる)	復元土器2 ミニチュア土器1 土器片75 石器6 石刀1 土器片利用土製品1	東壁際に川原石 をコの字状に配 置	SI01→SIK(PX)9	後期前葉
																		Pit16	22×27					
																		Pit17	21×20					
Pit18	22×32																							
Pit19	22×21																							
9	SI02 (縄文20)	G9区 YM-70 IIIc層上面	Ia類	円形	人為	360×	Pit27	×31	住居ほぼ中央 石囲炉 円形・ (石は抜き取られる)				後期前葉											
							Pit25	23×12																
							Pit28	19×8																
							Pit20	×24																
							Pit24	×9																

第65表 竪穴住居跡(野中堂隣接地)

No.	遺構名 (報文No)	調査区 グリッド 構築面	形態	平面形	堆積 状況	規模(単位: cm)		炉の位置 種類 形態・規模	出土遺物	特記事項	重複関係	構築時期
						長軸×短軸 面積	柱穴規模 PitNo. 径×深さ					
1	SI01 (報文17)	B2区 F・G-92 III層上面	II類	楕円形	人為	470×320	Pit273 49×32	住居ほぼ中央 地味炉	復元土器2 土器片74 石器16 石刀1		SK(O)186→SI01 SK185→SI01	後期中葉
						11.80	Pit285 49×51 Pit297 50×48 主柱穴と考えら れるものを記載					
2	SI02 (報文17)	B2区 Q-92 R-91・92 IV層上面	Ie類	円形	人為	440×440	Pit355 50×14	住居ほぼ中央 石囲炉 円形・70×	復元土器2 土器片148 石器39	南側に渠出施設 炉の周りに小 Pit、内部に炭化し た木の枝	SK(O)32・188→SI02 SK31・187→SI02	後期前葉
						15.20	Pit412 38×11 Pit398 10×5 Pit399 8×4 Pit407 14×12 Pit408 16×10 主柱穴と考えら れるものを記載					

5. 竪穴遺構（第100～103図、第66～67表）

万座隣接地及び同北側地区より5棟が検出されている。竪穴住居跡と同規模もしくはこれ以上のものが存在する。万座北側地区において確認した第406号、407号竪穴住居跡については炉跡が欠如していることから竪穴遺構として取り扱うことにした。記述については既刊の報告書の遺構名を用いる。

【ア. 形態】

平面形は円形を基本とする。付帯施設の有無によって分類した。

I類：平面形は円形又は楕円形を呈し、付帯施設を有しない。ST202、ST901

II類：平面形は円形又は楕円形を呈し、出入口施設や柱穴を有するもの。柱穴の位置によって細分される。

a：柱穴が遺構内に穿たれるもの SI406、SI407

b：柱穴が遺構外に穿たれるもの ST201

万座隣接地

本地区には第202号竪穴遺構（ST202）1基が存在する。I類で平面形は楕円形を呈し、柱穴を有しない。

万座北側地区

I類1基（第901号竪穴遺構）、IIa類1基（第201号竪穴遺構）、IIb類2基（第406号、407号竪穴住居跡）の計4基が存在する。

第901号竪穴遺構は平面形が円形を呈し、付帯する施設を持たない。第201号竪穴遺構は、平面形が楕円形を呈し、東北壁に出入り口状の施設を持つ。南側底面は3段構造となっており、下段は壁を掘り込み横穴状となっている。第406号・407号竪穴住居跡は重複して確認されたもので、南東側に柱穴を連続させた出入口状の施設が設けられている。

【イ. 規模】

地区によって規模に違いがみられる。

万座隣接地

第202号竪穴遺構は長軸238cm×短軸207cmを測り、万座北側地区の小型のものと同規模である。

万座北側地区

最大は第406号竪穴住居跡の長軸520cm×短軸480cm、最小は第201号竪穴遺構の長軸296cm×短軸248cmである。長軸300cmを境に二分することができる。

【ウ. 確認面と構築面】

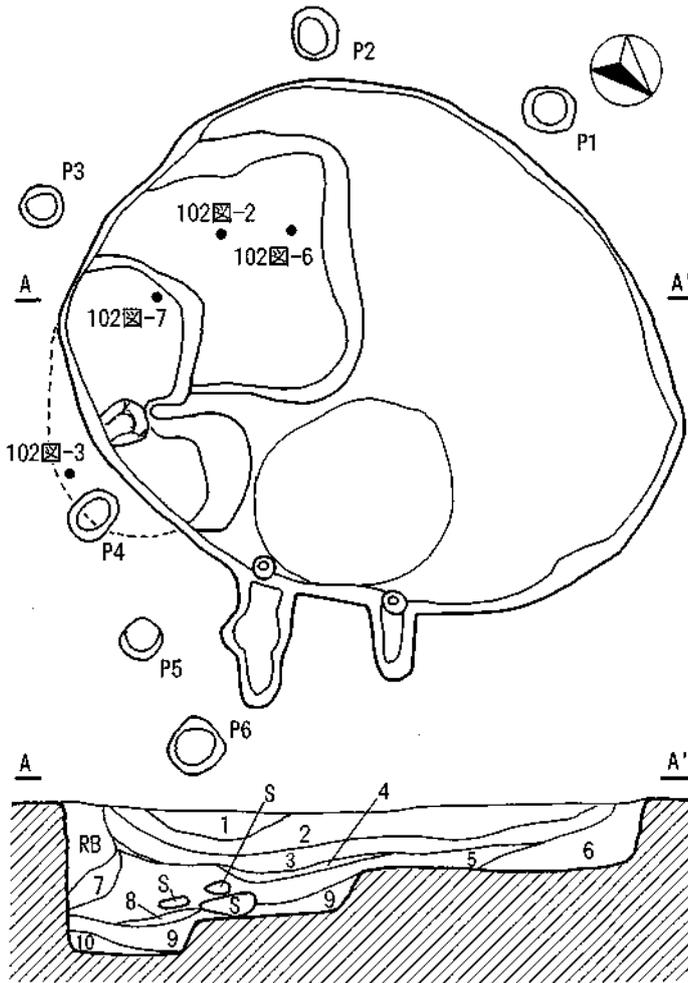
万座隣接地

基本層序Ⅲd層上面が確認面・構築面である。

万座北側地区

第201号竪穴遺構は第201号掘立柱建物跡の床面で確認された。

第406号・407号竪穴住居跡は掘立柱建物跡と重複して確認された。確認面・構築面ともⅢd層上面である。野中堂西側隣接地で検出された後期中葉の第02号竪穴住居跡と同じ確認面である。

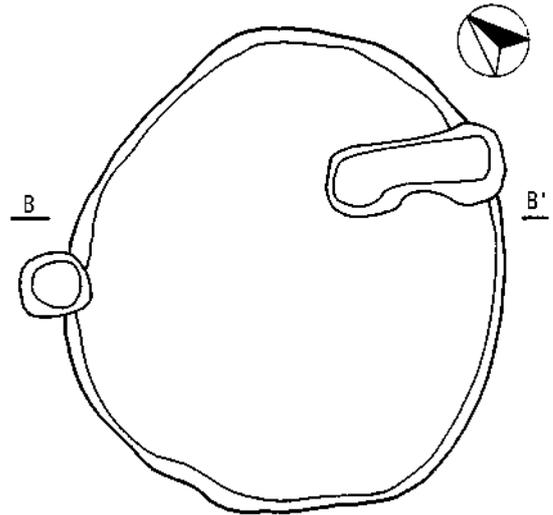


ST201 (万座北側)

ST201

1. 黒色土 (10YR2/1) SB201の貼床、かたくしまる
2. 黒色土 (10YR1.7/1) 地山ブロック若干含む
3. 黒色土 (10YR1.7/1) 地山粒、白色粘土微量含む
4. 褐色土 (7.5YR4/6) 焼土
5. 黒色土 (10YR1.7/1)
6. 黒色土 (10YR1.7/1) 地山粒少量含む
7. 黒色土 (10YR2/2) 地山粒~小ブロック多量に含む
8. 黒色土 (10YR2/1)
9. 黒色土 (10YR1.7/1)
10. 黒褐色土 (10YR2/2) 地山粒多量含む

RB: 地山ブロック



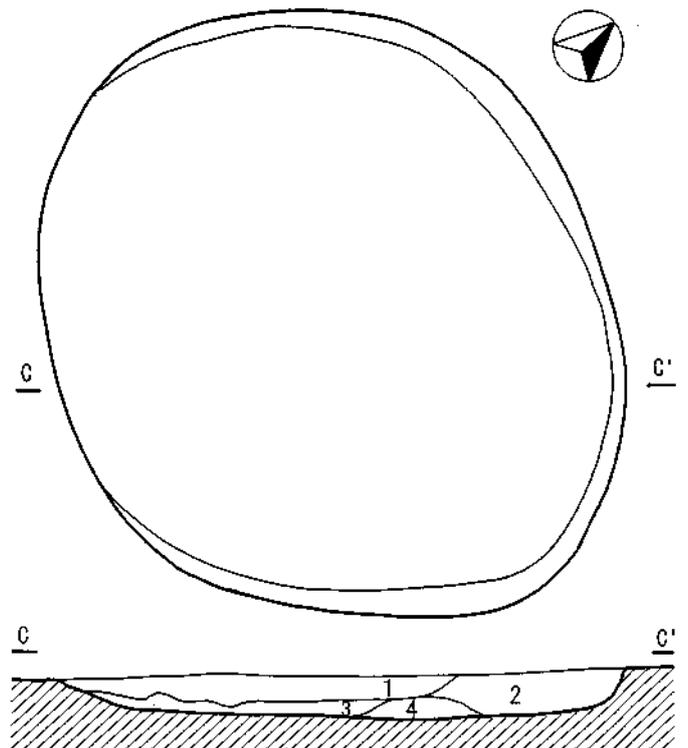
ST202 (万座隣接地)

ST202

1. 黒色土 (10YR2/1) 地山粒若干含む、炭化物微量含む
2. 黒色土 (10YR2/1) 1層より地山粒を多く含む
3. 黒褐色土 (10YR2/2) 地山粒を多く含む
4. 黒色土 (10YR2/1) 地山粒若干含む
5. 黒色土 (10YR2/1) 4層より地山粒を多く含む
6. 黒色土 (10YR2/1) 黒褐色土に近い色を示す
7. 黒褐色土 (10YR2/2) 地山粒多く含む
8. 黒色土 (10YR2/1)

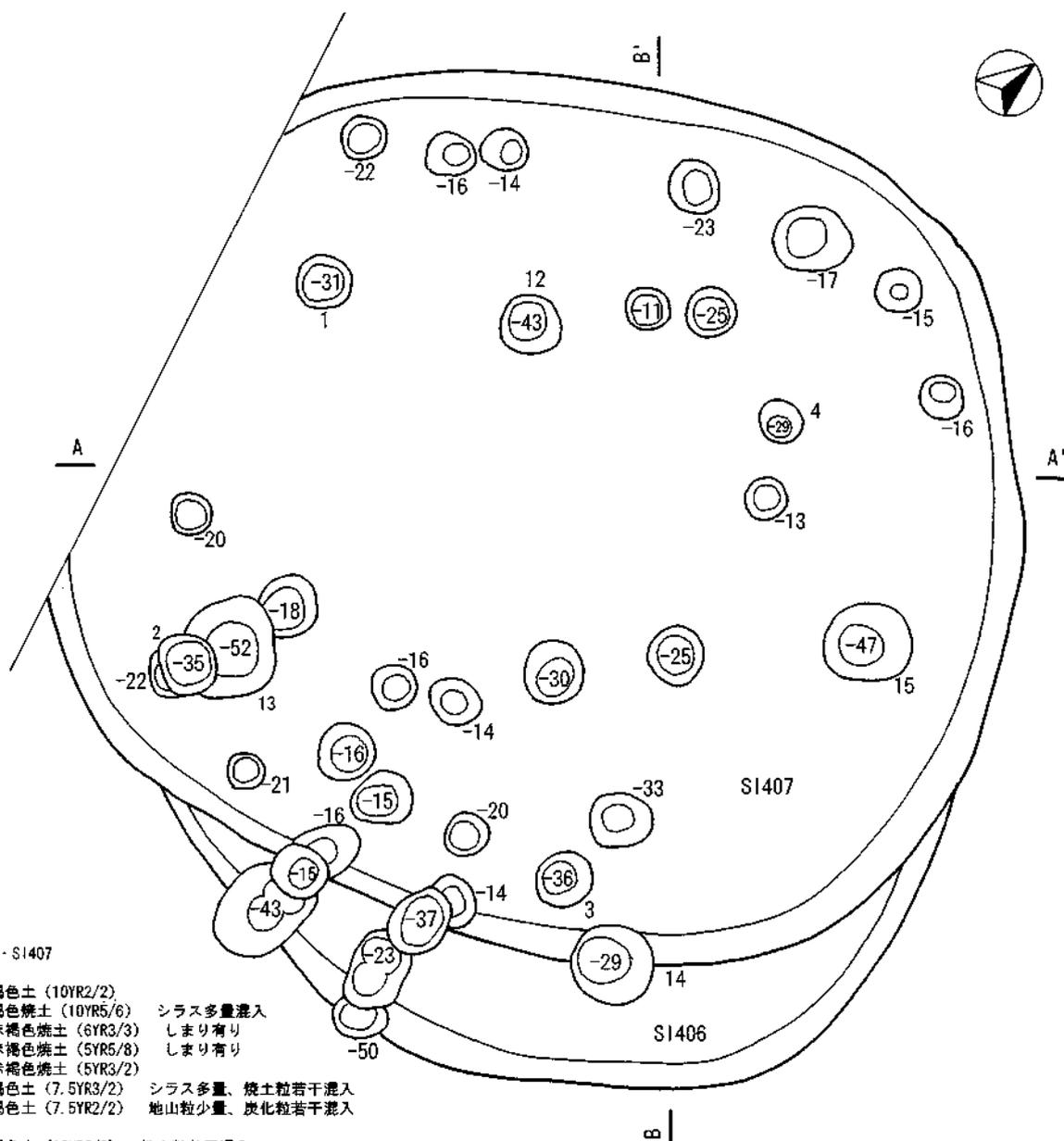
ST901

1. 黒色土 (10YR1.7/1) 地山粒少量混入
2. 黒色土 (10YR2/1) 1層よりしまり有
3. 黒色土 (10YR2/2) 1層以上に地山粒混入
4. 黒褐色土 (10YR3/2) 地山粒小ブロック混入

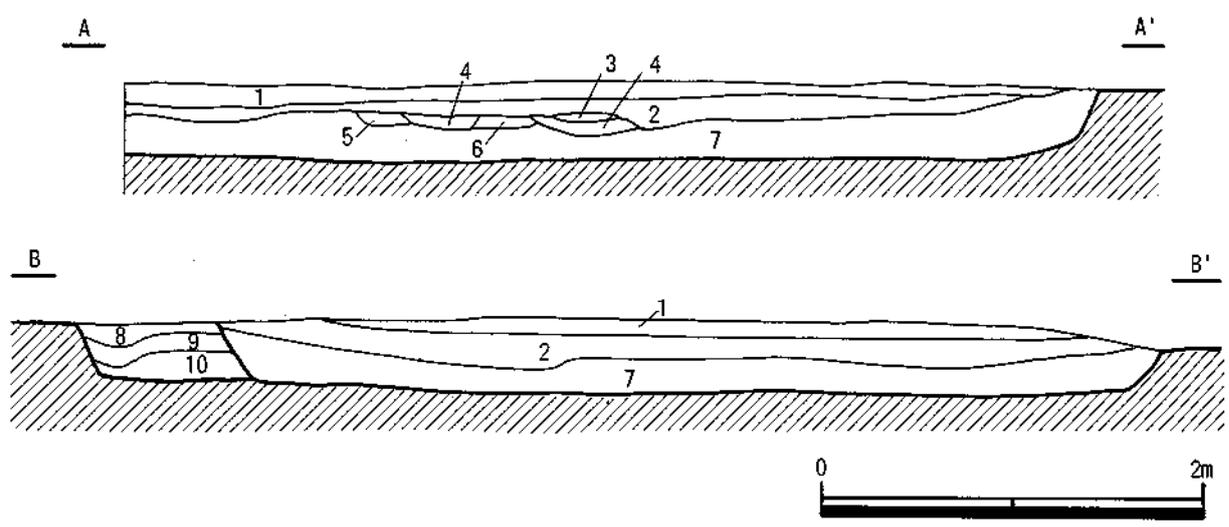


ST901 (万座北側)





- S1406 - S1407
 S1406
 1. 黒褐色土 (10YR2/2)
 2. 黄褐色焼土 (10YR5/6) シラス多量混入
 3. 暗赤褐色焼土 (6YR3/3) しまり有り
 4. 暗赤褐色焼土 (5YR5/8) しまり有り
 5. 暗赤褐色焼土 (5YR3/2)
 6. 黒褐色土 (7.5YR3/2) シラス多量、焼土粒若干混入
 7. 黒褐色土 (7.5YR2/2) 地山粒少量、炭化粒若干混入
 S1407
 8. 黒褐色土 (10YR2/2) 地山粒若干混入
 9. 黄褐色土 (10YR5/6) シラス多量混入
 10. 黒褐色土 (7.5YR2/2) 地山粒多量混入



第101図 竪穴遺構実測図 (2)

【エ. 堆積状況】

万座隣接地

黒色土を基調とした埋土中に黄褐色土粒が多く含まれていた。ブロック状を呈する堆積状況から人為堆積と判断した。

万座北側地区

遺構の希薄な場所に位置する第901号竪穴遺構を除き、人為による埋め戻しがなされていた。堆積土中に白色粘土や黄褐色土が投げ込まれた状況を示すものや黄褐色土粒が多量に混入したものがみられた。第406号竪穴住居跡土層断面中程に焼土の堆積がみられた。

【オ. 出土遺物】

万座隣接地

第202号竪穴遺構から無文の深鉢形土器1点と帯縄文を主体とする深鉢形土器、壺形土器破片、石器2点、土器片利用土製品3点が出土した。

万座北側地区

第201号竪穴遺構の出土遺物量が極めて多い。復元土器8点、土器破片(コンテナ1/2箱)のほか石器14点、土偶・鐸形土製品・土製装飾品各1点、土器片利用土製品12点、櫛1点が出土した。土器は深鉢形土器、壺形土器、広口壺形土器を主体とする。壺・広口壺は同部上半に文様帯をもつ。沈線文と帯縄文がみられ深鉢形土器は曲線文、壺・広口壺は入組文が主体となっている。第102図4は赤色顔料が全面に塗布されていた。櫛は結歯式のもので木質部はすべて朽ち果て塗布した赤色顔料と可塑材が残っていた。櫛のすぐ傍から石鏃1点が出土した。遺物は床東側の窪地からである。

第901号竪穴遺構も比較的に出土遺物が多く、ミニチュア土器1点、帯縄文により入組文が施文された土器破片のほか石器、土器片利用土製品が出土している。

第406号、407号竪穴住居跡は前者と比べ出土量は極めて少ない。幅広の帯縄文が施文された土器破片が出土している。

【カ. 重複関係】

万座隣接地

土坑 SK245→ST202

重複例は一例であり、全体的な遺構の流れは把握できなかった。

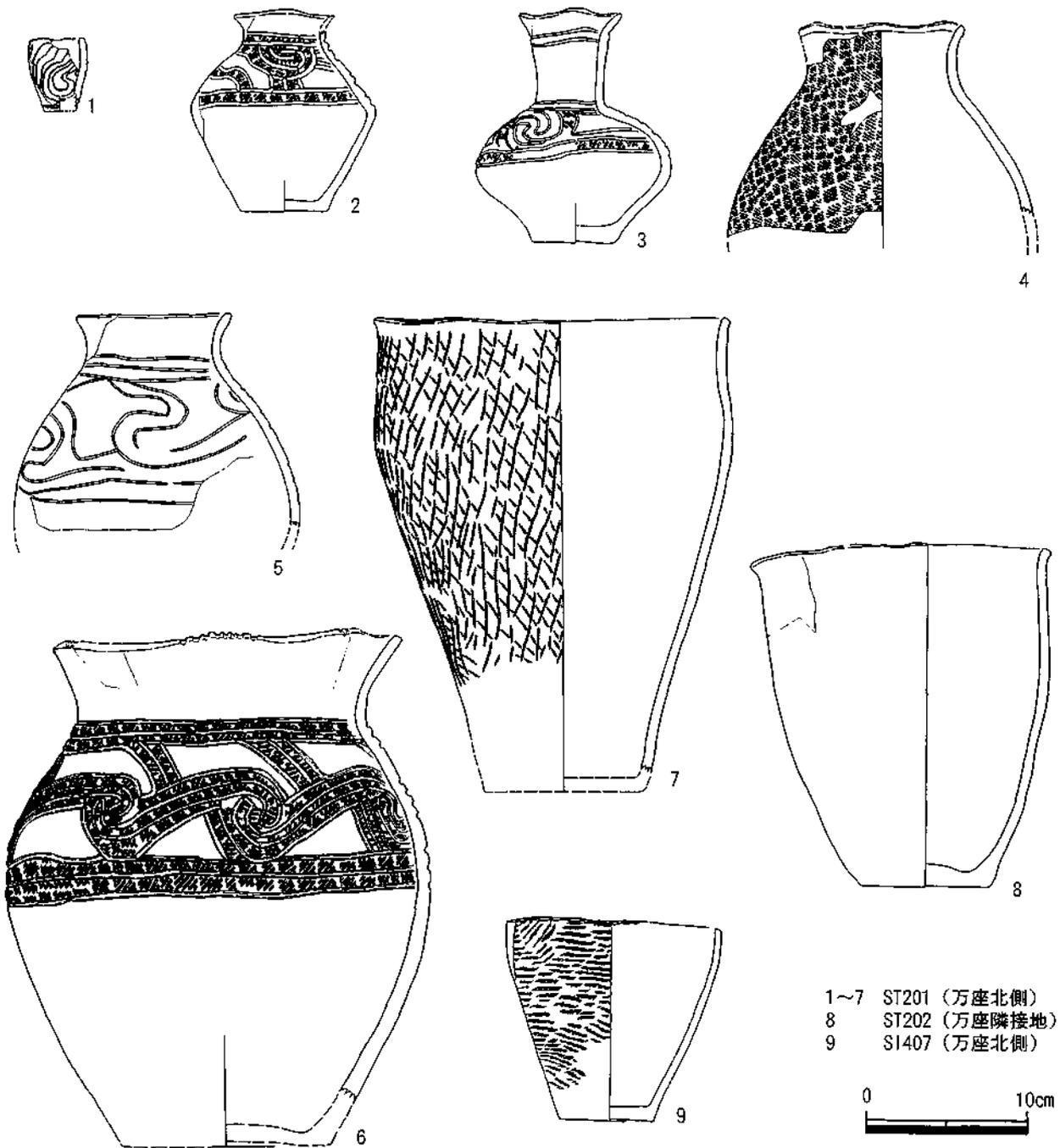
万座北側地区

掘立柱建物跡 ST201→SB201→SB202→SX(S)202(環状配石遺構・D1区)

竪穴住居跡 SI405→SI404→SB401→SI07→SI406(F1区)

土坑 SK906・907→ST901(D5区)

沢頭に位置する第201号竪穴遺構の重複から竪穴遺構→掘立柱建物跡→環状配石遺構、また同沢地の北側に位置する第406号・407号竪穴住居跡の重複から竪穴住居跡→掘立柱建物跡→竪穴遺構という遺構の流れを把握することができ、掘立柱建物跡を挟んでその前後に竪穴遺構が台地上に所在したことがわかる。



第102図 竪穴遺構出土土器実測図

【キ、時期】

万座隣接地

遺構出土遺物や遺構確認面から後期前葉と考えられる。

万座北側地区

台地縁の沢に隣接して構築されたものは重複関係から2つの時期が設定できる。第201号竪穴遺構は出土遺物から後期前葉に構築されたもので、重複関係から掘立柱建物跡や環状配石遺構より古い時期のものである。

第406号・407号竪穴住居跡の出土土器には後期前葉～中葉に至る過渡期にあると考えられる幅の



第103図 竪穴遺構分布図

広い帯縄文が施文された土器片が含まれている。また重複した遺構のなかで最も新しいことから構築時期は、後期前葉末～中葉直前までの限られた時期と考えられる。同時期の土器が出土した第419A号、11号、27号フラスコ状土坑やそれ以後の環状配石遺構と共存した可能性が高い。

【ク. 分 布】

万座隣接地

万座環状列石を取り囲む建物群の北西端に位置し、遺構南東側に隣接して第217号建物跡が位置する。

万座北側地区

第901号竪穴遺構は万座環状列石の北西側台地縁に、第406号・407号竪穴住居跡は同列石の北北西側の台地縁に位置する。両者は台地縁に入り込んだ沢を挟み対峙する位置に所在する。

【ケ. 性 格】

居住するための炉跡が機能を欠如したもので、且つ土坑より規模が極めて大きいものを竪穴遺構とした。後期中葉のものが後期前葉のものと比較し規模が大きくなる。

I 類については性格不明である。

IIa類とした第406号・407号竪穴住居跡は重複関係から、環状配石遺構と共判した可能性が高く、環状配石遺構で行われた「マツリや折り」に関連した施設であった可能性が高い。

IIb類とした第201号竪穴遺構からは、赤色顔料を塗布した土器、櫛といった特異な遺物が出土していることから「祭祀施設」としての性格・機能を有する可能性が極めて高いものと考えられる。

第66表 竪穴遺構(万座隣接地)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド 確認面	平面形	規模 (cm・㎡) 長軸×短軸 面積 埋土	柱 配 置	出 土 遺 物	重 複 関 係	特 殊 な 施 設	構 築 時 期
1	ST202 (報文4)	D2区 ZX-91 III d 上層	楕円	238×207 3.53 人為堆積		復元土器1	SK245→ST202		後期 前葉

第67表 竪穴遺構(万座北側地区)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド 確認面	平面形	規模 (cm・㎡) 長軸×短軸 面積 埋土	柱 配 置	出 土 遺 物	重 複 関 係	特 殊 な 施 設	構 築 時 期
1	ST201 (報文4)	D2区 YK・YL — 91~92 SB201内	楕円	296×248 5.46 人為堆積	外周に回る6本 Pit1 25×22×11 Pit2 26×24×24 Pit3 22×22×28 Pit4 28×20×18 Pit5 23×22×12 Pit6 27×25×19	復元土器8 土偶1 錐形土製品 櫛1	ST201→SB201	北東側に 出入口	後期 前葉
2	SI406 (報文6)	F1区 T・S- 100~101 III d 上層	円形	(5.2)×4.8 18.06 人為堆積	主柱穴 Pit1 30×28×31 Pit2 33×31×35 Pit3 31×29×36 Pit4 23×21×29	土器片24 石器27 土製品4 石製品2	SB401・Sk435 ↓ SI407 ↓ SI406	南側に出 入口状の ピット列	後期 前葉 ～ 中葉
3	SI407 (報文6)	F1区 T・S- 100~101 III d 上層	円形	(4.7)×(4.7) 19.57 人為堆積	主柱穴 Pit12 34×32×43 Pit13 57×50×53 Pit14 42×40×53 Pit15 48×42×47	復元土器1 土器片14 石器13 土製品3 石製品1	SB401・Sk435 ↓ SI407 ↓ SI406	南側に出 入口状の ピット列	後期 前葉 ～ 中葉
4	ST901 (報文9)	F3区 YJ-112 III d 上面	楕円	328×280 7.25 自然堆積		小型土器1 石器5 土製品1	SK906・907 ↓ ST901		後期 前葉

6. 炉 跡

(1) 石囲炉 (第104～106図、第68～70表)

これまでに23基が検出されている。環状配石遺構や配石列に含まれ一つの遺構を形成すると考えられるものについては除外した。

【ア. 形態】

平面形態から分類した。

I類 平面形が円形を呈するもの

II類 平面形が楕円形を呈するもの

III類 平面形が方形を呈するもの

万座隣接地

I類3基、II類1基、III類1基の計5基である。

万座北側地区

I類8基、II類6基、III類2基の計16基である。

野中堂隣接地

I類2基である。

【イ. 規模】

最大は長軸120cmを測る第01号石囲炉(万座北側地区)、最小は長軸64cmを測る第201号石囲炉(万座北側地区)である。万座北側地区のI類、II類は径75cmを境に大型と小型に二分される。

万座隣接地

I類の最大は第20号石囲炉の径84cm、最小は第302号石囲炉の径80cmである。

II類の最大は第303号石囲炉のみで長軸100cm×短軸90cmである。

III類は第601号石囲炉の1基のみで一辺が60cmである。

万座北側地区

I類の最大は第01号石囲炉(F6区)の径120cm、最小は第402号石囲炉(F1区)の径60cmである。

II類の最大は第301号石囲炉の長軸110cm×74cm、最小は第204号石囲炉(D1区)の長軸96cm×76cmである。

III類は第201号石囲炉のみで、長辺64cm×短辺47cmである。

規模のみをみると径(長軸)75cmを境に大型のものと小型ものに二分される。

野中堂隣接地

検出例が少なく比較できない。2基ともI類で径70cm～90cmである。

【ウ. 確認面と構築面】

万座隣接地

第01号石囲炉(D8区)の確認面・構築面は基本層序IIIc層上面で、これ以外はIII d層上面が確認面・構築面となっている。

万座北側地区

確認面はⅢb下層～Ⅲd上面である。第06号・07号石囲炉は第04号掘立柱建物跡、第22号フラスコ状土坑が廃棄された後に構築されている。

野中堂隣接地

第01号石囲炉(B2区)は第04号掘立柱建物跡の柱穴状ピットが埋まりきったあとに構築されている。

【エ. 堆積状況(焼土)】

使用頻度の違いによりその厚みが増減してくるものと考えられる。なお、第10次調査から精査方法を変更したことから炉内の焼土の厚さは確認していない。これまでのなかで最も焼土の厚いものは第203号石囲炉の11cm、薄いものは第201号石囲炉の2cmである。

【オ. 出土遺物】

出土遺物は他の遺構と比べて極めて少ない。

万座隣接地

第205号、302号石囲炉より土器破片、石器が出土している。小破片のため時期は不明である。

万座北側地区

第203号、204号石囲炉より土器破片が出土している。第203号石囲炉より出土した土器片は帯縄文に刺突文が付加されたものであり、後期前葉の特徴をもつものである。

野中堂隣接地

第02号石囲炉南側より土器片が出土しているが、詳細不明である。

【カ. 重複関係】

単独で構築されるためか重複関係を示すものは少ない。万座北側地区2例、野中堂隣接地1例である。

万座隣接地

重複関係はみられなかった。

万座北側地区

掘立柱建物跡 SB04→SX(0)04

フラスコ状土坑 SK(F)22→SX(0)07

後期前葉の特徴をもった土器が出土する掘立柱建物跡、後期中葉の特徴をもった土器が出土するフラスコ状土坑と重複し、いずれも石囲炉が新しい。

野中堂隣接地

柱穴状ピット Pit04→SX(0)01

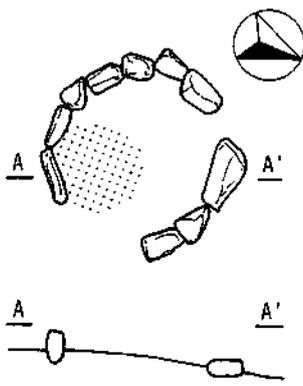
柱配置を示さないピットを切って構築されている。

【キ. 時期】

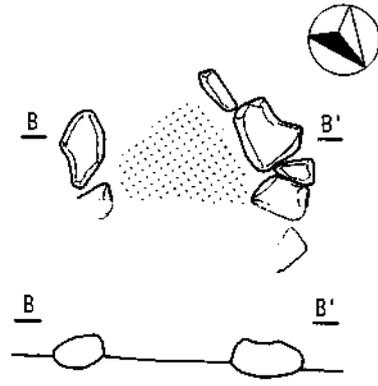
遺構からの出土遺物は少なく、確認面および重複関係を参考とする。

万座隣接地

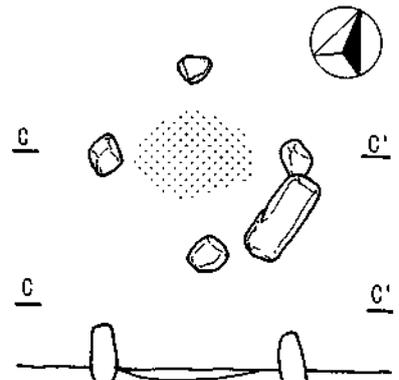
本地区の石囲炉は後期前葉の遺構が掘りこまれる基本層序Ⅲd層上面で検出された。また周辺の出土遺物、遺構の構築時期もそのほとんどが後期前葉である。このことから構築時期は周辺の遺構と同じ後期前葉の時期が与えられる。



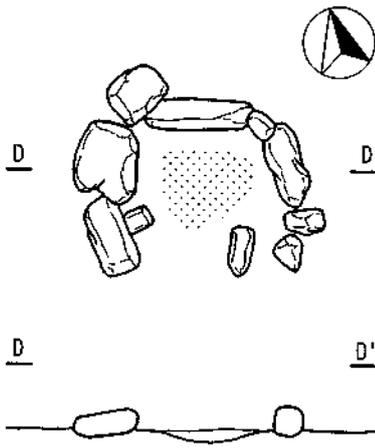
SX(0)302 (万座隣接地)



SX(0)303 (万座隣接地)



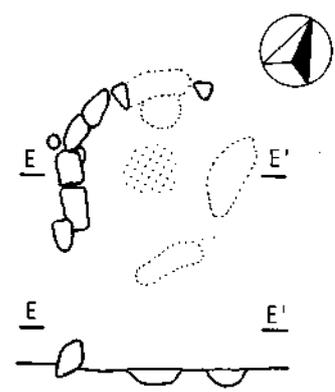
SX(0)601 (万座隣接地)



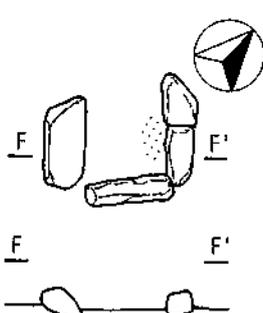
SX(0)602 (万座隣接地・配石列と一体)



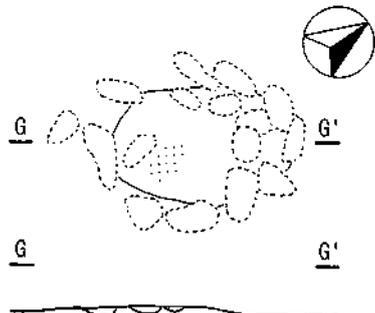
SX(0)01 (万座隣接地)



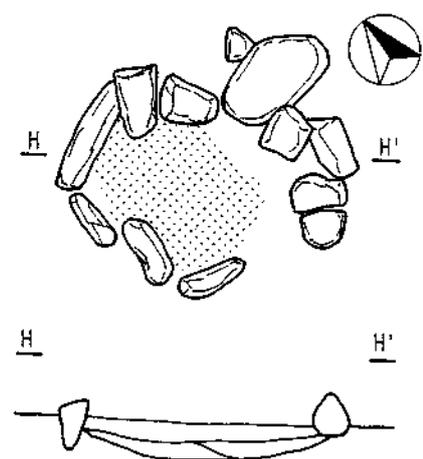
SX(0)205 (万座隣接地)



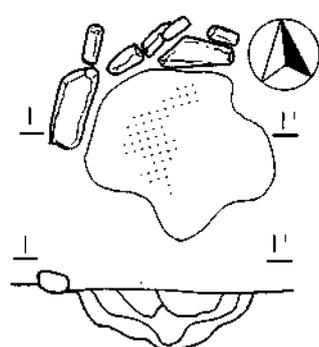
SX(0)201 (万座北側地区)



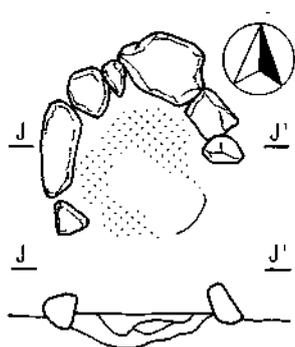
SX(0)202 (万座北側地区)



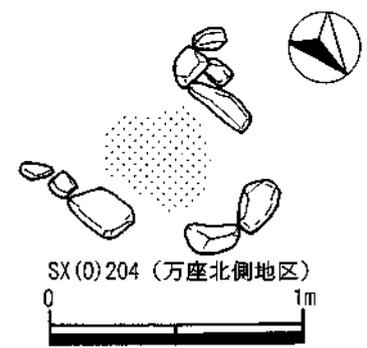
SX(0)301 (万座北側地区)



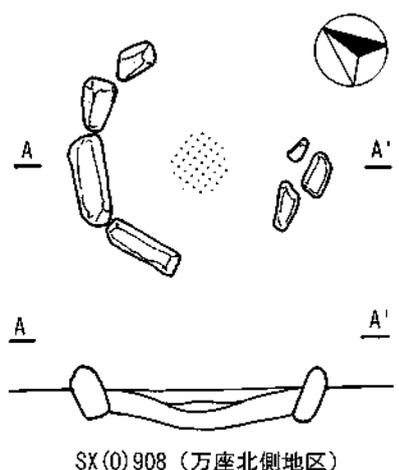
SX(0)203 (万座北側地区)



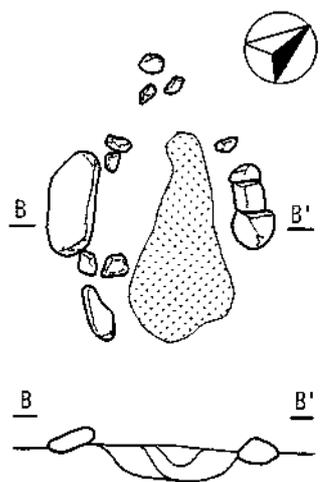
SX(0)204 (万座隣接地)



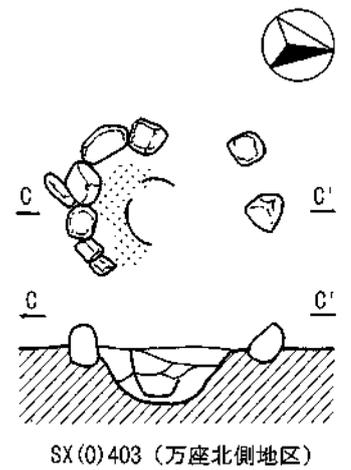
SX(0)204 (万座北側地区)



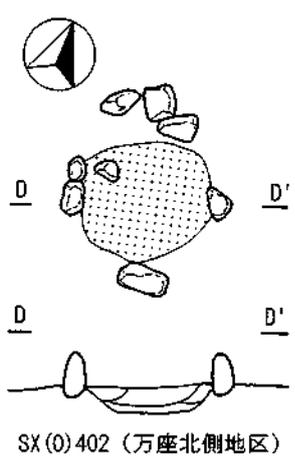
SX(0)908 (万座北側地区)



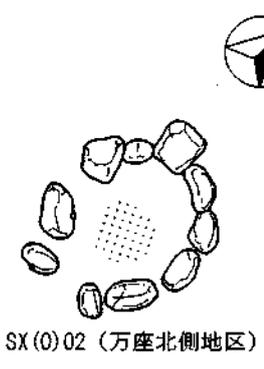
SX(0)401 (万座北側地区)



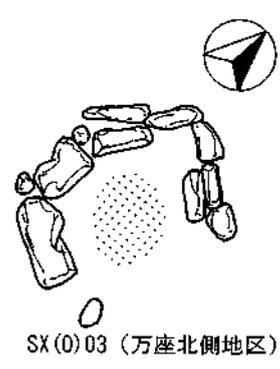
SX(0)403 (万座北側地区)



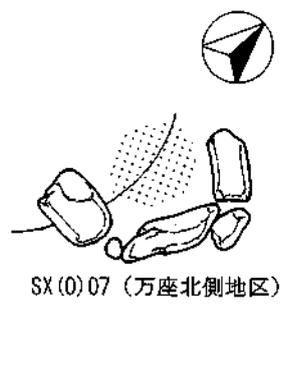
SX(0)402 (万座北側地区)



SX(0)02 (万座北側地区)



SX(0)03 (万座北側地区)



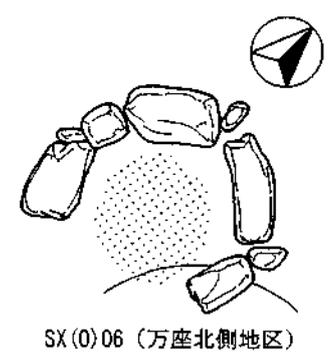
SX(0)07 (万座北側地区)



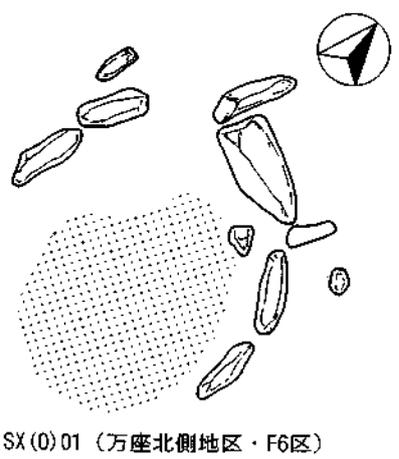
SX(0)09 (万座北側地区)



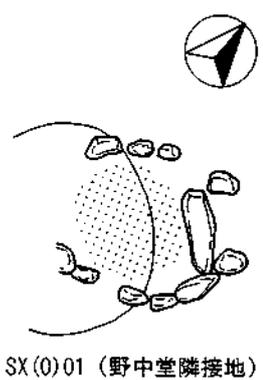
SX(0)10 (万座北側地区)



SX(0)06 (万座北側地区)



SX(0)01 (万座北側地区・F6区)



SX(0)01 (野中堂隣接地)



SX(0)02 (野中堂隣接地)



万座北側地区

位置する場所によって検出面が異なる。本地区の中央部第4号環状配石遺構（SX(S)04）及び万座隣接地との境界近くに位置する第09号・10号・908号石囲炉はⅢc層上面が検出面である。重複関係は第07号石囲炉が後期中葉の土器を出土するフラスコ状土坑が埋まりきったあとに、第06号石囲炉は後期前葉の第04号掘立柱建物跡の廃棄後に構築されている。構築面及び重複関係から前者は後期中葉に、後者は後期前葉～中葉の時期が与えられる。

野中堂隣接地

第01号石囲炉はⅢb層で検出された。後期中葉の遺構確認面がⅢc層であること、第04号掘立柱建物跡を切って構築されていることから後期中葉の時期と考えられる。

【ク. 分布】

万座隣接地、同北側地区、野中堂隣接地に分布する。

万座隣接地

石囲炉は、遺構が希薄になりはじめる掘立柱建物群・土坑群の外周に構築され、集中する傾向は見当たらない。

万座北側地区

地区内に4つの集まりがみられる。万座隣接地・同西側地区との境界部に6基、第04号環状配石遺構外周4基、同環状配石遺構の南東側に直線的・等間隔に並んだ3基、さらに台地縁の4基である。

野中堂隣接地

列石に近い位置にあるが、集合的・規則的な分布を示していない。

【ク. 性格】

万座隣接地、万座北側地区

遺構そのものから性格を読み取ることが困難である。

列石に近いものもあることから、列石または列石を構成する配石墓との関連が考えられる。石で一定の範囲をつくりだし、その内部で火を焚いた痕跡がある。第4号環状配石遺構の外周に位置する4基は同配石遺構と一体となる可能性が高い。遺跡の性格上、日常的な生活の痕跡が極めて少ないことから「祭祀的な使用」の可能性が最も高いが、それを積極的に裏付ける根拠が乏しい。

野中堂隣接地

列石に近いものもあることから、列石または列石を構成する配石墓との関連が考えられる。



第68表 石囲炉(万座隣接地)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	形態	平面形	規模 (cm) 炉長軸×短軸 焼土範囲×厚さ	出土遺物	新旧関係	構築 時期
1	SX(O)205 (報文5)	D2区 ZX-87	Ⅲd 上面	I	円形	84×84 22× . 4	土器片9		後期 前期葉
2	SX(O)302 (報文6)	D3区 YB-90・91	Ⅲd 上面	I	円形	80×80 40×35・	土器片2 掻器4		後期 前期葉
3	SX(O)303 (報文6)	D3区 YA-91	Ⅲd 上面	Ⅱ	楕円形	100×90 56×48・			
4	SX(O)601 (報文11)	D6区 ZI-94	Ⅲd 上面	Ⅲ	方形	60×60 50×42・			
5	SX(O)01 (報文15)	D8区 ZR-81	Ⅲc 上面	I	円形	40×30			

第69表 石囲炉(万座北側地区)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	形態	平面形	規模 (cm) 炉長軸×短軸 焼土範囲×厚さ	出土遺物	新旧関係	構築 時期
1	SX(O)201 (報文4)	D1区 YF-90	Ⅲb 下層	Ⅲ	方形	64×47 26×7・2			後期 前期葉
2	SX(O)202 (報文4)	D1区 YM-92	Ⅲb 下層	Ⅱ	楕円形	106×84 21×15・3~7			
3	SX(O)203 (報文4)	D1区 YG-93	Ⅲb 下層	Ⅱ	楕円形	91×90 43×36・11	土器片7		後期 前期葉
4	SX(O)204 (報文4)	D1区 YE-93	Ⅲb 下層	Ⅱ	楕円形	96×76 59×53・4~10	土器片3		後期 前期葉
5	SX(O)401 (報文6)	F1区 V-108	Ⅲd 上面	Ⅱ	楕円形	70×60 45×17・8			
6	SX(O)402 (報文6)	F1区 X-105	Ⅲd 上面	I	円形	60×55 50×48・9			
7	SX(O)908 (報文9)	D5区 ZZ-100	Ⅲd 上面	I	円形	90×90 26× . 3	土器片9		前葉~ 中葉
8	SX(O)301 (報文10)	D3区 YJ-88	Ⅲd 上面	Ⅱ	楕円形	110×74 70×50・			
9	SX(O)304 (報文10)	D3区 YH-91	Ⅲd 上面	Ⅱ	楕円形	100×80 42×38・			
10	SX(O)2 (報文13)	F4区 YP-104	Ⅲd 上面	I	円形	70×70 30× .			
11	SX(O)3 (報文13)	F4区 YP-100	Ⅲd 上面	Ⅲ	方形	90× 40×30・			
12	SX(O)6 (報文13)	F4区 YJ-103	Ⅲc 上面	I	円形	104× 60×50・		SB04→SX(O)6	
13	SX(O)7 (報文13)	F4区 YI-102	Ⅲc 上面	I	円形	104× 50× .		SK(F)22→ SX(O)7	
14	SX(O)9 (報文13)	F4区 YD-99	Ⅲc 上面	I	円形	100× 50× .			
15	SX(O)10 (報文13)	F4区 YG-98	Ⅲc	I	円形	50× .			
16	SX(O)01 (報文15)	F6区 YX-105	Ⅲc 上面	I	円形	120× 100×80			

第70表 石囲炉(野中堂隣接地)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	形態	平面形	規模 (cm) 炉長軸×短軸 焼土範囲×厚さ	出土遺物	新旧関係	構築 時期
1	SX(O)01 (報文17)	B2区 K-89	Ⅲb	I	円形	×70 50×50		SB04→ SX(O)01	前葉~ 中葉
2	SX(O)02 (報文17)	B2区 P-89	Ⅲb	I	円形	90×80 50×50			

(2) 埋設土器炉 (第107~109図、第71表)

万座北側地区におい5基が検出されている。ほかの地区からは検出されていない。

資料を再度確認し、埋設土器炉へ変更したものもある。記載については旧番号を使用する。

【ア. 形態】

埋設土器炉は掘り込みを有し、土器が正立に埋設されているものをⅠ類とした。本類の検出状況は後述する埋設土器遺構と類似しているが、焼土の有無、土器が二次加熱を受けたか否かで判断したものもある。上記のほかに掘り込みを有し、土器が斜位に埋設されたもので、二次加熱を受けたものもありこれらについてはⅡ類として扱った。

【イ 規 模】

万座北側地区

Ⅰ類： 土器が埋設される掘り込みは円形又は楕円形を呈し、径(長軸)42cm~80cm、深さ10cm~39cmを測る。SX(f)205、SX(U)01、SX(U)02がこれにあたる。

Ⅱ類： 土器が埋設される掘り込みは不整形のものが多い。径(長軸)56cm~90cm、深さ11cm~19cmを測る。全体的にⅠ類より僅かに大きい。SX(f)408b、SX(f)209aがこれにあたる。

【ウ. 確認面と構築面】

万座北側地区

本地区南側に位置するものは確認面が第Ⅲb下位で土器の上部が露頭し、構築面はさらにこの下層となる。また同地区北端に位置する第01号、02号埋設土器炉は小丘の頂上に位置し、確認面・構築面は第Ⅴ層である。

【エ. 堆積状況(焼土)】

万座北側地区

Ⅰ類： 顕著な焼土の堆積、広がるものは少ない。第205号埋設土器炉の土器内にわずかに焼土の堆積が見られたに過ぎず、その多くは黒褐色土中に焼土粒が混入している。

Ⅱ類： 埋設された土器とともに焼土(粒)・炭化物を含んだ広がりの確認される。

【オ. 出土遺物】

万座北側地区

使用された土器そのもので、二次加熱を受けているため脆く、全体的に赤みを帯びている。使用された土器の特徴を記載する。

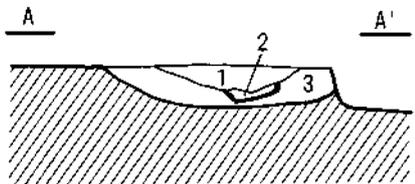
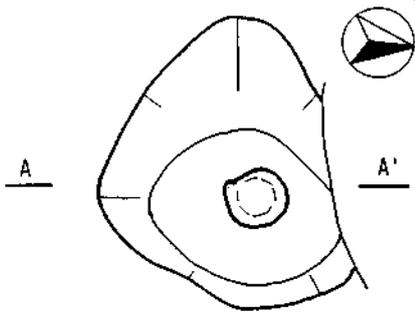
SX(f)205 深鉢形土器底部が出土している。

SX(f)209a 深鉢形土器胴部下半が出土している。原体Rの連鎖状撚糸文が施文されている。

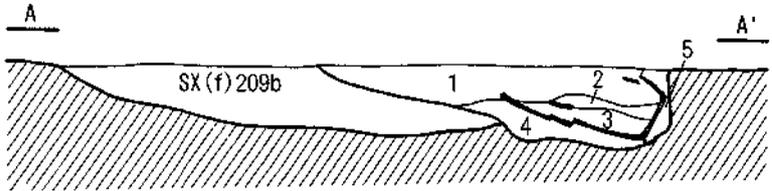
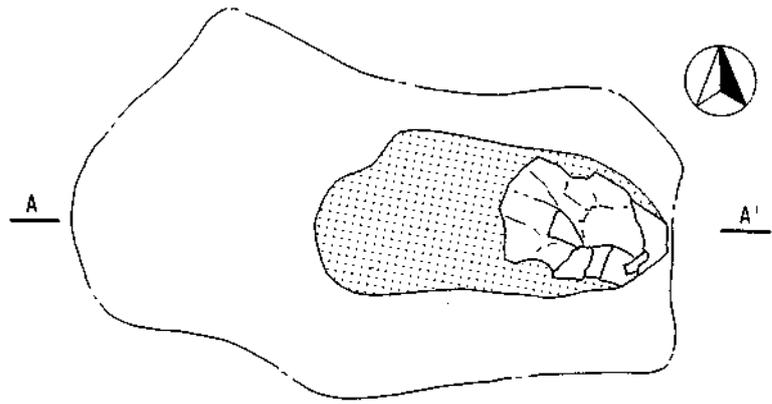
SX(f)408b 平口縁の深鉢形土器が出土した。胴部には原体Rの網目状撚糸文が施文されている。

SX(U)02 深鉢形土器の胴部下半が出土した。原体施文後、沈線により幾何学文を描き、磨り消しが行われている。

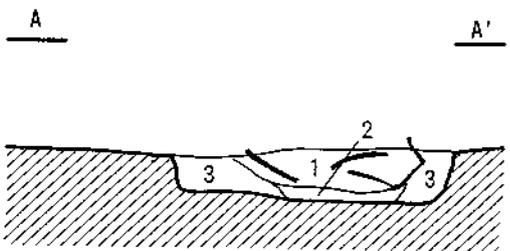
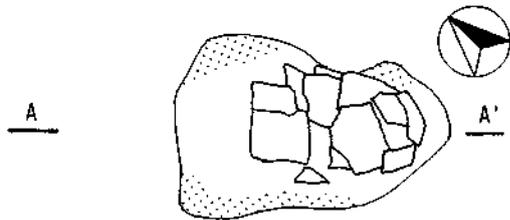
SX(U)02 平口縁の深鉢形土器が出土した。器前面に短軸絡状撚糸文を施文後、沈線により曲線・直線文を描き出している。



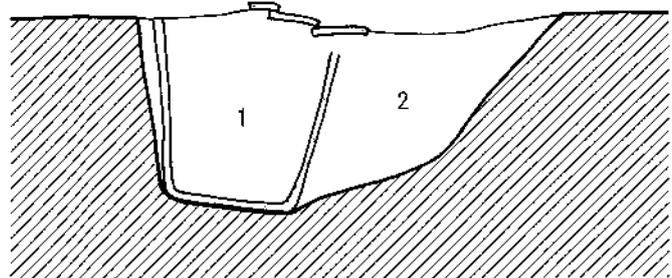
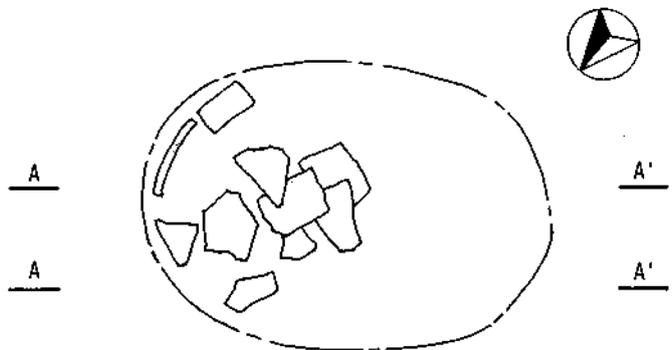
SX(f) 205(万座隣接地)



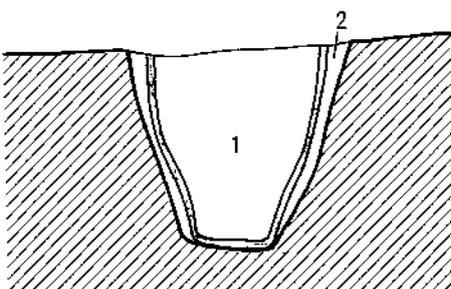
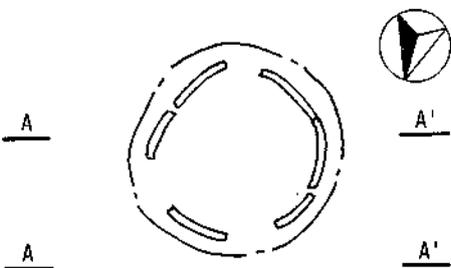
SX(f) 209a-b(万座隣接地)



SX(f) 408b(万座隣接地)



SX(u) 02(万座北側地区)



SX(u) 01(万座北側地区)

SX(f) 205

1. 暗褐色土(10YR3/3)
2. 暗赤褐色土(5YR3/2)
3. 明黄褐色土(10YR6/8)

SX(f) 209a-b

1. 灰褐色土(5YR4/2)
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3)
3. 褐色土(7.5YR4/4)
4. 暗褐色土(7.5YR3/4)
5. 暗褐色土(7.5YR3/3)

SX(f) 408b

1. 黒褐色土(7.5YR3/1)
2. 明褐色土(7.5YR5/6)
3. 黒褐色土(7.5YR2/2)

SX(f) 01

1. 黒褐色土(10YR2/2)
2. 黄褐色土(10YR5/6)

SX(f) 02

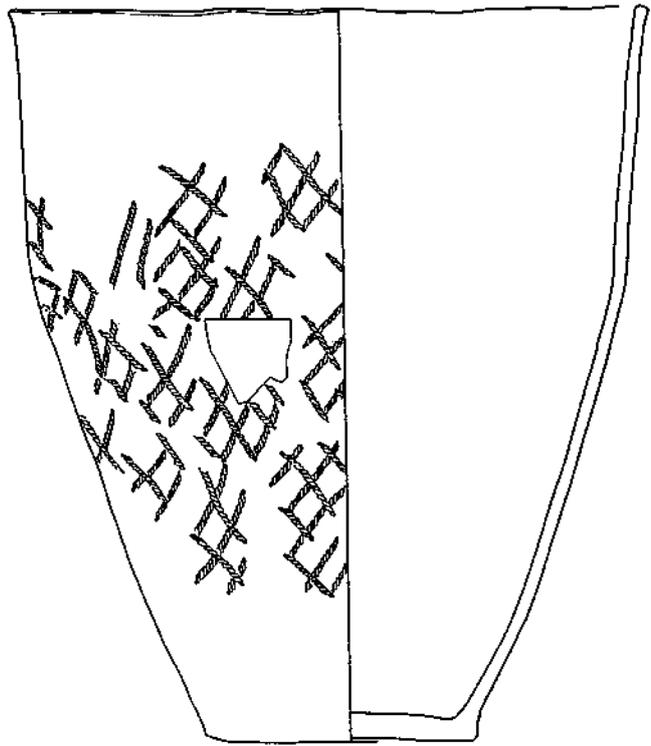
1. 暗褐色土(10YR3/4)
2. 黄褐色土(10YR5/6)



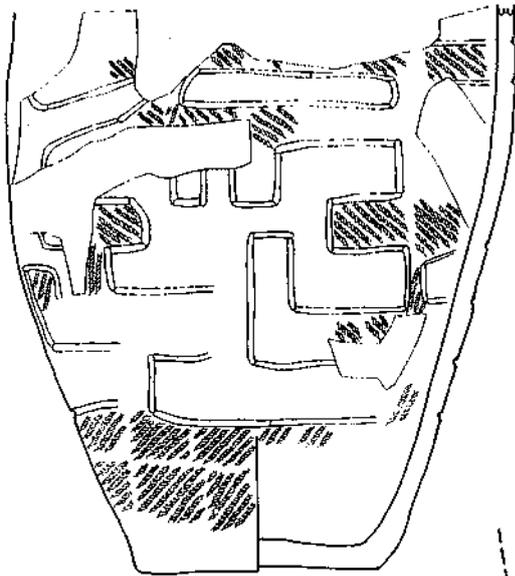
第107図 埋設土器炉実測図(1)



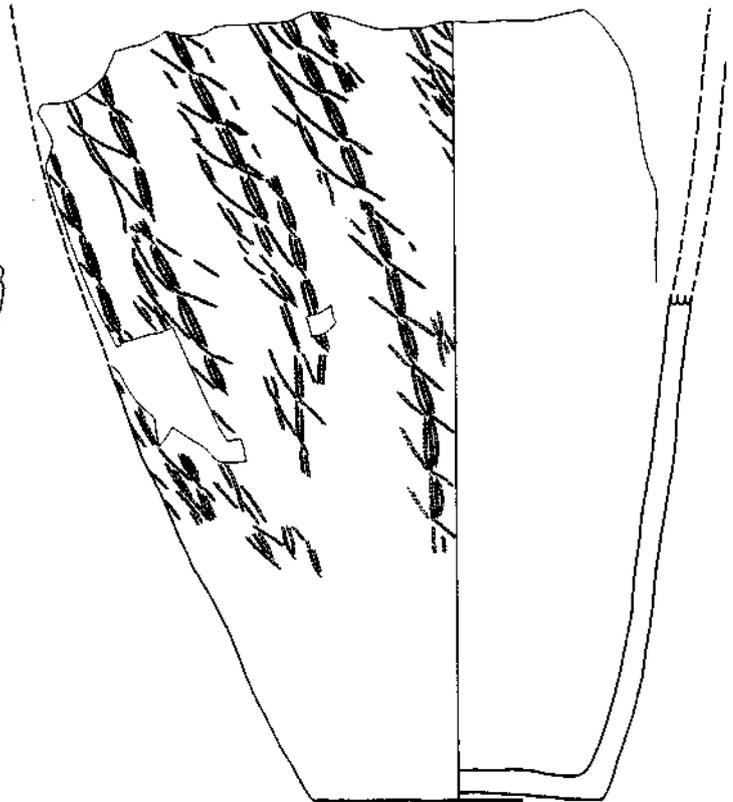
SX (f) 205



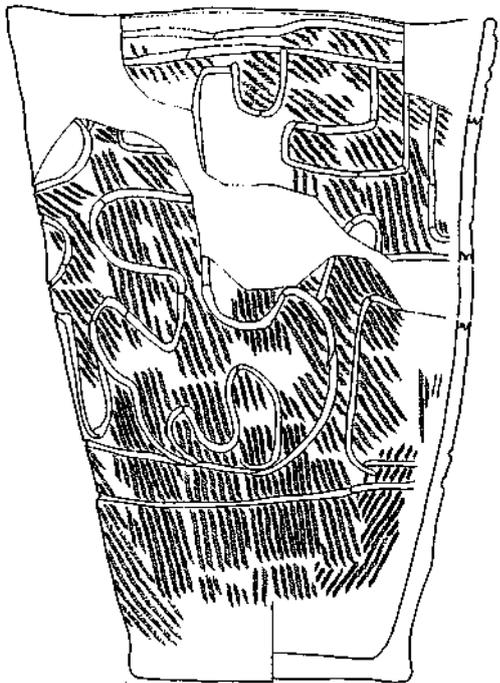
SX (f) 408b



SX (u) 02



SX (f) 209b



SX (u) 01



【カ. 重複関係】

万座北側地区

重複関係を示すもの一例である。

焼土遺構 SX(f)209b → SX(f)209a

【キ. 時期】

万座北側地区

各遺構から出土した土器から、その構築時期が判断できる。

本地区の北端部の第01号・02号埋設土器炉は地文上に曲線文を施文したもの、帯縄文により方形文が施文されており、後期前葉の土器でも古手のものと考えられる。第209a号埋設土器炉は後期前葉の文様特徴を持っている。本地区南端に分布する埋設土器炉についてはSX(f)209aと確認面が同じであることを考慮して後期前葉の時期が与えられる。



第109図 埋設土器炉分布図

【ク. 分布状況】

万座北側地区

万座北側地区の南端、中央台地縁寄り、北端台地縁の3ヶ所に分布が見られる。SX(f)205・209は本地区の南端、万座隣接地との境界部分に、SX(f)408bは同地区で検出されている住居群中央に、SX(U)01・02北端の小丘頂上に分布する。

【ケ. 性 格】

万座北側地区

土器は二次的な加熱を受け、赤みを帯び、脆いものが多い。分布状況からみて単独で機能するものとの遺構と一体となり機能していたものがあるように受け取れる。前者は本地区北端に分布するもの、後者は同地区南端及び同中央のものであり、隣接する土坑や竪穴住居跡・建物跡の関連が考えられる。日常的の施設として使用されるものか否かは判断できなかった。

第71表 埋設土器炉(万座北側地区)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	形態	土器の 状態	掘り込み規模 (cm) 焼土範囲 (長軸×短軸×深さ)	出土遺物 土器の器形 大きさ	新旧関係	構築 時期
1	SX(f)205 (報文4)	D1区 YG-92	Ⅲb下位	Ⅱ	斜位	61×58×10	深鉢形土器	SX(f)205 →SK207	後期 前期葉
2	SX(f)209a (報文4)	D1区 YD-92	Ⅲb下位	Ⅱ	斜位	78×65×19 71×35×9	深鉢形土器	SX(f)209b →SX(f)209a	後期 前期葉
3	SX(f)408b (報文6)	F1区 R-104	Ⅲb下位	Ⅱ	斜位	55×99×4	深鉢形土器 器高29.1cm 土器片利用土製 品1、土器片10 数点		後期 前期葉
4	SX(U)01 (報文14)	F5区 YX-119	V層	I	正立	径22×深さ20のPit	深鉢形土器 器高26.2cm		後期 初頭～前期葉
5	SX(U)02 (報文14)	F5区 YX-119	V層	I	正立	径40×29、深さ20 のPit	深鉢形土器 器高cm		後期 初頭～前期葉

7. 焼土遺構（第110～115図、第72～84表）

万座全地区157基（隣接地50基、北側地区71基、西側地区32基、南側地区2基）、野中堂全地区83基（隣接地36基、南側地区43基、東側地区4基）、一本木後口地区33基、計273基が確認されている。

史跡の堆積土中で火を焚いた痕跡、火の加熱を受けて土が赤く変化した場所を焼土遺構とした。なお他の場所から焼土を運び込み、投棄したものは見当たらなかった。

【ア. 形態】

石囲炉や土器埋設炉のように範囲を区切るものがないことから、形態については様々である。

すべて、不整形を呈するといつてよい。

【イ. 規模】

最大は万座北側地区の第06号焼土遺構の長軸500cm×45～260cm、最小は一本木後口の第8号焼土遺構の長軸15cm×短軸10cmである。長軸100cmを越す大型のものは273基中32基で全体の11.7%である。長軸30cm～70cmに集約し、その数は187基、68.5%である。

万座隣接地

最大は第614号焼土遺構(D6区)の長軸172cm×96cm、最小は第225号焼土遺構(D1区)の長軸16cm×12cmである。長軸50cm～60cmに22基(42.3%)が集中する。焼土厚18cmを測るものもある。

万座北側地区

最大は第02号焼土遺構(F5区)の長軸340cm×142cm、最小は第01号焼土遺構(F5区)の長軸20cm×14cmである。長軸30cm～60cmに47基(59.5%)が集中する。焼土厚12cmを測るものもある。

万座西側地区

最大は第20号焼土遺構(G4区)の長軸243cm×110cm、最小は第02号焼土遺構(D9区)の長軸16cm×11cmで、長軸100cmを超えるものが9基(39.5%)存在する。

万座南側地区

最大は第702号焼土遺構(G1区)の長軸54cm×46cm、最小は第701号焼土遺構(G1区)の長軸48cm×42cmである。

野中堂隣接地（東側地区を含む）

最大は第51号焼土遺構(B2区)の長軸104cm×80cm、最小は第22号焼土遺構(B2区)の長軸40cm×30cmである。長軸50cm～60cmに21基(52.5%)が集中する。

野中堂南側地区

最大は第108号焼土遺構(B3区)の長軸246cm×146cm、最小は第109号焼土遺構(B3区)の長軸20cm×14cmである。長軸60cmの規模のものが多い。

一本木後口地区

最大は第16号焼土遺構(A2区)の長軸100cm×43cm、最小は第1号焼土遺構(A1区)の長軸15cm×10cmである。長軸40cmに14基(42.4%)が集中する。焼土厚2cm～12cmを測る。

【ウ. 堆積状況】

本遺構の確認面は基本層序Ⅲc層上面～Ⅴ層上面の各層で検出される。基本的には焼土上に遺構確

認面の上位層が堆積する。全273例のうち掘り方がみられるのは6例であり、焼土はいずれも掘り方底面より浮いた状況であったが、投棄された状況は示していなかった。

【エ. 出土遺物】

遺構が平面的な広がりを持っていることから共伴遺物は少なく、40例で全体の14.6%である。それらは万座隣接地や同北側地区に多い。

万座隣接地

遺物の共伴例は6例である。第210号焼土遺構(D1区)から深鉢形土器、第211号焼土遺構(D1区)からは石鏃、第222号焼土遺構(D1区)からは土器片利用土製品が出土している。

万座北側地区

遺物の共伴例は20例である。第210号焼土遺構(D1区)・408b号焼土遺構(F1区)からは深鉢形土器、第203号焼土遺構(D1区)からは石鏃、第408b号・409号(F1区)・421号焼土遺構(F1区)からは土器片利用土製品が出土している。第214号焼土遺構(D1区)からは50点という多量の土器片が出土した。

万座西側地区

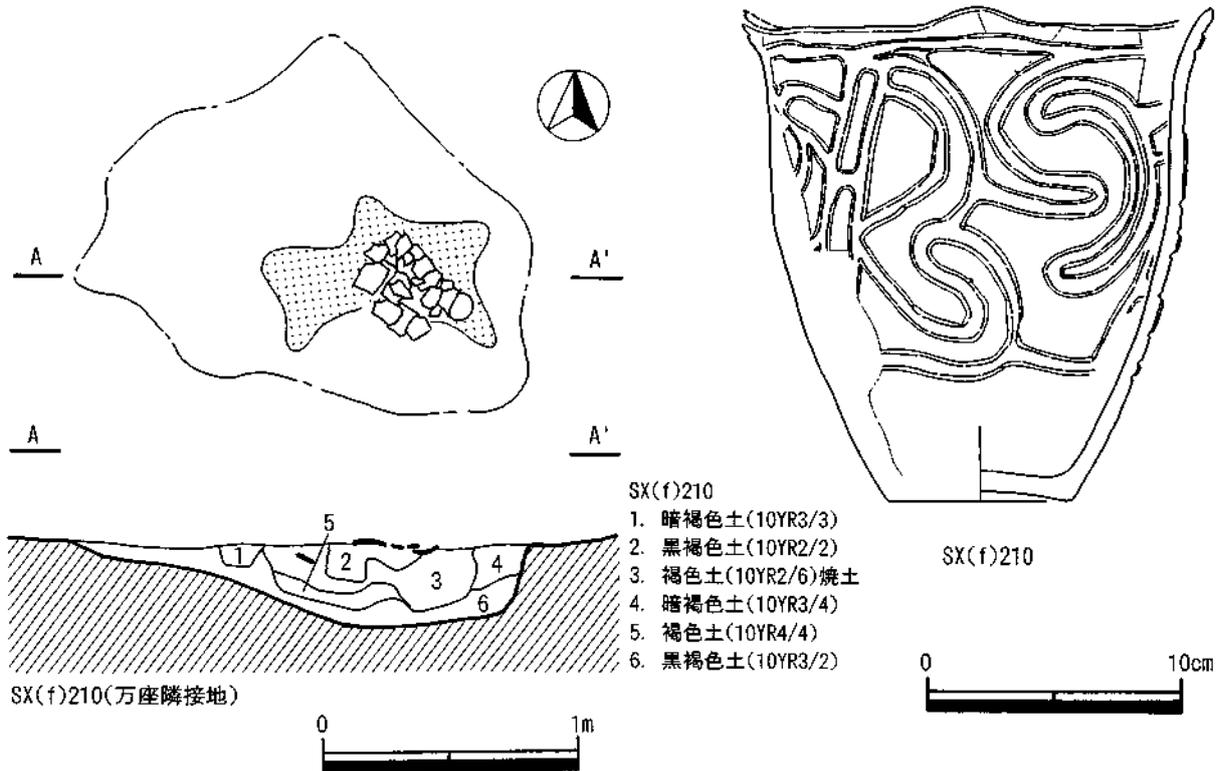
遺構からの共伴遺物はない。

万座南側地区

遺構からの共伴遺物はない。

野中堂隣接地(東側地区を含む)

遺構からの共伴遺物はない。



野中堂南側地区

遺構からの共伴遺物はない。

一本木後口地区

遺物の共伴例は4例である。土器片や土器片利用土製品が出土しているが数量は少ない。

【オ. 重複関係】

重複関係を示すのは18例で、それらは万座隣接地及び同北側地区に限られる。

万座隣接地

柱穴状ピット Pit167→SX(f)220(D1区) Pit91→SX(f)221・222(D1区)

Pit203・204→SX(f)224(D1区)

掘立柱建物跡 SX(f)602→SB602(D6区)

フラスコ状土坑 SK(F)16・32→SX(f)02(D1区)

焼土遺構 SX(f)209b→SX(f)209a(D1区)

遺構が埋まりきったあとのものが多い。柱穴状ピットとは前後する切りあいをもっている。

万座北側地区

環状配石遺構 SX(f)12→SX(S)202(D1区)

柱穴状ピット Pit02→SX(f)02・SX(f)17(F4区) Pit33→SX(f)12(F4区)

掘立柱建物跡 SB01・SB05

土坑 SX(f)205→SK207(D1区) Pit26→SX(f)03→SK03(F4区)

柱穴状ピットが埋まりきった後のものが多く、土坑や環状配石遺構によって切られているものもある。

万座西側地区

焼土遺構 SX(f)2→SX(f)24(G4区)

野中堂隣接地(東側地区を含む)

重複なし

野中堂南側地区

重複なし

一本木後口地区

重複なし

【カ. 時期】

焼土遺構からの遺物の出土は少ないことから、重複する遺構や検出面を考慮しながら時期を決定する必要がある。

万座隣接地

遺構が平面的なことから、出土遺物はその時期を決定する資料となりがたいものがあるが、その出土土器は後期前葉・十腰内I式のものほとんどである。それぞれの遺構検出面に違いがあるが、Ⅲc層のものは後期中葉、Ⅲd層のものは後期前葉という時期を与えることができるものと考えられる。

上記の重複関係、同地区の遺構の重複関係全体を考慮し、その時期は万座環状列石の存続しつづけた期間と考えられる。

万座北側地区

本地区で確認された遺構の構築時期は後期前葉～中葉にかけてのものである。縄文早期・前期の土器片も出土しているが、これに伴う焼土遺構は確認されていない。

遺構は大まかに、台地縁の竪穴住居跡、環状に巡らされた掘立柱建物群が造られた後期前葉(十腰内Ⅰ式)と環状配石遺構を中心とした後期中葉(十腰内Ⅱ・Ⅲ式)に分けることが可能である。竪穴住居跡、掘立柱建物群、環状配石遺構に隣接地して分布する焼土遺構はこの時期のものと考えられる。

万座西側地区

本地区で確認された遺構の中で縄文後期中葉のものである第2号竪穴住居跡(十腰内Ⅱ式)を除き、すべて後期前葉(十腰内Ⅰ式)である。それらが時間をおかずに継続されていたのかは不明であるが、本地区で確認された焼土遺構はこの時期に限定されるものと考えられる。

万座南側地区

本地区で確認された遺構、出土した遺物は後期前葉(十腰内Ⅰ式)である。本地区で確認された焼土遺構の時期はこの時期に限定されるものと考えられる。

野中堂隣接地(東側地区を含む)

野中堂環状列石は後期前葉～中葉にかけて構築されたものである。また、同列石を中心に規則的に分布する建物跡、土坑、フラスコ状土坑は同列石と密接に結びついたものと考えられる。焼土遺構もまた上記の遺構群域に分布していること、遺構検出面、遺構内外の出土遺物から環状列石と同時期の時期が与えられる。

野中堂南側地区

野中堂環状列石の南側40mの地点に焼土遺構が群集している。さらにその南側に40m地点には3基の配石遺構及び1列の配石列が位置する。これらはほぼ南北に並び、焼土密集部分を示しているようにもみられることから同時性を感じることができる。第03号配石遺構出土の甕棺土器から後期前葉・十腰内Ⅰ式の時期が与えられる。

一本木後口地区

本地区は配石遺構(配石墓)と土坑(墓)を主体とした墓域を形成し、その構築時期は後期前葉(十腰内Ⅰ式)のもので、これ以外の時期の遺構と遺物は含まない。このことから本地区で確認された焼土遺構の時期はこの時期に限定されるものと考えられる。

【キ.分 布】

万座隣接地

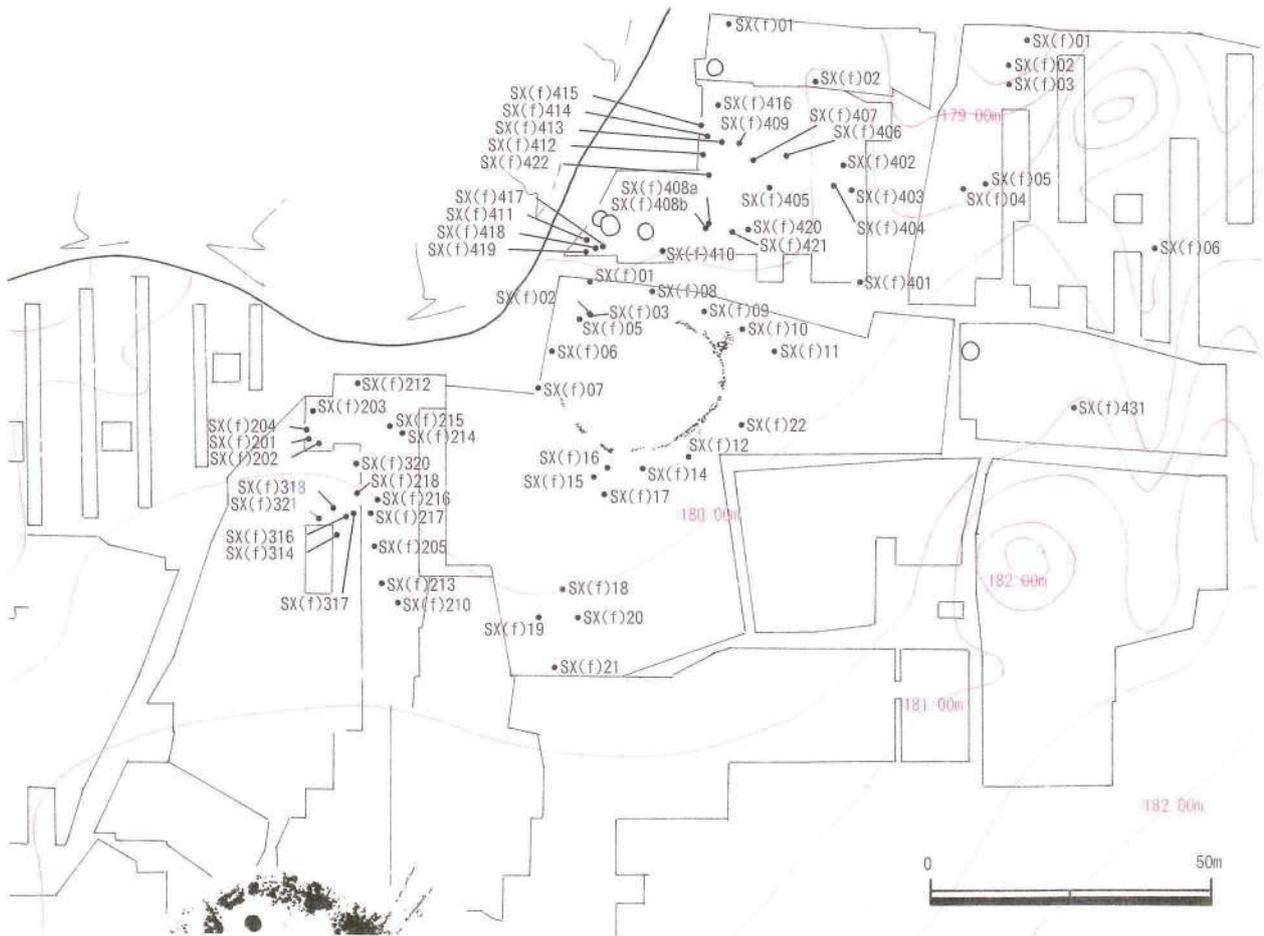
環状列石を大きく取り囲むように掘立柱建物群域に接しながら、またはやや離れて分布している。列石の北東側の焼土遺構は5～8基がまとまりグループを構成しているようにも看取される。

万座北側地区

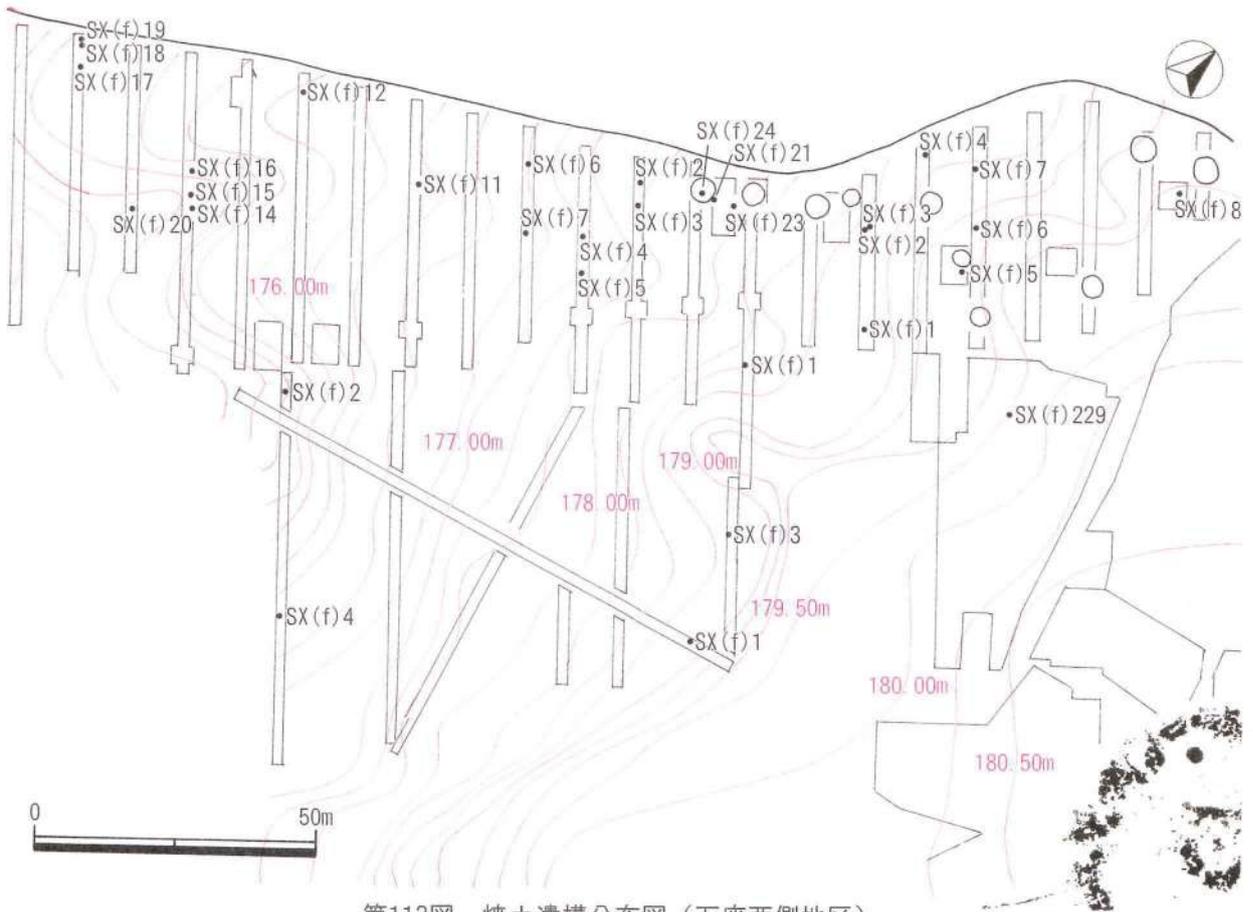
本地区は遺構変遷から、竪穴住居跡、建物跡、環状配石遺構の各々を中心とした時期におおよそ区



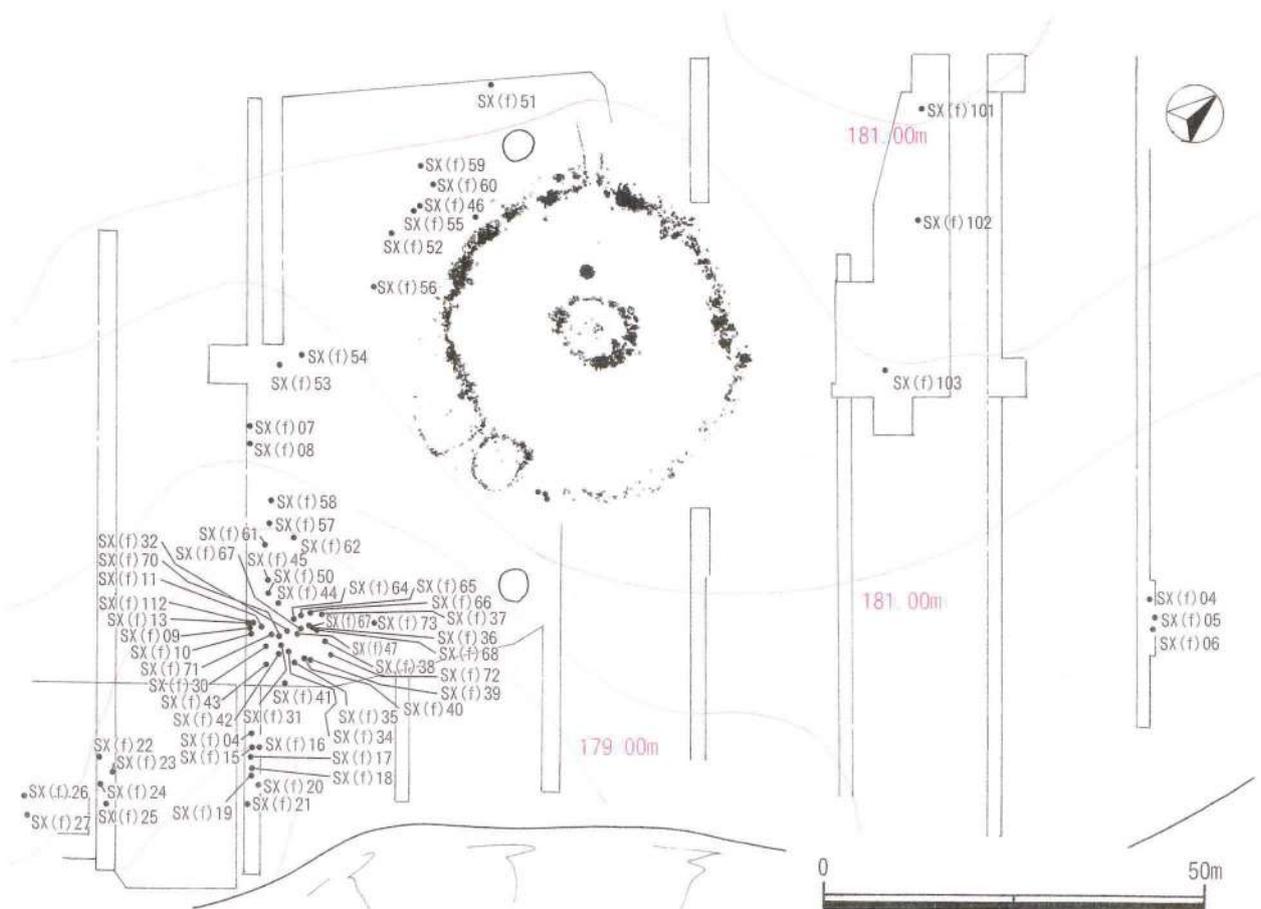
第111図 焼土遺構分布図（万座隣接地）



第112図 焼土遺構分布図（万座北側地区）



第113図 焼土遺構分布図（万座西側地区）



第114図 焼土遺構分布図（野中堂隣接地）

分される。前二者は後期前葉・十腰内Ⅰ式、後者は後期中葉・十腰内Ⅱ式である。

竪穴住居は台地縁に造られ、焼土遺構はこれを囲むような配置を示している。掘立柱建物跡についてはその性格を「マツリと祈りの場」と捉えているが、掘立柱建物跡に伴ったものは確認できなかった。また、地区中央に大型の第4号環状配石遺構があり、これを取り囲むように15基の焼土遺構が分布しており、これらは4号環状配石遺構内部に位置する石囲炉と共に環状配石遺構に伴った可能性が強い。

万座西側地区

台地縁に沿って分布する傾向が見られる。同地区北側に分布する竪穴住居跡群周辺にもその分布が見られるが、住居跡に伴ったものかは不明である。

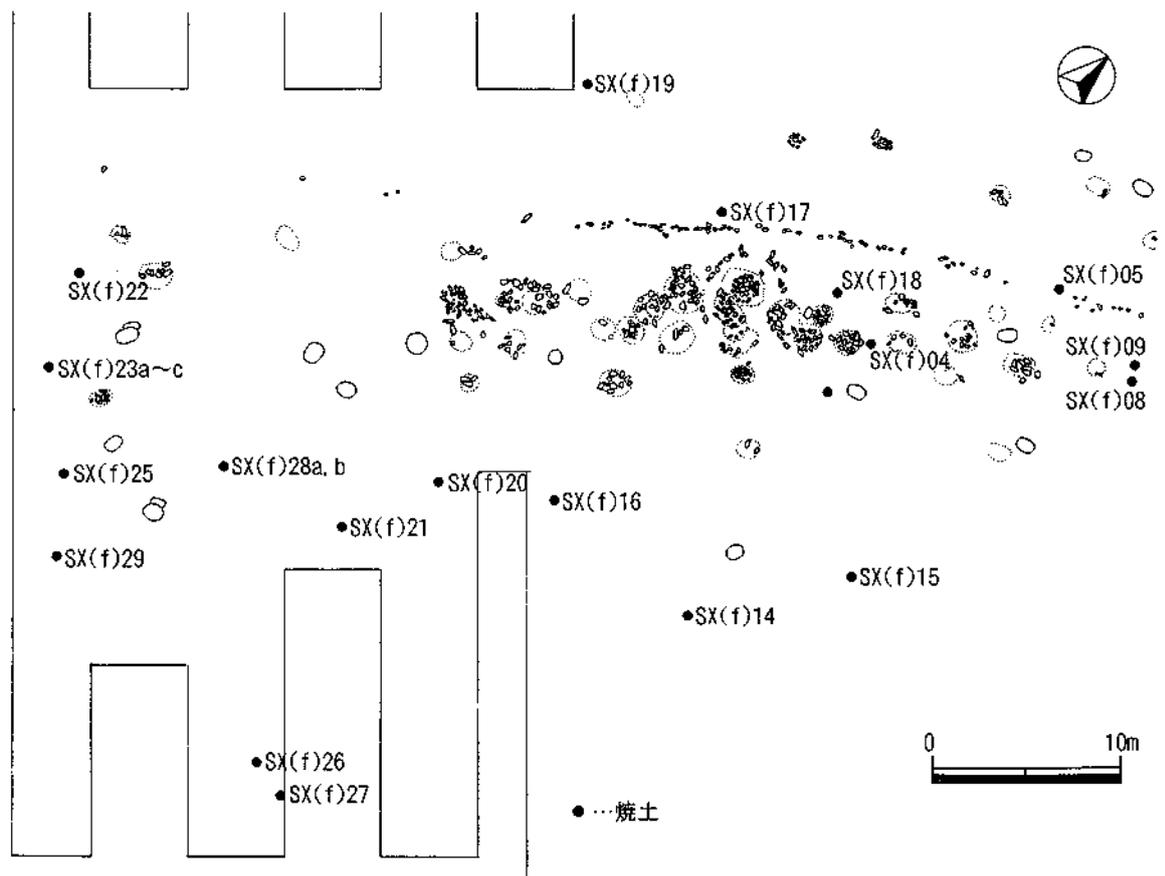
万座南側地区

確認数が2基であり、詳細は不明である。

野中堂隣接地(東側地区を含む)

野中堂環状列石東側に未調査部分が残っていることから詳細は不明である。万座環状列石隣接地と比較し、その分布密度は低い。野中堂環状列石の西側の掘立柱建物跡(群)の外側に焼土遺構が6基確認され、万座環状列石と似たような分布を示している。

また、列石南側出入口施設の延長線上には焼土遺構の密集する地点、そのさらに延長線上には



第115図 焼土遺構分布図(一本木後口地区)

配石遺構群・配石列がある。同列石とやや距離はあるものの列石や掘立柱建物跡、同地区南側地区の遺構群と密接な関係にあるものと考えられる。

野中堂南側地区

野中堂隣接地南端の焼土遺構群と僅かな距離を隔てて、もうひとつの焼土遺構群がみられる。最も近い位置関係にあるのが配石遺構群と配石列である。

一本木後口地区

本地区は配石遺構(配石墓)・土坑(土坑墓)が主体となっている。焼土遺構はこの範囲内またはこれに接して分布している。

【ク. 性 格】

焼土遺構については、そのものが人為的なものであるのか、自然的(野火・山火事など)なものなのか判断が難しい遺構である。遺構内より遺物が出土したものを人為的に火が焚かれたものと解釈すると40例、さらに焼土下に掘り込みを持つものと限定していくと6例となる。ここでは、確認されたすべてを人為的なものと解釈する。

万座隣接地、万座北側地区、野中堂隣接地、一本木後口地区

二つの環状列石及び万座北側地区の第04号環状配石遺構、一本木後口の配石遺構群(墓域)を意識した配置を示すものについては、同地で行われた「葬送儀礼」・「マツリや祈り」に関連したものと想定され、現在でも行われている「迎え火・送り火」的な要素や「場を清める」という意味合いを持っていたものと考えられる。

万座西側地区

竪穴住居跡を意識したものについては「屋外炉」としての機能を持っていたものと考えられる。

万座南側地区

性格不明である。

上記以外にも、史跡内からは多くの焼土遺構が確認されている。人為によるものなのか、自然的な要因で赤変したのか判断しがたい状態で検出されている。どのような目的があった不明なものが多い。

第72表 焼土遺構(万座隣接地区-1)

No.	遺構名 (報文No)	調査区 グリッド	確認面	形態	焼土の範囲 最大厚(cm)	掘り方 の規模 (cm)	出土遺物	新旧関係	構築 時期
1	SX(0209a (報文4)	D1区 YD-92	(IIIb層下位)	隅丸 方形	71×35 厚さ9	78×65	深鉢形土器	SX(0209b ↓ SX(0209a	後期 前葉
2	SX(0209b (報文4)	D1区 YD-92	(IIIb層下位)		径80以上 厚さ7			SX(0209b ↓ SX(0209a	
3	SX(0211 (報文4)	D1区 YC-92	(IIIc層上面)		55×43内 42×28 厚さ4		石鎌1点 土器片4点		後期 前葉
4	SX(0219 (報文4)	D1区 ZW、 ZX-92	(IIIb層下面)		径79内 径40 厚さ7				
5	SX(0220 (報文4)	D1区 ZX、 ZY-91	(IIIb層下面)		100×95内 93×78 厚さ18		土器片11点	Pit167 →SX(0220	後期 前葉
6	SX(0221 (報文4)	D1区 ZW-91	(IIIc層上面)		71×71内 47×20 厚さ3		土器片20点	Pit91 →SX(0221 →SX(0222	後期 前葉
7	SX(0222 (報文4)	D1区 ZW-90	(IIIc層上面)		45×40内 22×10、5 6×5、5 22×6、		搔器1点 土器片20点 土器利用土製品4点		後期 前葉
8	SX(0224 (報文4)	D1区 ZU-92	(IIIc層上面)		60×43内 幅10			SK(0235、 SK(0242、 Pit203・204 →SX(0224	
9	SX(0225 (報文4)	D1区 ZU-91・92	(IIIc層上面)		16×12 厚さ3				
10	SX(0226 (報文5)	D2区 ZW-88	(IIIc層上面)		55×38内 44×18、14				
11	SX(0227 (報文5)	D2区 ZW-88	(IIIc層上面)		66×62内 51×48、15		土器片13点		後期 前葉
12	SX(0228 (報文5)	D2区 ZV、 ZW-86	(IIIc層上面)		99×69内 75×43、13				
13	SX(0302 (報文10)	D3区 YA-89	(IIIc層上位)		112×84				
14	SX(0303 (報文10)	D3区 YA-91	(IIIc層上位)		78×74				
15	SX(0304 (報文10)	D3区 YA-91	(IIIc層上位)		49×42				
16	SX(0305 (報文10)	D3区 YA-91	(IIIc層上位)		51×48				
17	SX(0306 (報文10)	D3区 YB-91	(IIIc層上位)		156×76				
18	SX(0307 (報文10)	D3区 YC-91	(IIIc層上位)		63×62				
19	SX(0308 (報文10)	D3区 YC-90-91	(IIIc層上位)		62×59				
20	SX(0309 (報文10)	D3区 YB-89	(IIIc層上位)		82×66				
21	SX(0310 (報文10)	D3区 YC-87	(IIIc層上位)		80×72				
22	SX(0311 (報文10)	D3区 YH-89-89	(IIIc層上位)		92×60				
23	SX(0313 (報文10)	D3区 YG-89	(IIIc層上位)		78×60				
24	SX(0401 (報文10)	D4区 ZW-94	(IIIc層上位)		64×54				
25	SX(0402 (報文10)	D4区 ZX-95	(IIIc層上位)		64×59			SX(s)408との 新旧不明	
26	SX(0601 (報文11)	D6区 ZS-94	(IIIc層上面)		66×44				

第73表 焼土遺構(万座隣接地区-2)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	形態	焼土の範囲 最大厚(cm)	掘り方 の規模 (cm)	出土遺物	新旧関係	構築 時期
27	SX(0602 (報文 11)	D6区 ZS-94	(Ⅲd 上面)		96×94			SX(0602 →SB602 SB603 とは 新旧不明	
28	SX(0603 (報文 11)	D6区 ZK-92・93	(Ⅲd 層上面)		64×42			SX(0603 →SX(S)605	
29	SX(0604 (報文 11)	D6区 ZJ、 ZK-93	(Ⅲd 上面)		86×48				
30	SX(0605 (報文 11)	D6区 ZM- 99・100	(Ⅲc 上位)		104×60				
31	SX(0606 (報文 11)	D6区 ZM-99	(Ⅲc 上面)		62×58				
32	SX(0607 (報文 11)	D6区 ZO-100	(Ⅲc 上面)						
33	SX(0608 (報文 11)	D6区 ZO-100	(Ⅲc 上位)		58×40				
34	SX(0609 (報文 11)	D6区 ZR-99	(Ⅲc 上位)		40×36				
35	SX(0610 (報文 11)	D6区 ZT-100	(Ⅲd 上面)		58×40				
36	SX(0611 (報文 11)	D6区 ZT- 99・100	(Ⅲc 上位)		60×46				
37	SX(0612 (報文 11)	D6区 ZS-98	(Ⅲc 上位)		56×48				
38	SX(0613 (報文 11)	D6区 ZN- 99・100	(Ⅲc 上位)		46×40				
39	SX(0614 (報文 11)	D6区 ZU-99	(Ⅲc 上位)		172×96				
40	SX(0615 (報文 11)	D6区 ZQ-98	(Ⅲc 上位)		38×36				
41	SX(0616 (報文 11)	D6区 ZS- 100・101	(Ⅲc 上位)		58×52				
42	SX(001 (報文 12)	D7区 ZE-90	(Ⅲd 上面)	楕円形	58×52				
43	SX(002 (報文 12)	D7区 ZE-91	(Ⅲd 上面)	不整 円形	60×38			SK(016 SK(032 →SK(002	
44	SX(003 (報文 12)	D7区 ZG-91	(Ⅲd 上面)	円形	56×53				
45	SX(004 (報文 12)	D7区 ZH-91	(Ⅲd 上面)	略 方形	53×50				
46	SX(005 (報文 12)	D7区 ZI-87	(Ⅲd 上面)	不整 形	38×36				
47	SX(001 (報文 15)	D8区 ZR-81	(Ⅲd 上面)		32×30				
48	SX(002 (報文 15)	D8区 ZS-81	(Ⅲd 上面)		44×30				
49	SX(003 (報文 15)	D8区 ZS-81	(Ⅲd 上面)		34×22				
50	SX(005 (報文 15)	D8区 ZP-81	(Ⅲd 上面)		50×44				

第74表 焼土遺構(万座北側地区-1)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	形態	焼土の範囲 最大厚(cm)	掘り方 の規模 (cm)	出土遺物	新旧関係	構築 時期
1	SX(0201 (報文4)	D1区 YK-90-91	(Ⅲb層下位)		92×66内 77×44 厚さ7		土器片5点		後期 前葉
2	SX(0202 (報文4)	D1区 YK-90-91	(Ⅲb層下位)		41×33内 23×15 厚さ2				
3	SX(0203 (報文4)	D1区 YL-90	(Ⅲb層下面)		76×47内 37×24 厚さ5		土器片4点 石鏝1点		後期 前葉
4	SX(0204 (報文4)	D1区 YK-90	(Ⅲb層下位)		80×39内 36×30、3 31×13、3		土器片13点		後期 前葉
5	SX(0205 (報文4)	D1区 YG-92	(Ⅲe層)	円形		61×58	土器底部 土器片3点	SX(0205 →SK207	後期 前葉
6	SX(0210 (報文4)	D1区 YE-93	(Ⅲb層下位)		102×82内 47×26 厚さ14		深鉢形土器1点 土器片1点		後期 前葉
7	SX(0212 (報文4)	D1区 YM-91-92	(Ⅲb層下位)		85×80 厚さ7		土器片2点	SX(0212 →SX(S)202	後期
8	SX(0213 (報文4)	D1区 YF-92	(Ⅲb層下位)		54×50 厚さ6		土器片5点		後期 前葉
9	SX(0214 (報文4)	D1区 YK-93	(Ⅲb層下位)		127×121 厚さ18		土器片50数点		後期 前葉
10	SX(0215 (報文4)	D1区 YK-93	(Ⅲb層下位)		50×47内 31×19 厚さ3				
11	SX(0216 (報文4)	D1区 YI-92	(Ⅲb層下位)		49×44内 26×19 厚さ5			SX(0215 →SX(0216	
12	SX(0217 (報文4)	D1区 YH-92	(Ⅲb層下面)		58×56内 39×24 厚さ7		土器片6点		後期
13	SX(0218 (報文4)	D1区 YI-92	(Ⅲb層下面)		径80内 径57 厚さ12		土器片1点 播磨1点		後期
14	SX(0401 (報文6)	F1区 Q-109	(Ⅲb層上位)		26×55内 12×16、3				
15	SX(0402 (報文6)	F1区 U-109	(Ⅲb層下位)		50×72内 19×34、9				
16	SX(0403 (報文6)	F1区 T-109	(Ⅲd層上面)		69×125内 11×39、7 15×46、11				
17	SX(0404 (報文6)	F1区 T-108-109	(Ⅲd層上面)		80×内 厚さ5		土器片2点		後期 前葉
18	SX(0405 (報文6)	F1区 T-106	(Ⅲb層下面)		58×64内 58×62、11				
19	SX(0406 (報文6)	F1区 U-106-107	(Ⅲd層上面)		30×69内 7×9、5 14×15、5		土器片5点		後期 前葉
20	SX(0407 (報文6)	F1区 U-105	(Ⅲb層下位)		55×99内 24×29、4				
21	SX(0408a (報文6)	F1区 S-104	(Ⅲd層上面)		32×49内 2				
22	SX(0408b (報文6)	F1区 R-104	(Ⅲd層上面)	不整形 円形	厚さ2	32×55	深鉢形土器 土器片10数点 土器片利用土製品1点		後期 前葉
23	SX(0409 (報文6)	F1区 V-105	(Ⅲb層上位)		54×65内 32×49、10		土器片2点 土器片利用土製品1点		後期
24	SX(0410 (報文6)	F1区 R-102	(Ⅲb層上位)		24×43 厚さ9		土器片数点		後期
25	SX(0411 (報文6)	F1区 R-99	(Ⅲb層上位)		36×69内 29×34、6		土器片2点		後期
26	SX(0412 (報文6)	F1区 U、V-104	(Ⅲd層上位)		43×64内 25×27、5				

第75表 焼土遺構(万座北側地区-2)

No.	遺構名 (報文No)	調査区 グリッド	確認面	形態	焼土の範囲 最大厚(cm)	掘り方 の規模 (cm)	出土遺物	新旧関係	構築 時期
27	SX(0413 (報文6)	F1区 U-104	(III d 層上位)		55×65内 厚さ2-3内				
28	SX(0414 (報文6)	F1区 V-104	(III d 層上面)		62×78内 24×39、3				
29	SX(0415 (報文6)	F1区 V-104	(III d 層上面)		82× 内 45×、7				
30	SX(0416 (報文6)	F1区 W-104	(III d 層上面)		39×39内 15×23、4				
31	SX(0417 (報文6)	F1区 R-100	(III b 層上位)		56×62内 36×52、5		土器片7点		後期
32	SX(0418 (報文6)	F1区 R-100	(III b 層上位)		36×56内 36×36、6		土器片4点		後期
33	SX(0419 (報文6)	F1区 R-99	(III b 層上位)		43×77内 27×45、3 12×13、3				
34	SX(0420 (報文6)	F1区 R-105	(III d 層上位)		42×52内 14×25、4				
35	SX(0421 (報文6)	F1区 R-105	(III d 層上面)		75×108内 46×64、12		土器片1点 土器片利用土製品1点		後期 前葉
36	SX(0422 (報文6)	F1区 T-104	(III d 層上面)		104×221内 90×134、6 47×57、5		土器片5点		後期 前葉
37	SX(0431 (報文6)	F2区 YL-117	(III d 層上面)		66×44内 60×32、5				後期 前葉
38	SX(0314 (報文10)	D3区 YH-91	(III d 層上位)		100×84				
39	SX(0316 (報文10)	D3区 YH-91	(III d 層上位)		46×42				
40	SX(0317 (報文10)	D3区 YH-91	(III d 層上位)		60×40				
41	SX(0318 (報文10)	D3区 YI-YH-91	(III d 層上位)		60×45		6~18cm 大の礫20個		
42	SX(0320 (報文10)	D3区 YJ-91	(III d 層上位)		80×62				
43	SX(0321 (報文10)	D3区 YH-90	(III d 上位)		54×49				
44	SX(01 (報文13)	F4区 YQ-100	(III c 層)		40×50				
45	SX(02 (報文13)	F4区 YP-100	(III c 層)		40×43			Pit2 →SX(02	
46	SX(03 (報文13)	F4区 YP-100	(III c 層)		50			Pit26 →SX(03 →SK3	
47	SX(05 (報文13)	F4区 YQ-99	(III c 層)		74×85				
48	SX(06 (報文13)	F4区 YN-98	(III c 層)		66×80				
49	SX(07 (報文13)	F4区 YM-98	(III c 層)		95				
50	SX(08 (報文13)	F4区 YP-102	(III c 層)		55×84				
51	SX(09 (報文13)	F4区 YP-104	(III c 層)		34×38				
52	SX(010 (報文13)	F4区 YQ-105	(III c 層)		75×97				
53	SX(011 (報文13)	F4区 YN-106	(III c 層)		40×55				
54	SX(012 (報文13)	F4区 YJ-103	(III c 層)		60×70			Pit33 →SX(012	
55	SX(014 (報文13)	F4区 YJ-102	(III c 層)		35×45			SB5との 新旧不明	
56	SX(015 (報文13)	F4区 YJ-100	(III c 層)		32×60			SB1との 新旧不明	
57	SX(016 (報文13)	F4区 YJ-101	(III c 層)		39×55				

第76表 焼土遺構(万座北側地区-3)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	形態	焼土の範囲 最大厚(cm)	掘り方 の規模 (cm)	出土遺物	新旧関係	構築 時期
58	SX(017) (報文13)	F4区 YI-103	(IIIc層)		40×41			Pit2 →SX(017)	
59	SX(018) (報文13)	F4区 YF-100	(IIIc層)		29×40				
60	SX(019) (報文13)	F4区 YE-98	(IIIc層)		53×81				
61	SX(020) (報文13)	F4区 YE-99	(IIIc層)		47×48				
62	SX(021) (報文13)	F4区 YC-98・99	(IIIc層)		34×59				
63	SX(022) (報文13)	F4区 YJ-100	(IIIc層)		72×74				
64	SX(001) (報文14)	F5区 YY-115	(III d 上面)		20×14				
65	SX(002) (報文14)	F5区 YX- 114・115	(III a 上面)		340×142				
66	SX(003) (報文14)	F5区 YX-115	(III d 上面)		25×24				
67	SX(004) (報文14)	F5区 YT-113	(III d 上面)		45×32				
68	SX(005) (報文14)	F5区 YT-114	(III d 上面)		30×26				
69	SX(006) (報文14)	F5区 YR-120	(III a 上面)		500×45~260				
70	SX(001) (報文15)	F6区 YY-105	(III d 上面)		40×30				
71	SX(002) (報文15)	F6区 YX-108	(III d 上面)		30×26				

第77表 焼土遺構(万座西側地区)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	形態	焼土の範囲 最大厚(cm)	掘り方 の規模 (cm)	出土遺物	新旧関係	構築 時期
1	SX(0229) (報文5)	D2区 YE-81	(III d 層上面)		68×45, 4				
2	SX(01) (報文19)	G3区 ZW-70	(III b 層上面)		68×51				
3	SX(02) (報文19)	G3区 ZE~ YF-55	(III a 層上面)		75×58				
4	SX(03) (報文19)	G3区 ZZ-71	(III c 層上面)		75×58				
5	SX(04) (報文19)	G3区 ZX-55	(III d 層上面)		94×60				
6	SX(01) (報文20)	G4区 YG-72	(III d 層下位)		72×54 中央 54×25				
7	SX(02) (報文20)	G4区 YM-68	(III b 層上面)		134×103				
8	SX(03) (報文20)	G4区 YM-68	(III b 層中位)		77×64				
9	SX(04) (報文20)	G4区 YK-66	(III b 層中位)		46×45				
10	SX(05) (報文20)	G4区 YJ-66	(III b 層上面)		80×51				
11	SX(06) (報文20)	G4区 YN-64	(III b 層下位)		126×77				
12	SX(07) (報文20)	G4区 YJ-64	(III c 層中位)		39×24				

第78表 焼土遺構(万座西側地区)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	形態	焼土の範囲 最大厚(cm)	掘り方 の規模 (cm)	出土遺物	新旧関係	構築 時期
13	SX(011) (報文20)	G4区 YM-60	(Ⅲb 層中位)		104×67				
14	SX(012) (報文20)	G4区 YP-56	(Ⅲc 層中位)		212×13				
15	SX(014) (報文20)	G4区 YL-52	(Ⅲb 層中位)		61×46				
16	SX(015) (報文20)	G4区 YL-52	(Ⅲb 層上面)		171×118				
17	SX(016) (報文20)	G4区 YM-52	(Ⅲb 層上面)		108×76				
18	SX(017) (報文20)	G4区 YQ-48	(Ⅲb 層上位)		108×75				
19	SX(018) (報文20)	G4区 YR-48	(Ⅲb 層上面)		88×62				
20	SX(019) (報文20)	G4区 YR-48	(Ⅲb 層上面)		96×90				
21	SX(020) (報文20)	G4区 YL-50	(Ⅲb 層上面)		243×110				
22	SX(021) (報文20)	G4区 YM-70	(Ⅲb 層中位)		155×111				
23	SX(023) (報文20)	G4区 YM-71	(Ⅲb 層下位)		43×29				
24	SX(024) (報文20)	G4区 YM-70	(Ⅲb 層中位)		76×38			SX(02 →SX(024)	後期 中葉
25	SX(01) (報文19)	D9区 YH-76	(Ⅲd 層上面)		(44)×30				
26	SX(02) (報文19)	D9区 YL-76	(Ⅲb 層上面)		16×11				
27	SX(03) (報文19)	D9区 YL-76	(Ⅲd 層上面)		92×79				
28	SX(04) (報文19)	D9区 YO-78	(Ⅲd 層上面)		78×58				
29	SX(05) (報文19)	D9区 YK-79	(Ⅲd 層上面)		108×108				
30	SX(06) (報文19)	D9区 YL-80	(Ⅲb 層上面)		(117)×66				
31	SX(07) (報文19)	D9区 YN-80	(Ⅲd 層上面)		86×63				
32	SX(08) (報文19)	D9区 YM~ YN-80	(Ⅲb 層上面)		61×43				

第79表 焼土遺構(万座南側地区)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	形態	焼土の範囲 最大厚(cm)	掘り方 の規模 (cm)	出土遺物	新旧関係	構築 時期
1	SX(0701) (報文8)	G1区 ZA-59	(Ⅲd1 層上面)		48×42 厚さ3				後期
2	SX(0702) (報文8)	G1区 ZA, A-60	(Ⅲd1 層上面)		54×46 厚さ5	32×20			後期 初頭 ~ 前葉

第80表 焼土遺構(野中堂隣接地区-1)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	形態	焼土の範囲 最大厚(cm)	掘り方 の規模 (cm)	出土遺物	新旧関係	構築 時期
1	SX(001 (報文16)	B区 R-117	(Ⅲd層上面)		50×35				
2	SX(002 (報文16)	B区 R-113	(Ⅲd層上面)		80×50				
3	SX(003 (報文16)	B区 R-113	(Ⅲd層上面)		40×38				
4	SX(004 (報文16)	B区 R-109	(Ⅲd層上面)		70×45				
5	SX(005 (報文16)	B区 R-109	(Ⅲd層上面)		50×40				
6	SX(006 (報文16)	B区 S-109	(Ⅲd層上面)		60×40				
7	SX(007 (報文16)	B区 N-85	(Ⅲd層上面)		60×42				
8	SX(008 (報文16)	B区 N-85	(Ⅲd層上面)		95				
9	SX(009 (報文16)	B区 R-113	(Ⅲd層上面)		117×45				
10	SX(010 (報文16)	B区 S-85	(Ⅲd層上面)		60×40				
11	SX(011 (報文16)	B区 S-85	(Ⅲd層上面)		×40				
12	SX(012 (報文16)	B区 S-85	(Ⅲd層上面)		50×37				
13	SX(013 (報文16)	B区 S-85	(Ⅲd層上面)		82×58				
14	SX(014 (報文16)	B区 V-85	(Ⅲd層上面)		53×38				
15	SX(015 (報文16)	B区 V-85	(Ⅲd層上面)		62×37				
16	SX(016 (報文16)	B区 Y-85	(Ⅲd層上面)		54×33				
17	SX(017 (報文16)	B区 V-85	(Ⅲd層上面)		57×43				
18	SX(018 (報文16)	B区 W-85	(Ⅲd層上面)		50×35				
19	SX(019 (報文16)	B区 W-85	(Ⅲd層上面)		53×37				
20	SX(020 (報文16)	B区 W-85	(Ⅲd層上面)		×33				
21	SX(021 (報文16)	B区 W-85	(Ⅲd層上面)		×55				
22	SX(022 (報文16)	B区 T-81	(Ⅲd層上面)		40×30				
23	SX(023 (報文16)	B区 U-81	(Ⅲd層上面)		65×40				
24	SX(024 (報文16)	B区 U-81	(Ⅲd層上面)		82×62				
25	SX(025 (報文16)	B区 X-81	(Ⅲd層上位)		50×35				
26	SX(026 (報文16)	B区 V-79	(Ⅲd層上位)		38×25				
27	SX(027 (報文16)	B区 W-79	(Ⅲd層上位)		55×47				
28	SX(046 (報文17)	B2区 H-89	(Ⅲb層上面)		47×38				
29	SX(051 (報文17)	B2区 D、E-91	(Ⅲd'層上面)		104×80				
30	SX(052 (報文17)	B2区 H、I-88	(Ⅲd層上面)		87×64				
31	SX(053 (報文17)	B2区 L-84	(Ⅲd層上面)		15×10				
32	SX(054 (報文17)	B2区 L-86	(Ⅲd層上面)		72×46				
33	SX(055 (報文17)	B2区 H-89	(Ⅲd層上面)		52×41				
34	SX(056 (報文17)	B2区 J-88	(Ⅲb層上面)		61×28				
35	SX(059 (報文17)	B2区 G-89	(Ⅲd層上面)		95×77				
36	SX(060 (報文17)	B2区 G-89	(Ⅲd層上面)		98×85				

第81表 焼土遺構(野中堂南側地区-1)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	形態	焼土の範囲 最大厚(cm)	掘り方 の規模 (cm)	出土遺物	新旧関係	構築 時期
1	SX(030 (報文17)	B2区 S-85	(Ⅲd 層上面)		42×33				
2	SX(031 (報文17)	B2区 S-85	(Ⅲd 層上面)		36×26				
3	SX(032 (報文17)	B2区 S-86	(Ⅲd 層上面)		126×41				
4	SX(033 (報文17)	B2区 S-85	(Ⅲd 層上面)		98×85				
5	SX(034 (報文17)	B2区 T-86	(Ⅲd 層上面)		143×95				
6	SX(035 (報文17)	B2区 T-86	(Ⅲd 層上面)		38×36				
7	SX(036 (報文17)	B2区 S-86	(Ⅲd 層上面)		71×44				
8	SX(037 (報文17)	B2区 S-87	(Ⅲd 層上面)		73×60				
9	SX(038 (報文17)	B2区 S-87	(Ⅲd 層上面)		71×64				
10	SX(039 (報文17)	B2区 T-36	(Ⅲd 層上面)		29×29				
11	SX(040 (報文17)	B2区 T-36	(Ⅲd 層上面)		25×22				
12	SX(042 (報文17)	B2区 T-85	(Ⅲd 層上面)		54×36				
13	SX(043 (報文17)	B2区 T-85	(Ⅲd 層上面)		52×47				
14	SX(044 (報文17)	B2区 R-85	(Ⅲd 層上面)		64×56				
15	SX(045 (報文17)	B2区 R-85	(Ⅲd 層上面)		45×35				
16	SX(047 (報文17)	B2区 S-86	(Ⅲd 層上面)		111×54				
17	SX(049 (報文17)	B2区 S-86	(Ⅲd 層上面)		166×65				
18	SX(050 (報文17)	B2区 R-85	(Ⅲd 層上面)		55×6				
19	SX(057 (報文17)	B2区 P-85	(Ⅲd 層上面)		85×43				
20	SX(058 (報文17)	B2区 P-85	(Ⅲd 層上面)		68×57				
21	SX(061 (報文17)	B2区 Q-85	(Ⅲd 層上面)		50×42				
22	SX(062 (報文17)	B2区 Q-86	(Ⅲd 層上面)		35×34				
23	SX(063 (報文17)	B2区 S-85	(Ⅲd 層上面)		73×56				
24	SX(064 (報文17)	B2区 S-86	(Ⅲd 層上面)		120×75				
25	SX(065 (報文17)	B2区 S-86	(Ⅲd 層上面)		67×36				
26	SX(066 (報文17)	B2区 S-86	(Ⅲd 層上面)		70×49				
27	SX(067 (報文17)	B2区 S-86	(Ⅲd 層上面)		47×31				
28	SX(068 (報文17)	B2区 S-86	(Ⅲd 層上面)		43×36				
29	SX(069 (報文17)	B2区 S-86	(Ⅲd 層上面)		43×20				
30	SX(070 (報文17)	B2区 S-85	(Ⅲd 層上面)		62×52				
31	SX(071 (報文17)	B2区 S-85	(Ⅲd 層上面)		75×56				
32	SX(072 (報文17)	B2区 T-87	(Ⅲd 層上面)		78×62				
33	SX(073 (報文17)	B2区 S-88	(Ⅲd 層上面)		81×58				

第82表 焼土遺構(野中堂南側地区-2・東側地区を含む)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	形態	焼土の範囲 最大厚(cm)	掘り方 の規模 (cm)	出土遺物	新旧関係	構築 時期
34	SX(0100 (報文18)	B3区 X-80	(Ⅲd層上面)		50×40				
35	SX(0101 (報文18)	B3区 WX-83	(Ⅲd層上面)		64×36				
36	SX(0102 (報文18)	B3区 W-102	(Ⅲd層上面)		36×32				
37	SX(0103 (報文18)	B3区 W-83・84	(Ⅲd層上面)		66×44				
38	SX(0104 (報文18)	B3区 W-85	(Ⅲd層上面)		66×50				
39	SX(0105 (報文18)	B3区 W-85	(Ⅲd層上面)		42×38				
40	SX(0106 (報文18)	B3区 W-85	(Ⅲd層上面)		42×40				
41	SX(0107 (報文18)	B3区 X-83	(Ⅲd'層上面)		36×26				
42	SX(0108 (報文18)	B3区 Y-84	(Ⅲd層上面)		246×146				
43	SX(0109 (報文18)	B3区 W-82	(Ⅲd層上面)		20×14				
44	SX(0110 (報文18)	B4区 H-91	(Ⅲd'層上面 ~Ⅲd層上面)		61×49				
45	SX(0111 (報文18)	B4区 O-93	(Ⅲd'層上面 ~Ⅲd層上面)		60×38				
46	SX(0112 (報文18)	B4区 O-93	(Ⅲd'層上面 ~Ⅲd層上面)		70×36				
47	SX(0113 (報文18)	B4区 P-93	(Ⅲd'層上面 ~Ⅲd層上面)		64×54				

第83表 焼土遺構(一本木後口地区-1)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	形態	焼土の範囲 最大厚(cm)	掘り方 の規模 (cm)	出土遺物	新旧関係	構築 時期
1	SX(01 (報文1)	A1区 D-12	(V層上面)	不整形	10×15 厚さ4	35×15	土器片1点		
2	SX(02 (報文1)	A1区 D-12	(V層上面)		37×25 厚さ3				
3	SX(04 (報文1)	A1区 R-11	(Ⅲd層上面)		24×19 厚さ4				
4	SX(05 (報文1)	A1区 R-12・13	(Ⅲd層上面)		51×44 厚さ2				
5	SX(08 (報文1)	A1区 R-14	(Ⅲd層上面)	不整形	15×10 厚さ3	30×20			
6	SX(09 (報文1)	A1区 R-14	(Ⅲd層上面)		39×25				
7	SX(010 (報文1)	A1区 B-14	(Ⅲc層上面)		35×24 10×10 厚さ3				
8	SX(011 (報文1)	A1区 B-15	(Ⅲc層上面)		33×15 8×8 厚さ4				
9	SX(012 (報文1)	A1区 C-16	(Ⅲc層上面)		39×30 20×11 厚さ1~2				
10	SX(013 (報文1)	A1区 D-19	(Ⅲc層上面)		40×22、4 25×15、2				
11	SX(014 (報文2)	A2区 U-9	(Ⅲ層下位 中面)		42×29 厚さ3				
12	SX(015 (報文2)	A2区 U-10	(Ⅲ層下位 中面)	不整形	90×75 厚さ5	55×45			

第84表 焼土遺構(一本木後口地区-1)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	形態	焼土の範囲 最大厚(cm)	掘り方 の規模 (cm)	出土遺物	新旧関係	構築 時期
13	SX(f016 (報文2)	A2区 T-7	(IV層上面)		100×43 厚さ16		土器片5点		後期
14	SX(f017 (報文2)	A2区 Q-9	(III d 層下位)		36×25 厚さ4				
15	SX(f018 (報文2)	A2区 R-10	(III d 層下位)		56×16 厚さ4				
16	SX(f019 (報文2)	A2区 O-8	(III d 層下位)		42×29 厚さ4		縄文土器1点		
17	SX(f0101 (報文2)	B1区 E-103	(III b 層下面)		42×26 厚さ2				
18	SX(f0102 (報文2)	B1区 H-103	(III e 層上面)		18×17 厚さ6				
19	SX(f0103 (報文2)	B1区 L- 101・102	(III b 層下面)		厚さ2				
20	SX(f020 (報文3)	A3区 T-6	(III 層下位)		76×54 厚さ3~4				
21	SX(f021a (報文3)	A3区 T-5	(III 層下位)		77×22 厚さ5		土器片利用土製品1点		
22	SX(f021b (報文3)	A3区 T-5	(III 層下位)		25×12 厚さ3				
23	SX(f022a (報文3)	A3区 Q-2	(III d 層上面)		100×53 厚さ12				
24	SX(f022b (報文3)	A3区 Q-2	(III d 層上面)		67×26 厚さ10				
25	SX(f023a (報文3)	A3区 R-2	(III d 層)		41×27 厚さ2				
26	SX(f023b (報文3)	A3区 R-2	(III d 層)		25×16 厚さ5				
27	SX(f023c (報文3)	A3区 R-2	(III d 層)		45×35				
28	SX(f025 (報文3)	A3区 S,T-4	(III d 層)		56×154 厚さ6				
29	SX(f026 (報文3)	A3区 W-5	(III 層)		41×31 厚さ4				
30	SX(f027 (報文3)	A3区 W-5	(III 層)		50×39 厚さ2				
31	SX(f028a (報文3)	A3区 S,T-4	(III d 層)		32×20 厚さ5				
32	SX(f028b (報文3)	A3区 S,T-4	(III d 層)		21×10 厚さ5		土器片1点		後期
33	SX(f029 (報文3)	A3区 T-2	(III d 層)		50×40 厚さ3				

8. 土 坑

(1) Tピット (第116～126図、第85～90表)

これまでの調査によって、万座隣接地13基、万座北側地区31基、万座西側地区13基、万座南側地区3基、野中堂隣接地6基の計66基のTピットが検出されている。Tピットは「陥し穴状遺構」と呼ばれるものである。

【ア. 形 態】

平面形は細長い楕円形を呈する。他のものは見られない。短軸断面・長軸断面に違いが見られ、短軸断面は「V字状またはY字状」、長軸断面は「逆台形またはオーバーハングした形」を呈する。

長軸断面によって下記のように形態分類できる。

I類 平面形は長楕円形で、長軸断面がオーバーハング(構築面から裾広がり掘り込まれるもの)するもの。39基

II類 平面形は長楕円形で、長軸断面が底面より垂直または外反して立ち上がるもの。20基

III類 平面形は長楕円形を呈する。平面のみの確認に留めたもの、ピット長軸端の調査が行なわれず掘り方が不明なもの。

10基

万座隣接地

I類6基、II類6基、III類1基である。

万座北側地区

I類14基、II類11基、III類6基である。

万座西側地区

第4号Tピット1基を除きすべてI類である。

万座南側地区

3基すべてI類である。

野中堂隣接地

I類1基、II類3基、III類2基である。

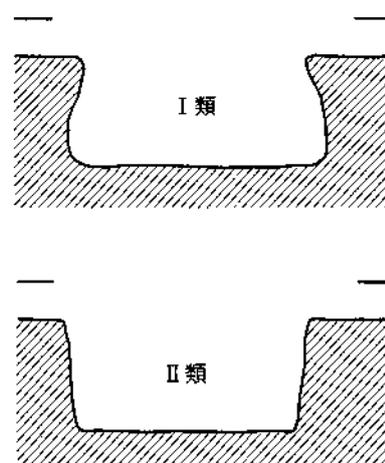
【イ. 規 模】

長軸規模がはっきりとするものは32例である。最大のもは万座北側地区の第47号Tピットで長軸520cm、最小のもは万座南側の第56号Tピットの270cmである。幅は崩壊などを考慮しなければならないが32～117cmを測り、横断面形がU形のものやY字形のものがあり、Y字のものが間口が大きい。

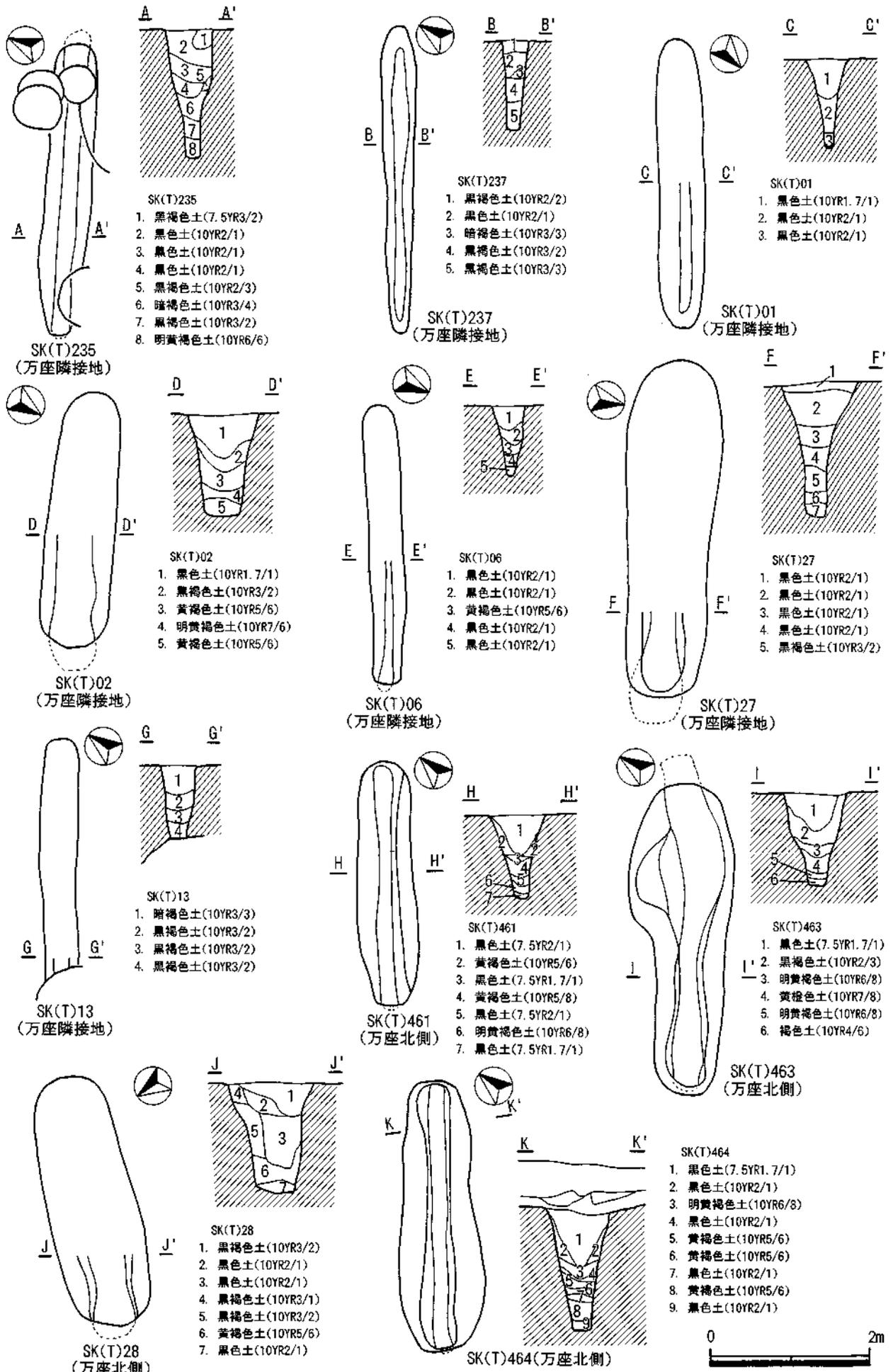
遺構検出面からの深さは75～193cmを測る。深さ100cm～140cmに集まる傾向を示すが150cmを超えるものが13例存在する。

万座隣接地

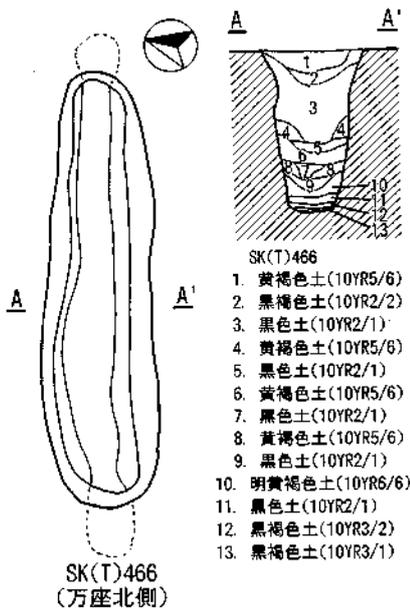
長軸が最大なものは第27号Tピットの414cm、最小は第616号Tピットの312cmである。長軸が300cmのものが多い。深さは88cm～164cmで一定しない。



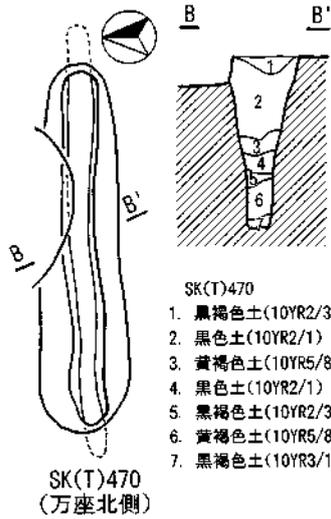
第116図 Tピット形態模式図



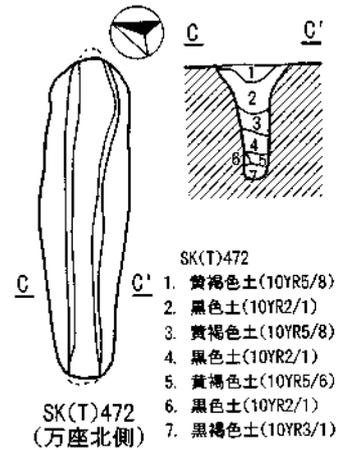
第117図 Tピット実測図(1)



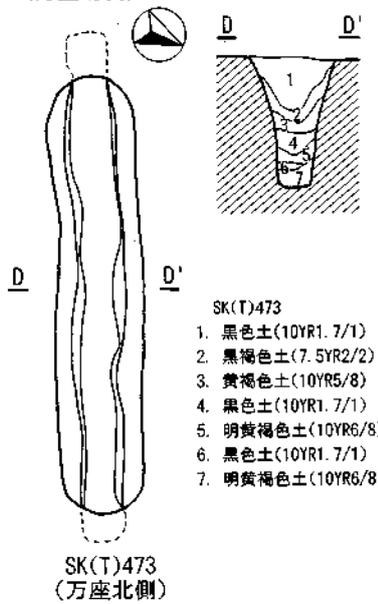
1. 黄褐色土(10YR5/6)
2. 黑褐色土(10YR2/2)
3. 黑色土(10YR2/1)
4. 黄褐色土(10YR5/6)
5. 黑色土(10YR2/1)
6. 黄褐色土(10YR5/6)
7. 黑色土(10YR2/1)
8. 黄褐色土(10YR5/6)
9. 黑色土(10YR2/1)
10. 明黄褐色土(10YR6/6)
11. 黑色土(10YR2/1)
12. 黑褐色土(10YR3/2)
13. 黑褐色土(10YR3/1)



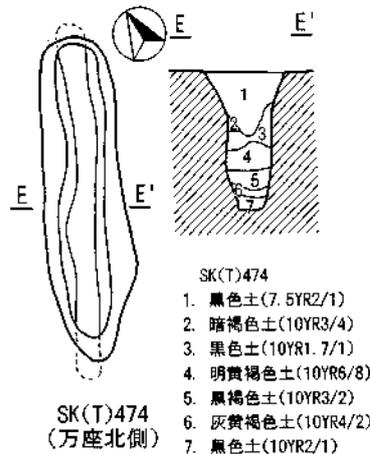
1. 黑褐色土(10YR2/3)
2. 黑色土(10YR2/1)
3. 黄褐色土(10YR5/8)
4. 黑色土(10YR2/1)
5. 黑褐色土(10YR2/3)
6. 黄褐色土(10YR5/8)
7. 黑褐色土(10YR3/1)



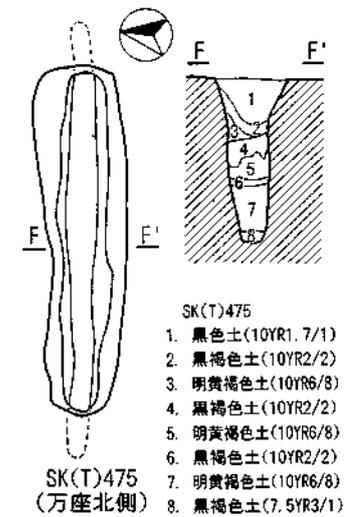
1. 黄褐色土(10YR5/8)
2. 黑色土(10YR2/1)
3. 黄褐色土(10YR5/8)
4. 黑色土(10YR2/1)
5. 黄褐色土(10YR5/8)
6. 黑色土(10YR2/1)
7. 黑褐色土(10YR3/1)



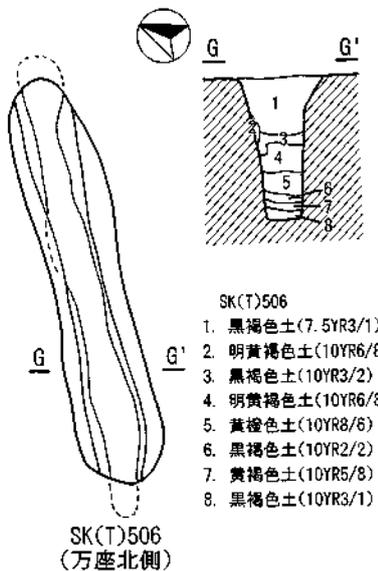
1. 黑色土(10YR1.7/1)
2. 黑褐色土(7.5YR2/2)
3. 黄褐色土(10YR5/8)
4. 黑色土(10YR1.7/1)
5. 明黄褐色土(10YR6/8)
6. 黑色土(10YR1.7/1)
7. 明黄褐色土(10YR6/8)



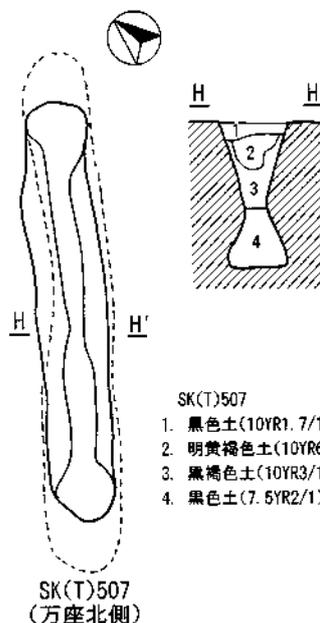
1. 黑色土(7.5YR2/1)
2. 暗褐色土(10YR3/4)
3. 黑色土(10YR1.7/1)
4. 明黄褐色土(10YR6/8)
5. 黑褐色土(10YR3/2)
6. 灰黄褐色土(10YR4/2)
7. 黑色土(10YR2/1)



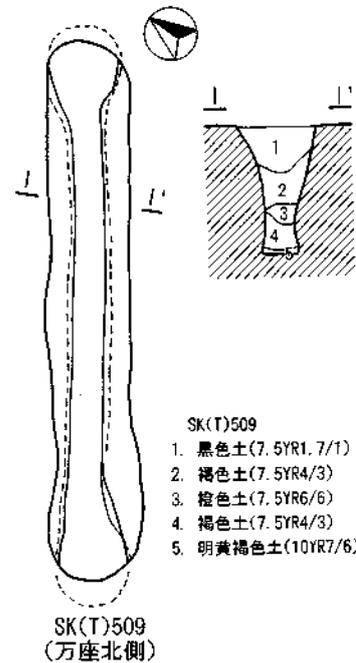
1. 黑色土(10YR1.7/1)
2. 黑褐色土(10YR2/2)
3. 明黄褐色土(10YR6/8)
4. 黑褐色土(10YR2/2)
5. 明黄褐色土(10YR6/8)
6. 黑褐色土(10YR2/2)
7. 明黄褐色土(10YR6/8)
8. 黑褐色土(7.5YR3/1)



1. 黑褐色土(7.5YR3/1)
2. 明黄褐色土(10YR6/8)
3. 黑褐色土(10YR3/2)
4. 明黄褐色土(10YR6/8)
5. 黄褐色土(10YR8/8)
6. 黑褐色土(10YR2/2)
7. 黄褐色土(10YR5/8)
8. 黑褐色土(10YR3/1)

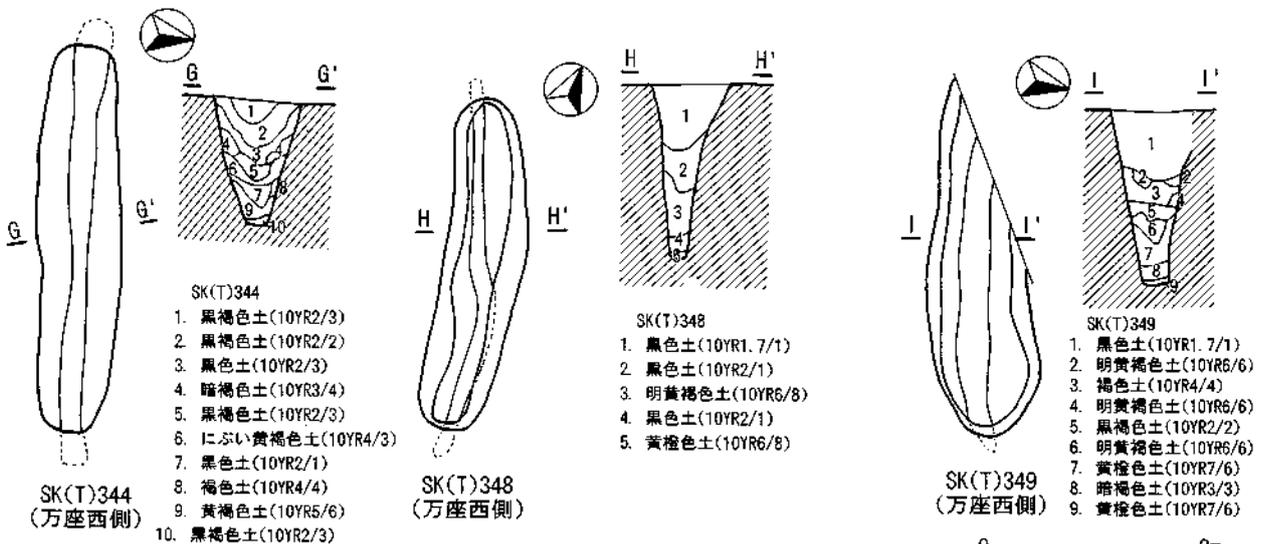
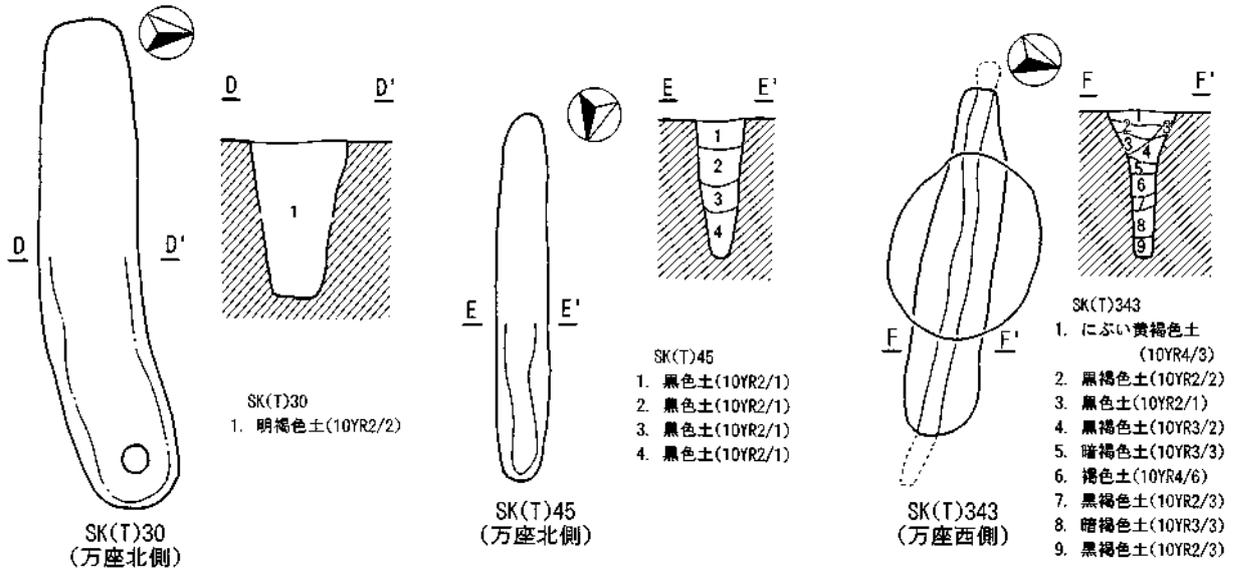
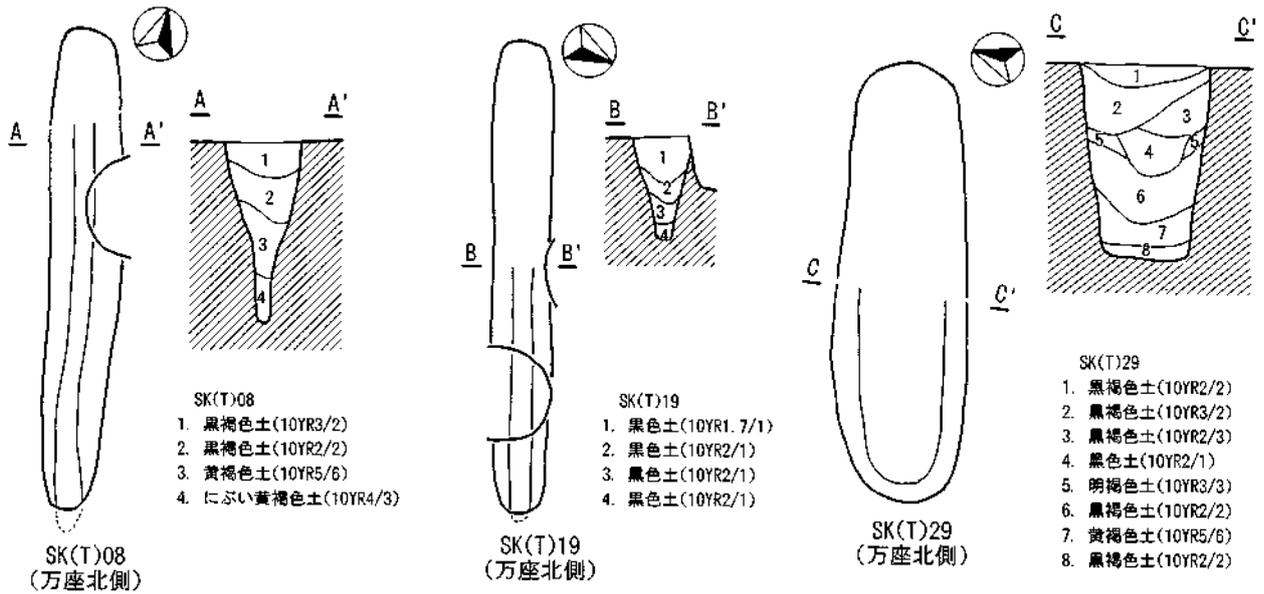


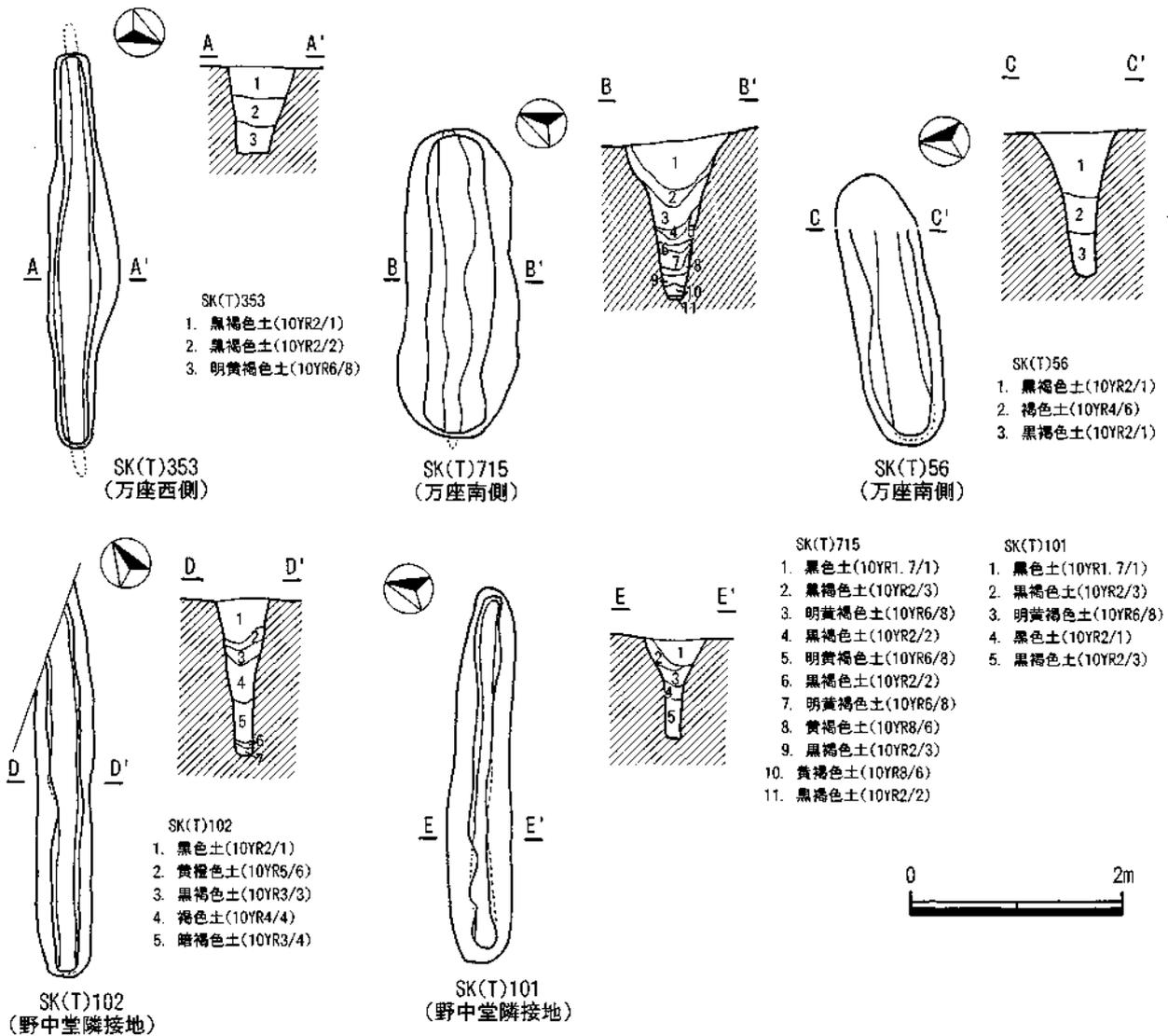
1. 黑色土(10YR1.7/1)
2. 明黄褐色土(10YR6/6)
3. 黑褐色土(10YR3/1)
4. 黑色土(7.5YR2/1)



1. 黑色土(7.5YR1.7/1)
2. 褐色土(7.5YR4/3)
3. 棕色土(7.5YR6/6)
4. 褐色土(7.5YR4/3)
5. 明黄褐色土(10YR7/6)







第120図 Tピット実測図(4)

万座北側地区

長軸が最大なもの第47号Tピットの520cm、最小は第472号Tピットの282cmで、長軸が300cmを超えるものが多い。47号Tピットは史跡内で検出されたものの中では最も規模が大きい。

深さは第424号Tピットの24cmを除き、95cm～169cmを測る。第424号Tピットは他のものと比べ非常に浅く、Tピットに分類してよいか判断に迷ったが、沢の流れに対して直行した配置を示していることからTピットとして取り扱った。

万座西側地区

トレンチ調査によることから規模が不明なものが多いが、他地区との比較から長軸269cm～373cmの範囲に収まるものと考えられる。

万座南側地区

検出例が少ないが、長軸270cm～296cmで他地区より規模が小さい。

野中堂隣接地

長軸・深さを知り得る資料は1例のみで、第101号Tピットは長軸390cmを測る。規模が不明なものについては他地区との比較からこの数値前後のものと考えられる。

【ウ. 確認面と構築面】

万座隣接地

第02号Tピット(D7区)を除く、そのほかのものの確認面は基本層序Ⅲ層上面～Ⅲd層下面である。

万座北側地区

34例26例がⅢd層上面～下位において確認されている。構築面も確認面と同様である。Ⅳ層、Ⅴ層において確認されるものもあるが、これらは耕作土が攪拌を受けたことによる。

万座西側地区

検出された地域によって確認面が異なる。万座西側50m周辺に位置するTピットは、台地南側から入り込んだ浅い沢頭に構築されており、確認面・構築面はⅢd層上面～中位である。同地区台地縁及び同地区南側は耕作土が浅く、このために攪拌がⅣ層まで達しており、Ⅳ層・Ⅴ層が確認面となる。

万座南側地区

Ⅲd層又はⅣ層が確認面となっている。

野中堂隣接地

Ⅲd下層又はⅢe層下面が確認面となっている。

【エ. 堆積状況】

埋土は、自然堆積によるもの28例、人為により埋め戻されたもの21例、上層のみが人為に埋め戻されているもの5例である。

万座隣接地

自然、人為、自然+人為のものがみられる。自然堆積を呈するものはその断面形は凸レンズ上を呈し、壁の崩壊土と黒色土が交互に重なっているものが多い。表土の堆積と壁の崩落を繰り返した結果と考えられる。第235号Tピットは上層が人為に埋め戻されていた。

万座北側地区

自然によるものが10例、下層が自然堆積・上層のみが人為なもの3例、人為堆積は2例で自然堆積である。自然堆積を呈するものが他地区と比べ数値的に高い。

万座西側地区

沢頭部分に位置するものは自然堆積、沢地の両岸及び北端部に位置するものは人為堆積である。

万座南側地区

堆積状況はすべて自然堆積である。

野中堂隣接地

堆積状況は自然によるものが1例、下層が自然堆積・上層のみが人為なもの1例、人為堆積は4例である。

【オ. 出土遺物】

遺構内より遺物が出土するものは非常に少なくない。遺物の出土位置はピット上半～検出面近くである。

万座隣接地

第376号Tピットより土器破片202点、耳飾・軽石製品などが出土したほか、ピット中程から帯縄文により入組文、階段状文が施文された土器、検出面より十腰内Ⅱ式土器にみられる台付土器の台部が出土している。

また、第327号・643号・644号・02号(D7区)・13号・28号Tピットからは後期前葉の特徴を持った土器片が出土している。

万座北側地区

第424号・29号Tピットからは後期前葉の特徴を持つ土器片が出土している。

万座西側地区

遺構内からは遺物は出土しなかった。

万座南側地区

遺構内からは遺物は出土しなかった。

野中堂隣接地

第101号Tピットは後期前葉の特徴を持つ土器を出土する第104号フラスコ状土坑を切って構築され、ピット上位より後期中葉・十腰内Ⅱ式の特徴を持った土器破片が出土している。

【カ. 重複関係】

重複関係については第85表～90表に記載した。野中堂環状列石隣接地内に位置する第101号Tピット以外は重複する遺構によってすべて切られている。

万座隣接地

環状列石 SK(T)39→SK(F)25→万座南側出入口

フラスコ状土坑 SK(T)13→SK(F)12 SK(T)235→SK(F)242

土坑 SK(T)376→SK363B

Tピットと他遺構との重複関係を観察すると最も古い時期に位置付けられるものと考えられる。

万座北側地区

環状配石遺構 SK(T)431→SX(S)404 SK(T)51→SX(S)3

掘立柱建物跡 SK(T)19→SB01

フラスコ状土坑 SK(T)468→SK(F)469 SK(T)8 →SK(F)9

土坑 SK(T)470→SK478

本地区のTピットは重複関係から当該地区で最も古い時期に位置付けられるものと考えられる。

万座西側地区

竪穴住居跡 SK(T)8→SI5

土坑 SK(T)343→SK342

本地区のTピットは重複関係から当該地区で最も古い時期に位置付けられるものと考えられる。

万座南側地区

重複関係は認められなかった。

野中堂隣接地

重複関係は認められなかった。

【キ. 時 期】

万座隣接地

遺構内からの出土遺物が極めて少ないことから直接遺物より探ることができない。基本層序Ⅲd層で検出されること、重複関係から後期前葉の時期が与えられるが、本地区では最も古い時期に位置するものと考えられる。

万座北側地区

重複関係から本地区では最も古い時期に位置する。構築時期は、遺構確認面及び重複する遺構からの出土遺物より後期前葉と考えられる。同地区中央部で検出されたものは重複関係より本地区では最も古い時期に位置するものと考えられる。

万座西側地区

出土遺物から直接に構築時期を探ることはできない。遺構構築面がⅢd層であること、Tピットの配置が万座北側と同様に地形を考慮しているという類似性から後期前葉の時期が与えられるが、後期前葉の土器が出土した第5号堅穴住居跡との重複関係より、第8号Tピットが遺跡内で最も古い時期に構築されたものと考えられる。

万座南側地区

出土遺物から直接に構築時期を探ることはできない。遺構構築面がⅢd層であること、Tピットの配置が万座北側と同様に地形を考慮しているという類似性から、後期前葉の時期と考えられる。

野中堂隣接地

第101号Tピットを除き、重複関係及び遺構確認面から後期前葉の時期が与えられる。第115号Tピットは野中堂環状列石以前に構築されたものである。

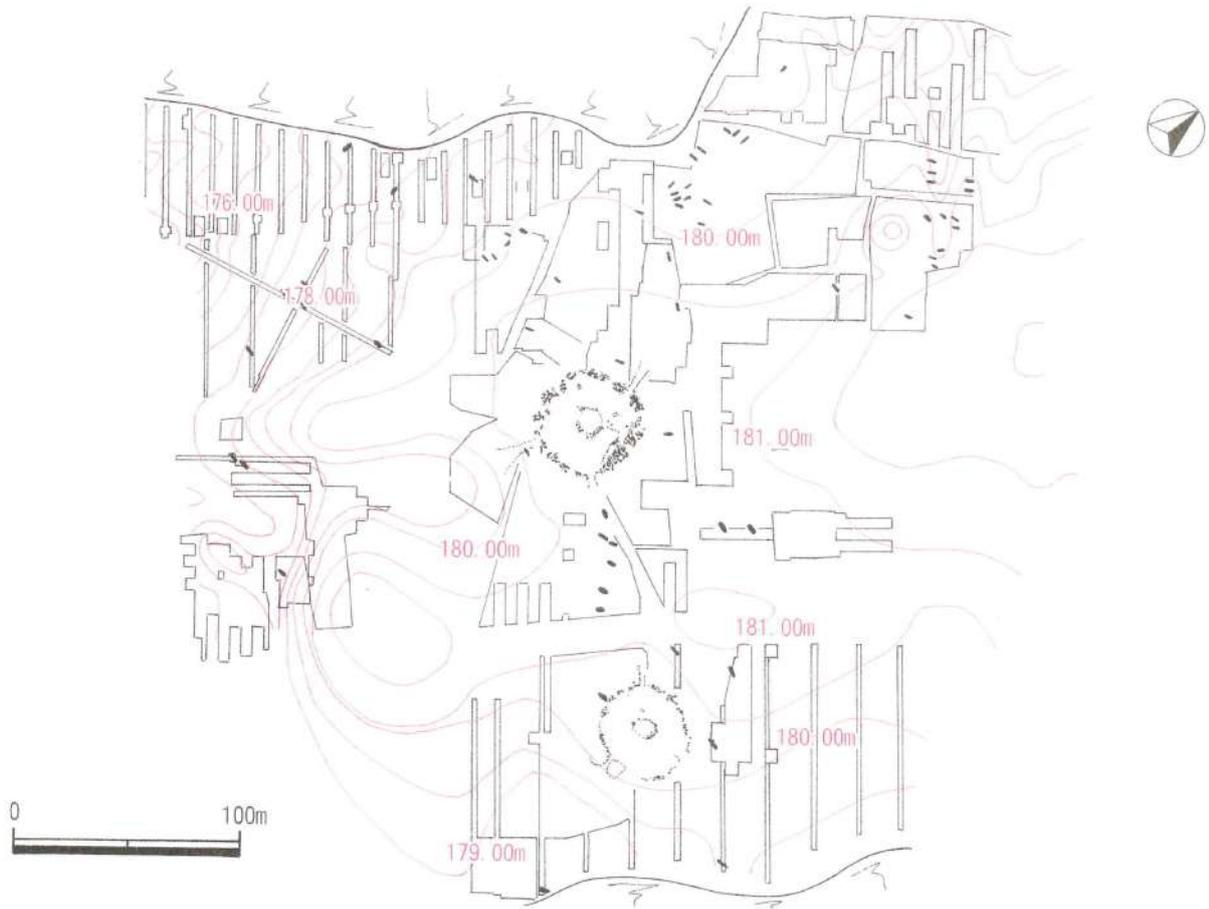
なお、第101号Tピットより後期中葉の土器が出土しているが、野中堂環状列石との同時存在は考えにくく、それ以降の時期に構築されたものと考えられる。

【ク. 分 布】

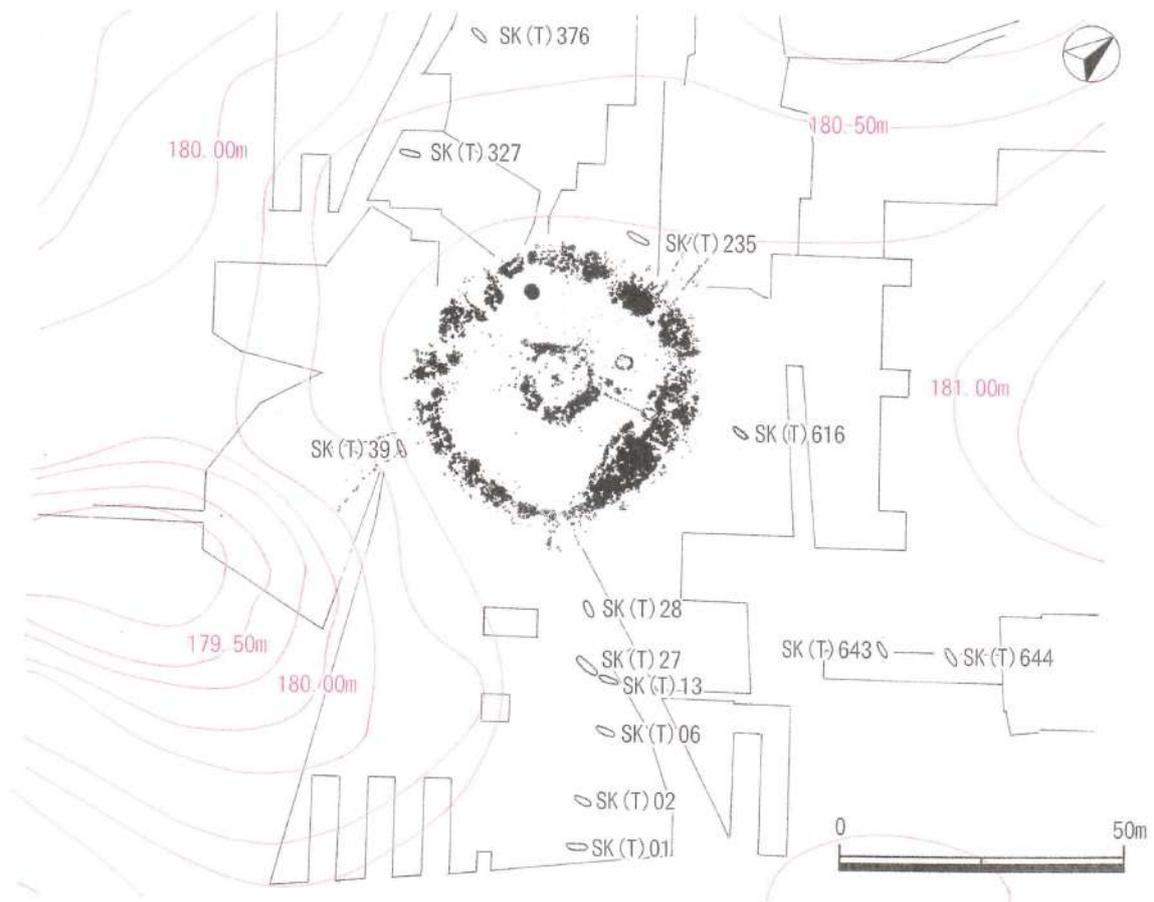
一本木後口地区を除く各地区において69基検出されている。これらは台地縁より入り込んだ沢状の地形を考慮した特徴的な配置を示している。

万座隣接地

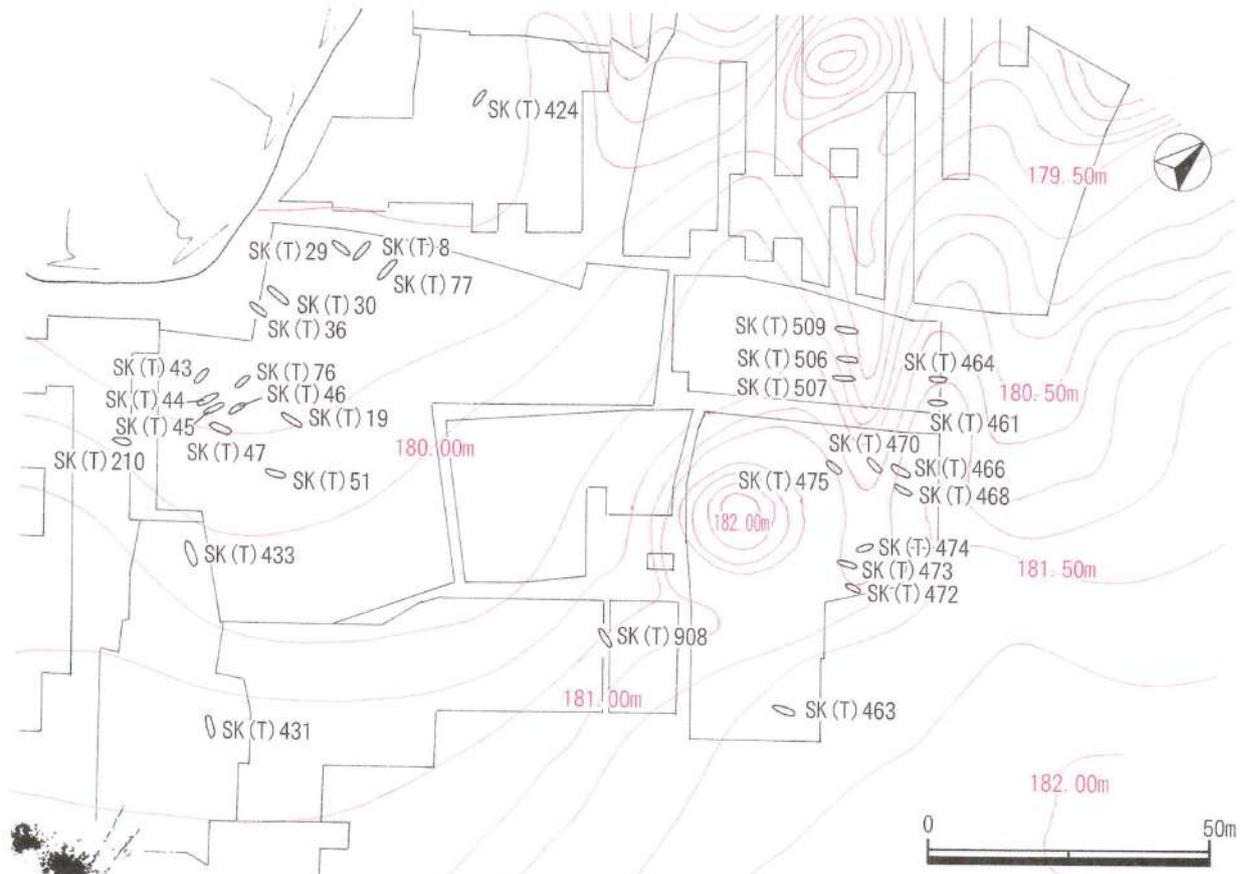
万座環状列石の東側出入口の延長線上に特徴的な配置を示している。これは万座の南側から入り込んだ沢頭に対して直行するように横並びに6基が配置されている。長軸方向は概ね同一方向を向くが、第28号と第27号Tピット、第06号と第13号Tピット、第01号と第02号Tピットは距離及び長軸方向から対となるものと考えられる。さらにこの東側40mには同一方向を向く一対のTピット(第643号と第644号Tピット)が配置されている。



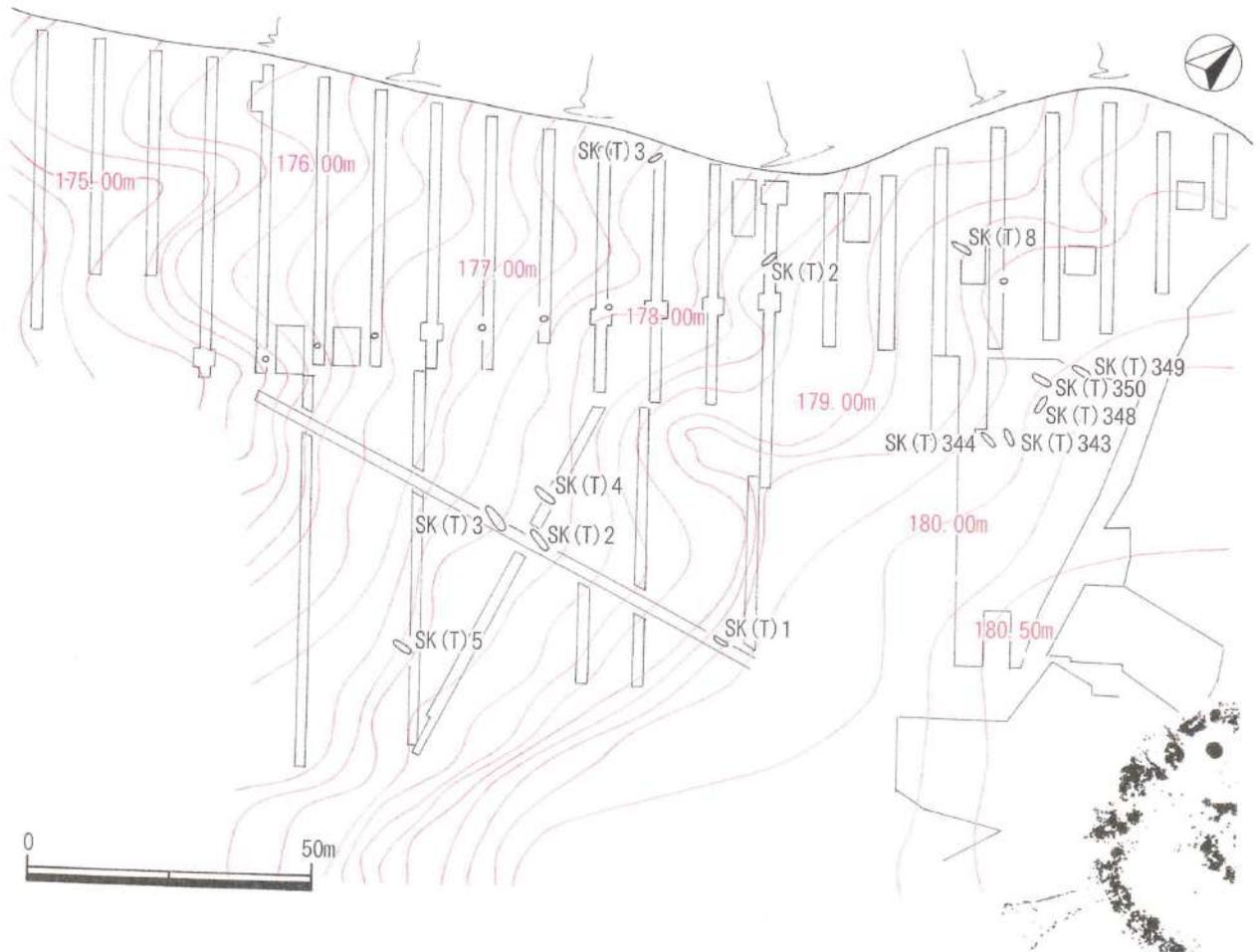
第121図 Tピット分布図（全体）



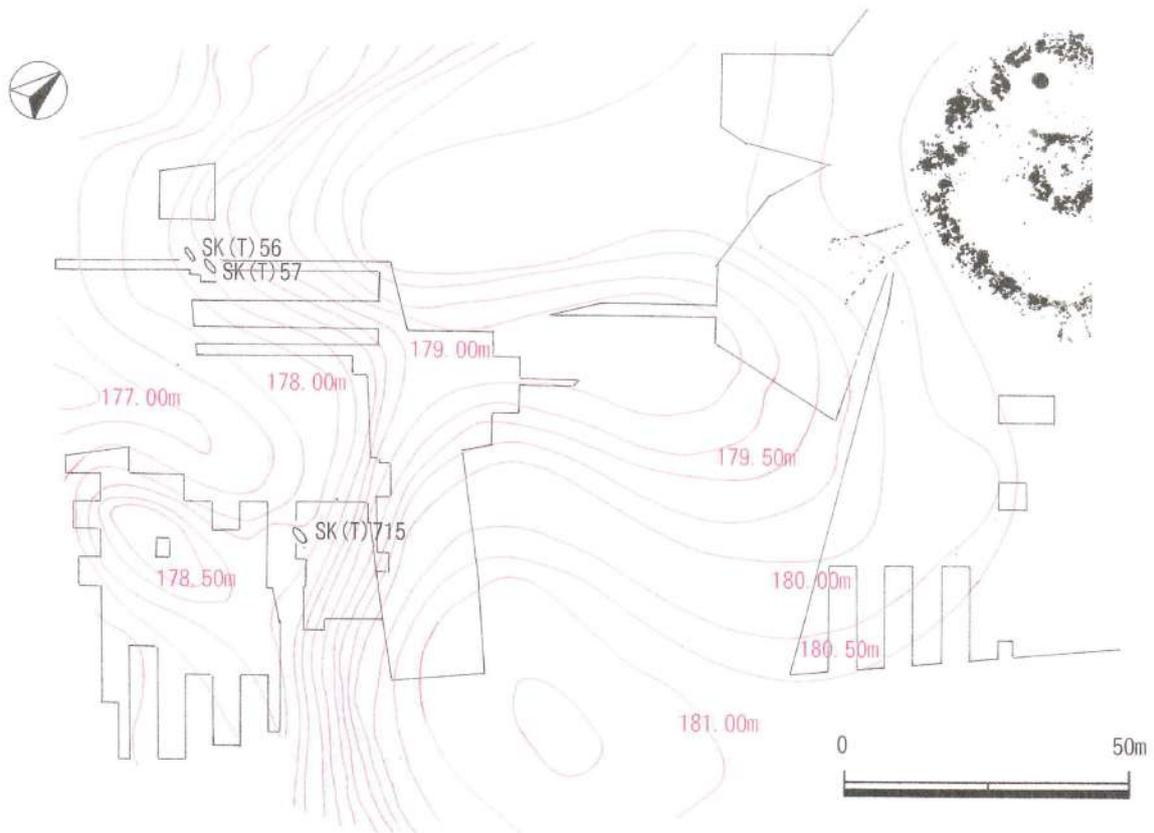
第122図 Tピット分布図（万座隣接地）



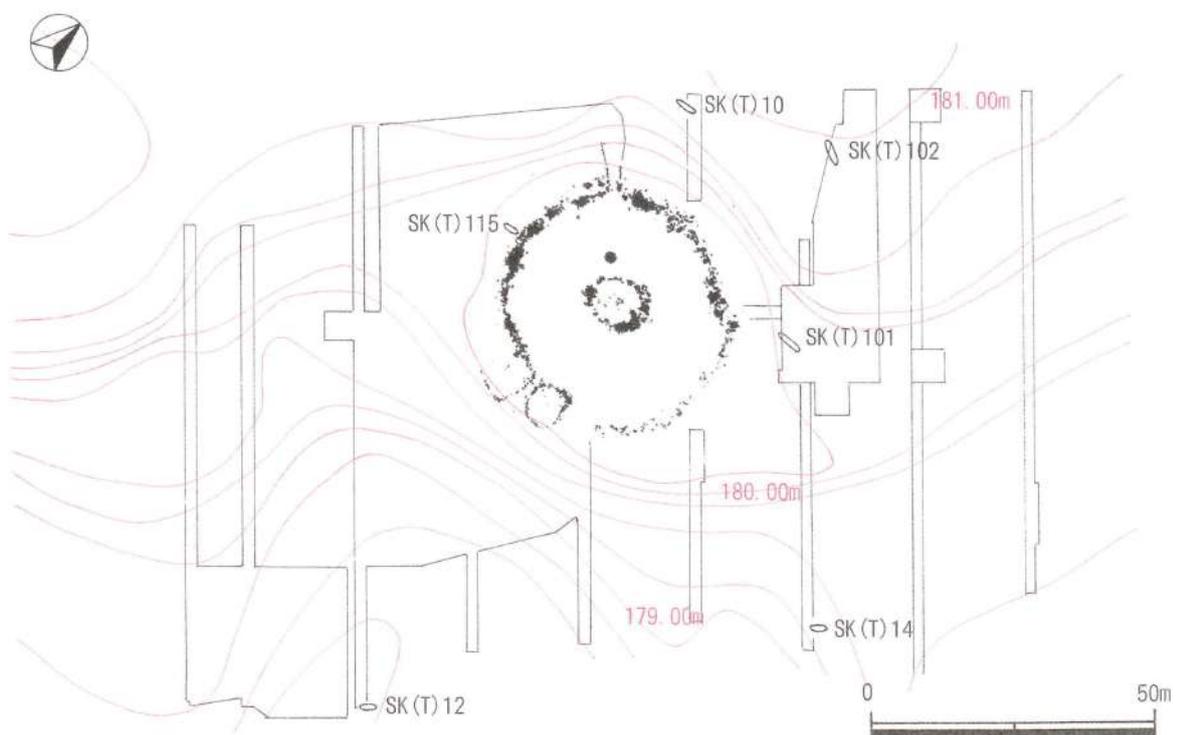
第123図 Tピット分布図（万座北側地区）



第124図 Tピット分布図（万座西側地区）



第125図 Tピット分布図（万座南側地区）



第126図 Tピット分布図（野中堂隣接地）

万座北側地区

万座北西側に大きく入り込んだ沢頭にはⅡ類、同地区北端の沢頭にⅠ類が多く分布している。

北西側のものは、長軸方向からさらに南北と東西を向く2つのグループがある。

前者の第08号・77号・76号・46号・44号・48号・43号Tピット7基は沢頭に対して長軸を平行にして配置されている。万座隣接地や同西側地区にも沢頭に対して並行するTピットが見られることから、沢を囲むように配置された一連のものと想定される。

後者の第29号・30号・36号・19号・47号・51号Tピット6基は、沢頭に対して直交して配置され、沢頭の北側に偏在している。

いずれも地形を考慮しながら配置され、2基一対を基本としている。沢頭を囲むTピットはⅡ類のものが多くを占めている。

また、同地区北端には台地内側に緩やかに入り込んだ長さ100m、幅20mの沢頭を囲むように兩岸に各1グループ（第461号・464号Tピット、第506号・507号・509号Tピット）、沢頭に2グループ（第466号・468号・470号・475号Tピット、第472号～474号Tピット）が配置される。いずれも2～4基で対となっている。対になるもの同士は同一形態のものである。沢頭に配置されたTピット群の南側約20mの地点に一直線上に等間隔に並ぶ柱穴状ピット（柱穴列）が検出されている。

万座西側地区

本地区北側のTピットは、万座北西台地縁に入り込んだ沢を囲むように配置されており、万座北側地区のTピットと一連のものとなっている。

これ以外のものは、西側台地斜面より浅く緩やかに台地に入り込んだ沢を考慮した配置を取っている。この沢は縄文時代後期前葉頃にはわずかな窪みを残す程度までに埋まっていたことが調査によって確認されているが、沢頭と兩岸に2～5基のTピットが配置されている。基本として隣接し、同一方向を向くもの同士が対となる。

なお、Tピットが配置された沢地の南側に等間隔に配置された6個の柱穴状ピット（柱穴列）が検出されている。

万座南側地区

同一形態のもの同士が対となっている。南側より緩やかに入り込んだ沢の開口部兩岸から検出され、この沢を遡ると万座隣接地で検出されたTピット群へと達する。地形的にみて両者でこの沢を取り囲んでいることがわかる。

野中堂隣接地

野中堂環状列石の北東側に分布している。トレンチによる調査のためか確認されたTピットは少ないが、2基一対が基本となる。

【ケ、性 格】

万座隣接地、同北側・西側・南側地区

遺跡周辺には台地縁より入りこんだ大小の沢が存在する。この沢はケモノ道として使用されることが多い。

Tピットの配置を概観すると2基1単位(3基以上の場所も有る)として、沢状地形を意識して配置されていることが看取される。このことから落とし穴としての性格を有しているものと判断される。

野中堂隣接地

万座各区で検出されたTピットと同形態を呈していることから、落とし穴としての性格を有しているものと判断される。

第85表 Tピット(万座隣接地)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	形態	規模 (cm・m) 長軸×短軸×深さ	長軸方向	出土遺物	埋土	新旧関係	構築 時期
1	SK(T)235 (報文4)	D1区 ZU-92	(Ⅲd 層上面)	I	350×57×155			下半: 自然 上半: 人為	SK(T)235 →SK(F)242、 Pi20、201、203、 SK(F)224	
2	SK(T)327 (報文5)	D2区 ZX、ZY、 83-84	(Ⅲd 層上面)	II	380×40×112	N 5 2 E	土器片 37点	自然		後期 前葉
3	SK(T)376 (報文10)	D3区 YC-86	(Ⅲd 層上位)	II	333×77×105	N 8 5 E			SK(T)376 →SK363B	
4	SK(T)616 (報文11)	D6区 ZO-95-96	(Ⅲ d 層)	I	312×58×114	N 8 3 E		人為	SB307との 新旧不明	後期 前葉
5	SK(T)643 (報文11)	D6区 ZG-101	(Ⅲd 層上面)	II	深さ128		縄文土器片3点	人為		後期 前葉
6	SK(T)644 (報文11)	D6区 ZG-103	(Ⅲd 層上面)	II	深さ110			人為		後期 前葉
7	SK(T)01 (報文12)	D7区 A-90	(Ⅲd 層上面)	II	351×55×110	N 4 6 E	土器片	自然		後期 前葉
8	SK(T)02 (報文12)	D7区 ZB-90	(Ⅳ層上面)	I	317×87×126	N 6 3 E		自然		後期 前葉
9	SK(T)06 (報文12)	D7区 ZD-91	(Ⅲd 層上面)	I	346×43×88	N 6 4 E	土器片	自然		後期 前葉
10	SK(T)13 (報文12)	D7区 ZF-91	(Ⅲd 層上面)	III	300以上×40 ×100以上	N 5 3 E	土器片	自然	SK(T)13 →SK(F)12	後期 前葉
11	SK(T)27 (報文12)	D7区 ZF-90、 91、 ZG-90	(Ⅲd 層上面)	I	414×104×164	N 7 8 E		自然		後期 前葉
12	SK(T)28 (報文12)	D7区 ZG、ZH-90	(Ⅲd 層上面)	I	314×111×137	N 6 4 W	土器片	人為		後期 前葉
13	SK(T)39 (報文15)	D8区 ZN-83	(Ⅲd 下面)	II	140以上×110 ×120以上	N 4 0 W		人為	SK(T)39 →SK(F)25	

第86表 Tピット (万座北側地区-1)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	形態	規模 (cm・㎡) 長軸×短軸×深さ	長軸方向	出土遺物	埋土	新旧関係	構築時期
1	SK(T)210 (報文4)	D1区 YI-98	(IIIc層上面)	II	362 _{短軸} ×59×150	N54E	土器片6点	自然	SK(T)210 →SI201 (平安)	後期 前葉
2	SK(T)424 (報文6)	F1区 U-106	(IV層上面)	II	304×27×23.6	N12W	土器片9点	人為		後期 前葉
3	SK(T)461 (報文7)	F2区 YK-122	(IIIc層上面)	II	302×73×103	N41E		自然		後期
4	SK(T)463 (報文7)	F2区 ZY-177	(V層上面)	I	382×84×137	N59E		自然		
5	SK(T)464 (報文7)	F2区 YK-122	(IIIc層上面)	II	338×80×137	N46E		自然		後期
6	SK(T)466 (報文7)	F2区 YH-121	(IIIc層上面)	I	382×78×141	N74E		上位 人為 下位 自然		後期
7	SK(T)468 (報文7)	F2区 YG、YH- 121	(IIIc層上面)	I	230 _{短軸} ×90×150	N48E			SK(T)468 →SK(T)469	後期
8	SK(T)470 (報文7)	F2区 YH、YI- 120	(IIIc層上面)	I	326×73×150	N89E		自然	SK(T)470 →SK478	後期
9	SK(T)472 (報文7)	F2区 YD- 119・120	(IV層上面)	I	282×76×101	N74E		I層 人為 他層 自然		後期
10	SK(T)473 (報文7)	F2区 YE-119	(IIIc層中位)	I	390×72×118	N61E		自然		後期
11	SK(T)474 (報文7)	F2区 YE- 119・120 YF-120	(IIIc層中位)	I	290×66×126	N24E		自然		後期
12	SK(T)475 (報文7)	F2区 YH- 118・119	(IIIc層中位)	I	312×62×146	N89W		自然		後期
13	SK(T)506 (報文7)	F2区 YL-119	(IIIc層下位)	I	369×69×126	N50E	土器片2点	自然		後期 前葉
14	SK(T)507 (報文7)	F2区 YK- 118・119	(IIIc層下位)	I	318×64×128	N46E		自然		後期
15	SK(T)509 (報文7)	F2区 YM- 118・119	(IIIc層下位)	I	478×68×114	N52E		I層 自然 他層 人為		後期
16	SK(T)908 (報文9)	D5区 YC-YB- 110・111	(IV層)	I	348×68×116	N79W		人為		縄文時代
17	SK(T)431 (報文10)	D4区 ZZ-ZY96	(IIIc層中位)	III	短軸径70	N60W			SK(T)431 →SK(S)404	
18	SK(T)433 (報文10)	D4区 YF-YE96	(IV層上面)	III	400×48	N52W				
19	SK(T)8 (報文13)	F4区 YO、YP- 101・102	(SI4床面)	I	419×63×156	N5W			SK(T)8 →SK(T)9 SI4	
20	SK(T)19 (報文13)	F4区 YI、YJ- 99・100	(IIIc層上面)	I	412×51×88	N64E			SK(T)19 →SK37 Pit3	
21	SK(T)29 (報文13)	F4区 YP-101	(IIIc層上面)	II	381×117×169	N71E	土器片32点			後期 前葉
22	SK(T)30 (報文13)	F4区 YN98-99	(IIIc層上面)	II	432×87×(136)	N80E			SK(T)30 →Pit86	
23	SK(T)36 (報文13)	F4区 YM、 YN-98	(IIIc層上面)	II	短軸径113 深さ123	N81E			SK(T)36 →Pit115	
24	SK(T)43 (報文13)	F4区 YK-96	(IIIc層上面)	II	325×47×119	N19W				

第87表 Tピット(万座北側地区-2)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	形態	規模 (cm・m) 長軸×短軸×深さ	長軸方向	出土遺物	埋土	新旧関係	構築 時期
25	SK(T)44 (報文13)	F4区 YJ-96-97	(Ⅲd 層上面)	Ⅱ	319×50×(119)	N 8 E				
26	SK(T)45 (報文13)	F4区 YJ-96-97	(Ⅲd 層上面)	Ⅱ	337×32×(95)	N 7 E				
27	SK(T)46 (報文13)	F4区 YJ-97	(Ⅲd 層上面)	Ⅱ	330×35×113	N 1 2 E				
28	SK(T)47 (報文13)	F4区 YI-96-97	(Ⅲd 層上面)	Ⅲ	520×125	N 7 0 E				
29	SK(T)51 (報文13)	F4区 YH-98-99	(Ⅲd 層上面)	Ⅲ	375×54	N 5 5 E			SK(T)51 →SX(S)3	
30	SK(T)76 (報文13)	F4区 YK-97-98	(Ⅲd 層上面)	Ⅲ	339×54	N S				
31	SK(T)77 (報文13)	F4区 YO- 102-103	(Ⅲd 層上面)	Ⅲ	472×53	N S				

第88表 Tピット(万座西側地区)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	形態	規模 (cm・m) 長軸×短軸×深さ	長軸方向	出土遺物	埋土	新旧関係	構築 時期
1	SK(T)343 (報文5)	D2区 YD, YE-81	(Ⅲd 層中位)	I	312×60×126	N 8 3 W		自然	SK(T)343 →SK342	
2	SK(T)344 (報文5)	D2区 YD-80 YE-79-80	(Ⅲd 層中位)	I	340×74×110	N 8 9 E		自然		
3	SK(T)348 (報文5)	D2区 YF-82-83	(Ⅲd 層中位)	I	293×68×153	N 1 0 W		自然		
4	SK(T)349 (報文5)	D2区 YG-83	(Ⅲd 層上面)	I	269 以上×86× 154	N 7 3 E		自然		
5	SK(T)350 (報文5)	D2区 YG-82-83	(Ⅲd 中位)	I	373×64×85	N 7 1 E		自然		
6	SK(T)8 (報文19)	D9区 YK-78-79	(V 層上)	I	×74×135				SK(T)8→SI5	前葉 以前
7	SK(T)1 (報文19)	G3区 ZW-70-71	(Ⅲd 層中)	I	(306)×42×114			人為		
8	SK(T)2 (報文19)	G3区 ZZ-64	(IV 層上)	I	× ×157			人為		
9	SK(T)3 (報文19)	G3区 YA-62-63	(IV 層上)	I	×(140)×193			人為		
10	SK(T)4 (報文19)	G3区 YB-64	(IV 層上)	Ⅲ	×(49)×183			人為		
11	SK(T)5 (報文19)	G3区 ZV-59	(IV 層上)	I	×(71)×108			人為		
12	SK(T)2 (報文20)	G4区 YK-72	(IV 層上)	I	×40×75			人為		
13	SK(T)3 (報文20)	G4区 YN-68	(IV 層上)	I	× ×117			人為		

第89表 Tピット(万座南側地区)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	形態	規模 (cm・m) 長軸×短軸×深さ	長軸方向	出土遺物	埋土	新旧関係	構築 時期
1	SK(T)715 (報文8)	G1区 ZC-62	(III d 層下位)	I	296×110×157	N 8 9 E		自然		
2	SK(T)56 (報文15)	G2区 ZM-58	(VI層上面)	I	270×80×140	N E		自然		
3	SK(T)57 (報文15)	G2区 ZL, ZM-58	(VI層上面)	I	140以上×70 ×70以上	N 7 5 E		自然		

第90表 Tピット(野中堂隣接地区)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	形態	規模 (cm・m) 長軸×短軸×深さ	長軸方向	出土遺物	埋土	新旧関係	構築 時期
1	SK(T)10 (報文16)	B区 D-97	(III d 層下)	I	(200以上)×65×132	N 2 0 E	土器6点	人為		前葉
2	SK(T)12 (報文16)	B区 Y-85	(III d 層下)	II	(200以上)×67×161	N 6 3 E	石刀1点 土器13点	人為		前葉
3	SK(T)14 (報文16)	B区 W-101	(III d 層下)	III	(200以上)×73×117	N 5 0 E		人為		
4	SK(T)115 (報文17)	B2区 H-90	(III d' 層上)	III	(110以上)×53×139		土器6点	人為	SK(T)115 →SK(F)133	前葉
5	SK(T)101 (報文2)	B1区 K-101	(III e 層下面)	II	390×58×98	N 8 2 E	炭化材 土器片少量	自然	SK(F)104 →SK(T)101	後期 中葉
6	SK(T)102 (報文2)	B1区 E, F-102	(III e 層下面)	II	330以上×57×166	N 4 7 W	土器片少量 土器片利用土製品1点	上層: 人為 下層: 自然		後期 前葉

(2) 土 坑 (第127～143図、第91～110表)

これまでの調査によって万座隣接地240基、万座北側地区101基、万座西側地区13基、万座南側地区3基、野中堂隣接地105基、一本木後口地区19基の計481基の土坑が検出されている。

【ア. 形 態】

平面形態から次のように分類することができる。

I類： 円形を呈するもの。各地区合計129基で26.8%を占める。

II類： 楕円形を呈するもの。短軸1に対して長軸が1.1以上(推定値を含む)のものを本類とした。各地区合計333基で69.2%を占め、圧倒的に多い。

III類： 方形又は長方形を呈するもの。角が丸みを帯びる隅丸のものも本類とした。方形16基3.4%、長方形2基0.4%を占める。

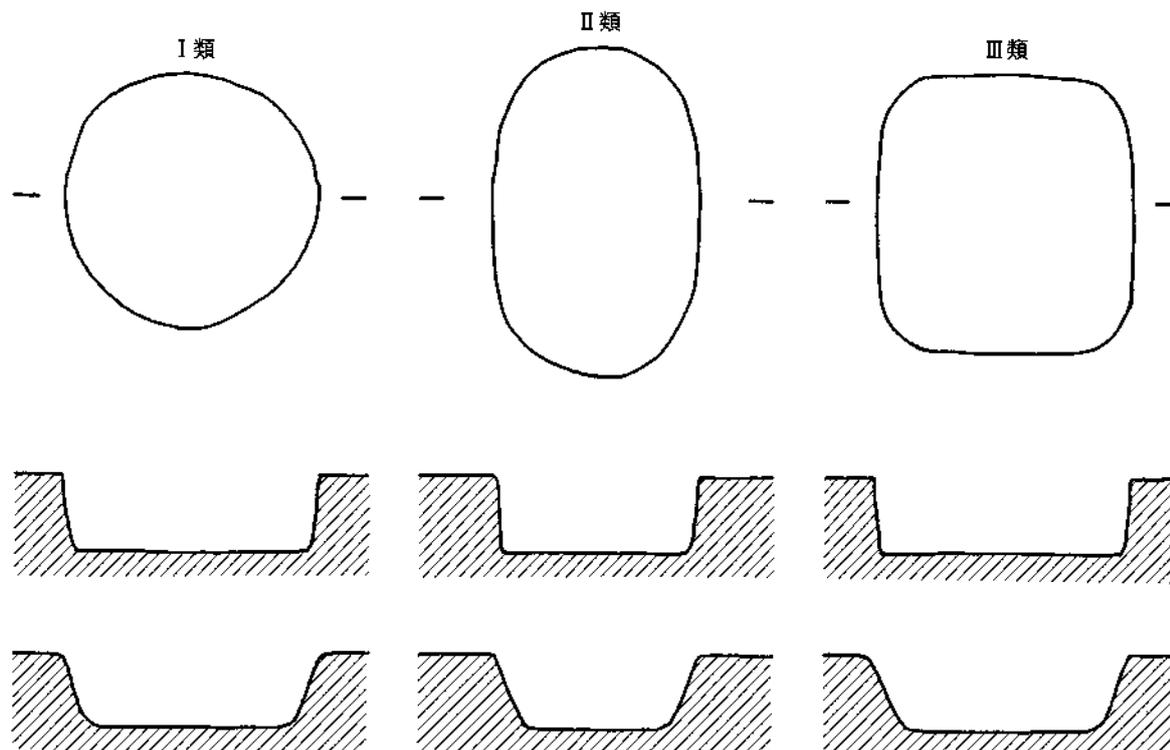
不明： 形態が不明なもの。1基。

万座隣接地

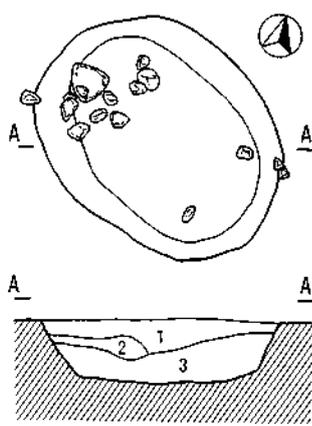
I類58基 (24.1%)、II類170基 (70.8%)、III類 (5%)、不明1基 (0.1%) である。II類がI類の約3倍という高い数値を示している。

万座北側地区

I類37基 (36.6%)、II類58基 (57.4%)、III類6基 (6.0%) である。万座隣接地と比較しII類の占める割合が低くなっている。

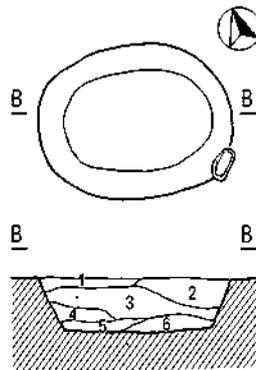


第127図 土坑分類図



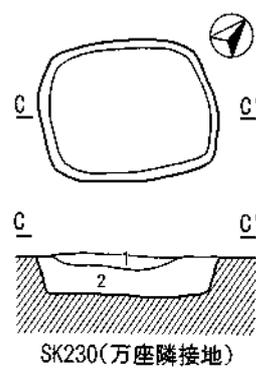
SK220(万座隣接地)

- SK(1220)
1. 黒褐色土(101R2/2)
 2. 黒色土(101R2/1)
 3. 灰褐色土(101R3/1)



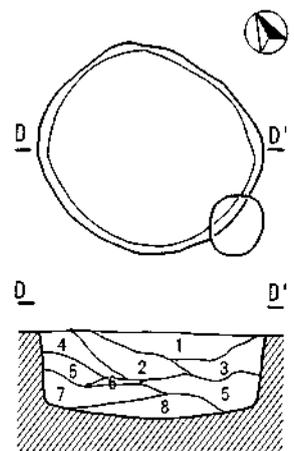
SK223(万座隣接地)

- SK(1223)
1. 黒褐色土(101R2/3)
 2. 黒褐色土(7.51R2/2)
 3. 黒褐色土(101R2/2)
 4. 黒色土(101R2/1)
 5. 灰褐色土(101R3/3)
 6. 黒色土(7.51R2/1)



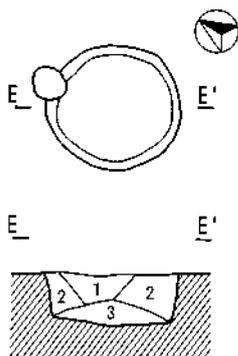
SK230(万座隣接地)

- SK(1230)
1. 黒褐色土(101R2/2)
 2. 黒色土(101R2/1)



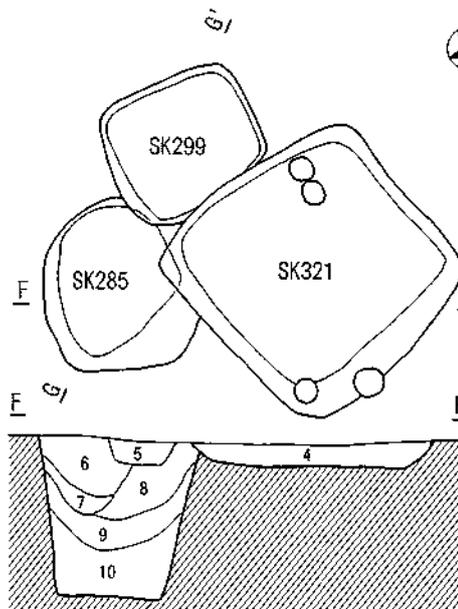
SK231(万座隣接地)

- SK(1231)
1. 黒色土(101R2/3)
 2. 黒色土(101R2/2)
 3. 黒色土(101R2/1)
 4. 黒色土(101R2/2)
 5. 黒色土(101R2/4)
 6. 黒色土(101R2/4)
 7. 黒色土(101R2/1)
 8. 黒色土(101R4/4)
 9. 黒色土(101R2/4)
 10. 遺人物によって分層される



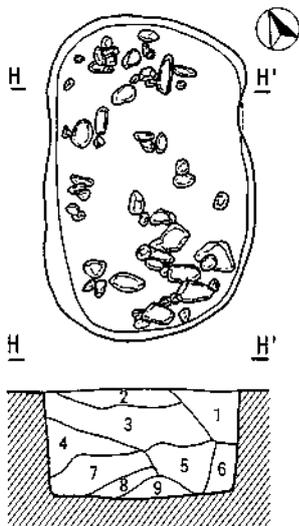
SK266(万座隣接地)

- SK(1266)
1. 黒色土(101R2/1)
 2. 黒褐色土(101R2/2)
 3. 黒色土(101R2/2)



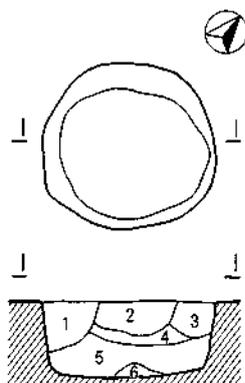
SK285・299・321(万座隣接地)

- SK(1286 289-321)
1. 黒褐色土(101R5/5)
- 網状地層下遺入
2. 黒褐色土(101R2/3)SK286
 3. 黒褐色土(101R2/1)SK299
 4. 黒褐色土(101R2/3)SK321
 5. 上記1-4層の黒褐色土(101R4/3)ツラヌ土層下遺入
 6. 黒褐色土(101R2/3)SK285
 7. 黒色土(101R4/4)SK285
 8. 黒褐色土(101R3/2)
 9. 黒褐色土(101R2/2)SK285
 10. 黒色土(101R2/1)SK285



SK289(万座隣接地)

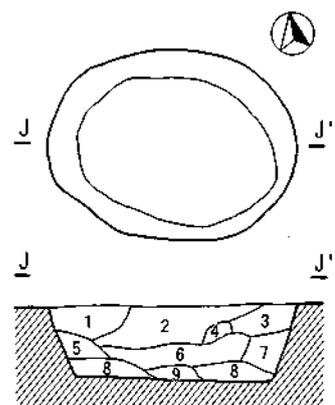
- SK(1289)
1. 黒褐色土(101R2/2)
 2. 黒褐色土(101R2/2)
 3. 黒褐色土(101R2/2)
 4. 黒褐色土(101R2/2)
 5. 黒褐色土(101R2/2)
 6. 黒褐色土(101R2/2)
 7. 黒褐色土(101R3/1)
 8. 黒色土(101R4/4)
 9. 黒色土(101R2/1)



SK300(万座隣接地)

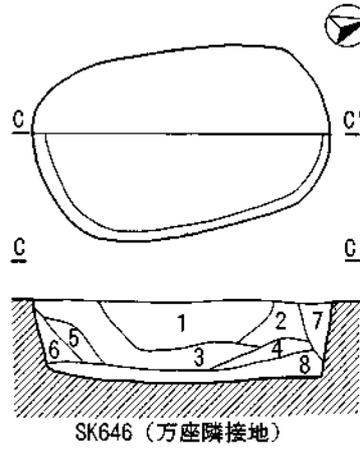
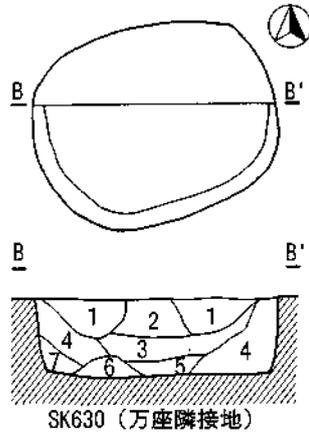
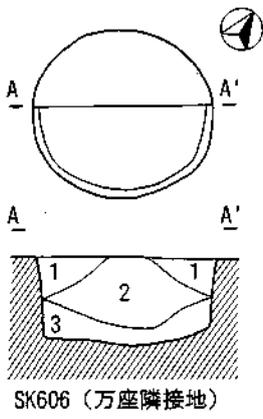
- SK(1300)
1. 黒褐色土(101R2/3)
 2. 黒褐色土(101R2/2)
 3. 黒褐色土(101R2/2)
 4. 黒色土(101R4/4)
 5. 上記1-3層の黒褐色土(101R4/2)
 6. 黒褐色土(101R2/3)

- SK(1342)
1. 黒褐色土(101R2/3)
 2. 黒褐色土(101R2/3)
 3. 黒褐色土(101R2/2)
 4. 黒褐色土(101R3/4)
 5. 黒褐色土(101R2/2)
 6. 黒褐色土(101R3/1)
 7. 黒褐色土(101R3/2)
 8. 黒褐色土(101R2/2)
 9. 黒色土(101R2/1)



SK342(万座隣接地)

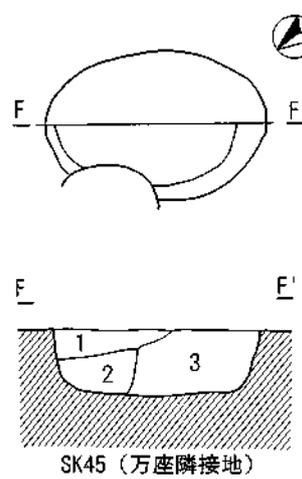
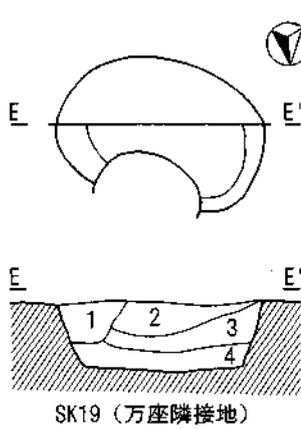
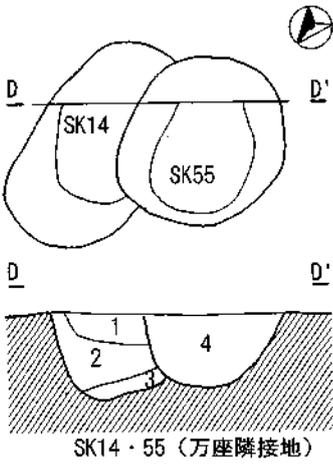




- SK606
1. 黒色土 (10781/2/1)
 2. 黒褐色土 (10782/2)
 3. 黒褐色土 (10783/1)

- SK630
1. 黒褐色土 (10782/2)
 2. 黒褐色土 (10783/3)
 3. 黒色土 (10781/2/1)
 4. 黒色土 (10782/1)
 5. 黒褐色土 (7.5182/1)
 6. 黒褐色土 (7.5182/2)
 7. 黒褐色土 (10782/2)

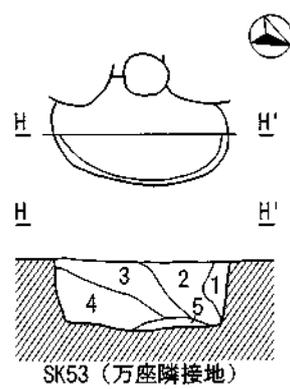
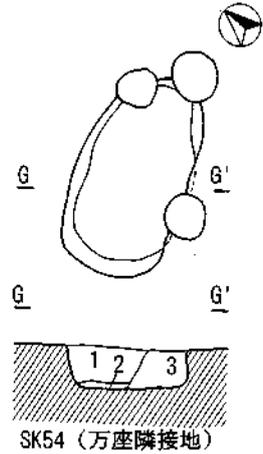
- SK646
1. 黒褐色土 (10782/2)
 2. 黒色土 (10781/2/1)
 3. 黒褐色土 (10782/2)
 4. 黒色土 (10786/4)
 5. 黒褐色土 (10782/2)
 6. 黒色土 (10781/2/1)
 7. 黒色土 (10781/2/1)
 8. 黒褐色土 (10782/2)



- SK14・55
1. 黒褐色土 (10782/2)
 2. 黒褐色土 (10785/4)
 3. 黒褐色土 (10782/2)
 4. 黒色土 (10782/1)

- SK19
1. 黒褐色土 (10782/2)
 2. 黒褐色土 (10783/2)
 3. 黒褐色土 (10782/2)
 4. 黒褐色土 (10782/2)

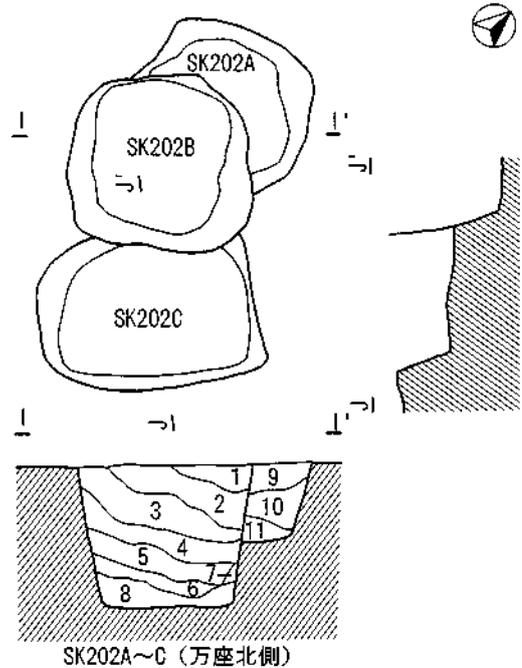
- SK45
1. 黒褐色土 (10782/2)
 2. 10781-1 黒褐色土 (10784/3)
 3. 黒褐色土 (10782/2)

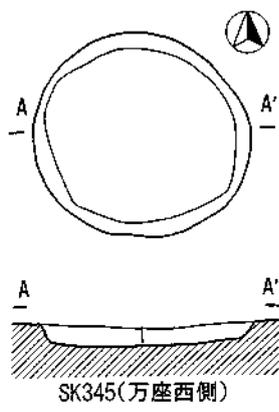


- SK54
1. 黒褐色土 (10782/2)
 2. 黒色土 (10782/1)
 3. 黒褐色土 (10783/3)

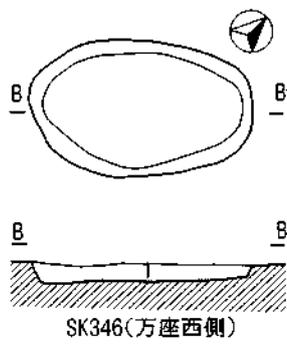
- SK53
1. 黒褐色土 (10785/6)
 2. 黒褐色土 (10783/3)
 3. 黒褐色土 (10782/4)
 4. 黒褐色土 (10784/4)
 5. 黒色土 (10782/1)

- SK202A~C
1. 黒色土 (7.5182/1)
 2. 黒色土 (7.5182/1)
 3. 黒色土 (7.5181/1/1)
 4. 黒色土 (10782/1)
 5. 黒色土 (10781/2/1)
 6. 黒色土 (7.5182/1)
 7. 黒色土 (7.5182/1)
 8. 黒色土 (7.5181/2/1)
 9. 黒色土 (7.5181/2/1)
 10. 黒色土 (7.5181/2/1)
 11. 黒色土 (7.5182/1)

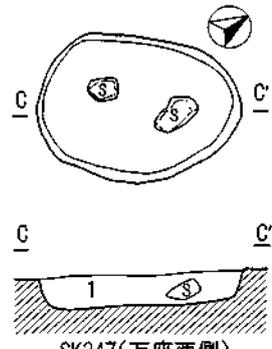




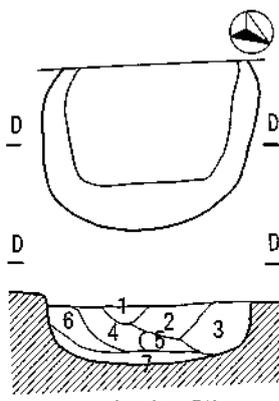
SK345(万座西側)



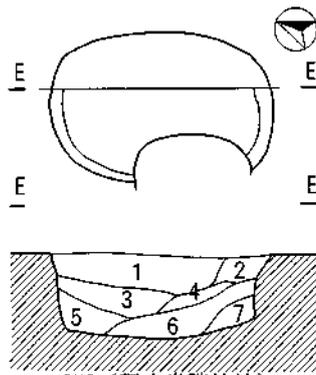
SK346(万座西側)



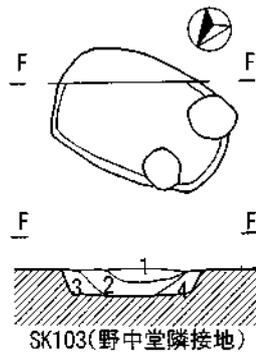
SK347(万座西側)



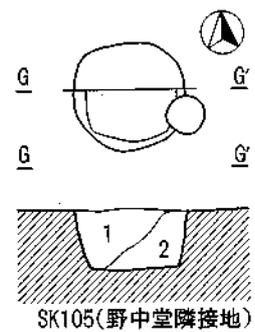
SK4(万座西側)



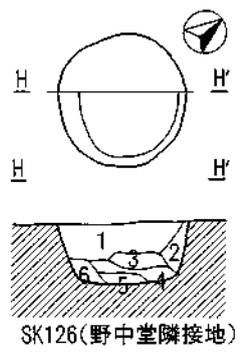
SK31(野中堂隣接地)



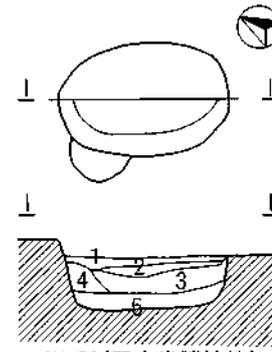
SK103(野中堂隣接地)



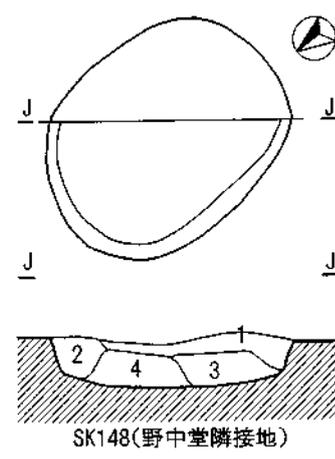
SK105(野中堂隣接地)



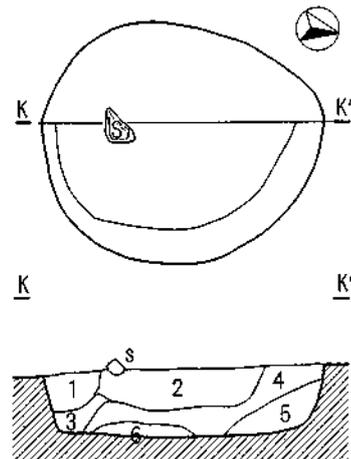
SK126(野中堂隣接地)



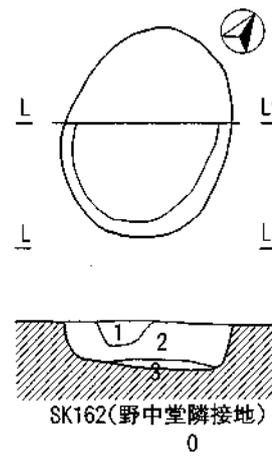
SK158(野中堂隣接地)



SK148(野中堂隣接地)



SK176(野中堂隣接地)



SK162(野中堂隣接地)

SK345
1. 黄褐色土(10YR2/2)

SK346
1. 黄褐色土(10YR2/2)

SK347
1. 黄褐色土(10YR2/1)

SK4
1. 黄褐色土(10YR3/1)
2. 黄褐色土(10YR2/2)
3. 黄褐色土(10YR2/1)
4. 黄褐色土(10YR2/2)
5. 黄褐色土(10YR2/1)
6. 黄褐色土(10YR2/1)
7. 黄褐色土(10YR2/2)

SK31
1. 灰白-黄褐色土(10YR4/3)
2. 黄褐色土(10YR2/2)
3. 黄褐色土(10YR2/2)
4. 黄褐色土(10YR2/2)
5. 黄褐色土(10YR2/2)
6. 黄褐色土(10YR2/2)
7. 黄褐色土(10YR2/2)

SK103
1. 黄褐色土(10YR2/1)
2. 黄褐色土(10YR2/2)
3. 黄褐色土(10YR2/2)
4. 灰白-黄褐色土(10YR4/3)

SK105
1. 黄褐色土(10YR2/2)
2. 黄褐色土(10YR2/2)

SK126
1. 黄褐色土(10YR2/2)
2. 黄褐色土(10YR2/2)
3. 黄褐色土(10YR2/2)
4. 黄褐色土(10YR2/2)
5. 灰白-黄褐色土(10YR4/3)
6. 黄褐色土(10YR2/2)

SK103
1. 黄褐色土(10YR2/2)
2. 黄褐色土(10YR2/2)
3. 黄褐色土(10YR2/2)
4. 黄褐色土(10YR2/2)

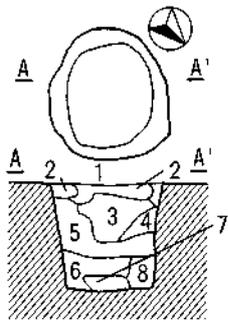
SK158
1. 黄褐色土(10YR2/2)
2. 黄褐色土(10YR2/2)
3. 黄褐色土(10YR2/2)
4. 黄褐色土(10YR2/2)
5. 黄褐色土(10YR2/2)

SK176
1. 灰白-黄褐色土(10YR4/3)
2. 黄褐色土(10YR2/2)
3. 黄褐色土(10YR2/2)

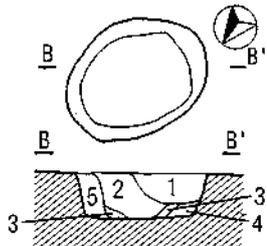
SK178
1. 黄褐色土(10YR2/1)
2. 黄褐色土(10YR2/2)
3. 黄褐色土(10YR2/2)
4. 黄褐色土(10YR2/2)
5. 黄褐色土(10YR2/2)
6. 黄褐色土(10YR2/2)



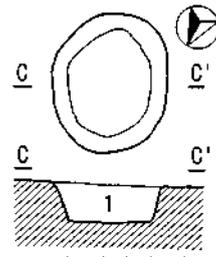
第131图 土坑实测图(4)



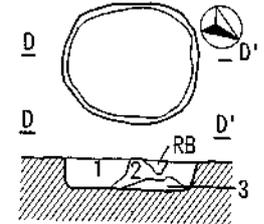
SK3 (一本木後口)



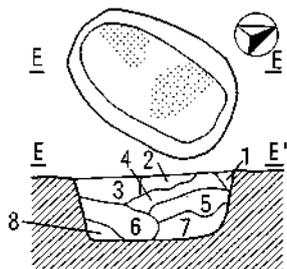
SK4 (一本木後口)



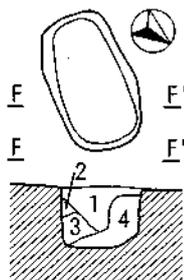
SK5 (一本木後口)



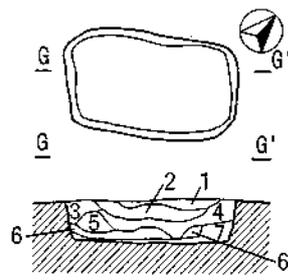
SK6 (一本木後口)



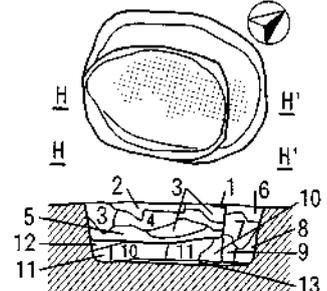
SK7 (一本木後口)



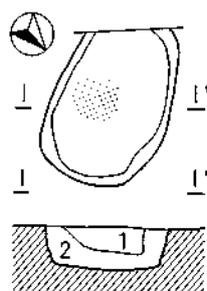
SK8 (一本木後口)



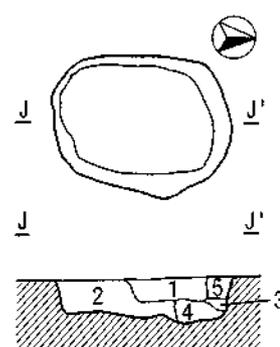
SK9 (一本木後口)



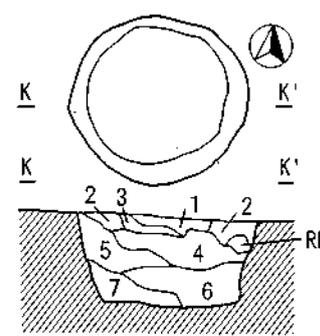
SK10・11 (一本木後口)



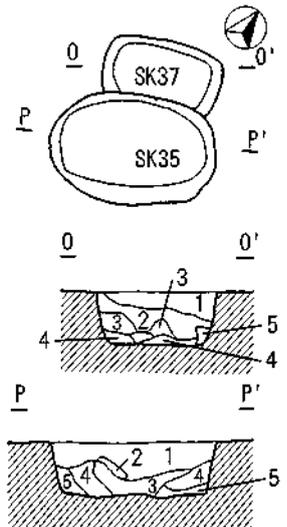
SK12 (一本木後口)



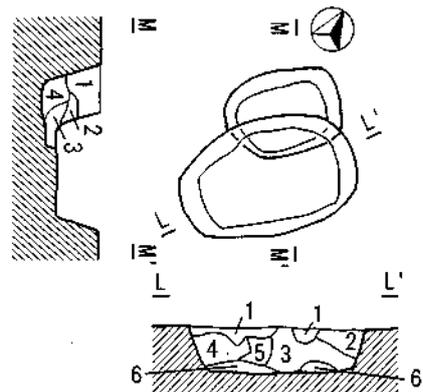
SK31 (一本木後口)



SK33 (一本木後口)



SK35・37 (一本木後口)



SK34・36 (一本木後口)

- | | | | | | |
|--|--|--|--|--|---|
| SK3
1. 黒色土 (10782/1)
2. 黒褐色土 (10782/2)
3. 黒色土 (10782/4)
4. 黒褐色土 (7. 5182/2)
5. 暗褐色土 (10783/3)
6. 暗褐色土 (7. 5182/3)
7. 暗褐色土 (10782/2)
8. 暗褐色土 (10782/3)
SK4
1. 暗褐色土 (10782/2)
2. 暗褐色土 (10782/2)
3. 暗褐色土 (10782/1)
4. 暗褐色土 (10782/2)
5. 暗褐色土 (10782/2)
6. 暗褐色土 (10782/2)
7. 暗褐色土 (10782/2)
8. 暗褐色土 (10784/8) | SK5
1. 黒色土 (10782/1)
SK6
1. 暗褐色土 (10783/3)
2. 暗褐色土 (10783/2)
3. 暗褐色土 (10782/3)
SK7
1. 黒褐色土 (10782/2)
2. 黒褐色土 (10782/2)
3. 黒褐色土 (10782/2)
4. 黒褐色土 (10782/2)
5. 黒褐色土 (10782/2)
6. 黒褐色土 (10782/2)
7. 黒褐色土 (10782/2)
8. 暗褐色土 (10784/8) | SK8
1. 暗褐色土 (10782/3)
2. 暗褐色土 (10782/3)
3. 暗褐色土 (10783/1)
4. 暗褐色土 (10782/2)
5. 暗褐色土 (10782/2)
6. 暗褐色土 (10783/4)
7. 暗褐色土 (10783/4) | SK10・11
1. 黒色土 (10782/1)
2. 暗褐色土 (10782/2)
3. 暗褐色土 (10783/2)
4. 暗褐色土 (10783/3)
5. 黒褐色土 (10782/2)
SK11
1. 暗褐色土 (10782/2)
2. 暗褐色土 (10782/2)
3. 暗褐色土 (10783/3)
4. 暗褐色土 (10783/4)
5. 暗褐色土 (10783/4)
6. 暗褐色土 (10782/4)
7. 暗褐色土 (10782/4)
8. 暗褐色土 (10782/3)
9. 暗褐色土 (10782/3)
10. 暗褐色土 (10782/4)
11. 暗褐色土 (10782/4)
12. 暗褐色土 (10782/3)
13. 暗褐色土 (10784/4) | SK12
1. 暗褐色土 (10782/2)
2. 暗褐色土 (10782/3)
SK31
1. 黒色土 (7. 5182/4)
2. 暗褐色土 (10783/2)
3. 暗褐色土 (10783/2)
4. 暗褐色土 (10783/2)
5. 暗褐色土 (10783/2)
6. 暗褐色土 (10784/4)
7. 暗褐色土 (10784/4)
8. 暗褐色土 (10784/4)
9. 暗褐色土 (10784/4)
10. 暗褐色土 (10784/4)
11. 暗褐色土 (10784/4)
12. 暗褐色土 (10784/4)
13. 暗褐色土 (10784/4)
14. 暗褐色土 (10784/4) | SK35
1. 暗褐色土 (10782/1)
2. 暗褐色土 (10782/2)
3. 暗褐色土 (10782/2)
4. 暗褐色土 (10782/2)
5. 暗褐色土 (10782/2)
6. 暗褐色土 (10782/4)
SK36
1. 暗褐色土 (10782/2)
2. 暗褐色土 (10782/2)
3. 暗褐色土 (10782/2)
4. 暗褐色土 (10784/4)
SK37
1. 暗褐色土 (7. 5182/1)
2. 暗褐色土 (10782/2)
3. 暗褐色土 (10782/2)
4. 暗褐色土 (10782/2)
5. 暗褐色土 (10782/2)
6. 暗褐色土 (10782/2)
7. 暗褐色土 (10782/2)
8. 暗褐色土 (10782/2)
9. 暗褐色土 (10782/2)
10. 暗褐色土 (10782/2)
11. 暗褐色土 (10782/2)
12. 暗褐色土 (10782/2)
13. 暗褐色土 (10782/2)
14. 暗褐色土 (10782/2)
15. 暗褐色土 (10782/2)
16. 暗褐色土 (10782/2)
17. 暗褐色土 (10782/2)
18. 暗褐色土 (10782/2)
19. 暗褐色土 (10782/2)
20. 暗褐色土 (10782/2)
21. 暗褐色土 (10782/2)
22. 暗褐色土 (10782/2)
23. 暗褐色土 (10782/2)
24. 暗褐色土 (10782/2)
25. 暗褐色土 (10782/2)
26. 暗褐色土 (10782/2)
27. 暗褐色土 (10782/2)
28. 暗褐色土 (10782/2)
29. 暗褐色土 (10782/2)
30. 暗褐色土 (10782/2)
31. 暗褐色土 (10782/2)
32. 暗褐色土 (10782/2)
33. 暗褐色土 (10782/2)
34. 暗褐色土 (10782/2)
35. 暗褐色土 (10782/2)
36. 暗褐色土 (10782/2)
37. 暗褐色土 (10782/2)
38. 暗褐色土 (10782/2)
39. 暗褐色土 (10782/2)
40. 暗褐色土 (10782/2)
41. 暗褐色土 (10782/2)
42. 暗褐色土 (10782/2)
43. 暗褐色土 (10782/2)
44. 暗褐色土 (10782/2)
45. 暗褐色土 (10782/2)
46. 暗褐色土 (10782/2)
47. 暗褐色土 (10782/2)
48. 暗褐色土 (10782/2)
49. 暗褐色土 (10782/2)
50. 暗褐色土 (10782/2) |
|--|--|--|--|--|---|



万座西側地区

I類4基(30.8%)、II類4基(69.2%)である。III類は確認されていない。

調査方法がトレンチによるものから正確な遺構数が把握できていないが、万座隣接地・同北側地区と同様の数値を示している。

万座南側地区

発掘調査が部分的なことから検出数は3基である。すべてII類のものである。

野中堂隣接地

環状列石隣接地の全域を調査しておらず、正確な数値が把握できない。

I類27基(25.7%)、II類77基(73.3%)、III類1基(1.0%)である。万座隣接地と比較的似た数値を示している。

一本木後口地区

I類3基(15.7%)、II類16基(84.3%)でIII類を含まない。本地区は配石遺構が密集している地区である。耕作により配石の構築材が抜き取られ、その痕跡のあるものについては配石遺構に分類、そのほかのものを土坑とした。

【イ、規模】

その規模が際立って大きいものについては堅穴遺構として取り扱った。

I類の中で最も大型のものは万座北側地区第478号土坑(長軸179cm・底面積2.26㎡)、最も小さいものは野中堂隣接地第201号土坑(長軸45cm)である。長軸140cm以上の大型、95cm以下の小型、96cm以上～139cm以下の中型に分けられる。万座隣接地及び同北側地区には大型～小型のものが、万座西側・南側、野中堂隣接地、一本木後口地区には中型・小型のものが多くみられる。

II類の中で最も大型のものは野中堂隣接地第192号土坑(長軸280cm・底面積3.80㎡)、最も小さいものは同地区第254号土坑(長軸30cm)である。長軸160cm以上の大型、長軸110cm小型、長軸109cm～159cmの中型に分けられる。

III類の中で最も大型のものは万座隣接地地区第420号土坑(長軸311cm・底面積4.17㎡)、最も小さいものは野中堂隣接地第105号土坑(長軸78cm・底面積0.45㎡)である。長軸290cmを超える大型のもの、長軸130cm～78cmの小型のもの、長軸165cm前後の中型のものに分けられる。

万座隣接地

I類： 最大は第258号土坑(長軸181cm・底面積2.28㎡)、最小は第319号土坑(長軸68cm・底面積0.32㎡)である。長軸130cmを境に大型・小型に分けられる。大型のものは小型のものよりも密度が薄い。第258号・82号土坑は特に大型の部類に入る。

II類： 最大は第68号土坑(長軸280cm・底面積3.27㎡)、最小は第70号土坑(長軸80cm・底面積0.29㎡)である。長軸140cm以下の小型、長軸170cm以上の大型、141cm～169cmの中型に分けられ、その密度はI類に似ている。小型のものは密集傾向を示し、大型になるにしたがって少しずつ分散化する傾向がみられる。

III類： 長軸100cm、130cm、160cm、300cm前後に規模分布がみられる。I類・II類と同様に小型～特大

型までみられる。小型のものはⅠ類・Ⅱ類とほぼ同じ規模範囲に収まるが一回り大きい。

万座北側地区

Ⅰ類： 最大は第430号土坑(長軸182cm・底面積2.43㎡)、最小は第450号土坑(長軸63cm・底面積0.27㎡)である。長軸130cm以下の小型のものと150cm以上の大型のものに分けることができる。

万座隣接地と似た規模分布を示している。

Ⅱ類： 最大は第405号土坑(長軸268cm・底面積3.43㎡)、最小は第510号土坑(長軸77cm・底面積0.41㎡)である。長軸130cm以下の小型のものと、150cm以上の大型のものに分けられるが、長軸200cmを超える特大型のものも4例ある。Ⅰ類と比較し密度範囲がやや狭まる傾向にある。

Ⅲ類： いずれもⅠ類・Ⅱ類の小型の範囲内に収まり、大型・特大型のものはみられない。

万座西側地区

Ⅰ類： 長軸60cm前後、同130cm前後に分布する。本地区で確認されている円形土坑が全域の中で最も小さいものである。

Ⅱ類： 長軸118cm～167cmの範囲に集約される。万座隣接地の中型、同北側地区の小型のものとほぼ同規模である。

万座南側地区

Ⅰ類： 長軸90cm前後、同135cm前後に分布する傾向を示している。

野中堂隣接地

Ⅰ類： 最大は第103号土坑(長軸122cm・底面積1.08㎡)、最小は第222号土坑(長軸49cm・底面積0.81㎡)である。規模分布は隙間をあけることなく連なっている状況を示しているが、長軸100cmを境に小型のものと中型のものに分けることが可能である。

万座隣接地の同型のものと比較し、規模は一回り小さい。

Ⅱ類： 最大は第219号土坑(長軸256cm・底面積4.26㎡)、最小は第254号土坑(長軸30cm)である。長軸65cm以下の最小型、同100cm以下の小型、160cm以下の中型、161cm以上の特大型に分けることができる。大型化するにしたがって規模分布を示したドット間は広がっていく傾向にある。

Ⅲ類： 1基のみである。Ⅰ類・Ⅱ類の小型のものに含まれる。

一本木後口地区

Ⅰ類： 長軸90cm前後、同120cm前後に分布している。前者はⅡ類の小型のもの、後者は同類大型と同一規模である。

Ⅱ類： 最大は第02号土坑(長軸222cm・底面積2.75㎡)、最小は第36号土坑(長軸75cm・底面積0.35㎡)である。長軸100cm前後を境に小型のものと大型のものに区分される。万座・野中堂の各地区のものと比較し、やや小型のものが多い傾向にある。

【ウ. 確認面と構築面】

万座隣接地

堆積土を徐々に除去していくと、列石の南東側に基本層序Ⅴ層の広がりの確認でき、後世の攪拌が

深い層まで達したものと考えられた。しかし、この広がりの中に所在するフラスコ状土坑を観察すると土坑上部が削除された形跡は観察されなかった。また、このV層面より遺物が数例ではあるが出土していたことから、V層面の広がりには整地されたものと考えられた。

同列石南東部に位置する土坑は、整地後に構築されたものでV層が構築面と、これ以外の列石隣接地の土坑はⅢd層が確認面及び構築面となっている。

万座北側地区

同地区東側にある小丘は耕地整理によって削平され、当時の原型を保っていない。この小丘周辺に位置する土坑はこのような状況からIV層及びV層で確認される。このほかに耕作土が浅く、攪拌を受けている場所もあり、その場所に分布する土坑はIV層・V層を確認面とする。

第04号環状配石遺構周辺及び万座隣接地・同西側地区との境界付近に位置するものは攪拌の影響も少なく、Ⅲc層下位～Ⅲd層上面で確認された。

万座西側地区

第346号、08号、10号土坑の3例を除き、Ⅲd層が確認面、構築面となっている。

万座南側地区

フラスコ状土坑が密集する小丘の斜面に位置するものはⅢd1層上面で確認される。また、同地区の配石遺構群周辺は後世の攪拌が及んでおり、第712号土坑の確認面はV層である。

野中堂隣接地

野中堂隣接地周辺の等高線を観察するとその流れは大きく膨らみを持ち、この内側に野中堂環状列石が構築されている。第18次調査において列石周辺は整地されていたことが判明しており、このことから多くの土坑の確認面はIV層又はV層である。また列石の南東側は耕作土が浅く、攪拌を受けており、この地域に分布する土坑の確認面もV層であった。

一本木後口地区

耕作が比較的深い層まで達していた。配石遺構群内に所在するものは上部配石のために耕作が深いところまで達せず、Ⅲd層で確認することができた。なお、遺構構築面も同じである。

【エ. 堆積状況】

遺跡内で確認された土坑481基のうち、人為堆積を示すもの422基(87.7%)、自然堆積を示すもの15基(3.1%)、不明44基(9.2%)で、圧倒的に人為により埋め戻されたものが多い。

万座隣接地

自然堆積を示すもの6基、人為堆積を示すもの218基、不明17基である。人為堆積を示すものは黒色土・黒褐色土が埋土のベースとなるがブロック的であり、暗褐色、黄褐色土やシラスの混入がみられた。

万座北側地区

自然堆積を示すもの5基、人為堆積を示すもの81基、不明15基である。人為堆積を示すものは黒色土、黒褐色土をベースとしている。しかも埋土はブロック的で、暗褐色、黄褐色土やシラスの混入がみられた。人為堆積を示す第401号土坑や第437号土坑など計8例では、土砂とともに拳大から人頭大の川原石・角礫が投げ込まれたものもある。

万座西側地区

自然堆積1基、人為堆積11基、不明1基である。人為堆積を示すものは同隣接地・北側地区と同様に黒褐色土、黒色土をベースとしている。その断面はブロック的で、混入物として炭化物、混入土として暗褐色土・黄褐色土を含むものが多い。第04号土坑(G4区)からは粘性のある灰白色土が底面に盛り上げられた状態で堆積していた。

万座南側地区

すべて人為堆積である。黒色土、黒褐色土をベースとする。土層断面はブロック的で、黄褐色土を混入していた。

野中堂隣接地

自然堆積5基、人為堆積92基、不明8基である。自然堆積を示すものは列石の北側と南西側に分布する。人為によるものは黒色土や黒褐色土がブロック的に堆積しており、黄褐色土や褐色土、炭化物などが混入している。

一本木後口地区

すべて人為堆積である。単層となるものはなく黒色土、黒褐色土がブロック的に遺構内に充填され、黄褐色土が多量に混入しているものもあった。なお、本地区の配石遺構に特徴的に見られた底面の赤色範囲は土坑においては認められなかった。

【オ. 出土遺物】

全土坑のうち309基(64.2%)から遺物が出土した。

万座隣接地

遺構内より完形・復元土器36点(28基)、石器156点(65基)、土製品130点(46基)、石製品12点(12基)、自然遺物(炭化堅果類、黒色樹脂3基)が出土した。

完形・復元土器は深鉢形土器、鉢形土器、壺形土器、片口土器の器種がみられる。斜縄文、撚糸文、無文のものが多い。文様が施文されるものは土器上半に文様帯をもち、沈線や帯縄文によって文様が施文されている。沈線では曲線文や楕円形文、弧線文が、帯縄文では入組文、花卉状文、鍵状文が多く後期前葉・十腰内I式の特徴をもっている。

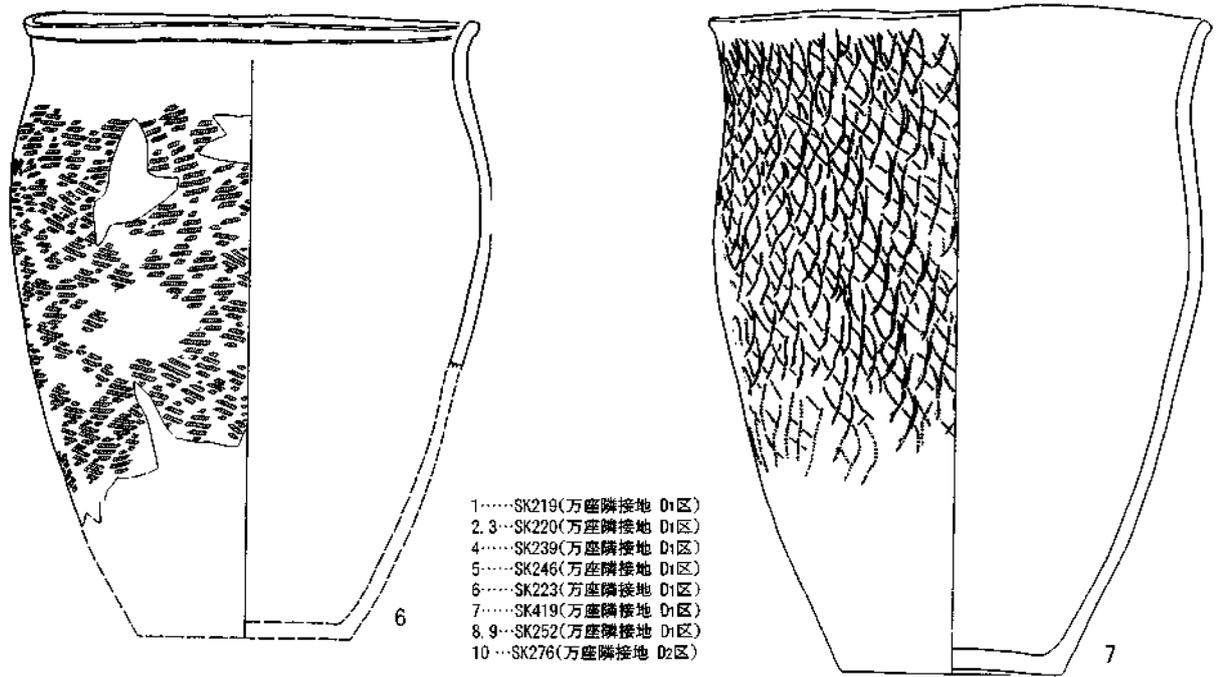
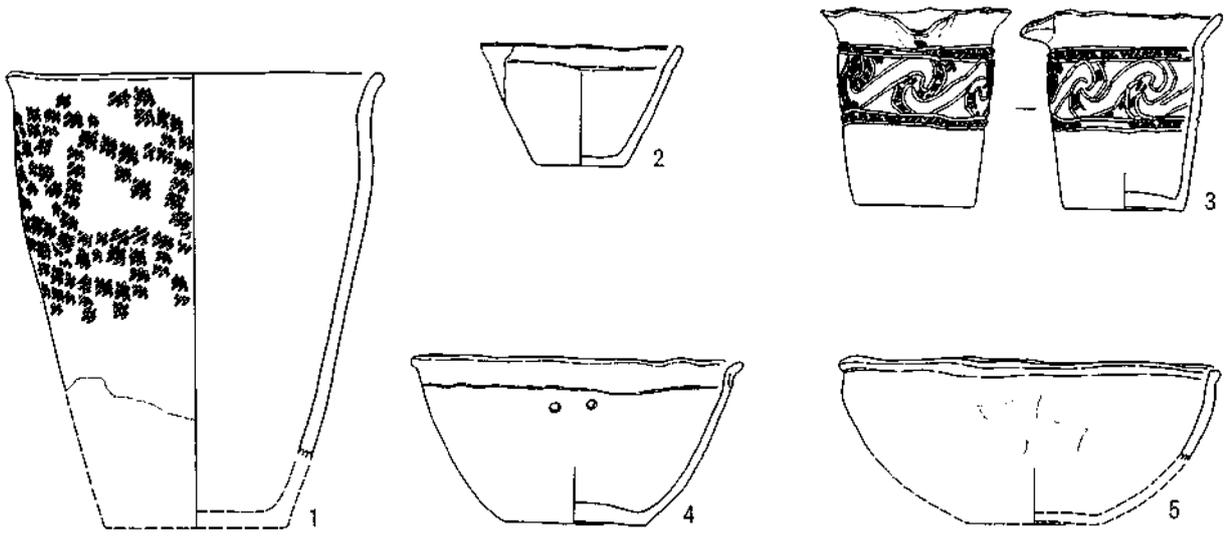
土器のほかに、鐔形土製品・キノコ形土製品・土偶・耳飾のほかに多量の土器片利用土製品などの土製品、イモガイ状石製品、円盤状・球状石製品などの石製品が出土している。

炭化堅果類を出土するものもあり、第252号土坑からは331点ものクリが出土した。

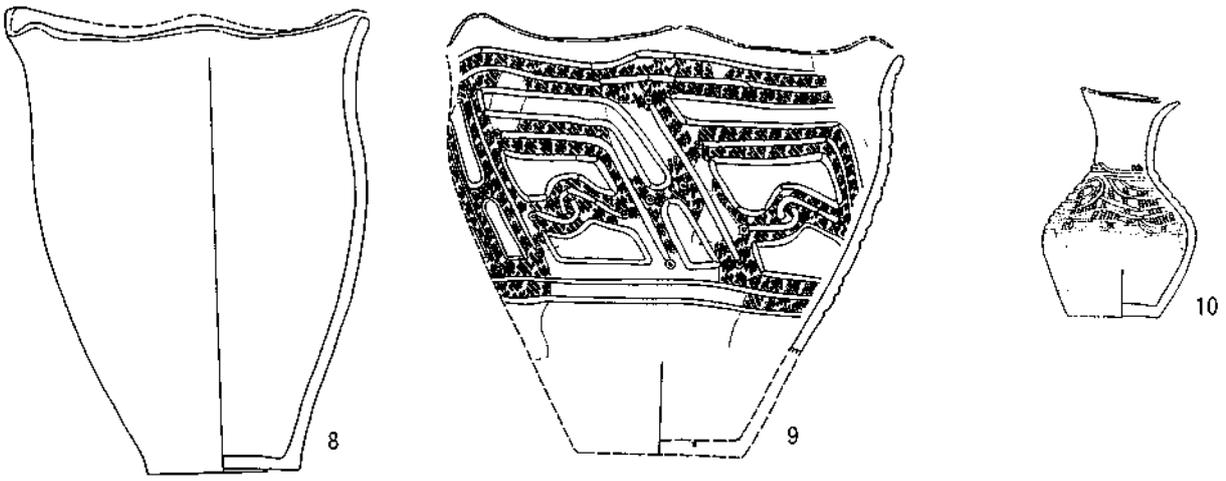
万座北側地区

遺構内より完形・復元土器14点(11基)、石器77点(31基)、土製品30点(17基)、石製品10点(9基)が出土した。

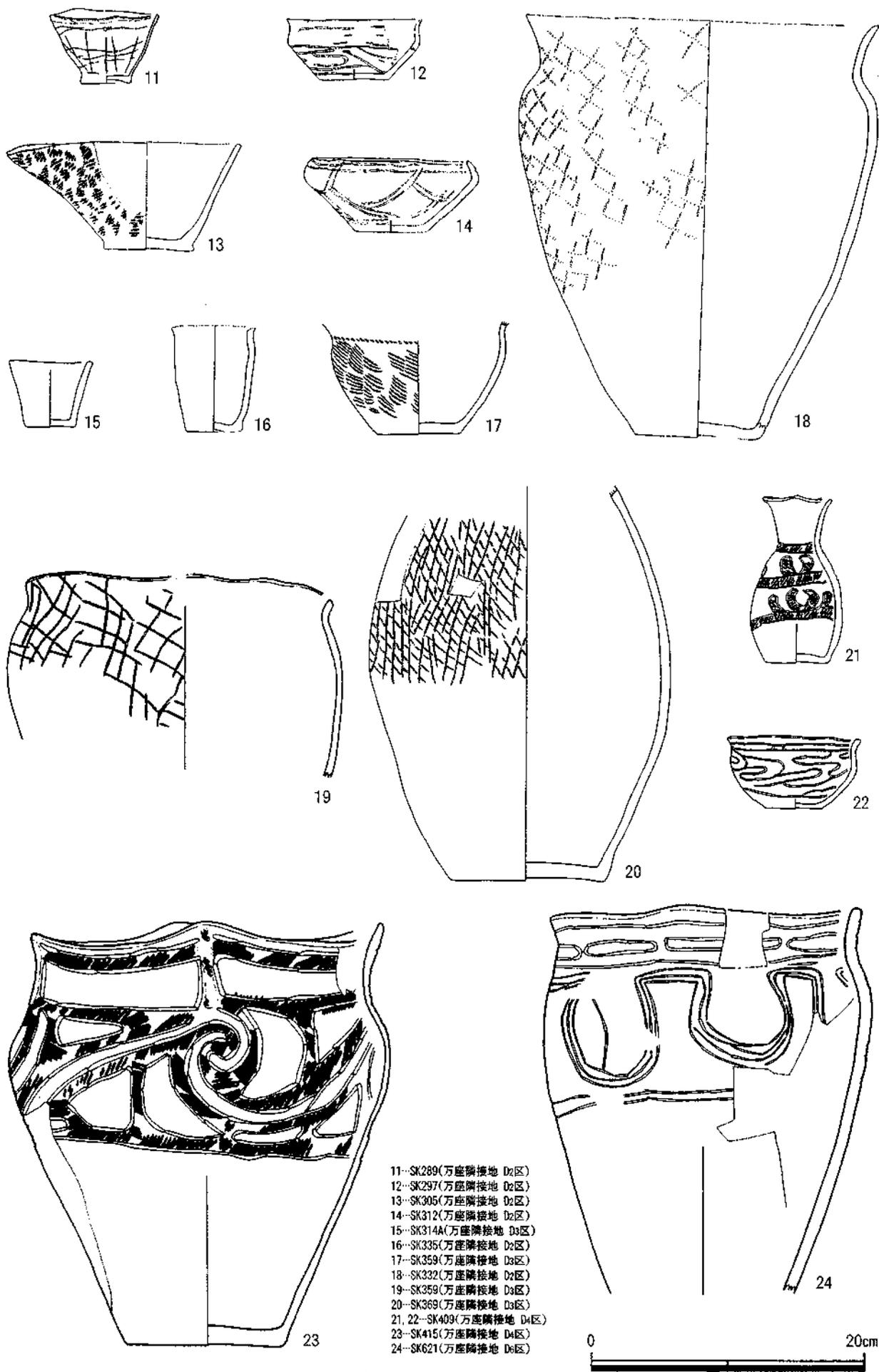
土器は深鉢形土器を主体に、壺形土器、片口土器、蓋形土器がみられる。深鉢・片口土器は胴部上半または2/3に文様帯を持つ。沈線文が施文されるものは隆沈線を区画文とし弧線文や曲線文・渦巻文などが施文される。帯縄文により文様が施文されるものは胴部上半に文様帯を持ち、入組文や花卉文、幾何学文などが主文様となる。



- 1.....SK219(万座隣接地 D1区)
- 2,3...SK220(万座隣接地 D1区)
- 4.....SK239(万座隣接地 D1区)
- 5.....SK246(万座隣接地 D1区)
- 6.....SK223(万座隣接地 D1区)
- 7.....SK419(万座隣接地 D1区)
- 8,9...SK252(万座隣接地 D1区)
- 10...SK276(万座隣接地 D2区)

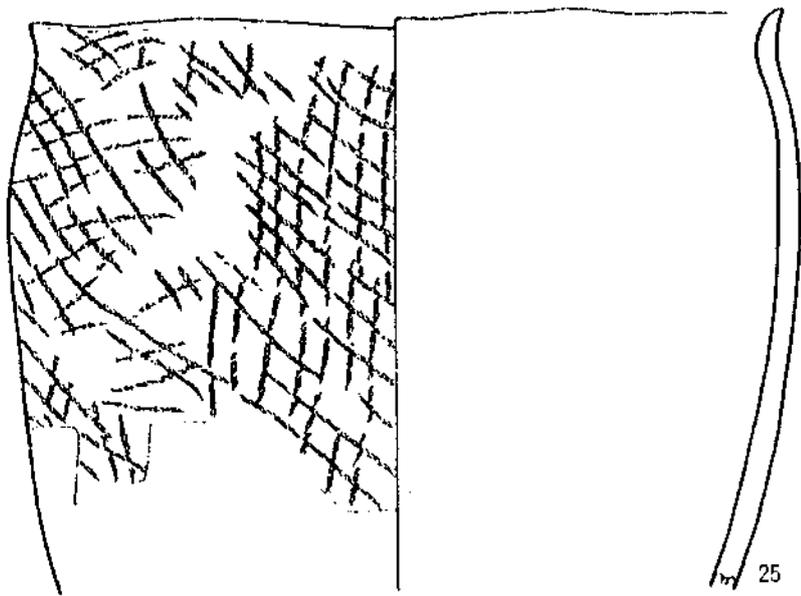


第133图 土坑出土土器(1)

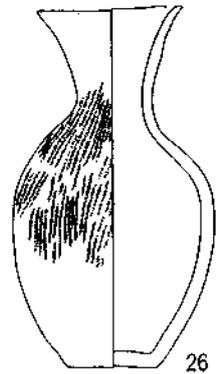


- 11--SK289(万座隣接地 D2区)
- 12--SK297(万座隣接地 D2区)
- 13--SK305(万座隣接地 D2区)
- 14--SK312(万座隣接地 D2区)
- 15--SK314A(万座隣接地 D3区)
- 16--SK335(万座隣接地 D2区)
- 17--SK359(万座隣接地 D3区)
- 18--SK332(万座隣接地 D2区)
- 19--SK359(万座隣接地 D3区)
- 20--SK369(万座隣接地 D3区)
- 21, 22--SK409(万座隣接地 D4区)
- 23--SK415(万座隣接地 D4区)
- 24--SK621(万座隣接地 D6区)

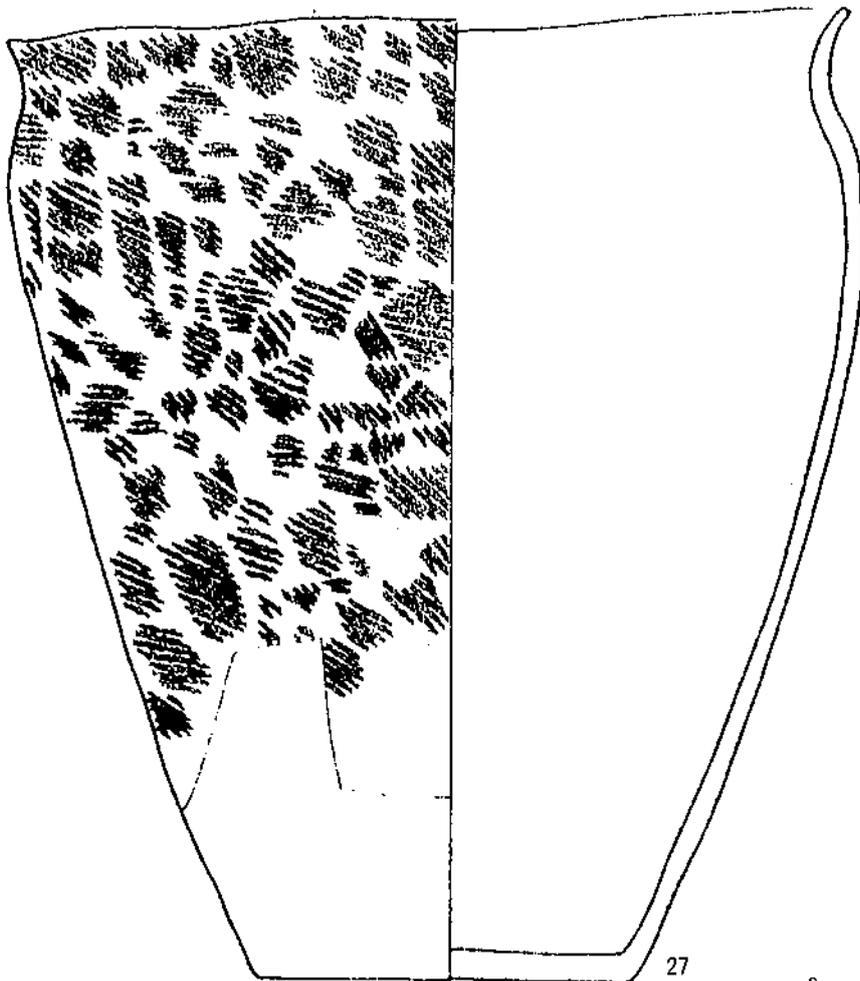
第134图 土坑出土土器(2)



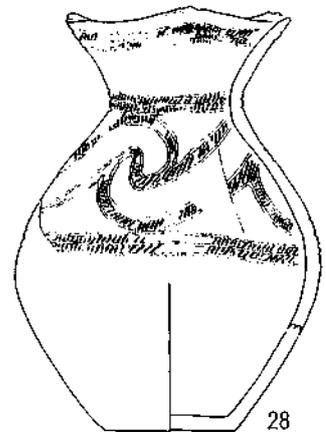
25



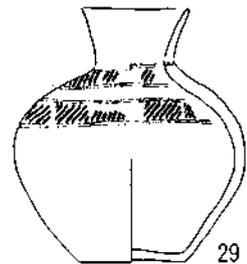
26



27



28

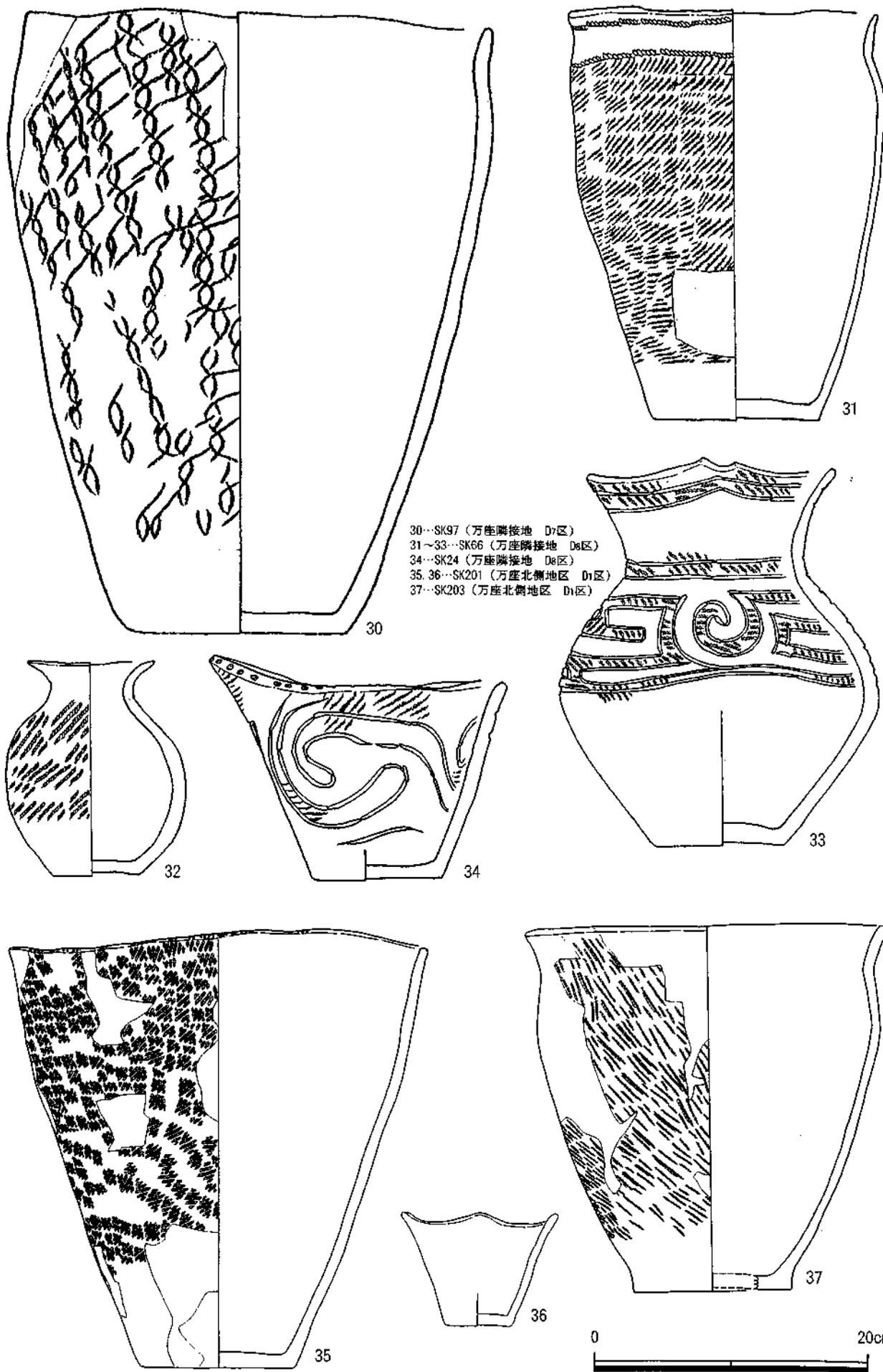


29

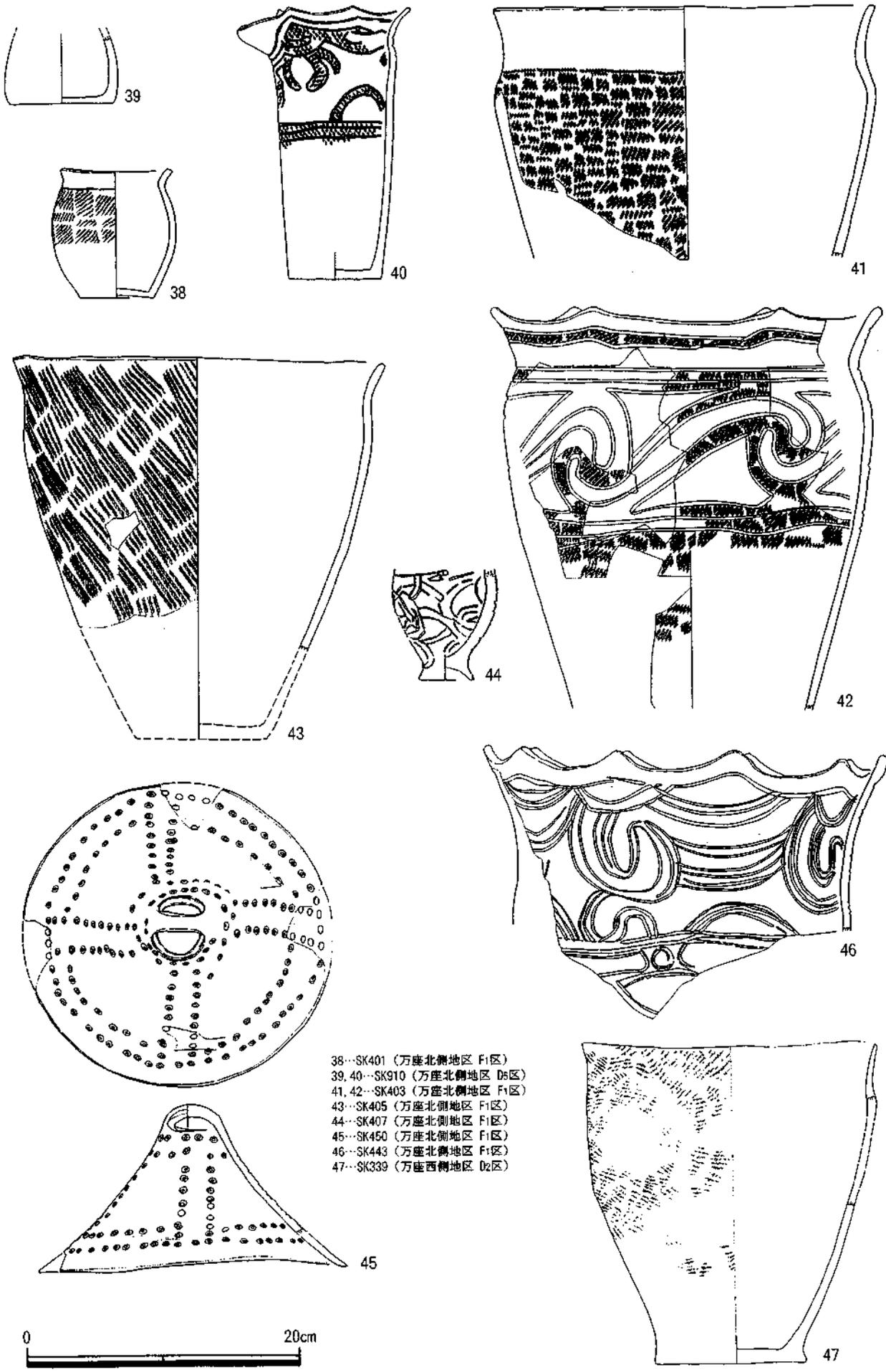
- 25.....SK21(万座隣接地 D7区)
- 26.....SK21(万座隣接地 D7区)
- 27、28.....SK21(万座隣接地 D7区)
- 29.....SK21(万座隣接地 D7区)



第135图 土坑出土土器 (3)

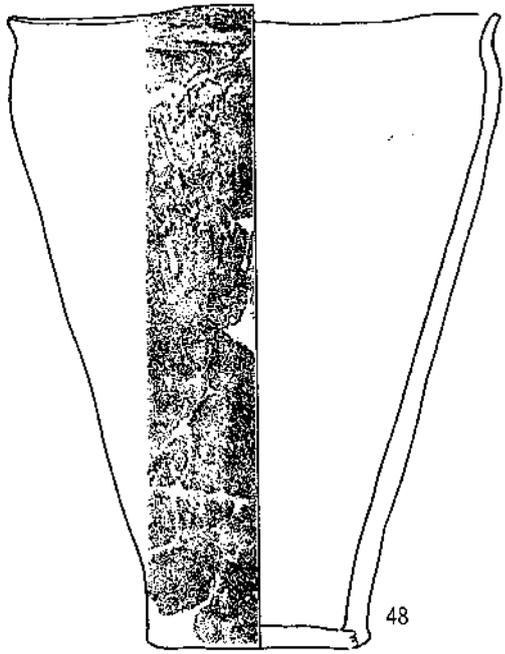


第136图 土坑出土土器 (4)

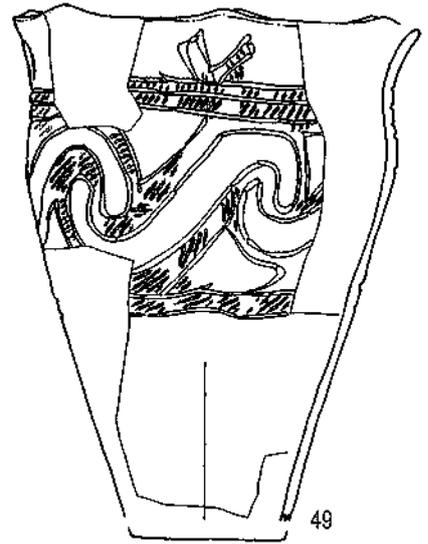


- 38--SK401 (万座北側地区 F1区)
 39, 40--SK910 (万座北側地区 D5区)
 41, 42--SK403 (万座北側地区 F1区)
 43--SK405 (万座北側地区 F1区)
 44--SK407 (万座北側地区 F1区)
 45--SK450 (万座北側地区 F1区)
 46--SK443 (万座北側地区 F1区)
 47--SK339 (万座西側地区 D2区)

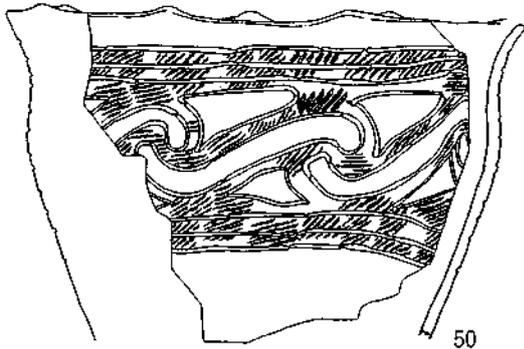
第137图 土坑出土土器 (5)



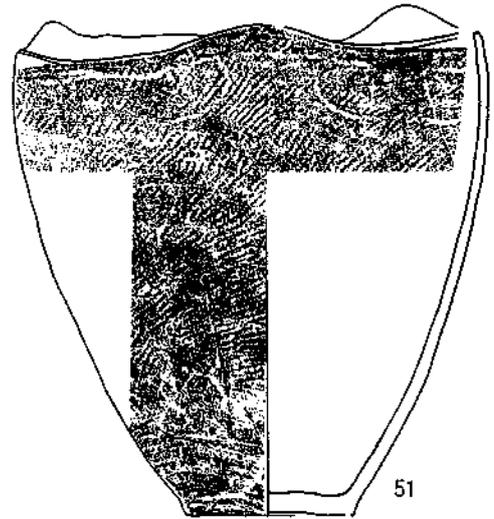
48



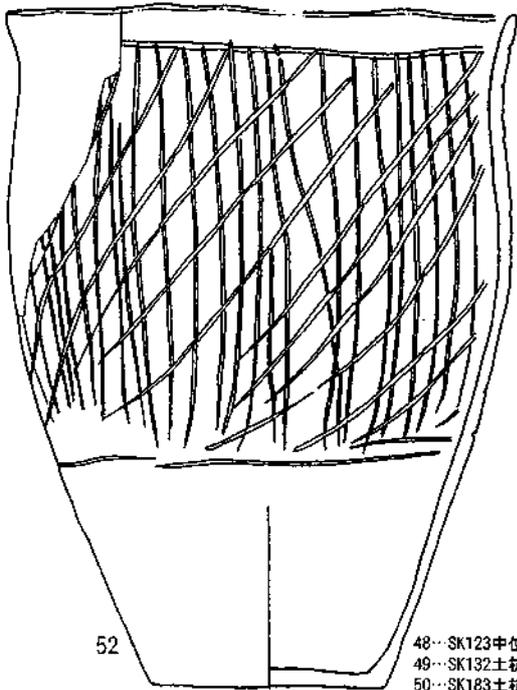
49



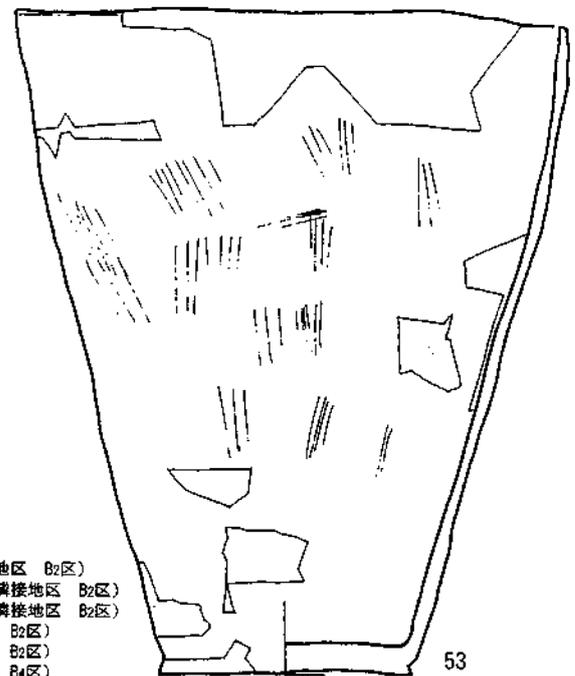
50



51



52



53

- 48...SK123中位 (野中堂隣接地区 B2区)
- 49...SK132土坑上位 (野中堂隣接地区 B2区)
- 50...SK183土坑中位 (野中堂隣接地区 B2区)
- 51...SK162 (野中堂隣接地区 B2区)
- 52...SK189 (野中堂隣接地区 B2区)
- 53...SK212 (野中堂隣接地区 B4区)

0 20cm

第138图 土坑出土土器 (6)

土器と共に、耳飾・装飾品などの土製品、球状石製品・軽石石製品などが出土しているが、その量は万座隣接地と比較すると少量である。

万座西側地区

土坑出土の土器で復元されたものは第339号土坑出土のもの1点である。深鉢形土器で斜縄文が施文されている。

万座南側地区

復元された土器は出土していない。第705号土坑から13点の土器片が出土している。これらは同一個体で、波状口縁を呈する深鉢形土器で帯縄文を使用し入組文が主文様として施文されている。

野中堂隣接地

調査が環状列石全周に及んでいないことから、遺物の出土量は少ない。また万座隣接地と比較しその量は少ない。復元土器7点(6基)、石器24点(15基)、土製品12点(8基)、石製品6点(5基)が出土した。

完形・復元土器7点が出土している。万座隣接地では17点もの完形・復元土器が出土したものがあつたが、野中堂隣接地ではそのように多量に出土するものはない。遺構内出土土器で復元できたものは深鉢形土器であるが、このほかに鉢形土器、壺形土器などの器種もみられる。隆沈線が施文された土器は万座隣接地より多く、変形楕円形文や幾何学文が施文されている。

沈線により文様が施文されるものは胴部2/3に文様帯を持ち、隆沈線を区画文とするものもある。格子目状沈線文や弧線文、楕円形文などが主文様として施文されている。帯縄文により文様が施文されるものは胴部上半に文様帯を持ち、入組文や曲線文が施文される。

一本木後口地区

遺物が出土する土坑は少ない。深鉢形土器の破片がほとんどである。復元された土器はなく文様構成を確認できるものはない。沈線文や帯縄文が施文されている。

【カ. 重複関係】

詳細な重複関係は第91表～110表を参照。代表的な重複関係を抜きだし、地区ごとの遺構の流れを確認する。

万座隣接地

遺構の密集度が最も高い地区である。土坑と万座隣接地で確認されている遺構との重複関係を示す。

環状列石 SK43→万座南側出入口(D8区)

環状配石遺構 SK88・94→SX(S)01(D8区)

配石遺構 SK245→SK241→SX(S)221(D1区)

柱穴状ピット SK231→Pit336(D1区)、SK239→SK236→Pit170(D1区)

SK276→SK275→Pit515(D2区)、SK285→SK299→SK321→Pit515(D2区)

SK308→SK309→Pit8(D3区)、SK(F)316→SK325→Pit2・28(D3区)

SK419→Pit21(D4区)、SK613→Pit668(D6区)

SK45→SK46→Pit17(D7区)、SK69→SK24→Pit95(D8区)

Pit328→SK227B(D1区)、Pit113・248→SK258→Pit83(D1区)

	Pit99→SK63→SK35(D8区)
掘立柱建物跡	SK315→SB307(D3区)、SK610→SB601・603(D6区)、 SK613→SB606(D6区)、SK23→SB05(D8区)、SK54→SB11A・11B(D8区) SB221A→SK289(D2区)、SB221A→SK353→SK291・297(D2区) SB221B→SK289(D2区)
土 坑	SK247→SK246(D1区)、SK281→SK268→SK296(D2区) SK298→SK297→SK296→SK353(D2区)、 SK635→SK634→SK632(D6区)、SK42→SK43→SK74(D7区)
フラスコ状土坑	SK(F)316→SK325→Pit2・28(D3区)、SK(F)18→SK21→SK22(D7区) SK(F)52→SK51→SK99(D7区) SK256→SK237→SK(F)238(D1区)、SK268→SK269→SK(F)273(D2区) SK335→SK(F)313→SK(F)331(D2区)、SB221B→SK353→SK(F)296(D2区) SK394→SK(F)394(D3区)、SK406→SK(F)413(D4区)、 SK19→SK(F)18(D7区)、SK62→SK63→SK(F)75(D7区) SK(F)34→SK35→SK70→SK(F)68→SK63→Pit95(D8区)
Tピット	SK(T)376→SK363B

列石隣接地から検出された遺構は多種多様で、これらは重複関係を持ちながら、同列石を意識しながら構築されているものが多い。

環状列石本体と重複するものは1例あり、土坑が古い。万座環状列石に伴う出入口状施設と重複するものが多数あり、その新旧関係は出入口施設が新しい。このことから列石出入口は最も新しい時期のものであることがわかる。

配石遺構と重複するものは一例あり、配石遺構が新しい。第221号配石遺構は列石に近いことを考慮すると構築時期は列石とほぼ同時期と見てよい。このことから列石隣接地に分布する配石遺構は土坑より新しいものと考えられる。

環状配石遺構との重複例は4例で、環状配石遺構が新しい。

柱穴状ピットとの重複例は62例で、そのほとんどはピットに切られている。この逆を示すものもあり万座環状列石の北側・南側隣接地で顕著である。

土坑と掘立柱建物跡の分布範囲は非常に類似しているが、柱配置（掘立柱建物跡）を確認し得たものとの重複は少ない。掘立柱建物跡に切られるもの5例、その逆を示すもの3例である。掘立柱建物跡に前後して構築時期に二つの時期が想定でき、前者はⅢ類掘立柱建物跡、後者はⅠ類・Ⅱ類掘立柱建物跡との重複である。

土坑分布をみると構築場所が限定されていたことが看取される。このことから土坑同士の重複が最も多い。万座環状列石に伴った掘立柱建物跡をはさみ、前後に構築時期が認められる。掘立柱建物跡と同時期のものが存在することを考慮するとこの重複関係から3時期を想定できる。

フラスコ状土坑との重複も多い。重複には土坑→フラスコ状土坑、土坑→フラスコ状土坑→土坑、

フラスコ状土坑→土坑の3つの基本的な重複パターンがみられるが、フラスコ状土坑が土坑を切って構築されることが多い。基本的にはフラスコ状土坑をはさみそれに前後する構築時期が想定できるが、重複を示さないものもあり同時期のものがある可能性もある。このことから土坑の構築時期は大きくみて3つの時期の存在を想定できる。

Tピットとの重複は1例で土坑が新しい。隣接地に位置するTピットの重複例からTピットが最も古い時期に位置づけられる。

土坑を中心として列石隣接部の遺構の重複関係を観察すると、列石、配石遺構、環状配石遺構が土坑を切って構築されている。また、Tピットは土坑によって切られておりこの逆の重複関係は見当たらない。土坑と同時期・前後して構築されるものは柱穴状ピット、掘立柱建物跡、フラスコ状土坑である。しかも、掘立柱建物跡については形態Ⅲ～Ⅹ類としたものは土坑によって切られ、同Ⅰ類・Ⅱ類は土坑を切って構築されるという特徴がみられる。このことから万座隣接地では、次のような遺構の変遷が推定される。

Tピット→掘立柱建物跡(Ⅲ類)、土坑、フラスコ状土坑→万座環状列石、配石遺構、掘立柱建物跡(Ⅰ類・Ⅱ類)、土坑、フラスコ状土坑→環状配石遺構である。

万座北側地区

万座隣接地、野中堂隣接地に続き遺構密集度が高い地区で、多くの重複関係を示している。

- 環状配石遺構 SK66→SX(S)01→SX(S)04(F4区)、SK71→SX(S)04(F4区)、
SK73→SX(S)04(F4区)
- 配石遺構 SK222→SX(S)202(D1区)、SK406→SK405→SK409→SX(S)409(F1区)、SK406→SK409
→SX(S)409(F1区)
- 集石遺構 SX(S)402→SK434(F1区)
- 柱穴状ピット SK452→Pit26(F1区)、SK15→Pit25(F4区)、SK16→Pit26(F4区)
SK21→Pit7(F4区)、SK24→Pit28(F4区)、SK20→Pit190(F4区)、
SK33→Pit170(F4区)、SK42→Pit119(F1区)
Pit32→SK443→SK442(F1区)、Pit92→SK453(F1区)
Pit41～43→SK451(F1区)
- 掘立柱建物跡 SK215→SB201(D1区)、SK20→SB01(F4区) SK37→SB01(F4区)
SK42→SB10(F4区)
- 竪穴住居跡 SI408→SK443→SK442(F1区)、SI410→SK449→SK450(F1区)
- 竪穴遺構 SK907→SK906→ST901(F3区)、SB401→SK435→SI407→SI406(F1区)
- 土坑 SK202B→SK202A(D1区)、SK407→SK405(F1区)
SK432→SK431(F1区)、SK489→SK498(F2区)、SK907→SK906(F3区)、
SK393A→SK391(D3区)、SK31→SK32(F2区)、SK74→SK75(F4区)
- フラスコ状土坑 SK206→SK(F)205(D1区)、SK429→SK(F)419A(F1区)、
SK489→SK(F)490(F2区)、SK7→SK(F)6(F4区)、

SK39→SK(F)38(F4区)、SK(F)204→SK203(D1区)、

SK(F)504→SK503(F2区)

Tピット SK(T)470→SK478(F2区)

環状配石遺構との重複は3例で環状配石遺構が新しい。他遺構との重複関係でも環状配石遺構が最も新しいことが示されている。

配石遺構との重複は3例で配石遺構が新しく、万座隣接地と同様の遺構の過程を示している。遺構内の出土土器はほぼ同時期のものであるが、前後するか、同時期かの判断が難しい。

柱穴状ピットとの重複は17例である。上記の重複例からピットをはさみ、その前後に構築時期を想定することができる。しかし、土坑・柱穴状ピットからの出土土器の時期は同時期のものであること、重複関係を示さないものがあることから同時期のものがないとは否定できない。

掘立柱建物跡はいずれの重複関係でも掘立柱建物跡が新しい。第215号土坑は第VI類掘立柱建物跡と重複を示しており、万座隣接地とは逆の重複関係を示している。なお、これ以外のI類・II類掘立柱建物跡と重複する土坑との新旧は掘立柱建物跡が新しい。

同地区台地縁において堅穴住居跡と重複するものもある。この重複から堅穴住居より新しい土坑が存在することがわかる。しかし、土坑・住居跡からの出土土器は同時期のものであること、重複関係を示さないものがあることから同時期のものがないとは言い切れない。

土坑同士の重複も見られ、二つの時期の存在が想定される。しかし、重複した土坑からの出土土器は同時期のものであること、重複関係を示さないものがあることから同時期のものがないとは言い切れない。

フラスコ状土坑との重複もみられる。土坑を切って構築されるフラスコ状土坑が多く、この逆パターンは少ない。この重複関係からフラスコ状土坑をはさみ前後に土坑が構築されたことが伺える。

Tピットとの重複は1例で土坑が新しい。隣接地に位置するTピットの重複例からTピットが最も古い時期に位置づけられる。

土坑を中心に遺構の重複関係を整理すると、下記のような変遷を想定することができる。

Tピット、堅穴住居跡は土坑によって切られ、これ以降この地区ではこの両者は出現しない。一方土坑を切って構築されるものは配石遺構、環状配石遺構、掘立柱建物跡、堅穴遺構である。また土坑を切り、切られて存在するものは柱穴状ピット、土坑、フラスコ状土坑である。重複せず、出土土器が同一時期のものがあることから同時存在を考慮しなければならないが、本地区の遺構の変遷を次のように考えることができる。

Tピット→ 堅穴住居跡・土坑・フラスコ状土坑→ 配石遺構・掘立柱建物跡・土坑・フラスコ状土坑→ 環状配石遺構（重複から2時期あり）・堅穴遺構・フラスコ状土坑である。

万座西側地区

遺構数が少ないことから土坑との重複関係を示すものは少ない。万座環状列石から離れるにしたがって重複関係は少なくなっていく。

柱穴状ピット Pit21→SK08(G4区)

掘立柱建物跡 SB230→SK339(D2区)
 竪穴住居跡 SK10→SI01(D9区)
 土坑 SK06→SK07(G4区)
 フラスコ状土坑 SK03→SK(F)02(D9区)
 Tピット SK(T)343→SK342(D2区)

掘立柱建物跡と重複するものが1例ある。柱穴が土坑によって削除された可能性もあり、重複関係がはっきりとしない。

竪穴住居跡との重複も1例あり、万座北側地区の重複パターンとは逆の重複関係を示す。本地区及び北側地区の土坑構築時期をはっきりとしないけれども、土坑を切って構築された住居跡があることが本地区の調査で明らかとなった。

土坑同士、フラスコ状土坑との重複から2つの時期を想定することができる。

Tピットとの重複も1例であり土坑が新しい。隣接地に位置するTピットの重複例からTピットが最も古い時期に位置づけられると考えられる。

本地区のトレンチ調査によったことから平面的な遺構の分布、それに伴って確認しうる重複関係を十分に把握することが困難である。確認された遺構すべてを対象に、土坑を中心に本地区の重複関係を整理するとTピットは土坑に切られている。一方土坑は後期前葉の竪穴住居跡やフラスコ状土坑、土坑によって切られるものもある。

本地区の遺構の流れは、Tピット→竪穴住居跡(前葉)・土坑・フラスコ状土坑→竪穴住居跡(中葉)と考えられる。

万座南側地区

万座地区では最も遺構が希薄の地区であり、そのため重複を示すものは少ない。

フラスコ状土坑 SK(F)706→SK705

重複関係を示すものは少なく、詳細は不明である。

野中堂隣接地

万座隣接地に続き遺構密集度が高い地区で、多くの重複関係を示している。

環状列石 SK205、206、208、211、212、216～219、253、254、259→野中堂環状列石

柱穴状ピット SK103→SB02→Pit117・118(B2区)、SK157→Pit199(B2区)、
 SK(F)190→SK171→Pit423(B2区)、SK178→SK177→Pit420・421(B2区)

SK212→Pit441(B4区)、SK239→SK238→Pit610(B4区)

SK219→SK253→Pit433(B4区)

Pit212・146→SK110(B2区)、Pit162・163→SK117(B2区)

Pit451→SK216→Pit445(B4区)、Pit727→SK240(B4区)

掘立柱建物跡 SK156→SB210(B2区)、SK219→SB201(B4区)、

SK253→SB202→SK216(B4区)

SB200→SK171(B2区)、SB209→SK260(B4区)

竪穴住居跡	SK31→SI02→SK(F)32(B2区)、SK187→SI02(B2区) SK185→SI01(B2区)、SI01→SK260(B4区)
土 坑	SK123→SK178・192(B2区)、SK140→SK196(B2区)、 SK159→SK147(B2区)、SK178→SK177(B2区)、SK140→SK196(B2区) SK219→SK210(B4区)、SK254→SK211→Pit723(B4区) SK219→SK253→SK259(B4区)
フラスコ状土坑	SK132→SK(F)133(B2区)、SK151→SK(F)153(B2区)、 SK(F)124→SK125(B2区)、SK(F)191→SK192(B2区)、

列石隣接地から検出された遺構は多種多様で、これらは重複関係を持ちながら、同列石を意識しながら構築されている。同列石南側出入口は土坑が埋め戻された後に構築されている。この出入口が万座環状列石と同様に列石が作り終える直前のものであると想定すれば、土坑は列石の存続期間に構築され続けたものと考えられる。さらに掘立柱建物跡、フラスコ状土坑とも前後しながら重複関係にあることは、一定の時期に土坑だけが集中して構築され続けたということを示していない。

列石の存続期間、多種多様の遺構が交互しながら構築されたことをこの重複が示しているものと考えられる。

本地区の遺構の流れは、万座隣接地の遺構の流れと類似し、Tピット→土坑、フラスコ状土坑→野中堂環状列石、掘立柱建物跡（Ⅰ類・Ⅱ類）、土坑、フラスコ状土坑と考えられる。

一本木後口地区

重複関係を示すものは3例で、すべて土坑同士である。

土坑 SK11→SK10(A2区)、SK36→SK34(A3区)、SK37→SK35(A3区)

配石遺構との重複関係はみられない。本地区の配石遺構は「墓」として構築されたものである。配石墓は数基から群を構成し、この群が弧状に配置され墓域を作り出している。土坑はこの墓域内に構築され、墓域を構成している。土坑の重複は限定された区画内に造り続けられた結果である。

【キ. 時 期】

万座隣接地

『大湯町環状列石』の写真図版第65～68に収載された土器は列石隣接地から出土したものが含まれているが、それらから列石の時期を後期前葉～中葉と判断することができる。また、鹿角市教育委員会が行った発掘調査でも同時期の土器が出土している。

万座隣接地で検出された多くの遺構はこの列石を意識した配置を示しており、多くのものは列石と同様の時期が与えられるものと考えられる。

列石と重複・隣接するほとんどの土坑からは、後期前葉・十腰内Ⅰ式の特徴をもった土器が出土しているが、数例ではあるが後期中葉の土器を出土するものがある。これらは第219号(D1区)、228号(D1区)、300号(D2区)、314A号(D3区)、338号(D3区)の5基である。このことから後期中葉の時期には列石隣接地に構築される土坑が減少していくことが読みとることができる。

万座北側地区

遺構内出土の土器から後期前葉・十腰内Ⅰ式の時期を与えることができる。本地区の中央に円環を描くように配置された掘立柱建物跡(群)を意識した配置を示す土坑もあり、これらは相伴した可能性が極めて高く、しかも出土遺物(隆沈線が施文された土器の出現が高い)から万座環状列石より若干古いものと想定される。

本地区からは、後期中葉に構築された土坑は検出されていない。

万座西側地区

土坑は、出土遺物から後期前葉・十腰内Ⅰ式の時期が与えられ、重複関係から竪穴住居跡(前葉)・フラスコ状土坑が共存していたものと考えられる。

万座南側地区

遺構内外及び遺構確認面から後期前葉に構築された可能性が高い。

野中堂隣接地

遺構内出土遺物、遺構確認面から後期前葉の時期を与えることができる。これらは野中堂環状列石を意識した配置をとっており、列石と共存していたものと考えられる。同列石北側及び東側に未発掘部分を残しているが、現時点では後期中葉の土坑は検出されていない。

一本木後口地区

遺構内外より後期前葉の土器片が出土している。配石遺構群と一体となり墓域を構成している。このことから配石遺構と同じ時期が与えられる。

【ク、分 布】

万座隣接地

環状列石東側出入口から時計回りに北側出入口状施設にかけての密度が濃く、同北側出入口から東側出入口状施設にかけての分布が極めて薄い。

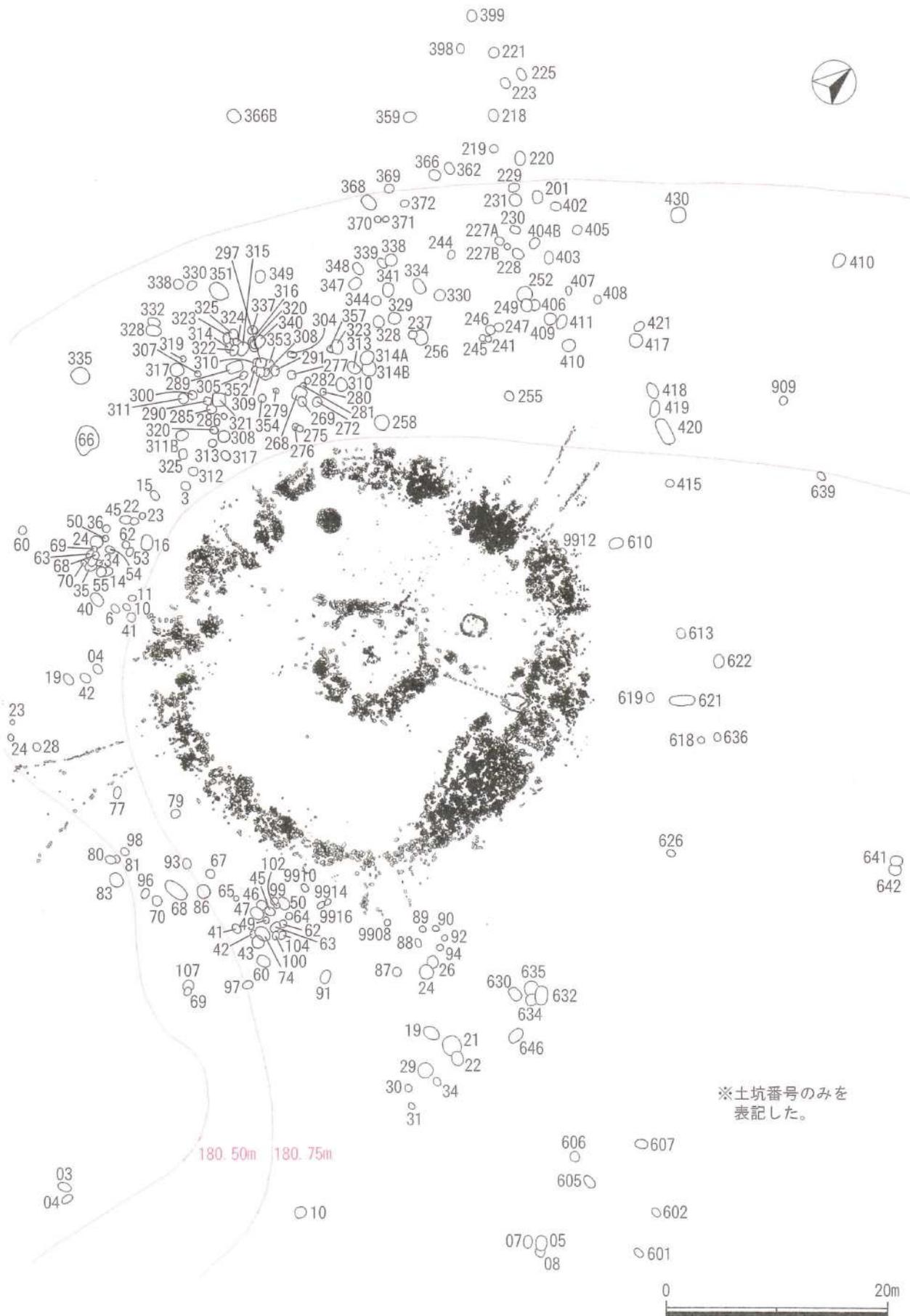
掘立柱建物跡の項で、掘立柱建物跡は重複や隙間の存在から数棟から構成されたグループとなり、このグループが万座環状列石の外帯配石群と対応しながら規則的に囲んでいるとした。これと同じように土坑においてもその傾向がみられる。すなわち掘立柱建物跡グループと重複し、さらにその範囲を外側に広げながら分布していることが第139図から看取され、この状況は東側出入口から万座日時計間が顕著である。

これとは反対に、同列石北東側では掘立柱建物跡グループとは重複せず、大きく外側に分布を広くしている。この傾向は同列石東側出入口でもみられ、同列石東側を中心とした地域ではその分布が希薄となる。この地区の掘立柱建物跡は構築時期が後期中葉まで継続されること、万座環状列石の東側外帯の配石遺構が濃いことがこの現象に何らかの原因を与えているものと考えられる。

万座北側地区

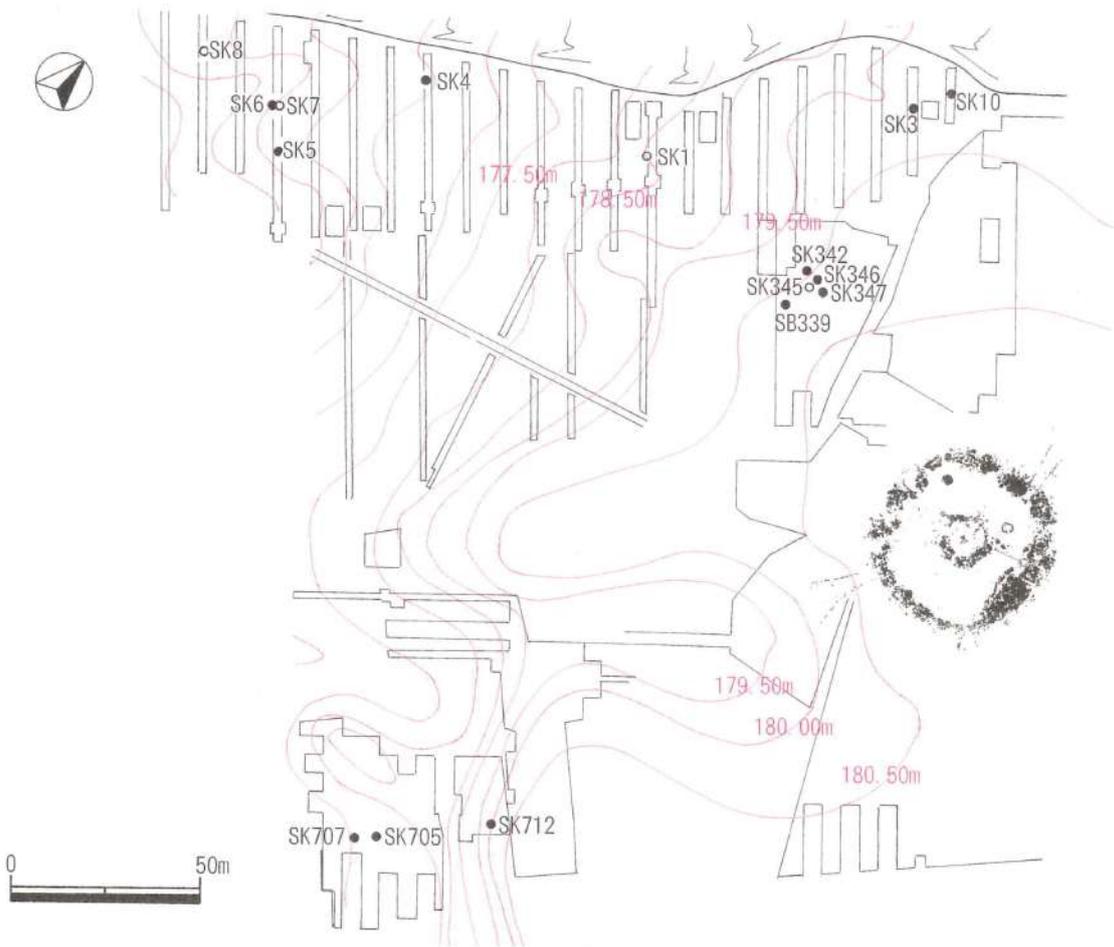
5本柱建物跡(SX(S)201)の南西側、環状に配置された掘立柱建物群周辺の分布密度が高い。

掘立柱建物群は12棟で構成され、その径は約54mである。土坑は掘立柱建物跡で構成された環内または平行して掘立柱建物跡の周辺に分布しており、有機的な配置を示している。土坑の構築時期は後期前葉であり、掘立柱建物跡の構築時期と一致する。

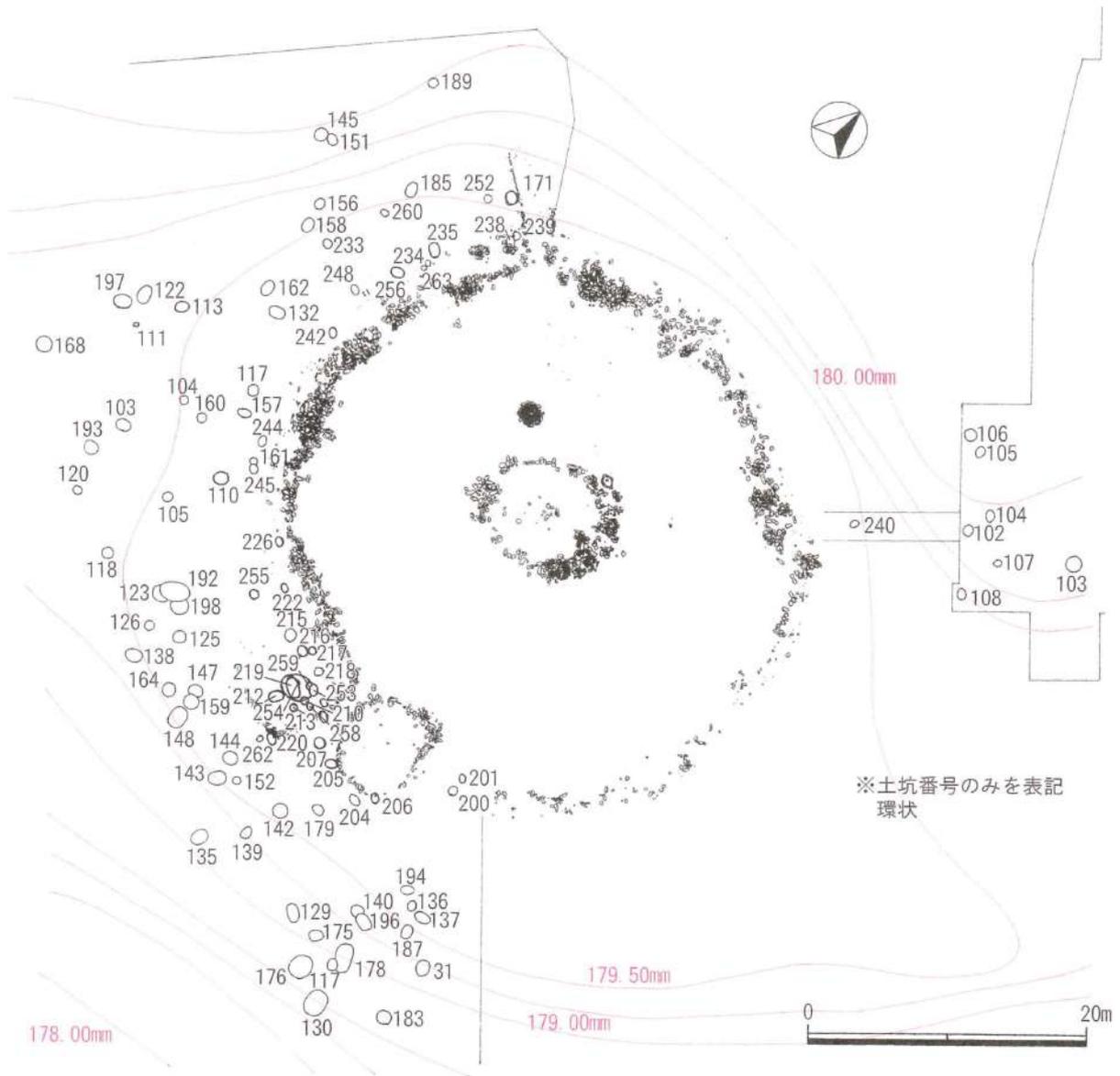




第140图 土坑分布图（万座北侧地区）



第141图 土坑分布图（万座西侧·南侧地区）



第142図 土坑分布図（野中堂隣接地）

万座西側地区

竪穴住居跡が検出されている地区でもあり、住居跡との有機的なつながりを示しているものと考えられる。トレンチ調査という性格上、遺構の面的な広がりを把握するにはある程度の制約が生まれるが、未発掘部分に住居跡と対応する土坑が存在するものと推定される。

万座南側地区

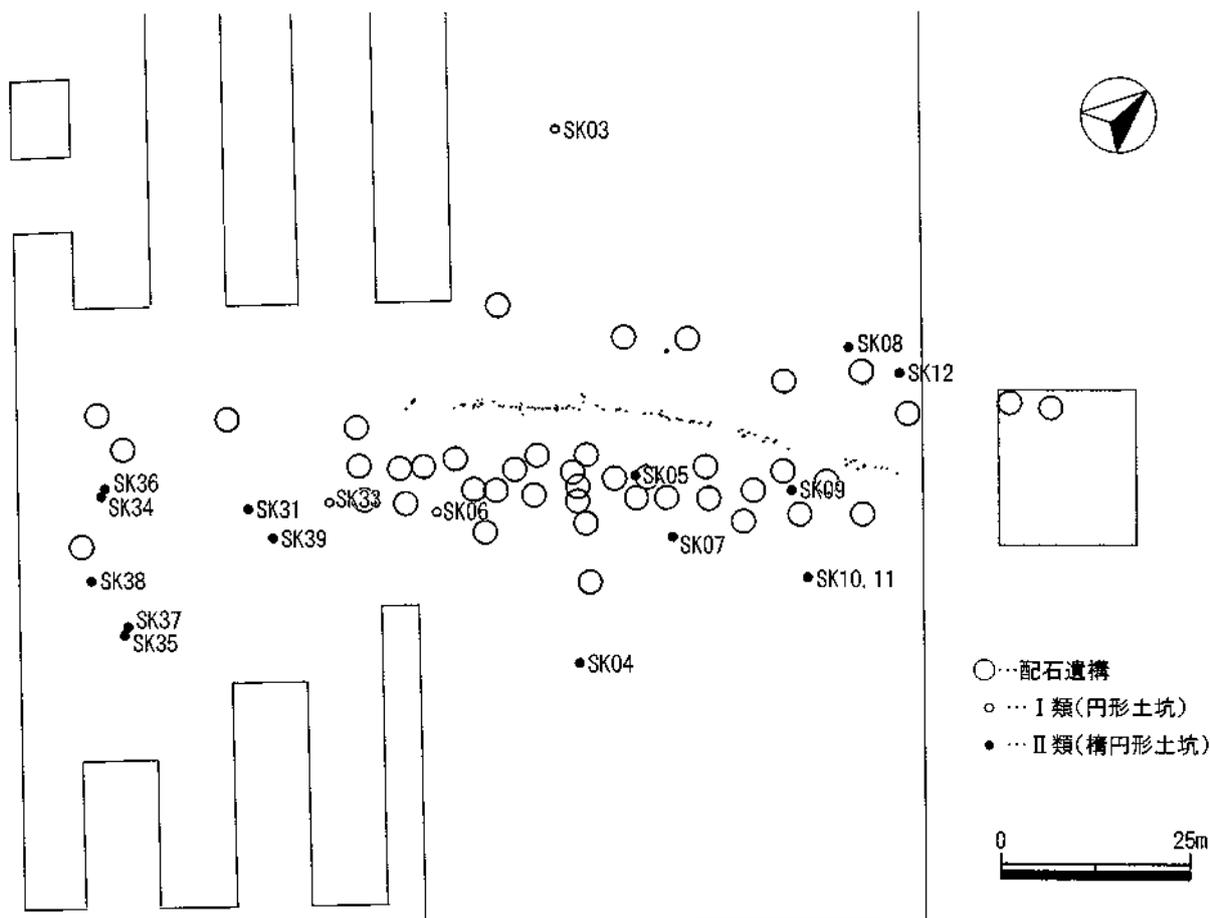
土坑検出例は少ない。同地区に所在する配石遺構群に隣接して構築されるものもある。

Tピットやフラスコ状土坑のような地形を考慮した分布はみられない。

野中堂隣接地

野中堂環状列石東側・北側に未発掘部分を残すが、その配置を推察することができる。

第142図から列石を囲むように土坑が分布していることがわかる。万座隣接地の土坑分布と比較し、その密度は低いが、万座隣接地と同様に数基～十数基のグループを構成していることが看取される。



第143図 土坑分布図（一本木後口地区）

列石南側の出入口部と接するように分布するものや、竪穴住居跡に隣接して分布するものがある。
一本木後口地区

本地区の主要遺構である配石遺構は「配石墓」として捉えることができる。配石遺構は密度・空白部から数基から構成される群をつくりだし、この群が弧状を描くように配置されている。本地区で検出された土坑のうち第02号土坑を除いた土坑はこの群の中に分布し、配石遺構数基から構成されたグループに内在している。

【ケ. 性 格】

万座隣接地

土坑はその分布状況から万座環状列石、それを囲む建物跡と有機的な結びつきを示している。土坑は円形又は楕円形を呈している。特に楕円形土坑の長軸方向は万座環状列石から放たれた求心線に対して平行・直交し、列石を意識した長軸方向をとっている。人為に埋め戻されたものが多く、遺構内からは副葬品として埋納されたと考えられる土器、土製品(土偶・鐸形土製品・耳飾)、石製品(有孔石製品・イモガイ状石製品)が出土している。

土坑については「列石を意識した長軸方向(求心線と平行か直交か)を示すもの、人為に埋め戻されたもの、副葬品と考えられる遺物が出土する」の条件を満たしたものは「土坑墓」としての機能を有していたものと考えられる。

万座北側地区

環状を呈するように配置された掘立柱建物跡に接して構築された土坑が特徴的な分布を示しており、万座・野中堂環状列石隣接地の遺構配置に類似した様子を示している。

これらは万座・野中堂隣接地で検出された土坑のように長軸方向は規則性がみられないが、101基中、第202A号、503号土坑など5基が自然堆積を示す以外は、人為による埋め戻しが行われていた。また、副葬品と考えられる土器、土製品、石製品の出土率は同地区内に分散して分布する土坑よりも極めて高い。

このことから掘立柱建物跡に隣接し、配置されるものについては「列石と土坑の配置の類似性」、堆積状況、副葬品の出土頻度から「土坑墓」としての機能が考えられる。

万座西側地区

他地区で検出された土坑と同様に平面形は円形または楕円形を呈し、人為による埋め戻しが行われていたが、副葬品と考えられる遺物の出土は少なく、「土坑墓」としての認定条件を欠くものが多い。

本地区では住居跡が検出されていること、同時期の埋葬区が環状列石とその隣接地に集約されることから「土坑墓」としての機能とは別の性格を考える必要性がある。

万座南側地区

配石遺構群に隣接した土坑は人為に埋め戻されていること、配石遺構群に接し、土坑長軸が配石遺構下部の土坑と同一方向を向くことから「土坑墓」と判断される。

野中堂隣接地

土坑はその分布状況から、野中堂環状列石それを囲む掘立柱建物跡と有機的な結びつきを示している。楕円形を呈する土坑の長軸方向は列石の中心を意識して構築され、その向きは求心線に対して平行もしくは直交している。堆積土は第102号・125号などの計5例を除き、人為に埋め戻しが行われていた。副葬品として判断されるものは少ないが第132号土坑からは深鉢形土器・鐔形土製品が出土している。

土坑については、万座隣接地と同様に「列石を意識した長軸方向(求心線と平行か直交か)を示すもの、人為に埋め戻されているもの、副葬品と考えられる遺物が出土する」の条件を満たすものについては「土坑墓」としての機能を有していたものと考えられる。

一本木後口地区

第02号土坑を除くものは「配石墓群」に内在している。形態は楕円形を基本とし、長軸は100cm前後をはかる。長軸方向はおおむね同地区の配石遺構下部の土坑と同一方向を指し、堆積土は人為による埋め戻しが行われていた。このことから、配石墓群内に位置する土坑については立地的な要因と配石遺構の性格を照らし合わせ「土坑墓」と考えられる。

第91表 土坑(万座隣接地区1)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	形態	規模 (cm・㎡) 長軸×短軸×深さ・面積	長軸方向	出土遺物	埋土	新旧関係	構築 時期
1	SK218 (報文4)	D1区 YC-92	(Ⅲd層上面)	楕円形	144×121×42 1.38	N49W	石鏃3点 土器片550点 円盤状石製品1点 復元土器・石鏃各1点 土器片利用土製品1点	人為		後期 前葉
2	SK219 (報文4)	D1区 YB-92	(Ⅲd層上面)	円形	80×80×20 0.50		土器片20点 復元土器・播磨各1点	人為		後期 前中葉
3	SK220 (報文4)	D1区 YB-92	(Ⅲd層上面)	楕円形	176×137×40 1.92	N57W	石鏃2点 土器片280点 凹石・石鏃各1点 円盤状石製品1点 土器利用土製品5点 復元土器・播磨各3点	人為		後期 前葉
4	SK221 (報文4)	D1区 YD-92	(Ⅲd層上面)	円形	115×110×64 0.99		磨石2点 土器片20点 土器片利用土製品1点	人為		後期 前葉
5	SK223 (報文4)	D1区 YD-92	(Ⅲd層上面)	楕円形	127×103×36 1.04	N77W	土器片20点 復元土器・凹石各1点	人為		後期 前葉
6	SK225 (報文4)	D1区 YD-92	(Ⅲd層上面)	楕円形	136×90×39 1.00	N79W	土器片数点 土器片利用土製品1点	人為		後期 前葉
7	SK227A (報文4)	D1区 ZZ-92	(Ⅲd層上面)	楕円形	110×100×60 0.87	N59E	石鏃2点 土器片100点 土器片利用土製品1点	人為	SK227A →Fit327	後期 前葉
8	SK227B (報文4)	D1区 ZZ-92	(Ⅲd層上面)	円形	76×74×34 0.44		土器片10点 土器片利用土製品1点	人為	Fit328 →SK227B	後期 前葉
9	SK228 (報文4)	D1区 ZZ-93	(Ⅲd層上面)	楕円形	134×101×34 1.08	N78E	土器片50点 石鏃・凹石各1点	人為	SK228 →Fit329	後期 前中葉
10	SK229 (報文4)	D1区 YA-92	(Ⅲd層上面)	楕円形	117×108×36 0.99	N2E	土器片100点 石鏃・播磨・石製品各1点	人為		後期 前葉
11	SK230 (報文4)	D1区 ZZ-92	(Ⅲd層上面)	楕円形	118×96×26 0.89	N53E	土器片20点 土器片利用土製品1点	人為		後期 前葉
12	SK231 (報文4)	D1区 YA-92	(Ⅲd層上面)	楕円形	144×130×58 1.47	N44W	土器片100点 円盤状石製品1点 播磨・凹石・磨石各1点 土器片利用土製品5点	人為	SK231 →Fit336	後期 前葉
13	SK233 (報文4)	D1区 ZZ-92・93	(Ⅲd層上面)	楕円形	× ×106		土器片15点 土器片利用土製品1点	人為	SK233→SK(F)232 SK404B	後期 前葉
14	SK236 (報文4)	D1区 ZW-89	(Ⅲd層上面)	楕円形	× ×24		土器片10点	人為	SK239→SK236 →Fit307 SK314A	後期 前中葉
15	SK237 (報文4)	D1区 ZW-90	(Ⅲd層上面)	楕円形	109×86×56 0.75	N68E	土器片90点 土器片利用土製品4点 石鏃・有孔石製品各1点	人為	SK239→SK236 Fit170 SK314A	後期 前葉
16	SK239 (報文4)	D1区 ZW-89	(Ⅲd層上面)	楕円形	×176×58		復元土器1点 土器片120点 多量の珪を含む炭化穀類	人為	SK239→SK236 Fit170 SK314A	後期 前葉
17	SK241 (報文4)	D1区 ZX-91・92	(Ⅲd層上面)	円形	76× ×88 0.45		土器片90点 円盤状石製品1点 土器片利用土製品3点 有孔石製品・播磨各1点	人為	SK245 →SK241 →SK(S)221	後期 前葉
18	SK244 (報文4)	D1区 ZZ-91	(Ⅲd層上面)	楕円形	94×71×28 0.53	N52W	土器片60点	人為	SK244→Fit296 Fit299	後期 前葉
19	SK245 (報文4)	D1区 ZX-91・92	(Ⅲd層上面)	円形	80× ×74 0.50		土器片20点 土器片利用土製品2点	人為	SK245→ST202 SK241	後期 前葉
20	SK246 (報文4)	D1区 ZX-91・92	(Ⅲd層上面)	楕円形	132×120×60 1.25	N77W	土器片240点 復元土器・播磨各2点 土器片利用土製品6点	人為	SK247 →SK246	後期 前葉
21	SK247 (報文4)	D1区 ZX-92	(Ⅲd層上面)	楕円形	133×106×50 1.12	N45E	黒色樹脂塊 土器片200点	人為	SK247→SK246 Fit169	後期 前葉
22	SK249 (報文4)	D1区 ZX・ZY-92	(Ⅳ層下面)	楕円形	184× ×66	N62W	深鉢形土器1点	人為	SK(F)250-251・SK252 Fit314・315→SK249	後期 前葉
23	SK252 (報文4)	D1区 ZY-92	(Ⅳ層下面)	楕円形	× ×48		深鉢形土器2点	人為	SK(F)250-251→SK252 →SK249・Fit283・284	後期 前葉
24	SK254 (報文4)	D1区 ZY-91	(Ⅲd層上面)	円形	98× ×36 0.75		土器片10点	人為	(10)SK330	後期 前葉

第92表 土坑(万座隣接地区2)

No.	遺構名 (報文No)	調査区 グリッド	確認面	形態	規模 (cm・m) 長軸×短軸×深さ・面積	長軸方向	出土遺物	埋土	新旧関係	構築時期
25	SK255 (報文4)	D1区 ZV,ZW-92	(Ⅲd層上面)	楕円形	128×105×58 1.07	N86E		人為		後期 前葉
26	SK256 (報文4)	D1区 ZX-90	(Ⅲd層上面)	楕円形	178×152×36 2.14	N68W	土器片60点	人為	SK256→SK2238 SK237	後期 前葉
27	SK257 (報文4)	D1区 ZX-90	(Ⅲd層上面)	楕円形	× ×59		土器片10点 土器片利用土製品1点	人為		後期 前葉
28	SK258 (報文4)	D1区 ZV-89	(Ⅲd層上面)	楕円形	160×181×31 2.28	N22W	土器片10点 炭化堅実類(ウ)331点	人為	Pt113-249→SK258 →Pt83・112・ 245-247	後期 前葉
29	SK266 (報文5)	D2区 ZV,ZW-88	(Ⅲd層上面)	円形	88×83×33 0.57		土器片5点	人為	SK266 →Pt1545	後期 前葉
30	SK268 (報文5)	D2区 ZV,ZW-87	(Ⅲd層上面)	隅丸 方形	156×140×30 1.73	N64E	土器片69点 播磨・凹石各1点 軽石製品1点 土器片利用土製品5点	人為	SK281→SK268 →SK286	後期 前葉
31	SK269 (報文5)	D2区 ZV-87	(Ⅲd層上面)	楕円形	122×104×79 1.00	N19W	土器片16点 播磨・円盤状石製品各1	人為	SK268→SK269 →SK27273 Pt510 Pt519	後期 前葉
32	SK272 (報文5)	D2区 ZV-88	(Ⅲd層上面)	楕円形	120×98×43 0.93	N21E	土器片3点	人為	SK272→SK271 Pt515	後期 前葉
33	SK275 (報文5)	D2区 ZV-87	(Ⅲd層上面)	楕円形	94×86×47 0.64	N75E	土器片37点	人為	SK276→SK275 →Pt515	後期 前葉
34	SK276 (報文5)	D2区 ZV-87	(Ⅲd層上面)	円形	×58×28		土器片12点 復元土器1点	人為	SK276 →SK275	後期 前葉
35	SK277 (報文5)	D2区 ZW-87	(Ⅲd層上面)	楕円形	112×95×38 0.8	N85W	土器片52点	人為		後期 前葉
36	SK279 (報文5)	D2区 ZV,ZW-87	(Ⅲd層下位)	円形	119×112×36 1.05		播磨3点 土器片249点 葺形土製品1点 土器片利用土製品12点 磨石・土偶・裝飾品各1点	人為		後期 前葉
37	SK281 (報文5)	D2区 ZW-87	(Ⅲd層上面)	楕円形	×74×31		土器片3点	人為	SK281 →SK268	後期 前葉
38	SK282 (報文5)	D2区 ZW-87	(Ⅲd層上面)	円形	66×64×21 0.33			人為		
39	SK285 (報文5)	D2区 ZV-85	(Ⅲd層上面)	楕円形	120×110×82 0.58	E0W	土器片少量 耳飾り1点 土器片利用土製品1点	人為	SK283→SK285 →SK289,321 SB221Aと不明	後期 前葉
40	SK286 (報文5)	D2区 ZV-85・86	(Ⅲd層上面)	楕円形	74×65×47 0.39	E0W	播磨1点 土器片57点 土器片利用土製品2点	人為		後期 前葉
41	SK289 (報文5)	D2区 ZW-86	(Ⅲd層下位)	楕円形	214×136×72 2.40	N18E	土器片310点 復元土器・播磨各2点 土器片利用土製品1点 石燧・磨製石斧・代石各1	人為	SB221A →SK289	後期 前葉
42	SK291 (報文5)	D2区 ZW-87	(Ⅲd層上位)	楕円形	102×82×55 0.66	N56W	土器片28点 土器片利用土製品1点	人為	SK353 →SK291	後期 前葉
43	SK297 (報文5)	D2区 ZW-86	(Ⅲd層上面)	円形	117× ×55 1.07		土器片21点 復元土器1点 土器片利用土製品4点	人為	SK299→SK297 →SK296 →SK353	後期 前葉
44	SK299 (報文5)	D2区 ZV-85	(Ⅲd層上面)	隅丸 方形	102×90×24 0.72	N35W	土器片27点	人為	SK285→SK299 →SK321 →Pt555	後期 前葉
45	SK300 (報文5)	D2区 ZV,ZW-85	(Ⅲd層上面)	円形	120×116×50 1.09		土器片88点 凹石・耳飾り各1点 土器片利用土製品3点	人為		後期 中葉
46	SK304 (報文5)	D2区 ZW,ZX-87	(Ⅲd層上面)	隅丸 方形	100×90×21 0.71	N55E	播磨2点 少量の土器片	人為	SK304 → Pt550-552,670,671	後期 前葉
47	SK305 (報文5)	D2区 ZW-86	(Ⅲd層上面)	楕円形	119×82×62 0.79	N11W	土器片19点 復元土器1点	人為	SB221A SB221B→SK305 SB222	後期 前葉
48	SK307 (報文5)	D2区 ZW-85	(Ⅲd層上面)	円形	70×68×39 0.37		土器片11点	人為	SK307 →Pt559	後期 前葉
49	SK308 (報文5)	D2区 ZW-86・87	(SK353底面)	楕円形	115×68×44 0.66	N18W		人為	SK308→SK296 SK309	後期 前葉
50	SK309 (報文5)	D2区 ZW-86	(SK353底面)	楕円形	142×87×46 1.03	N73W	土器片9点 土器片利用土製品2点	人為	SK308→SK309 →SK353 SK310	後期 前葉

第93表 土坑(万座隣接地区3)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	形態	規模 (cm・m) 長軸×短軸×深さ・面積	長軸方向	出土遺物	埋土	新旧関係	構築時期
51	SK310 (報文5)	D2区 ZW-86	(SK309底面)	楕円形	× ×30			人為	SK310→	後期 前葉
52	SK311 (報文5)	D2区 ZV,ZW-85	(Ⅲd層上面)	楕円形	120× ×40			人為		
53	SK312 (報文5)	D2区 ZY-85・86	(Ⅲd層上面)	楕円形	230× ×30		搔器5点 土器片111点 復元土器1点 土器片利用土製品2点	人為		後期 前葉
54	SK314 (報文5)	D2区 ZW,ZX-86	(Ⅲd層上面)	楕円形	120×80×29 0.79	N48W	少量の土器片	人為	SK323→SK314 →SK322	後期 前葉
55	SK315 (報文5)	D2区 ZV,ZX-86	(Ⅲd層上面)	楕円形	195×140×31 2.20	N S	土器片85点	人為	SK316→SK315→ SK322 SK324 Pit572 Pit573	後期 前葉
56	SK316 (報文5)	D2区 ZW,ZX-86	(Ⅲd層上面)	歪んだ 楕円形	184× ×18	N68W	土器片27点 磨製石斧1点	人為	SK316→SK320 SK340 Pit678	後期 前葉
57	SK317 (報文5)	D2区 ZW-84・85	(Ⅲd層上面)	楕円形	180×145×15 2.07	N4E	土器片49点	自然		後期 前葉
58	SK319 (報文5)	D2区 ZW-85	(Ⅲd層上面)	円形	68×60×24 0.32			人為		
59	SK320 (報文5)	D2区 ZX-86	(Ⅲd層上面)	歪んだ 楕円形	126×75×58 0.79	N88E	搔器2点 土器片117点 土器片利用土製品1点	人為	SK316→SK320 →SK340 Pit678	後期 前葉
60	SK321 (報文5)	D2区 ZV,ZW- 85・86	(Ⅲd層上面)	隅丸 方形	163×155×18 1.98	N41E		人為	SK285 SK299→SK321 SB221A	
61	SK322 (報文5)	D2区 ZW,ZX-86	(Ⅲd層上面)	楕円形	155×100×29 1.28	N50W	凹石4点 土器片231点 磨製石斧・石鏟各1点 土器片利用土製品1点	人為	SK314 SK315→SK322 →Pit572 SK324	後期 前葉
62	SK323 (報文5)	D2区 ZX-86	(Ⅲd層上面)	楕円形	120×74×62 0.74	N42W		人為	SK323 →SK314	後期 前葉
63	SK324 (報文5)	D2区 ZX-86	(Ⅲd層上面)	楕円形	120× ×35		土器片51点 球状石製品1点 土器片利用土製品1点	人為	SK325→SK324 →SK325 SK322	後期 前葉
64	SK325 (報文5)	D2区 ZX-86	(Ⅲd層上面)	楕円形	143×91×49 1.07	N62W		人為	SK324 →SK325	後期 前葉
65	SK328 (報文5)	D2区 ZX-84	(Ⅲd層上面)	楕円形	168×119×19 1.62	N41E	搔器2点 土器片147点 復元土器1点 土器片利用土製品6点	人為	SK332 →SK328 →Pit644	後期 前葉
66	SK330 (報文5)	D2区 ZY-86	(Ⅲd層上面)	楕円形	120×76×11 0.75	N8W	土器片3点	人為		後期 前葉
67	SK332 (報文5)	D2区 ZX-84	(Ⅲd層上面)	楕円形	141×90×16 1.05	N42E	土器片14点 復元土器1点	人為	SK332 →SK328	後期 前葉
68	SK335 (報文5)	D2区 ZW-82	(Ⅲd層上面)	楕円形	× ×28		石鏟2点 土器片60点 完形土器・搔器各1点 土器片利用土製品6点	自然	SK335 →SK(F)313 SK(F)331	後期 前葉
69	SK337 (報文5)	D2区 ZX-86	(Ⅲd層上面)	楕円形	×116×75		土器片56点 磨石・鏝形土製品各1点	人為	SK337 →SK(F)306	後期 前葉
70	SK338 (報文5)	D2区 ZY-84・85	(Ⅲd層上面)	円形	108×100×17 0.85		搔器1点 土器片93点 土器片利用土製品1点	人為		後期 前葉
71	SK340 (報文5)	D2区 ZX-86	(Ⅲd層上面)	楕円形	155×130×32 1.59	N39W			SK316→SK340 →Pit575 SK320 Pit678	
72	SK352 (報文5)	D2区 ZW-86	(Ⅲd層上面)	円形	× ×36			人為	SK310→SK352 →SK297,309,353 SB221A SK(F)288	後期 前葉
73	SK353 (報文5)	D2区 ZW-86・87	(Ⅲd層上面)	円形	× ×30				SK206-310 SK(F)351,SK352, SB221A→SK353 →SK291,297, SK(F)296,298	後期 前葉
74	SK354 (報文5)	D2区 ZV-86	(Ⅲd層下位)	楕円形	79×64×37 0.37	N33E		人為	SB222→SK354 SB221A,221B,228 とは不明	

第94表 土坑(万座隣接地区4)

No.	遺構名 (報文No)	調査区 グリッド	確認面	形態	規模 (cm・㎡) 長軸×短軸×深さ・面積	長軸方向	出土遺物	埋土	新旧関係	構築 時期
75	SK308 (報文10)	D3区 ZV-ZU- 85-86	(IV層)	不整 円形	155×147×28 1.79		磨石1点 土器片8点	人為	SK308→SK309 Pit8-4	後期 前葉
76	SK309 (報文10)	D3区 ZV-ZU- 85-86	(IV層)	楕円形	84×74×32 0.49			人為	SK308→SK309 →Pit8	
77	SK310 (報文10)	D3区 ZW-88	(III層中位)	楕円形	143×124×50 1.40	N83W	土器片11点 土器片利用土製品1点	人為		後期 前葉
78	SK311B (報文10)	D3区 ZV-ZU- 84-85	(IV層)	楕円形	140×120×31 1.33	N57E	剥片1点 土器片4点	人為	SK311B→SK307 Pit13	後期 前葉
79	SK312 (報文10)	D3区 ZU-85	(IV層)	楕円形	118×110×37 1.02	N15W	石鏃1点 土器片22点	人為	SK312 →Pit67	後期 前葉
80	SK313 (報文10)	D3区 ZW-88-89	(III層中位)	楕円形	160×114×51 1.47	N80E	土器片88点	人為	SK313 →Pit48	後期 前葉
81	SK315 (報文10)	D3区 ZU-85	(IV層)	不整 円形	92×82×37 0.59		搔器1点 土器片2点	人為	SK315 →SK307	後期 前葉
82	SK317 (報文10)	D3区 ZU-85-86	(IV層)	楕円形	×96×14		搔器1点 土器片9点	人為	SK317→Pit9 Pit41	後期 前葉
83	SK320 (報文10)	D3区 ZV-85	(IV層)	円形	93×86×42 0.63		搔器1点 磨石2点 土器片16点	人為		後期 前葉
84	SK323 (報文10)	D3区 ZX-ZW-88	(III層中位)	隅丸 長方形	158×124×38 1.56	N60W	搔器5点 土器片112点	人為	SK351 →SK323	後期 前葉
85	SK325 (報文10)	D3区 ZU-85	(IV層)	隅丸 長方形	131×104×64 1.08	N63W	土器片19点	人為	SK(T)316→SK325 →Pit2,28 SK(T)319	後期 前葉
86	SK328 (報文10)	D3区 ZX-89	(III層中位)	楕円形	147×128×46 1.48	N25W	土器片8点	自然		後期 前葉
87	SK334 (報文10)	D3区 ZY-90	(III層中位)	楕円形	165×100×52 1.38	N90E	土器片91点 搔器・凹石・蔽石・石皿各1	人為		後期 前葉
88	SK338 (報文10)	D3区 ZZ-ZY-89	(III層中位)	円形	135×135×43 1.43		土器片168点	人為	SK339 →SK338	後期 前葉
89	SK339 (報文10)	D3区 ZZ-ZY-89	(III層中位)	楕円形	124×80×46 0.82	N90E	搔器2点 土器片26点	人為	SK339 →SK338	後期 前葉
90	SK341 (報文10)	D3区 ZY-89	(III層中位)	楕円形	173×142×45 1.95	N69W	石匙1点 搔器2点 土器片165点	人為		後期 前葉
91	SK344 (報文10)	D3区 ZY-89	(III層中位)	円形	107×102×58 0.86		搔器2点 土器片42点 剥片・蔽石・磨石各1点	人為		後期 前葉
92	SK347 (報文10)	D3区 ZY-88-89	(III層中位)	楕円形	151×119×42 1.43	N S	磨石1点 土器片68点	人為		後期 前葉
93	SK348 (報文10)	D3区 ZZ-ZY-89	(III層中位)	楕円形	148×104×42 1.25	N70W	土器片146点 搔器・蔽石・凹石各1点 凹石・土器片利用土製品各2 磨石・石皿・軽石製品各1	人為		後期 前葉
94	SK349 (報文10)	D3区 ZY-86	(III層中位)	楕円形	139×106×63 1.18	N50W	土器片10点	人為		後期 前葉
95	SK357 (報文10)	D3区 ZX-88	(III層中位)	楕円形	×87×27		剥片1点 搔器3点 土器片36点		SK357 →SK328	後期 前葉
96	SK359 (報文10)	D3区 YC-90	(III層中位)	楕円形	129×105×53 1.07	N25E	搔器4点 土器片119点 有孔石製品1点 土器片利用土製品1点 石鏃・剥片・石核・凹石核1 深鉢形土器・鉢形土器各1	人為		後期 前葉
97	SK362 (報文10)	D3区 YB-91	(III層中位)	楕円形	146×100×40 1.19	N79W	石鏃2点 土器片26点	人為		後期 前葉
98	SK363B (報文10)	D3区 YC-86	(III層上位)	円形	167×150× 1.97				SK(T)376 →SK363B	
99	SK366 (報文10)	D3区 YB-YA-90	(III層中位)	楕円形	135×116×36 1.24	N57E	搔器4点 土器片214点	人為		後期 前葉
100	SK368 (報文10)	D3区 YA-89	(III層中位)	楕円形	194×130× 2.06	N80E				

第95表 土坑(万座隣接地区5)

No.	遺構名 (報文No)	調査区 グリッド	確認面	形態	規模 (cm・㎡) 長軸×短軸×深さ・面積	長軸方向	出土遺物	埋土	新旧関係	構築時期
101	SK369 (報文10)	D3区 YA-89	(Ⅲd層中位)	円形	97×89×48 0.68		土器片11点 深鉢形土器1個 土器片利用土製品1点	人為		後期 前葉
102	SK370 (報文10)	D3区 YA-89	(Ⅲd層中位)	円形	75×73×35 0.43		土器片50点	人為		後期 前葉
103	SK371 (報文10)	D3区 YA-89	(Ⅲd層中位)	楕円形	80×60×25 0.38	N15E	土器片38点 搔器・磨製石斧各1点	人為		後期 前葉
104	SK372 (報文10)	D3区 YA-90	(Ⅲd層中位)	楕円形	85×55×28 0.38	N47W	土器片31点	人為		後期 前葉
105	SK385 (報文10)	D3区 YH-89	(Ⅲd層上位)	円形	73×65× 0.37				SK385 →SK(F)311	
106	SK387 (報文10)	D3区 YI-YH- 88-89	(Ⅲd層上位)	円形	90×88×86 0.62		軽石石製品1点	人為	SK387 →SK305	
107	SK393B (報文10)	D3区 YI-88-89	(Ⅲd層上位)	楕円形	150×117×59 1.40	N20E		人為	SK393B →SK(F)394	
108	SK398 (報文10)	D3区 YE-YD-91	(Ⅲd層上位)	円形	108×90× 0.77					
109	SK401 (報文10)	D4区 YA-93	(Ⅲd層中位)	円形	118×117×32 1.08		土器片21点 土器片利用土製品1点	自然		後期 前葉
110	SK402 (報文10)	D4区 YA-93	(Ⅲd層中位)	隅丸 方形	105×100×46 0.82		土器片38点	人為		後期 前葉
111	SK403 (報文10)	D4区 ZZ-93	(Ⅲd層中位)	楕円形	145×92×43 1.10	N50W	土器片7点	人為		後期 前葉
112	SK405 (報文10)	D4区 ZZ-93-94	(Ⅲd層中位)	隅丸 方形	95×85×38 0.64		22-50cm大の石3個	人為		
113	SK406 (報文10)	D4区 ZY-ZX-93	(Ⅲd層中位)	円形	133×110×47 1.16			人為	SK406→SK(F)413 Pit298	
114	SK407 (報文10)	D4区 ZY-93	(Ⅲd層中位)	円形	76×74×65 0.44		土器片12点	人為		後期 前葉
115	SK408 (報文10)	D4区 ZY-29	(Ⅳ層)	円形	82×78×48 0.50		土器片19点 土器片利用土製品4点	人為		後期 前葉
116	SK409 (報文10)	D4区 ZX-93	(Ⅳ層)	円形	127×117×44 1.17		凹石1点 土器片26点 鉢形土器・蓋各1個	人為		後期 前葉
117	SK410 (報文10)	D4区 ZX-93-94	(Ⅳ層)	円形	138×127×58 1.38		凹石1点 土器片55点	人為		後期 前葉
118	SK411 (報文10)	D4区 ZX-93	(Ⅳ層)	楕円形	137×92×19 1.03	N30W	土器片5点	人為		後期 前葉
119	SK415 (報文10)	D4区 ZU-ZT-96	(Ⅲd層中位)	円形	88×86×39 0.59			自然		
120	SK417 (報文10)	D4区 ZX-95	(Ⅳ層)	円形	140×133×63 1.46		土器片54点	人為		後期 前葉
121	SK418 (報文10)	D4区 ZW-ZV-96	(Ⅲd層上位)	楕円形	181×114×34 1.71	N85W		人為		
122	SK419 (報文10)	D4区 ZV-95	(Ⅲd層上位)	楕円形	182×104×38 1.61	N40W		人為	SK419 →Pit21	
123	SK420 (報文10)	D4区 ZV-ZJ- 95-96	(Ⅲd層上位)	隅丸 方形	311×150×37 4.17	N76W		人為		
124	SK421 (報文10)	D4区 ZX-95	(Ⅳ層)	楕円形	104×84×32 0.69	N7W	土器片5点	人為		後期 前葉
125	SK601 (報文11)	D6区 ZC-95	(Ⅲd層上面)	楕円形	100×77×56 0.61	N40E	土器片2点	人為		後期 前葉
126	SK602 (報文11)	D6区 ZD-95	(Ⅲd層上面)	楕円形	145×104×37 1.22	N58E	搔器1点	人為		後期 前葉
127	SK605 (報文11)	D6区 ZE-95	(Ⅲd層上面)	楕円形	140×102×34 1.15	N52E	土器片10点	人為		後期 前葉
128	SK606 (報文11)	D6区 ZE-93-95 ZE-93-94	(Ⅲd層上面)	楕円形	120×112×60 1.06	N54E	土器片21点	人為		後期 前葉
129	SK607 (報文11)	D6区 ZE-ZF-95	(Ⅲd層上面)	長 楕円形	160×79×30 1.12	N36E	土器片7点	人為		後期 前葉
130	SK610 (報文11)	D6区 ZS-94-95	(Ⅲd層上面)	楕円形	140×102×46 1.15	N25E	土器片6点	人為	SK610 →SB601,603 SK610→Pit613	後期 前葉

第96表 土坑(万座隣接地区6)

No.	遺構名 (報文No)	調査区 グリッド	確認面	形態	規模 (cm・㎡) 長軸×短軸×深さ・面積	長軸方向	出土遺物	埋土	新旧関係	構築 時期
131	SK613 (報文11)	D6区 ZQ-96	(Ⅲd層上面)	楕円形	100×82×62 0.65	N51W	土器片14点	自然	SK613→SK606 SK613→Pit668	後期 前葉
132	SK618 (報文11)	D6区 ZO-96	(Ⅲd層上面)	楕円形	88×78×10 0.54	N63W		人為		後期 前葉
133	SK619 (報文11)	D6区 ZP-95 ZO, ZP-95	(Ⅲd層上面)	楕円形	106×80×36 0.68	N46W	土器片12点	人為	Pit664 とは不明	後期 前葉
134	SK621 (報文11)	D6区 ZO, ZP-96	(Ⅲd層上面)	隅丸 方形	294×100×18 2.39	N40E	敷石1点 完形土器1個体		Pit686 とは不明	後期 前葉
135	SK622 (報文11)	D6区 ZP, ZQ-97	(Ⅲd層上面)	楕円形	146×92×34 1.11	N53W	土器片2点	人為	Pit722, 723 とは不明	後期 前葉
136	SK626 (報文11)	D6区 ZL-96	(Ⅲd層上面)	円形	86×82×32 0.55			人為		後期 前葉
137	SK630 (報文11)	D6区 ZI-92	(Ⅲd層上面)	楕円形	160×134×52 1.70	N80E	土器片1点	人為		後期 前葉
138	SK632 (報文11)	D6区 ZI-93	(Ⅲd層上面)	楕円形	224×160×62 2.89	N35W	凹石1点 搔器7点 土器片127点 土器片利用土製品3点	人為	SK635 →SK634 →SK632	後期 前葉
139	SK634 (報文11)	D6区 ZI-93-92	(Ⅲd層上面)	楕円形	160×124×70 1.58	N80W	土器片12点	人為	SK635→SK634 →SK632	後期 前葉
140	SK635 (報文11)	D6区 ZI-93-92	(Ⅲd層上面)	円形					SK635→SK634 →SK632	後期 前葉
141	SK639 (報文11)	D6区 ZU-99	(Ⅲd層上面)	楕円形	96×78×50 0.59	N50E	土器片2点	人為	SK639 →Pit1061	後期 前葉
142	SK641 (報文11)	D6区 ZL-101	(Ⅲd層上面)	楕円形	152×96×80 1.21	N50E	土器片202点 搔器・剥片各1点	人為	SK642 →SK641	後期 前葉
143	SK642 (報文11)	D6区 ZL-101	(Ⅲd層上面)	楕円形	176×140×50 1.96	N55E	土器片42点	人為	SK642 →SK641	後期 前葉
144	SK646 (報文11)	D6区 ZH-92	(Ⅲd層上面)	楕円形	194×124× 1.98	N13E		人為		後期 前葉
145	SK03 (報文12)	D7区 ZD, ZE-82	(Ⅲd層上面)	楕円形	114×76×40 0.71	N62E		人為		後期
146	SK04 (報文12)	D7区 ZD-82	(Ⅲd層上面)	楕円形	110×64×14 0.59	N26E		人為		後期
147	SK05 (報文12)	D7区 ZC-93	(Ⅲd層上面)	楕円形	150×122×28 1.45	N49W	土器片5点	人為	SK8→SK5	後期 前葉
148	SK07 (報文12)	D7区 ZC-92	(Ⅲd層上面)	楕円形	156×114×56 1.43	N32W	搔器1点 土器片22点	人為		後期 前葉
149	SK08 (報文12)	D7区 ZC-93	(Ⅲd層上面)	楕円形	× ×28	N49W		人為	SK8→SK5	後期
150	SK09 (報文12)	D7区 ZA-92-93	(Ⅲd層上面)	円形	88×84×上面72 ×下面102 0.58		土器片27点	人為		後期 前葉
151	SK10 (報文12)	D7区 ZD-87	(Ⅲd層上面)	円形	130×128×136 1.31			人為		後期
152	SK19 (報文12)	D7区 ZH-90	(Ⅲd層上面)	楕円形	×136×42	N88E	土器片66点 石鏝・搔器各1点	人為	SK19 →SK(P)18	後期 前葉
153	SK21 (報文12)	D7区 ZC, ZH-91	(Ⅲd層上面)	楕円形	×196×48	N61E	土器片374点 深鉢形土器1点 搔器・剥片各1点 石鏝・石皿・凹石各1点	人為	SK(P)18 →SK21 →SK22	後期 前葉
154	SK22 (報文12)	D7区 ZC, ZH-91	(Ⅲd層上面)	楕円形	186×136×36 2.03	N75W	凹石1点 土器片7点	人為	SK21→SK22	後期 前葉
155	SK24 (報文12)	D7区 ZL, ZJ-90	(Ⅲd層上面)	円形	142×138×42 1.54		土器片12点	人為	SK26→SK24	後期 前葉
156	SK26 (報文12)	D7区 ZL, ZJ-90	(Ⅲd層上面)	円形	120× ×138-158 1.13		搔器1点 剥片4点 土器片45点	人為	SK26→SK24	後期 前葉
157	SK29 (報文12)	D7区 ZG-90	(Ⅲd層上面)	楕円形	186×168×28 2.46	N38E	土器片73点 搔器・石皿各1点 深鉢形土器・壺形土器各1	人為		後期 前葉
158	SK30 (報文12)	D7区 ZG-90	(Ⅲd層上面)	円形	88×82×30 0.57		土器片7点	人為		後期 前葉

第97表 土坑(万座隣接地区7)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	形態	規模 (cm・㎡) 長軸×短軸×深さ・面積	長軸方向	出土遺物	埋土	新旧関係	構築 時期
159	SK31 (報文12)	D7区 ZF-90	(Ⅲd層上面)	円形	76×64×42 0.38		搔器1点 土器片3点	人為		後期 前葉
160	SK34 (報文12)	D7区 ZG-90	(Ⅲd層上面)	円形	80×66×46 0.42		土器片7点	人為		後期 前葉
161	SK41 (報文12)	D7区 ZJ-86	(Ⅳ層上位)	楕円形		N 8 9 E			SK41→SKP740 SKP763	後期
162	SK42 (報文12)	D7区 ZJ-86	(Ⅳ層上面)	円形	× ×42	N 2 4 E		人為	SK42→SK43 SK74	後期
163	SK43 (報文12)	D7区 ZJ-86	(Ⅳ層上面)	円形	174× ×58	N 3 5 E		人為	SK42→SK43→ SK74 SK54	後期
164	SK45 (報文12)	D7区 ZK-86・87	(Ⅳ層上面)	楕円形	×96×30	N 6 5 E	壺形土器1点	人為	SK45→SK46 SK45→SK47 Pit17	後期 前葉
165	SK46 (報文12)	D7区 ZK86・87	(Ⅳ層上面)	楕円形	130× ×32	N 8 0 E	土器片19点	人為	SK45→SK46 →SK47 Pit17	後期 前葉
166	SK47 (報文12)	D7区 ZK-86	(Ⅳ層上面)	楕円形	188×138×48 2.09	N 8 1 E	凹石1点 土器片31点 深鉢形土器1点	人為	SK45 SK46→SK47→ SKP748 ↑SK49	後期 前葉
167	SK49 (報文12)	D7区 ZK86・87	(Ⅳ層上面)	円形	60× ×16 0.28			人為	SK49→SK47	後期
168	SK51 (報文12)	D7区 ZK-87	(Ⅳ層上面)	楕円形	178×122×44 1.74	N 7 8 E	剥片2点 土器片利用土製品1点	人為	SKP762→SK51 →SK59 SK102	後期 前葉
169	SK54 (報文12)	D7区 ZJ-86	(Ⅳ層上面)	円形	90× × 0.64			人為	SK54→SK43	後期
170	SK60 (報文12)	D7区 ZL・ZJ- 86・87 ZJ-86・87	(Ⅳ層上面)	楕円形	164×112×64 1.49	N 4 9 E	石錘1点 剥片2点 土器片18点	人為		後期 前葉
171	SK62 (報文12)	D7区 ZJ・ZK-87	(Ⅳ層上面)	円形	88× ×32 0.61		土器片	人為	Pit63,64 SK62→SK63 SKP775	後期 前葉
172	SK63 (報文12)	D7区 ZJ-87	(Ⅳ層上面)	楕円形	144× ×	N 1 2 W	土器片		SK62→SK63→ SKP775 SK100	後期 前葉
173	SK64 (報文12)	D7区 ZK-87	(Ⅳ層上面)	円形	86×80×64 0.54			人為		後期
174	SK65 (報文12)	D7区 ZK86	(Ⅳ層上面)	円形	74×64×20 0.37		土器片12点	人為	SB03と重複、 不明	後期 前葉
175	SK68 (報文12)	D7区 ZK-84 ZK-84・85	(Ⅲd層上面)	楕円形	280×128×70 3.27	N 7 7 E	剥片2点 搔器3点 土器片186点 土器片利用土製品2点	人為		後期 前葉
176	SK69 (報文12)	D7区 ZI-85	(Ⅲd層上面)	円形	94×84×44 0.62		搔器3点 土器片29点 石鏃・凹石各1点	人為	SK107 →SK69	後期 前葉
177	SK70 (報文12)	D7区 ZK-84	(Ⅲd層上面)	楕円形	118×102×48 0.95	N 2 2 W	土器片26点	人為		後期 前葉
178	SK74 (報文12)	D7区 ZJ-86,87	(Ⅳ層上面)	楕円形	220×140×41 2.54	N 6 1 E	土器片7点	人為	SK42 SK43→SK74 SK(P)3	後期 前葉
179	SK77 (報文12)	D7区 ZM-83	(Ⅲd層上面)	楕円形	142×92×42 1.07	N 2 5 E		人為	SK77→Pit82	後期
180	SK79 (報文12)	D7区 ZM-84	(Ⅲd層上面)	円形	100× ×68 0.79 30	N 4 4 E	剥片41点 土器片127点 凹石・砥石各1点 土器片利用土製品1点	人為	SK79→Pit106 SKP778	後期 前葉
181	SK87 (報文12)	D7区 ZI-89・90	(Ⅲd層上面)	楕円形	92×82×20 0.59	N 5 1 W		人為		後期
182	SK88 (報文12)	D7区 ZJ-90	(Ⅲd層上面)	楕円形	112×82×58 0.74	N 5 7 W	土器片31点	人為		後期 前葉
183	SK89 (報文12)	D7区 ZJ-90	(Ⅲd層上面)	楕円形	×74×34	N 5 2 W	土器片20点	人為	SK89→Pit48	後期 前葉
184	SK90 (報文12)	D7区 ZJ-90	(Ⅲd層上面)	楕円形	72×60×32 0.34	N 3 1 E	土器片4点	人為	SK90→Pit31	後期 前葉
185	SK91 (報文12)	D7区 ZI-88	(Ⅲd層上面)	楕円形	130×104×40 1.07	N 1 8 E		人為	SK91→Pit102 Pit103	後期

第98表 土坑(万座隣接地区8)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	形態	規模 (cm・m) 長軸×短軸×深さ・面積	長軸方向	出土遺物	埋土	新旧関係	構築時期
186	SK92 (報文12)	D7区 ZJ-90-91	(Ⅲd層上面)	円形	72×68×20 0.38			人為		
187	SK81 (報文12)	D7区 ZL-83	(Ⅲd層上面)	楕円形	×100×44	N58E	土器片	人為	SK81→SK82	後期 前葉
188	SK82 (報文12)	D7区 ZL-83	(Ⅲd層上面)	円形	86×78×68 0.53		土器片	人為	SK81→SK82	後期 前葉
189	SK83 (報文12)	D7区 ZK, ZL-83	(Ⅲd層上面)	楕円形	156×146×40 1.79	N71E	土器片4点	人為		後期 前葉
190	SK84 (報文12)	D7区 ZM-84	(Ⅲd層上面)	楕円形	×70×28	N53W		人為	SK84→SK85	後期
191	SK85 (報文12)	D7区 ZM-84	(Ⅲd層上面)	楕円形	×98×48	N47W		人為	SK84→SK85 →Pit23 Pit38	後期
192	SK86 (報文12)	D7区 ZK-85	(Ⅲd層上面)	楕円形	142×134× 1.49					
193	SK93 (報文12)	D7区 ZL-85	(Ⅲd層上面)	楕円形	118×102×50 0.95	N56W		人為	SK93→Pit75	後期
194	SK94 (報文12)	D7区 ZJ-90	(Ⅲd層上面)	楕円形	×74×84	N37E		人為	SK94→SK27 Pit33	後期
195	SK96 (報文12)	D7区 ZK-84	(Ⅲd層上面)	楕円形	92×78×46 0.57	N38W		人為		後期
196	SK97 (報文12)	D7区 ZL, ZI-86	(Ⅲd層上面)	楕円形	86×76×40 0.53	N36E	鉢形土器1点	人為		後期 前葉
197	SK98 (報文12)	D7区 ZL-83	(Ⅲd層上面)	楕円形	100×88×16 0.69	N73E		人為		後期
198	SK99 (報文12)	D7区 ZK-87	(Ⅲd層上面)	円形	98×96×52 0.74			人為	SK102→SK99 SK51	後期
199	SK100 (報文12)	D7区 ZJ-88	(Ⅲd層上面)	楕円形	98×70×38 0.55	N5W		人為	SK9105→SK100 SK63 SK9775	後期
200	SK102 (報文12)	D7区 ZK-87	(Ⅲd層上面)	楕円形	×66×46	N86E		人為	SK51 → SK102 →SK99	後期
201	SK104 (報文12)	D7区 ZJ-87	(Ⅳ層上面)	楕円形	×110×76	N60E	土器片 他	人為	SK9105→SK104 →SK100 SK9775	後期 前葉
202	SK106 (報文12)	D7区 ZK-84-87	(Ⅲd層上面)							後期
203	SK107 (報文12)	D7区 ZI-85	(Ⅲd層上面)	楕円形	×124×32	N44E		人為	SK107 →SK69	後期
204	SK4 (報文15)	D8区 ZP-83	(Ⅲd層上面)	楕円形	110×84×44 0.74	N S	搔器2点	人為	SK4→Pit25	
205	SK6 (報文15)	D8区 ZP-83	(Ⅲd層上面)	楕円形	102×80×46 0.65	N87E	搔器2点 土器片31点	人為	SK6→Pit30	後期 前葉
206	SK10 (報文15)	D8区 ZR-83	(Ⅲd層上面)	楕円形	92×64×18 0.48	N67E		人為	SK10→Pit41	
207	SK11 (報文15)	D8区 ZR-83-84	(Ⅲd層上面)	楕円形	86×84×30 0.57	N53E	土器片2点	人為	SK11→Pit44	後期 前葉
208	SK14 (報文15)	D8区 ZR, ZS-83	(Ⅲd層上面)	楕円形	150×86×66 1.09	N14W	土器片利用土製品2点	人為	SK14→SK55	
209	SK15 (報文15)	D8区 ZT, ZU-84	(Ⅲd層上面)	楕円形	140×64×58 0.82	N75W	土器片5点 土器片利用土製品1点	人為	SK15→Pit95 SK9746とは不明	後期 前葉
210	SK16 (報文15)	D8区 ZS-84	(Ⅲd層上面)	楕円形	198×158×28	N45W		人為	SK16 →Pit177, 207, 240	
211	SK19 (報文15)	D8区 ZP-82	(Ⅲd層上面)	楕円形	136×98×48 1.07	N67E	土器片1点	人為	SK19→Pit	後期 前葉
212	SK23 (報文15)	D8区 ZT-84-83	(Ⅲd層上面)	楕円形	78×68×40 0.42	N24W		人為	SK23→SB05	
213	SK24 (報文15)	D8区 ZS-83	(Ⅲd層上面)	楕円形	140×110×44 1.23	N15W	土器片24点 復元土器1点 土器片利用土製品1点	人為	SK69→SK24→ Pit95?	後期 前葉
214	SK28 (報文15)	D8区 ZN, ZO-81	(Ⅲd層上面)	楕円形	90×76×56 0.54	N85E	土器片5点 土器片利用土製品1点	人為		後期 前葉
215	SK29 (報文15)	D8区 ZO-81	(Ⅲd層上面)	楕円形	82×70×22 0.45	N88E	土器片	人為		後期 前葉
216	SK33 (報文15)	D8区 ZQ-82	(Ⅲd層上面)	楕円形	132×86×66 0.93	N38W	土器片	人為	SK33→Pit98	後期 前葉

第99表 土坑(万座隣接地区9)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	形態	規模 (cm・m) 長軸×短軸×高さ・面積	長軸方向	出土遺物	埋土	新旧関係	構築 時期
217	SK35 (報文15)	D8区 ZS-82-83	(Ⅲd層上面)	楕円形	194×104×48 1.74	N35E		人為	SK(F)34、38→ SK35→SK70→ SK(F)68→SK63→ Pit95	
218	SK37 (報文15)	D8区 ZS,ZT-83	(Ⅲd層上面)	楕円形	98×80×34 0.62	N50W	搔器2点 土器片41点		Pit96 SK37→Pit101 SK(F)36	後期 前葉
219	SK40 (報文15)	D8区 ZR-83	(Ⅲd層上面)	楕円形	92×60× 163×114 0.45	N87E	土器片5点		SK40→ Pit151,155, 168,169 SK54	後期 前葉
220	SK41 (報文15)	D8区 ZQ,ZR- 83-84	(Ⅲd層上面)	楕円形	112×60×61 0.58	N87E	土器片5点		SK41→Pit35	後期 前葉
221	SK42 (報文15)	D8区 ZP-82	(Ⅲd層上面)	楕円形	120×104×58 0.98	N70W	土器片11点	人為	SB04と重複	後期 前葉
222	SK43 (報文15)	D8区 ZS-82	(Ⅲd層上面)	楕円形	160×112×60 1.45	N43E	土器片17点	人為	万座のツリと重複 SK43→万座	後期 前葉
223	SK45 (報文15)	D8区 ZP,ZT-83	(Ⅲd層上面)	楕円形	146×98×46 1.17	N34E	土器片19点	人為	SK45 →Pit118	後期 前葉
224	SK50 (報文15)	D8区 ZS-83	(Ⅲd層上面)	楕円形	100×88×56 0.69	N53E		人為	SK50 →Pit150	
225	SK51 (報文15)	D8区 ZR-83	(Ⅲd層上面)	楕円形	120×74×38 0.74	N53E		人為	SK51→SK(F)18 SK51→SK(F)13	
226	SK53 (報文15)	D8区 ZS-83	(Ⅲd層上面)	楕円形	118×70×48 0.69	N10W		人為	SK53→ Pit89,90,216	
227	SK54 (報文15)	D8区 ZS-83	(Ⅲd層上面)	楕円形	138×80×38 0.93	N75E	搔器1点 土器片64点	人為	SK54→ Pit116,167,169 SK54→SB11A,B	後期 前葉
228	SK55 (報文15)	D8区 ZR,ZS-83	(Ⅲd層上面)	円形	112×103×48 0.91			人為	SK14→SK55	
229	SK60 (報文15)	D8区 ZS-81 ZS,ZT-81	(Ⅲd層上面)	楕円形	86×70×50 0.48	N42E		人為		
230	SK63 (報文15)	D8区 ZS-82-83	(Ⅲd層上面)	楕円形	100×88×42 0.69				Pit99→SK63 →SK35	
231	SK66 (報文15)	D8区 ZU-82-83 ZU,ZV- 82-83	(Ⅲd層上面)	方形	310×204×100 5.18	N64W	土器片668点 復元土器3個体 土器片利用土製品18点 石匙・搔器・凹石・磨石各1	人為		後期 前葉
232	SK69 (報文15)	D8区 ZS-83	(Ⅲd層上面)	楕円形	80×60× 0.38	N9W			SK24→SK69 →SK(F)38 →Pit105	
233	SK70 (報文15)	D8区 ZS-83-82	(Ⅲd層上面)	楕円形	80×42× 0.29	N83E			SK35→SK70	
234	SK9904 (報文16)	D区 ZL-86	(Ⅲd層下面)	楕円形	90×77×23 0.55	N12E		人為		
235	SK9906 (報文16)	D区 ZK-87-88	(Ⅲd層下面)	楕円形	176×83×30 1.32	N28E		人為	SK9906 →SK9914 Pit9982	
236	SK9907 (報文16)	D区 ZK-87	(Ⅲd層下面)	楕円形	75×62×39 0.37	N17W		人為	SK9907 →Pit9972	
237	SK9908 (報文16)	D区 ZK-89	(Ⅲd層下面)	楕円形	146×135×120 1.55	N25W		人為	SK9908 →Pit9983	
238	SK9910 (報文16)	D区 ZL-86	(Ⅲd層上面)	楕円形	123×118×66 1.14	N87W	底部に河原石	人為		
239	SK9912 (報文16)	D区 ZS-93	(Ⅲd層上面)	楕円形	91×62×68 0.46	N72E	土坑中央部長さ70cmの 立石が落ち込んでいた	人為		
240	SK9914 (報文16)	D区 ZK-87-89	(Ⅲd層下面)	楕円形	92×59× 0.45	N22E			SK9906 →SK9914	

第100表 土坑(万座北側地区1)

No.	遺構名 (報文No)	調査区 グリッド	確認面	形態	規模 (cm・m) 長軸×短軸×深さ・面積	長軸方向	出土遺物	埋土	新旧関係	構築時期
1	SK201 (報文4)	D1区 YG-YH90	(IV層上面)	楕円形	169×137×37 1.84	N 7 E	土器片 250点 円盤状石製品 1点 復元土器・搔器各 2点 土器片利用土製品 1点 土製品・石鏃・石錐各 1点	人為		後期 前葉
2	SK202A (報文4)	D1区 YG-90	(III d層上面)	隅丸 方形	121×116×76 1.10	N 4 4 E	土器片 210点 石鏃・搔器各 2点 石皿・三脚石器各 1点	自然	SK202B →SK202A SK202C	後期 前葉
3	SK202B (報文4)	D1区 YG-90	(III d層上面)	円形	115× ×51 1.04			人為	SK202B →SK202A	後期 前葉
4	SK202C (報文4)	D1区 YF-YG90	(III d層上面)	楕円形	144×105×43 1.22	N 3 8 E	搔器 1点 土器片 190点	人為	SK203C →SK202A	後期 前葉
5	SK203 (報文4)	D1区 YF-90	(III d層上面)	楕円形	135×95×42 1.04	N 8 E	復元土器 1点 磨石・土器片各 1点	人為	SK(F)204 →SK203	後期 前葉
6	SK206 (報文4)	D1区 YG-90	(III d層上面)	円形	94× ×52 0.69			人為	SK206 →SK(F)205	後期 前葉
7	SK215 (報文4)	D1区 YM-91	(III c層下位)	楕円形	160×79×35 1.12	N 7 5 W		人為	SK215 →SB201	後期
8	SK216 (報文4)	D1区 YL-90	(IV層上面)	楕円形	97×79×37 0.61	N 1 8 W		人為		
9	SK222 (報文4)	D1区 YL-92	(III d層下位)	楕円形	64× ×20			人為	SK222 →SX(S)202	後期
10	SK224 (報文4)	D1区 YG-92	(III d層上面)	楕円形	128×107×30 1.08	N 7 8 E	復元土器 1点 土器片 250点 石鏃・磨石・凹石各 1点 土器片利用土製品 1点	人為		後期 前葉
11	SK401 (報文6)	F1区 V-109	(III d層上面)	楕円形	202×82×46.1 1.58	N 7 5 E	土器片 60点 自然石 11個 復元土器 1点 土器片利用土製品 1点 石鏃・石錐・石製品各 1点	人為		後期 前葉
12	SK402 (報文6)	F1区 V-109	(III d層下面)	円形	89×80×47.9 0.56		土器片 10点	人為		後期 前葉
13	SK403 (報文6)	F1区 Q-109	(III d層下面)	楕円形	121×80×26 0.79	N 3 4 W	土器片 140点 復元土器・搔器各 2点 土器片利用土製品 1点	人為		後期 前葉
14	SK404 (報文6)	F1区 R-109	(III d層下面)	楕円形	141×108×29.7 1.22	N 3 0 W	自然石 63個 搔器 1点・土器片 60点	人為		後期 前葉
15	SK405 (報文6)	F1区 V-110	(III d層上面)	楕円形	268×150×48.7 3.43	N 8 1 E	土器片 20点 自然石 52個 土器片利用土製品 4点 復元土器・磨石・耳飾各 1	人為	SK405→SK406 →SK408 SK407 SX(S)409	後期 前葉
16	SK406 (報文6)	F1区 V-110	(III d層上面)	楕円形	277×120×41.9 3.09	N 8 9 E	自然石 9個 土器片 10点	人為	SK406 →SK405・409 SX(S)409	後期 前葉
17	SK407 (報文6)	F1区 V109・110	(III d層上面)	楕円形	× ×49.5	N 6 9 E	搔器 9点 土器片 70点 自然石 55個 復元土器 1点、 土器裝飾品 1点 土器片利用土製品 2点	人為	SK407 →SK405 SK406とは 不明	後期 前葉
18	SK409 (報文6)	F1区 V-110	(III d層上面)	楕円形	160×110×33.2 1.43	N 2 6 E	石鏃 1点 土器片 10点 土器片利用土製品 3点	人為	SK405 SK406→SK409→ EX(S)409 SX(S)402	後期 前葉
19	SK410 (報文6)	F1区 S-107	(III d層下面)	円形	140× ×28.4 1.54			人為		
20	SK412 (報文6)	F1区 S-107	(III d層下面)	円形	105× ×24.9 0.87		土器片 40点	人為	SK412 →SK413	後期 前葉
21	SK413 (報文6)	F1区 S-107	(III d層下面)	楕円形	128×70×45.4 0.77	N 3 4 W	土器片 60点 土器片利用土製品 2点	人為	SK412 →SK413	後期 前葉
22	SK414 (報文6)	F1区 U-105	(III d層下面)	楕円形	152×129×35.3 1.55	N 2 W	搔器 1点 土器片 2点	人為		後期 前葉
23	SK415 (報文6)	F1区 U-105	(III d層下面)	円形	84× ×37.3 0.55		土器片 10点	人為	SK416 →SK415 SK418	後期 前葉

第101表 土坑(万座北側地区2)

No.	遺構名 (報文No)	調査区 グリッド	確認面	形態	規模 (cm・m) 長軸×短軸×深さ・面積	長軸方向	出土遺物	埋土	新旧関係	構築時期
24	SK416 (報文6)	F1区 U-105	(Ⅲd 層下面)	楕円形	×100×17.6	N40E		人為	SK416→SK415 SK418とは不明	
25	SK417 (報文6)	F1区 U-104-106	(Ⅲd 層下面)	楕円形	124×94×27.9 0.93	N49W		人為		
26	SK418 (報文6)	F1区 U.T-105	(Ⅲd 層下面)	楕円形	×108×21.9	N45W	土器片60点 播磨・磨石各1点 土器片利用土製品3点		Pit76→SK418 →SK415 SK416とは不明	後期 前葉
27	SK429 (報文6)	F1区 R-101	(Ⅲd 層上面)	隅丸 方形	×67×42.4	N18W	土器片10点 磨製石斧・播磨各1点 土器片利用土製品1点	人為	SK429 →SK(7)419A	後期 前葉
28	SK430 (報文6)	F1区 R-102	(Ⅲd 層上面)	楕円形	94×78×44.6 0.58	N8W	軽石1点 土器片4点 土器片利用土製品2点		SK430 →SI404	後期 前葉
29	SK431 (報文6)	F1区 R-103	(Ⅲd 層上面)	隅丸 方形	100×64×73.7 0.53	N74W	土器片50点 土器片利用土製品1点	人為	SK432 →SK431	後期 前葉
30	SK432 (報文6)	F1区 R-103	(Ⅲd 層上面)	隅丸 方形	116×106×49.1 0.97	N2W	土器片10点 球状石製品1点	人為	SK432 →SK431	後期 前葉
31	SK433 (報文6)	F1区 S-103	(Ⅲd 層上面)	円形	72× ×29.2 0.41		土器片20点 復元土器1点	人為		後期 前葉
32	SK434 (報文6)	F1区 S-102-103	(Ⅲd 層上面)	方形	136×80×28.8 0.92	N1W	土器片90点 土器片利用土製品1点	人為	SK(8)407→SK434 SI402とは不明	後期 前葉
33	SK435 (報文6)	F1区 S-101	(SI406 床面)	楕円形	102×71×37.2 0.59	N24W	播磨・土器片各1点	人為	SE401→SK435 →SI406・SI407	後期 前葉
34	SK436 (報文6)	F1区 R-107	(Ⅲd 層下面)	円形	110× ×23.8 0.95		播磨1点 土器片20点	人為		後期 前葉
35	SK437 (報文6)	F1区 R-106	(Ⅲd 層中位)	楕円形	139×100×20.3 1.12	N28W	自然石29個 土器片140点 播磨・石製品各2点 土器片利用土製品1点	人為	SK438 →SK437 Pit34	後期 前葉
36	SK438 (報文6)	F1区 R-106	(Ⅲd 層中位)	楕円形	×97×17	N58E	土器片30点	人為	SK438 →SK437	後期 前葉
37	SK439 (報文6)	F1区 R-103	(Ⅲd 層上面)	円形	88× ×33.2 0.61		土器片4点	人為		後期 前葉
38	SK440 (報文6)	F1区 R-108-104	(Ⅲd 層上面)	隅丸 方形	131×101×35.5 1.06	N72E	土器片8点 円盤状石製品1点	人為		後期 前葉
39	SK441 (報文6)	F1区 S-103	(Ⅲd 層上面)	円形	113×100×32.4 0.89		自然石 土器片1点	人為		後期 前葉
40	SK442 (報文6)	F1区 R-100-101	(Ⅲd 層上面)	円形	107×99×72.5 0.83		土器片1点	人為	SK443→SK442 Pit34	後期 前葉
41	SK443 (報文6)	F1区 R-100-101	(Ⅲd 層上面)	楕円形	127× ×	N17E		人為	Pit32→SK443 →SK442 Pit33 (SI403)	
42	SK445 (報文6)	F1区 R-105	(Ⅲd 層上位)	円形	124× ×121.4 1.21			人為		
43	SK446 (報文6)	F1区 R-101-102	(SI405 底面)	楕円形	× ×28			人為	SK446→SI404 SI405	
44	SK447 (報文6)	F1区 R-101-102	(SI405 底面)	楕円形	× ×36	N28W		人為	SK448 →SK447	
45	SK448 (報文6)	F1区 R.S-101-102	(SI405 底面)	楕円形	129×108×97.6 1.10	N19W	土器片1点	人為	SK448 →SK447	後期 前葉
46	SK449 (報文6)	F1区 S-100	(Ⅲd 層上位)	円形	102× ×32.5 0.82		土器片10点	人為	SI410→SK449 →SI410 Pit23	後期 前葉
47	SK450 (報文6)	F1区 S-100	(Ⅲd 層上位)	円形	63×55×48.6 0.27		土器片40点 自然石2個 復元土器・球状石製品各1	人為	SK449 →SK450 Pit223	後期 前葉
48	SK451 (報文6)	F1区 R-100	(Ⅲd 層上位)	円形	72×66×32.2 0.37		土器片8点	人為	Pit41~43 →SK451	後期 前葉
49	SK452 (報文6)	F1区 S-101	(Ⅲd 層上面)	楕円形	130× ×30.5	N25E	石製品1点 土器片6点		SK452→Pit26 SE401	後期 前葉
50	SK453 (報文6)	F1区 Q-106	(Ⅲd 層上面)	円形	117×112×32.2 1.03		酸石1点 播磨2点・土器片50点	人為	Pit92 →SK453	後期 前葉
51	SK485 (報文7)	F2区 ZZ-117	(V層上面)	楕円形	108×82×70 0.71	N88E		人為		
52	SK471 (報文7)	F2区 YI-120	(Ⅲd 層上位)	円形	86×82×34 0.55			人為		後期 前葉

第102表 土坑(万座北側地区3)

No.	遺構名 (報文No)	調査区 グリッド	確認面	形態	規模 (cm・m) 長軸×短軸×深さ・面積	長軸方向	出土遺物	埋土	新旧関係	構築時期
53	SK477 (報文7)	F2区 YI-120	(Ⅲd 層中位)	楕円形	160×119×44.9 1.53	N 5 3 E	凹石 1点	人為		後期 前葉
54	SK478 (報文7)	F2区 YH-120	(Ⅲd 層上面)	円形	179×160×31.2 2.26			自然	SK(T)470 →SK478	後期 前葉
55	SK489 (報文7)	F2区 YG-116	(V層上位面)	楕円形	× ×54.5			人為	SK489→SK(T)490 SK498, 502	後期 前葉
56	SK498 (報文7)	F2区 YG-116	(VI層上位面)	楕円形	120×100×89 0.95	N 4 0 E		人為	SK498→SK498 SK502とは不明	後期 前葉
57	SK502 (報文7)	F2区 YG-116	(VI層上面)	円形	120×117×92 1.10			人為	SK489→SK502 SK498とは不明	後期 前葉
58	SK503 (報文7)	F2区 YG-118	(IV層上面)	楕円形	224×186×80 3.30	N 2 8 W	土器片 1点 磨製石斧 1点	自然	SK(P)504 →SK503	後期 前葉
59	SK510 (報文7)	F2区 YE-115-116	(Ⅲd 層上面)	楕円形	77×67×49.8 0.41	N 6 1 E		人為		
60	SK901 (報文9)	F3区 YJ-112-113	(Ⅲd 層上面)	円形	70×64×38 0.35			自然		後期
61	SK902 (報文9)	F3区 YJ-109	(Ⅲd 層上面)	円形	120× ×33 1.13			自然		後期
62	SK903 (報文9)	F3区 YJ-111	(Ⅲd 層下位)	楕円形	120×94×33 0.90	N 3 0 E		人為		後期
63	SK905 (報文9)	F3区 YI-106	(IV層上面)	円形	126×110×60 1.09		土器片 8点	人為		後期 前葉
64	SK906 (報文9)	F3区 YI-106	(ST901底面)	楕円形	92×76×56 0.55		凹石 1点 搔器 2点 土器片 62点 土器片利用土製品 4点		SK906 →ST901 →SK907	後期 前葉
65	SK907 (報文9)	F3区 YI-106	(ST901底面)	楕円形	150×116×42 1.39	N 4 3 E	石鏝 2点 搔器 9点 土器片 191点 石匙・磨石製品各 1点	人為	SK907 →SK906	後期 前葉
66	SK909 (報文9)	D5区 ZW-ZV98	(Ⅲd 層上面)	円形	98×94×46 0.72		土器片 16点 磨製石斧 1点 石鏝・磨製石斧各 1点	人為		後期 前葉
67	SK910 (報文9)	D5区 ZZ-99-100	(Ⅲd 層上面)	円形	170×152×上段38 ×下段60 2.06		凹石・石刀各 1点 石鏝・有孔石製品各 1点 完形復元土器・搔器各 2	人為		後期 前葉
68	SK390 (報文10)	D3区 YH-91	(Ⅲd 層上位)	円形	100×95×92 0.75		土器片 15点	人為		後期 前葉
69	SK391 (報文10)	D8区 YH-YG- 90-91	(Ⅲd 層上位)	楕円形	104×86×57 0.71	N 1 5 E	土器片 17点	人為	SK393A →SK391	後期 前葉
70	SK392 (報文10)	D8区 YK-YJ- 91-92	(Ⅲd 層上位)	円形	115×110× 0.99					
71	SK393A (報文10)	D3区 YH-YG- 90-91	(Ⅲd 層上位)	楕円形	×102×17				SK393A →SK391	
72	SK399 (報文10)	D3区 YE-91	(Ⅲd 層上位)	円形	124×112× 1.09					
73	SK430 (報文10)	D4区 YA-95	(Ⅲd 層中位)	円形	182×170× 2.43					
74	SK7 (報文13)	F4区 YP-102	(SI4底面)	円形	77× ×38 0.47		石器 1点 土器片 13点		SK7→SK(T)6	後期 前葉
75	SK15 (報文13)	F4区 YJ-101	(Ⅲd 層上面)	円形	93×85×66 0.62		土器片 10点	人為	SK15→Pit25 Pit47	後期 前葉
76	SK16 (報文13)	F4区 YJ-101	(Ⅲd 層上面)	楕円形	117×105×77 0.97	N 3 7 W	石鏝 1点	人為	SK16→Pit26 Pit27	
77	SK20 (報文13)	F4区 YI-100	(Ⅲd 層上面)	楕円形	175×149×70 2.06	N 1 2 W	石皿 1点	人為	SK20→Pit5 P1190 SK20→SK01	
78	SK21 (報文13)	F4区 YI-100	(Ⅲd 層上面)	楕円形	113×84×60 0.76	N 5 6 E	土器片 5点	人為	SK21→Pit7	後期 前葉
79	SK24 (報文13)	F4区 YK-103	(Ⅲd 層上面)	楕円形	135×98×63 1.07	N 7 E	土器片 3点	人為	SK24→Pit28	後期 前葉
80	SK28 (報文13)	F4区 YN-105	(Ⅲd 層上面)	楕円形	122×87×53 0.86	N 5 6 E	土器片 3点	人為		後期 前葉

第103表 土坑(万座北側地区4)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	形態	規模 (cm・m) 長軸×短軸×深さ・面積	長軸方向	出土遺物	埋土	新旧関係	構築時期
81	SK31 (報文13)	F4区 YL-106	(Ⅲd層上面)	円形	152×145×54 1.73		土器片57点	人為	SK31→SK32	後期 前葉
82	SK32 (報文13)	F4区 YL-106	(Ⅲd層上面)	円形	154×145×54 1.75		土器片28点	人為	SK31→SK32	後期 前葉
83	SK33 (報文13)	F4区 YN-105	(Ⅲd層上面)	楕円形	180×109×43 1.64	N11E	石器1点 土器片8点	人為	SK33 →Pit170	後期 前葉
84	SK37 (報文13)	F4区 YI-99	(Ⅲd層上面)	楕円形	157×117×62 1.47	N61E	石器1点 土器片18点	人為	SK37→Pit3 SK37 →SB01(Pit3)	後期 前葉
85	SK41 (報文13)	F4区 YK-100	(Ⅲd層上面)	楕円形	142×125×38 1.40	N43E	石器1点 土器片54点	人為		後期 前葉
86	SK39 (報文13)	F4区 YI-99	(Ⅲd層上面)	円形	85 × × 0.57				SK39 →SK(?)38	
87	SK42 (報文13)	F4区 YK-99	(Ⅲd層上面)	楕円形	115×91×39 0.83	N S	石器1点 土器片40点 土器片利用土製品1点	人為	SK42 →Pit116, 119 SK42→SB10	後期 前葉
88	SK57 (報文13)	F4区 YK, YL-98	(Ⅲd層上面)	円形	122×116×83 1.11		土器片76点	人為		後期 前葉
89	SK64 (報文13)	F4区 YJ, YK- 95-96	(Ⅲd層上面)	円形	164×122×83 1.61	N55E	石器7点 土器片294点	人為		後期 前葉
90	SK66 (報文13)	F4区 YN-100	(Ⅲd層上面)	楕円形	137×106×81 1.16	N17E		人為		
91	SK71 (報文13)	F4区 YO-104	(Ⅲd層上面)	楕円形	130×97×57 1.01	W E		人為	SK71 →SX(S)4	
92	SK72 (報文13)	F4区 YK-107	(Ⅲd層上面)	楕円形	134×109×52 1.16	N81W		人為		
93	SK73 (報文13)	F4区 YO-104	(Ⅲd層上面)	楕円形	×80×53	W14W		人為	SK73 →SX(S)4 →SK10	
94	SK74 (報文13)	F4区 YK-98	(Ⅲd層上面)	楕円形	112×90×92 0.80	N S		人為	SK74→SK75	
95	SK75 (報文13)	F4区 YK-98	(Ⅲd層上面)	円形	111×109×96 0.95			人為	SK74→SK75	
96	SK02 (報文14)	F5区 YW-121	(Ⅲd層上面)	円形	82×80×24 0.52		浅皿1個			後期
97	SK03 (報文14)	F5区 ZV-112	(Ⅲd層上面)	楕円形	×100×32	N S	土器片5点			後期 初頭 ～ 前葉
98	SK04 (報文14)	F5区 ZU-126 YI, YI-126	(Ⅳ層上面)	楕円形	142×130×69 1.45	N55W		人為		後期
99	SK05 (報文14)	F5区 YW-122	(Ⅲd層上面)	楕円形	116×87×50 0.81	N50E				後期
100	SK06 (報文14)	F5区 YW-120	(Ⅴ層上面)	楕円形	109×74×16 0.66	N49E			SK06→3号境	後期
101	SK07 (報文14)	F5区 YQ-116	(Ⅴ層上面)	楕円形	111×96×21 0.83	N53E			SK07→1号境	後期

第 104 表 土坑(万座西側地区)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	形態	規模 (cm・m) 長軸×短軸×深さ・面積	長軸方向	出土遺物	埋土	新旧関係	構築時期
1	SK339 (報文5)	D2区 YC-79	(Ⅲd 中位)	楕円形	118×80×13 0.77	N 1 8 E	土器片 7点 復元土器 1点 土器片利用土製品 1点	人為	SB230 →SK339	後期 前葉
2	SK342 (報文5)	D2区 YE-80	(Ⅲd 中位)	楕円形	167×127×52 1.70	N 7 3 W		人為	SK(T)342 →SK342	
3	SK345 (報文5)	D2区 YD-80・81	(Ⅲd 下位)	円形	146×139×20 1.59			人為		
4	SK346 (報文5)	D2区 YD-81	(Ⅳ層上面)	楕円形	149×94×14 1.16	N 6 2 E	土器片 1点	自然		後期
5	SK347 (報文5)	D2区 YD-81	(Ⅲd 層上面)	楕円形	131×102×26 1.07	N 3 3 E	土器片 1点	人為		後期
6	SK01 (報文20)	G4区 YK-72	(Ⅲd 層上)	円形	64×(62)×52		土器 7点	人為		後期 前葉
7	SK04 (報文20)	G4区 YN-60	(Ⅲd 層上)	楕円形	156×136×38 1.67	N 6 6 W		人為		後期 前葉
8	SK05 (報文20)	G4区 YJ-52	(Ⅲd 層上)	楕円形	× ×43					
9	SK06 (報文20)	G4区 YM-52	(Ⅲd 層上)	楕円形	143×120×45 1.36			人為	SK06→SK07	後期 前葉
10	SK07 (報文20)	G4区 YM-52	(Ⅲd 層上)	円形	123×119×42 1.15			人為	SK06→SK07	後期 前葉
11	SK08 (報文20)	G4区 YP-48	(Ⅳ層上)	円形	45×42×15 0.15		剥片 35点	人為	Pit21→SK08	後期 前葉
12	SK03 (報文19)	D9区 YM-YN- 86	(Ⅲd 層上)	楕円形	× ×			人為	SK03 → SK(F)02、 SK(F)04	後期
13	SK10 (報文19)	D9区 YN-88	(SI01 床面)	楕円形	×(80)×(40)			人為	SK10 →SI01(前葉)	後期

第 105 表 土坑(万座南側地区)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	形態	規模 (cm・m) 長軸×短軸×深さ・面積	長軸方向	出土遺物	埋土	新旧関係	構築時期
1	SK705 (報文8)	G1区 ZA-A57・58	(Ⅲd1 層上面)	楕円形	92×68×61 0.50	N 4 1 W	土器片 13点	人為	SK(F)706 →SK705	後期 前葉
2	SK707 (報文8)	G1区 A-56	(Ⅲd1 層上面)	不整 楕円形	136×102×20 1.11	N 7 9 E		人為		後期 前葉
3	SK712 (報文8)	G1区 ZA-63・64	(Ⅲd2 層) (Ⅴ層上面)	不整 楕円形	134×114×86 1.21	N 4 2 W		人為		後期 前葉

第106表 土坑(野中堂隣接地区1)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	形態	規模 (cm・㎡) 長軸×短軸×深さ・面積	長軸方向	出土遺物	埋土	新旧関係	構築時期
1	SK101 (報文2)	B1区 D-105	(Ⅲe層下面)	楕円形	126×104×16 1.04	N31E		人為		
2	SK102 (報文2)	B1区 L-101	(Ⅲe層下面)	円形	78×78×94 0.48		土器片少量 円盤状石製品2点 土器片利用土製品1点	自然		後期 前葉
3	SK103 (報文2)	B1区 L-102	(Ⅲe層下面)	円形	122×113×12 1.08		土器片少量	人為		後期 初頭
4	SK104 (報文2)	B1区 K-101	(Ⅲe層下面)	円形	77×61×28 0.37		土器片少量	自然		後期 前葉
5	SK105 (報文2)	B1区 J-101	(Ⅲe層下面)	隅丸 方形	78×74×16 0.45			人為		
6	SK106 (報文2)	B1区 J-101	(Ⅲe層下面)	円形	95×85×9 0.64		土器片少量	人為		後期 初頭
7	SK107 (報文2)	B1区 L-101	(Ⅲe層下面)	円形	60×54×21 0.26		土器片少量	自然		後期 前葉
8	SK108 (報文2)	B1区 L100・101	(Ⅲe層下面)	楕円形	87×72×56 0.50	N43W	土器片少量 土器片利用土製品3点	人為		後期 初頭
9	SK31 (報文17)	B2区 R-92	(Ⅳ層上)	楕円形	144×56×56 0.79			人為	SK31→SK02 →SK(F)32	後期
10	SK103 (報文17)	B2区 J-87	(Ⅳ層上)	楕円形	116×80×18 0.75			自然	SK103→SB02 →Pt117・118	後期
11	SK104 (報文17)	B2区 I-88	(Ⅳ層上)	円形	58×55×14 0.25			人為		後期
12	SK105 (報文17)	B2区 K-88	(Ⅲd層上)	円形	73×70×41 0.40		土器7点	人為		後期
13	SK108 (報文17)	B2区 H-186	(Ⅲd層上)	楕円形	138×125×47 1.36		土器23点 搔器・板石各1点	人為		後期
14	SK110 (報文17)	B2区 K-89	(Ⅳ層上)	楕円形	126×103×42 1.03			人為	Pt1212-146 →SK110	後期
15	SK111 (報文17)	B2区 H-88	(Ⅴ層上)	楕円形	55×50×16 0.22			人為		後期
16	SK113 (報文17)	B2区 H-88	(Ⅴ層上)	楕円形	117×98×14 0.87			人為		後期
17	SK117 (報文17)	B2区 I-89・90	(Ⅴ層上)	円形	87×86×60 0.59		土器・板石各1点	人為	Pt162・163 →SK117	後期
18	SK118 (報文17)	B2区 L-87・88	(Ⅴ層上)	円形	85×82×29 0.55		土器18点 凹石・板石各1点	人為		後期
19	SK120 (報文17)	B2区 K-87	(Ⅴ層上)	楕円形	70×59×18 0.33			人為		
20	SK122 (報文17)	B2区 G・H-88	(Ⅲd層下)	楕円形	125×97×17 0.97			人為		後期
21	SK123 (報文17)	B2区 L-88	(Ⅴ層上) (Ⅲd層上)	楕円形	(170)×150×63		深鉢形土器1点	人為	SK123 →SK178・192 SK(F)191	後期
22	SK125 (報文17)	B2区 M-88	(Ⅲd層上)	楕円形	99×84×17 0.66			自然	SK(F)124 →SK125	後期
23	SK126 (報文17)	B2区 M-88	(Ⅲd層上)	円形	88×84×40 0.58		土器13点	人為		後期
24	SK129 (報文17)	B2区 Q-90	(Ⅳ層上)	楕円形	131×81×8 0.88			人為		後期
25	SK130 (報文17)	B2区 S-90・91	(Ⅲd層上)	楕円形	195×138×38 2.18		搔器1点 土器13点	人為		後期
26	SK132 (報文17)	B2区 H-90・91	(Ⅲd層上)	楕円形	132×79×50 0.87		搔器4点 土器107点 復元土器1点 凹石・鉢形土製品各2点	人為	SK132 →SK(F)133	後期 前葉
27	SK135 (報文17)	B2区 P-88・89	(Ⅳ層上)	楕円形	135×111×13 1.19		土器4点	人為		後期
28	SK136 (報文17)	B2区 Q-92	(Ⅳ層上)	楕円形	91×48×6 0.38			人為		後期
29	SK137 (報文17)	B2区 Q-92	(Ⅳ層上)	楕円形	147×70×13 0.92			人為		後期
30	SK138 (報文17)	B2区 M-88	(Ⅳ層上)	楕円形	115×94×52 0.86		土偶1点 土器3点	人為		後期
31	SK139 (報文17)	B2区 P-89	(Ⅳ層上)	楕円形	94×69×14 0.52		土器10点	人為		後期

第107表 土坑(野中堂隣接地区2)

No	遺構名 (報文No)	調査区 グリッド	確認面	形態	規模 (cm・m) 長軸×短軸×深さ・面積	長軸方向	出土遺物	埋土	新旧関係	構築時期
32	SK140 (報文17)	B2区 Q-91	(IV層上)	楕円形	158×98×36 1.29		土器3点	人為	SK140 →SK196	後期
33	SK142 (報文17)	B2区 P-90	(III d層上)	楕円形	115×105×42 0.95		土器1点	人為		後期
34	SK143 (報文17)	B2区 O-89	(III d層上)	楕円形	118×101×17 0.94		土器3点	人為		後期
35	SK144 (報文17)	B2区 Q-89	(III d層上)	楕円形	117×100×17 0.92		土器7点	人為		後期
36	SK145 (報文17)	B2区 E-90-91	(III d層上)	楕円形	100×80×38 0.64		土器27点 搔器・敲石・板石各1点	人為		後期
37	SK147 (報文17)	B2区 N-88・89	(III d層上)	楕円形	122×98×21 0.95		土器27点 搔器・刀各1点	人為	SK159 →SK147	後期
38	SK148 (報文17)	B2区 N-88	(III d層上)	楕円形	151×130×36 1.55		土器5点 敲石・砥石・板石各1点	人為		後期
39	SK151 (報文17)	B2区 E-90	(III d層上)	楕円形	(105)×81×61		搔器1点 土器12点	人為	SK151 →SK(?)153	後期
40	SK152 (報文17)	B2区 Q-89	(IV層上)	円形	50×50× 0.20					後期
41	SK156 (報文17)	B2区 F-90-91	(III d層上)	楕円形	80×71×42 0.45		凹石1点 土器12点	人為	SK156 →Pit197	
42	SK157 (報文17)	B2区 L,J-89	(IV層上)	楕円形	93×62×23 0.47		土器44点 凹石・環状土製品各1点	人為	SK157 →Pit199	
43	SK158 (報文17)	B2区 F,G-90	(III d層上)	楕円形	108×73×35 0.64		土器3点	人為	Pit427 →SK158	後期
44	SK159 (報文17)	B2区 N-88・89	(III d層上)	楕円形	114×108×24 0.97		搔器1点 土器3点	人為	SK159 →SK147	後期
45	SK160 (報文17)	B2区 J-89	(IV層上)	円形	80×77×11 0.48			人為		後期
46	SK161 (報文17)	B2区 J-90	(III d層下)	楕円形	80×60×34 0.38			人為	SK161 →Pit224-375	後期
47	SK162 (報文17)	B2区 G,H-90	(III d層上)	楕円形	140×105×33 1.18		土器11点 完形土器・搔器・凹石各1	人為		後期
48	SK164 (報文17)	B2区 N-88	(III d層下)	円形	98×98×26 0.75			人為		後期
49	SK171 (報文17)	B2区 F-93-94	(III d層下)	円形	108×106×30 0.90			人為	SK(?)190 →SK171→Pit423	
50	SK175 (報文17)	B2区 P-90-91	(III d層中)	楕円形	100×80×31 0.64			人為		
51	SK176 (報文17)	B2区 R-90	(IV層上)	楕円形	182×159×46 2.23			人為		後期
52	SK177 (報文17)	B2区 R-91	(IV層上)	楕円形	86×67×30 0.46			人為	SK178 →SK177	後期
53	SK178 (報文17)	B2区 R-91	(IV層上)	楕円形	240×152×25 3.02		土器42点	人為	SK178→SK177 Pit420,421	後期
54	SK179 (報文17)	B2区 P-90-91	(III d層上)	楕円形	84×69×47 0.46		土器5点	人為		後期
55	SK183 (報文17)	B2区 S-91-92	(III d層中)	楕円形	117×105×26 0.97		土器91点 復元土器1点 搔器・磨製石斧各1点	人為		後期
56	SK185 (報文17)	B2区 F-92	(SI01床面)	楕円形	112×80×(32) 0.72			人為	SK18→SI01 Pit271-274-276	後期
57	SK187 (報文17)	B2区 Q,R-92	(SI02床面)	楕円形	129×104×(66) 1.07			人為	SK187→SI02 Pit306	後期
58	SK189 (報文17)	B2区 D-92	(III d層下)	円形	74×70×22 0.41		土器5点 完形土器1点	人為		後期
59	SK192 (報文17)	B2区 L-88	(III d層上)	楕円形	280×160×75 3.80			人為	SK(?)191、SK198 - SK192 - SK(?)182、SK123	後期
60	SK193 (報文17)	B2区 J-87	(IV層上)	楕円形	111×99×79 0.87			人為		後期
61	SK194 (報文17)	B2区 Q-92	(IV層上)	楕円形	91×(52)×25					後期
62	SK196 (報文17)	B2区 Q-91	(IV層上)	楕円形	153×110×22 1.36			人為	SK140 →SK196	後期
63	SK197 (報文17)	B2区 H-87-88	(III d層上)	楕円形	155×101× 1.29		刀1点 土器17点			後期

第108表 土坑(野中堂隣接地区3)

No	遺構名 (報文No)	調査区 グリッド	確認面	形態	規模 (cm・m) 長軸×短軸×深さ・面積	長軸方向	出土遺物	埋土	新旧関係	構築時期
64	SK198 (報文17)	B2区 L-88	(V層上) (Ⅲd層上)	楕円形	132×87×61 0.94			人為	SK123、192 →SK198	後期
65	SK200 (報文18)	B4区 P-93	(Ⅲd層上)	楕円形	87×(79)×31		剥片1点 土器10点	人為		後期 前葉
66	SK201 (報文18)	B4区 Q-93	(IV層下)	楕円形	45×(42)×					後期 前葉
67	SK204 (報文18)	B4区 P-91	(IV層下 ～V層上)	楕円形	100×(84)×40		土器61点 剥片2点	人為		後期 前葉
68	SK205 (報文18)	B4区 O-91	(V層上) (IV層上)	楕円形	88×(71)×44		土器3点	人為		後期 前葉
69	SK206 (報文18)	B4区 P-91	(Ⅲd層上)	楕円形	50×(50)×35		土器6点	人為		後期 前葉
70	SK207 (報文18)	B4区 O-90・91	(V層上)	円形	96×(90)×37			人為		後期 前葉
71	SK208 (報文18)	B4区 N-90・91	(IV層下) (IV層上)	円形	89×(85)×46			人為		後期 前葉
72	SK210 (報文18)	B4区 N-90	(V層上)	円形	56×(49)×13		土器8点	人為	SK219 →SK210	後期 前葉
73	SK211 (報文18)	B4区 N-90	(V層上)	楕円形	202×(82)×45		土器21点	人為	SK254→SK211 →Pit723	
74	SK212 (報文18)	B4区 N-90	(V層上)	楕円形	141×(88)×37		灰1点 剥片4点 土器73点 完形土器2点	人為	SK212 →Pit441	後期 前葉
75	SK213 (報文18)	B4区 N-90	(V層上) (IV層上)	円形	57×(53)×30			人為		後期 前葉
76	SK215 (報文18)	B4区 M-90	(IV層下 ～V層上)	楕円形	120×(88)×12		剥片5点 土器7点	人為	SK215→Pit481・ 741・479	後期 前葉
77	SK216 (報文18)	B4区 M-90	(V層上)	円形	97×93×41 0.71		土器・剥片各1点	人為	Pit451→SK216 →Pit445	後期 前葉
78	SK217 (報文18)	B4区 M-90	(V層上) (IV層上)	円形	71×67×30 0.34		磨石1点 土器10点	人為		後期 前葉
79	SK218 (報文18)	B4区 M、N-90	(V層上)	円形	65×61×30 0.31		剥片2点 土器9点	人為	Pit634・487 →SK218	後期 前葉
80	SK219 (報文18)	B4区 N-90	(V層上)	楕円形	256×210×8 4.26		剥片2点 土器32点	人為	SK219 →SK210・211・ 253・254・259	後期 前葉
81	SK220 (報文18)	B4区 O-90	(V層上)	楕円形	88×(70)×17			人為		
82	SK222 (報文18)	B4区 L-90	(V層上)	円形	49×48×13 0.81		土器2点	人為		後期
83	SK226 (報文18)	B4区 L-90	(Ⅲd層上 ～中面)	楕円形	80×50×37 0.33			人為	SK226 →Pit563	後期
84	SK233 (報文18)	B4区 G-91	(V層上)	円形	70×67×15 0.37		土器4点	人為	SK233 →Pit663・664	後期
85	SK234 (報文18)	B4区 G-92	(V層上)	楕円形	55×(44)×13		土器3点	人為	SK236	後期
86	SK235 (報文18)	B4区 G-92	(V層上) (IV層上)	楕円形	122×80×19 0.80		土器7点	人為	Pit767	後期
87	SK238 (報文18)	B4区 G-93・94	(Ⅲd層下 ～IV層上)	楕円形	84×76×33 0.50		土器8点	人為	SK239→SK238 →Pit610	後期
88	SK239 (報文18)	B4区 G-94	(Ⅲd層下 ～IV層上)	楕円形	75×64×49 0.38		土器28点 敲石・石鏃各1点	人為		後期
89	SK240 (報文18)	B4区 K-99	(V層上) (Ⅲd層上)	楕円形	66×56×33 0.29		土器16点	人為	Pit727 →SK240	後期
90	SK242 (報文18)	B4区 H-91	(V層上) (IV層下)	楕円形	64×36×13 0.20			人為	SK242 →Pit717	後期
91	SK244 (報文18)	B4区 J-90	(IV層上)	楕円形	98×70×18 0.55		土器6点	人為		後期
92	SK245 (報文18)	B4区 J-89	(IV層上)	円形	× ×22		土器3点	人為		後期
93	SK246 (報文18)	B4区 N-90・91	(IV層上)	円形	50×49×12 0.19			人為		後期
94	SK247 (報文18)	B4区 O-91	(IV層上)	楕円形	50×40×20 0.16			人為		後期

第109表 土坑(野中堂隣接地区4)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	形態	規模 (cm・m) 長軸×短軸×深さ・面積	長軸方向	出土遺物	埋土	新旧関係	構築時期
95	SK253 (報文18)	B4区 N-90	(V層上)	楕円形	80×50×34 0.33		剥片1点 土器10点	人為	SK219-SK253 →SK259, Pit423	後期
96	SK254 (報文18)	B4区 N-90	(V層上)	楕円形	(30)×(20)×			人為	SK254→SK211 SK219不明	
97	SK255 (報文18)	B4区 LM89-90	(Ⅲd'層中)	楕円形	92×64×27 0.48		土器10点	人為	Pit628 →SK255	後期
98	SK256 (報文18)	B4区 G-92	(Ⅲd'層中)	楕円形	112×65×38 0.61		剥片1点 土器14点	人為	Pit584 →SK256	後期
99	SK258 (報文18)	B4区 N-90	(V層上)	楕円形	53×35×13 0.15			人為		後期
100	SK259 (報文18)	B4区 N-90	(V層上)	楕円形	110×(70)×13		剥片1点	人為	SK219・253 →SK259 →Pit433・434	後期
101	SK263 (報文18)	B4区 G-92	(Ⅳ層下) (Ⅳ層上)	楕円形	49×(40)×17				SK263 →Pit725	
102	SK260 (報文18)	B2区 F-91, 92	(Ⅲd'層下)	楕円形	61×(49)×23			人為	Pit712 →SK260	後期
103	SK262 (報文18)	B2区 O-89, 90	(V層上)	楕円形	55×41× 0.18					
104	SK248 (報文18)	B2区 H-91	(V層上)	円形	(50)×(50)×					
105	SK252 (報文18)	B2区 F-93	(V層上)	楕円形	50×53×26 0.21				Pit709 →SK252	後期

第110表 土坑(一本木後口地区)

No.	遺構名 (報文No)	調査区 グリッド	確認面	形態	規模 (ca・m ²) 長軸×短軸×深さ・面積	長軸方向	出土遺物	埋土	新旧関係	構築 時期
1	SK02 (報文1)	A1区 I・J-11	(IV層下面)	楕円形	222×152×34 2.75	N 9 E				
2	SK03 (報文2)	A2区 M-9	(IV層上面)	円形	86×74×70 0.50	N 4 2 E		人為		
3	SK04 (報文2)	A2区 T-9	(IV層上面)	楕円形	96×74×34 0.57	N 1 0 E	土器片2点	人為		後期
4	SK05 (報文2)	A2区 R-10	(III d 層下位)	楕円形	90×70×24 0.50	N 1 7 W				
5	SK06 (報文2)	A2区 R-7	(IV層上面)	円形	84×78×19 0.52	N 1 5 W	土器片1点	人為		後期
6	SK07 (報文2)	A2区 S-10	(IV層上面)	楕円形	110×76×44 0.68	N 5 1 E	土器片2点	人為		後期
7	SK08 (報文2)	A1区 P-13	(IV層上面)	楕円形	87×53×39 0.38	N 4 1 E		人為		
8	SK09 (報文2)	A1区 R-12	(IV層上面)	楕円形	108×65×26 0.59	N 3 8 E		人為		
9	SK10 (報文2)	A1区 S-12	(IV層上面)	楕円形	93×70×25 0.52	N 4 2 E	土器片1点	人為	SK11 →SK10	後期
10	SK11 (報文2)	A1区 S-12	(IV層上面)	楕円形	118×93×38 0.87	N 5 3 E		人為	SK11 →SK10	後期
11	SK12 (報文2)	A1区 P・Q-13・14	(IV層上面)	楕円形	114×75×28 0.70	N 5 8 E		人為		後期
12	SK31 (報文3)	A3区 R-5	(IV層上面)	楕円形	118×92×23 0.87	N 7 W	土器片3点	人為		後期 前葉
13	SK33 (報文3)	A3区 R-6	(IV層上面)	円形	118×112×60 1.04	N 7 9 E		人為		後期 前葉
14	SK34 (報文3)	A3区 R-3	(III d 層下位)	楕円形	115×77×31 0.72	N 3 4 E		人為	SK36→SK34	後期 初頭 ～ 前葉
15	SK35 (報文3)	A3区 T-3	(III d 層)	楕円形	109×76×37 0.68	N 5 6 E	土器片10点	人為	SK37→SK35	後期 初頭 ～ 前葉
16	SK36 (報文3)	A3区 R-3	(III d 層下位)	楕円形	75×55×38 0.33	N 3 6 E		人為		後期 初頭 ～ 前葉
17	SK37 (報文3)	A3区 T-3	(III d 層)	楕円形	78×55×35 0.35	N 6 1 E	土器片5点	人為		後期 初頭 ～ 前葉
18	SK38 (報文3)	A3区 S-3	(III d 層)	楕円形	92×64×37 0.48	N 1 W		人為		後期 初頭 ～ 中葉
19	SK39 (報文3)	A3区 S-5	(IV層上面)	楕円形	96×70×34 0.54	N 4 6 E	土器片	人為		後期 初頭 ～ 中葉

(3) フラスコ状土坑 (第144～170図、第111～132表)

これまでの調査によって万座隣接地151基、万座北側地区56基、万座西側地区9基、万座南側地区11基、野中堂隣接地71基の計298基のフラスコ状土坑が検出されている。

【ア. 形態】

平面形態は円形または楕円形を呈する。

断面形及び底面に存在する小ピットの有無から、形態分類することができる。なお、フラスコ状土坑であるか否かを確認し、精査を終了したものが101基あり、それらについては形態分類を試みていない。

I類： 頸部から底部にかけて壁面が末広がり掘り下げられるもの。壁面はフラットもしくは若干湾曲する。底面の小ピットの有無で細分される。5地区計170基

a類 底面に小ピットを有しないもの。5地区計134基

b類 底面に小ピットを有するもの。小ピットは底面のほぼ中央に穿たれる。5地区計36基

II類： 壁面が大きく湾曲し、球状に近い形状を呈するもの。5地区計2基

III類： 頸部からの掘り込みが歪なもので、断面形が「長靴状」を呈するもの。5地区計25基

万座隣接地

I類=100基 (I a類=84基、I b類=16基)、II類=1基、III類=13基、不明37基である。

I a類が圧倒的に多く、地区全体の55.6%を占める。

万座北側地区

I類=45基 (I a類=34基、I b類=11基)、II類=0基、III類=6基、不明5基である。

I a類が圧倒的に多く、地区全体の60.8%を占める。万座隣接地と比較しI b類の比率がわずかに高い。

万座西側地区

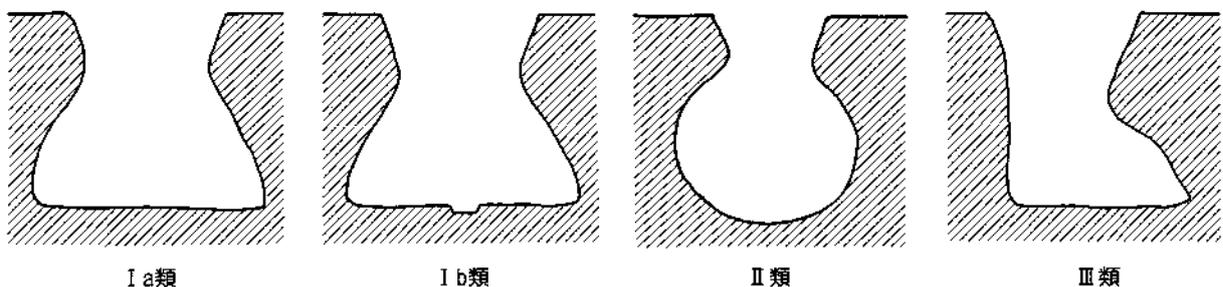
I類=3基 (I a類=3基、I b類=0基)、II類=0基、III類=3基、不明3基である。

資料数が少ないことから、各類の比率は不明である。

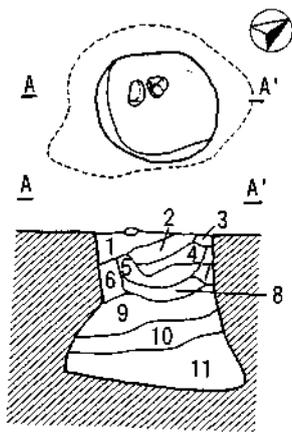
万座南側地区

I類=8基 (I a類=3基、I b類=5基)、II類=0基、III類=0基、不明3基である。

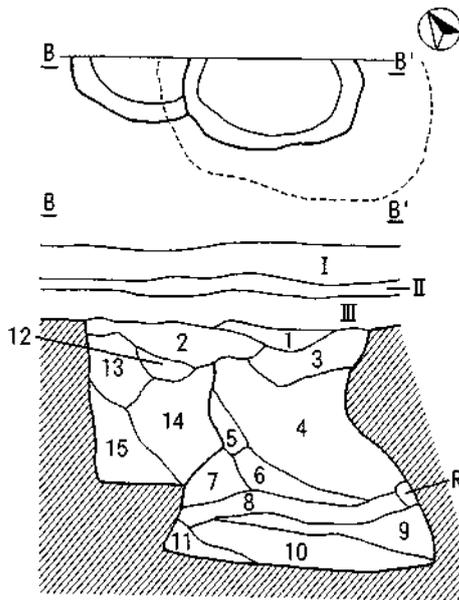
資料数が少ないことから断定できないが、I b類の比率が他の地区より高い。



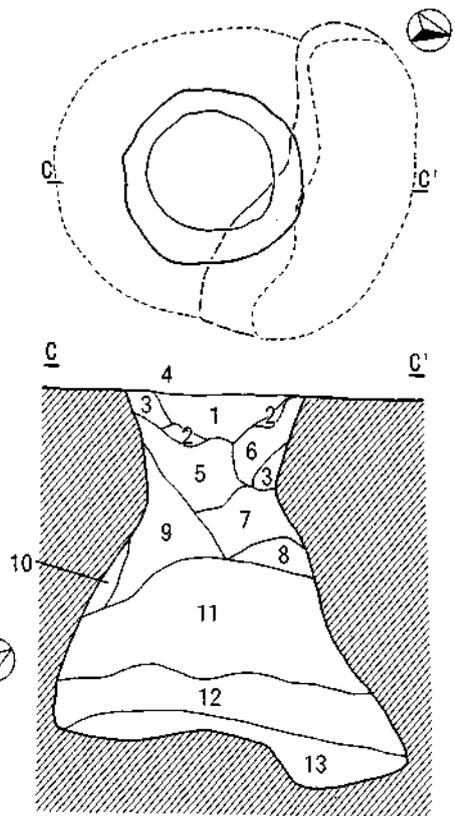
第144図 フラスコ状土坑形態分類



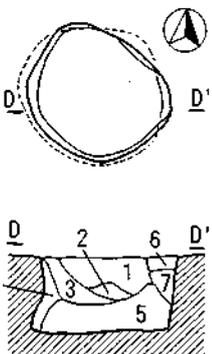
SK (F) 217 (万座隣接地)



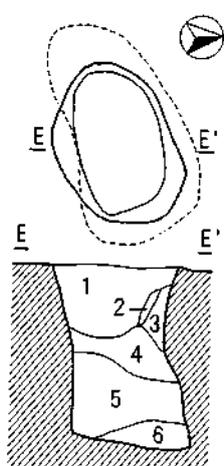
SK233・SK (F) 232 (万座隣接地)



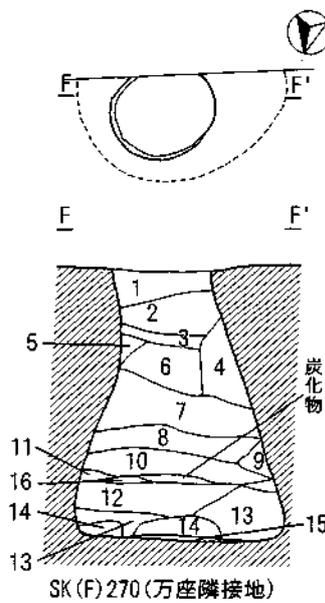
SK (F) 240 (万座隣接地)



SK (F) 234 (万座隣接地)



SK (F) 238 (万座隣接地)



SK (F) 270 (万座隣接地)

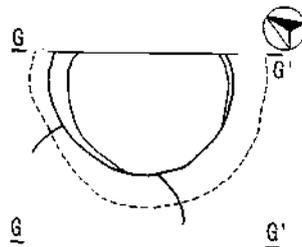
- SK (F) 217
1. 黒色土 (7.5982/1)
 2. 黒色土 (10982/0)
 3. 黒色土 (10982/2)
 4. 黒色土 (10982/2)
 5. 黒色土 (12.5982/4) 礫土
 6. 黒色土 (10982/4)
 7. 黒色土 (10982/1)
 8. 黒色土 (10982/2)
 9. 黒色土 (10982/2)
 10. 赤い腐植土 (10984/3)
 11. 黒色土 (10982/2)

- SK (F) 232
1. 黒色土 (10981.1/1) 礫山砂を多く含む
 2. 黒色土 (10982/1)
 3. 黒色土 (10982/1) 礫土を多く含む
 4. 黒色土 (10982/2)
 5. 黒色土 (10982/2) 礫山ブロックを多く含む
 6. 黒色土 (10982/2) 礫土を多く含む
 7. 黒色土 (10982/1)
 8. 黒色土 (10982/1) 礫土を多く含む
 9. 赤い腐植土 (10984/3)
 10. 黒色土 (10982/2)
 11. 黒色土 (10982/2)

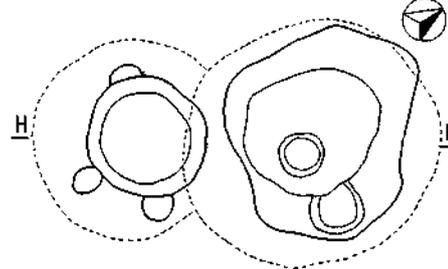
- SK (F) 234
1. 黒色土 (10982/1) 礫土を多く含む
 2. 黒色土 (10982/1) 礫土を多く含む
 3. 黒色土 (10982/1) 礫土を多く含む
 4. 黒色土 (10982/1) 礫土を多く含む
 5. 黒色土 (10982/1) 礫土を多く含む
 6. 黒色土 (10982/1) 礫土を多く含む
 7. 黒色土 (10982/2)

- SK (F) 238
1. 黒色土 (10982/1)
 2. 黒色土 (10982/2)
 3. 黒色土 (10982/1)
 4. 黒色土 (10982/1) 礫土を多く含む
 5. 黒色土 (7.5982/1)
 6. 黒色土 (10982/2)

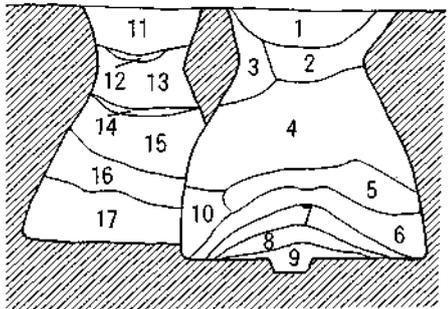
- SK (F) 240
1. 黒色土 (10982/1)
 2. 黒色土 (10982/2)
 3. 黒色土 (10982/2) 礫土を多く含む
 4. 黒色土 (10982/2) 礫土を多く含む
 5. 黒色土 (10982/2) 礫土を多く含む
 6. 黒色土 (10982/2) 礫土を多く含む
 7. 黒色土 (10982/2)
 8. 黒色土 (10982/2) 礫土を多く含む
 9. 黒色土 (10982/2) 礫土を多く含む
 10. 黒色土 (10982/2) 礫土を多く含む
 11. 黒色土 (10982/2)
 12. 黒色土 (10982/2)
 13. 黒色土 (10982/2)
 14. 赤い腐植土 (10984/3)
 15. 黒色土 (10982/2)
 16. 黒色土 (10982/2)
 17. 黒色土 (10982/2)



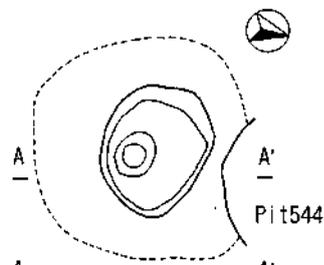
SK (F) 271 (万座隣接地)



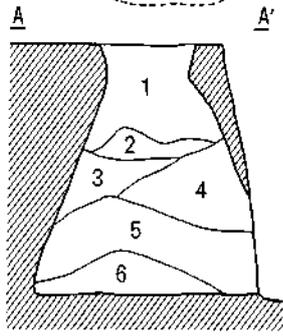
SK (F) 295・284 (万座隣接地)



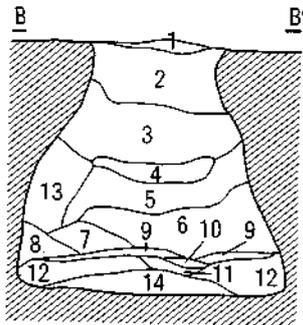
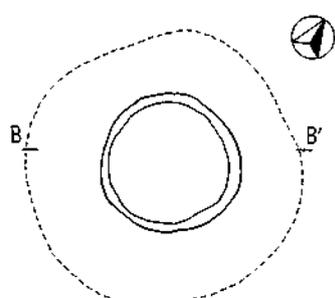
第145図 フラスコ状土坑実測図 (1)



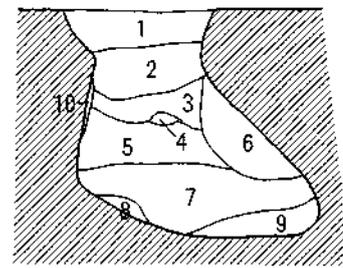
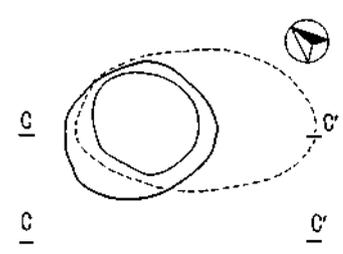
Pit 544



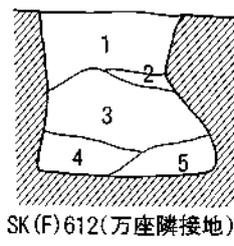
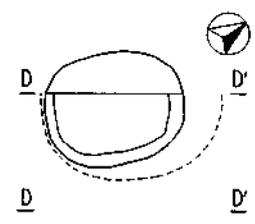
SK (F) 288(万座隣接地)



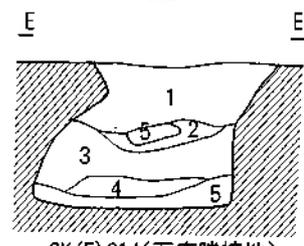
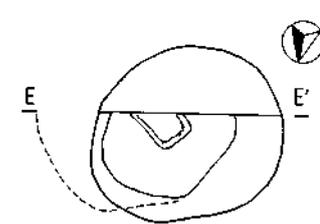
SK (F) 303(万座隣接地)



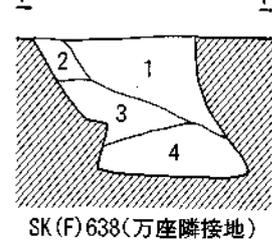
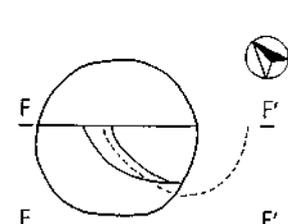
SK (F) 313(万座隣接地)



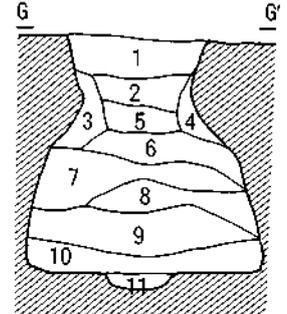
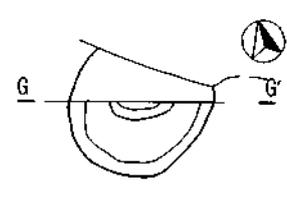
SK (F) 612(万座隣接地)



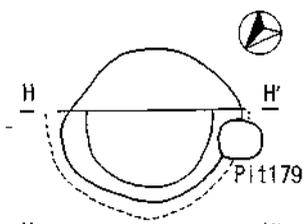
SK (F) 614(万座隣接地)



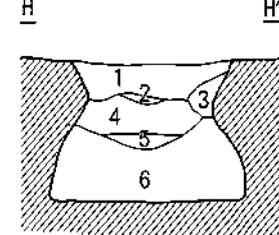
SK (F) 638(万座隣接地)



SK (F) 01(万座隣接地)



Pit 179



SK (F) 18(万座隣接地)

- SK (F) 288
1. 黒褐色土 (10192/2) 地山物多量に含む
 2. 黒褐色土 (10192/2) 地山土
 3. 褐色土 (10192/1)
 4. 黒褐色土 (10192/2)
 5. 黒褐色土 (10192/2) 地山物多く含む
 6. 黒褐色土 (10192/2)

- SK (F) 303
1. 黒褐色土 (10192/2) 粘土を含む
 2. 黒褐色土 (10192/2)
 3. 黒褐色土 (10192/2)
 4. 黒褐色土 (10192/2)
 5. 黒褐色土 (10192/2) 地山物多く含む
 6. 黒褐色土 (10192/2)
 7. 黒褐色土 (10192/2)
 8. 黒褐色土 (10192/2) 地山物多量に含む
 9. 黒褐色土 (10192/2)
 10. 黒褐色土 (10192/2) 地山物多く含む
 11. 黒褐色土 (10192/2)
 12. 黒褐色土 (10192/2) シラスを含む
 13. 黒褐色土 (10192/2) シラスを含む
 14. 黒褐色土 (10192/2)

- SK (F) 313
1. 黒褐色土 (10192/2)
 2. 黒褐色土 (10192/2)
 3. 黒褐色土 (10192/2)
 4. 褐色土 (10194/3) 粘土を含む
 5. 黒褐色土 (10192/2) 地山物多量に含む
 6. 黒褐色土 (10192/2)
 7. 黒褐色土 (10192/2)
 8. 褐色土 (10194/4) 黒色土を含む
 9. 黒褐色土 (10192/2)
 10. 黒褐色土 (10192/2)

- SK (F) 012
1. 黒褐色土 (10192/1) 全体的に粘る
 2. 黒褐色土 (10192/1) 粘る
 3. 黒褐色土 (10192/1)
 4. 褐色土 (10192/2) 地山物多量に含む
 5. 黒褐色土 (10192/2)

- SK (F) 614
1. 黒褐色土 (10192/2)
 2. 褐色土 (10192/1)
 3. 褐色土 (10192/1)
 4. 褐色土 (10191, 2/1)
 5. 黒褐色土 (10192/2)

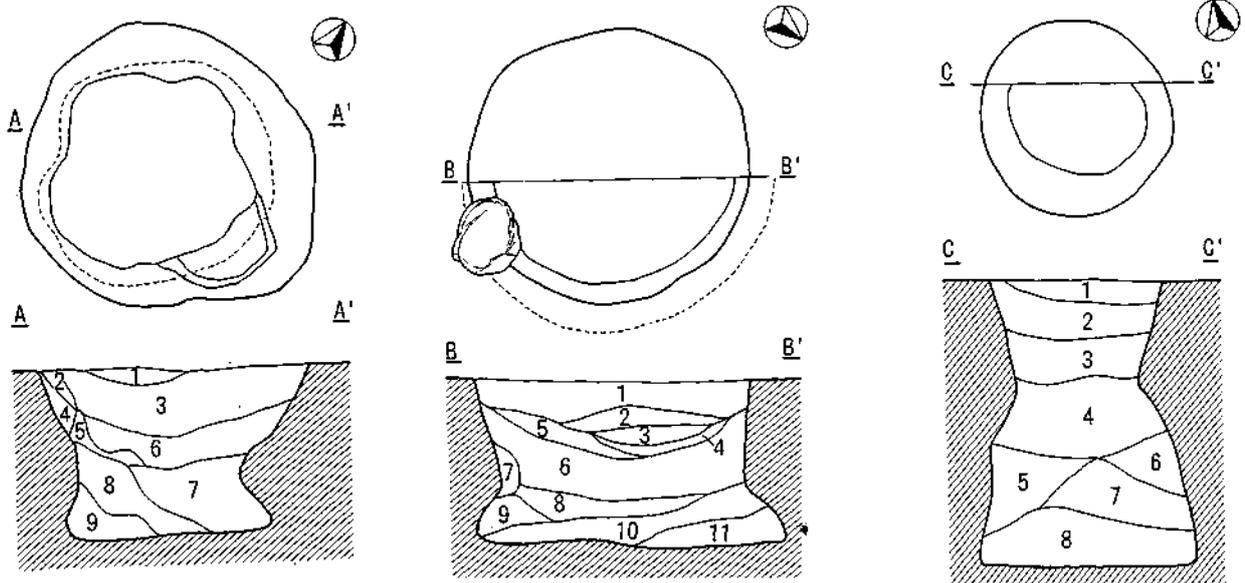
- SK (F) 01
1. 黒褐色土 (10192/2) 黒褐色土多量に含む。黒くしめる。
 2. 黒褐色土 (10192/2) 地山物多量に含む。黒くしめる。
 3. 黒褐色土 (10192/1) シラス多量に含む。地土。炭化物多量に含む。黒くしめる。
 4. 黒褐色土 (10192/2) シラス多量に含む。炭化物多量に含む。黒くしめる。
 5. 黒褐色土 (10194/3) シラス多量に含む。炭化物多量に含む。黒くしめる。
 6. 黒褐色土 (10194/4) 地山物。シラス多量に含む。炭化物多量に含む。黒くしめる。
 7. 褐色土 (10194/4) 地山物。シラス多量に含む。炭化物多量に含む。黒くしめる。
 8. 黒褐色土 (10192/2) 地山物多量に含む。黒くしめる。
 9. 黒褐色土 (10192/2) 地山物多量に含む。黒くしめる。
 10. 黒褐色土 (10192/2) シラス多量に含む。黒くしめる。
 11. 黒褐色土 (10192/2) シラス多量に含む。炭化物多量に含む。黒くしめる。

- SK (F) 638
1. 黒褐色土 (10192/2)
 2. 黒褐色土 (10192/2)
 3. 黒褐色土 (10192/2) 地山物多量に含む
 4. 黒褐色土 (10192/2) 地山物多量に含む

- SK (F) 18
1. 黒褐色土 (10192/2) ローム。白色粘土多量に含む。
 2. 褐色土 (10192/2)
 3. 褐色土 (10194/4) 地山物多量に含む。
 4. 黒褐色土 (10192/2) ローム。白色粘土多量に含む。
 5. 地山物多量に含む。
 6. 黒褐色土 (10192/2) 黒褐色土。地山物多量に含む。



第146図 フラスコ状土坑実測図 (2)



SK(F) 226 (万座北側)

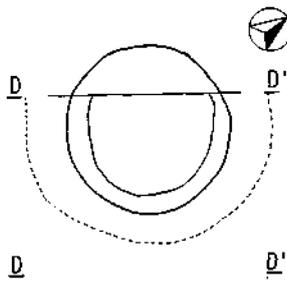
SK(F) 28 (万座北側)

SK(F) 34 (万座北側)

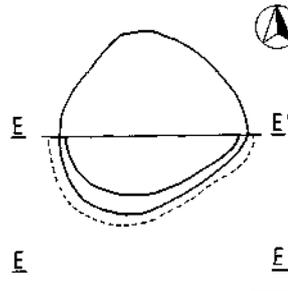
- SK(F) 226
1. 黒褐色土 (10YR2/3) 赤褐色土を含有
 2. 赤褐色土 (10YR1.7/1)
 3. 黒色土 (10B1.7/1) 白色粘土を含有
 4. 黒色土 (10YR2/1)
 5. 黒色土 (10YR2/1) 白色粘土を含有
 6. 黒色土 (10YR1.7/1)
 7. 黒色土 (10YR2/2)
 8. 黒色土 (10YR1.7/1) 白色粘土を含有
 9. 黒色土 (10YR1.7/1) 赤褐色土を多く含む

- SK(F) 28
1. 黒褐色土 (10YR2/2)
 2. 黒褐色土 (10YR2/3)
 3. 黒褐色土 (10YR2/3)
 4. 赤褐色土 (10YR2/1)
 5. 黒褐色土 (10YR2/3)
 6. 黒褐色土 (10YR2/2)
 7. 黒色土 (10YR2/1)
 8. 黒褐色土 (10YR2/3)
 9. 黒褐色土 (10YR2/2) 地山砂多量混入
 10. 黒色土 (10YR2/1)
 11. 黒褐色土 (10YR2/3) 地山砂多量混入

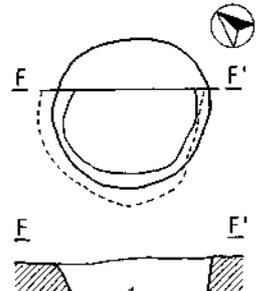
- SK(F) 34
1. 黒褐色土 (10YR2/2)
 2. 黒褐色土 (10YR2/2) 地山砂混入
 3. 黒褐色土 (10YR2/2) 灰化物混入
 4. 黒褐色土 (10YR2/1) 地山砂混入
 5. 黒褐色土 (10YR2/2) 地山砂多量混入
 6. 黒褐色土 (10YR2/3)
 7. 黒褐色土 (10YR2/2) 地山砂多量混入
 8. 黒色土 (10YR2/1)



SK(F) 35 (万座北側)



SK(F) 48 (万座北側)

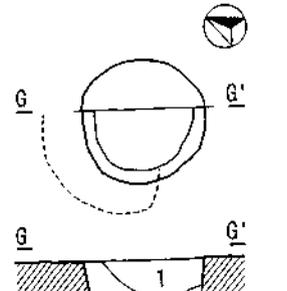


SK(F) 50 (万座北側)

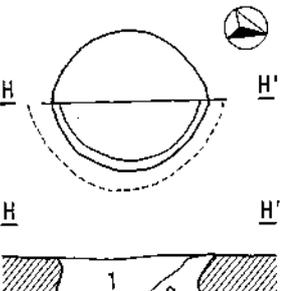
- SK(F) 35
1. 赤褐色土 (10YR2/3) 灰化物混入
 2. 黒褐色土 (10YR2/2) 灰化物混入
 3. 黒褐色土 (10YR2/3) 灰化物混入
 4. 黒褐色土 (10YR2/2) 灰化物混入
 5. 黒褐色土 (10YR2/2) 地山砂混入
 6. 赤褐色土 (10YR2/1) 灰化物混入
 7. 赤褐色土 (10YR2/1) 地山砂混入
 8. 黒色土 (10YR1.7/1)

- SK(F) 48
1. 黒褐色土 (10YR2/3)
 2. 黒褐色土 (10YR2/2)
 3. 赤褐色土 (10YR2/1) 地山砂混入
 4. 赤褐色土 (10YR2/2)
 5. 赤褐色土 (10YR2/2)
 6. 赤褐色土 (10YR2/3) 地山砂多量混入

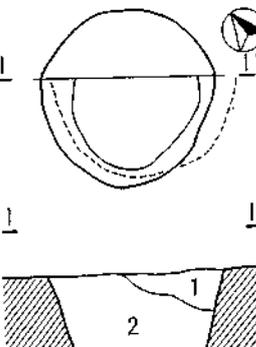
- SK(F) 50
1. 赤褐色土 (10YR2/2) 地山砂混入
 2. 赤褐色土 (10YR2/3)
 3. 赤褐色土 (10YR2/2)
 4. 赤褐色土 (10YR2/2) 地山砂多量混入



SK(F) 70 (万座北側)



SK(F) 52 (万座南側)



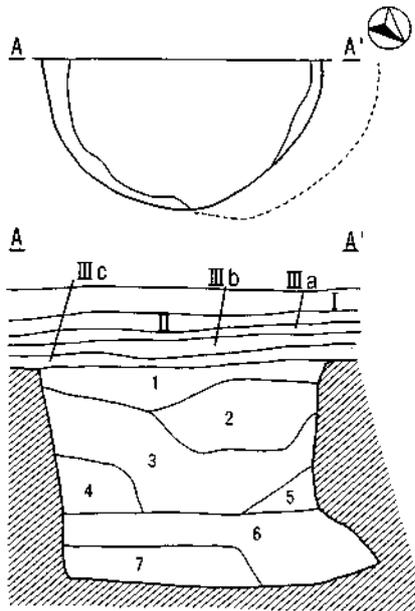
SK(F) 59 (万座南側)

- SK(F) 70
1. 赤褐色土 (10YR2/2)
 2. 赤褐色土 (10YR2/3)
 3. 赤褐色土 (10YR2/2) 地山砂多量混入
 4. 赤褐色土 (10YR2/2)
 5. 赤褐色土 (10YR2/2)
 6. 赤褐色土 (10YR2/3) 地山砂多量混入
 7. 赤褐色土 (10YR2/1)

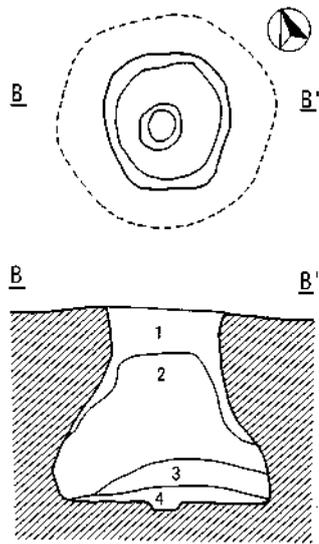
- SK(F) 52
1. 赤褐色土 (10YR2/2) ローム混入
 2. 赤褐色土 (10YR2/2) ローム混入、ヤブワックに接
 3. 赤褐色土 (10YR2/3) 地山砂多量混入
 4. 赤褐色土 (10YR2/2)

- SK(F) 59
1. 赤褐色土 (10YR4/4) 地山砂多量、粘多量、しまる。
 2. 赤褐色土 (10YR2/2) 地山砂少量、しまる。
 3. 赤褐色土 (10YR4/6) 地山砂多量、粘多量、やや軟弱。
 4. 赤褐色土 (10YR2/4) 地山砂少量、やや軟弱。
 5. 赤褐色土 (10YR4/6) シラス粘多量、軟弱。
 6. 赤褐色土 (10YR2/2) 地山砂多量、粘多量、軟弱。

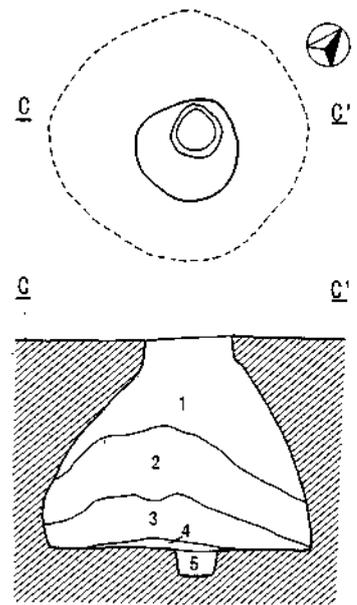




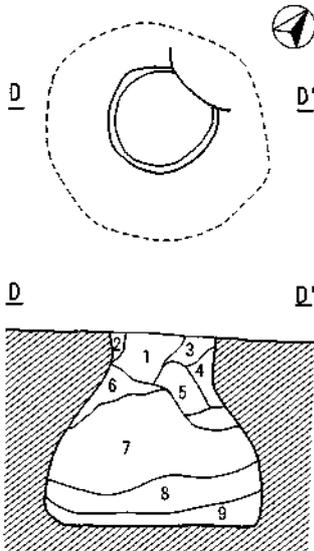
SK(F)06 (万座西側)



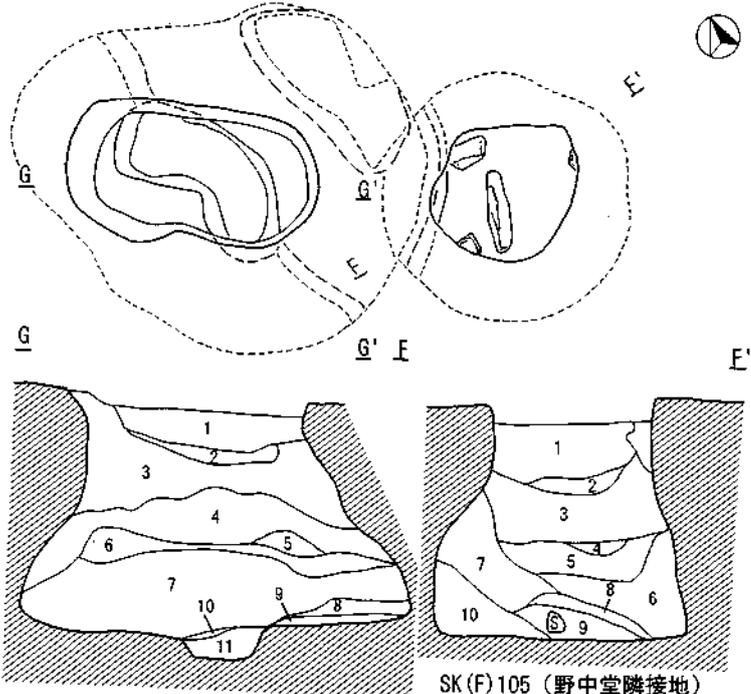
SK(F)701 (万座南側)



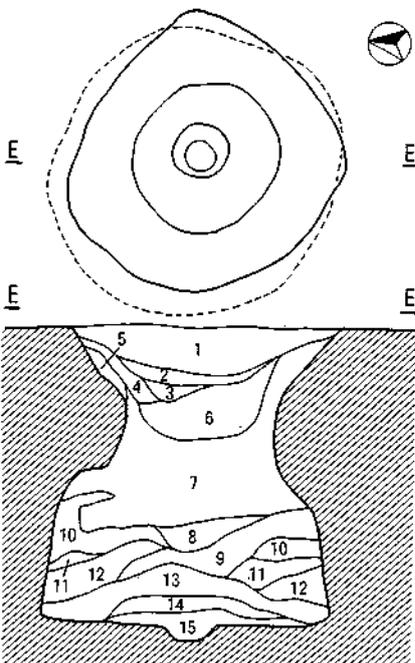
SK(F)704 (万座南側)



SK(F)706 (万座南側)



SK(F)105 (野中堂隣接地)



SK(F)101 (野中堂隣接地)

SK(F)06

1. 黒褐色土 (10192/2) 地山砂少量混入。しめる。
2. に近い黄褐色土 (10194/3) 地山砂少量混入。しめる。
3. 黒色土 (10192/1) 地山砂少量混入。しめる。
4. に近い黄褐色土 (10194/3) 地山砂ブロック状少量混入。堅くしめる。
5. 黒褐色土 (10192/2) 地山砂ブロック状少量混入。堅くしめる。
6. 明褐色土 (10197/6) 地山砂ブロック。堅くしめる。
7. 明褐色土 (10196/6) 地山砂。堅くしめる。

SK(F)701

1. 黒色土 (10191 7/1) 粘土状白土少量混入。地山ブロック。地山砂少量混入。
2. 明褐色土 (10196/8) 地山ブロックを多数含む。
3. 黒褐色土 (10192/3) 地山。黒色土を少量含む。
4. 黒色土 (10191 7/1) シルト質。ローム質少量含む。

SK(F)704

1. 黒色土 (10191 7/1) 地山砂。黒色土。粘土粒多量含む。
2. 明褐色土 (10196/6) 地山砂を少量含む。
3. 褐色土 (10194/6) 地山砂ブロック。粒を多く含む。黒褐色土を少量含む。
4. 黒色土 (10191 7/1) シルト質。しめる。
5. 黒色土 (10191 7/1) シルト質。しめる。

SK(F)706

1. 明褐色土 (10196/8) 地山ブロック
2. 黒色土 (10192/1) 地山砂少量混入
3. 黒色土 (10191 7/1) 地山砂少量混入。やや軟弱。
4. 明褐色土 (10196/8) 地山ブロック
5. 黒色土 (10191 7/1) 地山砂。水ブロック。少量混入。
6. 明褐色土 (10196/8) 地山ブロック
7. 明褐色土 (10197/6) 地山砂。黒色土を少量含む。
8. 明褐色土 (10197/6) 地山砂。黒色土を少量含む。
9. 黒色土 (10191 7/1) シルト質

SK(F)701

1. 黒褐色土 (10192/2)
2. 黒褐色土 (10192/3)
3. 黒褐色土 (7.5192/1)
4. 黒褐色土 (7.5192/2)
5. 黒褐色土 (3.5192/1)
6. 黒褐色土 (10192/3)
7. 黒色土 (10192/1)
8. 黒色土 (10194/4)
9. 黒褐色土 (10192/4)
10. 明褐色土 (10196/8)
11. に近い黄褐色土 (10194/3)
12. に近い黄褐色土 (10194/4)
13. 黒褐色土 (10192/2)
14. 黒褐色土 (10192/1)
15. 黒色土 (7.5192/1)

SK(F)106・107

1. 黒色土 (10192/1) 地山砂。粘土粒少量。粘土質少量混入。
2. 明褐色土 (10192/2) 地山砂。地山ブロック少量混入。
3. 黒色土 (10191 7/1) 地山砂。地山ブロック。灰化粒。砂粒少量混入。
4. 黒色土 (10191 7/1) 地山砂。地山ブロック。灰化粒。粘土粒。砂粒少量混入。
5. 明褐色土 (10192/2) 粘土粒少量混入。
6. 明褐色土 (10197/6) 地山砂。黒色土を少量含む。
7. 黒色土 (10192/1) 地山砂。地山ブロック。灰化粒。砂粒少量混入。
8. 明褐色土 (10196/8) 粘土粒少量混入。
9. 黒色土 (10191 7/1)
10. 明褐色土 (10197/6) 地山砂。黒色土を少量含む。
11. 明褐色土 (10196/8) 粘土粒少量混入。



野中堂隣接地

I類=14基（Ia類=10基、Ib類=4基）、II類=1基、III類=3基、不明53基である。

形態確認までの調査でとどめたため不明のものが多い。

【イ. 規模】

規模分布をさぐるため底面積を参考にした。底面積が最も大きいのは万座隣接地第313号フラスコ状土坑(D2区)の4.62㎡、最小は同隣接地第21号フラスコ状土坑(D8区)の0.17㎡で、その比率には27倍の開きがある。

最も検出数の多い万座隣接地では小型・中型・大型のものに区分が可能である。

万座隣接地

最大のもは第313号フラスコ状土坑(D2区)の4.62㎡、最小は同隣接地第21号フラスコ状土坑(D8区)の0.17㎡で、その比率には27倍の開きがある。底面積1.70㎡×深さ1.60m、底面積3.00㎡×深さ2.00mを境界に小型・中型・大型のものに区分が可能である。Ia類・Ib類、II類は小型～大型の範囲全域に、III類は小型の範囲に分布する。

万座北側地区

最大のもは第426号フラスコ状土坑(F1区)の3.82㎡、469号フラスコ状土坑(F1区)の3.80㎡、最小は第08号フラスコ状土坑(F8区)の0.57㎡で、その規模比率は約6.7倍である。Ib類・III類は万座隣接地のものと同規模である。

万座西側地区

底面まで精査が行われたものが少なく、規模分布は不明である。規模的には万座隣接地の小型～中型の範囲に含まれるものと思われる。

万座南側地区

底面まで精査が行われたものが少なく、規模分布は不明である。規模的には万座隣接地の小型～中型の範囲に含まれるものと思われる。

野中堂隣接地

底面まで精査が行われたものが少なく、規模分布は不明である。規模的には万座隣接地の小型～中型の範囲に含まれるものと思われる。

【ウ. 確認面と構築面】

万座隣接地

基本層を徐々に除去していくと、列石の南東側に第V層の広がり確認できた。後世の攪拌が深い層まで達したものと考えられたが、この範囲に所在するフラスコ状土坑を観察すると、土坑上部が削除された形跡は観察されなかった。また、このV層面より遺物が数例ではあるが出土したことからV層面の広がり整地されたものと判断された。

同列石南東部に位置する土坑は、整地後に構築されたものであり、確認面・構築面とも第IV層～Vである。なお列石南東部以外のもはIIId層が確認面・構築面となっている。

万座北側地区

同地区東側にある小丘周辺に位置する土坑の確認面は第IV層及びV層である。これは耕地整理によって小丘頂部が削平されたことによるもので、遺構上部を消失しているものもみられた。

また本地区中央部、第04号環状配石遺構周辺及び万座隣接地・同西側地区との境界付近に位置するフラスコ状土坑の確認面・構築面はⅢc層下位～Ⅲd層上面である。

万座西側地区

2例を除き、Ⅲd層が確認面、構築面となっている。

万座南側地区

フラスコ状土坑が密集する小丘の斜面に位置するものは第Ⅲd層上面で確認される。

野中堂隣接地

野中堂隣接地周辺の等高線を観察すると、その流れは大きく膨らみを持ち、この内側に野中堂環状列石が構築されている。第18次調査において列石周辺は整地されていたことが判明しており、このことから多くのフラスコ状土坑の確認面はIV層又はV層である。また列石の南東側は耕作土が浅く、後世に攪拌を受けており、この地域に分布する土坑の確認面もV層であった。

【エ. 堆積状況】

人為に埋め戻されたものが圧倒的に多く260基(91.5%)を占める。自然によるもの6基、口頸部から検出面までが人為的に埋め戻されたもの2基、不明16基である。万座北側地区の東側(F2区)の小丘に分布するフラスコ状土坑は人為堆積の典型的な状況を示している。

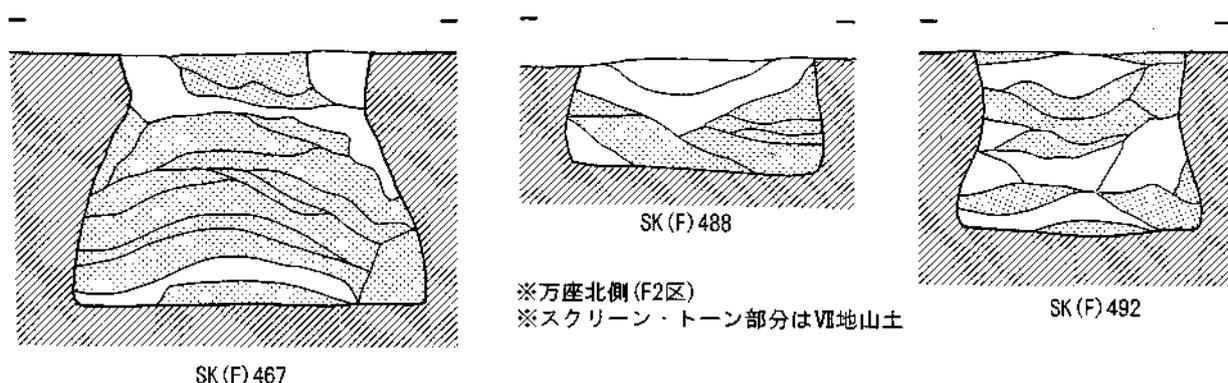
万座隣接地

人為によるもの133基、自然によるもの3基、不明15基である。土坑内には黒色土、黒褐色土が充填されていたが、いずれもブロック状であった。土中に焼土粒や炭化物、炭化堅果類(6基)が混入するものもみられた。

万座北側地区

人為によるもの53基、自然によるもの1基、自然+人為1基、不明1基である。土坑内には黒色土、黒褐色土が充填されていたが、いずれもブロック状であった。

本地区東側の小丘(F2区)に位置するフラスコ状土坑は顕著な人為堆積の状況(第149図)を示しており、土坑内に黄褐色土(地山土)が充填されるものもある。



※万座北側(F2区)
※スクリーン・トーン部分はⅦ地山土

万座西側地区

すべて人為堆積である。土坑内には黒色土、黒褐色土が充填されていたが、いずれもブロック状であった。

万座南側地区

すべて人為堆積で、土坑内には黒色土、黒褐色土が充填されていたが、いずれもブロック状であった。

野中堂隣接地

人為によるもの54基、自然によるもの2基、自然+人為1基である。堆積土は黒色土、黒褐色土が主体となり、黄褐色土が多量に混入するものや焼土粒や炭化物を混入するものもある。

【オ、出土遺物】

遺構内より出土した遺物は他遺構と比べ圧倒的に多い。その内訳は完形・復元土器157点(49基)、石器504点(102基)、土製品295点(75基)、石製品63点(34基)、自然遺物(炭化堅果類・赤色顔料・黒色樹脂塊(6基))である。

万座隣接地

遺構内より完形・復元土器84点(31基)、石器197点(59基)、土製品144点(44基)、石製品25点(18基)、自然遺物(6基)が出土した。

完形・復元土器は万座環状列石に近い位置にあるものほどその出土個数が多く、第240号フラスコ状土坑(D1区)からは17点、第306号フラスコ状土坑(D3区)からは8点が出土した。

深鉢形土器、鉢形土器、浅鉢形土器、壺形土器、片口土器などの器種がみられる。これらの土器は胴部上半に文様帯を持つものが多く、沈線文・帯縄文などにより文様が施文されている。沈線を使用して曲線文、弧線文、楕円形文が施文されるもの、帯縄文を使用して入組文、弧線文、階段状文が施文されることが多い。いずれも後期前葉(十腰内I式)の土器の特徴をもっている。また第321号フラスコ状土坑(D3区)からは壺形土器が出土している。文様帯には幅の広い帯縄文により蛇行文が施文されており、後期中葉(十腰内II式・III式)の特徴をもっている。第240号フラスコ状土坑(D2区)底面から出土した壺形土器には赤色顔料が塗布されていた。

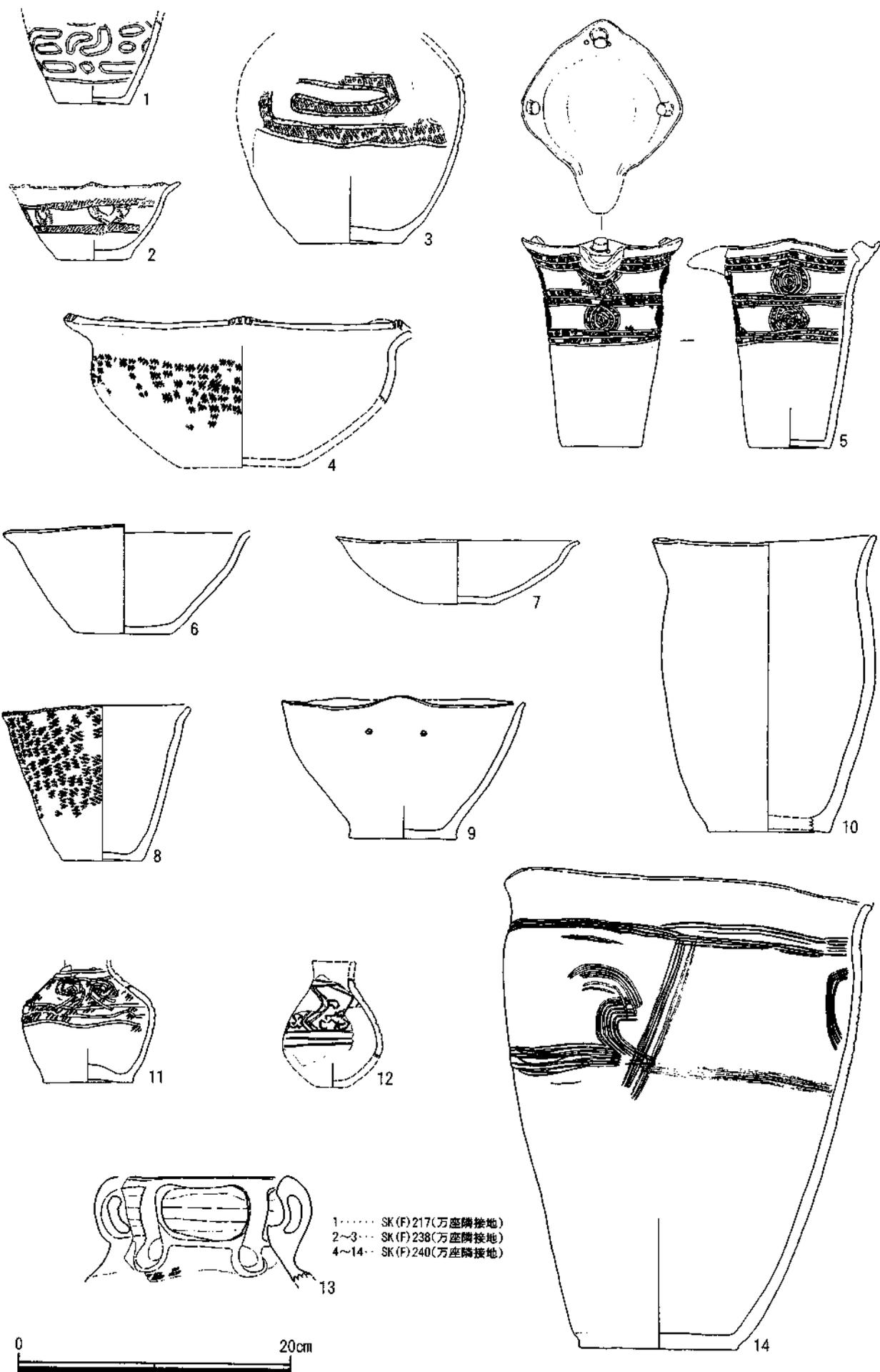
また土製品は土偶・三脚土製品・耳飾のほか土器片利用土製品が出土した。石製品は石刀2点、残りは板状・球状石製品である。

土坑内より炭化堅果類(クリ・クルミ・ドングリ・トチ)を出土するものが6基あり、これらは距離的に万座環状列石に近い場所に位置する遺構から出土している。

万座北側地区

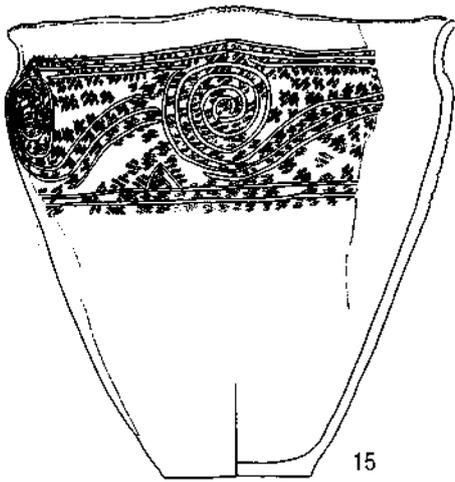
遺構内より完形・復元土器29点(9基)、石器68点(16基)、土製品39点(9基)、石製品17点(7基)が出土した。これらは本地区で検出されている竪穴住居群及び建物群・環状配石遺構群周辺の遺構かである。

完形・復元土器には深鉢形土器、鉢形土器、壺形土器、片口土器のほかに蓋形土器、切断土器の器種がみられる。これらは胴部中程から1/3に文様帯をもち、沈線や帯縄文によって曲線文や入組文が施文されるものが多く、後期前葉(十腰内I式)の特徴的な文様をもっている。また、第419A号フラス

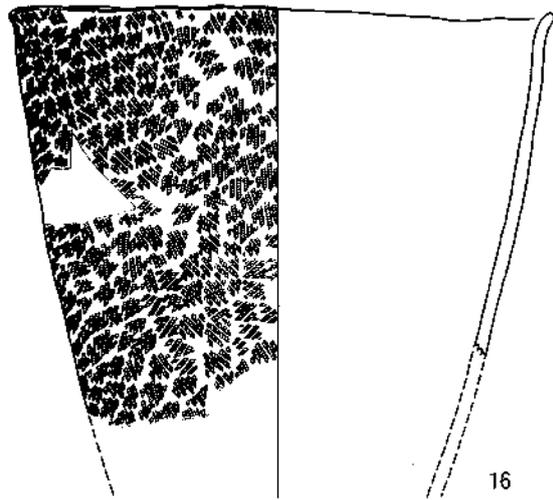


1..... SK (F) 217(万座隣接地)
 2~3..... SK (F) 238(万座隣接地)
 4~14... SK (F) 240(万座隣接地)

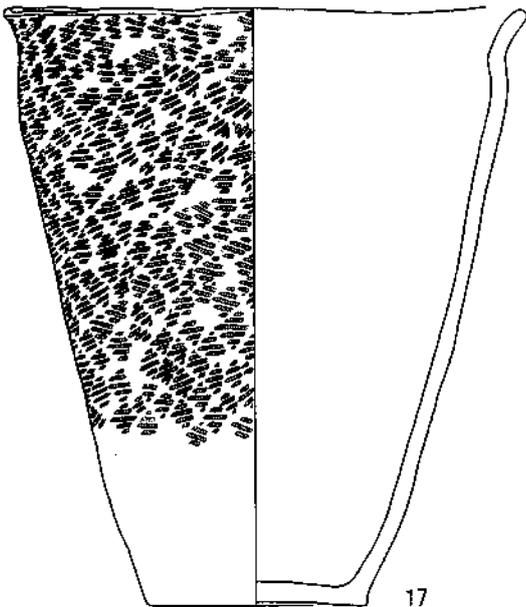
第150図 フラスコ状土坑出土土器 (1)



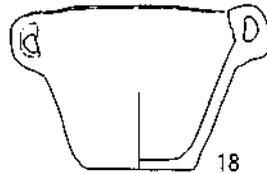
15



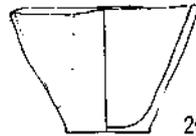
16



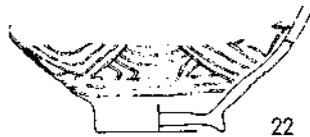
17



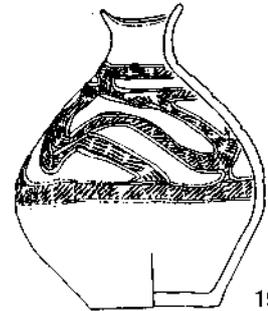
18



20



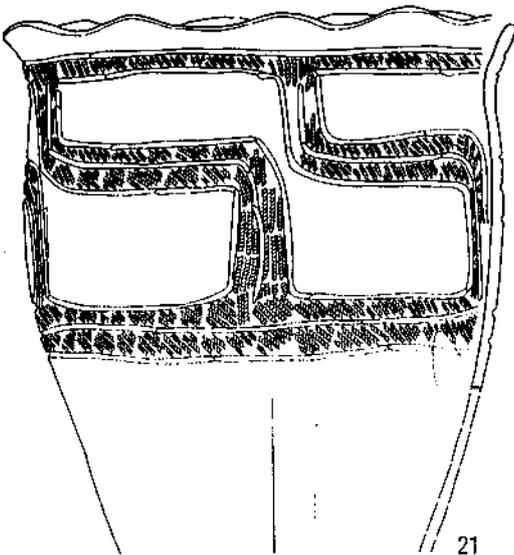
22



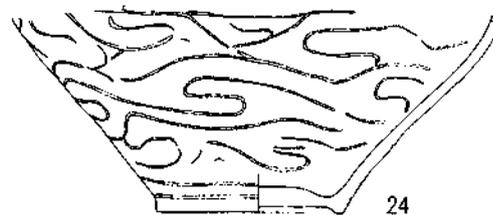
19



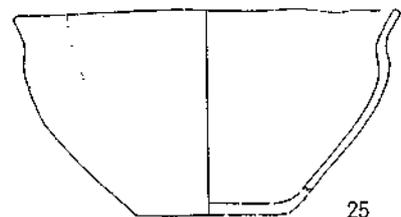
23



21



24

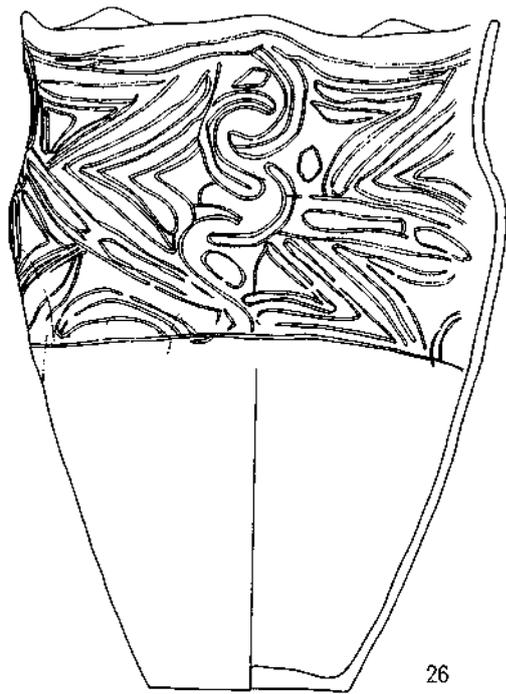


25

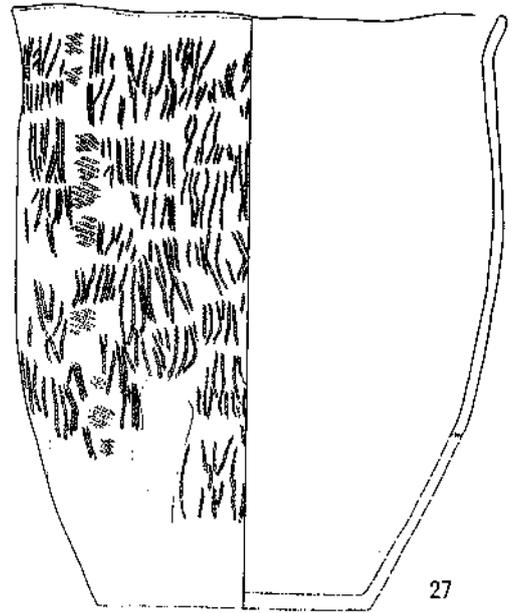
- 15~17...SK (F) 240 (万座隣接地)
 18 ...SK (F) 242 (万座隣接地)
 19 ...SK (F) 270 (万座隣接地)
 20~21...SK (F) 274 (万座隣接地)
 22 ...SK (F) 292 (万座隣接地)
 23 ...SK (F) 295 (万座隣接地)
 24 ...SK (F) 294 (万座隣接地)
 25 ...SK (F) 296 (万座隣接地)



第151図 フラスコ状土坑出土土器 (2)



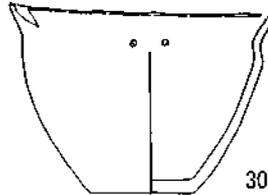
26



27



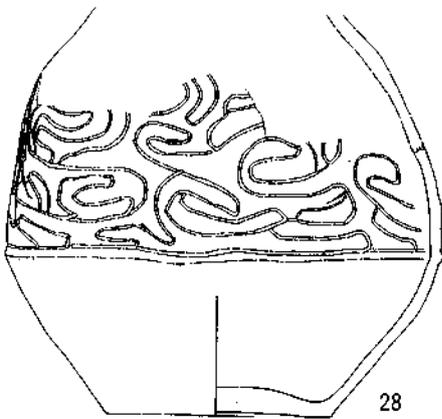
29



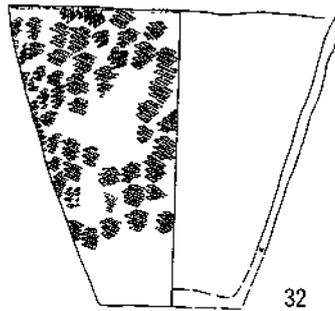
30



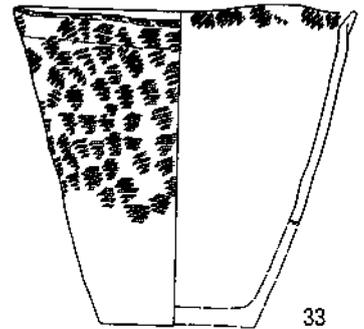
31



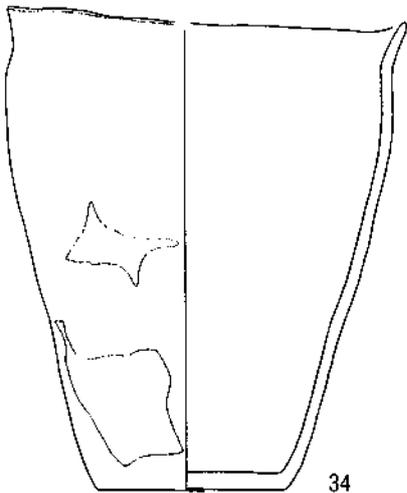
28



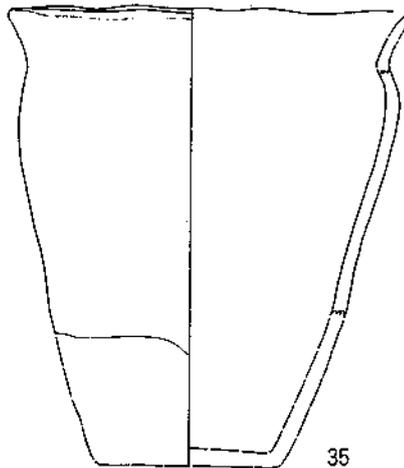
32



33



34

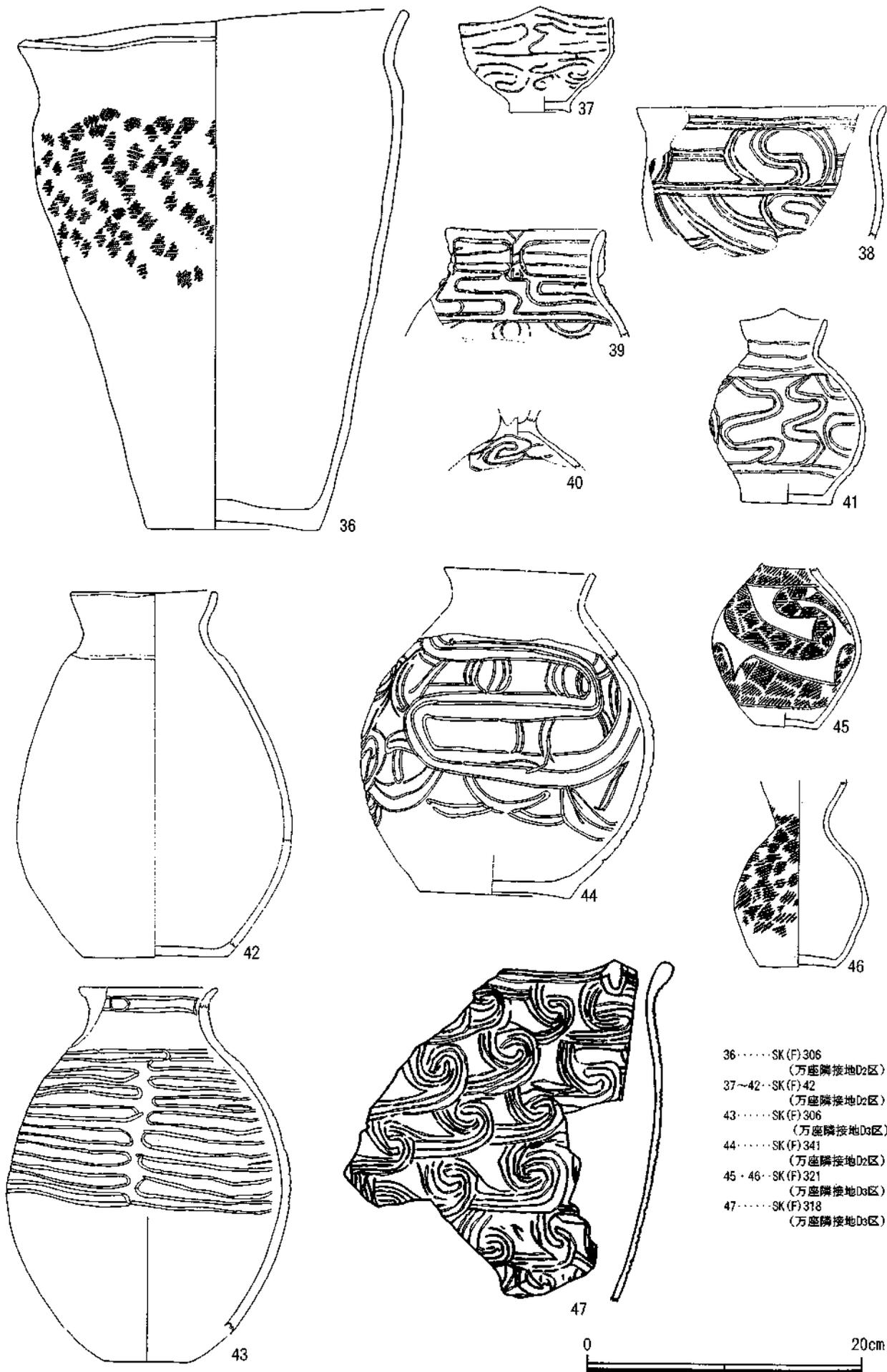


35

26...SK (F) 296 (万座隣接地)
 27...SK (F) 301 (万座隣接地)
 28~35
 SK (F) 306 (万座隣接地D2区)

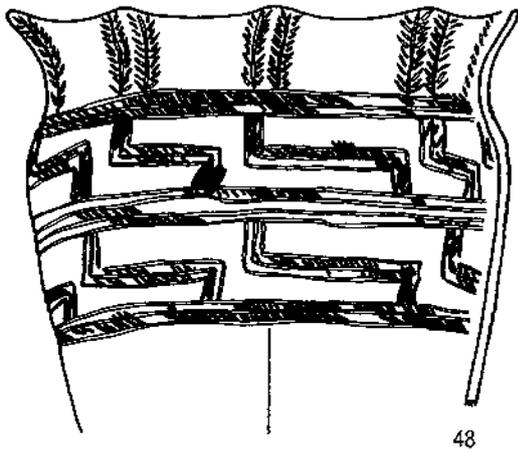


第152図 フラスコ状土坑出土土器 (3)

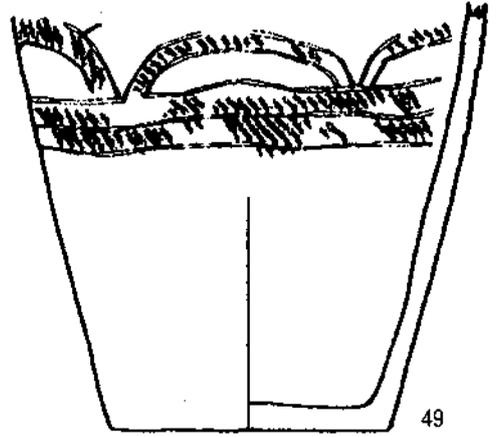


- 36.....SK (F) 306
(万座隣接地D2区)
- 37~42...SK (F) 42
(万座隣接地D2区)
- 43.....SK (F) 306
(万座隣接地D3区)
- 44.....SK (F) 341
(万座隣接地D2区)
- 45・46...SK (F) 321
(万座隣接地D3区)
- 47.....SK (F) 318
(万座隣接地D3区)

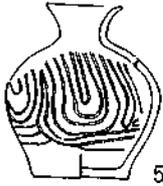
第153図 フラスコ状土坑出土土器 (4)



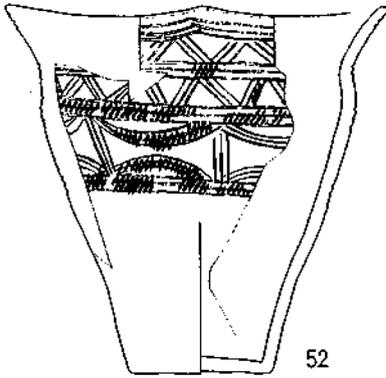
48



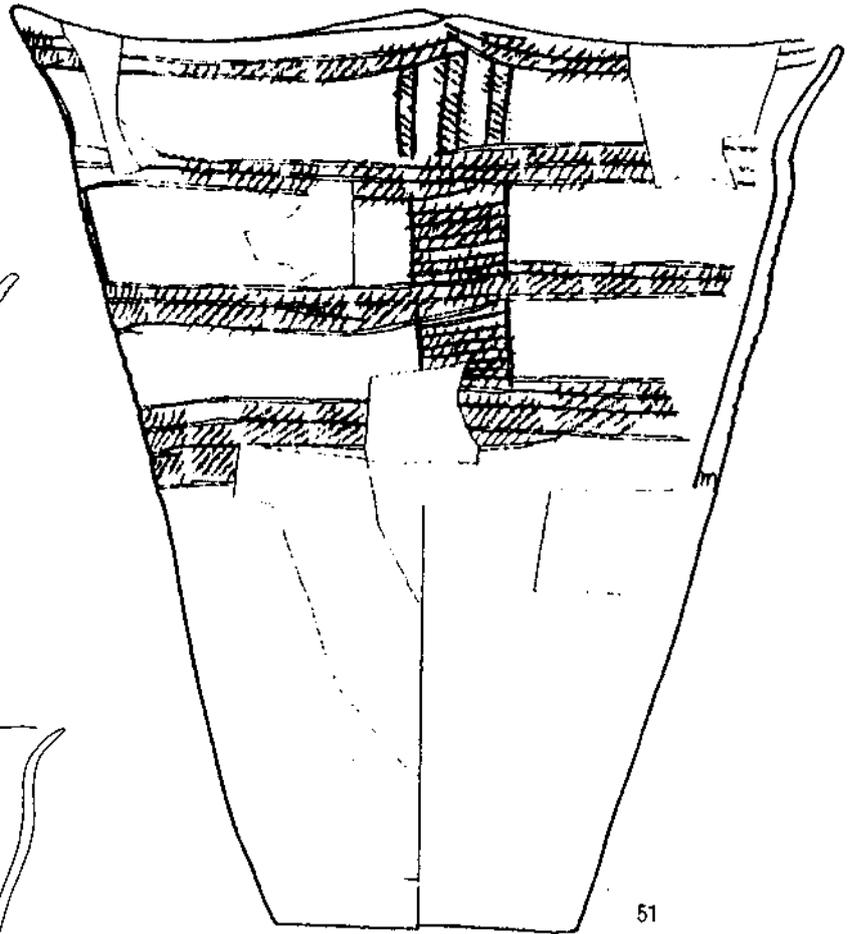
49



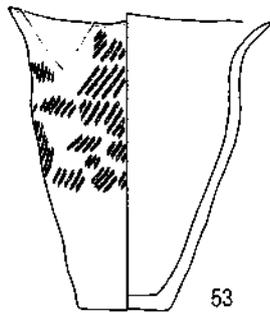
50



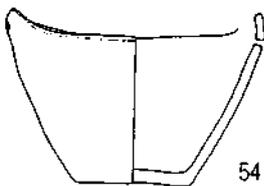
52



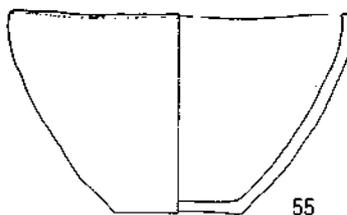
51



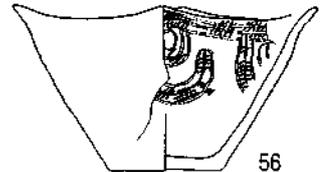
53



54



55

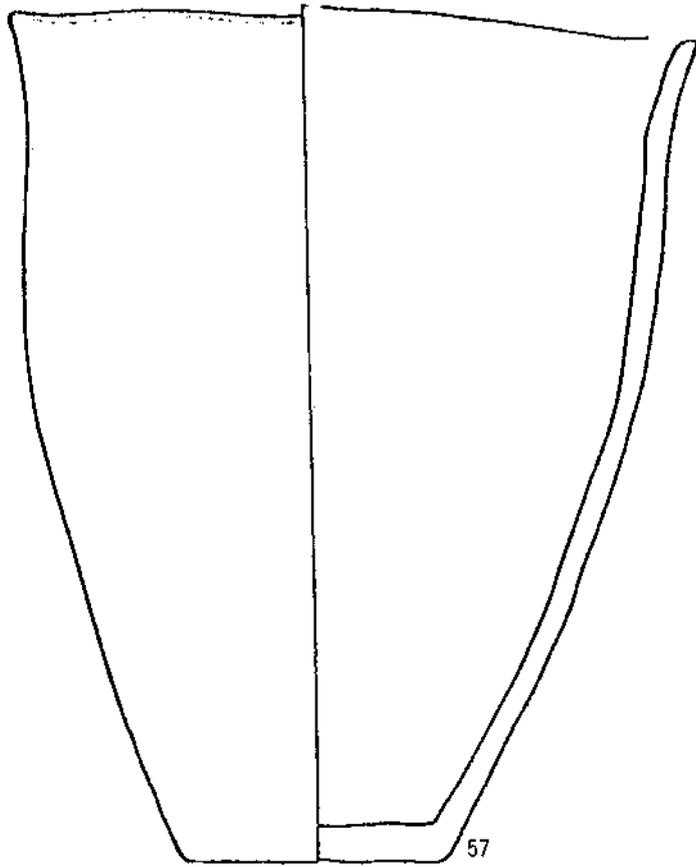


56

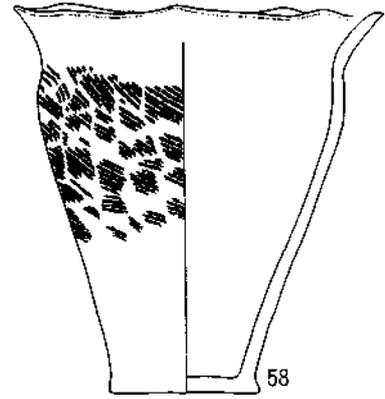
48...SK (F) 321 (万座隣接地D3区)
 49~51...SK (F) 11 (万座隣接地D7区)
 52...SK (F) 12 (万座隣接地D7区)
 53~55...SK (F) 36 (万座隣接地D7区)
 56...SK (F) 48 (万座隣接地D7区)



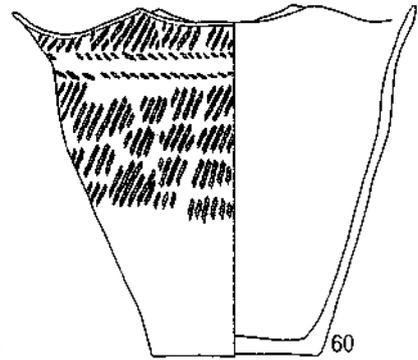
第154図 フラスコ状土坑出土土器 (5)



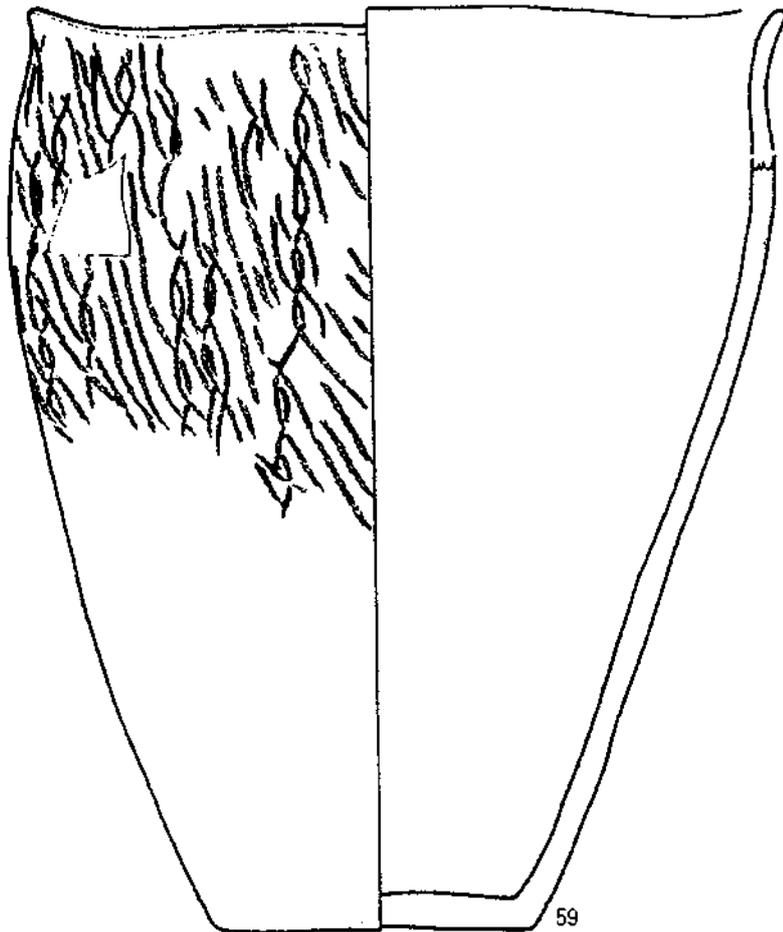
57



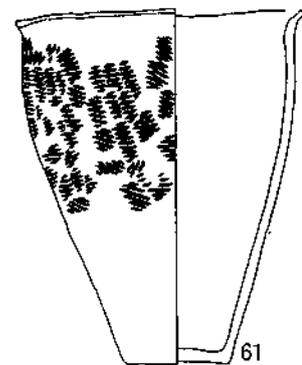
58



60



59

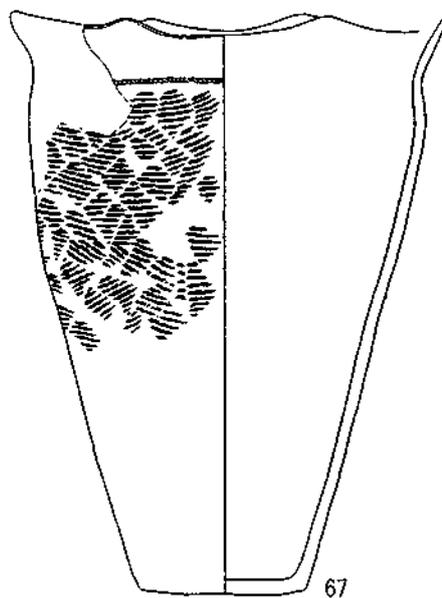
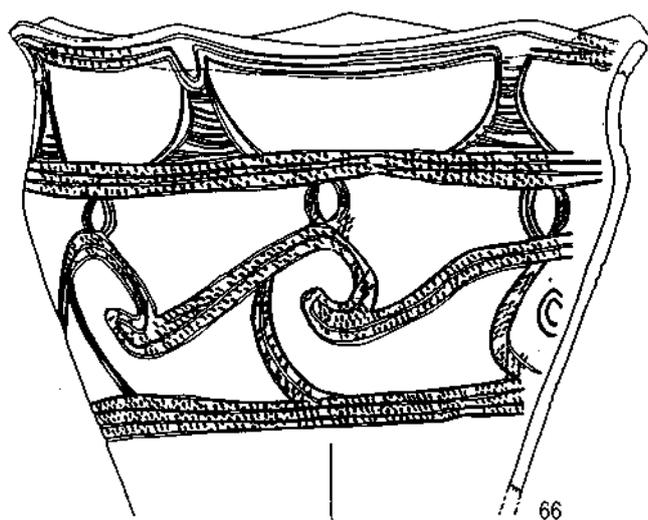
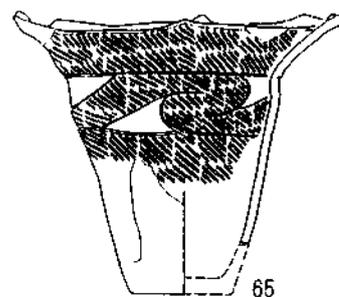
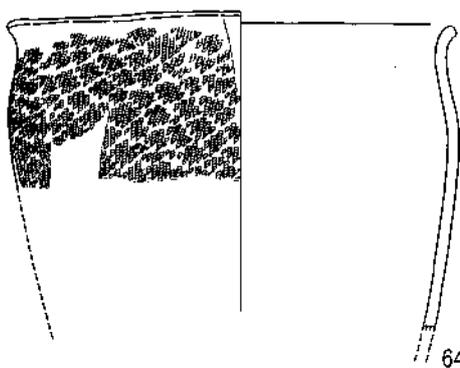
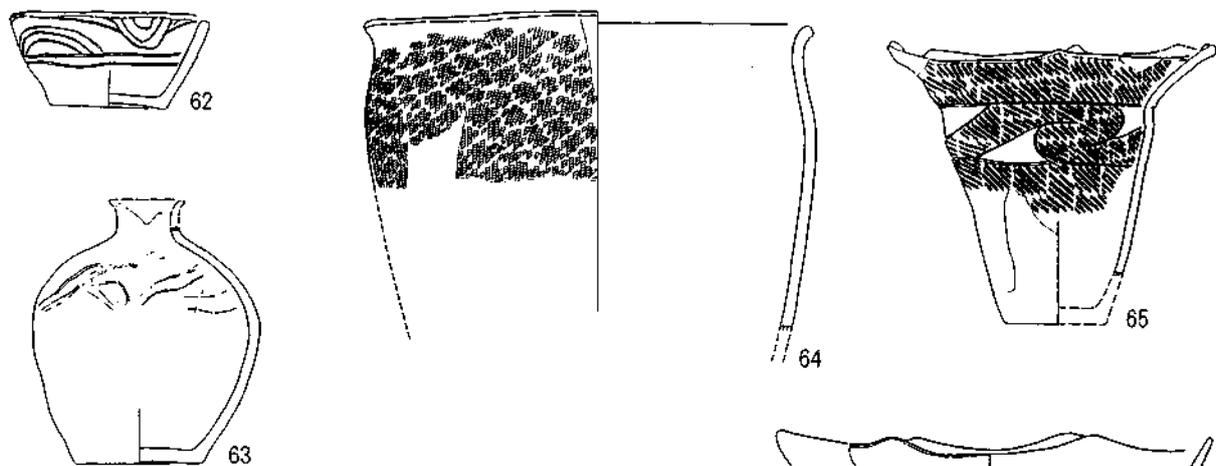


61

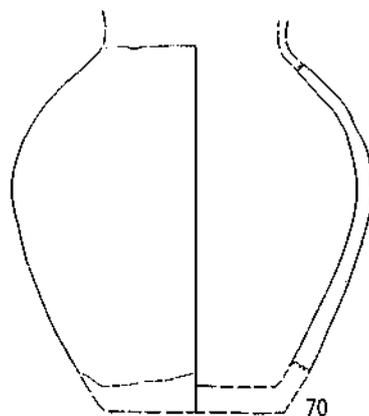
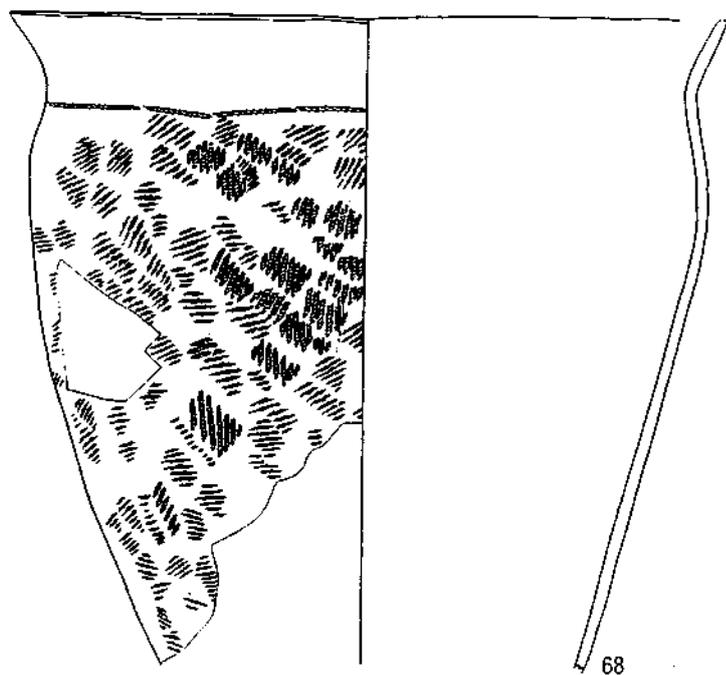
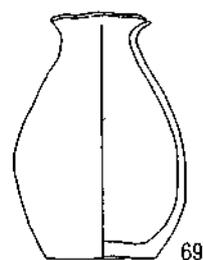
- 57--SK(F)75 (万座隣接地 D7区)
- 58--SK(F)105 (万座隣接地 D7区)
- 59--SK(F)108 (万座隣接地 D7区)
- 60--SK(F)30 (万座隣接地 D8区)
- 61--SK(F)65 (万座隣接地 D8区)



第155図 フラスコ状土坑出土土器(6)

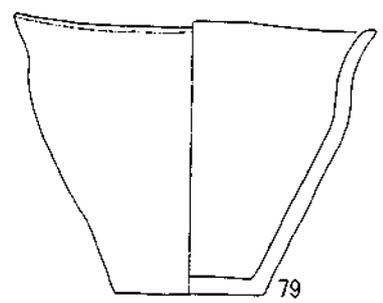
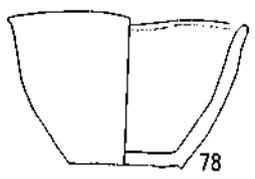
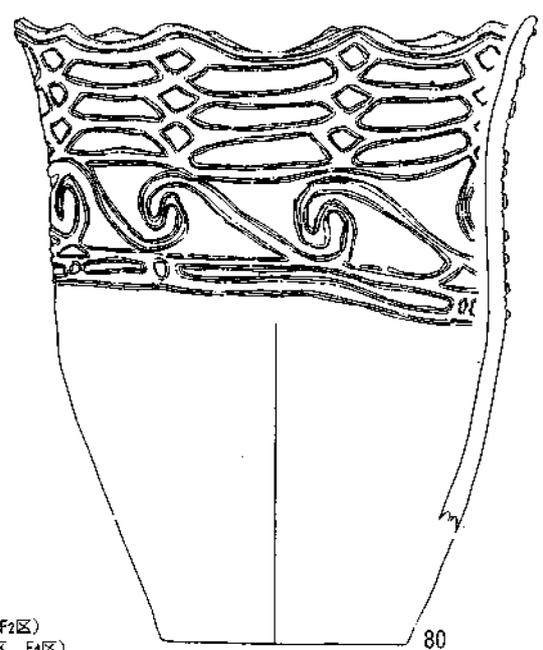
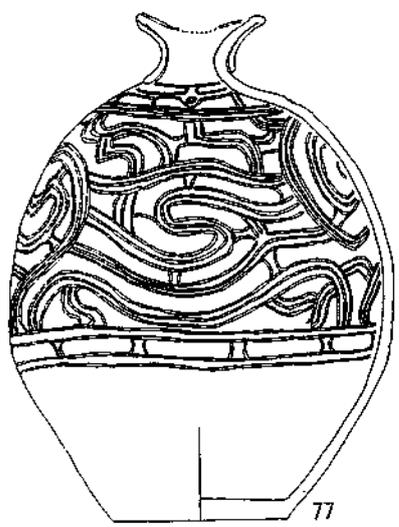
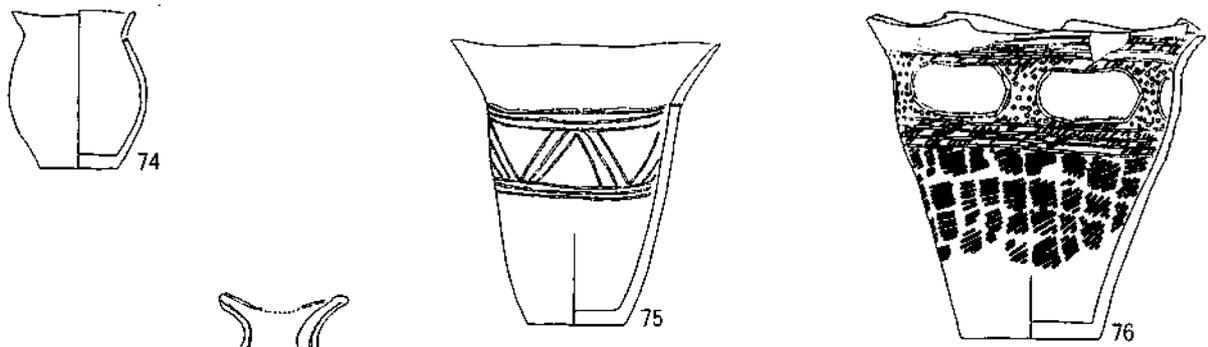
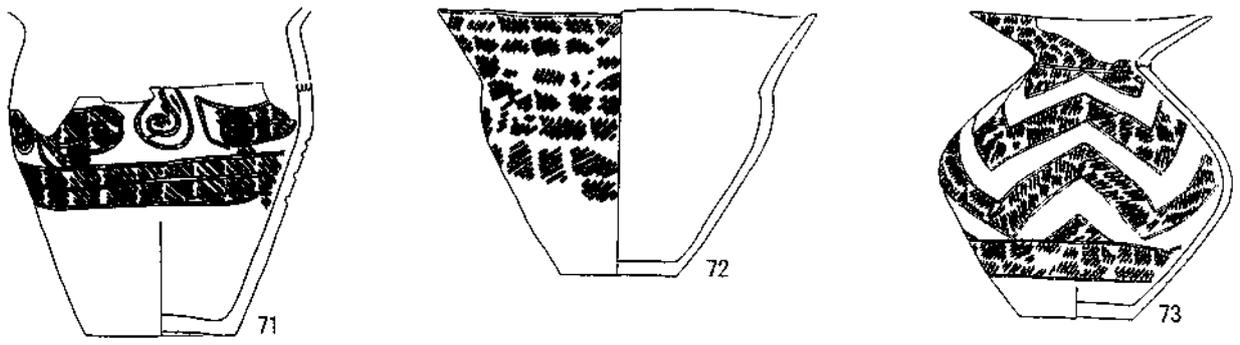


- 62...SK(F)217
(万座北側地区 D1区)
- 63、64...SK(F)216
(万座北側地区 D1区)
- 65~68...SK(F)419A
(万座北側地区 F1区)
- 69、70...SK(F)426
(万座北側地区 F1区)



0 20cm

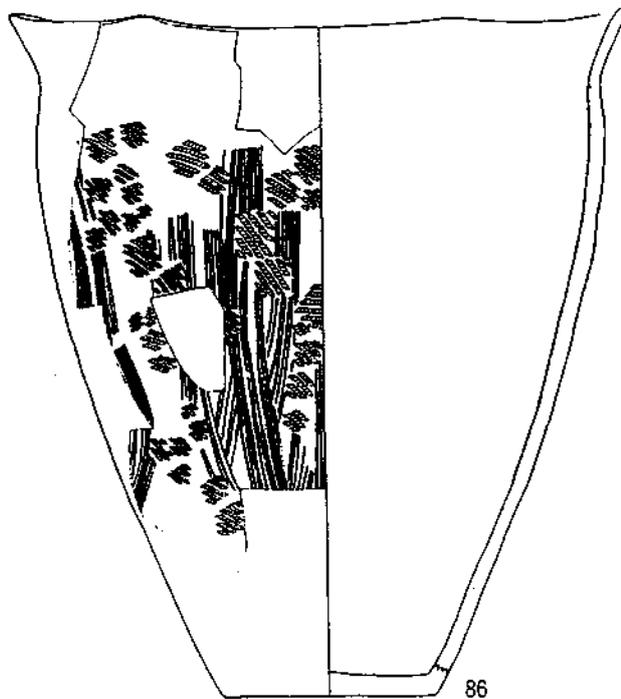
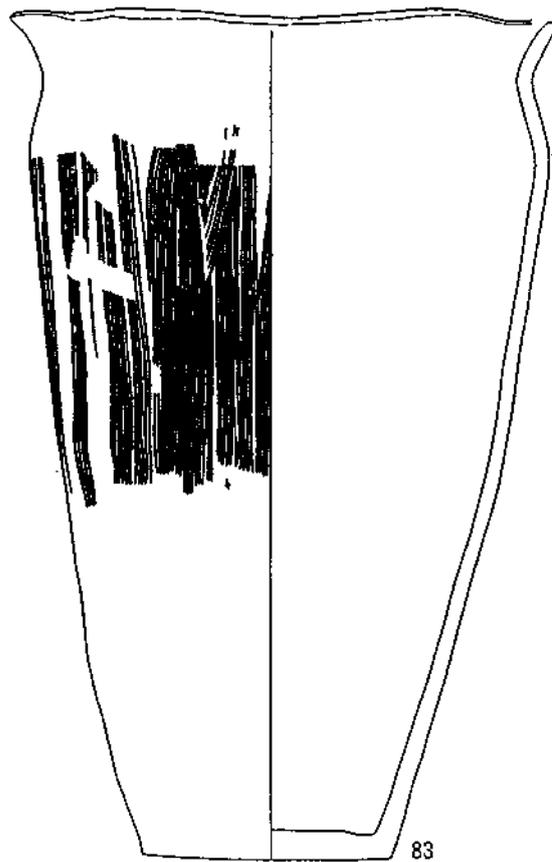
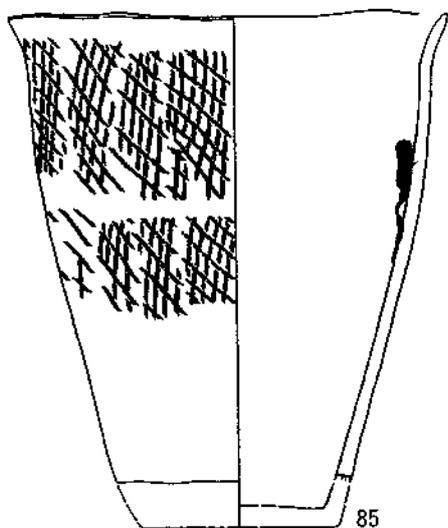
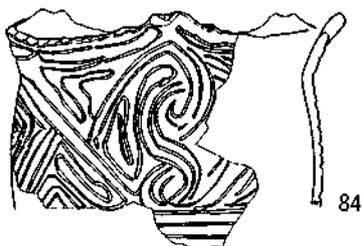
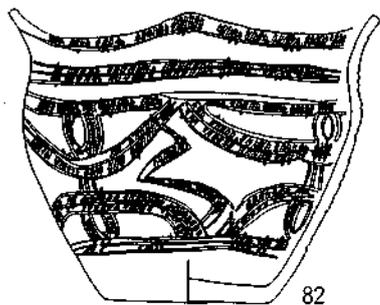
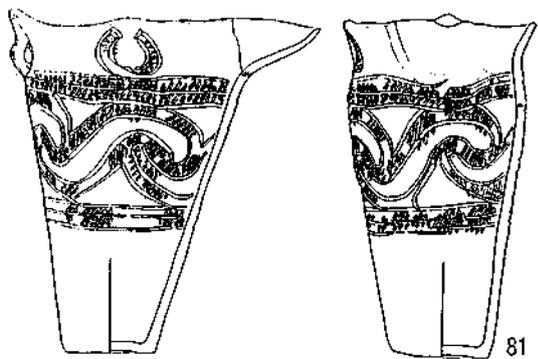
第156図 フラスコ状土坑出土土器(7)



71…SK(F)483 (万座北側地区 F2区)
 72、73…SK(F)11 (万座北側地区 F4区)
 74~76…SK(F)27 (万座北側地区 F4区)
 77、78…SK(F)34 (万座北側地区 F4区)
 79…SK(F)48 (万座北側地区 F4区)
 80…SK(F)08 (万座北側地区 F4区)



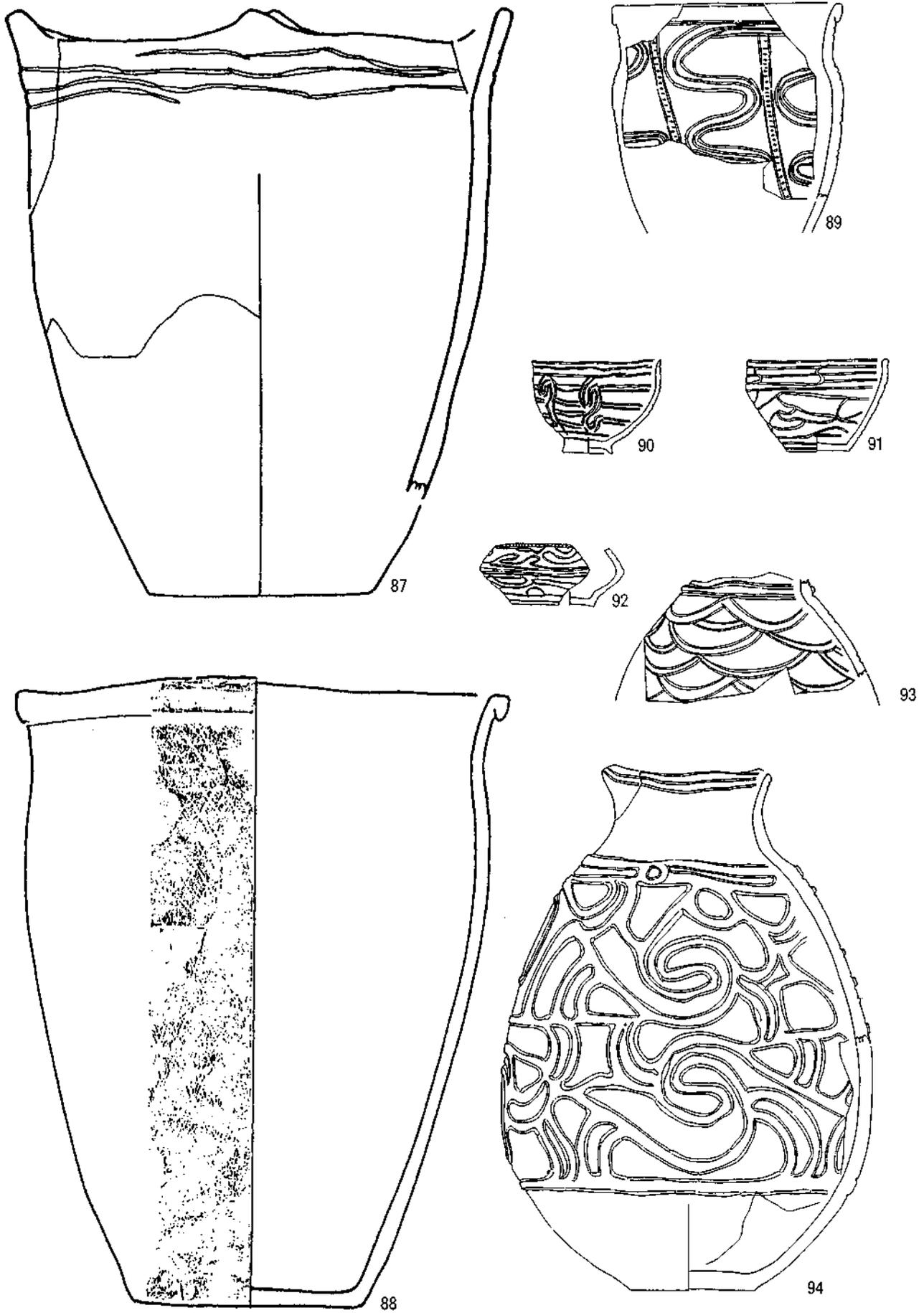
第157図 フラスコ状土坑出土土器(8)



81~86...SK(F)426 (万度北側地区 F1区)

0 20cm

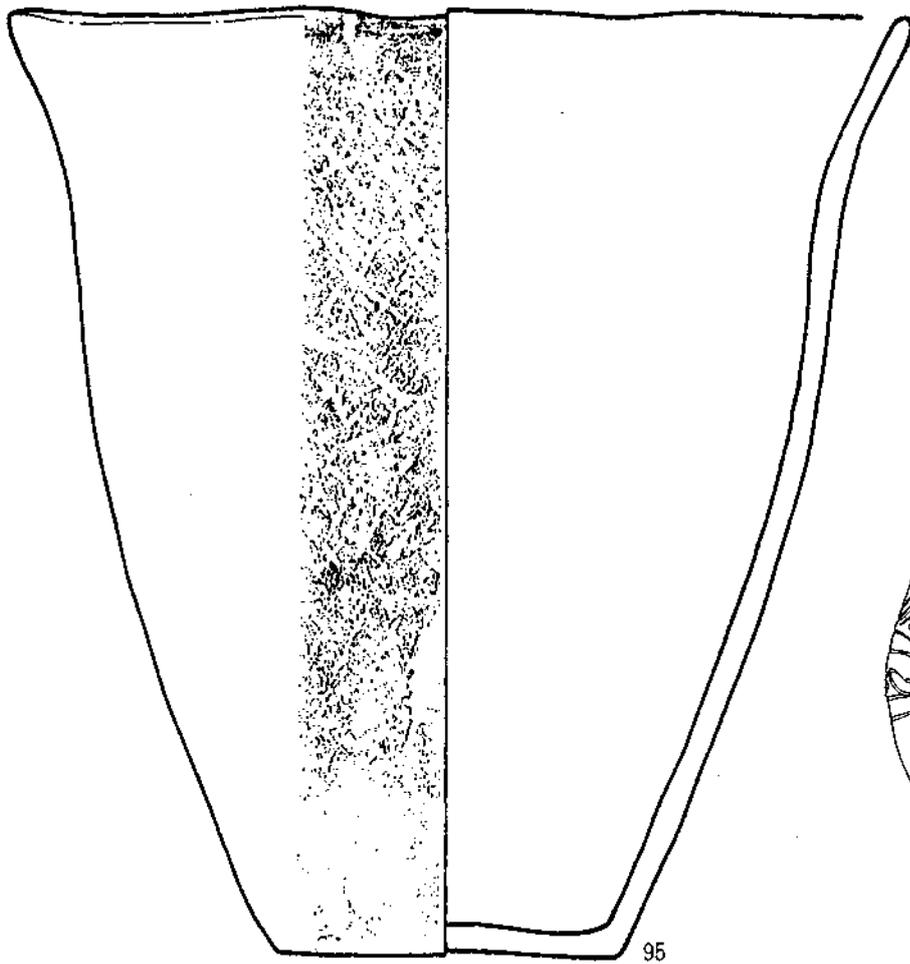
第158図 フラスコ状土坑出土土器 (9)



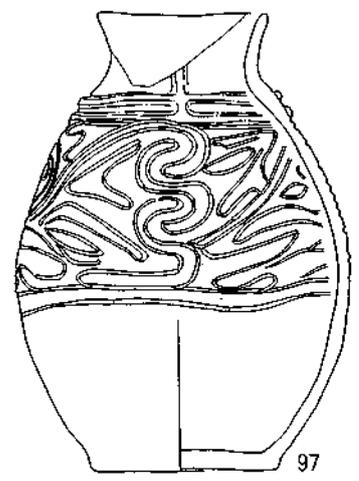
87~89...SK(F)1 (万座西侧地区 D9区)
 90. 91. 92. 94...SK(F)2 (万座西侧地区 D9区)
 93...SK(F)2~5 (万座西侧地区 D9区)

0 20cm

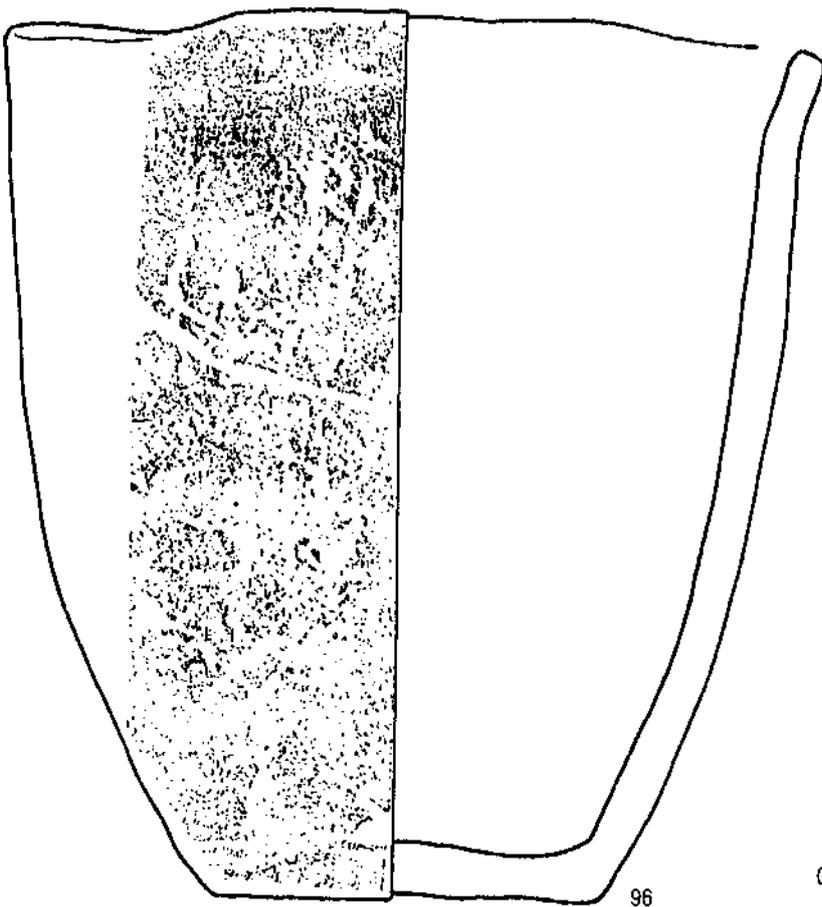
第159図 フラスコ状土坑出土土器 (10)



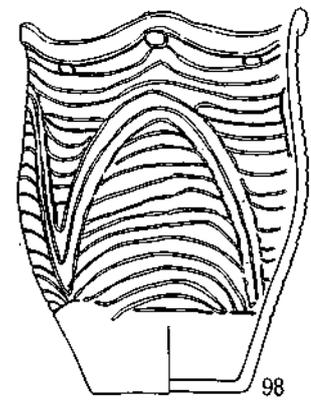
95



97

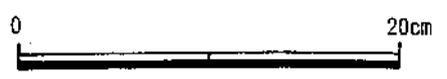


96

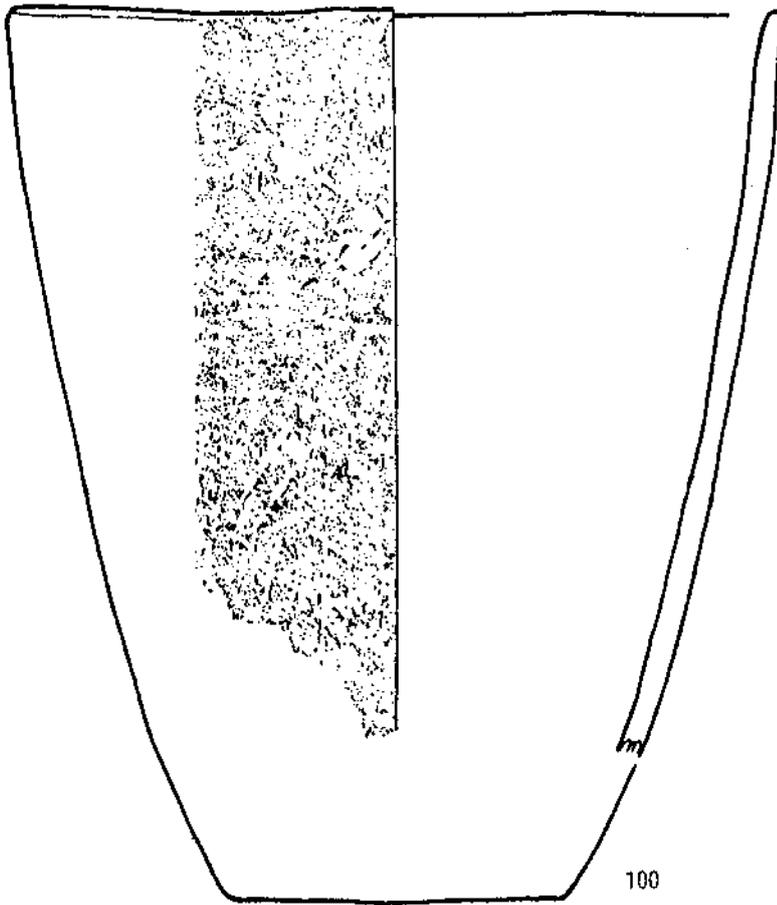
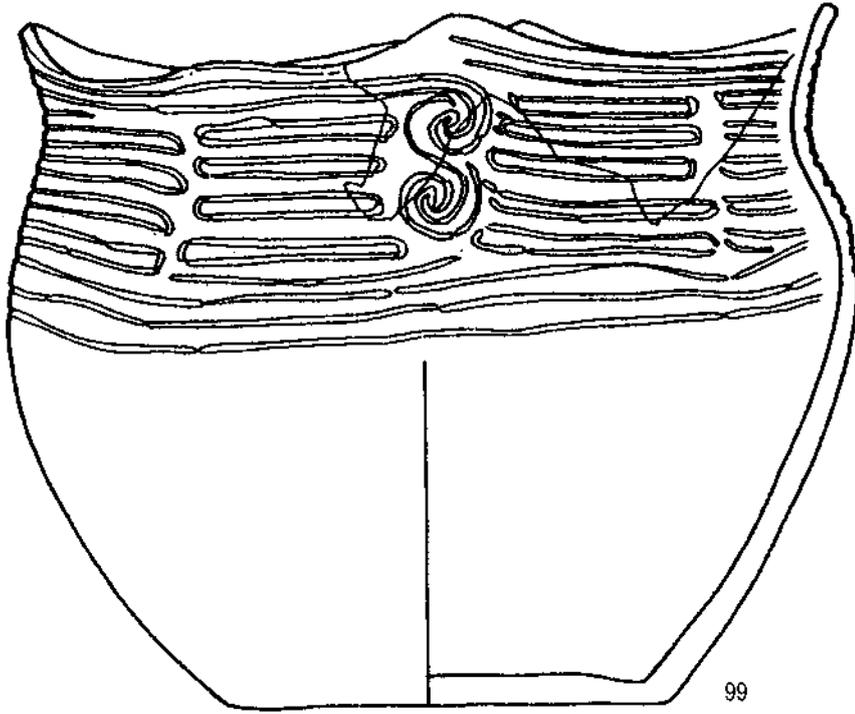


98

95・96……SK(F)1(万座西侧地区 D9区)
 97……SK(F)2(万座西侧地区 D9区)
 98……SK(F)2~5(万座西侧地区 D9区)



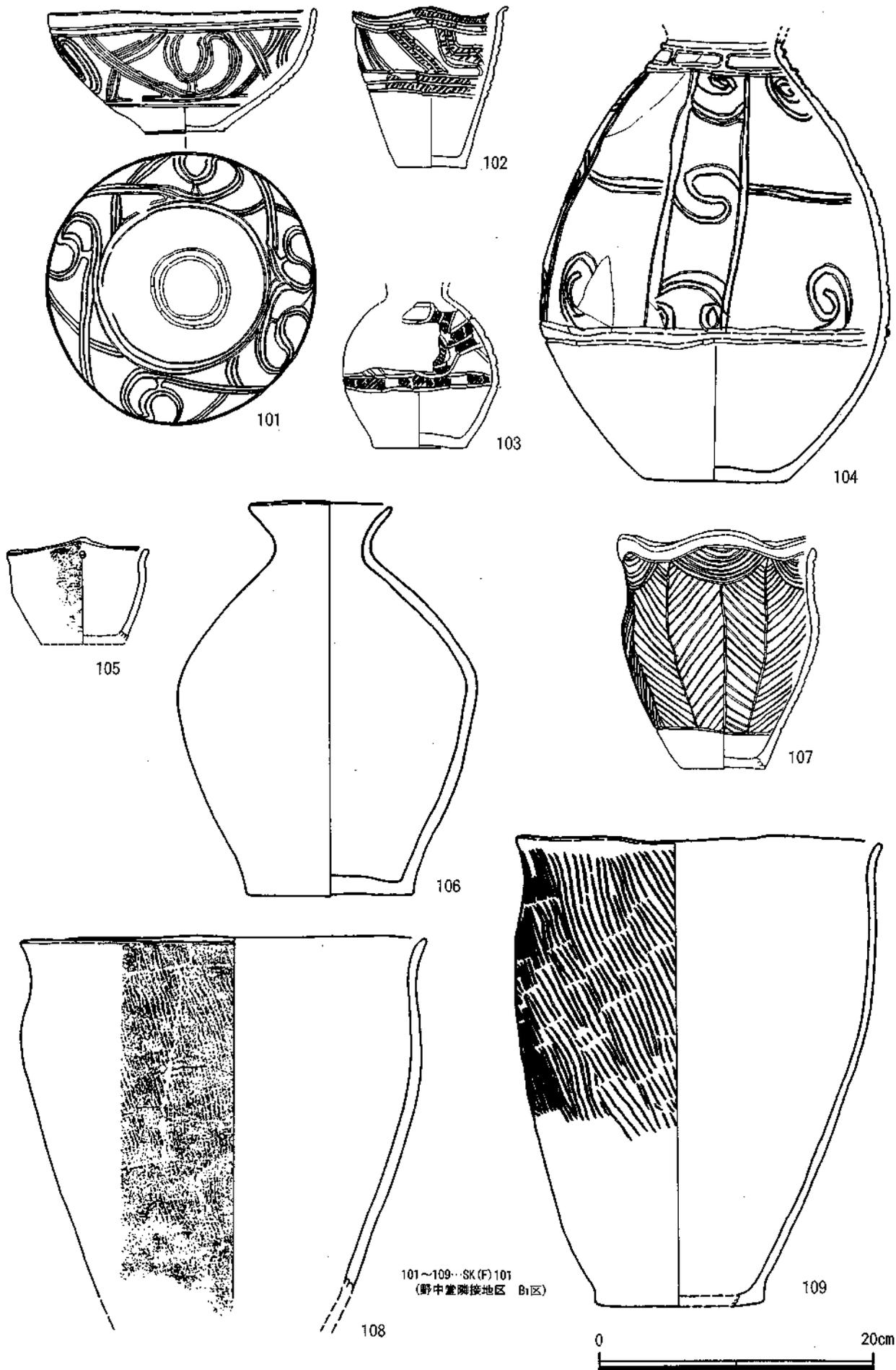
第160図 フラスコ状土坑出土土器 (11)



99. 100...SK(F)2
(万座西側地区 D9区)

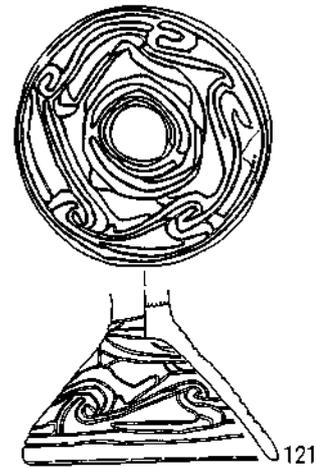
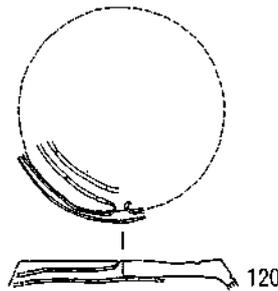
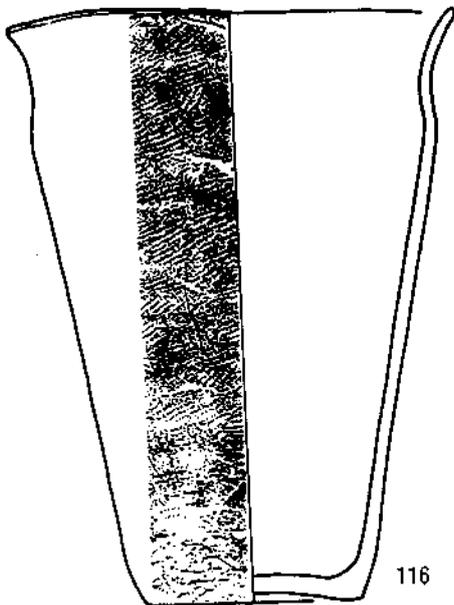
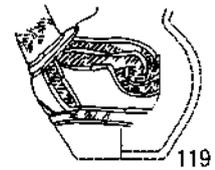
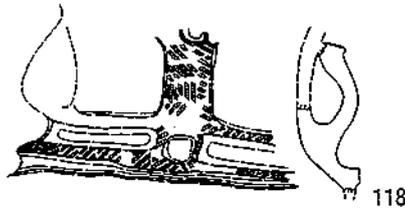
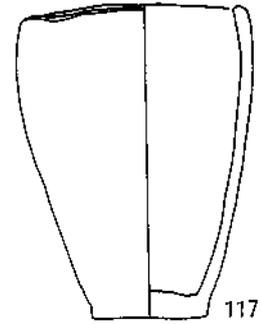
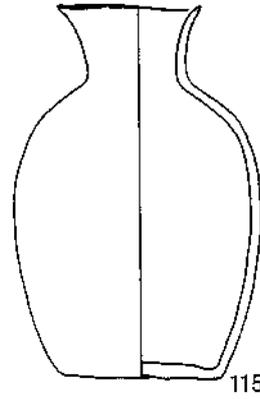
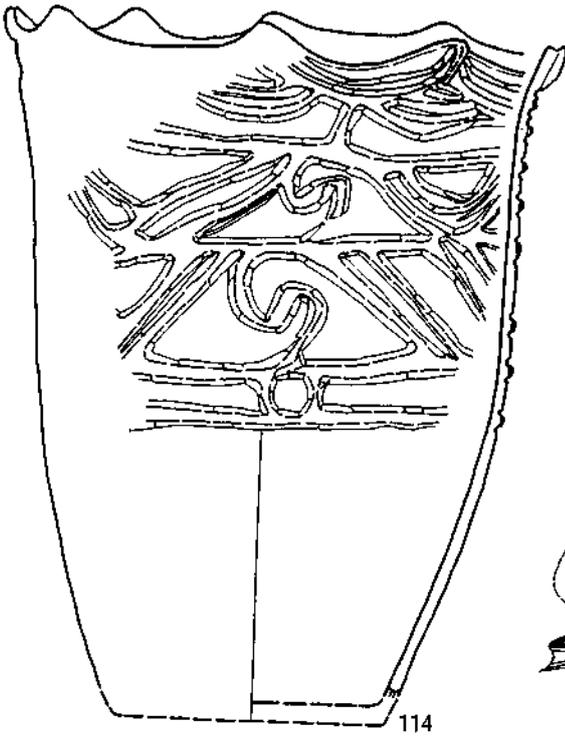
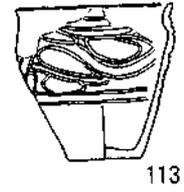
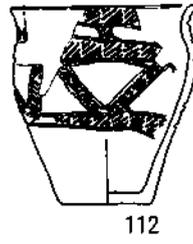
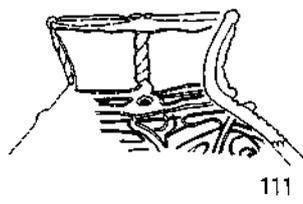
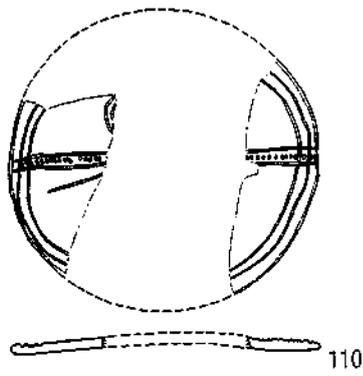


第161図 フラスコ状土坑出土土器 (12)



101~109...SK(F)101
 (野中堂隣接地区 B1区)

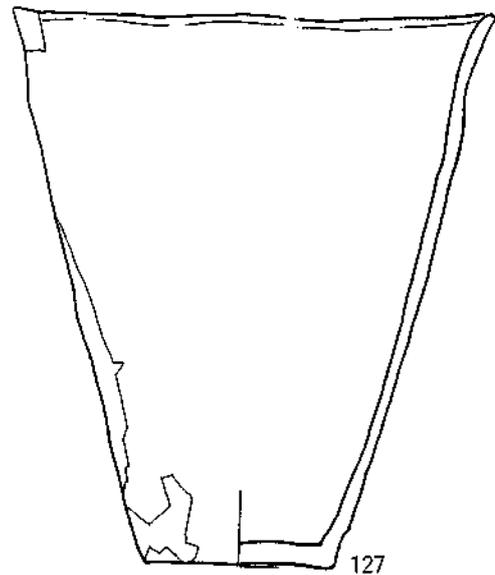
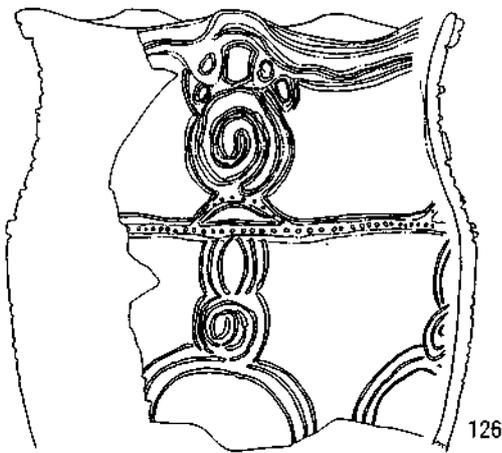
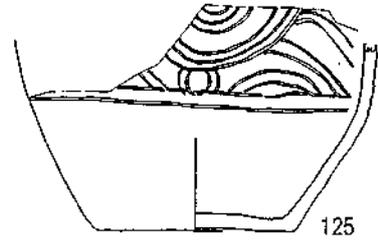
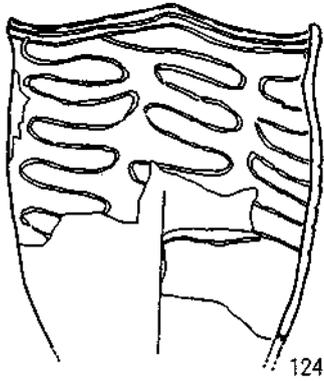
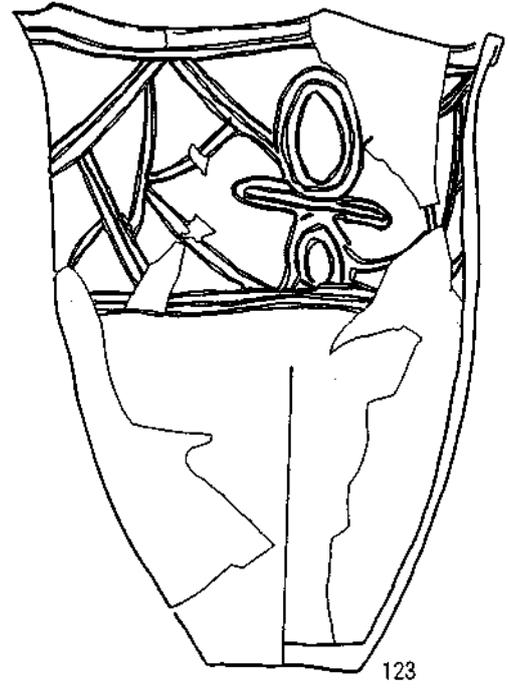
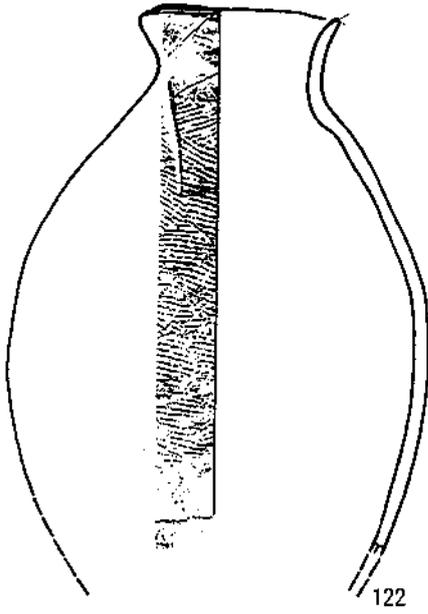
第162図 フラスコ状土坑出土土器 (13)



110~113...SK(F)102 (野中堂隣接地区 B1区)
 114...SK(F)103 (野中堂隣接地区 B1区)
 115~117...SK(F)104 (野中堂隣接地区 B1区)
 118...SK(F)105 (野中堂隣接地区 B1区)
 119~121...SK(F)106・107(野中堂隣接地区 B1区)



第163図 フラスコ状土坑出土土器 (14)



- 122・SK(F)106・107(野中堂隣接地区 B1区)
- 123・SK(F)22(野中堂隣接地区 B区)
- 124・SK(F)9(野中堂隣接地区 B区)
- 125・SK(F)134土坑中～上位(野中堂隣接地区 B2区)
- 126・SK(F)182土坑中～下位(野中堂隣接地区 B2区)
- 127・SK(F)202(野中堂隣接地区 B4区)

0 20cm

コ状土坑や11号・27号フラスコ状土坑より出土した深鉢形土器・広口壺形土器は帯縄文の幅が広く、器面や沈線間に施文される縄文の節も細かく後期中葉(十腰内Ⅱ式～Ⅲ式)の特徴をもっている。

特異な出土例としては、16m離れた2つのフラスコ状土坑(第11号フラスコ状土坑と419A号フラスコ状土坑)から出土した土器片が接合し、一個体土器に復元された。

上記のほかにキノコ形土製品・耳飾・土器片利用土製品などの土製品、円盤・球状石製品などが出土している。

万座西側地区

遺構内より完形・復元土器16点(2基)、石器172点(4基)、土製品25点(3基)、石製品10点(3基)が出土した。これらの大半は規模が大きく、歪な形状を呈する第1号・2号フラスコ状土坑からの出土である。

土器は深鉢形土器を主体に、鉢形土器、切断土器、壺形土器がある。いずれも沈線により弧線文、曲線文、渦巻文、連結「S」字文が主文様として施文されたもので、後期前葉(十腰内Ⅰ式)の土器の特徴をもっている。

また、本地区で出土した石器の約45.3%が第1号フラスコ状土坑から出土しており、遺跡全地区の中でも出土量が飛び抜けている。

上記のほかに、土偶・鐔形土製品などの土製品、板状石製品・軽石石製品などが出土している。

万座南側地区

遺物を出土したのは第711号フラスコ状土坑のみである。隆沈線を区画文に沈線によって文様が施文されている。

野中堂隣接地

遺構内より完形・復元土器28点(7基)、石器67点(23基)、土製品86点(18基)、石製品11点(6基)が出土した。

土器は深鉢形土器を主体に鉢形土器、壺形土器、蓋形土器、注口土器がみられる。隆沈線、沈線、帯縄文によって文様が描かれているが、沈線のものが最も多く、隆沈線は区画文として使用される。深鉢形土器は胴部ほぼ全域～1/2に、壺は最張部上半に文様帯をもつ。曲線文、渦巻文、入組文、矢羽状文などが施文されおり、後期前葉(十腰内Ⅰ式)の特徴をもつものである。

上記のほかに、土偶、耳栓、鐔形・環状土製品、キノコ形土製品などの土製品、岩板、軽石石製品などが出土している。

【カ. 重複関係】

万座隣接地、同北側地区、野中堂隣接地では多くの重複関係を示している。

万座隣接地

列石本体	SK(F)43→万座南側出入口
環状配石遺構	SK(F)363A・364→SX(S)301(D3区)
配石遺構	SK(F)243→SX(S)224(D1区)
柱穴状ピット	Pit65→SK(F)322(D3区)
	SK(F)416→Pit414(D4区) SK(F)617→Pit204(D6区)

	SK(F)37→Pit113(D6区)
	SK(F)59→Pit14(D7区) SK49→SK(F)73→Pit112(D7区)
掘立柱建物跡	SK(F)274→SB227(D1区) SK(F)288→SB228(D2区)
	SK(F)302→SB229(D2区) SB222→SK(F)284・341(D2区)
土 坑	SK(F)645→SK626(D6区) SK(F)52→SK51(D7区)
	SK233→SK(F)232(D1区) SK293→SK(F)292→SK301(D2区)
	SK19→SK(F)18→SK21(D7区)
フラスコ状土坑	SK(F)251→SK(F)250→SK249(D1区) SK(F)293→SK(F)280(D2区)
	SK41→SK(F)63→SK(F)40(D7区)

万座隣接地という占地条件から遺構は密集し、多くの重複関係を示している。

フラスコ状土坑はⅢ類～Ⅸ類掘立柱建物跡を切って構築され、Ⅰ類・Ⅱ類掘立柱建物跡によって切られている。この重複から同時存在を考え合わせ3つの時期を設定することができる。土坑でも同じ重複関係がみられた。また、列石南側の出入口状施設、列石と有機的な関係にある配石遺構、列石より後出する環状配石遺構によって切られており、同時期のものがあってもこれらより後に構築されるフラスコ状土坑は確認できなかった。

このことから、万座環状列石+建物跡建物跡（Ⅲ類～Ⅸ類）+土坑+フラスコ状土坑→万座環状列石+配石遺構+柱穴状ピット+掘立柱建物跡（Ⅰ類・Ⅱ類）+土坑+フラスコ状土坑→環状配石遺構+フラスコ状土坑 という遺構の変遷を推測することができる。

万座北側地区

環状配石遺構	SK(F)11→SX(S)1(F4区) SK(F)52→SX(S)3(F4区)
掘立柱建物跡	SK(F)13→SB5(F4区) SK(F)27→SB2(F4区)
竪穴住居跡	重複関係を示していない。
掘立柱建物跡	環状配石遺構より古いことが判明している。
石囲炉	SK(F)22→SX(O)7(F4区)
焼土遺構	SK(F)22→SX(f)7(F4区)
Tピット	SK(T)468→SK(F)469(F2区)
土 坑	SK206→SK(F)205→SK(F)204→SK203(D1区)
フラスコ状土坑	SK(F)419B→SK(F)419A(F1区) SK(F)484→SK(F)485(F2区)
	SK(F)489→SK(F)490→SK(F)517(F2区)

フラスコ状土坑はTピットを切って構築されている。

フラスコ状土坑は土坑を切るものと土坑に切られるものがあり、同時存在を考えると3つの時期が想定される。フラスコ状土坑を切って構築されるものは掘立柱建物跡、環状配石遺構、石囲炉、焼土遺構であり、掘立柱建物跡の構築時期は後期前葉に、環状配石遺構は後期中葉に求められる。また、掘立柱建物跡を切って石囲炉がつけられている。

これらの重複関係と同時存在を考えながら本地区の遺構の流れを推察した場合、Tピットが最も古

く→ 竪穴住居跡を中心に土坑+フラスコ状土坑→ 掘立柱建物跡を中心に土坑(墓)→環状配石遺構(重複により2つの時期が設定できる)を中心に石囲炉+フラスコ状土坑 と考えることができる。

万座西側地区

竪穴住居跡 SI09→SK(F)9(G4区)

フラスコ状土坑 SK(F)01・04・05、SK03→SK(F)02(D9区)

本地区全域の遺構の流れを推察するには重複関係を示すものが少ない。フラスコ状土坑同士で重複を行っており最低で2時期が存在する。後期前葉の竪穴住居跡を切って構築されるものがある。

万座南側地区

土 坑 SK(F)706→SK705(G1区)

検出された遺構も少なく、重複を示すものは1例である。フラスコ状土坑を切って土坑が構築されている。

野中堂隣接地

掘立柱建物跡 SK(F)186→SB210→SI01(B2区)

柱穴状ピット Pit176→SK(F)124→SK125(B2区) Pit179→SK(F)133→SK132(B2区)

竪穴住居跡 SK(F)186→SB210→SI01(B2区) SK31→SK(F)32→SI02(B2区)

Tピット SK(T)101→SK(F)104(B1区) SK(T)115→SK(F)133→Pit179(B2区)

土坑 SK151→SK(F)153→Pit424(B2区)

フラスコ状土坑 SK(F)103→SK(F)104(B1区) SK(F)105→SK(F)106・107(B1区)

SK(F)182→SK123・192(B2区)

本地区でもフラスコ状土坑はTピットを切って構築されている。土坑はフラスコ状土坑によって切られ、土坑を切って構築されている。重複関係からフラスコ状土坑より新しい時期のものは土坑、掘立柱建物跡、竪穴住居跡があり、これらは野中堂環状列石と同時に存在した可能性が高い。

これらの重複関係からTピットが最も古い時期にあり、その後、環状列石を中心に土坑+フラスコ状土坑+掘立柱建物跡・竪穴住居跡(後期前葉)を経て環状列石と竪穴住居跡(後期中葉)という遺構の変遷を辿ることができる。

【キ. 時 期】

万座隣接地

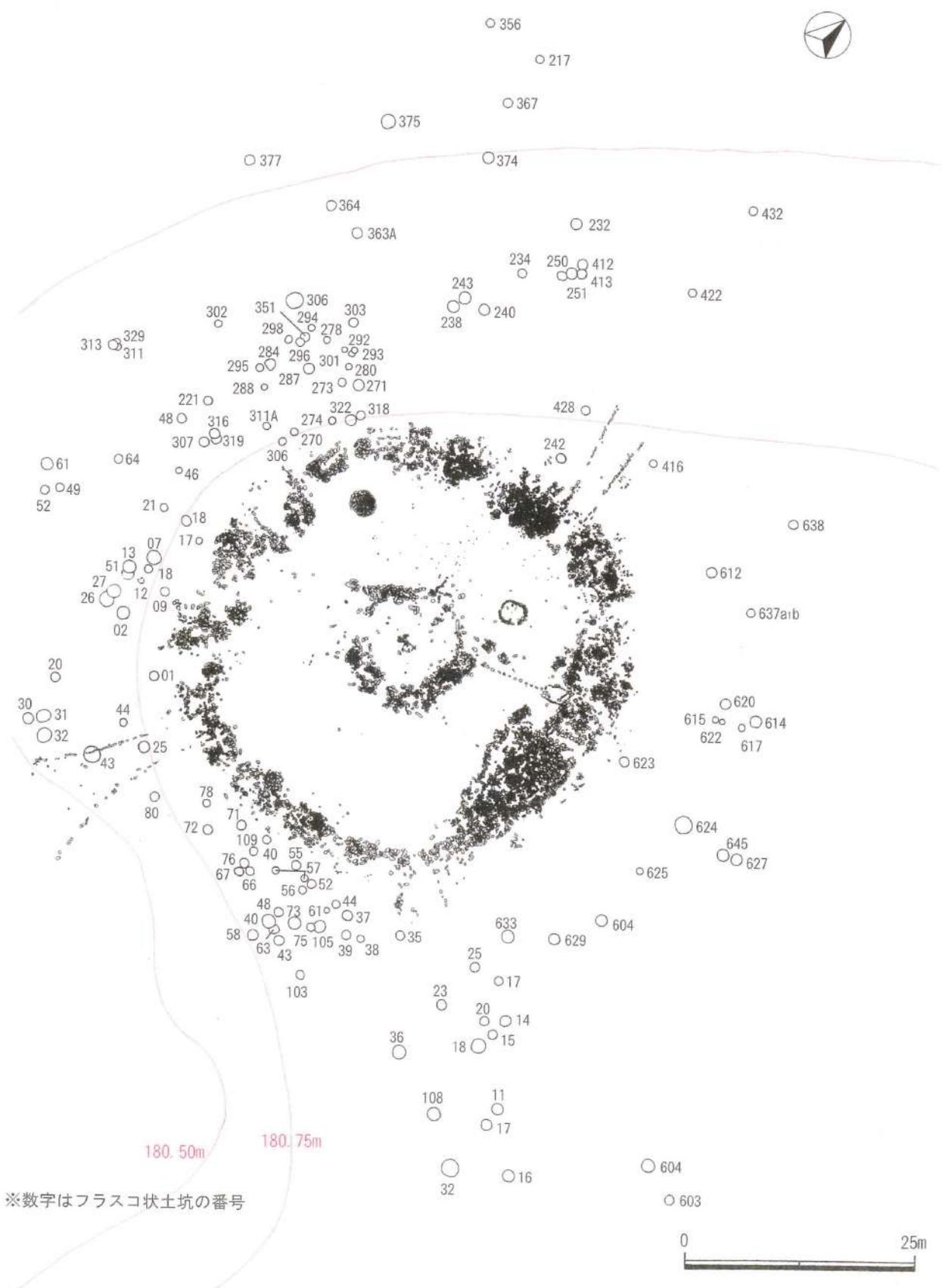
遺構内出土遺物から後期前葉(十腰内I式)～後期中葉(十腰内II式・III式)の構築時期が与えられ、環状列石と同時期である。

後期中葉のものは第232号(D1区)、第36号(D7区)フラスコ状土坑の2例のみである。

万座北側地区

遺構内出土遺物から後期前葉(十腰内I式)～後期中葉(十腰内II式・III式)の構築時期が与えられる。後期前葉のものは本地区で検出された竪穴住居跡や掘立柱建物跡に、中葉のものは環状配石遺構に伴ったものと考えられる。

万座西側地区



※数字はフラスコ状土坑の番号



第165図 フラスコ状土坑分布図 (万座隣接地)

出土遺物から後期前葉（十腰内I式）の時期が与えられる。

万座南側地区

遺構内からの出土遺物は少ない。遺構周辺の出土土器から後期前葉（十腰内I式）の時期が与えられる。

野中堂隣接地

遺構内出土遺物から後期前葉（十腰内I式）の構築時期が与えられる。後期中葉の構築時期と確実に判断できるものはない。これらフラスコ状土坑は万座環状列石と時期を同じくし、列石を意識した配置を示しており、環状列石に伴ったものと考えられる。

【ク. 分 布】

万座隣接地

環状列石を囲む建物跡、土坑の分布範囲に重なるが、列石東側及び北西側に分布が張り出している。

土坑分布でも指摘したようにフラスコ状土坑においても環状列石東側出入口から時計回りに北側出入口までの分布密度が濃く、しかも列石に近い位置に構築されている。一方、同列石東側部分は分布密度が薄く、列石より幾分離れた位置に構築される。このような対照的な分布を示すが、列石を囲む掘立柱建物跡と土坑によって形成されたグループ内に重複しながら占地していることが配置図から読



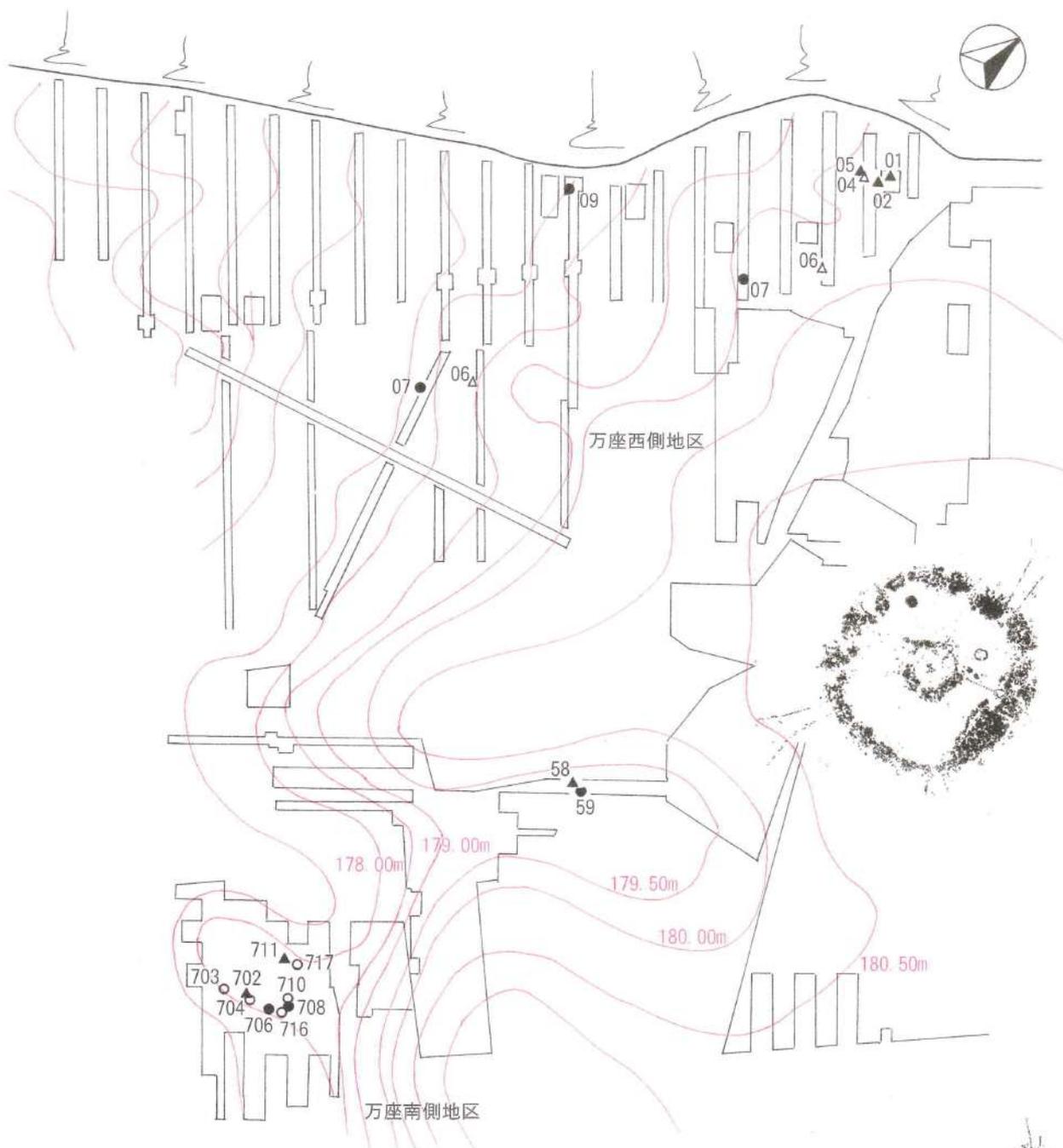
第166図 フラスコ状土坑分布図（万座北側地区1）



※数字はフラスコ状土坑の番号

※万座北側東端部
(F2区)





- … I a類
- … I b類
- … II類
- △… III類
- ▲… 不明

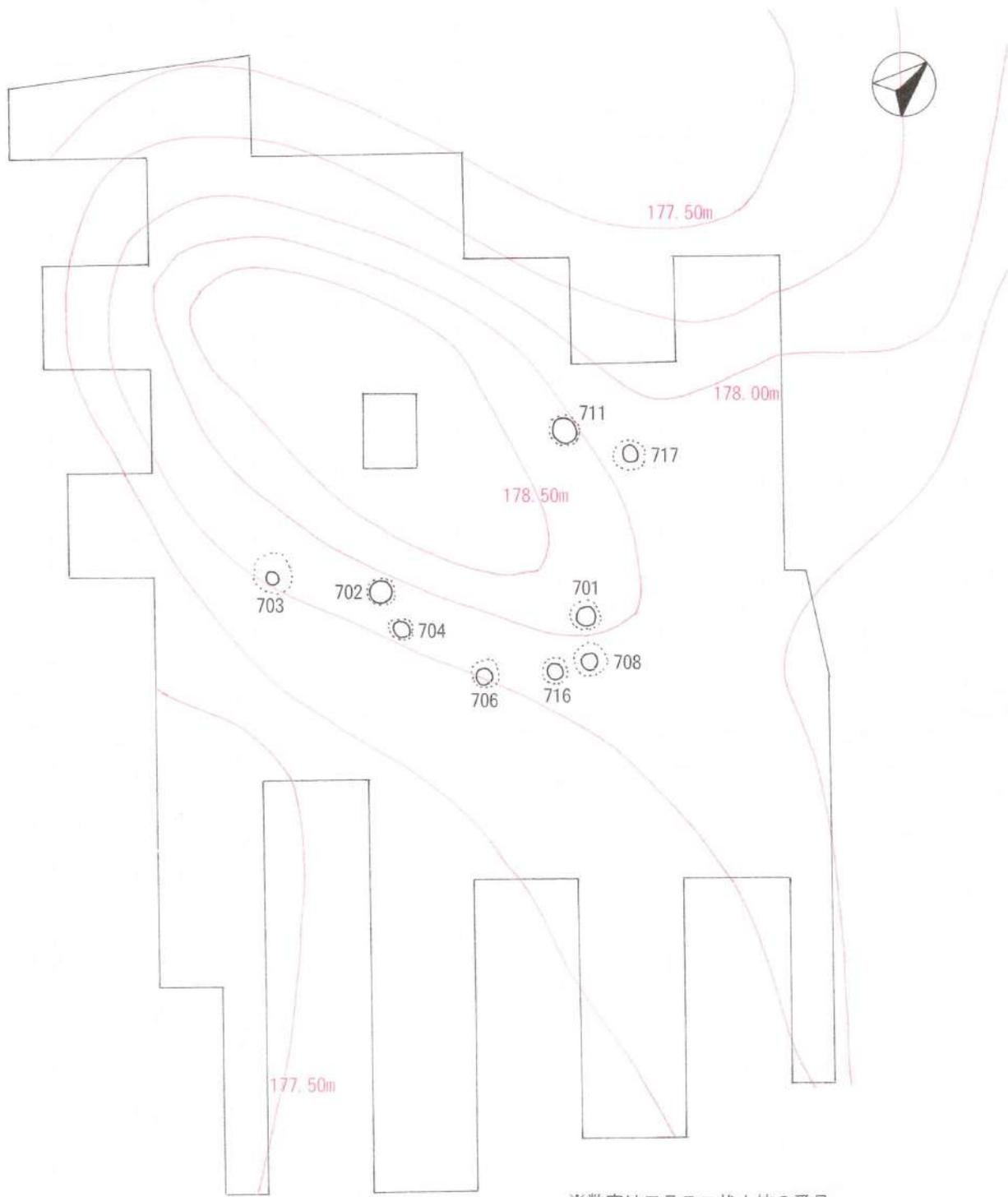
※数字はフラスコ上土杭の番号



第168図 フラスコ状土坑分布図（万座西側地区）

み取ることができる。

形態別の分布状況は、I a類・I b類は隣接地全域に、形の歪な皿類は列石とやや距離を置いて分布する傾向がみられる。



万座北側地区

本地区で特徴的な分布を示すのは同地区東側に位置する小丘に集合したフラスコ状土坑群である。この小丘は地形復元すると周辺より1m余り標高が高くなる。フラスコ状土坑はこの小丘頂部を中心に重複を繰り返し、最終的には20基が構築される。構築時期は出土遺物から後期前葉である。

また、本地区中央、第04号環状配石遺構の南側に後期中葉のフラスコ状土坑が分布するが、分布密度も薄く、環状配石遺構を意識した配置も示していない。

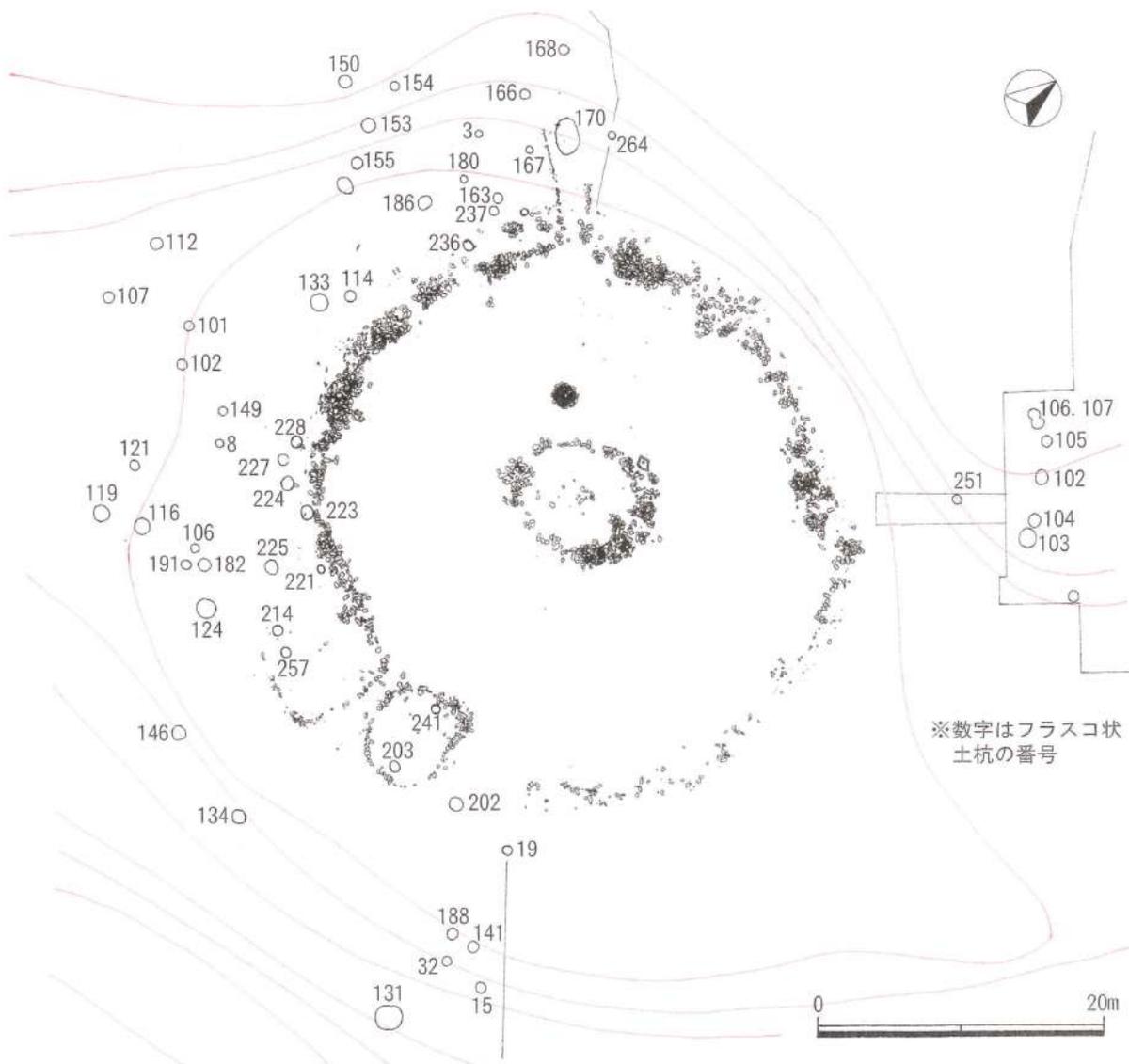
万座西側地区

調査方法がトレンチによることからフラスコ状土坑の分布ははっきりとしない。

現状からは竪穴住居跡(群)に隣接して分布する傾向がわずかに看取される。

万座南側地区

万座北側地区内の東側小丘に分布するフラスコ状土坑群と非常に似た立地条件のもとに分布する。周辺よりわずかに高い地点を選び、9基が丘の稜線に沿って配置されている。



第170図 フラスコ状土坑分布図（野中堂隣接地区）

野中堂隣接地

一部に未調査部分を残しているが、万座環状列石隣接地と同様に分布するものと考えられるが、その密集度は万座隣接地より低い。

フラスコ状土坑は、環状列石を取り囲む掘立柱建物跡や土坑が分布する範囲(建物跡と土坑によって構成されたグループ)内に構築されている。

【ケ. 性 格】

大半のものは「貯蔵穴」と考えられるが、岩手県二戸町上里遺跡の人骨の出土、青森県青森市小牧野遺跡の事例から「墓穴」への転用ということも考慮しなければならない。

環状列石やそのほかの遺構との位置関係、地形を考慮した配置、形態及び遺構内出土遺物などから性格を導くことができるものと考えられる。

万座隣接地、野中堂隣接地

万座隣接地及び野中堂隣接地に分布するフラスコ状土坑は前述したように、掘立柱建物跡や土坑と一体となり列石を取り囲み、列石外帯配石群と対応する位置関係にある。

万座環状列石は、等高線が西側に大きく張り出し大きな平坦地に位置している。この平坦地の北・西・南側には比高を下げるゆるやかな傾斜が続いており、フラスコ状土坑は列石と地形を考慮した分布状況を示している。この傾斜部分(北・西・南側)に多くのフラスコ状土坑が分布しているが、列石が作られる標高と同じ高さが広がる列石の東側ではその密集度が薄く、列石より離れて構築されるという占地的な違いがみられる。このことから列石の東側を除く列石隣接地は比較的構築条件の良い場所であり、万座北側地区の東側小丘(F2区)などに類似した条件を備えていたものと考えられる。

一方、形態Ⅲ類としたものはその掘り方が歪であり、その分布は万座・野中堂環状列石隣接地に限定される。この形状が最終的なものなのか、構築途中で取りやめたのかは不明である。貯蔵を目的としたものであれば「口径(口頸)部を狭くし、外気を遮断し、土坑内の温度を一定に保つ」ことが必要であるがこの条件を満たしていない。このことからⅢ類については「貯蔵」以外の性格を有したものと推察される。

万座北側地区、万座南側地区

万座北側地区の東側小丘、万座南側地区の南端部の小丘に分布するフラスコ状土坑は、見晴らしの良く、水はけの良い場所を選定しており、地形的な要因から貯蔵を目的に構築されたものと考えられる。

万座西側地区

本地区の地形は西側に緩やかに傾斜し、後期前葉には浅いながらも沢が台地西側より入り込んでいることが確認されている。フラスコ状土坑と竪穴住居跡とともに台地縁と沢によって挟まれた範囲に分布している。住居跡との位置関係、地形的な要因から貯蔵を目的に構築されたものと考えられる。

第 111 表 フラスコ状土坑(万座隣接地区 1)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グロット	確認面	形態	規模 (cm・m) 口径・底径・深さ 底面積	埋土	出土遺物	新旧関係	構築 時期
1	SK(F)217 (報文 4)	D1 区 YC、YD-92	(Ⅲd 層上面)	I a	80×76 140×9 104 0.44	人為	凹石 1 点 土器片数点 復元土器 2 点		後期 前葉
2	SK(F)232 (報文 4)	D1 区 ZZ-92・93	(Ⅲd 層上面)	I a	120 以上 176×176 155 2.43	人為	復元土器 2 点 土器片 310 点 搔器・敲石各 1 点 円盤状石製品 1 点 土器片利用土製品 4 点	SK233→SK(F)232	後期 前葉 ~ 中葉
3	SK(F)234 (報文 4)	D1 区 ZY-91	(Ⅲd 層上面)	I a	93×78 120×94 50 0.9	人為	搔器 1 点 土器片 10 点 復元土器 2 点		後期 前葉
4	SK(F)238 (報文 4)	D1 区 ZX-90	(Ⅲd 層上面)	Ⅲ	114×77 147×80 122 1.01	人為	赤色顔料塊 黒色樹脂塊 復元土器 2 点 土器片 250 点 凹石・敲石各 1 点 土器片利用土製品 3 点	SK237→SK(F)238	後期 前葉
5	SK(F)240 (報文 4)	D1 区 ZX-90・91	(Ⅲd 層上面)	I b	121×117 236×197 232・262 3.68	人為	土製品 1 点 土器片 1 箱 復元土器 17 点 土器片利用土製品 13 点 搔石・石鏝 磨石・磨製石斧 計 14 点		後期 前葉
6	SK(F)242 (報文 4)	D1 区 ZU-92	(Ⅲd 層上面)	I a	114×123 224×220 162 3.87	人為	土器片 250 点 復元土器 2 点 搔器・凹石各 1 点 土器片利用土製品 9 点		後期 前葉
7	SK(F)243 (報文 4)	D1 区 ZX-90	(Ⅲd 層上面)	I a	144×136 180×164 110 2.32	人為	搔器 4 点 土器片 250 点 球状石製品 2 点 円盤状石製品 1 点 土器片利用土製品 8 点 炭化堅実類 (例 6、例 6、例 7)	SK(F)243 →SK(S)224	後期 前葉
8	SK(F)250 (報文 4)	D1 区 ZY-92	(Ⅳ層下面)	I a	100×98 128×160 124 1.63	人為	炭化堅実類(例 1、例 5) 土器片他 詳細不明	SK(F)251 →SK(F)250 →SK249・259 Pit283	後期 前葉
9	SK(F)251 (報文 4)	D1 区 ZX、ZY-92	SK249・252 底面で確認		216×216 134 3.66	人為	土器片他 詳細不明	SK(F)251 →SK(F)250 SK(F)251→SK249 SK259 Pit283?	後期 前葉
10	SK(F)270 (報文 5)	D2 区 ZU-86	(Ⅲd 層上面)	I a	68×54 140×140 181 1.54	人為	石製品 2 点 土器片 191 点 石匙・完形土器各 1 点 土器片利用土製品 3 点	SB226・227 新旧不明	後期 前葉
11	SK(F)271 (報文 5)	D2 区 ZV-88	(Ⅲd 層上面)	I a	112×112 159×159 92 1.98	人為	敲石 1 点 土器片 9 点	SK272→SK(F)271	後期 前葉
12	SK(F)273 (報文 5)	D2 区 ZV-87・88	(Ⅲd 層上面)	I b	84×78 133×130 112 1.36	人為	土器片 86 点 耳飾・磨製石斧各 1 点 土器片利用土製品 1 点	SK269 Pit524→SK(F)273 →Pit523	後期 前葉
13	SK(F)274 (報文 5)	D2 区 ZU、ZV-87	(Ⅲd 層上面)	I a	87×82 178×178 181 2.49		石冠 1 点 凹石 2 点 搔器 4 点 復元土器 2 点 土器片 279 点 円盤状石製品 1 点 土器片利用土製品 6 点	SK(F)274→SB227	後期 前葉

第 112 表 フラスコ状土坑(万座隣接地区 2)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グロット*	確認面	形態	規模 (cm・㎡) 口径・底径・深さ 底面積	埋土	出土遺物	新旧関係	構築 時期
14	SK(F)278 (報文 5)	D2区 ZW-87	(Ⅲd 上面)	I a	80×70 120×118 118 1.11	人為	土器片 42点 円盤状石製品 1点		後期 前葉
15	SK(F)280 (報文 5)	D2区 ZW-88	(Ⅲd 上面)	I b	83×66 181×164 122 2.34	人為	土器片 42点 石皿・土偶各 1点 円盤状石製品 1点 土器片利用土製品 1点	SK(F)293 →SK(F)280	後期 前葉
16	SK(F)283 (報文 5)	D2区 ZV-85	(Ⅲd 上面)	I a	58×58 68×68 61 0.36	人為	少量の土器片	SK(F)283→SK285	後期 前葉
17	SK(F)284 (報文 5)	D2区 ZW-86	(Ⅲd 下位)	I b	136×132 170×167 163 2.23	人為	土器片 114点、 石鏃 1点、搔器 2点、 敲石 2点、 土器片利用土製品 4点	SK295 SB222→SK(F)284 SB221A、SB221B とは不明	後期 前葉
18	SK(F)287 (報文 5)	D2区 ZV、ZW-87	(SK279 底面)	I a	160×150 172 1.89	人為	磨石 2点 土器片 63点 凹石・石皿各 1点 土器片利用土製品 2点	SK(F)287→SB228	後期 前葉
19	SK(F)288 (報文 5)	D2区 ZU-86	(Ⅲd 上面)	I a	88×68 145×143 163 1.63	人為	搔器 2点 土器片 39点 凹石・石鏃 1点 土器片利用土製品 5点	SK(F)288→SB288 SB221A、SB221B とは不明	後期 前葉
20	SK(F)292 (報文 5)	D2区 ZW-88	(Ⅲd 層上面)	I a	90×94 120×105 106 0.99	人為	搔器 4点 土器片 42点 復元土器 2点 球状石製品 1点 石剣・磨石各 1点 土器片利用土製品 9点	SK293→SK(F)292 →SK301	後期 前葉
21	SK(F)293 (報文 5)	D2区 ZZ-88	(Ⅲd 層上面)	I a	83×83 170×170 107 2.27	人為	土器片 40点 土器片利用土製品 1点	SK(F)293 →SK(F)292 SK(F)280 SK(F)301	後期 前葉
22	SK(F)294 (報文 5)	D2区 ZW、ZX-87	(Ⅲd 層上面)	I a	62×60 125×116 139 1.14	人為	土器片 39点 凹石・復元土器各 1点	口縁部付近に 3個のピット	
23	SK(F)295 (報文 5)	D2区 ZW-86	(Ⅲd 層上面)	I a	80×79 132×130 154 1.35	人為	土器片 200点 軽石石製品 1点 凹石・完形土器各 1点 土器片利用土製品 6点 炭化堅実類(ナシ、カサ)	SK(F)294→SK284 SB221A、SB221B は不明 口縁部付近に 3個のピット	後期 前葉
24	SK(F)296 (報文 5)	D2区 ZW-86・87	(Ⅲd 層上面)	I a	100×90 130×130 141 1.33	人為	搔器 1点 石鏃 3点 復元土器 3点 土器片 137点 円盤状石製品 1点 土器片利用土製品 1点	SK297 SK308→SK(F)296 SK(F)351	後期 前葉
25	SK(F)298 (報文 5)	D2区 ZW-86	(Ⅲd 層上面)	I a	110×110 182×182 60 2.60	人為	搔器 2点 土器片利用土製品 2点 少量の土器片	SK352→SK(F)298 →SK297、SK353	後期 前葉
26	SK(F)301 (報文 5)	D2区 ZW-87・88	(Ⅲd 層上面)	I a	68×57 198×190 170 2.95	人為	土器片 174点 円盤状石製品 1点 復元土器・搔器各 1点 装飾品・土製品各 1点 土器片利用土製品 3点	SK(F)293 SK(F)292→SK(F)301	後期 前葉
27	SK(F)302 (報文 5)	D2区 ZX-85	(Ⅲd 層上面)	Ⅲ	92×87 135×122 93 1.30	人為	土器片 110点 搔器・復元土器各 1点 土器片利用土製品 1点	SK(F)302→SB229	後期 前葉

第 113 表 フラスコ状土坑(万座隣接地区 3)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グロット	確認面	形態	規模 (cm・m ²) 口径・底径・深さ 底面積	埋土	出土遺物	新旧関係	構築 時期
28	SK(F)303 (報文 5)	D2 区 ZW-88	(Ⅲd層上面)	I a	92×91 180×182 169 2.57	人為	装飾品 1 点 土器片 241 点 軽石石製品 1 点 土器片利用土製品 6 点		後期 前葉
29	SK(F)306 (報文 5)	D2 区 ZW-86・87	(Ⅲd層上面)	I a	200×174 255×230 152 4.62	人為	石皿 2 点 石匙 3 点 石錘 7 点 搔器 12 点 土器片 1158 点 復元土器 8 点 軽石石製品 3 点 磨石・石剣各 1 点 石鏃・石錐・凹石各 1 点 土器片利用土製品 15 点	SK337→SK(F)306	後期 前葉
30	SK(F)313 (報文 5)	D2 区 ZW-82・83	(Ⅲd層上面)	Ⅱ	99×86 159×92 148 1.24	人為	石鏃 1 点 搔器 2 点 土器片 50 余点 復元土器 6 点 土器片利用土製品 4 点 円盤状・球状石製品 各 1 点	SK(F)329 SK(F)331→SK(F)313 SK335	後期 前葉
31	SK(F)329 (報文 5)	D2 区 ZW-82・83	(Ⅲd層上面)	I a	55×55 80×80 148 0.50	人為	土器片 51 点	SK(F)331 SK335→SK(F)329 →SK313	後期 前葉
32	SK(F)331 (報文 5)	D2 区 ZW-82・83	(Ⅲd層上面)	I a	60×60 134×134 158 1.41	人為	土器片 25 点	SK(F)331→SK(F)313 SK(F)329	後期 前葉
33	SK(F)341 (報文 5)	D2 区 ZW-86	(Ⅲd層上面)	I a	76×66 97×92 84 0.70	人為	復元土器 1 点 球状石製品 1 点 少量の土器片	SB222→SK(F)341	後期 前葉
34	SK(F)351 (報文 5)	D2 区 ZW-87	(Ⅲd層上面)	I a	120×120 180×180 80 2.54	人為	少量の土器片	SK(F)351 →SK(F)296 SK353	後期 前葉
35	SK(F)306 (報文 10)	D3 区 ZU-86	(Ⅳ層)	I b	80×77 150×144 140 1.70	人為	石皿 1 点 搔器 7 点 土器片 41 点 壺形土器 1 個体	SK(F)306→Pit1	
36	SK(F)307 (報文 10)	D3 区 ZU-84	(Ⅴ層)		150×120 100 以上 1.43	人為			
37	SK(F)311A (報文 10)	D3 区 ZU-86	(Ⅳ層)	I a	72×70 112×106 96 0.93	人為	土器片 30 点	SK(F)311A→Pit7 Pit45 とは不明	
38	SK(F)316 (報文 10)	D3 区 ZU-85	(Ⅳ層)	I a	90×85 154×148 167 1.79	人為	土器片 76 点	SK(F)316→SK(F)319 SK325 Pit2	
39	SK(F)318 (報文 10)	D3 区 Z V~ZU -88	(Ⅲd層中位)	I b	109×108 144×138 上段 168 下段 196 1.56	人為	搔器 1 点 土器片 45 点 深鉢 1 個体		後期

第 114 表 フラスコ状土坑(万座隣接地区 4)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	形態	規模 (cm・m) 口径・底径・深さ 底面積	埋土	出土遺物	新旧関係	構築 時期
40	SK(F)319 (報文 10)	D3 区 ZU-85	(IV層)	I a	110×110 150×120 85 1.43	人為	搔器 1 点 土器片 31 点 壺形土器の縁部 1 個体 深鉢形土器 あるいは壺形土器の 底部 2 個体	SK(F)316 →SK(F)319 →SK325 Pit2, 69	後期
41	SK(F)321 (報文 10)	D3 区 ZV-84~85	(IV層)	I b	106×98 175×160 上段 187 下段 200 2.20	人為	刺片 2 点 搔器 8 点 土器片 616 点 壺形土器 3 個体 軽石石製品 1 点 深鉢形土器 1 個体 土器片利用土製品 1 点 凹石・敲石・磨石各 1 点		後期
42	SK(F)322 (報文 10)	D3 区 ZV-ZU -87-88	(Ⅲd層中位)	I a	120×108 196×192 174 2.95	自然	深鉢 1 点 搔器 3 点 土器片 58 点 磨製石斧 2 点 軽石石製品 1 点 土器片利用土製品 2 点	Pit65→SK(F)322	後期
43	SK(F)356 (報文 10)	D3 区 ZZ-88	(Ⅲd層上位)		98×97 80 以上		刺片 1 点 搔器 3 点 土器片 134 点	途中までの調査	
44	SK(F)363A (報文 10)	D3 区 ZZ-88	(Ⅲd層上面)		113×100			SK(F)363A →SK(S)301 プラン確認のみ	
45	SK(F)364 (報文 10)	D3 区 ZZ-87	(Ⅲd層上位)		112×97			SK(F)364 →SK(S)301 プラン確認のみ	
46	SK(F)367 (報文 10)	D3 区 ZC-YB-91	(Ⅲd層)		118×103			プラン確認のみ	
47	SK(F)374 (報文 10)	D3 区 YA-90-91	(Ⅲd層上位)	I a	132×132 212×200 194 3.33	人為			
48	SK(F)375 (報文 10)	D3 区 YB-88・89	(Ⅲd層上位)	I a	142×137 50 以上		搔器 6 点 土器片 195 点 台付土器 1 点 刺片・石鏝各 1 点	途中までの調査	
49	SK(F)377 (報文 10)	D3 区 YA-85・86	(Ⅲd層上位)		112×109			プラン確認のみ	
50	SK(F)379 (報文 10)	D3 区 YG-89	(Ⅲd層上位)		117×107			プラン確認のみ	
51	SK(F)394 (報文 10)	D3 区 YI-88・89	(Ⅲd層上位)	I a	104×101 186×150 155 2.22	人為	土器片 13 点		
52	SK(F)412 (報文 10)	D4 区 ZY-93	(Ⅲd層中位)	I a	105×101 100 以上	人為	土器片 56 点 土器片利用土製品 4 点	SK(F)412 →SK(F)413 途中までの調査	
53	SK(F)413 (報文 10)	D4 区 ZY-93	(Ⅲd層中位)	I a	165×165 100	人為	土器片 23 点	SK(F)412 →SK(F)413 SK406 途中までの調査	

第 115 表 フラスコ状土坑(万座隣接地区 5)

No	遺構名 (報文No)	調査区 グリッド	確認面	形態	規模 (cm・㎡) 口径・底径・深さ 底面積	埋土	出土遺物	新旧関係	構築 時期
54	SK(F)416 (報文 10)	D4 区 ZT-94	(Ⅲd 層中位)	I a	86×80 140	人為	土器片 14 点	SK(F)416→Pit414 途中までの調査	
55	SK(F)422 (報文 10)	D4 区 ZX-95	(Ⅳ層)	I a	85×82 46	人為		途中までの調査	
56	SK(F)428 (報文 10)	D4 区 ZV-93	(Ⅲd 層上面)		90×90			SK(S)406 との 新旧不明 プラン確認のみ	
57	SK(F)603 (報文 11)	D6 区 ZD,ZE-95	(Ⅲd 上面)	I b	144×138 184×184 上段 116 下段 136 2.66	人為	敲石 2 点 搔器 3 点 土器片 103 点 炭化堅果類		後期 前葉
58	SK(F)604 (報文 11)	D6 区 ZE-94	(Ⅲd 上面)	I a	139×139 149×149 112 1.74	人為	剥片 2 点 土器片 55 点 打製石斧 1 点		後期 前葉
59	SK(F)612 (報文 11)	D6 区 ZR-95-96	(Ⅲd 上面)	Ⅲ	90×76 96×96 109 0.72	人為	土器片 12 点 土器片利用土製品 1 点		後期 前葉
60	SK(F)614 (報文 11)	D6 区 ZO-96-97	(Ⅲd 上面)	Ⅲ	134×116 132×132 96 1.37	人為	敲石 1 点 搔器 4 点 土器片 143 点		後期 前葉
61	SK(F)615 (報文 11)	D6 区 ZO-96	(Ⅲd 上面)		80×76 80 以上	人為		SB607 との 詳細不明	後期 前葉
62	SK(F)617 (報文 11)	D6 区 ZO-96	(Ⅲd 上面)		70×64 60 以上	人為	土器片 2 点	SK(F)617→Pit204 途中までの調査	後期 前葉
63	SK(F)620 (報文 11)	D6 区 ZO-96	(Ⅲd 上面)	I a	94×110 60 以上	人為	凹石 1 点 搔器 2 点 土器片 42 点	SI607 との新旧不明 途中までの調査	後期 前葉
64	SK(F)623 (報文 11)	D6 区 ZN-94	(Ⅲd 上面)		70×64 80 以上	人為		SK(F)623→Pit820 Pit835	後期 前葉
65	SK(F)624 (報文 11)	D6 区 ZL,ZM-95	(Ⅲd 層上面)		196×190 76	人為		Pit867 SK(F)624→Pit869 Pit1045	後期 前葉
66	SK(F)625 (報文 11)	D6 区 ZL-94	(Ⅲd 層上面)		60×60 110×110 90 以上 0.95	人為		SB614 との 新旧不明	
67	SK(F)627 (報文 11)	D6 区 ZL-96	(Ⅲd 層上面)		139×119 60 以上	人為	土器片 5 点 板状石製品 1 点 大型の礫を含む	途中までの調査	後期 前葉
68	SK(F)629 (報文 11)	D6 区 ZJ-92	(Ⅲd 層上面)		120×120	人為	土器片 3 点	途中までの調査 SK(F)629→Pit1005	後期 前葉
69	SK(F)631 (報文 11)	D6 区 ZI,ZJ-93	(Ⅲd 層上面)	I a	144×139 179×179 74 2.52	人為	土製品 1 点 土器片 69 点	SK(F)631→Pit1043	後期 前葉

第 116 表 フラスコ状土坑(万座隣接地区 6)

No.	遺構名 (報文No)	調査区 グリッド	確認面	形態	規模 (cm・㎡) 口径・底径・高さ 底面積	堀土	出土遺物	新旧関係	構築 時期
70	SK(F)633 (報文 11)	D6 区 ZJ-91	(Ⅲd 層上面)	I b	160×134 180×180 上段 79 下段 94 2.54	人為	土器片 18 点	SK(F)633→Pit1086	後期 前葉
71	SK(F)637 (報文 11)	D6 区 ZQ、ZR-96	(Ⅲd 層上面)	I b	94×90 114×114 1.02		播器 3 点 土器片 52 点	SK(F)637A →SK(F)637B	後期 前葉
72	SK(F)638 (報文 11)	D6 区 ZS-97	(Ⅲd 層上面)	I b	108×106 98×98 92 0.75	人為	播器 3 点 土器片 49 点		後期 前葉
73	SK(F)645 (報文 11)	D6 区 ZL-96	(Ⅲd 層上面)	I b	120×114 112×112 79 0.98	人為		SK(F)645→SK626	後期 前葉
74	SK(F)11 (報文 12)	D7 区 ZF、ZG-91	(Ⅲd 層上面)	I a	124×124 226×226 176 4.01	人為	剥片 5 点 炭化物(竹/?) 土器片 243 点 壺形土器 1 個体 深鉢形土器 9 個体 鐔土・軽石石斧各 1 点 土器片利用土製品 1 点 播器・磨石・石鏝各 1 点		後期 前葉
75	SK(F)12 (報文 12)	D7 区 ZF-91	(Ⅲd 層上面)	I a	126×122 200×200 168 3.14	人為	播器 6 点 剥片 9 点 土器片 150 点 敲石・磨石各 1 点 深鉢形土器 1 個体 土器片利用土製品 1 点		
76	SK(F)14 (報文 12)	D7 区 ZH-91	(Ⅲd 層上面)	I a	116×120 128×128 50 1.29	人為	剥片 14 点 土器片 16 点	SK(F)14→Pit3	後期 前葉
77	SK(F)15 (報文 12)	D7 区 ZH-91	(Ⅲd 層上面)	I a	100×100 120×120 74 1.33	人為	剥片 1 点 土器片 18 点		後期 前葉
78	SK(F)16 (報文 12)	D7 区 ZE-91	(Ⅲd 層上面)	Ⅲ	146×138 174×174 上段 90 下段 112 2.38	人為	剥片 1 点 土器片 23 点		後期 前葉
79	SK(F)17 (報文 12)	D7 区 ZI-91	(Ⅲd 層上面)	I a	82×80 120×120 64 1.13	人為	剥片 1 点 土器片 19 点		後期 前葉
80	SK(F)18 (報文 12)	D7 区 ZH-90-91	(Ⅲd 層上面)		146×146 154×154 80 1.86	人為	土器片 54 点 土器片利用土製品 1 点 石鏝・磨石・剥片各 1 点	SK19 →SK(F)18 →SK21	後期 前葉
81	SK(F)20 (報文 12)	D7 区 ZH-91	(Ⅲd 層上面)	I a	100×92 156×156 150 1.91	人為	剥片 1 点 土器片 51 点		後期 前葉
82	SK(F)23 (報文 12)	D7 区 ZI-90	(Ⅲd 層上面)	I a	120×116 148×148 130 1.72	人為	剥片 2 点 土器片 73 点 土器片利用土製品 1 点 播器・土偶の足各 1 点		後期 前葉
83	SK(F)25 (報文 12)	D7 区 ZI、ZJ-90	(Ⅲd 層上面)	I a	74×74 94×94 68 0.69	自然	播器 1 点 土器片 2 点	SK(F)25→SK26	後期 前葉

第 117 表 フラスコ状土坑(万座隣接地区 7)

No	遺構名 (報文No)	調査区 グリッド	確認面	形態	規模 (cm・m) 口径・底径・深さ 底面積	埋土	出土遺物	新旧関係	構築 時期
84	SK(F)32 (報文 12)	D7 区 ZE-90	(Ⅲd層上面)	I a	190×172 210×210 172 3.46	人為			後期
85	SK(F)35 (報文 12)	D7 区 ZJ-89	(Ⅲd層上面)	I a	128×120 174×174 146 2.38	人為			後期
86	SK(F)36 (報文 12)	D7 区 ZH-89	(Ⅲd層上面)	I a	140×134 178×178 176 2.49	自然	剥片 2 点 土器片 138 点 深鉢形土器 1 個体 浅鉢形土器 2 個体 磨石・石錘 各 1 点 播器・石錘・凹石各 1 点 土器片利用土製品 1 点		後期 前葉 ~ 中葉
87	SK(F)37 (報文 12)	D7 区 ZK-87・88	(Ⅳ層上面)	I b	108×108 128×128 102 1.29	人為	土器片 7 点	SK(F)37→Pit113 Pit114	後期 前葉
88	SK(F)38 (報文 12)	D7 区 ZJ-88	(Ⅳ層上面)	I a	86×80 96×96 134 0.72	人為	土器片 10 点		後期 前葉
89	SK(F)39 (報文 12)	D7 区 ZJ-88・89	(Ⅳ層上面)	Ⅲ	110×110 116×116 144 1.06	人為	土器片 30 点 播器・石皿各 1 点		後期 前葉
90	SK(F)40 (報文 12)	D7 区 ZI, ZJ-86	(Ⅲd層下面)	I a	164×148 190×190 166 2.83	人為	土器片 16 点	SK41 SK(F)63 →SK(F)40 →Pit111	後期 前葉
91	SK(F)44 (報文 12)	D7 区 ZK-87	(Ⅳ層上面)	I b	92×80 160×160 106 2.01	人為	剥片 1 点 土器片 7 点		後期 前葉
92	SK(F)48 (報文 12)	D7 区 ZK-86	(Ⅳ層上面)	I a	120×116 188×188 176 2.77	人為	土器片 27 点 深鉢形土器 1 個体	SK47→SK(F)48	
93	SK(F)52 (報文 12)	D7 区 ZK-87	(Ⅳ層上面)	I a	118	人為	土器片 22 点	SK(F)52→SK51 Pit13・14 SK(F)52→SK50 Pit13・14	後期 前葉
94	SK(F)55 (報文 12)	D7 区 ZL-86	(Ⅲd層上面)	I a	70×76 130×130 108 1.33	人為	凹石・耳飾り各 1 点 土器片 36 点、	SK(F)55→Pit115	後期 前葉
95	SK(F)56 (報文 12)	D7 区 ZL-86・87	(Ⅳ層上面)	I a	90×90 160×160 114 2.01	人為	播器 1 点 土器片 55 点		後期 前葉
96	SK(F)57 (報文 12)	D7 区 ZL-86	(Ⅲd層上面)	I a	98×98 170×170 130 2.27	人為	鐮土 1 点 土器片 36 点	SK(F)57→Pit21 Pit98	後期 前葉
97	SK(F)58 (報文 12)	D7 区 ZJ-85・86	(Ⅲd層上面)	I a	76×70 160×160 100 2.01	人為	石匙 1 点 土器片 66 点		後期 前葉
98	SK(F)59 (報文 12)	D7 区 ZK-87	(Ⅳ層上面)	I a	78×70 126×126 84 1.25	人為		SK(F)59→Pit14	後期

第 118 表 フラスコ状土坑(万座隣接地区-8)

No	遺構名 (報文No)	調査区 グリッド	確認面	形態	規模 (cm・mf) 口径・底径・深さ 底面積	埋土	出土遺物	新旧関係	構築 時期
99	SK(F)61 (報文 12)	D7区 ZK-87	(IV層上面)	I a	56×50 72×72 0.41		土器片 13 点		後期 前葉
100	SK(F)63 (報文 12)	D7区 ZJ-86・87	(IV層上面)	I a	150	人為	土器片 8 点	SK41→SK(F)63 →SK(F)40	後期 前葉
101	SK(F)66 (報文 12)	D7区 ZK, ZL-85	(IV層上面)	I a	78×76 90×90 38 0.64	人為	土器片 14 点 土器変利用土製品 15 点		後期 前葉
102	SK(F)67 (報文 12)	D7区 ZK, ZL-85	(IV層上面)	III	114×110 112×112 上段 90 下段 114 0.98	人為	搔器 1 点 土器片 10 点	SK(F)76→SK(F)67	後期 前葉
103	SK(F)71 (報文 12)	D7区 ZL, ZM-85	(III d 層上面)	I a	104×96 114×114 76 1.02	人為	剥片 1 点 土器片 12 点		後期 前葉
104	SK(F)72 (報文 12)	D7区 ZL, ZM -84・85	(III d 層上面)	I a	100×98 130×130 156 1.33	人為	剥片 1 点 土器片 38 点		後期 前葉
105	SK(F)73 (報文 12)	D7区 ZJ, ZK -86・87	(III d 層上面)	III	148×148 156×156 106 1.91	人為	凹石 1 点 深鉢形土器 1 個体	SK49 →SK(F)73 →Pit112	
106	SK(F)75 (報文 12)	D7区 ZJ-87	(IV層上面)	I a	160×160 180 2.01	人為	土器片 30 点 搔器・剥片各 1 点	SK(F)105 SK100 SK62→SK(F)75 →Pit63 SK63	後期 前葉
107	SK(F)76 (報文 12)	D7区 ZL-85	(III d 層上面)	I a	104×96 136×136 140 1.45	人為	剥片 1 点 土器片 31 点	SK(F)26→SK(F)67	後期 前葉
108	SK(F)78 (報文 12)	D7区 ZM-84	(III d 層上面)	I a	74×68 88×88 48 0.61	人為		SK79→SK(F)78	後期
109	SK(F)80 (報文 12)	D7区 ZM-83	(III d 層上面)	I a	116×112 130×130 48 1.33	人為	土器片 7 点		後期 前葉
110	SK(F)103 (報文 12)	D7区 ZI-86・87	(III d 層下面)	I a	96×90 164×164 120 2.11	人為	土器片 13 点 土器片利用土製品 1 点		後期 前葉
111	SK(F)105 (報文 12)	D7区 ZJ-87	(IV層上面)	I a	92	人為	搔器 9 点 土器片 243 点 三脚土製品 1 点 深鉢形土器 1 個体 土器片利用土製品 2 点	SK(F)105→SK(F)75 SK62 SK100	
112	SK(F)108 (報文 12)	D7区 ZF-89	(III d 層上面)	I a	140×140 184×184 168 2.66	人為	搔器 1 点 土器片 76 点 深鉢形土器 1 個体 土器片利用土製品 1 点		
113	SK(F)109 (報文 12)	D7区 ZL-85・86	(III d 層下面)	I a	80×76 136×136 140 1.45	人為		SK(F)109→Pit35	後期

第 119 表 フラスコ状土坑(万座隣接地区-9)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	形態	規模 (cm・㎡) 口径・底径・深さ 底面積	埋土	出土遺物	新旧関係	構築 時期
114	SK(F)110 (報文 12)	D7 区 ZL-86	(Ⅲd 層下面)	I a	68×64 74×74 66 0.43	人為			後期
115	SK(F)01 (報文 15)	D8 区 ZP-83	(Ⅲd 層上面)	I b	100×90 160×160 154 1.86	人為	土器片 32 点	SK(F)9915 →Pit9928 SK(F)9915 も含む	後期 前葉
116	SK(F)02 (報文 15)	D8 区 ZQ-83	(Ⅲd 層上面)	II	150×140 164×164 130 2.11	人為	土器片 8 点 土器片利用土製品 1 点	SK(F)02→Pit29 SK(F)01→Pit29	後期 前葉
117	SK(F)07 (報文 15)	D8 区 ZR, ZS-83	(Ⅲd 層上面)		160×170 80 以上	人為	土器片 24 点	SK(F)07→Pit221 土器出土は土坑上位	後期 前葉
118	SK(F)08 (報文 15)	D8 区 ZR-83	(Ⅲd 層上面)		80×70 40 以上	人為	土器片 7 点	土器出土は土坑上位	後期 前葉
119	SK(F)09 (報文 15)	D8 区 ZR-84	(Ⅲd 層上面)		100×80 50 以上	人為	土器片 11 点	土器出土は土坑上位	後期 前葉
120	SK(F)12 (報文 15)	D8 区 ZR-83	(Ⅲd 層上面)		70×66 70 以上	人為	土器片 65 点 浅鉢形土器(ミニ)1 点	SK(F)12→Pit49	後期 前葉
121	SK(F)13 (報文 15)	D8 区 ZR-83	(Ⅲd 層上面)	III	150×120 170×170 60 2.27	人為	磨石 1 点 土器片 13 点	SK67→SK(F)13 →SK51 Pit57 SK51→SK(F)13 →SK(F)67 掘り方が歪	後期 前葉
122	SK(F)17 (報文 15)	D8 区 ZS-84	(Ⅲd 層上面)		60×60				
123	SK(F)18 (報文 15)	D8 区 ZS-84	(Ⅲd 層上面)	I a	120×100 126×126 96 1.25	人為	土器片 12 点	SK(F)18 →Pit86・87・179	後期 前葉
124	SK(F)20 (報文 15)	D8 区 ZP-81	(Ⅲd 層上面)		100×96 80 以上	人為	土器片 7 点		後期 前葉
125	SK(F)21 (報文 15)	D8 区 ZT-83・84	(Ⅲd 層上面)	I a	60×60 46×46 64 0.17	人為	土器片 24 点	Pit241→SK(F)21 →SK22 SK22→SK(F)21 →Pit241	後期 前葉
126	SK(F)25 (報文 15)	D8 区 ZN-83	(Ⅲd 層上面)	I a	104×100 126×126 76 1.25	人為	土器片 26 点	SK(T)39→SK(F)25	後期 前葉
127	SK(F)26 (報文 15)	D8 区 ZQ, ZR-82	(Ⅲd 層上面)		146×140 120×120 96 1.13	人為	土器片 4 点 敲石・凹石各 1 点	SK(F)26→SK(F)27	後期 前葉
128	SK(F)27 (報文 15)	D8 区 ZR-82・83	(Ⅲd 層上面)		200×150 170×170 90 2.27	人為	凹石・搔器各 1 点 重複部分より土器片 14 点	Pit37・94→SK40 →SK(F)27 →SK(F)26 SK(F)26→SK(F)30 →SK40→Pit37・94	後期 前葉
129	SK(F)30 (報文 15)	D8 区 ZO-80・81	(Ⅲd 層上面)	I a	126×104 160×160 80 2.01	人為	土器片 95 点 復元土器 1 点		後期 前葉

第 120 表 フラスコ状土坑(万座隣接地区 10)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	形態	規模 (cm・m) 口径・底径・深さ 底面積	埋土	出土遺物	新旧関係	構築 時期
130	SK(F)31 (報文 15)	D8 区 ZO-81	(Ⅲd層上面)		126×110 80 以上	人為	土器片 11 点 土器片利用土製品 2 点		後期 前葉
131	SK(F)32 (報文 15)	D8 区 ZN, ZO-81	(Ⅲd層上面)	I a	150×150 180×180 84 2.54	人為	土器片 33 点		後期 前葉
132	SK(F)34 (報文 15)	D8 区 ZS-83	(Ⅲd層上面)	Ⅲ	80×80 90×90 80 0.64	人為	搔器 1 点 土器片 12 点	SK(F)34→SK35	後期 前葉
133	SK(F)36 (報文 15)	D8 区 ZS, ZT-83	(Ⅲd層上面)		114×88 90 以上	人為		Pit96→SK(F)36 →SK37 Pit101 SK37→SK(F)36 →Pit91・101	
134	SK(F)38 (報文 15)	D8 区 ZS-82・83	(Ⅲd層上面)		140×140 200×200 3.14		土器片 2 点	Pit95→SK63 →SK(F)668 →SK(F)38→SK69 SK69→SK(F)38 →SK(F)668→SK63 →Pit95	後期 前葉
135	SK(F)44 (報文 15)	D8 区 ZO-83	(Ⅲd層上面)		90×70 70 以上	人為	土器片 2 点		後期 前葉
136	SK(F)46 (報文 15)	D8 区 ZT-84	(Ⅲd層上面)		94×80 65 以上	人為	搔器 1 点 土器片 7 点	SK15 との新旧不明	後期 前葉
137	SK(F)48 (報文 15)	D8 区 ZU, ZV-84	(Ⅲd層上面)		90×64 106×106 90 0.88	人為	土器片 24 点 土器片利用土製品 1 点		後期 前葉
138	SK(F)49 (報文 15)	D8 区 ZT-81	(Ⅲd層上面)	Ⅲ	84×72 70×70 80 0.38	人為	土器片 26 点		後期 前葉
139	SK(F)52 (報文 15)	D8 区 ZT-81	(Ⅲd層上面)	I a	100×72 126×126 88 1.25	人為	土器片 33 点		後期 前葉
140	SK(F)61 (報文 15)	D8 区 ZT, ZU-81	(Ⅲd層上面)	Ⅲ	140×120 186×186 110 2.72	人為	石刀 1 点 搔器 2 点 凹石 2 点 土器片 180 点 石製品(軽石)1 点 土器片利用土製品 2 点		後期 前葉
141	SK(F)62 (報文 15)	D8 区 ZS-83	(Ⅲd層上面)		90×90 88×88 50 0.61			SK(F)62→Pit90・91	
142	SK(F)64 (報文 15)	D8 区 ZU-83	(Ⅲd層上面)						
143	SK(F)65 (報文 15)	D8 区 ZT-80	(Ⅲd層上面)		230×120 214×214 86 3.59	人為	土器片 471 点 復元土器 1 点 土器片利用土製品 1 点		後期 前葉
144	SK(F)67 (報文 15)	D8 区 ZR-83	(Ⅲd層上面)		96×96 70 以上	人為		Pit56・57→SK(F)67 →SK(F)13 SK(F)13→SK(F)67 →Pit56・57	

第 121 表 フラスコ状土坑(万座隣接地区-11)

No	遺構名 (報文No)	調査区 グリッド	確認面	形態	規模 (cm・m ²) 口径・底径・深さ 底面積	埋土	出土遺物	新旧関係	構築 時期
145	SK(F)68 (報文 15)	D8 区 ZS-83	(Ⅲd 層上面)	Ⅲ	70×70	人為		Pit95→SK(F)68 →SK(F)38→SK69 SK69→SK(F)38 →SK(F)68→SK63 →Pit95	
146	SK(F)9901 (報文 16)	D 区 ZO-84	(Ⅲd 上面)	I a	95×74 112×112 0.98	人為	搔器 1 点 土器片 27 点 土器片利用土製品 1 点	SK(F)9901 →Pit9912	後期 前葉
147	SK(F)9902 (報文 16)	D 区 ZN-85	(Ⅲd 上面)	I a	136×110 140×140 81 1.54	人為	土器片 21 点 土器片利用土製品 1 点		後期 前葉
148	SK(F)9903 (報文 16)	D 区 ZM-85	(Ⅲd 上面)	I a	65×65 80×80 92 0.50	人為	土器片 13 点 土器片利用土製品 1 点	SK(F)9903 →Pit9911	後期 前葉
149	SK(F)9905 (報文 16)	D 区 ZK-87・88	(Ⅲd 上面)	I b	130×84 140×140 150 1.54	人為	搔器 1 点 土器片 6 点	SK(F)9905 →Pit9979	後期 前葉
150	SK(F)9909 (報文 16)	D 区 ZK-88	(Ⅲd 上面)		95×77	人為	土器片 51 点 土器片利用土製品 1 点		後期 前葉
151	SK(F)9911 (報文 16)	D 区 ZN-84	(Ⅲd 上面)	I a	123×118 144×144 66 1.63	人為	土器片 17 点		後期 前葉

第 122 表 フラスコ状土坑 (万座北側地区-1)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	形態	規模 (cm・m) 口径・底径・高さ 底面積	埋土	出土遺物	新旧関係	構築 時期
1	SK(F)204 (報文 4)	D1 区 YF、YG-90	(Ⅲd 層上面)	I a	110×110 124×94 104 0.93	人為	土器片 53 点 石錘・石匙各 1 点 土器片利用土製品 2 点	SK(F)205 →SK(F)204 →SK203	後期 前葉
2	SK(F)205 (報文 4)	D1 区 YF、YG-90	(Ⅲd 層上面)	Ⅲ	74×74 119	人為	搔器 1 点 土器片 6 点	SK206→SK(F)205	後期 前葉
3	SK(F)226 (報文 4)	D1 区 YG、YF-92	(Ⅲd 層上面)	Ⅲ	210×188 163×156 113 2.00	人為	搔器 7 点 土器片 1/3 箱 復元土器 4 点 石錘・磨石各 1 点 円盤状石製品 1 点 きのこ形土製品 1 点 土器片利用土製品 11 点		後期 前葉
4	SK(F)419A (報文 6)	F1 区 Q、R-101	(SI404 床面)	I a	78×98 132×166 76.3 1.74	人為	搔器 7 点 装飾品 2 点 土器片 450 点 復元土器 6 点 敲石・石製品各 1 点 石錘・磨製石斧各 1 点 土器片利用土製品 2 点	SK(F)419B SK429→SK(F)419A →SI404	後期 前葉 ~ 中葉
5	SK(F)419B (報文 6)	F1 区 Q、R-101	(SI404 床面)	I a	118×144 87.3 1.35	人為	数点の土器片	SK(F)419B →SK(F)419A SI404	後期 前葉
6	SK(F)425 (報文 6)	F1 区 U-104	(IV 層上面)	I a	72×78 87×94 43.1 0.64	人為	数点の土器片		後期 前葉
7	SK(F)426 (報文 6)	F1 区 R-103	(Ⅲd 層上面)	I b	122×146 205×236 上段 176.2 下段 196.0 3.82	人為	鐔土 2 点 磨石 3 点 石匙 3 点 搔器 13 点 土器片 1500 点 復元土器 10 点 石錘・装飾品 1 点 土器片利用土製品 14 点 円盤状、球状石製品 2 点 他の石製品 5 点		後期 前葉
8	SK(F)467 (報文 7)	F2 区 YG -120・121	(Ⅲd 層上面)	I a	162×126 228×185 160 3.35	人為			後期
9	SK(F)469 (報文 7)	F2 区 YG、YH -121	(Ⅲd 層上位)	Ⅲ	231×233 200×240 上段 133 下段 202 3.80	人為	搔器 1 点	SK(T)468 →SK(F)469	後期
10	SK(F)476 (報文 7)	F2 区 YI-120	(Ⅲd 層中面)	I a	131×106 132×104 48 1.09	自然			後期
11	SK(F)480 (報文 7)	F2 区 YE、YG -115	(V 層上面)	I b	142×141 114 1.57	人為			
12	SK(F)481 (報文 7)	F2 区 YG-115	(VI 層)	I b	173×165 44 2.24	人為			
13	SK(F)482 (報文 7)	F2 区 Y-114・115	(Ⅲd 層下位)	I b	158×156 135 1.93	人為			

第 123 表 フラスコ状土坑 (万座北側地区-2)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	形態	規模 (cm・㎡) 口径・底径・深さ 底面積	埋土	出土遺物	新旧関係	構築 時期
14	SK(F)483 (報文 7)	F2 区 YG, YH -115	(V層下位)	I b	170×151 57 2.02	人為	復元土器 1 点		後期 前葉
15	SK(F)484 (報文 7)	F2 区 TH-115	(V層下位)	I a	213×210 80 3.51	人為		SK(F)484 →SK(F)485	
16	SK(F)485 (報文 7)	F2 区 YH -115・116	(V層下位)	I a	194×192 72 2.92	人為		SK(F)484 →SK(F)485	
17	SK(F)487 (報文 7)	F2 区 YH-116	(V層下位)	I a	132×125 40 1.30	人為	土器片 8 点		後期 初頭
18	SK(F)488 (報文 7)	F2 区 YG, YH -117	(V層下位)	I a	160×159 69 2.00	人為	土器片 1 点		後期
19	SK(F)490 (報文 7)	F2 区 YG, YH -116	(VI層)	I b	210×202 106 3.33	人為 自然	土器片 19 点	SK(F)489 →SK(F)490 →SK(F)517	後期 前葉
20	SK(F)491 (報文 7)	F2 区 YG-116	(VI層)	I a	200×184 69 2.89	人為			
21	SK(F)492 (報文 7)	F2 区 YF, YG -117	(V層)	I a	155×153 114 1.86	人為			
22	SK(F)493 (報文 7)	F2 区 YG -115・116	(VI層)	I b	162×159 69 2.02	人為			
23	SK(F)494 (報文 7)	F2 区 YF, YG -115	(V層)	I a	184×180 135 2.60	人為			
24	SK(F)495 (報文 7)	F2 区 YF -115・116	(V層)	I a	154×154 130 1.86	人為			
25	SK(F)496 (報文 7)	F2 区 YF-116	(VI層上面)	I a	161×161 70 2.03	人為			
26	SK(F)497 (報文 7)	F2 区 YF, YG -116	(VI層)	I a	161×161 132 2.03	人為			
27	SK(F)499 (報文 7)	F2 区 YF -116・117	(III d 層下面)	I a	170×170 95 2.27	人為			
28	SK(F)500 (報文 7)	F2 区 YG-116	(VI層)	I a	165×152 51 1.97	人為		SK(F)501 →SK(F)500	
29	SK(F)501 (報文 7)	F2 区 YG-116	(VI層)	I b	115×108 68 0.98	人為		SK(F)501 →SK(F)500	

第 124 表 フラスコ状土坑 (万座北側地区-3)

No	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	形態	規模 (cm・m) 口径・底径・深さ 底面積	埋土	出土遺物	新旧関係	構築 時期
30	SK(F)504 (報文 7)	F2 区 YG-118	(Ⅲd 層下位)	I b	174×174 198×121 上段 189 下段 201 2.00	人為		SK(F)504→SK503	後期 前葉
31	SK(F)517 (報文 7)	F2 区 YG, YH-116	(Ⅵ層)	I b	196×115 38-39 1.90	人為		SK(F)490 →SK(F)517	
32	SK(F)389 (報文 10)	D3 区 YI-90-91	(Ⅲd 層上位)	I a	113×104 132×113 74 1.38	人為	敲石 1 点 土器片 16 点 土器片利用土製品 1 点		
33	SK(F)395 (報文 10)	D3 区 YG-91	(Ⅲd 層上位)		97×96			プラン確認のみ	
34	SK(F)432 (報文 10)	D4 区 ZZ-96-97	(Ⅲd 層中位)		83×83 10 以上		土器片 8 点	途中までの調査	
35	SK(F)1 (報文 13)	F4 区 YN-108 YN-107	(SI1 床面)	I b	90×90 0.64	人為		SK(F)1→SI1	
36	SK(F)6 (報文 13)	F4 区 YO, YP -102	(SI4 床面)	I a	126×126 1.25	人為		SK7→SK(F)6→SI4	
37	SK(F)9 (報文 13)	F4 区 YP-102	(SI4 床面)	I a	127×127 1.27	人為	土器片	SK(T)19→SK(F)9 →SI4	後期 前葉
38	SK(F)11 (報文 13)	F4 区 YO-99	(Ⅲc 層上面)	I a	103×118 170×170 220 2.27	人為	石器 2 点 土器片 159 点 復元土器 2 点 石製品(軽石製)1 点 F1 区 SK(F)419A 出土土器と接合	SK(F)11→SX(S)1 SX(S)01→SK(F)11	後期 中葉
39	SK(F)13 (報文 13)	F4 区 YJ-102	(Ⅲc 層上面)		146×197 180×180 204 2.54	人為	石器 3 点 土器片 209 点 ミニチュア土器 1 点 石製品 5 点(円形、軽石)	SK(F)13→SB5 SB04	後期 中葉
40	SK(F)22 (報文 13)	F4 区 YJ-102 YI, YJ-102	(Ⅲc 層上面)	I a	130×133 140×140 88 1.54	人為	土器片 50 数点	SK(F)22→SX(F)7 SK(F)22→SX(O)7	後期 中葉
41	SK(F)27 (報文 13)	F4 区 YI-101	(Ⅲc 層上面)	I a	103×130 126×126 156 1.25	人為	石器 8 点 石製品 1 点 土器片 50 点 復元土器 2 点	SK(F)27→SB2	後期 中葉
42	SK(F)28 (報文 13)	F4 区 YH-102	(Ⅲc 層上面)	I a	152×158 110	人為	石器 4 点 石製品 1 点 土器片 156 点		後期 中葉
43	SK(F)34 (報文 13)	F4 区 YK, YL -103	(Ⅲd 層上面)	I a	124×131 142×142 178 1.58	人為	石器 1 点 土器片 263 点 復元土器 2 点 上位から扁平な石 2 個		後期 前葉
44	SK(F)35 (報文 13)	F4 区 YM-99	(Ⅲd 層上面)	I a	108×111 162×162 125 2.06	人為	石器 2 点 土器片 190 点 土器片利用石製品 1 点		後期 前葉

第 125 表 フラスコ状土坑 (万座北側地区-4)

No.	遺構名 (報文No)	調査区 グリッド	確認面	形態	規模 (cm・㎡) 口径・底径・深さ 底面積	埋土	出土遺物	新旧関係	構築 時期
45	SK(F)38 (報文 13)	F4 区 YI-99	(Ⅲd層上面)	Ⅲ	98×105 118×118 97 1.09	人為	土器片 10 点	SK37→SK(F)38 掘り方が歪	後期 前葉
46	SK(F)48 (報文 13)	F4 区 YJ-95・96	(Ⅲd層上面)	I a	112×123 136×136 91 1.45	人為	石器 1 点 土器片 102 点 復元土器 1 点 土器片利用土製品 1 点		後期 前葉
47	SK(F)49 (報文 13)	F4 区 YI, YJ -95・96	(Ⅲd層上面)	I a	95×84 105×105 132 0.87	人為	土器片 20 点		後期 前葉
48	SK(F)50 (報文 13)	F4 区 YH, YI-96	(Ⅲd層上面)	Ⅲ	100×103 107×107 122 0.90	人為	土器片 76 点 土器片利用土製品 1 点		後期 前葉
49	SK(F)52 (報文 13)	F4 区 YG, YH -100	(Ⅲd層上面)	I a	117×123 175×175 132 2.40	人為	土器片 96 点 中位から 20~40cm 大の礫 9 個	SK(F)52→SX(S)3 SX(S)03→SK(F)52	後期 前葉
50	SK(F)53 (報文 13)	F4 区 YD-100	(Ⅲd層上面)	I a	107×115 170×170 137 2.27	人為	石皿 1 点 中位から 20~40cm 大の礫 6 個 後期前葉~中葉土器片 75 点		後期 中葉
51	SK(F)54 (報文 13)	F4 区 YI-96	(Ⅲd層上面)	I a	104×108 104×104 81 0.85	人為	土器片 31 点		後期 前葉
52	SK(F)55 (報文 13)	F4 区 YI-96 YH-100	(Ⅲd層上面)	I a	128×130 203×203 182 3.23	人為	耳栓 1 点 石器 5 点 土器片 149 点 土器片利用土製品 1 点		後期 前葉
53	SK(F)56 (報文 13)	F4 区 YE-99	(Ⅲd層上面)		134×135 118×118 127 1.09	人為	土器片 231 点		後期 前葉
54	SK(F)70 (報文 13)	F4 区 YE-99 YK-102	(Ⅲd層上面)	Ⅲ	80×82 100×100 133 0.79	人為	土器片 19 点	掘り方が歪	後期 前葉
55	SK(F)02 (報文 14)	F5 区 YW, YX -119	(Ⅳ層上面)	I a	119×112 140×140 114 1.54	人為	土器片数点		後期
56	SK(F)08 (報文 14)	F5 区 YB-117	(Ⅴ層) 1号墳確認時 Ⅳ層		85×85 74 0.57	人為	西側底面より 深鉢形土器 1 個体		後期 初頭 ~ 前葉

第 126 表 フラスコ状土坑(万座西側地区)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	形態	規模 (cm・㎡) 口径・底径・深さ 底面積	埋土	出土遺物	新旧関係	構築 時期
1	SK(F)01 (報文 19)	D9 区 YM・86~87 YH・86~87	(Ⅲd 層上面)		365×320 135	人為	凹石 6 点 剥片 61 点 播器 68 点 土器片 940 点 石鏃・石錐各 1 点 磨石・敲石各 1 点 杵形切断土器 1 点 復元可能土器 6 点 軽石製石製品 2 点 土器片利用土製品 4 点		前葉 ~ 中葉
2	SK(F)02 (報文 19)	D9 区 YM~YN ・86	(Ⅲc 層上面)		545×450 144	人為	播器 3 点 敲石 6 点 石鏃 7 点 剥片 24 点 凹石 28 点 土器片 976 点 磨製石斧 3 点 板状石製品 1 点 石錐・石匙各 1 点 石皿・磨石各 1 点 復元可能土器 9 点 軽石製石製品 7 点 土偶・鐔形土製品各 1 点 土器片利用土製品 14 点	SK(F)01、SK(F)04、 SK(F)05、SK03 →SK(F)02	前葉 ~ 中葉
3	SK(F)04 (報文 19)	D9 区 YM~YN ・86	(Ⅲd 層上面)	Ⅲ	118×118 95	人為	敲石 10 点 凹石 31 点 土器片 484 点 鐔形土製品 1 点 軽石製石製品 1 点 石皿・磨石・石匙各 1 点 土器片利用土製品 3 点 SK(F)02 と合わせ、 復元可能土器 2 点		後期
4	SK(F)05 (報文 19)	D9 区 YN・86	(Ⅳ層上面)		80	人為			後期
5	SK(F)06 (報文 19)	D9 区 YI・84	(Ⅲd 層上面)	Ⅲ	181×181 200×200 144 3.14	人為	敲石 2 点 土製品 1 点 土器片 18 点		前期 ~ 中葉
6	SK(F)07 (報文 19)	D9 区 YI・80	(Ⅲd 層上面)	I a	169×169 173×173 180 2.35	人為	土器片 8 点		後期
7	SK(F)06 (報文 19)	G3 区 YD・67~68	(Ⅲd 層上面)	Ⅲ	101×101 168×168 157 2.22	人為			後期
8	SK(F)07 (報文 19)	G3 区 YC-YD ・65	(Ⅴ層中面 ~下面)	I a	103×81 108×108 102 0.92	人為			後期
9	SK(F)09 (報文 20)	G4 区 YM・71	(Ⅲc 層上面)	I a	40× 54× 65	人為			後期 中葉

第 127 表 フラスコ状土坑(万座南側地区)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	形態	規模 (cm・㎡) 口径・底径・深さ 底面積	埋土	出土遺物	新旧関係	構築 時期
1	SK(F)701 (報文 8)	G1 区 ZA-59	(Ⅲd1 層下面)	I b	84×90 142×140 120 1.56	人為			
2	SK(F)702 (報文 8)	G1 区 ZA-57	(V層)		112×102 100 以上 0.90	人為			
3	SK(F)703 (報文 8)	G1 区 ZB-56	(V層)	I b	200×192 160 3.02	人為			
4	SK(F)704 (報文 8)	G1 区 ZA-57	(Ⅲd2 層上面)	I b	172×160 140 2.16	人為			
5	SK(F)706 (報文 8)	G1 区 ZA-A-58	(Ⅲd1 層)	I a	144×144 128 1.63	人為		SK(F)706→SK705	
6	SK(F)708 (報文 8)	G1 区 ZA-59	(Ⅲd1 層)	I a	80×78 160×160 122 2.01	人為			
7	SK(F)711 (報文 8)	G1 区 ZC-58-59	(Ⅲd1 層)		134×130 134 1.37	人為	土偶片 1 点		後期
8	SK(F)716 (報文 8)	G1 区 ZA-A-58	(Ⅲd1 層上面)	I b	70×70 128×126 162 1.27	人為			
9	SK(F)717 (報文 8)	G1 区 ZC-59	(Ⅲd2 層上面)	I b	152×144 114 1.72	人為			
10	SK(F)58 (報文 15)	D8 区 ZJ-72-73	(Ⅲd 層上面)		80×80 80 以上	人為			
11	SK(F)59 (報文 15)	D8 区 ZJ-73	(Ⅲd 層上面)	I a	116×108 114×114 176 1.02	人為			

第 128 表 フラスコ状土坑 (野中堂隣接地区-1)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	形態	規模 (cm・㎡) 口径・底径・深さ 底面積	埋土	出土遺物	新旧関係	構築 時期
1	SK(F)101 (報文 2)	B1 区 K-103	(IIIe 層 上面)	I b	178×164 188×178 193 2.63	人為 自然	石鏃 2 点 搔器 3 点 土製品 2 点 復元土器 10 点 鐔形土製品 1 点 円盤状石製品 1 点 土器片利用土製品 11 点		後期 前葉
2	SK(F)102 (報文 2)	B1 区 K-101	(IIIe 層 下面)	I b	96×82 164×159 176 2.05	人為	土偶 1 点 耳栓 2 点 復元土器片 4 点 土器片利用土製品 7 点 多量の土器片		後期 前葉
3	SK(F)103 (報文 2)	B1 区 K,L-101	(IIIe 層 下面)	I a	148×112 190×106 117 1.72	人為	円盤状石製品 1 点 石鏃・復元土器各 1 点 土器片利用土製品 1 点 土偶・球状石製品各 1 点	SK(F)103 →SK(F)104	後期 初頭 ～ 前葉
4	SK(F)104 (報文 2)	B1 区 K-101	(IIIe 層 下面)	I a	81×80 222×176 122~153 3.11	人為	搔器 4 点 復元土器 6 点 石鏃・石鏃各 1 点、 土器片利用土製品 3 点 底面直上、底直より	SK(T)101 SK(F)103 →SK(F)104	後期 前葉 ～ 中葉
5	SK(F)105 (報文 2)	B1 区 J-101	(IIIe 層 下面)	I a	89×80 150×144 136 1.70	人為	土器片 石鏃 1 点 搔器 2 点 土器片利用土製品 6 点	SK(F)105 →SK(F)106・107	後期 前葉
6	SK(F)106 (報文 2)	B1 区 J-101	(IIIe 層 下面)	I b	148×79 245×210 135~146 4.06	人為	岩板 1 点 搔器 3 点 土器片多量 復元土器 5 点 鐔形土製品 1 点 環状土製品 1 点 土器片利用土製品 26 点	SK(F)105 →SK(F)106・107 SK(F)106 に SK(F)107 も含む	後期 前葉
7	SK(F)108 (報文 2)	B1 区 L,M -101・102	(IIIe 層 下面)	I a	79×79 110×110 139 0.95	自然	土器片少量		後期 前葉
8	SK(F)01 (報文 16)	B 区 O・105	(III d 下層)	I b	144×167 107 2.25	人為	土器片 16 点		後期 前葉
9	SK(F)02 (報文 16)	B 区 P・109	(IV 層)	I a	106×125 64 1.66	人為	土器片 7 点		後期 前葉
10	SK(F)03 (報文 16)	B 区 J-89	(III d 下層)		67 64	人為	土器片 24 点		後期 前葉
11	SK(F)05 (報文 16)	B 区 M-89	(III d 下層)	III	98 80 75	人為	土器片 18 点		後期 前葉
12	SK(F)06 (報文 16)	B 区 F・G-93	(III d 下層)		64				
13	SK(F)07 (報文 16)	B 区 F-93	(III d 下層)	I a	77 160 70	人為			
14	SK(F)09 (報文 16)	B 区 E-97	(III d 下層)	I a	142 104 120	人為	復元土器 1 石皿 1 土器片利用土製品 1		後期 前葉
15	SK(F)11 (報文 16)	B 区 G-93	(III d 上層)		72	人為			
16	SK(F)15 (報文 16)	B 区 R・S-93	(III d 上層)	III	105×125 124	人為	土器片 66 石皿 1、凹石 3 土器片利用土製品 1		後期 前葉

第 129 表 フラスコ状土坑 (野中堂隣接地区-2)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	形態	規模 (cm・m) 口径・底径・深さ 底面積	埋土	出土遺物	新旧関係	構築 時期
17	SK(F)17 (報文 16)	B 区 R-93	(Ⅲd 上層)		77×	人為			
18	SK(F)19 (報文 16)	B 区 P-93	(Ⅳ 層)	I a	55 37	人為			
19	SK(F)20 (報文 16)	B 区 X-79	(Ⅲd 上層)		135 155 110	人為			
20	SK(F)22 (報文 16)	B 区 F-89	(Ⅲd 上層)		72		復元土器 1 土器片 46 赤色塊		後期 前葉
21	SK(F)32 (報文 17)	B2 区 R-92	第02号竪穴 住居床面	Ⅱ	68×68 88 0.36	人為	土器片 4 点 凹石・裝飾品 各 1 点	SI02→SK31	後期 前葉
22	SK(F)101 (報文 17)	B2 区 H,I-88	(Ⅳ層上面)		83×71 87	人為			
23	SK(F)102 (報文 17)	B2 区 I-88	(Ⅳ層上面)		78×76 92	人為	土器片 4 点		後期 前葉
24	SK(F)106 (報文 17)	B2 区 L-88	(Ⅳ層上面)		59×53 90	人為	土器片 14 点		後期 前葉
25	SK(F)107 (報文 17)	B2 区 H-87	(Ⅳ層上面)		81×81 113	人為	土器片 14 点 凹石・蔽石・石皿各 1 点		後期 前葉
26	SK(F)112 (報文 17)	B2 区 G-88・89	(Ⅲd層上面)		118×101 170	人為	土器片 106 点 石匙・搔器・磨石各 1 点 土器片利用土製品 1 点		後期 前葉
27	SK(F)114 (報文 17)	B2 区 H-91	(Ⅲd層上面)		112×92 128	人為	土器片 4 点		後期 前葉
28	SK(F)116 (報文 17)	B2 区 K-87・88 L-87・88	(Ⅲd層上面)		122×120 120	人為	土器片 34 点		後期 前葉
29	SK(F)119 (報文 17)	B2 区 K-87・88	(Ⅲd層上面)		140×115 61	人為	土器片 5 点		後期 前葉
30	SK(F)121 (報文 17)	B2 区 K-87	(Ⅲd層上面)		82×75 85	人為	土器片 8 点		後期 前葉
31	SK(F)124 (報文 17)	B2 区 M-88	(Ⅲd層上面)		153×148 111	人為	土器片 75 点 搔器・磨石各 1 点	PM-88→Pit176 →SK125	後期 前葉
32	SK(F)127 (報文 17)	B2 区 P-91	(Ⅲd層上面)		90×82 99	人為	土器片 4 点		後期 前葉
33	SK(F)128 (報文 17)	B2 区 Q-91	(Ⅳ層上面)	I a	106×64 30	人為			
34	SK(F)131 (報文 17)	B2 区 S-91	(Ⅲd層上面)		192×174 191	人為	蔽石 1 点 土器片 222 点 土器片利用土製品 1 点		後期 前葉 ~ 中葉
35	SK(F)133 (報文 17)	B2 区 H-90	(Ⅲd層上面)		153×121 115	人為	土器片 32 点 土器片利用土製品 1 点	H-90→Pit179 →SK132	後期 前葉

第130表 フラスコ状土坑 (野中堂隣接地区-3)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	形態	規模 (cm・m ²) 口径・底径・深さ 底面積	埋土	出土遺物	新旧関係	構築 時期
36	SK(F)134 (報文17)	B2区 P-89	(Ⅲd層上面)		117×114 165	人為	搔石1点 搔器2点 土器片174点 土器片利用土製品8点 復元可能蓋形土器1点		後期 前葉
37	SK(F)141 (報文17)	B2区 R-92							
38	SK(F)146 (報文17)	B2区 O-88	(Ⅲd層上面)		131×120 102	自然	土器片利用土製品1点		後期 前葉
39	SK(F)149 (報文17)	B2区 J-89	(Ⅳ層上面)		82×64 103	人為	土器片6点		
40	SK(F)150 (報文17)	B2区 E-90・91	(Ⅲd層上面)		120×109 122	人為	凹石1点 土器片30点		後期 前葉
41	SK(F)153 (報文17)	B2区 E-91、F-91	(Ⅲd層上面)		120×105 127	人為	搔器1点 土器片25点	E-91、F-91→Pit424 →SK132	後期 前葉
42	SK(F)154 (報文17)	B2区 E-91	(Ⅲd層上面)		86×68 101	人為	土器片16点 土器片利用土製品2点		後期 前葉
43	SK(F)155 (報文17)	B2区 F-91	(Ⅲd層上面)		95×86 155	人為	凹石1点 搔器2点 土器片41点 土器片利用土製品2点		後期 前葉
44	SK(F)163 (報文17)	B2区 F、G-93	(Ⅲd層上面)		93×67 156	人為			
45	SK(F)166 (報文17)	B2区 E-93	(Ⅲd層上面)		81×69 131	人為	土器片20点		後期 前葉
46	SK(F)167 (報文17)	B2区 F-93	(Ⅲd層上面)	I a	78×63 164	人為	土器片12点 板状石製品1点		後期 前葉
47	SK(F)168 (報文17)	B2区 D-94	(Ⅲd層上面)		84×74 130	人為	土器片69点 軽石製品5点		後期 前葉
48	SK(F)170 (報文17)	B2区 E、F-94	(Ⅲd層上面)		272×205 107	人為	土器片85点 土偶・軽石製品各1点		後期 前葉 ~ 中葉
49	SK(F)180 (報文17)	B2区 F-92	(Ⅲd層上面)		54×53 40	人為	搔器2点 土器片5点		後期 前葉
50	SK(F)182 (報文17)	B2区 L-88	(Ⅳ層上面)		 125	人為	敲石2点 凹石7点 土器片301点 葺形土製品1点 石皿(破損品)1点 搔器・磨石・土偶各1点 土器片利用土製品3点	SK(F)182 →SK123・192	後期 前葉

第 131 表 フラスコ状土坑 (野中堂隣接地区-4)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	形態	規模 (cm・㎡) 口径・底径・深さ 底面積	埋土	出土遺物	新旧関係	構築 時期
51	SK(F)186 (報文 17)	B2 区 F、G-92	第01号竪穴 住居跡床面		87×74 82	人為	敲石 1 点 土器片 6 点	SK(F)182→Pit277	後期 前葉
52	SK(F)188 (報文 17)	B2 区 R-92	第02号竪穴 住居跡床面		103×88 47 以上	人為	土器片		後期 前葉
53	SK(F)190 (報文 17)	B2 区 F-93	(Ⅲd層下面)		77×62 150	人為	土器片 10 点 土器片利用土製品 1 点		後期 前葉
54	SK(F)191 (報文 17)	B2 区 L-88	(Ⅳ層上面)	Ⅲ	62×59 61	人為			後期
55	SK(F)202 (報文 18)	B4 区 P-92	(Ⅲd層上面)		119×112 145	人為	搔器 2 点 剥片 4 点 土器片 75 点 敲石・石鏃各 1 点 復元土器 1 点		後期 前葉
56	SK(F)203 (報文 18)	B4 区 O-91	(Ⅳ層下面)		90×89 120	人為	剥片 6 点 土器片 41 点		後期 前葉
57	SK(F)214 (報文 18)	B4 区 M-89	(Ⅴ層上面)		82×69 141	人為	剥片 2 点 土器片 35 点 鏢形土製品 1 点 土器片利用土製品 1 点		後期 前葉
58	SK(F)221 (報文 18)	B4 区 L-90	(Ⅴ層上面)		57×50 109	人為	凹石 1 点 土器片 16 点		後期 前葉
59	SK(F)223 (報文 18)	B4 区 K-90	(Ⅴ層上面)		109×109 120	人為	剥片 1 点 土器片 27 点		後期
60	SK(F)224 (報文 18)	B4 区 K-89~90	(Ⅴ層上面)		108×89 101	人為			後期
61	SK(F)225 (報文 18)	B4 区 L-89	(Ⅴ層上面)		118×106 187	人為	凹石 1 点 剥片 6 点 土器片 72 点 土器片利用土製品 1 点		後期
62	SK(F)227 (報文 18)	B4 区 J-89-90 ~K-89-90	(Ⅴ層上面)		82×80 116	人為			後期
62	SK(F)228 (報文 18)	B4 区 J-90	(Ⅴ層上面)		84×80 144	人為	磨石 1 点 剥片 4 点 土器片 53 点		後期
64	SK(F)236 (報文 18)	B4 区 G-92	(Ⅴ層上面)		113×89 108	人為	剥片 2 点 土器片 54 点		後期
65	SK(F)237 (報文 18)	B4 区 G-93	(Ⅴ層上面)			人為	剥片 1 点 搔器 5 点 土器片 5 点		後期
66	SK(F)241 (報文 18)	B4 区 N-92	(Ⅳ層上面)		53×50 160	人為	剥片 7 点 土器片 49 点		後期

第 132 表 フラスコ状土坑 (野中堂隣接地区-5)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	形態	規模 (cm・㎡) 口径・底径・深さ 底面積	埋土	出土遺物	新旧関係	構築 時期
67	SK(F)243 (報文 18)	B4 区 G-93	(V層上面)		53×40 91	人為	剥片 1 点 土器片 3 点		後期
68	SK(F)257 (報文 18)	B4 区 M-89・90	(Ⅲd層上面)		79×63 137	人為	剥片 1 点 土器片 17 点 土器片利用土製品 1 点		後期
69	SK(F)261 (報文 18)	B4 区 K-99~100	(V層上面)		70×40	人為	土器片 2 点		後期
70	SK(F)264 (報文 18)	B4 区 E~F-95	(Ⅲd層上面)		60×60	人為			後期
71	SK(F)230 (報文 18)	B2 区 F~G-90	(IV層上面)		149×140 126	人為	搔器 1 点 剥片 5 点 土器片 61 点		後期

9. 埋設土器遺構（第171～174図、第133～134表）

これまでの調査によって8基の土器埋設遺構が検出されている。再検討したところ土器の埋設する施設（小土坑）を有しないものについては除外した。

【ア 形態】

施設内に埋設された土器の状況から分類した。

I類：小土坑に1個の土器を埋設するもの。土器の埋設状況で細分することができる。

- | | |
|------------------|---------------------|
| a 正立した状況で埋設されるもの | SX(U)301 302 601 01 |
| b 倒立した状況で埋設されるもの | SX(U)205 206 201 |

II類：施設内に2個以上の土器が埋設されるもの SX(U)202

万座隣接地

I a類3基、I b類2基の計5基。

万座北側地区

I a類1基、I b類1基、II類1基の計3基。

【イ. 規模（埋設施設）】

小土坑の規模は、埋設される土器の大きさに即したもので、直径29cm～63cm、深さ5cm～42cmを測る。

万座隣接地

最大は第601号埋設土器遺構の長軸48cm×深さ42cm、最小は第302号埋設土器遺構の長軸29cm×深さ15cmである。埋設される土器の規模に即した小土坑である。

万座北側地区

ほぼ同一の規模を持つ。最大は第202号埋設土器遺構の長軸40cm、最小は第201号埋設土器遺構の長軸34cm×深さ31cmである。埋設される土器の規模に即した小土坑である。

【ウ. 堆積状況】

万座隣接地

埋設施設と土器の隙間には黒色土が充填される。土器内部には黄褐色土粒が僅かに混入した黒色土や黒褐色土が入り込んでいる。

万座北側地区

埋設施設と土器の隙間には黒色土や黒褐色土が充填される。土器内部には黄褐色土粒が僅かに混入した黒色土が入り込んでいる。

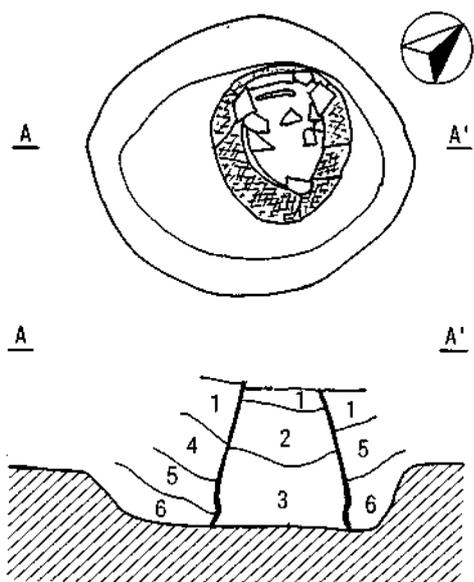
【エ. 出土遺物】

本遺構から出土した遺物は土器そのものである。深鉢形土器や壺形土器が埋設される。

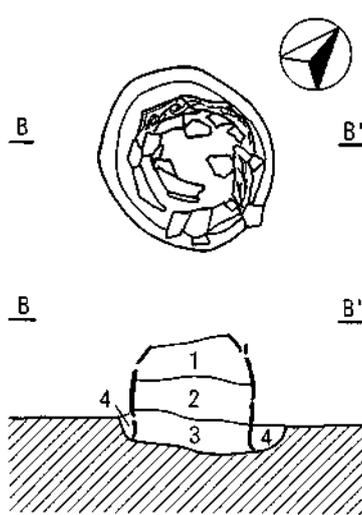
万座隣接地

SX(U)205 頸部に沈線を巡らす。口縁部は無文化され、胴部にはL縄文の網目状撚糸文が施文される。

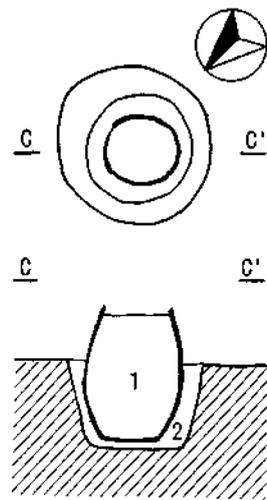
SX(U)206 文様帯は胴部上半に区画される。沈線により入組曲線文が施文され、弧線文が付加



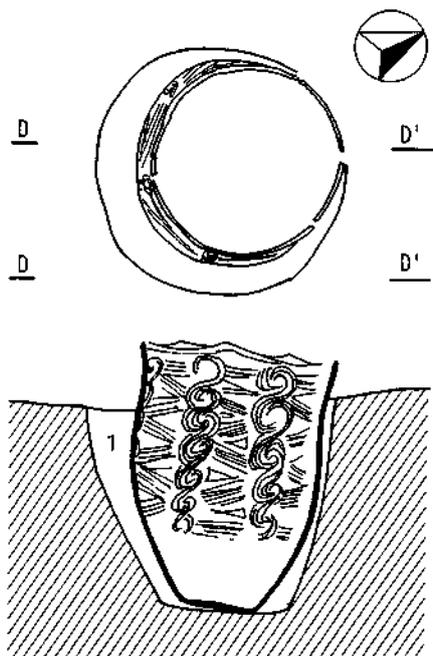
SX(U) 205 (万座隣接地)



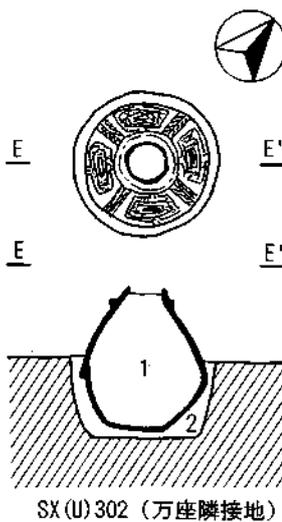
SX(U) 206 (万座隣接地)



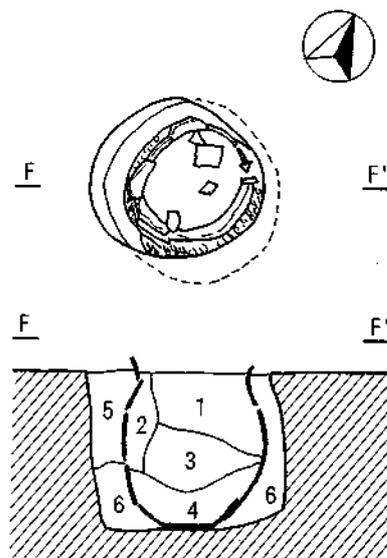
SX(U) 301 (万座隣接地)



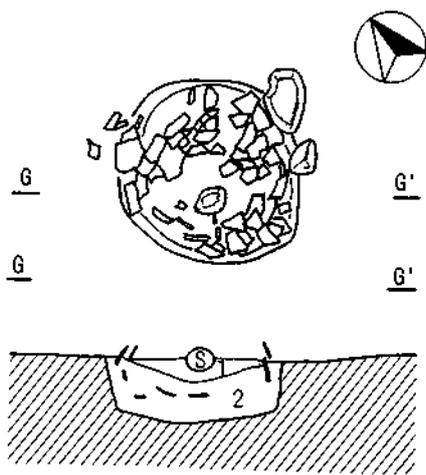
SX(U) 601 (万座隣接地)



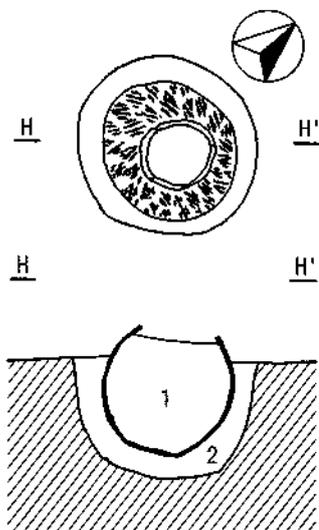
SX(U) 302 (万座隣接地)



SX(U) 201 (万座北側)



SX(U) 202 (万座北側)



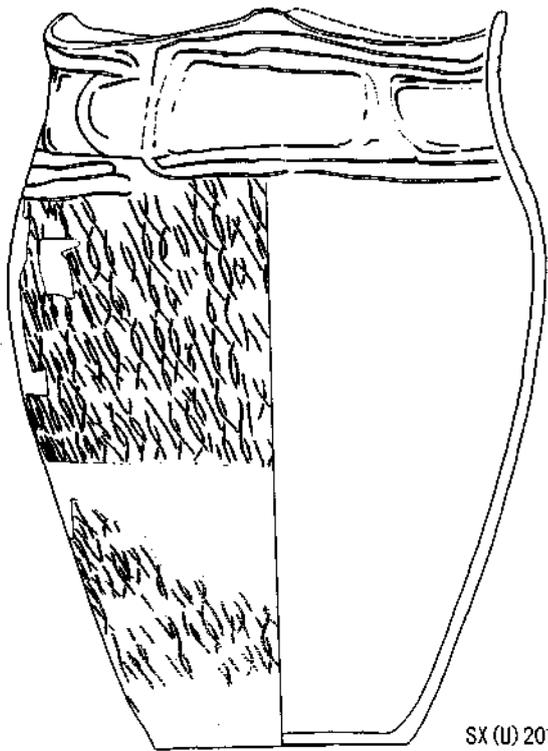
SX(U) 01 (万座北側)

- | | |
|--------------------|---------------------|
| SX(U) 205 | SX(U) 491 |
| 1. 褐色土 (10YR2/1) | 1. 黄褐色土 (10YR2/2) |
| 2. 黄褐色土 (10YR2/2) | |
| 3. 褐色土 (10YR2/3) | SX(U) 201 |
| 4. 黄褐色土 (10YR2/2) | 1. 褐色土 (10YR2/1) |
| 5. 褐色土 (10YR2/1) | 2. 褐色土 (10YR2/1) |
| 6. 褐色土 (10YR1 2/1) | 3. 黄褐色土 (10YR2/2) |
| | 4. 褐色土 (7.5YR2/1) |
| SX(U) 206 | 5. 褐色土 (7.5YR1 2/1) |
| 1. 褐色土 (10YR1 2/1) | 6. 褐色土 (7.5YR2/1) |
| 2. 黄褐色土 (10YR2/2) | |
| 3. 褐色土 (10YR1 2/1) | SX(U) 202 |
| 4. 褐色土 (10YR1 2/1) | 1. 褐色土 (10YR2/1) |
| | 2. 褐色土 (10YR2/1) |
| SX(U) 201 | SX(U) 01 |
| 1. 褐色土 (10YR2/1) | 1. 褐色土 (10YR2/1) |
| 2. 褐色土 (10YR2/1) | 2. 褐色土 (10YR2/1) |
| | |
| SX(U) 202 | |
| 1. 褐色土 (10YR2/1) | |
| 2. 褐色土 (10YR2/1) | |

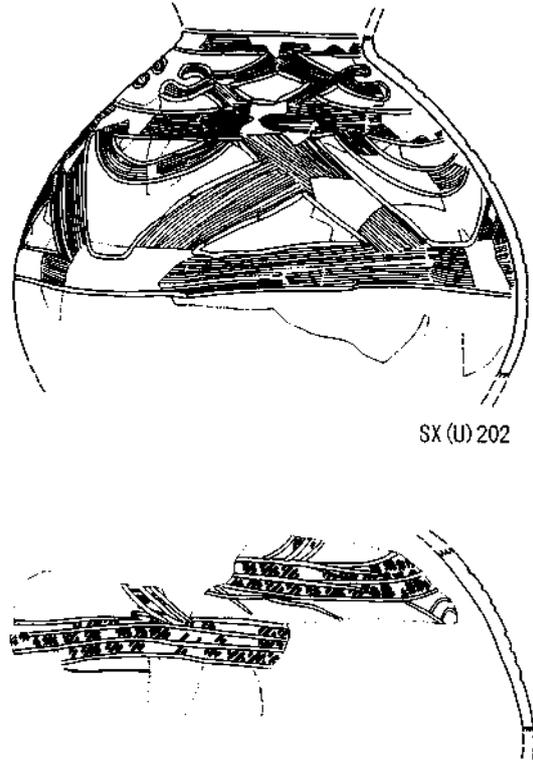


される。

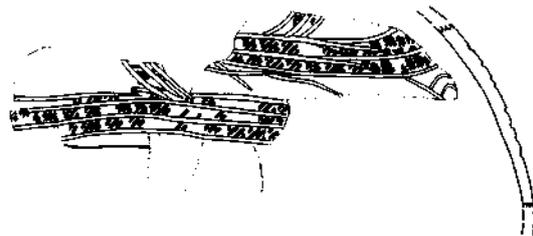
- SX(U)301 口縁部を欠く胴長の壺形土器で、無文である。
- SX(U)302 口縁部・底部を欠く壺形土器で、文様帯は胴部上半に区画される。文様帯は縦位の沈線により4分割され、区画された内部には方形文が施文される。
- SX(U)601 埋設された土器としては最も大きい。文様帯は胴部2/3にまで及び、山形頂部から垂下した連続S字文を主文様に弧線文を付加し、三角形文を作り出している。



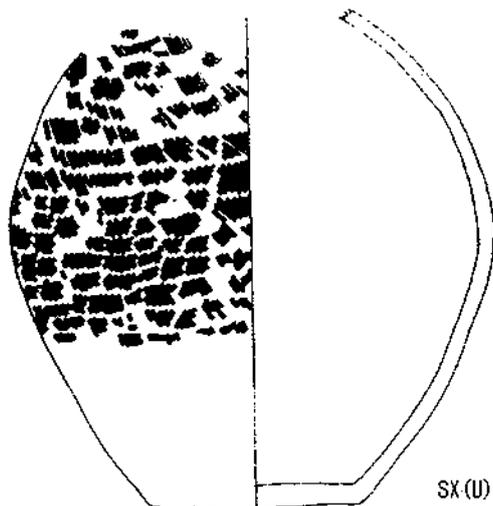
SX(U)201



SX(U)202



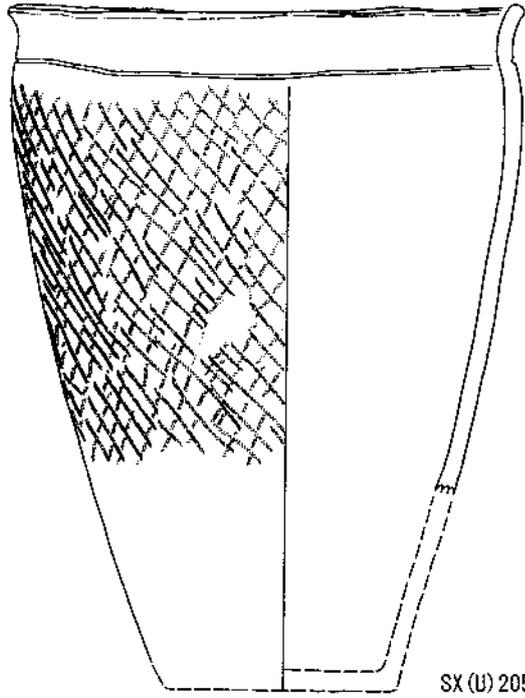
SX(U)202



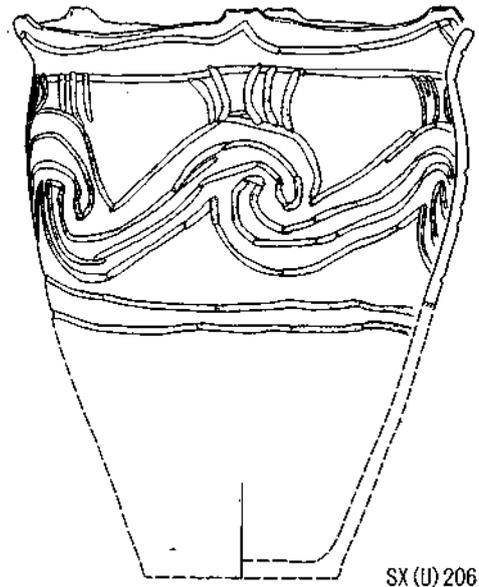
SX(U)01

SX(U)202. 202. 01……万座隣接地

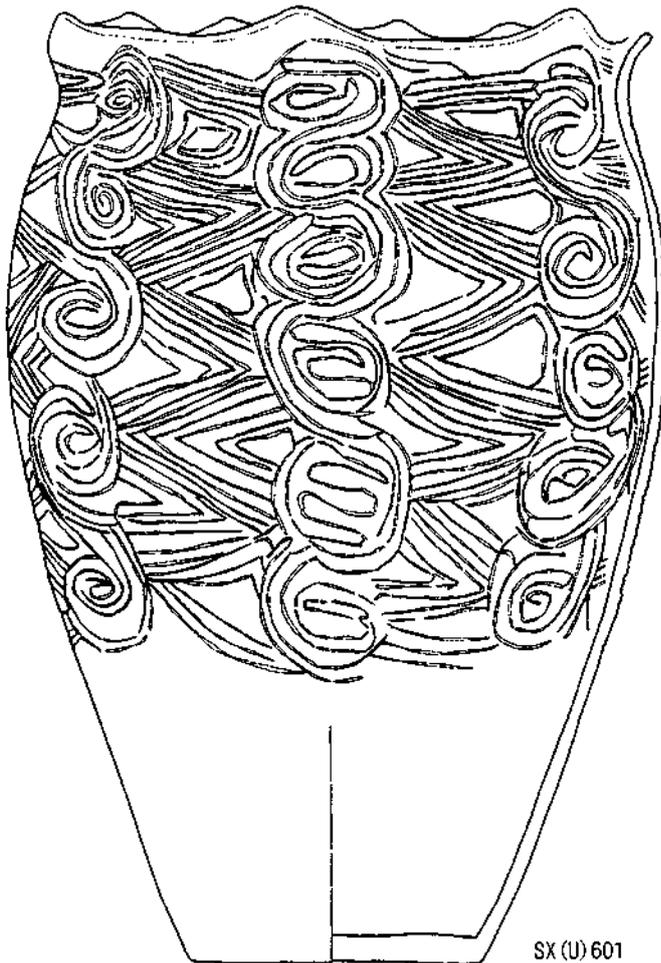




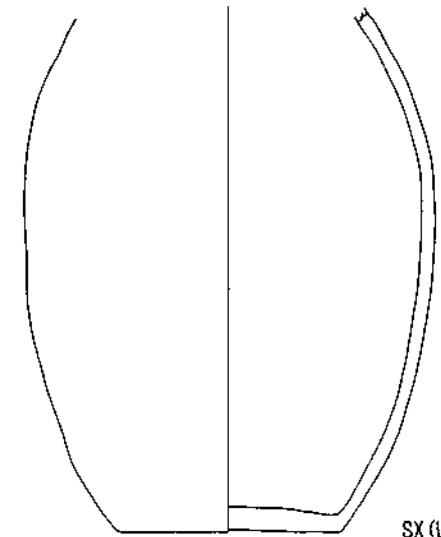
SX(U) 205



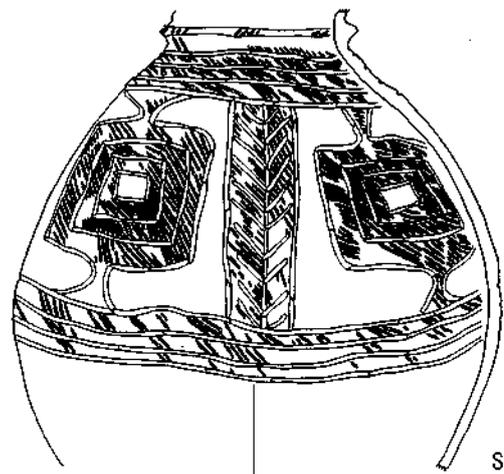
SX(U) 206



SX(U) 601



SX(U) 301



SX(U) 302

SX(U) 205. 206. 601. 301. 302

以上、万座北側



万座北側地区

SX(U)201 山形口縁を呈する深鉢形土器で、頸部に文様帯を持ち、擦り消し沈線により楕円形文が施文されている。

SX(U)202 壺形土器2個を使用する。最も残りの良い壺は胴部上半に文様帯を持つ。文様帯は上下にわかれ、上部文様帯には花卉状文、下部文様帯には直線文を交互に施文し三角形文を描き、その内部には弧線文を付加している。沈線間には条痕文が十分される。もう一つは壺形土器の胴部破片で、文様帯を胴部上半に持ち、曲線文が帯縄文で施文されている。

SX(U)01 口縁部を欠く壺形土器で、胴部2/3までRL縄文が回転施文されている。
胴部最張部には打ち欠きにより径5cmほどの穴が空けられている。

【重複関係】

埋設土器遺構の周辺に土坑などが分布しているが、すべて単独である。

【時期】

万座隣接地

文様を有するものは後期前葉・十腰内I式土器の特徴をもっている。またこれ以外の土器も同時期の形態的な特徴をもっている。



第174図 埋設土器遺構分布図

万座北側地区

文様を有するものは後期前葉・十腰内Ⅰ式土器の特徴をもっている。またこれ以外の土器も同時期の形態的な特徴をもっている。

【分 布】

第601号埋設土器遺構を除き、7基が万座環状列石の北西に分布する。

万座隣接地

環状列石の北西25m、列石を規則的に囲む建物跡の外周部に4基が分布する。

万座北側地区

万座環状列石の北西台地に入り込んだ沢を囲むように分布する。

【性 格】

検出状況は埋設土器炉に類似している。しかし土器自体が二次的な加熱を受けていないこと、遺構周辺に焼土や炭化物が分布していないこと、土器は大型のものが多く、さらには倒立した状況のものもあり、かなりの相違点を持っている。

埋設土器に使用された壺形土器は口縁部を打ち欠いているものが多く、第01号埋設土器はさらに胴部を打ち欠き穿孔されている。これは二次使用への転用を意味しているものと考えられ、同様な行為が第12号配石遺構(A2区)下部土坑より出土した甕棺土器にもみられる。

これらについては、これまでの調査例から「土器棺」と考えられる。

第 133 表 埋設土器遺構 (万座隣接地)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	土器の形状と規模 (cm)	埋設 状況	ピットの形状と規模 (cm)	重複関係	時期
1	SX(U)205 (報文4)	D1区 ZZ-92	Ⅲd層上面	深鉢形土器 × ×	倒立	63×56×10		後期 前葉
2	SX(U)206 (報文4)	D1区 ZZ-91	Ⅲd層上面	深鉢形土器 × ×	正立 倒立	36×36×5		後期 前葉
3	SX(U)301 (報文10)	D3区 ZX-88	Ⅲd層上面	深鉢形土器 × ×11.4	正立	29×28×15		後期 前葉
4	SX(U)302 (報文10)	D3区 YA-91	Ⅲd層上面	壺形土器 ×25.3×	正立	33×30×17		後期 前葉
5	SX(U)601 (報文11)	D6区 ZI-91	Ⅲd層	深鉢形土器 31.5× ×51.2	正立	48×47×42		後期 前葉

第 134 表 埋設土器遺構 (万座北側地区)

No.	遺構名 (報文No.)	調査区 グリッド	確認面	土器の形状と規模 (cm)	埋設 状況	ピットの形状と規模 (cm)	重複関係	時期
1	SX(U)201 (報文4)	D1区 YL-90	Ⅲb層下位	深鉢形土器 39.2× ×	倒立	34×32×31		後期 前葉
2	SX(U)202 (報文4)	D1区 YJ-93	Ⅲb層上位	壺形土器2個	正立 倒立	40×36×13		後期 前葉
3	SX(U)01 (報文13)	F4区 YO-101	Ⅲb層上位	深鉢形土器 × ×	正立	35×35×22	SX(U)01-SX(S)01	後期 前葉

大湯環状列石関係文献目録

- 1931年 昭和6年
武藤一郎「鹿角郡大湯町に於ける遺跡の研究」『秋田考古会々誌』2-5
- 1946年 昭和21年
甲野 勇「巨石遺物」『科学朝日』第6巻第12号
- 1947年 昭和22年
甲野 勇「ストーン・サークル後記」『科学朝日』第7巻第11号
甲野 勇「大湯だより」『あんとろぼす』第2巻第1号
- 1953年 昭和28年
文化財保護委員会『大湯町環状列石』
- 1966年 昭和41年
内藤博夫「秋田県米代川流域の第四火山屑物と段丘地形」『地理学評論Vol 39』
- 1968年 昭和43年
阿部義平「配石墓の成立」『考古学雑誌』54巻1号
水野正好「環状組石墓群の意味するもの」『信濃』第20巻第4号
- 1969年 昭和44年
小坂町教育委員会『小坂環状列石墳墓』
- 1970年 昭和45年
内藤博夫「秋田県花輪盆地および大館盆地の地形発達史」『地理学評論Vol 43』
- 1971年 昭和46年
江坂輝彌「縄文時代の配石遺構について」『北奥古代文化』第3号
奥山 潤「秋田県北鹿地方の縄文配石墳墓」『北奥古代文化』第3号
斉藤 忠「大湯環状列石と日本の縄文時代の類似遺跡について」
『北奥古代文化』第3号
- 1973年 昭和48年
諏訪富多『特別史跡大湯環状列石発掘史』大湯郷土研究会
- 1974年 昭和49年
秋田県教育委員会・鹿角市教育委員会『大湯環状列石周辺遺跡緊急分布調査報告書』
- 1975年 昭和50年
浅井末吉『遺蹟巡礼日記』大湯郷土研究会
安保 彰『小坂のあけぼの』
秋田県教育委員会『大湯環状列石周辺遺跡分布調査概要』
- 1976年 昭和51年
林 謙作「縄文期の集落をどうとらえるか」『考古学研究』第26巻第3号

- 鹿角市教育委員会『大湯環状列石周辺遺跡概要』
- 1977年 昭和52年
鹿角市教育委員会『大湯環状列石周辺遺跡分布調査報告書』
林 謙作「縄文期の葬制・第Ⅱ部」『考古学雑誌』第63巻第3号
辻誠一郎「秋田県玉川温泉地域の沖積世鹿湯層の花粉分析」『東北地理29-3』
- 1978年 昭和53年
富樫泰時「大湯浮石層と鹿角盆地の遺跡」『ドルメン』
鹿角市・鹿角市教育委員会『特別史跡大湯環状列石保存管理計画書』
- 1979年 昭和54年
葛西 励「十腰内Ⅰ式土器の編年的細分」『北奥古代文化』第11号
林 謙作「縄文期の集落をどうとらえるか」『考古学研究』第26巻第3号
- 1980年 昭和55年
林 謙作「東日本縄文期葬制の変遷（予察）」『人類学雑誌』第88巻第3号
岩手県教育委員会『西田遺跡』
- 1981年 昭和56年
成田滋彦「青森県の土器」『縄文文化の研究4』雄山閣
- 1982年 昭和57年
大里勝蔵・秋元信夫他「縄文時代」『鹿角市史』鹿角市
- 1983年 昭和58年
阿部義平「配石」『縄文文化の研究9』雄山閣
- 1984年 昭和59年
鈴木保彦「集落の構成」『季刊考古学』第7号 雄山閣
林 謙作「縄文集落 集落論の新しい出発をめざして」第7号 雄山閣
水野正好「ストーンサークルの意義」『季刊考古学』第9号 雄山閣
- 1985年 昭和60年
江坂輝彌「配石遺構とは」『考古学ジャーナル』No254 ニューサイエンス社
斉藤 忠「配石遺構一特に環状列石について」『考古学ジャーナル』No254 ニューサイエンス社
富樫泰時「大湯環状列石研究史と今後の課題」『よねしろ考古』第1号
富樫泰時「日本の古代遺跡 24 秋田県」保育者
村田文夫「縄文集落」考古学ライブラリー18 ニュー・サイエンス社
本間 宏「東北地方北部における縄文後期前葉土器群の実態」『よねしろ考古』第1号
秋元信夫「大湯環状列石周辺遺跡発掘調査報告」『よねしろ考古』第1号
鹿角市教育委員会『大湯環状列石周辺遺跡発掘調査報告書（1）』
- 1986年 昭和61年

- 阿部義平「日時計の考察—大湯環状列石の配石類型の意味—」『よねしろ考古』第2号
秋元信夫「秋田県の配石遺構」『よねしろ考古』第2号
林 謙作「マツリと記念物」『発掘が語る日本史I』新人物往来社
鹿角市教育委員会『大湯環状列石発掘調査報告書(2)』
- 1987年 昭和62年
村越 潔「北東北の葬制」『よねしろ考古』第3号
富樫泰時「大湯環状列石研究史と今後の課題(2)」『よねしろ考古』第3号
本間 宏「縄文時代後期初頭土器群の研究(1)」『よねしろ考古』第3号
鹿角市教育委員会『大湯環状列石周辺遺跡発掘調査報告書(3)』
- 1988年 昭和63年
本間 宏「縄文時代後期初頭土器群の研究(2)」『よねしろ考古』第4号
鹿角市教育委員会『大湯環状列石周辺遺跡発掘調査報告書(4)』
- 1989年 平成元年
石井 寛「縄文集落と掘立柱建物跡」『調査研究集録』第6冊 港北ニュータウン
埋蔵文化財調査団
鹿角市教育委員会『大湯環状列石周辺遺跡発掘調査報告書(5)』
- 1990年 平成2年
鎌田健一「有史時代に降った十和田火山起源の火山灰について」『よねしろ考古』第6号
成田紀彦「大湯環状列石周辺遺跡の古環境」『よねしろ考古』第6号
秋元信夫「環状列石と建物跡」『よねしろ考古』第6号
藤井安正「大湯環状列石周辺遺跡の配石遺構群について」『よねしろ考古』第6号
鹿角市教育委員会『大湯環状列石周辺遺跡発掘調査報告書(6)』
- 1991年 平成3年
林 謙作「大湯環状列石の配石墓(1)」『よねしろ考古』第7号
鹿角市教育委員会『大湯環状列石発掘調査報告書(7)』
- 1992年 平成4年
秋元信夫「大湯環状列石—精神性を秘めた墓域—」『歴史読本9月号』新人物往来社
鹿角市教育委員会『大湯環状列石発掘調査報告書(8)』
鹿角市教育委員会『特別史跡大湯環状列石環境整備基本構想』
- 1993年 平成5年
小林達雄「縄文時代の集落」『季刊考古学44』雄山閣
富樫泰時「縄文集落の変遷」『季刊考古学44』雄山閣
山本揮久「竪穴住居の形態」『季刊考古学44』雄山閣
林 謙作「大湯環状列石の配石墓(2)」『よねしろ考古』第8号
小畑 巖「高屋館跡の環状列石」『よねしろ考古』第8号

- 鹿角市教育委員会『特別史跡大湯環状列石発掘調査報告書(9)』
- 1994年 平成6年
鹿角市教育委員会『特別史跡大湯環状列石発掘調査報告書(10)』
- 1995年 平成7年
小林達雄「縄文時代の自然の社会化」『季刊考古学 別冊6』雄山閣
富樫泰時「秋田県大湯遺跡」『季刊考古学 別冊6』雄山閣
鹿角市教育委員会『特別史跡大湯環状列石発掘調査報告書(11)』
鹿角市教育委員会『特別史跡大湯環状列石環境整備基本計画』
- 1996年 平成8年
小林達雄「縄文人の世界」朝日選書557 朝日新聞社
鹿角市教育委員会『特別史跡大湯環状列石発掘調査報告書(12)』
- 1997年 平成9年
岡村道雄「ここまでわかった日本の先史時代」角川書店
小林 克「東北地方北部縄文時代の葬制」『考古学ジャーナル422』ニュー・サイエンス社
秋元信夫・藤井安正・花海義人「遺跡は語るNo. 21~36」さきがけ新報社
鹿角市教育委員会『特別史跡大湯環状列石発掘調査報告書(13)』
- 1998年 平成10年
小林達雄他「縄文時代の考古学」学生社
浅川滋男編「先史日本の住居とその周辺」『奈良国立文化財研究所シンポジウム』同成社
鹿角市教育委員会『特別史跡大湯環状列石発掘調査報告書(14)』
鹿角市教育委員会『特別史跡大湯環状列石環境整備基本設計説明書』
- 1999年 平成11年
秋元信夫「縄文人の思惟と自然—東北の環状列石を中心に—」『ブナ林の民俗』高志書院
鹿角市教育委員会『特別史跡大湯環状列石発掘調査報告書(15)』
- 2000年 平成12年
秋元信夫「大湯環状列石のここがみどころ」『全国訪ねてみたい古代遺跡100』成美堂出版
鹿角市教育委員会『特別史跡大湯環状列石発掘調査報告書(16)』
- 2001年 平成13年
鹿角市教育委員会『特別史跡大湯環状列石発掘調査報告書(17)』
林謙作「大湯環状列石の配石墓」『縄文社会の考古学』同成社
鈴木克彦『北日本の縄文後期土器編年の研究』雄山閣

- 2002年 平成14年
鹿角市教育委員会『特別史跡大湯環状列石発掘調査報告書 (18)』
- 2003年 平成15年
鹿角市教育委員会『特別史跡大湯環状列石発掘調査報告書 (19)』
大湯ストーンサークル館『縄文に学ぶ』
藤井安正「特別史跡大湯環状列石の保存と活用」『日本歴史』第661号
- 2004年 平成16年
鹿角市教育委員会『特別史跡大湯環状列石発掘調査報告書 (20)』
富樫泰時「秋田だより」『考古学研究』第51巻第1号 (通巻201号)
塩谷順耳「秋大史学創刊のころ」さきがけ新報社
大湯ストーンサークル館『展示図録』
藤井安正他『秋田の史跡・考古』秋田県教育委員会
- 2005年 平成17年
鹿角市教育委員会『特別史跡大湯環状列石発掘調査報告書 (21)』
藤井安正「遺跡発掘リポート2005」さきがけ新報社